鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（１２３）

南薩縦貫道（川辺道路）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅱ）

# 堂園遺跡Ｂ地点
# 堂園遺跡Ａ地点
（追加調査）

（所在地　南九州市川辺町神殿）

2008年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

# 序　　文

この報告書は，主要地方道鹿児島川辺線地域高規格道路南薩縦貫道（川辺道路）建設に伴って，平成15年から19年度にかけて実施した南九州市（旧川辺町）に所在する堂園遺跡Ａ地点（追加調査分），堂園遺跡Ｂ地点の発掘調査の記録です。

これらの遺跡は，湧水の豊富な鳴野原台地の中央部に位置しています。

堂園遺跡Ｂ地点は，縄文時代から中世にかけての長期にわたる遺跡ですが，とりわけ弥生時代から古墳時代にかけての25軒の竪穴住居跡が発見され，当時の集落構成を知るうえに貴重な資料となりました。住居跡の平面形は一般に見られる方形のものと，花弁形といわれる南九州特有のものとがありますが，花弁形は今回の発見でこの形態の南への広がりがつかめました。また，Ａ地点では墓が発見されていますが，鹿児島県では同時期の住居と墓がいっしょに発見された例は初めてのことで，その関係が注目されています。

本報告書が，県民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され，埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただくとともに，文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に，調査に当たりご協力いただいた南薩地域振興局建設部，南九州市教育委員会，関係各機関及び発掘に従事された地域の方々に厚く御礼申しあげます。

平成20年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所　長　　宮　原　景　信

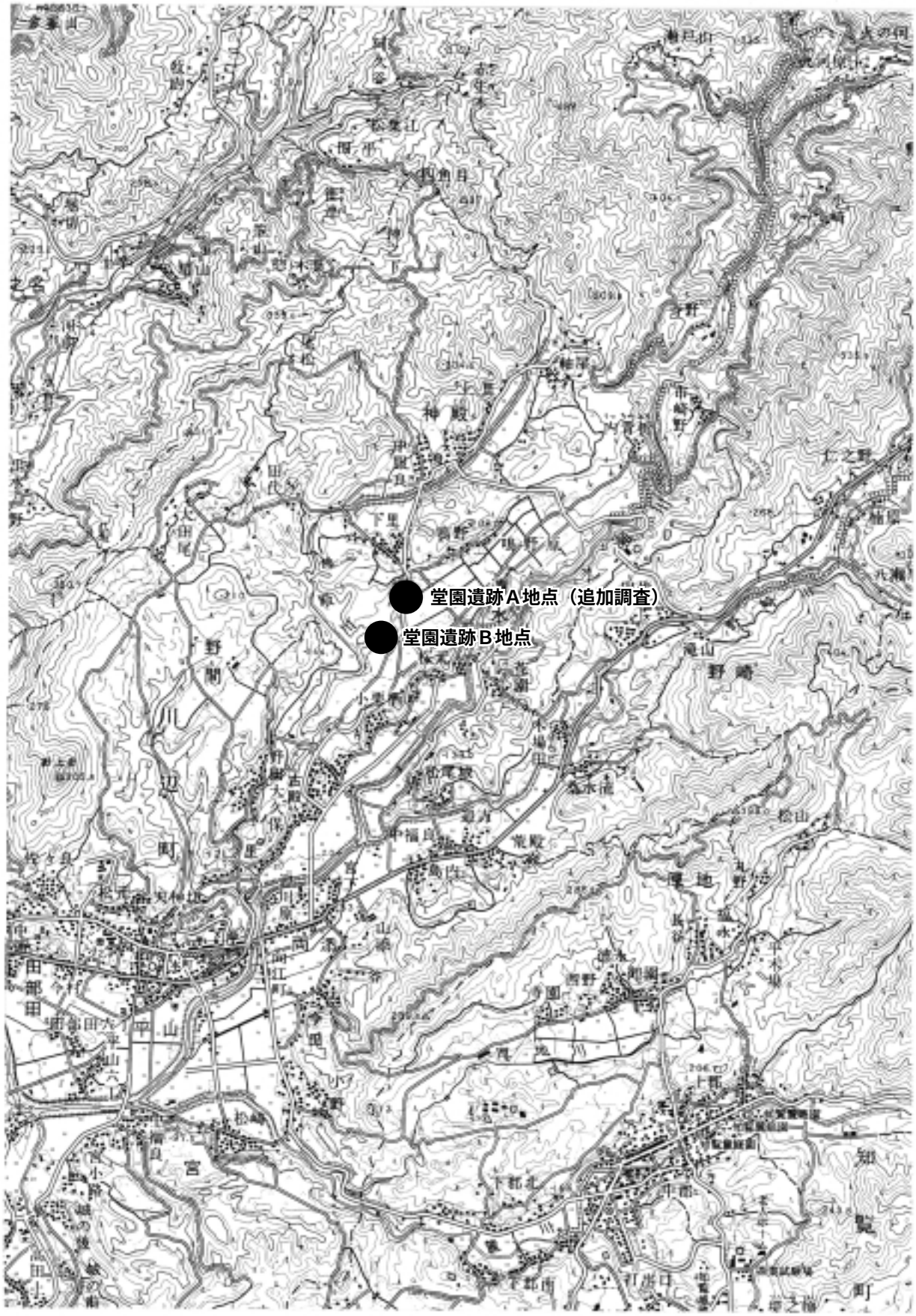
# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | どうぞのいせきびーちてん，どうぞのいせきえーちてん（ついかちょうさ） |
| 書名 | 堂園遺跡Ｂ地点，堂園遺跡Ａ地点（追加調査） |
| 副書名 | 南薩縦貫道（川辺道路）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次 | Ⅱ |
| シリーズ名 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | 123 |
| 編著者名 | 八木澤一郎・池畑耕一・吉井秀一郎・馬籠亮道 |
| 編集機関 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター |
| 所在地 | 〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号　℡ 0995-48-5811 |
| 発行年月日 | 西暦2008年３月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査起因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| どうぞのいせき<br>堂園遺跡<br>びーちてん<br>Ｂ地点 | かごしまけん<br>鹿児島県<br>みなみきゅうしゅうし<br>南九州市<br>かわなべちょう<br>川辺町<br>こうどの<br>神殿 | 46223 | 27-137-0 | 31°<br>25′<br>03″ | 130°<br>24′<br>50″ | 確認調査<br>20050203<br>～20050226<br>本調査<br>20051124<br>～20060320<br>20060522<br>～20061127 | 7,500 | 南薩縦貫道<br>（川辺道路）<br>建設 |
| どうぞのいせき<br>堂園遺跡<br>えーちてん<br>Ａ地点 | かごしまけん<br>鹿児島県<br>みなみきゅうしゅうし<br>南九州市<br>かわなべちょう<br>川辺町<br>こうどの<br>神殿 | 46223 | 27-137-0 | 31°<br>25′<br>21.2″ | 130°<br>24′<br>58.9″ | 確認調査<br>20050203<br>～20050226<br>本調査<br>20070604<br>～20070727 | 1,000 | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 堂園遺跡<br>Ｂ地点 | 散布地 | 縄文時代早期～晩期 | 土坑５，石鏃製作跡<br>石斧製作跡，集石遺構１，石器集積１基 | 塞ノ神Ａ式・貝殻条痕尖底・船元式・阿高式・南福寺式・指宿式・松山式・市来式・西平式・丸尾式・黒川式土器，石鏃，石匙，石錐，削器，尖頭器，スクレイパー，磨製石斧，打製石斧，磨石，敲石，くぼみ石，石皿 | |
| | 集落跡 | 弥生時代終末～古墳時代初頭 | 竪穴住居跡25，掘立柱建物跡5，溝状遺構，杭痕跡，柵列状遺構31，埋納土器，ピット13，石器製作跡 | 中津野式土器，免田式土器，磨製石鏃，石庖丁，砥石，台石，小玉（ガラス製，水晶製） | |
| | 散布地 | 古代～中世 | 古道跡５，土坑 | 土師器，須恵器，青磁，白磁，染付，土師質土器 | |
| 堂園遺跡<br>Ａ地点 | 散布地 | 縄文時代晩期 | | 黒川式土器，石鏃，打製石斧 | |
| | 散布地 | 弥生時代中期～古墳時代初頭 | 竪穴住居跡１軒 | 彩文・吉ヶ崎式・黒髪式土器 | |
| | 散布地 | 古墳時代 | | 中津野式・成川式土器，鉄鏃 | |
| | 散布地 | 古代～中世 | 道跡２条 | 土師器，須恵器，青磁 | |

| | | |
|---|---|---|
| 遺跡の概要 | 堂園遺跡<br>Ｂ地点 | 縄文時代早期から中世までの複合遺跡である。縄文時代は中期の貝殻条痕尖底土器，後期の指宿式土器・市来式土器を主として早期から晩期までの土器・石器が出土し，土坑・集石などが検出されている。弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけては25軒の竪穴住居跡が発見され，多くの土器・石器が出土している。竪穴住居跡の平面形態は方形が13軒，花弁形が12軒であるが，南九州特有の形である花弁形住居は薩摩半島では検出例が少なく当遺跡が分布の南限にあたる。また，約600ｍ離れたＡ地点では墓地群が検出されており，鹿児島県では初めて集落と墓地が近距離の位置で確認されたことになる。甕形土器は多くが在地の土器であるが，丸底のものもあり，交流のあったことを示している。 |
| | 堂園遺跡<br>Ａ地点 | 弥生時代の竪穴住居跡や，古代の溝が発見されたが，土坑墓は見つからず，ここまで墓地群が延びないことがわかった。 |




遺跡位置図（1：50,000）

# 例　　言

1　本書は，南薩縦貫道（川辺道路）建設に伴う堂園遺跡Ａ地点・堂園遺跡Ｂ地点の発掘調査報告書である。

2　本遺跡は，鹿児島県南九州市川辺町（旧川辺郡川辺町）神殿に所在する。

3　発掘調査及び報告書作成（整理作業）は，鹿児島県土木部道路建設課から鹿児島県教育委員会が依頼を受け，鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。

4　発掘調査は，堂園遺跡Ｂ地点が平成17年11月24日から平成18年３月20日までと，平成18年５月22日から11月27日まで，堂園遺跡Ａ地点が平成19年６月４日から平成19年７月27日まで実施した。整理作業・報告書作成は平成19年度に実施した。

5　遺物番号は，通し番号とし，本文・挿図・表・図版の番号は一致する。

6　挿図の縮尺は，各図面に示した。

7　本書で用いたレベル数値は，鹿児島県土木部が提示した工事計画図面に基づく海抜絶対高である。

8　発掘調査における実測図の作成，写真の撮影は，調査担当者が行った。空中写真撮影は，有限会社ふじた，平成18年度はスカイサーベイ九州株式会社に委託した。

9　遺構実測図のトレースは，整理作業員の協力を得て八木澤一郎・池畑耕一・吉井秀一郎が行った。

10　土器の実測・トレースは，整理作業員の協力を得て八木澤・池畑・吉井が行った。

11　石器の一部については，実測・トレースを株式会社九州文化財研究所に委託し，監修は長野眞一が行った。その他の石器は整理作業員の協力を得て八木澤・池畑・馬籠が行った。

12　遺構内から出土した炭化物の放射性炭素年代測定・種実同定・樹種同定は株式会社加速器分析研究所に，黒曜石産地推定は有限会社遺物材料研究所に委託した。

13　遺物の写真撮影は，西園勝彦・吉岡康弘が行った。

14　本書の執筆・編集は，第Ⅰ章，第Ⅲ章，第Ⅳ章第１節・第２節・第４節・第６節，第Ⅵ章を八木澤が，第Ⅱ章，第Ⅳ章第３節・第５節，第Ⅵ章を池畑が，第Ⅴ章を吉井が第Ⅳ章第４節２の一部を馬籠が担当した。

15　遺物は，鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し，展示・活用する予定である。なお，堂園遺跡Ｂ地点の遺物注記の略号は「ドウＢ」，堂園遺跡Ａ地点の遺物注記の略号は「ドウＡ」である。

# 目　　次


巻頭カラー図版

序文

報告書抄録

例言

目次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　調査に至るまでの経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第２節　調査の組織 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第３節　発掘調査の経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第４節　南薩縦貫道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査における民間導入について ・・・・・・・6

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第２節　歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第３節　鳴野原台地の発掘調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

第Ⅲ章　層位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

第Ⅳ章　堂園遺跡Ｂ地点の調査

第１節　発掘調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

第２節　発掘調査の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

第３節　縄文時代

1　遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

2　遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

第４節　弥生～古墳時代

1　遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62

2　遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・163

第５節　古代～中世

1　遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・185

2　遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・186

第６節　分析・同定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・190

第Ⅴ章　堂園遺跡Ａ地点
　第１節　発掘調査の概要と経過　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・207
　第２節　層位　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・207
　第３節　縄文時代　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・208
　第４節　弥生～古墳時代　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・211
　第５節　古代～中世　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・217
第Ⅵ章　調査のまとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・239

# 挿　図　目　次

**Ｂ地点**

第１図　周辺の遺跡分布図　8
第２図　地層断面図（１）　12
第３図　地層断面図（２）　13
第４図　縄文時代の遺構配置図　15
第５図　土坑（１）　16
第６図　土坑（２）　17
第７図　土坑（３）集石・集積遺構　18
第８図　縄文土器の分布図　19
第９図　縄文時代の石器分布図　19
第10図　縄文土器（１）　20
第11図　縄文土器（２）　21
第12図　縄文土器（３）　22
第13図　縄文土器（４）　24
第14図　縄文土器（５）　25
第15図　縄文土器（６）　26
第16図　縄文土器（７）　28
第17図　縄文土器（８）　29
第18図　縄文土器（９）　31
第19図　縄文土器（10）　32
第20図　縄文土器（11）　33
第21図　縄文土器（12）　34
第22図　縄文土器（13）　35
第23図　縄文土器（14）　36
第24図　縄文土器（15）　37
第25図　縄文土器（16）　39
第26図　縄文土器（17）　41
第27図　縄文土器（18）　42
第28図　縄文土器（19）　43
第29図　縄文土器（20）　44
第30図　石器（１）　打製石鏃　45
第31図　石器（２）　打製石鏃　47
第32図　石器（３）　打製石鏃　48
第33図　石器（４）　石錐・石匙　49
第34図　石器（５）　石匙　50
第35図　石器（６）　スクレイパー・石槍・ピエスエスキーユ　51
第36図　石器（７）　磨製石斧　52
第37図　石器（８）　磨製石斧　53
第38図　石器（９）　磨製石斧　54
第39図　石器（10）　打製石斧・石核　55
第40図　石器（11）　石核・剥片　56
第41図　石器（12）　剥片　57
第42図　石器（13）　接合資料（1）　58
第43図　石器（14）　接合資料（2）　59
第44図　石器（15）　磨石・敲石　60

第45図　石器（16）　くぼみ石・石皿　61
第46図　弥生～古墳時代の遺構配置図　62
第47図　1号竪穴住居跡検出・
遺物出土状況　63
第48図　1号竪穴住居跡出土遺物（土器1）　64
第49図　1号竪穴住居跡出土遺物（土器2）　65
第50図　1号竪穴住居跡出土遺物（土器3）　66
第51図　1号竪穴住居跡出土遺物（土器4）　67
第52図　2号竪穴住居跡検出・
遺物出土状況　69
第53図　2号竪穴住居跡出土遺物（土器1）　70
第54図　2号竪穴住居跡出土遺物（土器2）　71
第55図　2号竪穴住居跡出土遺物（土器3）　72
第56図　2号竪穴住居跡出土遺物（土器4）　73
第57図　2号竪穴住居跡出土遺物（土器5）　74
第58図　2号竪穴住居跡出土遺物（土器6）　75
第59図　2号竪穴住居跡出土遺物（土器7）　76
第60図　2号竪穴住居跡出土遺物（土器8）　77
第61図　3号竪穴住居跡検出・
遺物出土状況　80
第62図　3号竪穴住居跡出土遺物（土器1）　81
第63図　3号竪穴住居跡出土遺物（土器2）　82
第64図　3号竪穴住居跡出土遺物（土器3）　83
第65図　4号竪穴住居跡検出・
遺物出土状況　84
第66図　4号竪穴住居跡出土遺物（土器）　85
第67図　5号竪穴住居跡検出・
遺物出土状況　87
第68図　5号竪穴住居跡出土遺物（土器）　88
第69図　5号竪穴住居跡出土遺物（石器1）　89
第70図　5号竪穴住居跡出土遺物（石器2）　90
第71図　6号竪穴住居跡検出状況　91
第72図　6号竪穴住居跡出土遺物（土器）　91
第73図　7号竪穴住居跡検出・
遺物出土状況　92
第74図　7号竪穴住居跡出土遺物（土器）　93
第75図　8号竪穴住居跡検出・
遺物出土状況　94
第76図　8号竪穴住居跡出土遺物（土器）　95
第77図　9号竪穴住居跡遺物出土状況　97
第78図　9号竪穴住居跡出土遺物（土器1）　97
第79図　9号竪穴住居跡検出状況　98
第80図　9号竪穴住居跡出土遺物（土器2）　99
第81図　9号竪穴住居跡出土遺物（石器）　100
第82図　10号竪穴住居跡検出状況　101
第83図　10号竪穴住居跡出土遺物（土器）　101
第84図　11号竪穴住居跡検出状況　103
第85図　11号竪穴住居跡出土遺物
（土器・石器1）　104
第86図　11号竪穴住居跡出土遺物
（石器2）　105
第87図　12号竪穴住居跡遺物出土状況　107
第88図　12号竪穴住居跡検出状況　108
第89図　12号竪穴住居跡出土遺物
（土器1）　109
第90図　12号竪穴住居跡出土遺物
（土器2）　110
第91図　12号竪穴住居跡出土遺物
（土器3・石器）　111
第92図　13号竪穴住居跡検出状況　112
第93図　13号竪穴住居跡出土遺物
（土器・石器）　113
第94図　14号竪穴住居跡検出状況　114
第95図　14号竪穴住居跡出土遺物（土器）　114
第96図　15号竪穴住居跡検出状況　116
第97図　15号竪穴住居跡出土遺物
（土器・石器）　117
第98図　16号竪穴住居跡検出状況　119
第99図　16号竪穴住居跡出土遺物
（土器・石器）　120
第100図　17号竪穴住居跡検出状況　122
第101図　17号竪穴住居跡出土遺物（土器）　122

第102図　18号竪穴住居跡検出・遺物出土状況　123
第103図　18号竪穴住居跡出土遺物（土器１）　124
第104図　18号竪穴住居跡出土遺物（土器２）　125
第105図　18号竪穴住居跡出土遺物（土器３）　127
第106図　18号竪穴住居跡出土遺物（土器４）　128
第107図　19号竪穴住居跡検出・遺物出土状況　130
第108図　19号竪穴住居跡出土遺物（土器１）　131
第109図　19号竪穴住居跡出土遺物（土器２）　132
第110図　19号竪穴住居跡出土遺物（石器）　133
第111図　20号竪穴住居跡検出・遺物出土状況　135
第112図　20号竪穴住居跡出土遺物（土器１）　136
第113図　20号竪穴住居跡出土遺物（土器２）　137
第114図　21号竪穴住居跡検出・遺物出土状況　139
第115図　21号竪穴住居跡出土遺物（土器１）　140
第116図　21号竪穴住居跡出土遺物（土器２）　141
第117図　22号竪穴住居跡検出状況　142
第118図　22号竪穴住居跡出土遺物（土器）　142
第119図　23号竪穴住居跡検出状況　143
第120図　23号竪穴住居跡出土遺物（土器）　143
第121図　24号竪穴住居跡検出状況　145
第122図　24号竪穴住居跡出土遺物（土器）　145
第123図　25号竪穴住居跡検出状況　145
第124図　25号竪穴住居跡出土遺物（土器）　145
第125図　掘立柱建物跡位置図　146
第126図　掘立柱建物跡検出状況　147
第127図　埋納ピット遺構配置図　148
第128図　埋納ピット遺構検出状況・埋納土器（１）　149
第129図　埋納ピット遺構検出状況・埋納土器（２）　151
第130図　埋納ピット遺構検出状況・埋納土器（３）　152
第131図　埋納ピット遺構検出状況・埋納土器（４）　154
第132図　埋納ピット遺構検出状況・埋納土器（５）　155
第133図　柵列状遺構配置図　156
第134図　柵列状遺構検出状況　157
第135図　柵列状遺構小ピット断面状況　158
第136図　溝状遺構配置図　159
第137図　溝状遺構検出状況　161
第138図　溝状遺構出土遺物（土器）　162
第139図　弥生～古墳土器・土製品分布図　163
第140図　弥生～古墳土器　164
第141図　弥生～古墳土製品　164
第142図　弥生～古墳石器・石製品分布図　165
第143図　弥生～古墳石器（１）　166
第144図　弥生～古墳石器（２）　167
第145図　弥生～古墳石器（３）　168
第146図　弥生～古墳石器（４）　169
第147図　弥生～古墳石器（５）　170
第148図　弥生～古墳石器（６）　171
第149図　弥生～古墳石器（７）　172
第150図　弥生～古墳石器（８）　173
第151図　弥生～古墳石器（９）　174

第152図　弥生～古墳石器（10）　175
第153図　弥生～古墳石器（11）　176
第154図　弥生～古墳石器（12）　177
第155図　弥生～古墳石器（13）　178
第156図　弥生～古墳石器（14）・石製品　181
第157図　弥生～古墳鉄製品　183
第158図　弥生～古墳ガラス・水晶製品　184
第159図　古代以降の遺構配置図　185
第160図　古代の遺構　187
第161図　古代・中世の出土遺物　189
A地点
第162図　グリッド配置図　208
第163図　土層断面図　208
第164図　縄文時代遺物出土状況図及びコンタ図　209
第165図　Ⅲ層出土土器実測図・縄文時代　210
第166図　Ⅲ層出土石器実測図・縄文時代　210
第167図　弥生時代から古墳時代の遺構配置図及び遺物の出土状況図　211
第168図　竪穴住居跡実測図　212
第169図　住居跡内出土遺物実測図　212
第170図　Ⅱ層出土遺物実測図・弥生～古墳時代（1）　214
第171図　Ⅱ層出土遺物実測図・弥生～古墳時代（2）　215
第172図　古代以降の遺構配置図　216
第173図　道跡実測図　216
第174図　ピット状遺構　216
第175図　古代以降の遺物出土状況図　217
第176図　古代以降出土遺物　218

# 表　目　次

第1表　周辺の遺跡地名表　9
第2表　放射性炭素年代測定結果　192
第3表　暦年較正用年代表　192
第4表　植物遺体同定表　193
第5表　放射性炭素年代測定結果　194
第6表　暦年較正用年代表　195
第7表　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値　200
第8表　九州西北地域原産地採取原石が各原石群に同定される割合の百分率　204
第9表　堂園遺跡B地点出土黒曜石製遺物の元素比組成結果　204
第10表　堂園遺跡B地点出土黒曜石製遺物の測定結果　204
第11表　堂園遺跡A地点ピット一一覧表　217
第12表　土器観察表（1）　219
第13表　土器観察表（2）　220
第14表　土器観察表（3）　221
第15表　土器観察表（4）　222
第16表　土器観察表（5）　223
第17表　土器観察表（6）　224
第18表　土器観察表（7）　225
第19表　土器観察表（8）　226
第20表　土器観察表（9）　227
第21表　土器観察表（10）　228
第22表　土器観察表（11）　229
第23表　土器観察表（12）　230
第24表　土器観察表（13）　231
第25表　土器観察表（14）　232
第26表　土器観察表（15）　233
第27表　土器観察表（16）　234
第28表　石器観察表（1）　235

第29表　石器観察表（２）　236
第30表　石器観察表（３）　237
第31表　鉄製品・ガラス製品など観察表　238
第32表　石器観察表（４）　238

# 図　版　目　次

1　地層断面　245
2　縄文時代の石器分布状況　246
3　縄文時代の土坑　247
4　土器・石器の出土状況　248
5　土器・石器の出土状況　249
6　土器・石器の出土状況　250
7　１号住居跡・２号住居跡　251
8　３号住居跡・５号住居跡　252
9　４号住居跡・５号住居跡・６号住居跡　253
10　６号住居跡・７号住居跡　254
11　８号住居跡・９号住居跡　255
12　９号住居跡　256
13　10号住居跡・11号住居跡・12号住居跡　257
14　12号住居跡　258
15　13号住居跡・14号住居跡・15号住居跡　259
16　16号住居跡・17号住居跡　260
17　17号住居跡・18号住居跡　261
18　18号住居跡・19号住居跡　262
19　20号住居跡　263
20　21号住居跡・22号住居跡　264
21　22号住居跡・23号住居跡　265
22　23号住居跡・24号住居跡・25号住居跡　265
23　埋納土器ピット　266
24　埋納土器ピット　267
25　埋納土器ピット　269
26　柵列状遺構　270
27　掘立柱建物　271
28　溝状遺構　272
29　溝状遺構・古道跡　273
30　不定形硬化面　274
31　縄文土器　275
32　縄文土器　276
33　縄文土器　277
34　縄文土器　278
35　縄文土器　279
36　石器　280
37　石器　281
38　弥生～古墳時代の土器　282
39　弥生～古墳時代の土器　283
40　弥生～古墳時代の土器　284
41　弥生～古墳時代の土器　285
42　弥生～古墳時代の土器　286
43　弥生～古墳時代の土器　287
44　弥生～古墳時代の土器　288
45　弥生～古墳時代の石器　289
46　弥生～古墳時代の石器　290
47　弥生～古墳時代の石器　291
48　Ａ地点調査風景・住居跡・古道　292
49　弥生～古墳時代の土器・石器　293

# 第Ⅰ章　発掘調査の経緯

## 第１節　調査に至るまでの経緯

鹿児島県教育委員会は，文化財の保護・活用を図るため，各開発関係機関との間で，事業区域内における文化財の有無及びその取扱いについて協議し，諸開発との調整を図っている。

この事前協議制に基づき，県土木部道路建設課（加世田土木事務所）（以下，土木部）は，主要地方道鹿児島川辺線地域高規格道路南薩縦貫道（川辺道路）整備事業で南九州市川辺町（旧川辺郡川辺町）内において計画した事業に先立って，対象地内における埋蔵文化財の有無について，鹿児島県教育庁文化財課（以下，文化財課）に照会した。これを受けて県立埋蔵文化財センター（以下，埋文センター）が平成13年度に分布調査を実施したところ，事業区域内に山神迫遺跡・折戸平遺跡・宮ノ上遺跡・堂園遺跡・鳴野原遺跡・古殿諏訪陣跡・馬場田遺跡が所在することが判明した。遺跡面積は79,600㎡と推定された。

分布調査の結果を受けて，土木部・文化財課・埋文センターの３者で協議した結果，対象地域内の遺跡の範囲と性格を把握するために当該地域において確認調査を実施することとし，調査は埋文センターが担当することとした。なお，馬場田遺跡については，町道拡幅工事であるため川辺町教育委員会が確認調査等を担当することとなった。

平成16年2月3日から2月26日まで山神迫遺跡・宮ノ上遺跡・堂園遺跡・鳴野原遺跡・古殿諏訪陣跡において確認調査を実施した結果，宮ノ上遺跡は約2,000㎡の範囲に縄文時代と弥生時代の遺跡が，堂園遺跡は約9,600㎡の範囲に縄文時代・弥生時代・古墳時代の遺跡が，鳴野原遺跡は約14,000㎡の範囲に縄文時代の遺跡が，古殿諏訪陣跡は約900㎡の範囲に中世の遺跡が残存していることが確認され，山神迫遺跡では包含層の残存が確認できなかった。

そこで土木部・文化財課・埋文センターは再度協議し，現状保存や設計変更が不可能であることから，記録保存のための本調査を実施することになった。

本調査は，平成16年度から埋文センターが担当して開始した。

平成16年度は，平成16年5月6日から平成17年3月18日までの間，宮ノ上遺跡，古殿諏訪陣跡，堂園遺跡Ａ地点，折戸平遺跡，鳴野原遺跡Ｂ地点の５遺跡，12,900㎡を対象に調査を実施し，古殿諏訪陣跡・折戸平遺跡については調査を完了した。

平成17年度は，平成17年6月1日から平成18年3月20日までの間，宮ノ上遺跡，堂園遺跡Ａ地点，堂園遺跡Ｂ地点，鳴野原遺跡Ｂ地点の３遺跡，16,476㎡を対象に調査を実施し，宮ノ上遺跡，堂園遺跡Ａ地点については調査を完了した。

堂園遺跡Ｂ地点の本調査は，約7,500㎡を対象に，平成17年11月24日から平成18年３月20日までの間と，平成18年５月22日から平成18年11月27日までの間に実施した。

また，平成19年の６月４日から７月27日まで堂園遺跡Ａ地点の県道付け替えに伴う追加調査を実施した。

## 第２節　調査の組織

### １　平成15年度　確認調査

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課（加世田土木事務所）

調査主体　鹿児島県教育委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 調査統括 | 県立埋蔵文化財センター | 所長 | 木　原　俊　孝 |
| 調査企画 | 県立埋蔵文化財センター | 次長兼総務課長 | 田　中　文　雄 |
| | 〃 | 調査課長 | 新　東　晃　一 |
| | 〃 | 調査課長補佐 | 立　神　次　郎 |
| | 〃 | 主任文化財主事兼第一調査係長 | 池　畑　耕　一 |
| | 〃 | 主任文化財主事 | 中　村　耕　治 |
| 調査担当者 | 〃 | 主任文化財主事 | 中　村　耕　治 |
| | 〃 | 文化財主事 | 元　田　順　子 |
| | 〃 | 文化財主事 | 岩　戸　孝　夫 |
| | 〃 | 文化財主事 | 吉　岡　康　弘 |
| | 〃 | 文化財主事 | 石原田　高　広 |
| 調査事務担当 | 〃 | 総務係長 | 平　野　浩　二 |
| | 〃 | 主事 | 福　山　恵一郎 |

### ２　平成17年度　緊急発掘調査

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課（加世田土木事務所）

調査主体　鹿児島県教育委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 調査統括 | 県立埋蔵文化財センター | 所長 | 上　今　常　雄 |
| 調査企画 | 県立埋蔵文化財センター | 次長 | 有　川　昭　人 |
| | 〃 | 次長兼調査第一課長 | 新　東　晃　一 |
| | 〃 | 主任文化財主事<br>兼調査第一課第一調査係長 | 池　畑　耕　一 |
| | 〃 | 主任文化財主事 | 中　村　耕　治 |
| 調査担当者 | 〃 | 文化財主事 | 八木澤　一　郎 |
| | 〃 | 文化財主事 | 石原田　高　広 |
| 調査事務担当 | 〃 | 主幹兼総務係長 | 平　野　浩　二 |
| | 〃 | 主査 | 寄井田　正　秀 |
| 調査指導 | 鹿児島大学法文学部助教授 | | 本　田　道　輝 |

### ３　平成18年度　緊急発掘調査

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課（加世田土木事務所）

調査主体　鹿児島県教育委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 調査統括 | 県立埋蔵文化財センター | 所長 | 上　今　常　雄 |

(～H18.7 .31)

| | | | |
|---|---|---|---|
| 調査統括 | 県立埋蔵文化財センター | 所長 | 宮　原　景　信 |
| | | | (H18.8.1～) |
| 調査企画 | 県立埋蔵文化財センター | 次長兼総務課長 | 有　川　昭　人 |
| | 〃 | 次長兼南の縄文調査室長 | 新　東　晃　一 |
| | 〃 | 調査第一課長 | 池　畑　耕　一 |
| | 〃 | 主任文化財主事 | |
| | | 兼調査第一課第一調査係長 | 長　野　眞　一 |
| 調査担当者 | 〃 | 文化財主事 | 八木澤　一　郎 |
| | 〃 | 文化財主事 | 久保田　昭　二 |
| 調査事務担当 | 〃 | 総務係長 | 寄井田　正　秀 |
| | 〃 | 主査 | 蒲　地　俊　一 |
| 調査指導 | 徳島文理大学教授 | | 石　野　博　信 |

## 4　平成19年度　緊急発掘調査・報告書作成

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課（南薩地域振興局建設部）

調査主体　鹿児島県教育委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 調査統括 | 県立埋蔵文化財センター | 所長 | 宮　原　景　信 |
| 調査企画 | 県立埋蔵文化財センター | 次長兼総務課長 | 平　山　　章 |
| | 〃 | 次長兼南の縄文調査室長 | 新　東　晃　一 |
| | 〃 | 調査第一課長 | 池　畑　耕　一 |
| | 〃 | 主任文化財主事 | |
| | | 兼調査第一課第一調査係長 | 長　野　眞　一 |
| 調査担当者 | 〃 | 第一調査課長 | 池　畑　耕　一 |
| | 〃 | 文化財主事 | 八木澤　一　郎 |
| | 〃 | 文化財主事 | 吉　井　秀一郎 |
| | 〃 | 文化財主事 | 小　林　晋　也 |
| 調査事務担当 | 〃 | 総務係長 | 寄井田　正　秀 |
| | 〃 | 主査 | 蒲　地　俊　一 |
| 調査指導 | 鹿児島大学法文学部准教授 | | 本　田　道　輝 |
| | 愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター長 | | 村　上　恭　通 |
| 報告書作成検討委員会 | 平成19年12月17日 | | 所長　ほか11名 |
| 報告書作成指導委員会 | 平成19年12月13日 | | 新東次長ほか２名 |
| 企画担当 | | | 久保田　昭二・川口　　雅之 |

## 第３節　発掘調査の経過

発掘調査の経過は，日誌抄により略述する。

### １　平成17年度

11月24日(木)　堂園遺跡Ｂ地点発掘調査開始。

11月24日(木)から28日(月)

表土剥ぎ及び環境整備，Ⅱ層の調査を行う。この間，鳴野原遺跡Ｂ地点の調査を併行して行う。

12月１日(木)から27日(火)

古代から中世の古道跡などの調査を行う。弥生時代終末から古墳時代初頭の松木薗式土器，中津野式土器，成川式土器など出土する。この間，鳴野原遺跡Ｂ地点の調査を併行して行う。

１月５日(木)から27日(金)

弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴住居跡を調査する。この間，鳴野原遺跡Ｂ地点の調査を併行して行う。

２月１日(水)から24日(金)

弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴住居跡，溝状遺構など検出し，中津野式土器，免田式土器など出土する。縄文時代後期の石器製作跡，土器集中部を検出し，縄文時代後期の指宿式土器，市来式土器，石鏃，フレーク，チップ(鉄石英，黒耀石)など出土する。

２月７日(火)　鹿児島大学法文学部　本田道輝助教授　現地指導

３月１日(水)から20日(月)

古代から中世の古道跡，及び弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴住居跡，溝状遺構などを検出し，中津野式土器，免田式土器など出土する。縄文時代後期の石鏃製作跡及び土器集中部を検出し，指宿式土器，市来式土器，石鏃，フレーク，チップなど出土する。遺構実測委託終了。

３月20日(月)　平成17年度発掘調査終了。

### ２　平成18年度

５月22日(月)　平成18年度発掘調査開始。

５月22日(月)から26日(金)　環境整備，弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴住居跡の調査を行う。

６月１日(木)から28日(金)

古代の古道跡を検出する。弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴住居跡の調査を行い，溝状遺構，杭痕跡，柵列状遺構，ピットなど検出する。松木薗式土器，中津野式土器，磨製石鏃，鉄製品，鉄鏃等。ガラス製及び水晶製小玉など出土する。

７月３日(月)から28日(金)

弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴住居跡の調査を行い，溝状遺構，杭痕跡，ピット，埋納土器ピットを検出し，松木薗式土器，中津野式土器，ガラス製小玉など出土する。縄文時代中期から後期の石斧製作跡，石鏃製作跡を検出し，春日式土器，指宿式土器，松山式土器，市来式土器，石鏃，石匙，磨製石斧，打製石斧，黒耀石フレーク・チップなど出土する。

７月８日(土)　現地説明会開催　参加者数310名。

７月12日(水)　清水小遺跡見学会　参加者数14名。

７月14日(金)　航空写真撮影実施。

８月１日(火)から28日(月)

弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴住居跡の調査を行い，ピットを検出し，松木薗式土器，中津野式土器，砥石，ガラス製小玉など出土する。縄文時代中期から後期の土坑，石斧製作跡，集石遺構を検出し，春日式土器，指宿式土器，松山式土器，市来式土器，石鏃，石匙，磨製石斧，打製石斧，黒耀石フレーク・チップなど出土する。

9月4日(月)から27日(水)

弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴住居跡の調査を行い，ピット，掘立柱建物跡，埋納土器ピットを検出し，中津野式土器など出土する。縄文時代中期から後期の石鏃製作跡を検出し，深浦式土器，凹線文系土器，指宿式土器，市来式土器，石鏃，石匙，磨製石斧，磨石，石皿，石錐，石製品，フレーク，チップなど出土する。

10月2日(月)から27日(金)

弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴住居跡の調査を行い，中津野式土器，ガラス製小玉など出土する。縄文時代中期から後期の土坑，落とし穴，集石遺構，石鏃製作跡を検出し，春日式土器，指宿式土器，石鏃，石匙，尖頭器，スクレイパー，磨製石斧，磨石，石皿，叩石，台石，フレーク，チップなど出土する。

11月1日(水)から27日(月)

弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴住居跡の調査を行い，中津野式土器，免田式土器など出土する。縄文時代中期から後期の土坑，落とし穴，石鏃製作跡を検出し，石鏃，石匙，黒耀石フレーク・チップなど出土する。この間，鳴野原遺跡B地点の調査及び鳴野原遺跡A地点の表土剥ぎを併行して行う。

11月20日(月)から21日(火)　徳島文理大学　石野博信教授　現地指導。

11月27日(月)　堂園遺跡B地点発掘調査終了。

### 3　平成19年度

ア　発掘作業

6月4日(月)　堂園遺跡A地点発掘調査開始。表土剥ぎ，駐車場整備。

6月4日(月)から8日(金)

F－11区では住居跡検出面までの埋土を撤去し，F－9区から12区ではⅡ層の調査を行う。また，作業環境の整備と発掘道具を搬入する。

6月11日(月)から15日(金)

F・G－11区から14区では旧道硬化面（現道供用前）を撤去する。ベルトコンベア設置。豪雨のため土砂が流入する。

6月18日(月)から22日(金)，25日(月)から28日(木)

F・G－10区から12区ではⅢ層の調査を行う。F・G－12区から14区ではⅡ，Ⅲ層遺物出土状況の写真撮影，遺物の取り上げを行う。豪雨に備え土砂流入対策を施す。

7月2日(月)から6日(金)

G－8，10区では先行トレンチのⅡ層遺物出土状況の写真撮影，遺物の取り上げを行う。

7月9日(月)から13日(金)，7月17日(火)から20日(金)

F，G－8区から10区，12区から14区ではⅢ層調査を，F－12区では遺物の取り上げ，Ⅱ層遺物出土状況及び住居跡検出状況の写真撮影を行う。G－13，14区ではⅢ層上面遺物出土状況の写

真撮影を，Ｇ－８区から10区では先行トレンチのⅢ層上面の出土状況写真撮影を行う。旧道硬化面（現道供用前）を撤去する。

７月23日(月)から27日(金)

Ｆ－12・13区では住居跡を完掘し，断面実測及び写真撮影を，Ｆ・Ｇ－８区から11区及びＦ・Ｇ－13・14区ではⅡ層調査，溝跡の平板実測，Ⅱ層遺物の取り上げを，Ｆ，Ｇ－11区から13区では検出したピット状遺構の調査を行う。Ｆ・Ｇ－14区では南側壁面土層断面図を作成し，Ｆ・Ｇ－８区から13区ではⅢ層のピット状遺構を調査（半裁，写真撮影，実測，完掘）し，コンタ図を作成する。

７月27日(金)　堂園遺跡Ａ地点発掘調査終了。

イ　整理・報告書作成作業

平成19年４月９日(月)から平成20年３月31日(月)

堂園遺跡Ｂ地点及び堂園遺跡Ａ地点の２地点について県立埋蔵文化財センター内において整理・報告書作成作業を実施し，平成20年３月末埋蔵文化財発掘調査報告書を刊行した。

遺物指導

平成19年11月９日(金)　鹿児島大学法文学部　本田道輝准教授

11月19日(月)　愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター　村上恭通センター長

平成20年１月９日(水)　入札

## 第４節　南薩縦貫道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査における民間導入について

平成15年度に実施した確認調査の結果に基づき，平成16年３月に，土木部・文化財課・埋文センターは協議を行った。

その結果，本調査に当たっては，調査期間を短縮し，事業の円滑な実施を図るために，埋文センターと加世田土木事務所との間で覚書を取り交わした上，埋文センターの指導の下，発掘調査作業は委託方式とし，民間業者を活用することとした。

その業務区分は，埋文センターの行う業務としては，機械掘削・プレハブ借上等（レンタカー賃借，ベルトコンベア等賃借）委託契約の締結，発掘調査についての指導総括及び工程管理ほか４項目について，加世田土木事務所の行う業務としては，労務・労務管理及び測量委託契約の締結ほか５項目について，受託者の行う業務としてはプレハブ借上等（ハウス備品・光熱水費を含む）委託契約の締結，埋蔵文化財の発掘作業業務ほか５項目について行うこととした。

また，埋蔵文化財発掘調査（以下，発掘調査）は，「埋蔵文化財発掘調査作業要領」を定め，実施した。発掘調査体制は，埋文センター所長が選任した「指導員」，加世田土木事務所長が選任した「監督員」，受託者が定めた主任技術者，調査員，発掘作業員等で構成され，発掘調査の指導業務は指導員が，総括業務は監督員が行うこととし，業務内容の細目，発掘調査の作業要領，発掘調査の進め方について細目を定めた。さらに，測量及び図化等について「トータルステーションについて」を定めた。

以上の項目について，平成16年度，平成17年度及び平成18年度に埋文センターと加世田土木事務所との間で覚書を取り交わした上，加世田土木事務所の入札の下，平成16年度，平成17年度，平成18年度とも新和技術コンサルタント株式会社が落札し，発掘作業業務を受託した。

# 第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

## 第１節　地理的環境

堂園遺跡は鹿児島県南九州市（旧川辺郡）川辺町大字神殿字堂薗堀及び字瀬戸口に所在する。

遺跡の所在する川辺町は，川辺郡の北側中央部に位置し，薩摩半島のほぼ中央部にあたり，南東は南九州市知覧町，南は枕崎市，北西は南さつま市（旧加世田市・日置郡金峰町），北東は鹿児島市と接している。また，町内を鹿児島市と枕崎市を結ぶ国道225号線が通り，主要地方道が知覧町・南さつま市へと通じている，薩摩半島における交通の要衝である。

川辺地方の地形の特徴としては，四方を400～500m級の山々に囲まれる盆地状の地形を呈し，東側にある南北へ連なる山並みから西側へ緩やかに下降傾斜しながら吹上浜へと続く地形をなしている。また，南薩地方の代表的な一級河川である万之瀬川は，川辺町北部で清水川，野崎川と合流し，さらに神殿川・小野川（麓川）・高田川（永里川）などをあわせて，この盆地の中央を流れ，田代で山を貫いて，吹上浜へ向かって西流し，東シナ海へ注ぎ込んでいる。

また地質的には，薩摩半島全域の基盤をなす四万十層（白亜紀層，この付近では「川辺層群」といわれる）が広く発達し，砂岩や頁岩および砂岩・頁岩互層などを主とし，一部に礫岩や蛇紋岩を挟む地層がみられる。川辺層群の上位に薩摩半島南部，特に旧笠沙町から知覧町南部・頴娃町・指宿市にかけて，「南薩層群」といわれる新第三紀中新世後期に属する地層が発達し，この地域では主に，石英安山岩・輝石安山岩，および凝灰岩・凝灰岩質シルト岩・泥岩などの水成堆積層が広くみられる。また，角閃石安山岩溶岩は点在的に分布し，粗粒の角閃石の斑晶がみられ，川辺町小野では，安山岩の崖中から角閃石の結晶がみつけられている。この「南薩層群」の上部には，溶結凝灰岩からなる阿多火砕流が台地を形成し，この溶結凝灰岩の崖に刻まれたのが「清水磨崖仏」である。その上層には約24,000年前の噴出物であるシラスと呼ばれる姶良カルデラの噴出物が厚く堆積し，万之瀬川の本支流により開析されて，現在のような地形となっている。シラスの上には鬼界カルデラの6,400年前の噴出物であるアカホヤや，開聞岳噴出物のコラなどが堆積している。

堂園遺跡は，神殿川と万之瀬川に挟まれた標高約110～140mの鳴野原台地中央部北西端に立地する。現在は県道により，宮ノ上遺跡がある丘陵地の南側斜面の裾部付近と，南西側斜面つけ根に二分されている。北側をＡ地点，南側をＢ地点と呼称している。西側は神殿川の流れる低地へ急傾斜で降っており，Ｂ地点は東側に南へ開口する浅い谷がある。標高は約125mである。

## 第２節　歴史的環境

先史時代の遺跡は，川辺町内では万之瀬川の周辺台地に点在する。

旧石器時代では当遺跡に隣接する宮ノ上遺跡で，近くにある頁岩を母岩とするナイフ形石器の製作跡が見つかっており，原産地遺跡として注目されている。津フジ・背野平・上桑持野・荻久保遺跡でもナイフ形石器・台形石器・剥片尖頭器などが出土しており，背野平遺跡ではＡＴ直後の礫群が７基発見されている。細石器文化期も宮ノ上遺跡や背野平遺跡，上桑持野遺跡などで細石刃や細石刃核が出土しており，前の時期に比べて広がりを示している。

第１図　周辺の遺跡分布図

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 地形 | 時代 | 遺物等 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 平野上 | 川辺町神殿平野上 | 台地 | 古墳 | 成川式 | |
| 2 | 山神下 | 川辺町神殿山神下 | 台地 | 古墳 | 成川式 | |
| 3 | 山神迫 | 川辺町神殿山神迫 | 台地 | 古墳 | 成川式 | |
| 4 | 上五反田 | 川辺町神殿上五反田 | 台地 | 古墳 | 成川式 | |
| 5 | 折戸平 | 川辺町神殿折戸平 | 台地 | 縄文 | 縄文土器 | |
| 6 | 高船 | 川辺町神殿高船 | 台地 | 弥生 | 弥生土器片散布 | 旧名「上ノ段中須」「地ノ目」を併合 |
| 7 | 高船山頂 | 川辺町神殿高船 | 山頂緩斜面 | 縄文(早) | 集石・前平式 | |
| 8 | 内青折 | 川辺町清水内青折 | 台地 | 古墳 | 成川式 | |
| 9 | 萩久保 | 川辺町神殿萩久保 | 台地 | 旧石器・縄文(早) | ナイフ形石器・吉田式・前平式・石坂式 | |
| 10 | 中之平 | 川辺町清水中之平 | 台地 | 古墳 | 成川式 | |
| 11 | 内青折城跡 | 川辺町清水池ノ谷 | 台地 | 平安～中世 | | |
| 12 | 上ノ原 | 川辺町神殿上ノ原 | 台地 | 古墳 | 成川式 | |
| 13 | 神殿小上 | 川辺町神殿小学校上 | 扇状地 | 古墳 | 成川式 | |
| 14 | 法師原 | 川辺町神殿法師原 | 台地 | 縄文・弥生 | 弥生土器 | |
| 15 | 大蔵 | 川辺町神殿大蔵 | 山麓 | 縄文 | 土器片散布 | 消失 |
| 16 | 宮ノ上 | 川辺町神殿宮ノ上 | 丘陵 | 旧石器・縄文(早・後) | ナイフ形石器・細石刃核・前平式・指宿式 | |
| 17 | 堂園 | 川辺町神殿 | 台地 | 縄文(中・後・晩)・弥生(中・後)・古墳・古代・中世 | 集石・集落跡・土坑墓・道跡・深浦式・指宿式・黒川式・山ノ口式・黒髪式・松木薗式・中津野式・土師器・鉄鏃 | 本報告書<br>埋セ報108 |
| 18 | 鳴野原 | 川辺町神殿鳴野原 | 台地 | 縄文(早) | 石坂式・塞ノ神式・石鏃・磨製石斧・磨石・砥石 | 埋セ報47 |
| 19 | 中須 | 川辺町神殿中須 | 台地 | 古墳 | 成川式 | |
| 20 | 横堀 | 川辺町神殿横堀 | 台地 | 古墳 | 成川式 | |
| 21 | 馬渡 | 川辺町清水馬渡 | 台地 | 縄文 | 土器片散布 | 平成12年<br>確認調査, |
| 22 | 黒葛木ヶ迫 | 川辺町清水黒葛木ヶ迫 | 台地 | 弥生 | 土器片散布 | |
| 23 | 尾立 | 川辺町清水尾立 | 台地 | 弥生 | 弥生土器片散布 | |
| 24 | 田代 | 川辺町田代小学校上 | 山麓緩斜面 | 縄文(早) | 前平式 | |
| 25 | 仮集 | 川辺町清水仮集 | 山麓傾斜面 | 縄文・古墳・古代 | 縄文土器・成川式・須恵器 | |
| 26 | 東ヶ迫 | 川辺町清水東ヶ迫 | 台地 | 縄文・古墳 | | |
| 27 | 木場田 | 川辺町清水木場田 | 台地 | 縄文 | | |
| 28 | 東俵作野 | 川辺町野崎東俵作野 | 丘陵 | 縄文(早) | 押型文 | |
| 29 | 雲朝寺跡 | 川辺町清水桜元 | 低地 | | | |
| 30 | 桜馬場 | 川辺町清水桜馬場 | 低地 | 古墳～中世(鎌倉) | 成川式・青磁・白磁 | |
| 31 | 川辺氏居館跡 | 川辺町清水小栗栖 | 低地 | 中世 | | |
| 32 | 宝光寺跡 | 川辺町清水宇都 | 山麓緩斜面 | 中世(鎌倉)～近世 | 礎石一部残存 | (町)昭和33.6.6 |
| 33 | 北中横 | 川辺町清水旧北中横 | 低地 | 平安～中世(鎌倉) | 土師器・青磁・白磁 | |
| 34 | 古殿諏訪陣跡 | 川辺町古殿内陣 | 台地 | 古墳・古代・中世 | 成川式・土師器・須恵器・青磁・白磁・染付 | 埋セ報108 |
| 35 | 松尾城跡 | 川辺町野崎松尾城 | 丘陵 | 中世(鎌倉) | 空堀・曲輪 | |
| 36 | 野崎陣跡 | 川辺町野崎陣平 | 台地 | 中世 | | |
| 37 | 馬場田 | 川辺町両添 | 台地 | 中世 | | |
| 38 | 大田尾 | 川辺町清水大田尾 | 台地 | 縄文(後) | 市来式 | |
| 39 | 草葉 | 川辺町野間草葉ほか | 台地 | 縄文～古墳 | | |
| 40 | 野間陣之尾城跡 | 川辺町野間陣之尾 | 台地 | 中世 | | |
| 41 | 平山城跡 | 川辺町平山天神 | 河岸段丘 | 中世・近世 | 青磁・染付 | 町埋文報1 |
| 42 | 厚地城跡 | 知覧町厚地堀之内 | 山麓緩斜面 | 中世 | 空堀 | |
| 43 | 野石城跡 | 知覧町厚地野石 | 山麓緩斜面 | 中世? | 字名 | |
| 44 | 山石城跡 | 知覧町厚地宮谷山 | 山頂緩斜面 | 古代? | | |

**第１表　周辺の遺跡地名表**

縄文時代になると，遺跡数やその内容においても共に豊富となり，当時の人びとが積極的に活動していたことが明らかになりつつある。上山田の鷹爪野遺跡では縄文時代草創期の舟形配石炉や隆帯文土器などが発見され，早期の前平式土器とともに多くの磨製石鏃が出土する８軒の竪穴住居跡が発見されるなど先進的技術をもつ特長ある遺跡である。宮ノ上遺跡，永田の永田西遺跡，清水の小崎遺跡，神殿の荻久保遺跡，上山田の背野平遺跡など縄文時代早期に属する遺跡数は多く，特に小崎遺跡では押形文土器とともに貝殻や獣骨なども発見されていることが注目できる。永田の寺山遺跡では前平式土器などとともに５基の集石や土坑などが発見されており，尾根の端部にある定住集落が想定できる。背野平遺跡でも志風頭式，加栗山式，吉田式，塞ノ神式土器などとともに５基の集石が発見されている。荒多・上桑持野・鳴野原Ｂ遺跡は塞ノ神式土器を主体とする遺跡である。田部田の廻り淵遺跡や，田代の南田代・古市遺跡などでは曽畑式土器や深浦式土器などの縄文時代前・中期に属する遺物が多量に出土しており，南田代遺跡では玦状耳飾も出土している。縄文時代後期の指宿式土器や市来式土器などが出土した上山田の田中堀遺跡では，貯蔵穴と考えられる土坑が検出されている。下山田の答石遺跡では縄文時代後期後半の御領式土器が採集されている。

弥生時代から古墳時代にかけての遺跡は，万之瀬川や殿川・大谷川などの河川流域にあたる台地から発見されており，下山田の堂山遺跡などでは弥生時代前期の土器も採集されている。古市遺跡では弥生時代前期の竪穴住居跡２軒が発見されている。永田の寺山遺跡では多くの土器などが含まれる弥生時代中期前半のＶ字溝が２条並行して検出されており，万之瀬川を眼前に望む台地端に環壕集落が存在する可能性がある。出土品には丹塗り土器など北九州系の土器も多く含まれており，広範囲の交流がうかがえる。弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのムラや墓が，当報告書で記載されているように堂園遺跡では発見されている。

古墳時代になると遺跡数が増加して，各地に存在している。下山田の塘池周辺では塘池上遺跡・答石遺跡などで調査が行われ，台地上で竪穴住居跡や，Ｖ字状の溝状遺構，土器が多く共伴する土坑墓などが発見されている。古市遺跡では竪穴住居跡５軒が検出された。

『倭名類聚抄』によると，古代には，「加波乃部」と訓じられる河辺郡に属し，稲積・川上の２郷があったとされる。現在の川辺町は，河辺郡川上郷と阿多郡嘉例郷に属していたと考えられている。下山田の上桑持野遺跡では深いＶ字溝が検出されており，この時期まで集落の区切りをする溝状遺構の存在することがわかっている。隣の知覧町では蔵骨器も発見されており，仏教文化がこのあたりでも広まっていたらしいことがうかがえる。

平安時代末期から鎌倉時代中期にかけて，河辺郡は府領社と公領とからなる。地頭は島津忠久が，府領社下司・公領郡司は河辺氏の子孫である河辺道綱(通綱)が務めている。府領社は現在の宮に鎮座する飯倉神社の前身である。鎌倉時代末期に北条得宗領になったあと，南北朝期には地頭職が再び島津氏に与えられた。

その後，島津忠良が三州統一の基礎をつくり，以後川辺も直轄地となった。このころの山城は平山の平山城を中心として，松尾城・山石城・野間陣之尾城などが周辺にある。平山城では発掘調査によって14世紀末から16世紀頃の建物跡・壕などが発見されている。また，清水にある磨崖仏は崖面に中世から近代にかけての仏像や仏塔・梵字などの彫り物が多く刻まれている。万之瀬川流域は南薩の米どころであり，江戸時代には多くの堰や用水路が造られて水田が開かれた。

### 第３節　鳴野原台地の発掘調査

鳴野原台地は万之瀬川と神殿川に挟まれた北東から南西方向へ延びる幅500ｍ～600ｍ，長さ3.5kmほどの細長い台地である。北東隅付近は両側から山が迫って狭くなり，南西端は神殿川が万之瀬川へ合流して狭くくびれている。標高は北東から南西へ向かって下降しており，110cmほどから140ｍほどまでである。基盤は頁岩・溶結凝灰岩で，その上にシラスの乗ったシラス台地である。

鳴野原台地での遺跡は主として台地の西側に集中しており，旧石器時代から中世までいくつかの遺跡が知られている。これまで1988～1990年に川辺ゴルフクラブ造成計画に伴い，萩久保遺跡と宮ノ上遺跡の確認調査が行われ，また，2000年には県道鹿児島川辺線の改良工事に伴い，鳴野原遺跡が調査された。

萩久保遺跡ではシルト岩・砂岩・頁岩製のナイフ形石器・削器・剥片など旧石器時代の石器や，吉田式・前平式・石坂式・塞ノ神式・平栫式・押型文土器などの縄文時代早期の土器が出土している。宮ノ上遺跡では砂岩やシルト岩製の縦長剥片など多くの剥片・チップや石核などの旧石器時代の石器，縄文時代早期・後期の土器などが出土した。鳴野原遺跡では縄文時代早期の石坂式土器とともに石鏃・磨製石斧・磨石・砥石などが出土している。

2004年からは川辺道路の建設に伴って宮ノ上・堂園・鳴野原・古殿諏訪陣跡遺跡などで発掘調査が行われており，随時報告書も刊行されている。

雨宮瑞生・上村純一「旧石器時代の遺跡」『川辺町郷土史・追補』1997　川辺町
堂込秀人『鳴野原遺跡』（『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』47）2002

# 第Ⅲ章　層 位

堂園遺跡における基本層序は，下記の通りである。層位については，南薩地方の層位とほぼ同様である。

| |
|---|
| Ⅰ　層　灰黒色土 |
| Ⅱa 層　黒色土 |
| Ⅱb 層　黒茶褐色土 |
| Ⅱc 層　茶褐色土 |
| Ⅱd 層　黒褐色土（パミス含） |
| Ⅲ　層　黄茶褐色火山灰<br>（アカホヤ火山灰軽石） |
| Ⅳ　層　暗褐色土 |
| Ⅴ　層　黒褐色硬質土 |
| Ⅵ　層　黄褐色火山灰<br>（薩摩火山灰） |

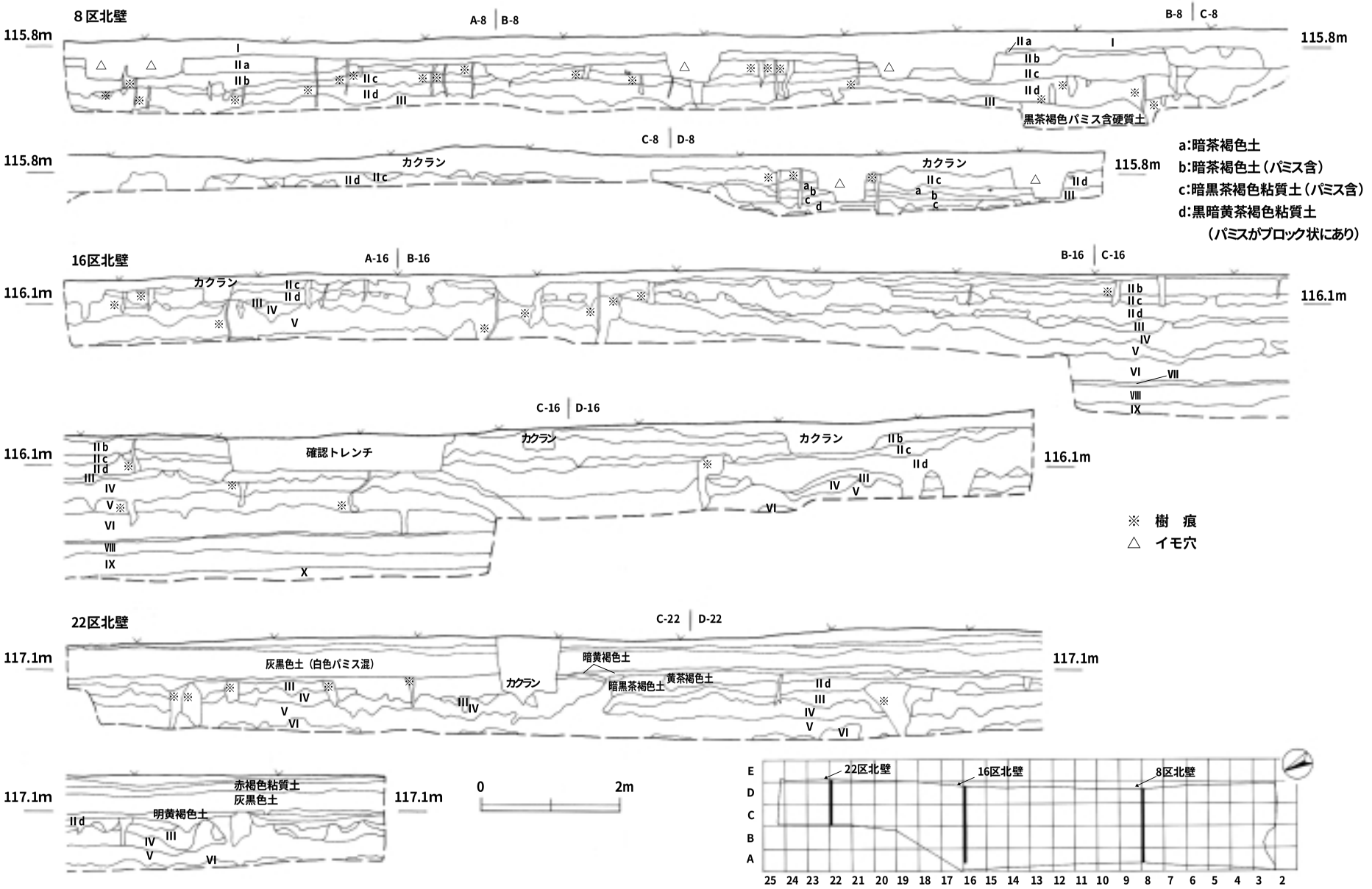
Ⅰ層：耕作土である。

Ⅱ層：堂園遺跡Ｂ地点では４層に細分される。Ⅱa層は古代～中世，Ⅱｂ層は弥生時代～古墳時代，Ⅱｃ～Ⅱｄ層は縄文時代中期～後期の遺物包含層である。Ⅱｂ層上面において竪穴住居跡を検出した。

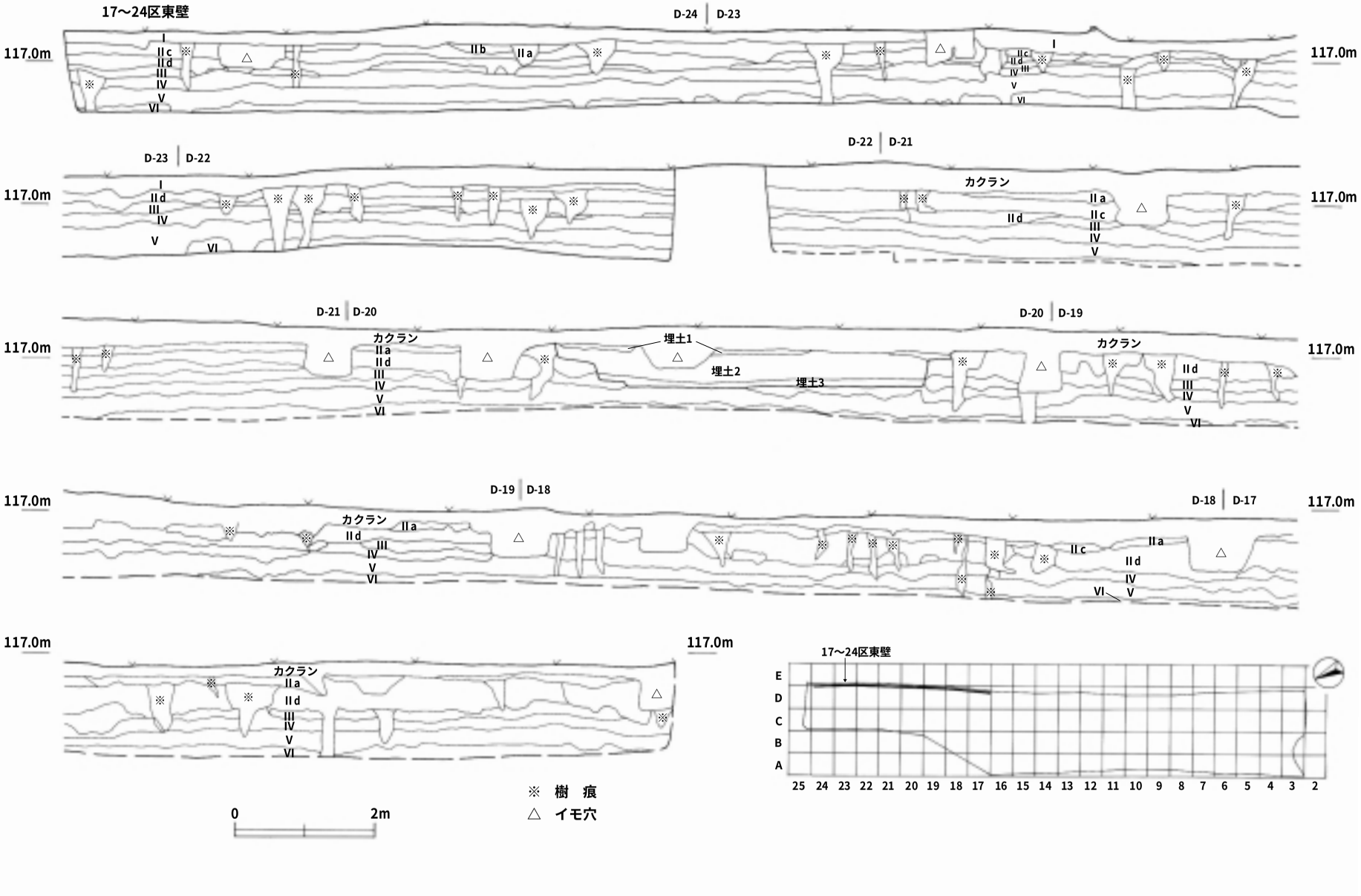
Ⅲ層：鬼界カルデラ起源の通称「アカホヤ火山灰」である。

Ⅳ層・Ⅴ層：無遺物層である。隣接する台地に所在する鳴野原遺跡Ａ地点では前平式土器が出土した。

Ⅵ層：層の下部は軽石である。11,500年前の桜島起源の火山灰で通称「薩摩火山灰」と呼ばれる。


8区北壁
A-8
B-8
C-8
D-8
115.8m
I
IIa
IIb
IIc
IId
III
黒茶褐色パミス含硬質土
カクラン
a:暗茶褐色土
b:暗茶褐色土（パミス含）
c:暗黒茶褐色粘質土（パミス含）
d:黒暗黄茶褐色粘質土
（パミスがブロック状にあり）
16区北壁
A-16
B-16
C-16
D-16
116.1m
IV
V
VI
VII
VIII
IX
X
確認トレンチ
※ 樹 痕
△ イモ穴
22区北壁
C-22
D-22
117.1m
灰黒色土（白色パミス混）
暗黄褐色土
暗黒茶褐色土
黄茶褐色土
赤褐色粘質土
灰黒色土
明黄褐色土
0
2m
E
D
C
B
A
25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2

第２図　地層断面図（1）


17～24区東壁
D-24
D-23
D-22
D-21
D-20
D-19
D-18
D-17
117.0m
I
IIc
IId
III
IV
V
VI
IIb
IIa
カクラン
埋土1
埋土2
埋土3
※ 樹 痕
△ イモ穴
0
2m
E
D
C
B
A
25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2

第３図　地層断面図（2）

# 第Ⅳ章　堂園遺跡Ｂ地点の調査

## 第１節　発掘調査の概要

平成15年度に実施した確認調査では，11本のトレンチを設定して，96㎡について調査した結果，7,500㎡の範囲において縄文時代後期から晩期にかけての遺物包含層，弥生時代から古墳時代にかけての遺物包含層，古代の遺物包含層の，合計３枚の包含層が良好に存在することを確認した。そこで，平成17年度及び平成18年度に行った緊急発掘調査では，公共座標点(X:-175070.000，Y:-55320.000)を基準(J/K－0/1区)として，地理学系グリッドを270°右回りに回転させて，10ｍ四方のグリッドを設定した。北側から南側に向けて１区から18区と名付け，また東側から西側に向けてＡ区からＫ区と名付け，調査を開始した。

## 第２節　発掘調査の成果

調査の成果としては，弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡，掘立柱建物跡，溝状遺構，杭痕跡，柵列状遺構，ピット，埋納土器ピットなどの遺構や，中津野式土器や免田式土器等の甕・壷・鉢形土器，砥石や台石等の石器，ガラス製や水晶製の小玉，鉄鏃などの遺物が発見された。また，縄文時代中期から後期の時期の土坑や落とし穴，数多くの石鏃製作跡等の遺構や，深浦式土器や市来式土器等の深鉢，石鏃，磨製石斧，磨石，石皿等の石器などの遺物が発見された。平成19年１月30日に土木部へ引き渡した。

## 第３節　縄文時代

### １　遺構

縄文時代のものと想定される遺構に土坑５基，集石１基，石器集積１基などがあるが，いずれも土器が出土していないため時期は不明である。

１）土坑

調査時点ではここに紹介した以外にも土坑の可能性があるものとしていくつかの番号を記したが，整理作業で検討した結果，はっきりしたものは５基であった。

①１号（旧９号）

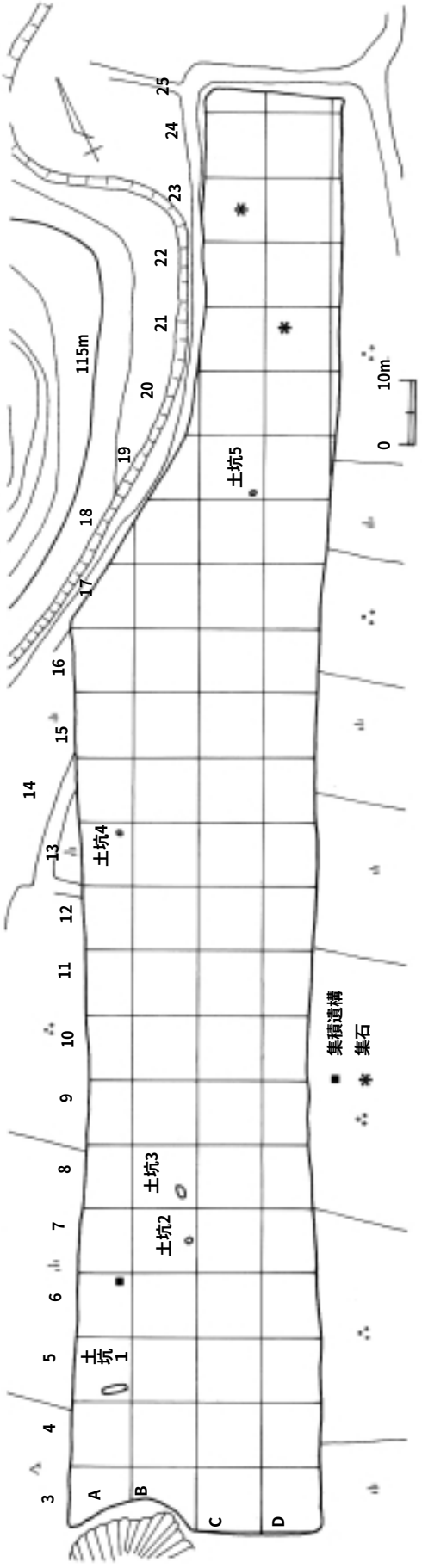
Ａ５区のⅢｂ層上面で検出した，長さ約4.5ｍ，幅1.5～２ｍの長方形をした土坑であるが，長軸の中央に高まりがあることから長さ2.4ｍのものと，2.0ｍのものの２基が切りあっている可能性がある。２基と考えれば，深さは西側が約80㎝，東側が約100㎝である。それぞれ断面形は逆台形，あるいはＵ字形を呈しているが，途中に段をもっており不整形である。周辺に直径が20～40㎝，深さが20～80㎝の柱穴が20前後あり，この土坑を囲んでいるようにもみえるが，深さ等が不揃いであり，関連は不明である。埋土は粘質土で５層に分かれ，上から暗茶褐色，明黒茶褐色，暗黄茶褐色，暗茶褐色，茶褐色を呈する。それぞれの土には黄色パミスや白色石粒が含まれており，両側から落ちている。

②２号（旧６号）

Ｂ７区のⅢ層上面で検出した長さ約1.5ｍ，幅0.4～0.6ｍの長方形をした土坑で，深さは0.55ｍある。底まで段をもって落ちており，底には長軸に沿って直径が25～30㎝，深さが25～50㎝ある３か所の柱穴状をした落ち込みがある。埋土は両側から落ちて，２層に分かれ，上が暗黒茶褐色，下が暗黄茶褐色シルト質土である。

③３号（旧７号）

Ｂ８区のⅢ層上面で検出した長径1.65ｍ，短径0.65ｍのだ円形をした土坑で，深さは約40㎝ある。南側に段があり，底面には直径20～30㎝，




第４図　縄文時代の遺構配置図

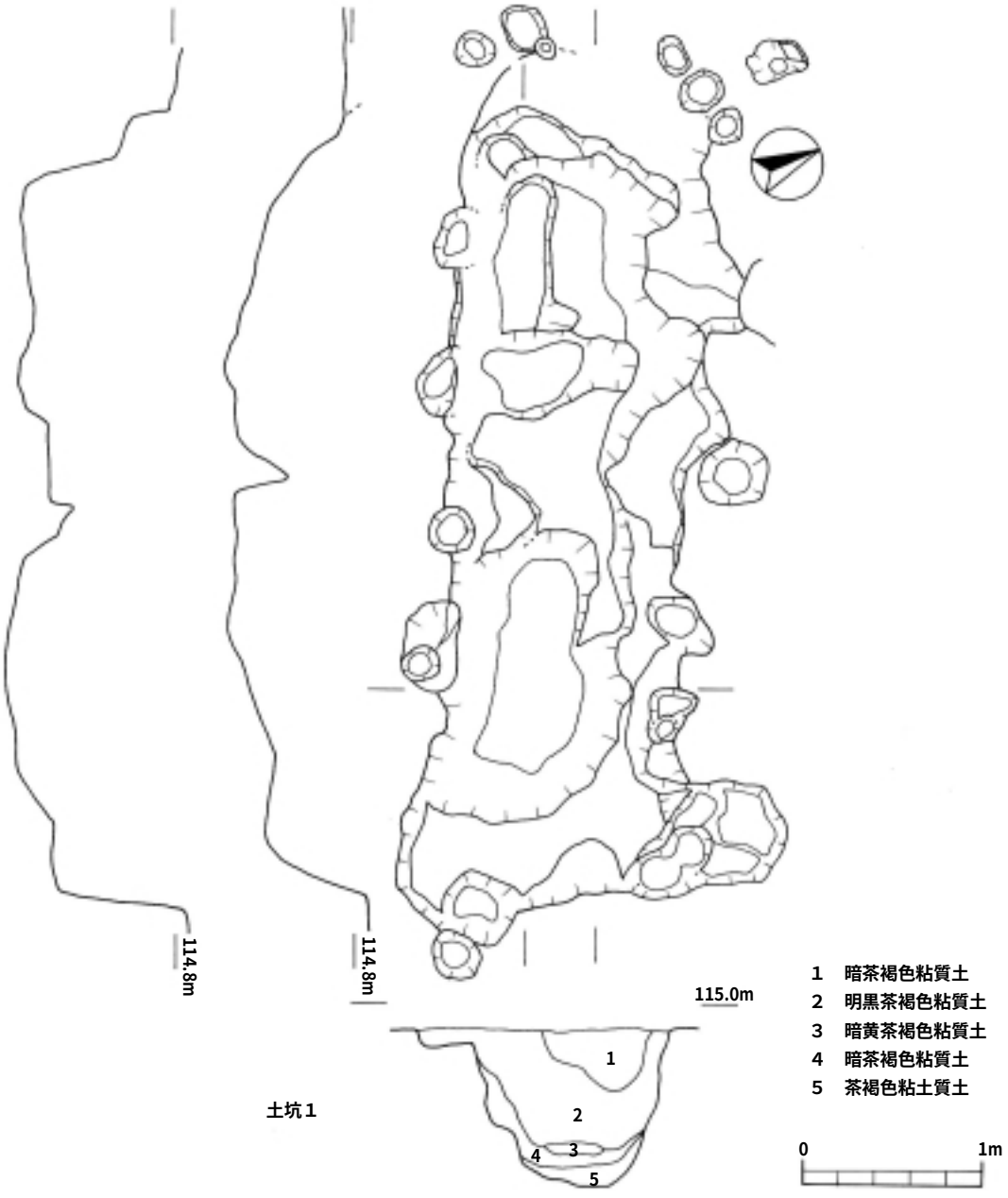
深さ30～60cmの柱穴が５ある。埋土は両側から落ち込んでおり，上から暗茶褐色，暗黄褐色，暗茶褐色，黄褐色のパミスを多く含む粘質土である。

④４号（旧５号）

Ａ13区のⅡｄ層上面で検出した長径1.7ｍ，短径1.2ｍの隅丸方形をした土坑で，深さは約60cmある。側面はいくつかの段がある。埋土は下に１～２の浅い埋土があり，その上に黒茶褐色シルト質土が厚く堆積している。下の埋土は上にパミスを含む暗黄茶褐色土，下に黄茶褐色土がある。

⑤５号（旧４号）

Ｃ19区のⅡｄ層上面で検出した直径75～85cmほどの略円形をした土坑で，深さは15cmほどの浅いものである。




**第５図　土　坑（1）**

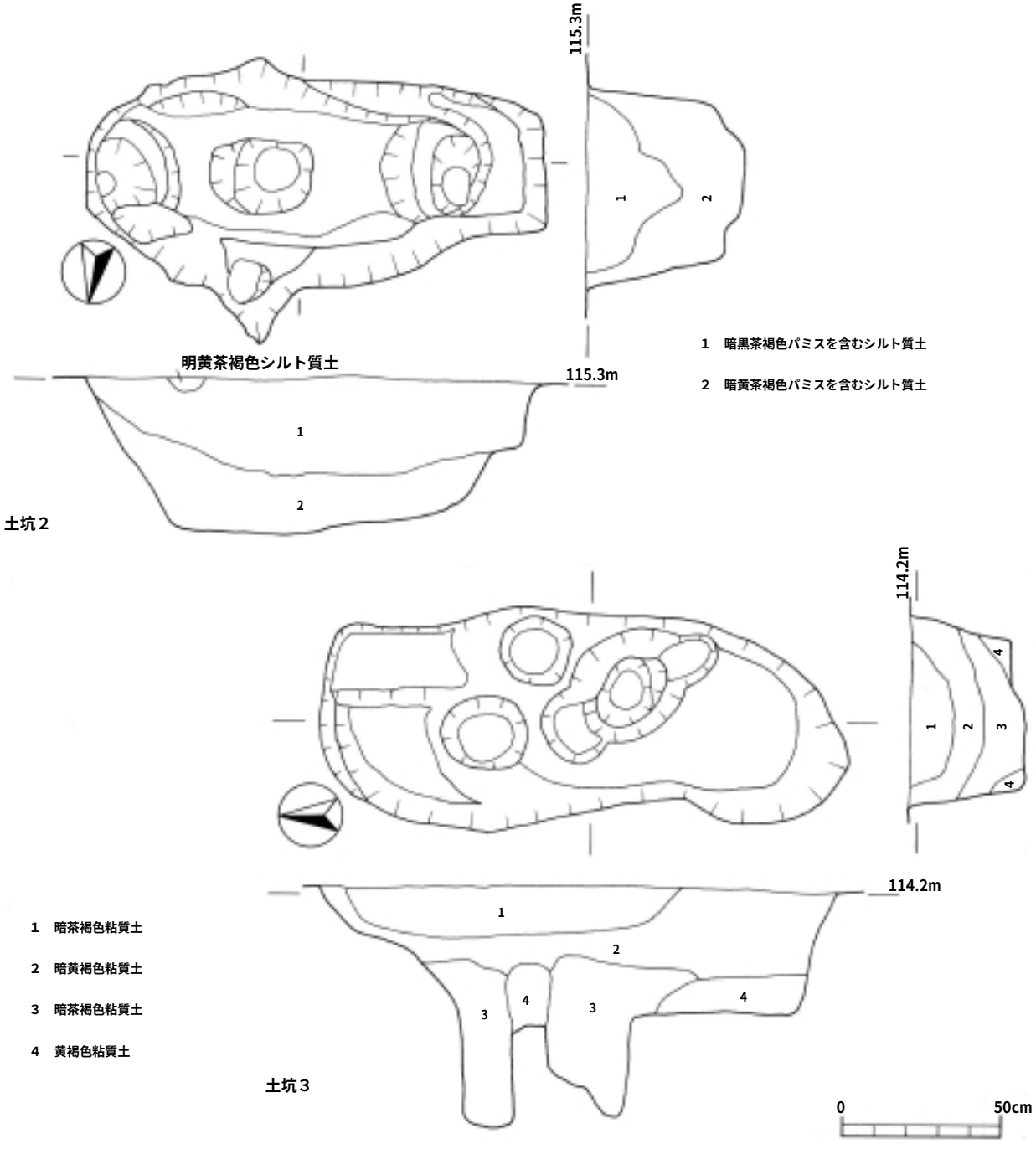
2）集石

各所で数個の石からなる集石はいくつかみられるが，多くの石からなる集石がＣ23区のⅡｄ層上面で検出された。ほぼ70㎝四方に22個の円礫が同一レベルで広がっており，その周辺に２個の礫もある。炉跡の基礎として用いたような大きな石等はなく，集石炉に用いた石の排除場と思われる。

Ｄ21区Ⅱｄ層でも長さ70㎝の範囲に同一レベル上で９個の砂岩円礫が並んでいる。いずれの礫も顕著に焼けた痕はないが，６個の礫は破砕痕がある。掘り込みや炭化物などはない。

３）集積遺構

大型剥片が４点まとまっている遺構がＡ６区のⅡｄ層で検出された。２点は重なり，あと１点が

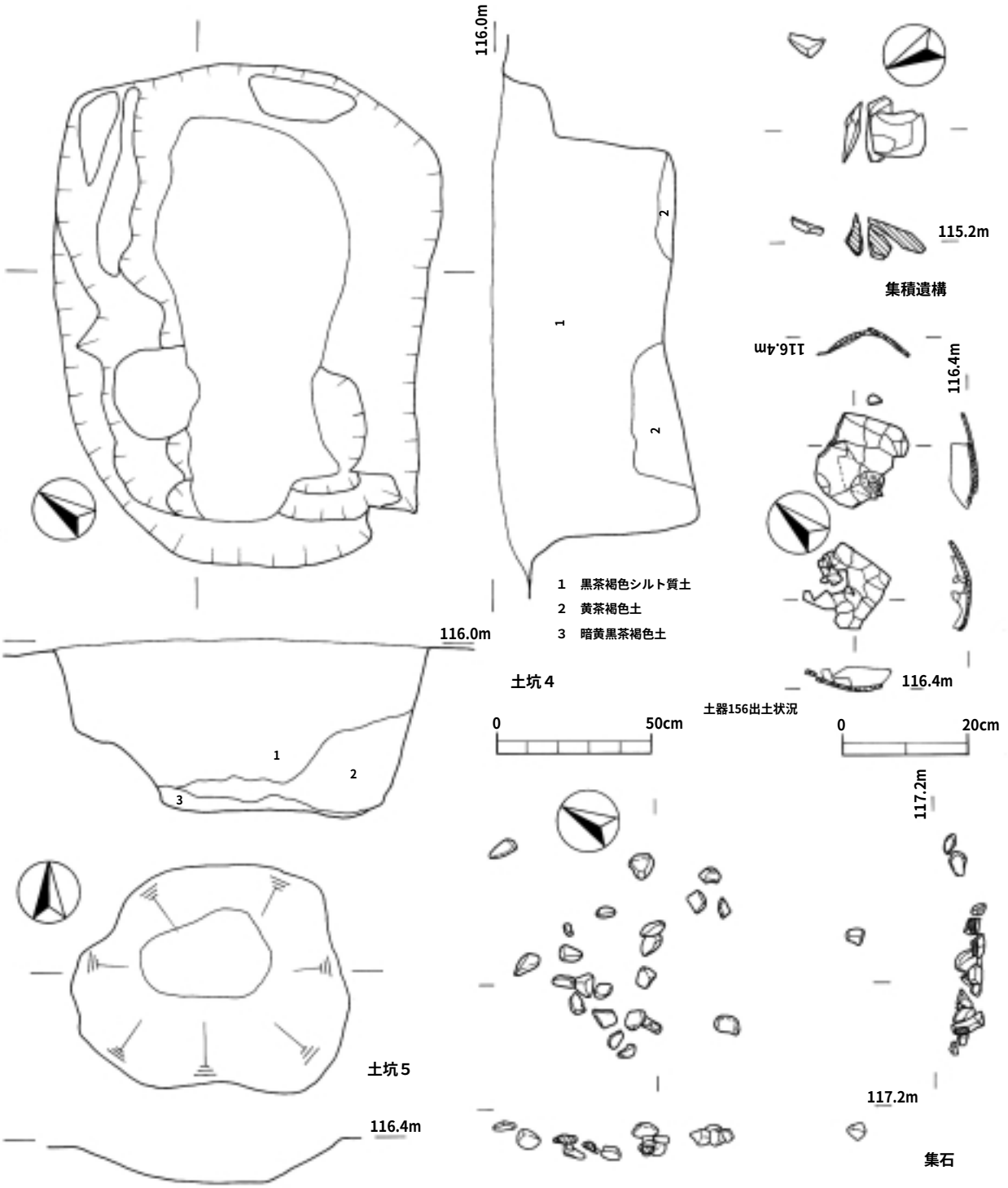



**第６図　土　坑（2）**

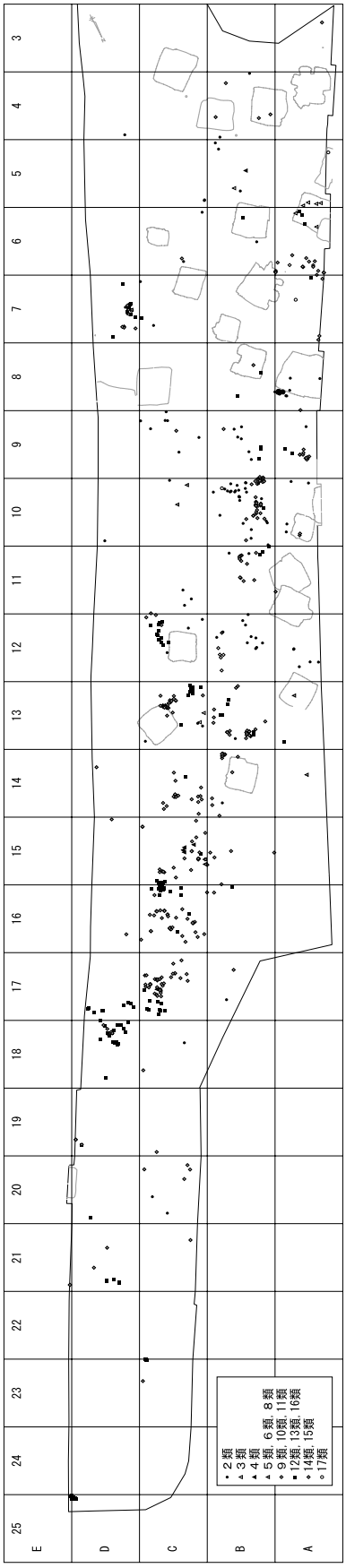
隣接し，残り１点も10cmほど離れて同一レベルにある。

４）土器や石器の出土状況

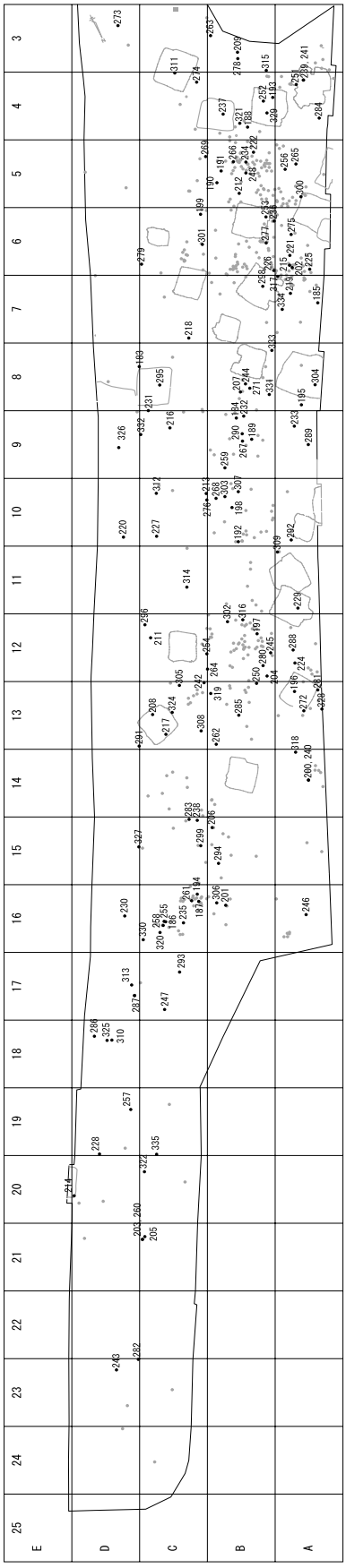
縄文土器の出土量はそれほど多くないが，同一個体が集中して出土する場がＣ３区，Ａ６区，Ｃ15区，Ｃ16区，Ｄ18区，Ｄ25区などにみられる。また，剥片・チップも広い範囲に散在しているが，Ｂ５区，Ｃ６区，Ａ６区，Ｂ９区，Ｂ12区，Ａ14区，Ｂ・Ｃ16区などでは特に集中して出土している。Ｃ11区・Ｃ23区などの集中場は磨製石斧製作跡かと思われる。




**第７図　土坑（3）・集石・集積遺構**




**第8図　縄文土器の分布図**



**第9図　縄文時代の石器分布図**

## ２　遺物

縄文時代の遺物は早期から晩期までの土器・土製品・石器が出土している。

１）土器

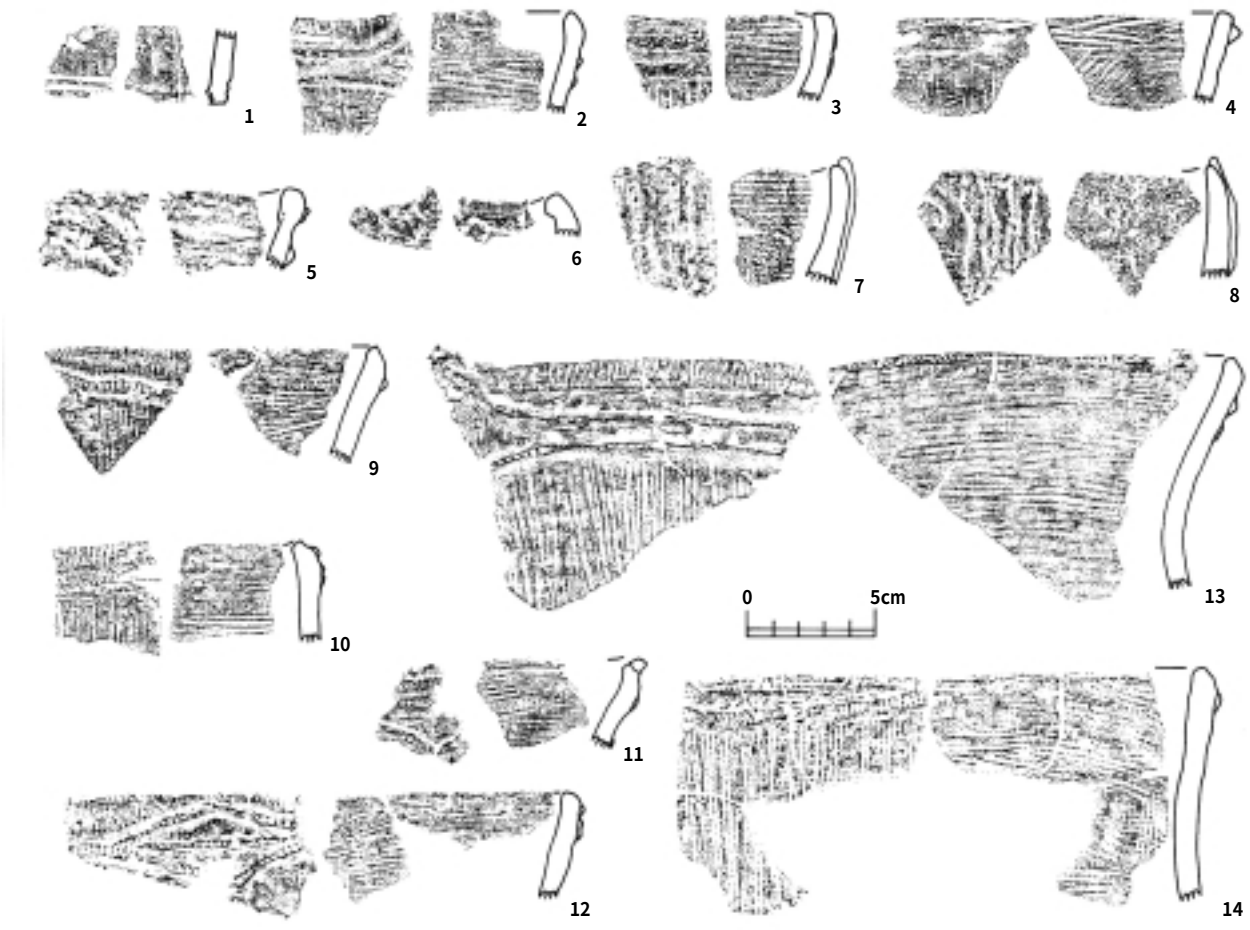
早期・中期・後期・晩期の縄文土器が出土しているが，早期と晩期の土器はほとんどなく，中期・後期のものが多い。これらの土器は形態・文様などから多くの種類に分けられる。ここでは17種に分け，それぞれ１類から17類と仮称する。

①１類（第10図１，早期：塞ノ神Ａ式土器）

Ｂ７区にある６号住居跡内で小破片が１点出土している。円筒形を呈する平底の深鉢で，底近くの外面に二条の凹線がみられる。内外面ともヘラナデで仕上げているが，特に外面・底部はていねいに仕上げている。明茶褐色を呈し，火山ガラス・茶色石などのこまかい石を含む細砂質土を用いている。焼成度は普通である。

②２類（第10図～第13図　２～37，中期：貝殻条痕尖底土器）

内外とも貝殻条痕あるいはヘラナデで調整し，尖底となる深鉢で，外面に突帯の貼り付くものと，付かないものとがある。突帯にはヘラ刻みのもの，刺突文のあるものがある。外面の貝殻条痕は，多くが縦方向に施されている。口縁部はまっすぐ伸びるものと，内反するものとがあるが，内反するもののなかにはキャリパー形を呈するものもある。10～13区付近で多く出土している。

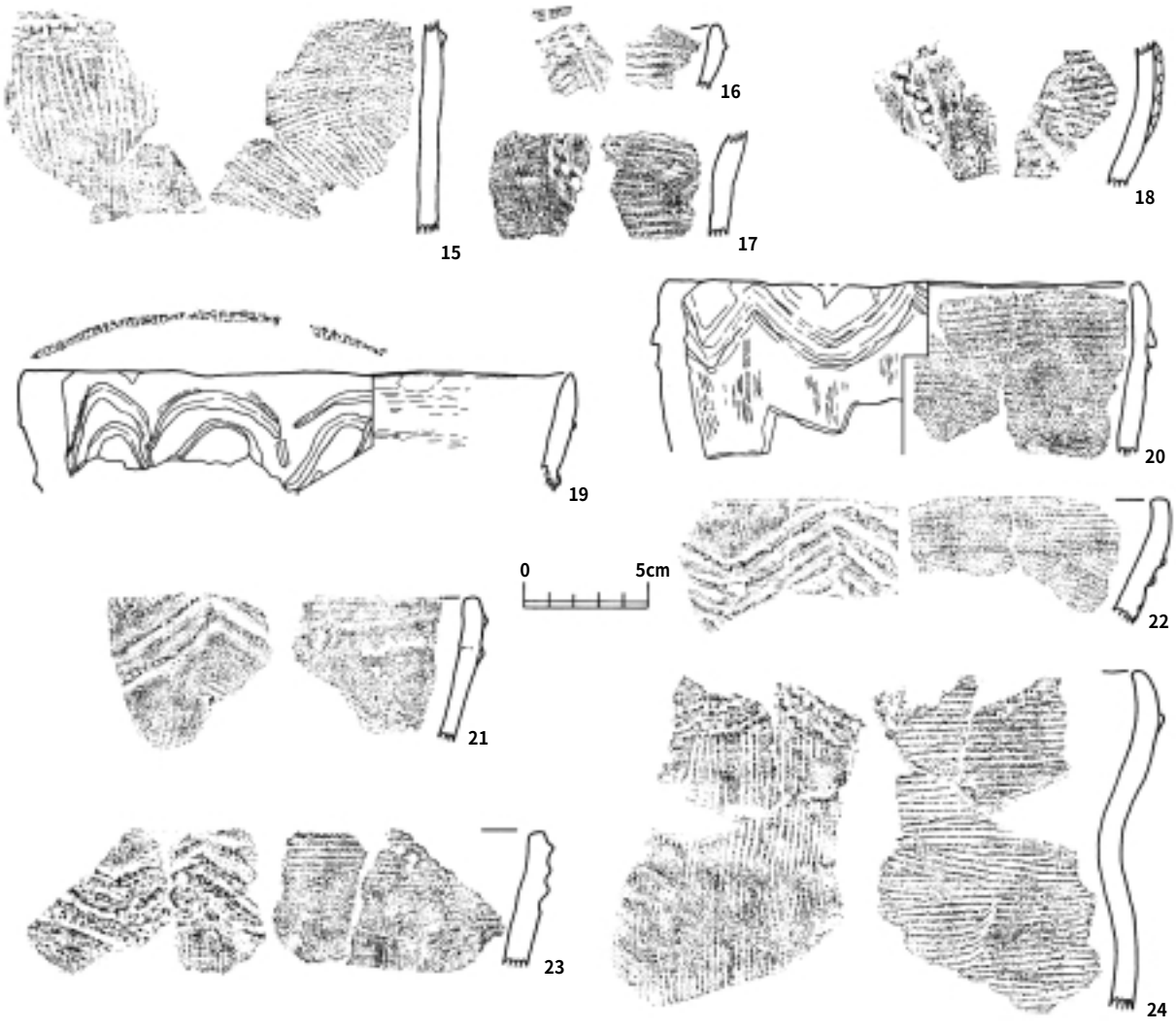



**第10図　縄文土器（1）**

2 ～24は三角突帯のあるものである。

2 ～ 8 は口縁が内反するものが多いが， 4 ・ 5 はほぼまっすぐ伸びている。端部は丸くおさまっているが， 3 は矩形となっている。波状口縁のものが多い。突帯は三角突帯が多いが， 3 は低い矩形のものである。一条のものと，二条のものがあるが， 7 ・ 8 は縦方向に施されている。 5 の口縁端は，内面に粘土を貼り付けて肥厚させている。 6 は波状の突起部外面に粘土塊を貼り付けて肥厚させている。内外とも貝殻条痕のものが多いが，ヘラナデのものもある。

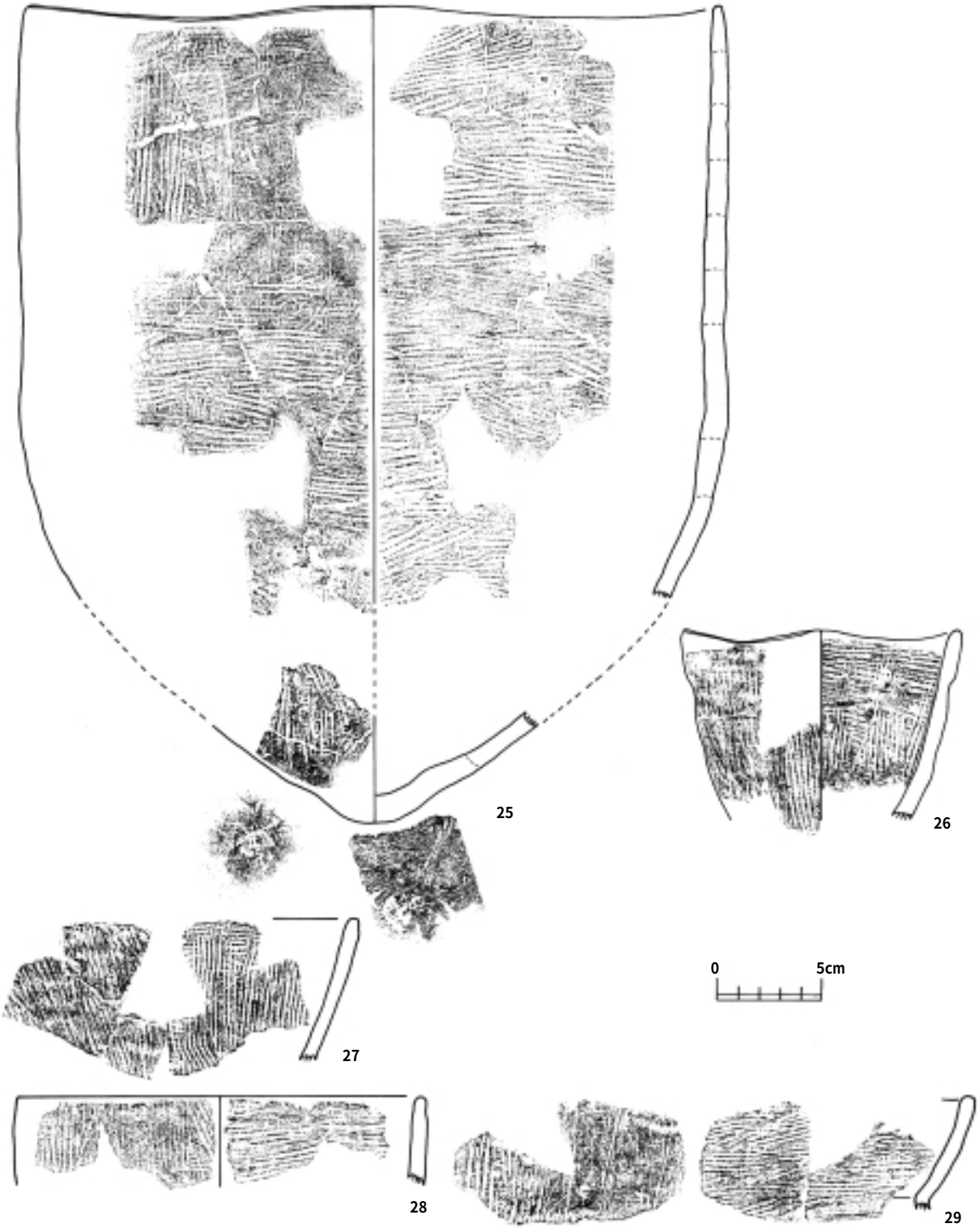
9 ～15は三角突帯に刻み目のあるものである。これらの外側にある縦方向貝殻条痕文は深くはっきりしている。内面の貝殻条痕は横方向，あるいは斜方向である。口縁部はまっすぐ伸びるものが多いが，13はややキャリパー形になっている。9 ・10は同一個体と思われるが，波状となる口縁で，突起部では一条の突帯が枝状となって三条に分岐している。口縁端にも刻みがある。11の刻みは刺突になっており，突帯は三条になっているが，口縁端の突帯は上へ突出したようになっている。外面剥脱が目立つ。12の突帯も部分的に菱形状に分岐して三条にわかれている。これも外面口縁端にヘラ刻みがある。13は二条の突帯が突起部で広がっているが，外面平坦部に長いヘラ刻み，口唇部に短いヘラ刻みが付されている。




**第11図　縄文土器（2）**

16～18は貼付突帯の上に太い刺突文の施されるもので，内弯する口縁，外反するもの，キャリパー状になるものとがある。波状口縁で縦方向の突帯もある。16は口唇部に巻貝の殻頂部による刺突文がある。内外とも貝殻条痕調整だが，外面はあとでヘラナデを施している。

19～24は突帯が山形になるもので，二条突帯のもの（19～22）と四条突帯のもの（23・24）とが




**第12図　縄文土器（3）**

ある。 19は口縁直径が22cmあり，外へまっすぐ伸びる器形をしている。突帯は曲線的になっており，細くなった口唇部にヘラ刻みがある。20の口縁直径は19cmとやや小さく，やや内反ぎみである。口唇部の一部分にヘラ押圧文があり，外面にはススが付着している。21の突帯には部分的にヘラ押圧文がみられる。22・23の突帯は鋸歯状となり，23の突帯にはヘラ押圧が見られる。24はキャリパー形の口縁をしており，一条の三角突帯が貼り付けられ，その上下に小さな刺突文がみられる。

25～32は突帯のないもので，まっすぐ伸びるもの（25～28）と，キャリパー状になるもの（29～32）とがある。25は口縁直径が33.8cm，高さ約39.7cmで，波状口縁となる。底部は小さな平底風の尖底で，底に木の実の割れたものかと思われる圧痕がみられる。内側の貝殻条痕は上から下まで深い横あるいは斜方向だが，外側は上部が縦方向，下部が横あるいは斜方向になっている。積み上げ痕がよく残っている。Ｂ９・10区とＣ９区周辺に破片となって散らばっているが，完形品と思われる。26は波状口縁となる口縁直径13.5cmほどの小型のもので，口縁部は肥厚している。高さは十数cmと思われる。28は口縁直径が20cmほどと小さい。外面の貝殻条痕は縦方向である。内面は横方向で，口唇部にも部分的に貝殻条痕がみられる。29は波状口縁でキャリパー形を呈しており，頸部内面に稜をもつ。30は口縁直径が31.6cmで，頸部内面に稜をもつ。ややキャリパー形だが，ゆるいカーブである。内外面とも条痕のあとヘラナデがされる。Ａ８区周辺に散らばっていた。31は雑な作りのキャリパー形をしており，波状の突起部は肥厚し，口唇部にヘラ押圧文がみられる。32もキャリパー形で，下部の貝殻条痕は浅くなっている。

33～37は尖底で，幅の広いものと細く立ち上がるものとがあり，ヘラナデもあるが，放射状の貝殻条痕が主となる。

③３類（第14図　38・39，中期：船元式土器）

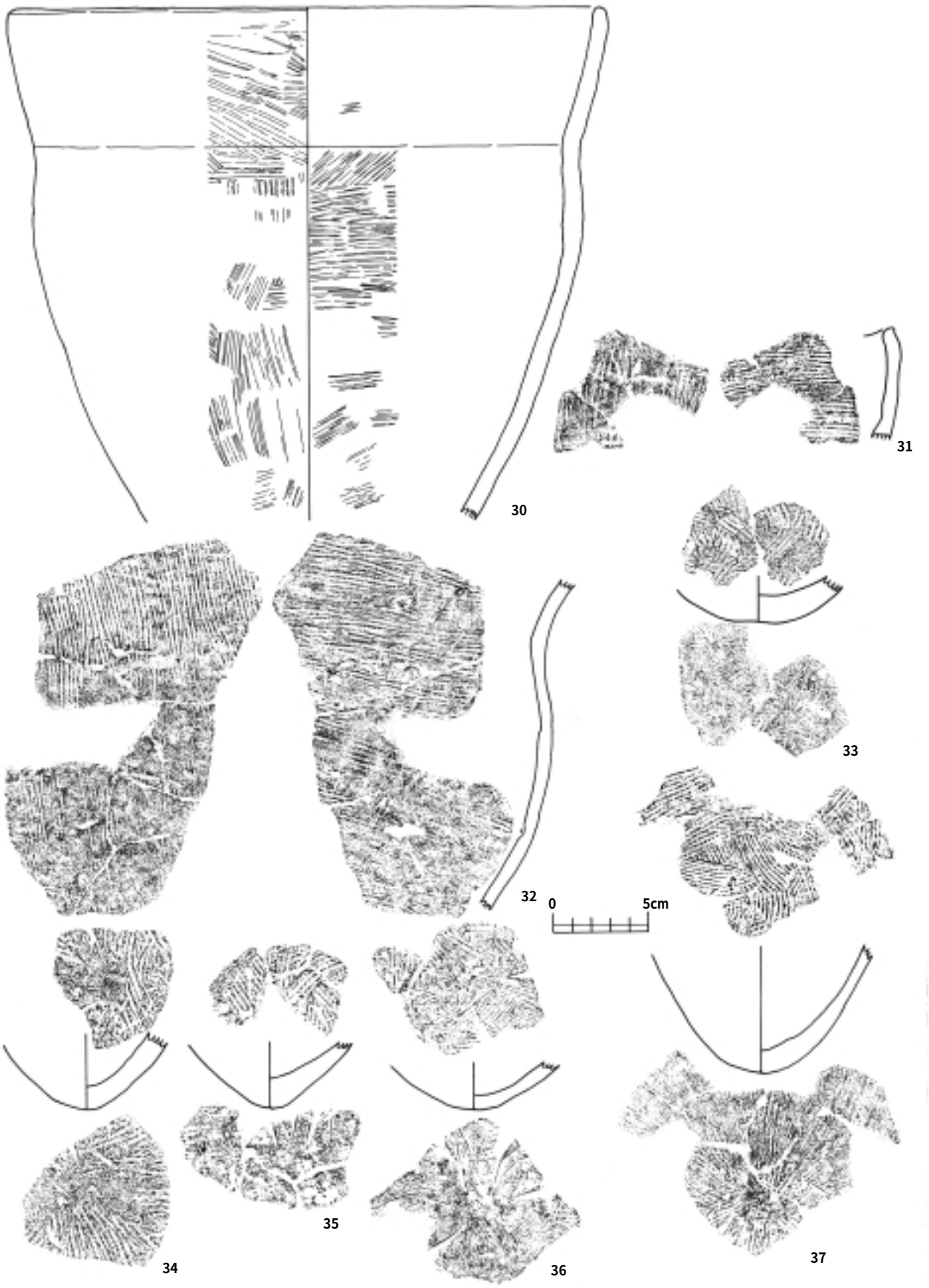
灰色がかった撚糸紋土器で，胴部には三角突帯がみられる。底部は直径が7cmで，上げ底になっているが，端部は平たくなっている。内外ともヘラナデで，外面はその上に縦方向の撚糸紋がみられる。白色石・石英など2～5㎜大の細石を多く含む粗砂質土で，在地産土器と胎土が異なる。Ａ３区・Ｂ６区などで出土しているが，同一個体と思われる。

④４類（第14図　40～43，中期：阿高式土器）

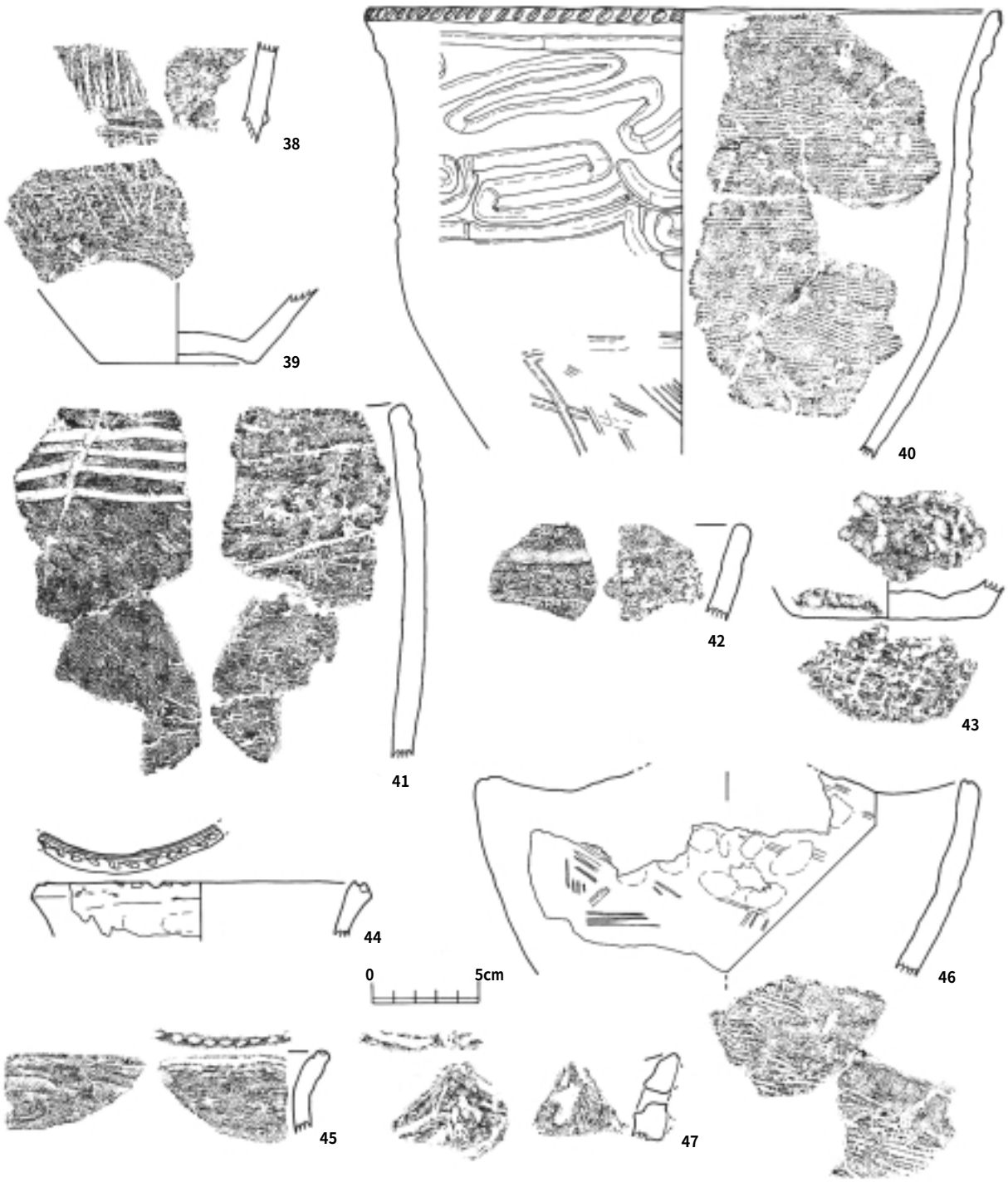
幅広の凹線が施された土器である。40は口縁直径が30cmある深鉢で，外面は粗いヘラナデ，内面は横方向の貝殻条痕で仕上げている。内面は部分的にヘラナデも加えられ，特に下部は貝殻条痕がほとんど残らない。外面は口縁端にヘラ先による刻み目が加えられる。胴部上半にはヘラによる短絡線文様がみられるが，横線とコの字状文となっている。41は波状となる口縁で，上部外面に四条の横線がみられる。42は一条の横線がみられる。43は丸みをもって底に至るもので，外部には，かすかに凹線らしきものがみられる。底には長格子の網代圧痕がみられるが，その後ヘラでナデている。内面もヘラによる押圧ナデである。

⑤５類（第14図　44～47，後期）

口唇部に凹線が巡っているものである。44は口縁部が外反するもので，口縁部直径は16cmと小さい。口縁端が幅広く肥厚しており，口唇部は内面側に細い凹線が巡り，外側に刺突文が並んでいる。内外とも横方向ヘラナデである。45は口縁が強く反るもので，口縁内側に細い凹線が巡っている。口唇部には刺突文がある。46は強く波状となる浅鉢状の器形で，直径は23.8cmほどである。外面は貝殻条痕のあとヘラナデをし，上部には指頭圧痕が顕著に残っている。内面はこまかい貝殻条痕で




**第13図　縄文土器（4）**




**第14図　縄文土器（5）**

ある。分厚いつくりである。47は波状口縁の突起部で，口唇部にはヘラによる短絡線と押圧文があり，外面には凹線と刺突文がみられる。雑な作りのだ円形の孔が穿たれている。

⑥ 6類（第15図　48～50，後期）

やや内反ぎみに口縁部へ至る深鉢で，端部近くに凹線がみられる。端部が48・49は矩形を呈するのに対して、50は丸みをもっている。48は外面に縦方向の短い凹線があり、口唇部にも斜方向のヘラ押圧文がみられる。49は端部近くに左下がりのヘラ押圧と，その下に凹線がみられる。50は途切

れ途切れに横方向の凹線がみられる。調整はいずれもヘラナデである。

⑦７類（第15図　51，後期）

やや内反ぎみに端部へ至る土器で，口唇部がやや内側に下がっている。口唇部にはヘラによる押圧文があり，外面には上部に縦方向の二枚貝腹縁による押圧文と，その下に二条のヘラ描き凹線文がある。内外面ともヘラナデ調整である。

⑧８類（第15図　52～55，後期）

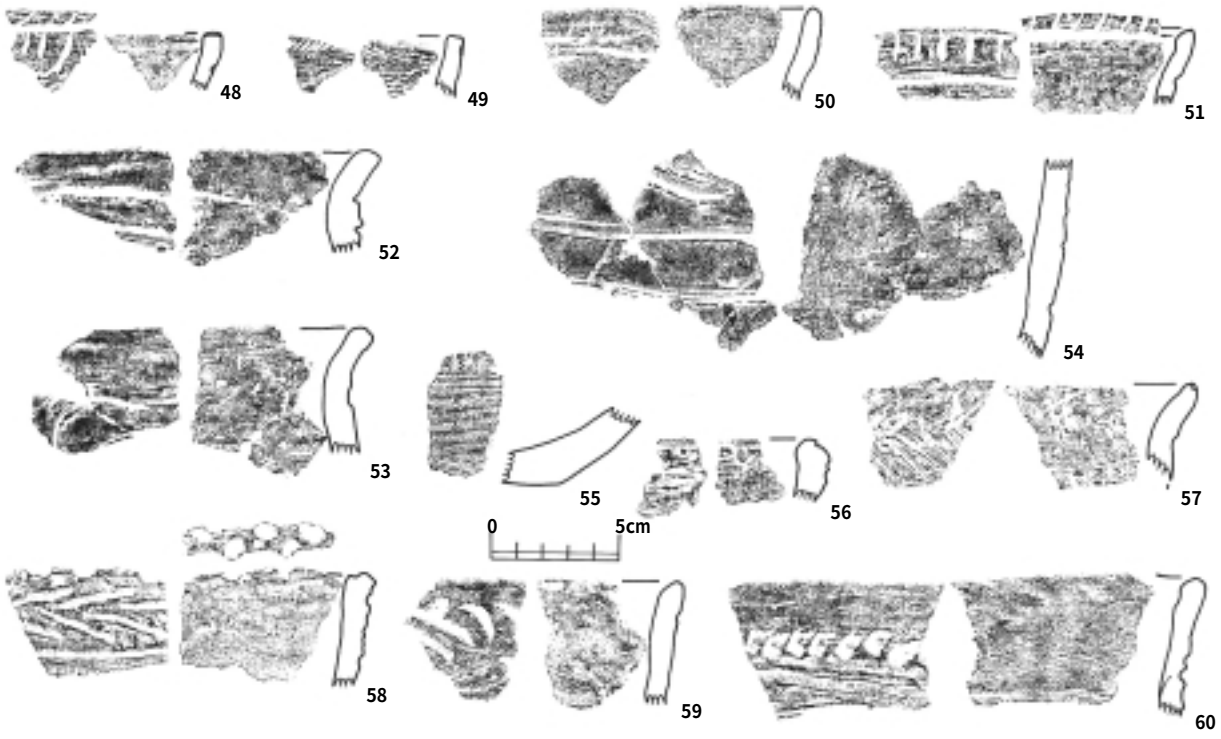
厚さが１㎝前後と分厚い土器で，同一個体と思われる。口縁部は端部で外反し，小さな平底となる。上半部には先のとがったするどいヘラによる凹線がみられる。波状となる横線やだ円状文・弧状文からなる。内外ともヘラナデだが，外面がていねいなのに対して，内側は粗い部分もある。黒色化した暗茶褐色を呈し，７㎜大の小石も含まれる火山ガラス・白色石・茶色石などからなる粗い土を用いている。Ｃ15区で出土している。

⑨９類（第15図　56～59，後期：南福寺式土器）

口縁端がややふくらんで外面に凹線文のある土器である。56は端がやや内反し，外面に三条の凹線文があり，端部内面はやや下がっている。57は雑な作りで，口縁が外反する。ヘラケズリ風のくの字状凹線と，その下に横方向凹線文がある。58は口唇部に内外から押圧文があってくぼんでいる。外面には鋸歯状凹線文と，その下に横方向凹線文がある。59は波状口縁で，三日月形の押圧文が横並びに施されている

⑩10類（第15図　60，後期）

外へ開いてまっすぐ伸びる波状口縁の土器で，外面は横並びのコの字状押圧文と，二条の横方向凹線文がみられる。内面は口縁下部に積上げ痕がみられ，横方向の繊維状ハケナデで仕上げている。



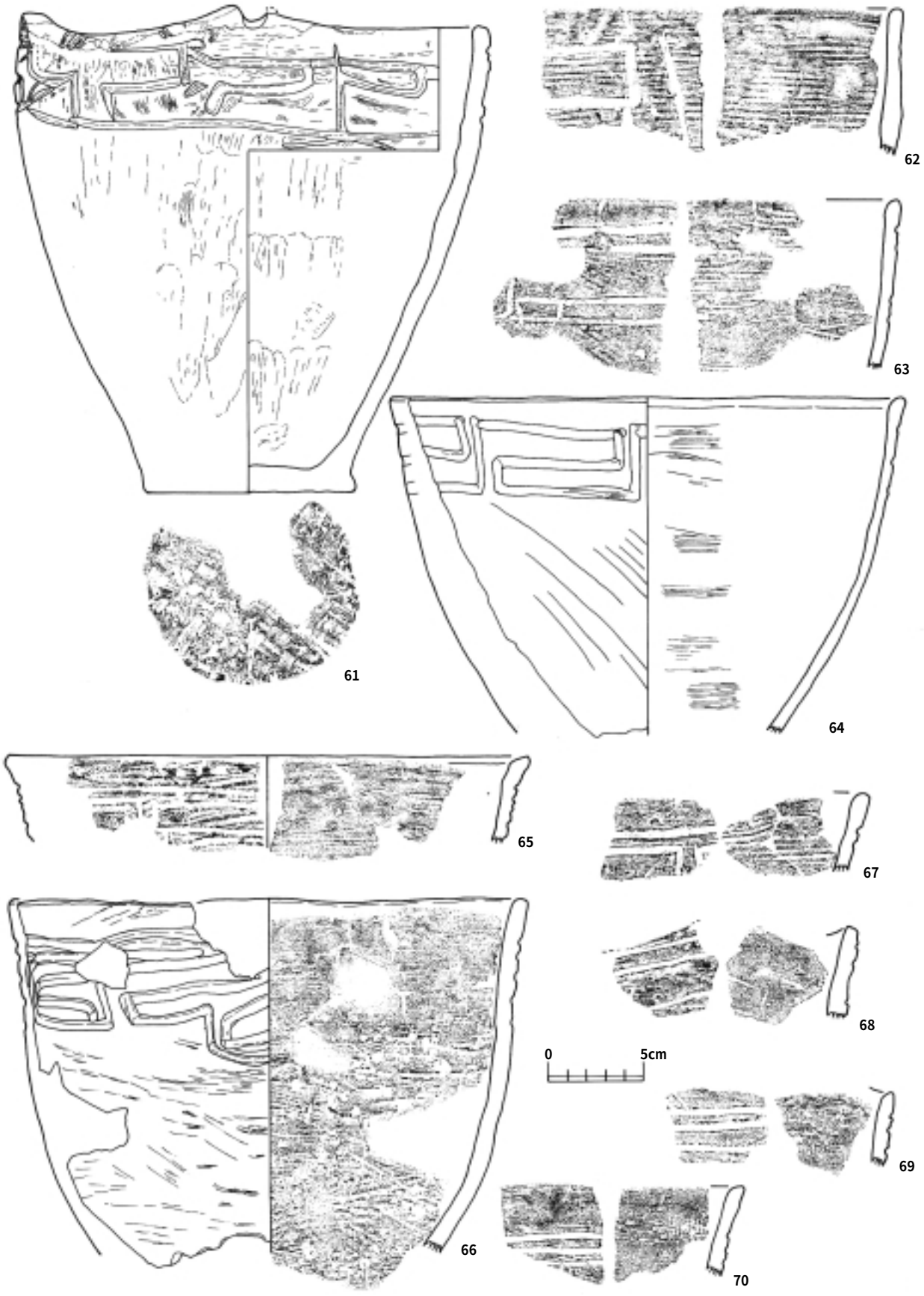

**第15図　縄文土器（6）**

⑪11類（第16図～第24図　61～133，後期：指宿式土器）

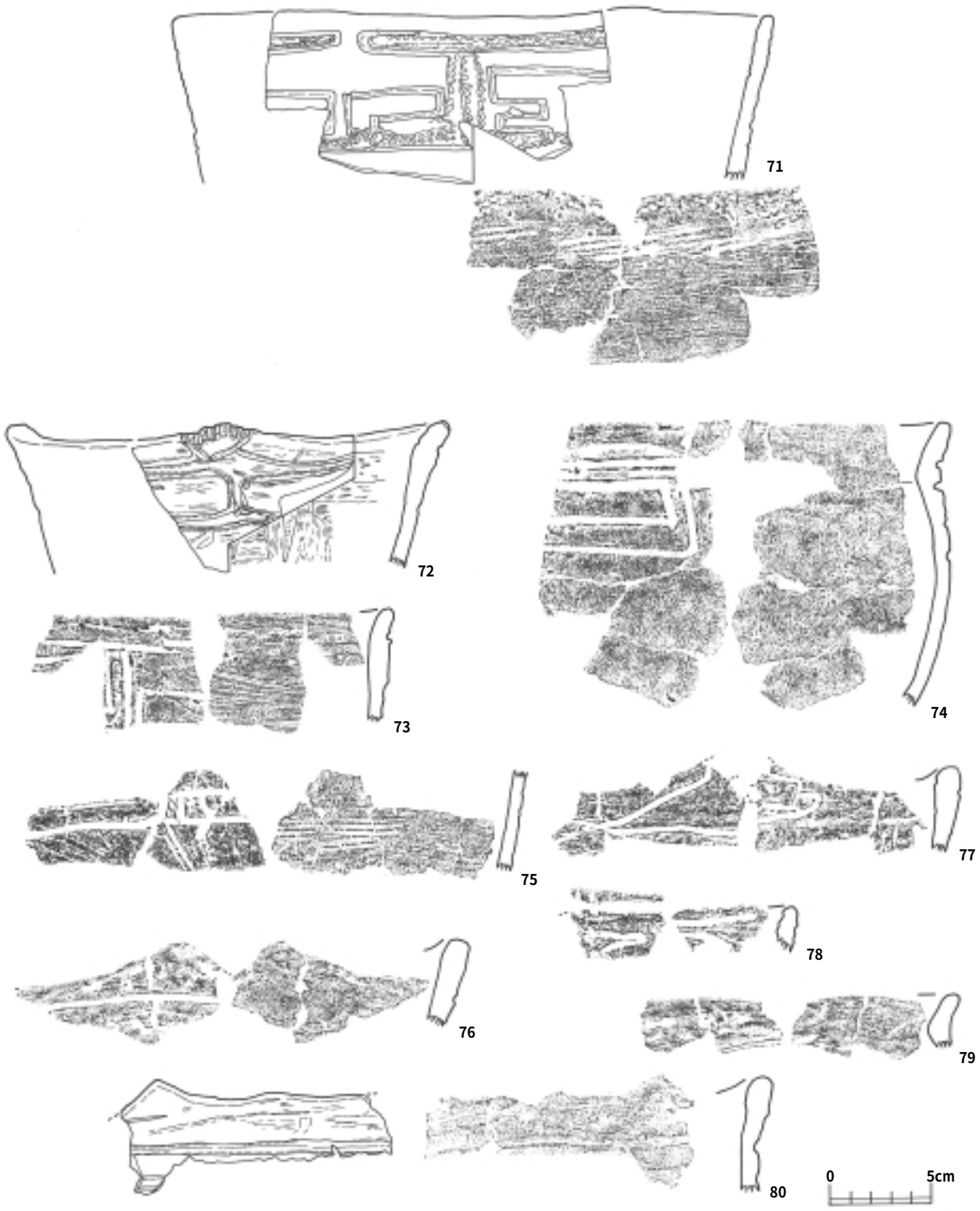
口縁部付近に直線あるいは曲線のヘラ描き文様がある平底の土器である。器種はほとんど深鉢で，台付皿形土器もある。深鉢にはほとんどヘラ描き文様が口縁部付近に施されるが，無文のものもある。有文のものには矩形・鋸歯状のもの・横線などの直線文と，だ円形状などの曲線文とがある。底部はまっすぐ胴部へ伸びるものと，底が外へ張り出すものとがあり，底は網代圧痕や鯨骨圧痕のあるものとヘラナデのものとがある。

61～75が直線の矩形を呈するものである。61は口縁直径が24.5cm，底径が11cm，高さが25cmの波状口縁をした完形品で，C13区で出土している。底から外へ開きながら立ち上がり，口縁部はやや丸みをおびている。口縁端は四か所に山形の稜があり，稜の中央にはヘラによる幅広の押圧文がみられる。口唇部に二枚貝腹縁による三条の押圧文が１か所，ヘラによる二条押圧文が１か所あるが，これは連続性がない。内外とも作りは雑で，表面や口縁端にでこぼこがみられる。内外ともヘラによる縦ナデを主とするが，内面はケズリに近く，内面上部は横方向になっているが，斜方向もある。口縁部にヘラによるＬ字，横方向・縦方向などの短い凹線がみられ，矩形の文様を呈している。底は網代底で，外へ少し張り出している。62，63は内外とも横方向を主とする貝殻条痕の地文をもつまっすぐ伸びる土器で，その上に62はコの字状と縦方向の凹線が，63は上下二段に矩形文と，それを結ぶ縦線がある。62と同一個体と思われる破片はＢ10区・Ｂ11区に集中しているが，Ａ７区・Ｃ９区などでも出土している。64は口縁直径が27cmある薄い作りの土器で軽い。口縁端はいくらか厚みを増し，外面はヘラによる斜方向のケズリ，内面は横方向のヘラナデだが，内面の口縁端部はていねいにナデている。口縁外面には逆Ｌ字状・横あるいは縦方向の短絡線で矩形文様が繰り返されている。Ｃ14区に集中し，Ｂ15区・Ｃ15区でも出土している。65は口縁直径が27cmあり，口縁近くで外反している。外面にヘラによる横あるいは縦方向などの凹線で，幅の狭いコの字状文などがくり返されている。66は口縁直径が27cmの丸みをおびた土器で，外面に横あるいは縦方向の凹線によりコの字や枡形などの文様が幅広く描かれている。67～70はまっすぐ伸びる器形をしているが，68・69は波状口縁となる。67は横線とコの字状文，68は細い線で横方向に二本ずつ二段に，69は四条の横線と二条以上の斜線，70は三条の横線と縦線がみられる。71は口縁直径30cmの波状となる直に開く土器である。内面は貝殻条痕のあとヘラにより横方向にナデており，口縁端に二枚貝腹縁押圧により二段の鋸歯状文がみられる。外面はていねいな横方向ヘラナデのあと二条の横長だ円状文，横あるいは縦方向の短絡線などによるコの字状文があり，その間に二枚貝腹縁の押圧文がみられる。72は口縁直径21.8cmと小型の波状をした口縁をもつ土器で，突起部に六つのヘラ押圧文とそれを取り囲む弧線がある。内面は横方向ヘラナデのあと，縦方向ヘラケズリであるが，口縁端近くから外面にかけてはていねいなヘラナデである。外面は上下に横方向のヘラ凹線，その間にコの字状あるいは矩形の文様が施される。73は横あるいは縦方向の短絡線で矩形を描く波状口縁の土器である。74は内面がくの字状に折れ，胴部が丸みを持つ波状口縁の土器で，内外とも横方向のヘラナデである。外面の凹線は深く，二重の矩形となる。75は幅の狭い横長の矩形である。

76～80が横方向直線のものだが，小さい破片があるため，あるいは矩形，曲線と組み合わさるものがあるかもしれない。76・77・80は波状となる口縁の頂部で，端が太くなっており，横方向の凹線がみられる。77は内外に凹線があるが，外面は横方向と頂部への短絡線，内面はコの字状とだ円状文が重なっている。頂部近くには直径1.2cmほどの円孔が穿たれている。80は四隅に山形の突起




**第16図　縄文土器（7）**

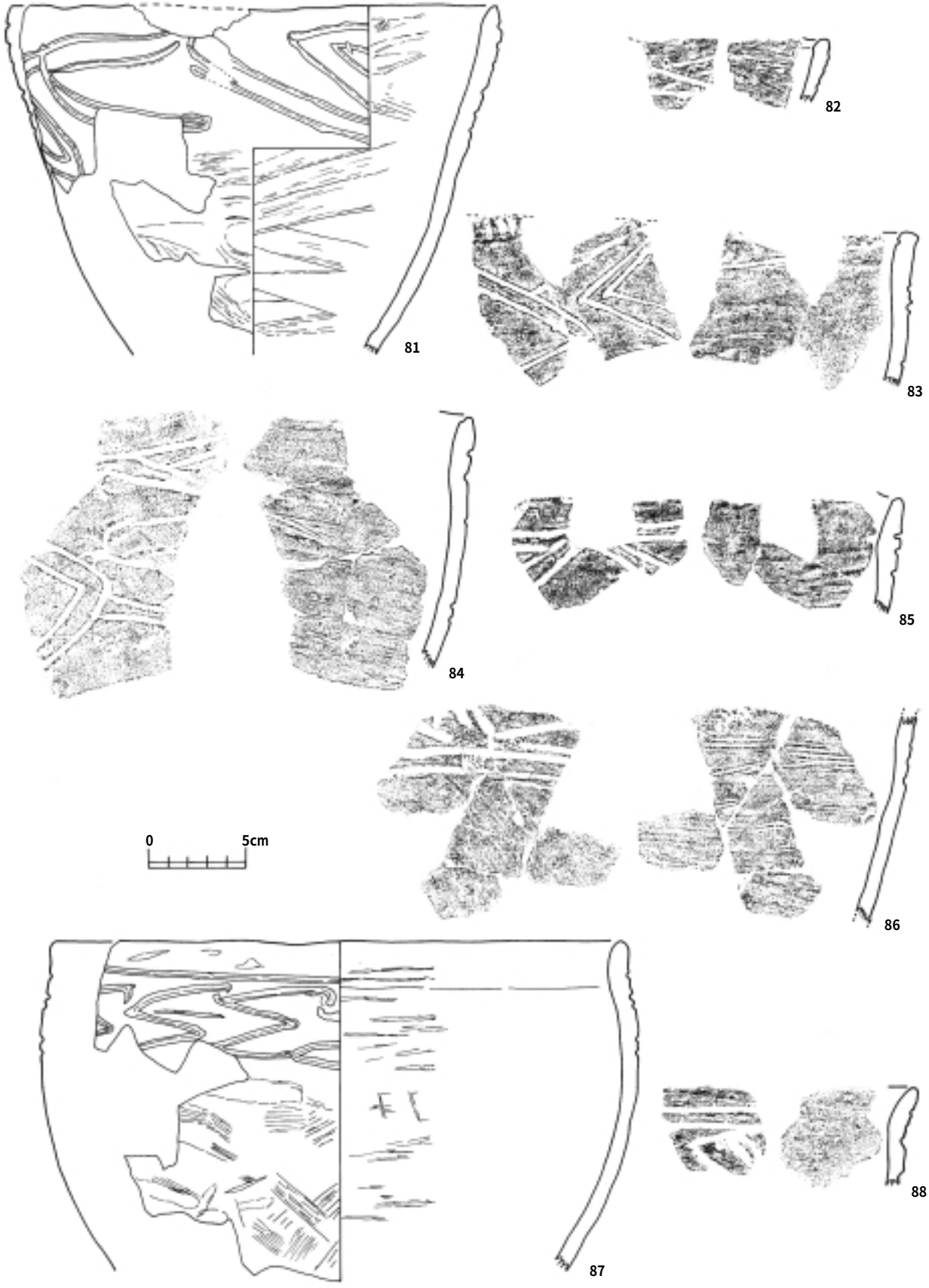



**第17図　縄文土器（8）**

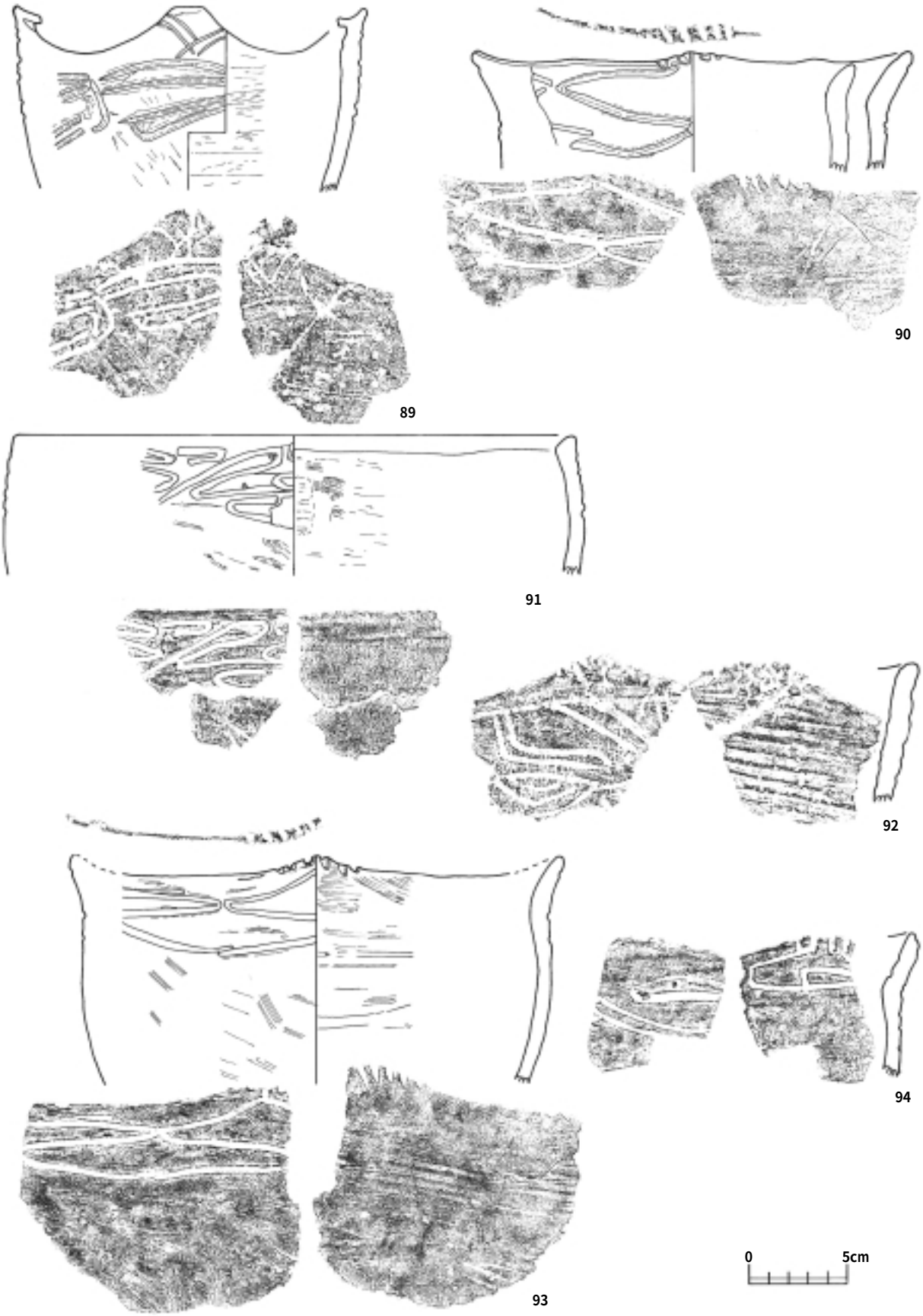
があるもので，外面にやや幅広の二条の凹線がある。78も頂部近くで，内外ともヘラ凹線がみられる。外面は頂部でふくらむだ円状文，内面は横線とだ円状文である。稜付近では内から外へ向かって穿孔（あるいは，深い窪み）がある。頂部口唇部には二条以上のヘラ押圧文がある。79は口縁端近くの内面がくの字状に強く折れる波状口縁の器形で，外面に横線がみられる。

81～88は鋸歯状の直線凹線がみられるものである。81は口縁直径が25.8cmあり，口縁端が尖る土器である。内外ともヘラナデで仕上げ，外面には細いヘラの短絡線で，鋸歯状，だ円形状の文様を施している。82は細い作りの波状口縁で，二条の横あるいは斜方向の短絡線で鋸歯状とする。83は内外に凹線があるが，外面が背中合わせの二条となる鋸歯状凹線，内面が横方向凹線である。口唇部にヘラの押圧文がある。84はやや内反する波状口縁の土器で，外面に二条の鋸歯状文，だ円形文などがみられる。85も波状口縁で，外面に二条の深い鋸歯状凹線文がみられる。86も鋸歯状文と横凹線文がみられる。87は丸みをおびた口縁直径30cmの土器で，左向き二段のやや丸みをおびた鋸歯状文が繰り返され，その上に横線がみられる。88は外反する土器で，外面に二条の凹線と，その下に菱形状凹線・右下がり斜凹線文がみられその上に横線がみられる。

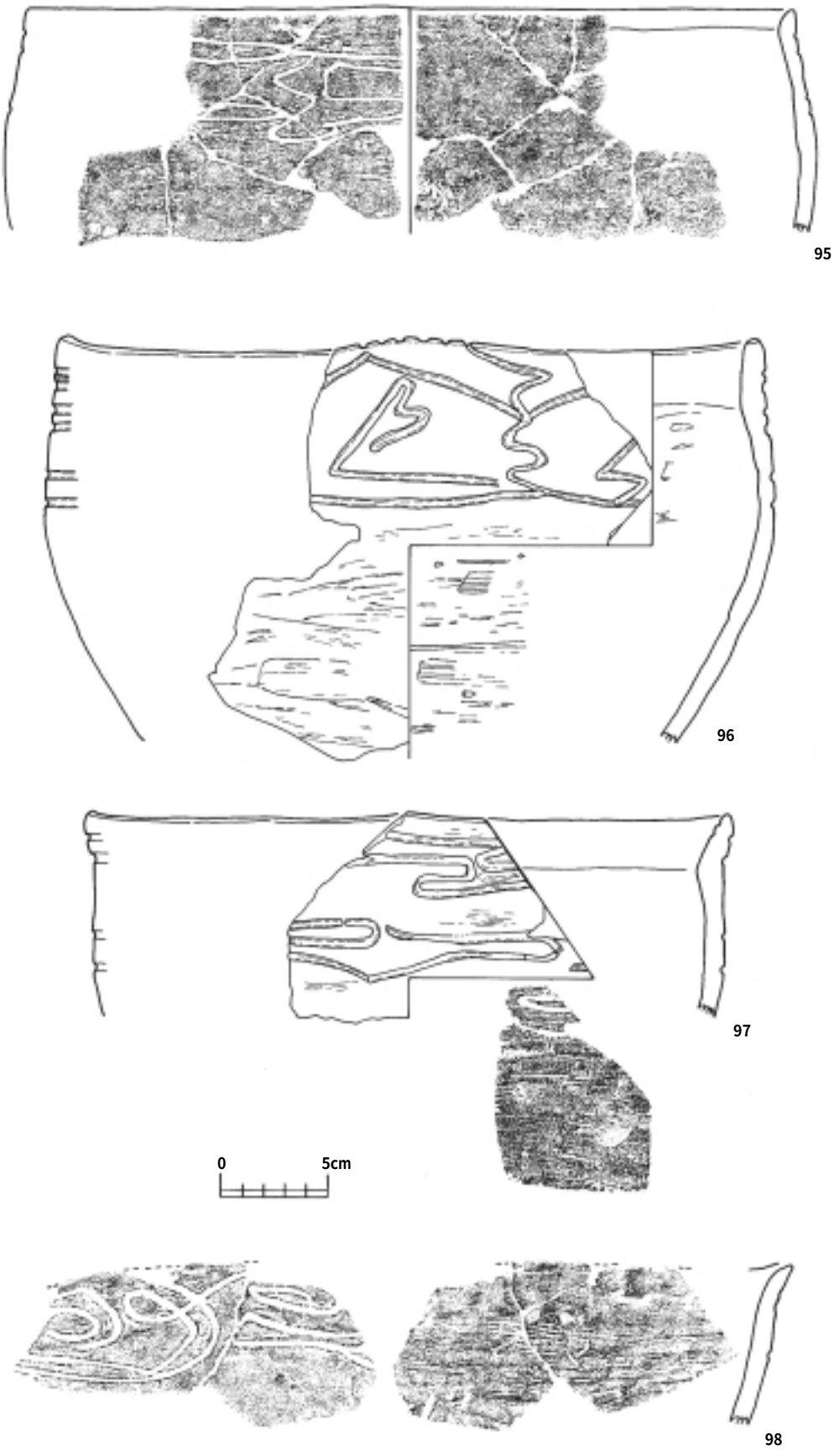
89～105はだ円形状の文様がある。89は口縁直径が18cmしかない小型の波状口縁の土器で，四か所に台形の突起がある。突起部は薄くなっているが，ここに円盤状貼付けがあり，断面は内外へ突出してタツノオトシゴのような形状を呈している。外面は二条一組の凹線で，だ円形状あるいは平行線文が描かれており，突起部は弧状凹線が向かいあっている。突起部は内面にも，外面と同様の文様がある。90は直径22.5cmの波状口縁となる土器だが，四か所の突起と，その中間に低い山状突起がある。大きな突起部の口唇部から口縁内外面にかけては五条のヘラ押圧文がみられる。口縁部近くでくの字状に外反し，先端は尖っているが，突起部はやや幅広い。外面にはだ円形あるいは菱形様の凹線文がみられる。91は口縁直径が29cmある内弯する深鉢で，口縁端が内側へ下がり，外面は凹線による曲線文様が描かれている。92は矩形突起のある波状口縁の土器で，突起部には二枚貝腹縁の縦方向押圧文がみられる。外面にはＬ字状，斜方向，横方向，だ円形状の凹線文がみられる。内面調整は粗い横方向の貝殻条痕である。93は口縁直径25.5cmの波状口縁となる土器で，頂部の口唇部には五か所のヘラ押圧文がみられる。外面はだ円状あるいは菱形の凹線文がみられる。器形・文様など90に似ている。94は口縁端近くでくの字状に外反する器形で，波状口縁となる。この頂部では外面に幅の狭いだ円形文，内面に矩形状の文様があり，口縁端内側には４か所のヘラ押圧文がある。95は口縁直径が36cmの内反する土器で，内面の口縁端近くにゆるやかな段をもつ。外面の凹線は細く，だ円形・鋸歯状・矩形などに描かれている。96は内面の口縁端近くでくの字状に強く屈曲する丸みをおびた口縁直径30cmの土器で，低い波状口縁である。曲線文と矩形文などが外面にみられるが，頂部内面にもだ円状の凹線文がみられる。97は口縁直径が32.6cmと大きく，丸みをおびた胴部から内反ぎみに口縁へ至る。内面はケズリに近い粗いヘラナデだが，口縁端近くはていねいなヘラナデになる。外面は鋸歯状の曲線文がみられ，突起部は６段のヘラ押圧文がみられる。98の口縁端は外反して細くなっておわる。凹線で自由に曲線文を描いている。99は胴上半部で，外面には細いわらび手文などの曲線が描かれ，上部は積み上げ痕で剥離している。100・102は口縁端が細くなる波状口縁の土器で，外面に二条の平行曲線文がある。101は分厚い作りの土器で，二条の曲線文が二段にある。103～105は開きながらまっすぐ伸びるものと，内反ぎみのものとがあり，いずれも波状口縁である。



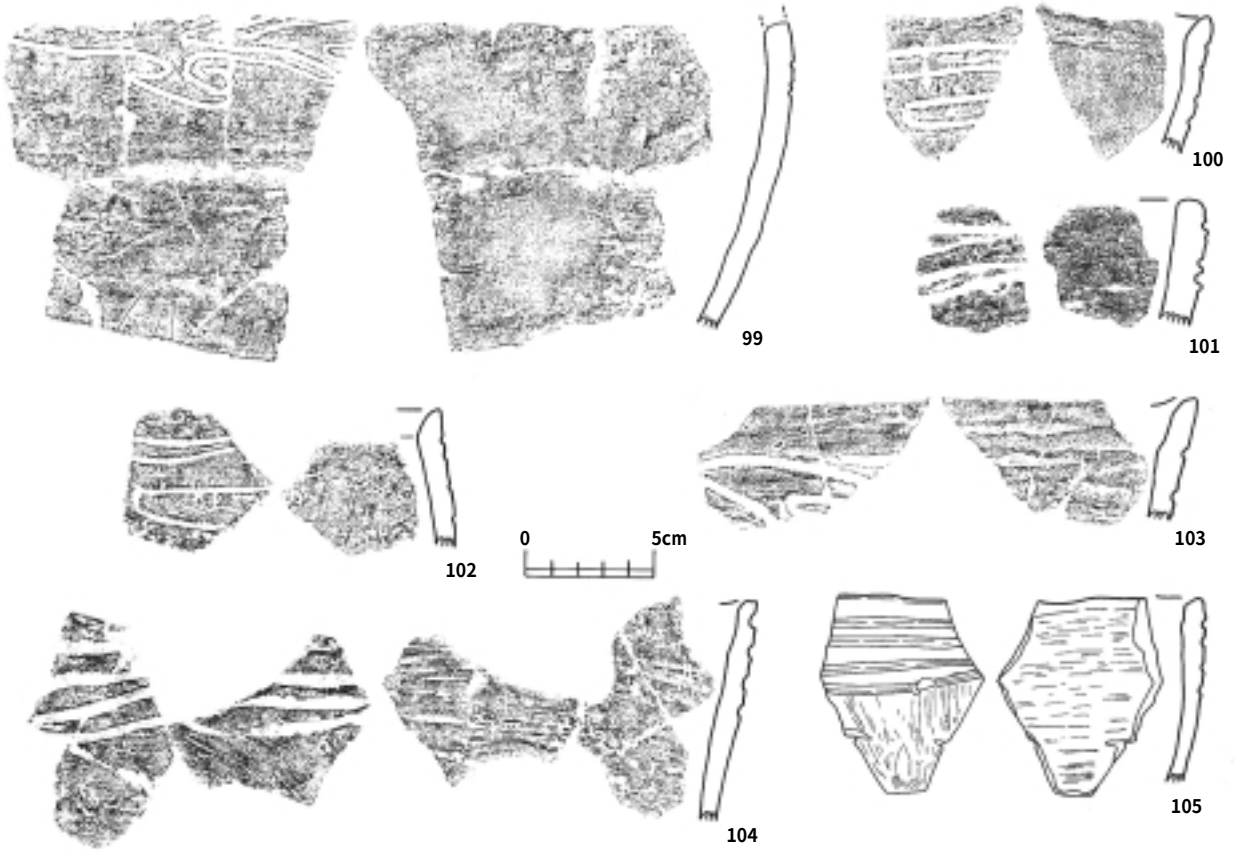

**第18図　縄文土器（9）**




**第19図　縄文土器（10）**




**第20図　縄文土器（11）**

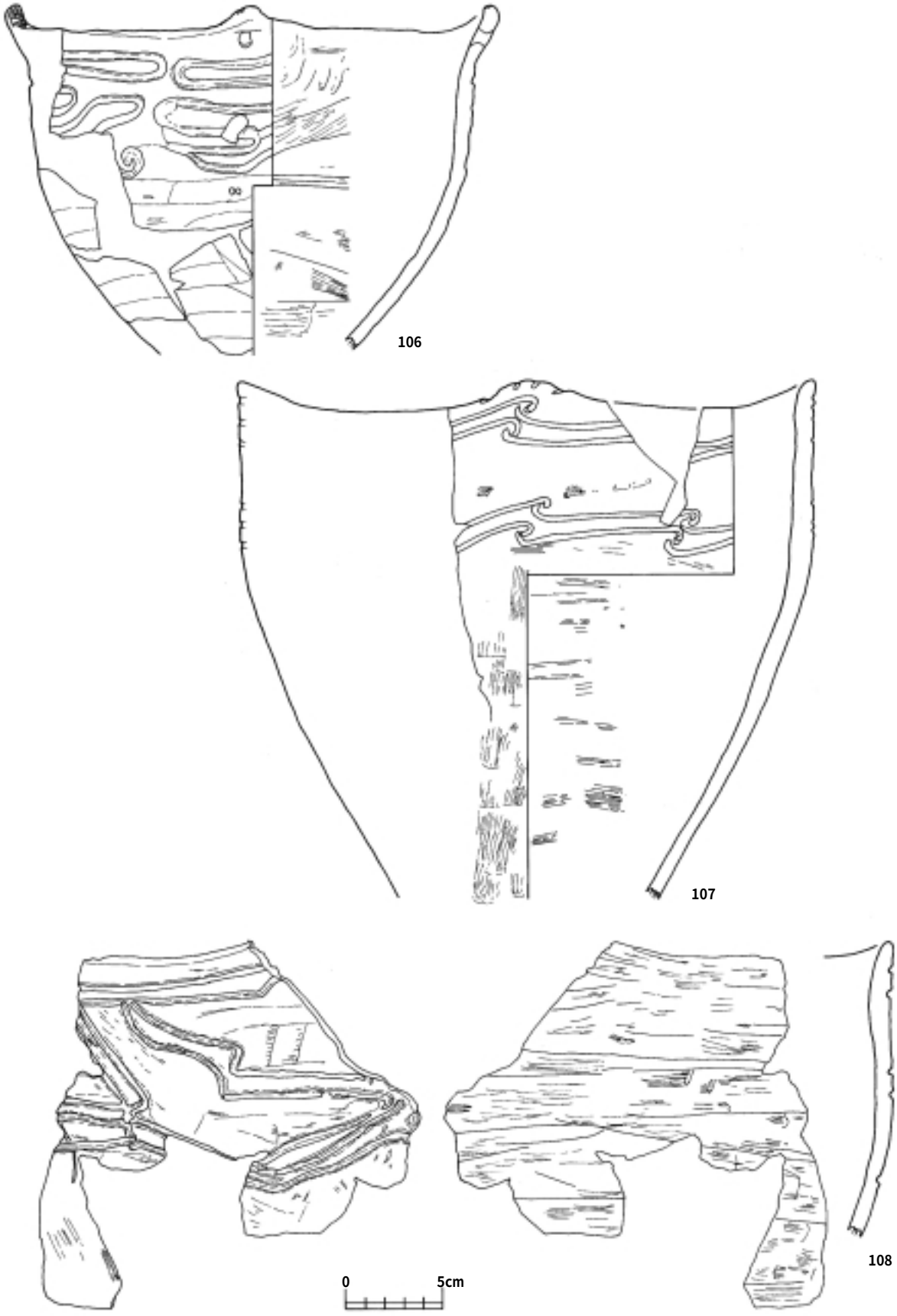



**第21図　縄文土器（12）**

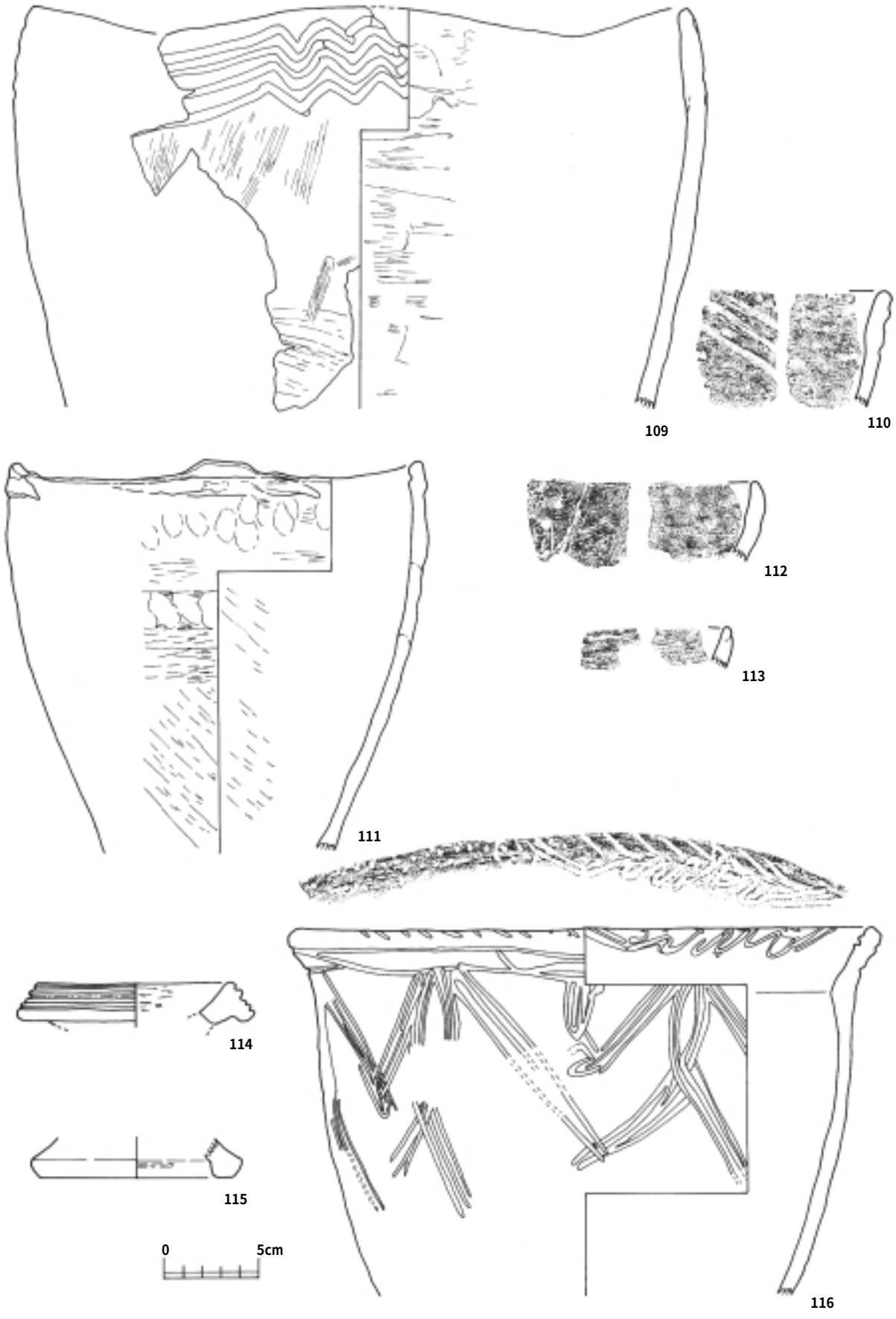
106～110も有文の深鉢である。106は口縁直径が25.5cmあり，４か所に山形突起のある土器である。胴部は丸みをおび，口縁部で外反する器形をし，突起部の口唇部には細いヘラ刺突文があり，その下には円孔がみられる。外面はミガキ風の粗いヘラナデあるいはヘラケズリで調整し，内面は貝殻条痕後ヘラナデで仕上げている。外面の上部には二条一組の曲線文がみられる。凹線下一か所には二個の刺突状くぼみがある。107は口縁直径が29.5cm，高さが27cm以上の高い深鉢で，四か所に山形突起のある波状口縁となる。頂部には五か所に短いヘラ押圧文がある。外面の上部には二段に渡って二条一組の右向きわらび手文がみられる。108も大型の土器で波状口縁となる。外面には二条一組の曲線状凹線文がみられるが，生がわきの状態で引いているために凹線の周辺が高く盛り上がっている。109はゆるやかに波状口縁となる，口縁直径が35cmの深鉢で，口縁が内反ぎみとなる深鉢である。外面には四条の平行する凹線があるが，頂部では鋸歯状を呈する。途切れ途切れに凹線を引き，凹線のあとヘラナデをしているために，凹線は浅くなっている。110も三条の平行する斜方向凹線文がある。

111～113は口縁部が内反する器形を呈し，無文の土器である。111は直径が21.5cmで，四か所に台形状の突起がみられる。外面は上半部が指頭・ヘラナデで，下部が斜め，あるいは横方向のヘラケズリで仕上げている。112・113はともに内外ともヘラナデで，外面は特にていねいにナデている。

116は丸みをおびた胴部で，口縁近くで強く外反する器形を呈している。口縁直径が30cmあり，四か所に低い波状の高まりがある。外面は右下がりの刻み文と，三条の細い凹線文からなるが，刻み文は一部だけで，一周していない。胴部にある三条の凹線文は鋸歯状文・交叉文・横線文などからなる。内面の口縁部から口唇部にかけては波状となる短絡線がみられる。口唇部にはヘラ刻み目




**第22図　縄文土器（13）**

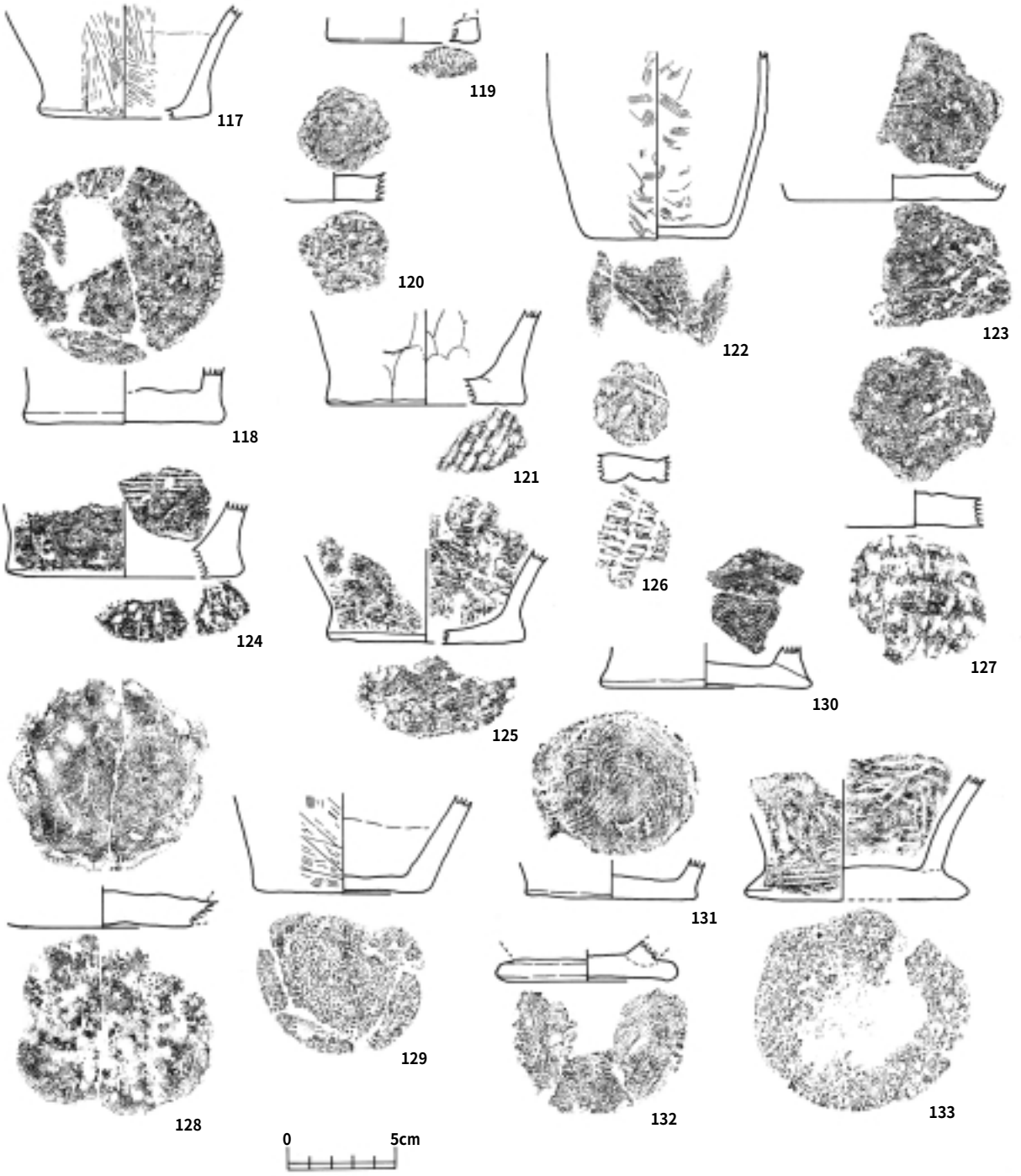



**第23図　縄文土器（14）**

文と二段のヘラ刺突文がみられる。

117～133は底部であるが，胴部から少しふくらむか，まっすぐ底に移るもの（117～131）と，大きく外へ張り出すもの（132・133）とがある。117・120・131は底をていねいにヘラでナデて仕上げるもので，底の直径は８cmある。117は底近くの内面を深くケズって薄くし，胴下部内面の一部には段もある。120は小さい底で，外面には白い粉が付いている。周辺は指でナデている可能性がある。131の内面は貝殻条痕のあとヘラナデで仕上げている。

118・128は鯨骨を敷いて作っているものである。118は直径が9.3cmで，ややふくらんで直に近く




**第24図　縄文土器（15）**

立ち上がっている。周辺に痕跡が良く残っている。128は中央に残っている。119は直径が７cmと小さく，底を貝殻条痕で仕上げ，ややあげ底となっている。底と胴部は貼り付けて仕上げている。

121・123～127・130は網代底である。121は直径が9.3cmで，底の作りは円盤状のものに，胴部を乗せている。123は丸みをもって立ち上がる器形で，ヘラでナデて仕上げている。125は直径9.2cmで，ややくぼんで立ち上がる。薄い作りである。126は網代痕跡が深く残っており，周辺は薄くなっている。127は内面に細いヘラの刺突痕があり，外面には白粉が付いている。130は外へ強く張り出しており，内面は貝殻条痕仕上げである。

122・129は外面に繊維状圧痕のあるものである。122は底径が7cmほどで，丸みをもって立ち上がる筒状を呈する薄い作りの小型深鉢である。内面はていねいなヘラ横ナデ，外面は横あるいは斜方向のヘラナデで仕上げ，底に繊維状圧痕がみられる。129は直径８cmで，丸みをもって立ち上がる。ややいびつな作りで，底は円盤状に作り，そこに胴部を積み上げている。底はでこぼこしている。周辺はヘラナデで仕上げているが，内側に布目と思われる圧痕が付着している

132・133は円盤状底部のやや内側に胴部を貼り付けているため，底が外側へ張り出しているものである。132は直径が8.4cmあり，ていねいなヘラナデ仕上げだが，ややあげ底となっている。133は直径が10.4cmと大きいが，胴部は薄い。内外とも幅広の貝殻条痕のあとヘラナデで仕上げているが，底に繊維状圧痕が残っている。

114・115は小型の台付皿である。皿部は口縁直径が10cmあり，外下がりの口縁部で，肥厚した口唇部に四条の凹線があり，凹線内には丹が塗られている。内面はヘラケズリで仕上げ，皿部には穿孔がある。台部は畳付部近くが分厚くなっており，畳付部には白粉が付着している。台の直径は10cmである。火山ガラス・黄白色石・茶色石などの小石を含む砂質土を用いている。

⑫12類（第25図　134～138，後期：松山式土器）

口縁部が肥厚し，そこに凹線の施される土器である。17・18区周辺で出土している。

134は口縁直径が19cmあり，丸みをおびた胴部からやや外反して口縁端部へ向かっている。口縁端はやや欠けているが，短く肥厚して２条の平行凹線が施されている。内面はヘラケズリ，外面は横方向のヘラナデで仕上げている。135と137は内面に段があり，135は肥厚部に三条の横方向凹線と三条の左下がり斜方向凹線が施され，137は二条の横と右下がり斜方向凹線が施されている。136は外面に段をもつ肥厚した口縁部で，波状となり，肥厚部には二枚貝腹縁による押圧文がみられる。135～137は内外とも貝殻条痕で仕上げているが，135の内面下部はヘラナデ仕上げである。138は分厚い突起部分で、肥厚部外面に三条のカーブする平行凹線があり、突起部には縦方向凹線が見られる。口唇部には一条の横方向短絡線があり，突起部には三条の縦凹線がある。突起部には外面から内面に向かって二か所に突き刺し孔がある。

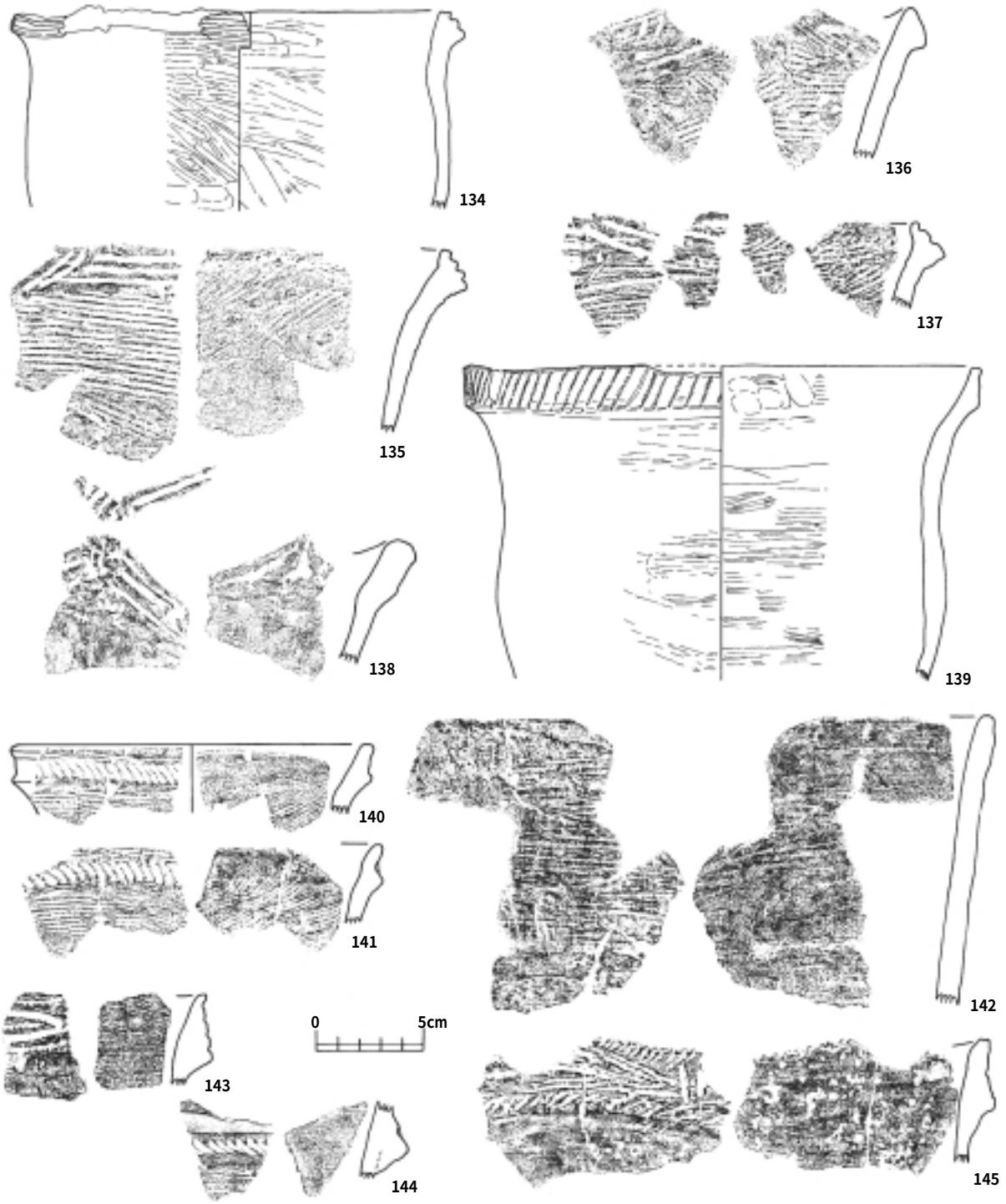
⑬13類（第25図～第28図　139～168，後期：市来式土器）

口縁部が幅広く肥厚し，そこに凹線文様・押圧文等のみられる縁帯文土器である。

139は口縁直径が24cmあり，外反し，端近くで直立する口縁部と丸みをおびた胴部から成る。縁帯部にはていねいなナデ整形のあと二枚貝腹縁によって左下がりの押圧文が施される。140～142は口縁端近くの縁帯部が短いもので，140と141の縁帯部にはヘラ押圧文がみられる。140・142の口唇部はヘラミガキである。140は口縁直径が17cmと小型である。140は肥厚度が弱い。143～145は幅広の縁帯にヘラや二枚貝腹縁による文様がみられる。143は上下に二枚貝腹縁による横方向の押圧文

があり，その間にはヘラのだ円形凹線文に囲まれた二枚貝押圧文がみられる。144は上部を欠いているが，下に右下がりヘラ押圧文，中央に太いヘラ凹線がみられる。145は上下にヘラや二枚貝腹縁による押圧文があり，その間にはヘラによる横凹線と二条の縦方向ヘラ押圧文がくり返される。

146～150は上下に斜め方向のヘラ押圧文があり，その間に凹線のある幅広の縁帯文土器である。146は口縁直径が22cmと小さく，口縁が直に近く立ち上がっている。147は上下にこまかい押圧文が




**第25図　縄文土器（16）**

あり，中央は2列2段の深いヘラ押圧と2条の太い横方向ヘラ凹線が繰り返される。148は波状口縁で，ヘラ押圧間の中央にはヘラ凹線がある。150も同様だが，細い作りで中央には縦方向のヘラ押圧文があり，突起部の内側には斜方向のヘラ押圧文がみられる。151と153・155は上下にヘラの斜方向押圧文があり，その間に二枚貝腹縁の押圧がみられる。151の口縁直径は31cmあり，口縁部の外反度は弱い。内外面とも貝殻条痕のあと，ヘラでナデられている。152は口縁上部を欠いているが，貼付によって肥厚した部分に二段以上のヘラ押圧文がみられる。153は薄手の作りだが大型である。154は口縁直径が27cmあり，縁帯部にはヘラによる斜方向押圧文がみられる。155の外面はヘラ押圧文と貝殻腹縁押圧文がある。156は直径の大きい大型土器で，内外とも貝殻条痕で仕上げている。157は小さな波状口縁で，上にヘラ押圧文，その下にヘラ凹線文がみられる。158は薄い作りの深鉢で，口縁上部と，口縁端から口唇部にかけて突帯を貼り付けて肥厚帯を作っている。口縁外面の上下に左下がりのヘラ押圧文があり，その間にはヘラによる横あるいは縦方向の凹線文がみられる。159は口縁端を欠いており，下部にヘラの押圧文がみられる。160は口縁直径が18cmと小型で，浅めの深鉢である。口縁部はでこぼこしており，肥厚部外面は上下にこまかいヘラ押圧文があり，その間に一条のヘラによる凹線が横方向に回っている。内外とも貝殻条痕で仕上げているが，外面の胴部上半は指頭圧痕のあと，ヘラナデ仕上げをしている。

161・162は文様が縁帯部だけでなく，胴部まで達しているものである。161は口縁上部を欠いているが，口縁部と胴部に右下がりの二枚貝腹縁による押圧文が二段以上に施されている。162は口縁直径23.5cm，底部直径9cm，高さ26.5cmの四か所に突起のある波状口縁となる完形品である。安定した平底からふくらみをもった胴中央部へ立ち上がり，頸部でくびれ，外反しながら肥厚口縁へ至る。平坦となった口縁部は剥離が目立つが，縦方向の二枚貝腹縁の押圧が並び，頸部の上にも二枚貝腹縁の押圧文がみられる。頸部の押圧文は部分的に途切れている。底はヘラナデで仕上げているが，白粉が付着している。内外とも横方向のヘラナデ仕上げだが，粗いため，でこぼこしている。

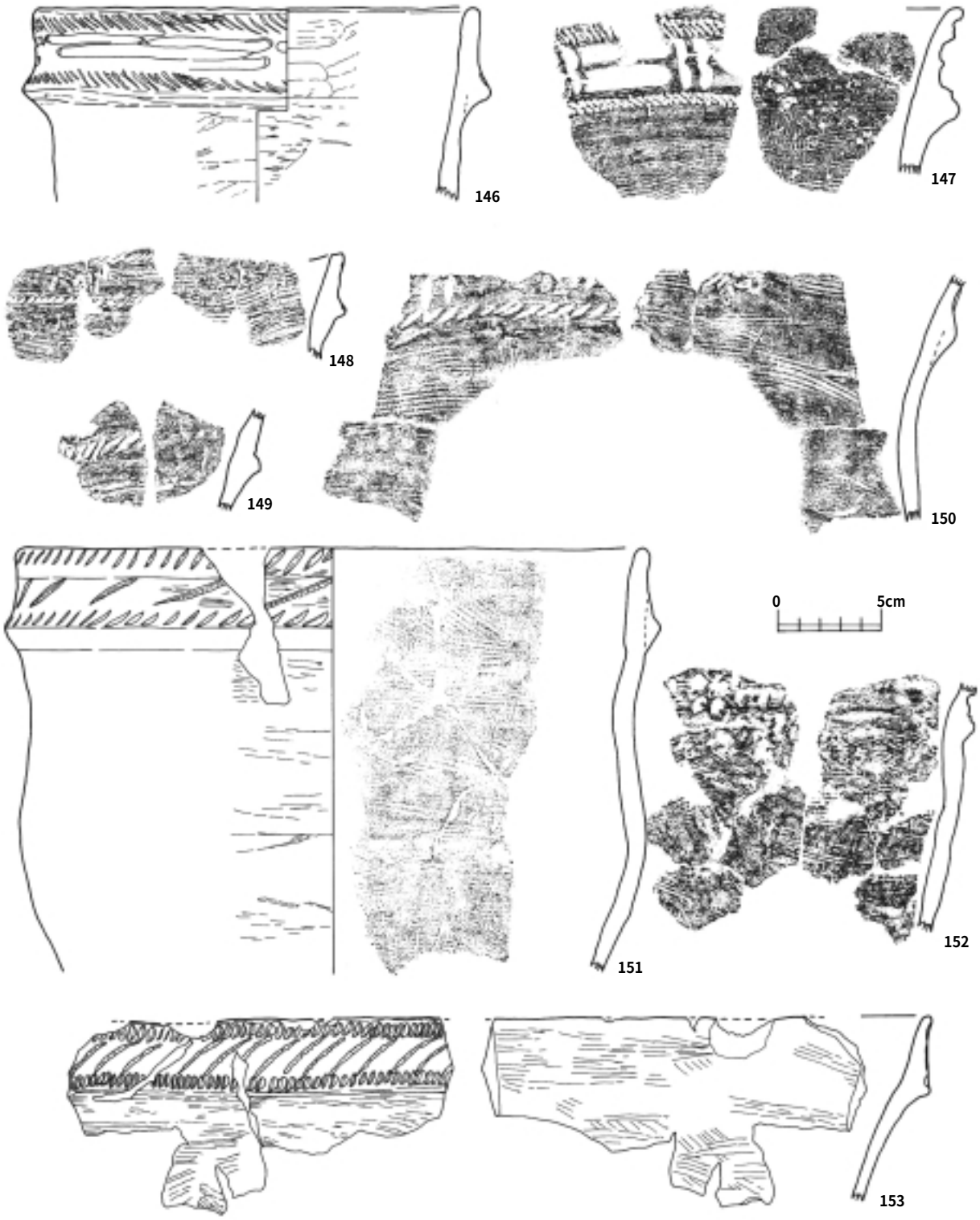
163～166は13類だが口縁部が肥厚しない土器である。163は口縁直径18cm，底部直径8.5cm，高さ17.5cmのやや波状となっている完形品である。ややあげ底となる底部からほぼまっすぐ開きながら口縁へ伸び，端部はとがっている。積み上げ痕跡がよく残っており，外面は縦方向，内面は横方向の粗いヘラナデ仕上げである。底も粗いヘラナデで白粉が付着している。C15・16区を中心に出土している。164は四か所に突起のある波状口縁の土器で，内外とも粗いヘラナデ調整である。165は波状口縁の突起部で，口唇部に三条のヘラ押圧文がみられる。166は肥厚が少ない口縁で，口縁上部を欠いているが，三条の横方向ヘラ凹線と，下の凹線間に二枚貝腹縁の押圧文がみられる。薄い作りである。

167は台付皿の坏部で，四か所に稜が想定される。稜部分の内面には四条のヘラ沈線があり，口唇部にヘラキザミがみられる。内外とも横方向のヘラナデで仕上げているが，内面は剥脱が目立つ。

168は胴部最大径が9cmしかない薄くて小型の深鉢胴部で，内外ともこまかく貝殻条痕で仕上げているが，外面は条痕のあとヘラでナデている。薄い作りである。

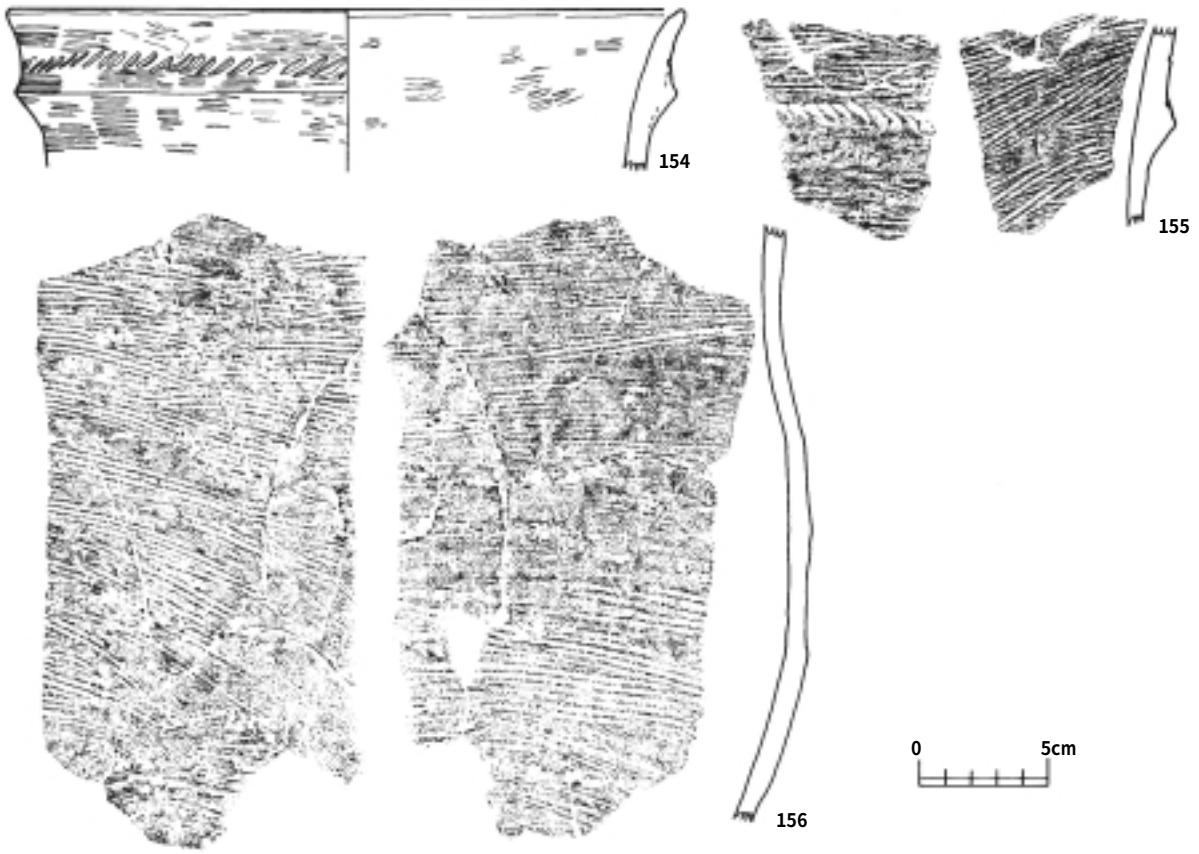
⑭14類（第29図　170・171，後期：北久根山式土器）

胴部から外反し，口縁端近くが内反ぎみに直立する土器で，直立する口縁端部に凹線が引かれる。170は口縁直径が28cmで，口唇部は平らとなる。内外ともていねいなヘラ様横ナデで仕上げているが，外面は口縁部に三条の沈線があり，その間にヘラ刺突文がある。口縁端には細かいヘラ押圧文




**第26図　縄文土器（17）**

がみられる。頸部には二条のヘラ沈線とヘラ刺突文がある。171も同じような器形をしており，同一個体の可能性がある。口縁には三条の沈線とヘラ刺突文がある。頸部にはヘラ沈線とヘラ刺突文があり，その下に横長だ円文風のものがみられる。Ｂ12区で出土している。




**第27図　縄文土器（18）**

⑮15類（第29図　172，後期：西平式土器）

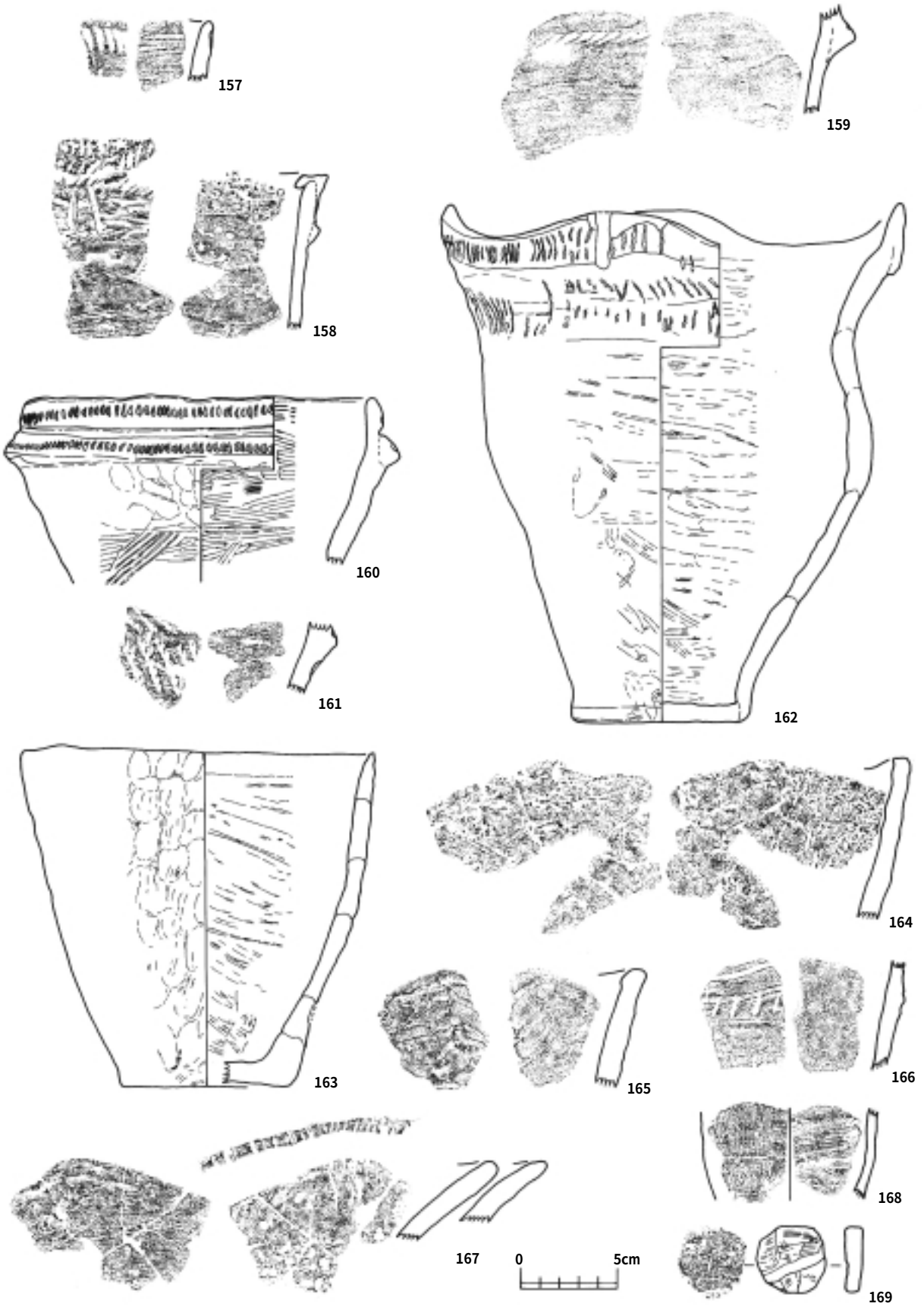
底径が４㎝ある小さなあげ底の深鉢である。底の中央は分厚く，立ち上がり部分は深くくぼんでいる。内外面ともヘラナデだが，外面は特にていねいである。茶褐色を呈し，焼成は良い。火山ガラス・白色石などのこまかい石を含んでいる。Ｂ８区で出土している。

⑯16類（第29図　173～179，後期：丸尾式土器）

外反する口縁部に二枚貝押圧文，ヘラ押圧文，ヘラ凹線文などの描かれている土器である。胎土が白色石・茶色石・火山ガラス・金雲母など３～４㎜大の細石を多く含む粗砂土であるという特徴もある。173と174は同一個体の可能性があるが，外面の口縁下部は肥厚させている。上部に左下がりの二枚貝押圧文があり，その下にはヘラによる三条の横短絡線と三条の右下がり斜め沈線がある。さらにその下には二枚貝腹縁による鋸歯状押圧文が施されている。175・176はやや薄い作りで，波状口縁となる。口縁部に斜方向の押圧文が施されるが，175はヘラ，176は二枚貝腹縁による押圧で，突起部ではともに二段になっている。176は外面にスス，内面にコゲが付着している。178・179も波状口縁で，ともに右下がりの二枚貝押圧文がみられるが，突起部では二段になる。179は突起部で，外面の口縁端部に浅い凹線がみられる。177は安定した平底で，立ち上がり部は丸みをおびている。底はていねいなヘラナデで剥脱が目立つ。

⑰17類（第29図　180～182，晩期：黒川式土器）

浅鉢と深鉢がある。180は丸底から胴部で内側へ屈曲し，頸部で強く外反している浅鉢である。肩部は短く，屈曲部はともに丸みをおびている。胴部に比べて，口縁部はやや分厚い。内外とも横

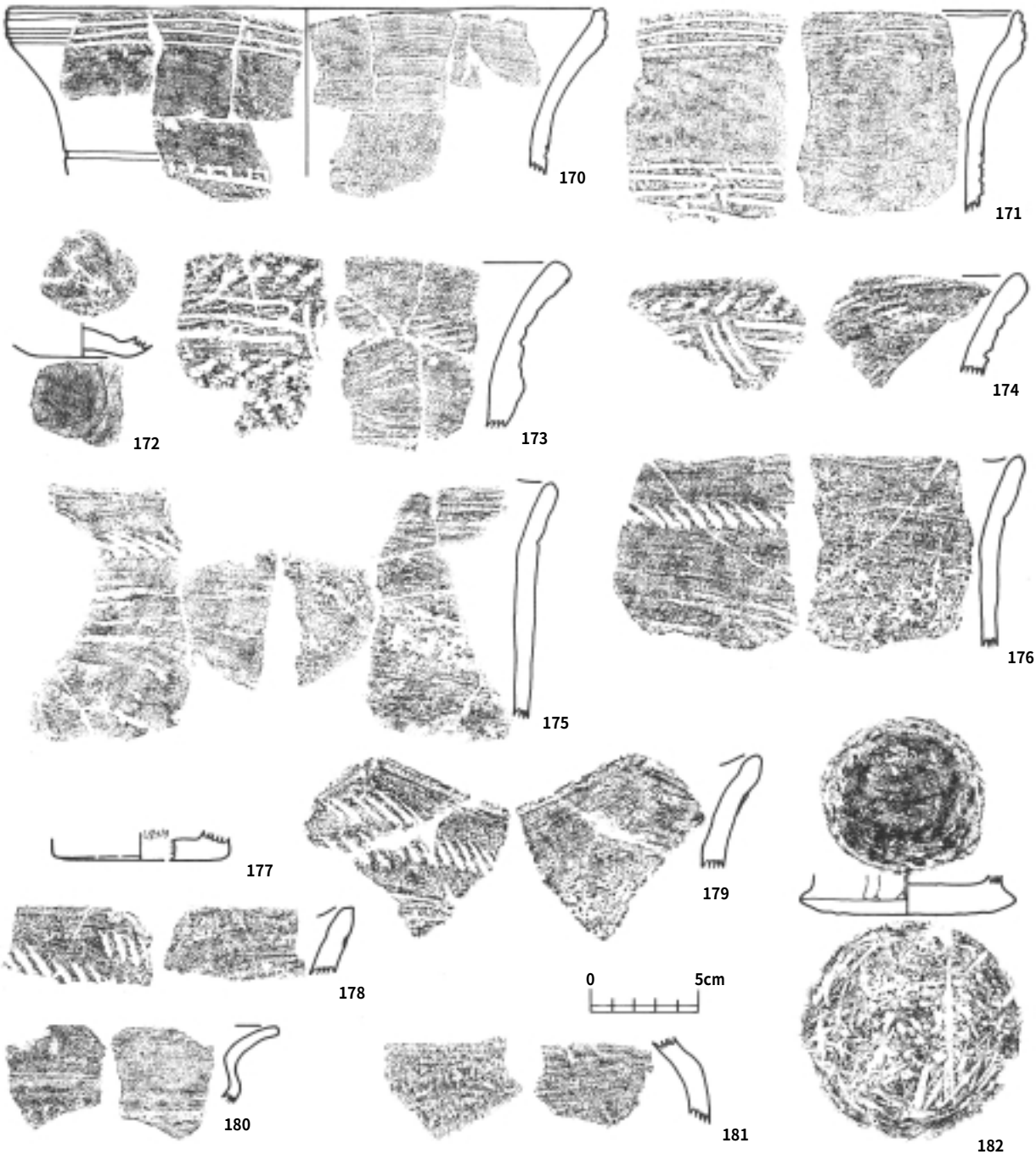



**第28図　縄文土器（19）**

方向のヘラナデだが，内面のナデはていねいである。火山ガラス・黄白色石などの細石を含むこまかい土を用いて，茶褐色を呈した土器である。181は深鉢の肩部で，ゆるやかに曲がっている。内外ともヘラナデだが，外面はていねいである。182は深鉢の底部で，直径は10cmある。底の立ち上がり部分は外へ張り出し，外面には籠状をした敷き物の圧痕がみられる。内外ともヘラナデで仕上げている。深鉢は黄色っぽい明茶褐色を呈している。

2）土製品（第28図　169）

破損した土器片を打ち欠いて略円形にした円盤形土製品である。直径が3.5cm，厚さが0.9cmある。内外ともヘラナデで仕上げた市来式土器深鉢の破片を利用している。




**第29図　縄文土器（20）**

3）石器

多種の石器がⅠ層あるいはⅡ層から出土しているが，これらの石器を分層して扱うことは不可能なため，時期設定は困難であり，ここでは縄文時代の石器として取り上げるが，弥生時代以降のものが含まれている可能性もある。石器の種類には打製石鏃・石錐・石匙・スクレイパー・石槍・ピエスエスキーユ・磨製石斧・打製石斧・磨石・敲石・くぼみ石・石皿等があり，この他に接合資料・石核・剥片がある。

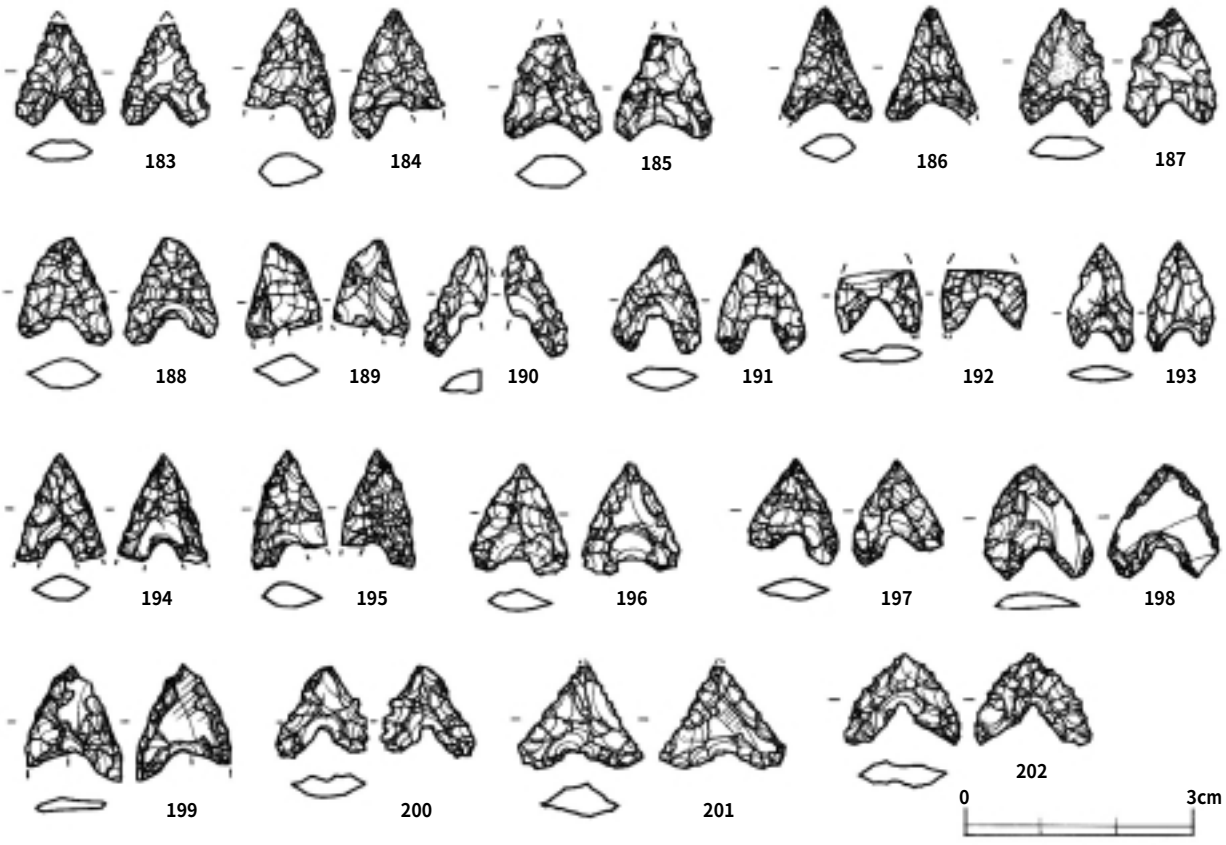
①打製石鏃（第30図～第32図　183～259）

77点の打製石鏃が出土している。大きさ・全体の形状・基部の形態などから7種に分けた。Ⅰ類～Ⅵ類がえぐりのあるもの，Ⅶ類が基部が平らなものである。

Ⅰ類（183～202）は長さが1.5cm前後の小型鏃である。いずれも基部は浅いえぐりがある。基部が中心軸に対し直交するもの（195・196）や，するどく尖がるもの（192・198・199）がある。全体形は二等辺三角形のものが多いが，200～202は正三角形に近い。198や199のように表裏面に大剥離面を残しているものもあるが，多くはこまかい剥離を施している。202はえぐりが深くて，鋤先状を呈している。

Ⅱ類（203～205）は二等辺三角形をし，縁辺が丸みをもったものである。203は先端を欠いているが，基部は両側とも鋭くとがっている。204は浅いえぐりがあり，内外とも大剥離面を残している。205は先端がとがって七角形を呈している。

Ⅲ類（206・207）は先端が鋭くとがる二等辺三角形をしている。206は片脚を欠いているが細長く，先端の加工は雑である。207は先端が鋭く，片面に大剥離面を残している。基部はどっしり




**第30図　石器（1）打製石鏃**

した作りで，五角形を呈している。

Ⅳ類（208～215）は正三角形をしているもので，いずれもえぐりがあるが，浅いものと深いもの，直線的なものと丸みをもったものなどがある。208・209は基部端外側がやや直になっている。212は両面とも大剥離面を残し，周辺のみを調整しており，えぐり部は浅い。213は両脚が欠けているが，丸みをもったえぐりである。214は先端・基部とも尖がっているが，丸みをもった作りである。215は片脚を欠いているが，基部が直となる鍬形鏃である。

Ⅴ類（216～245）は二等辺三角形をしたもので，いずれもえぐりがある。ほぼ2㎝前後だが，幅の狭いものと広いもの，基部が直となったものと丸みをもったものなどがある。216～221はていねいな作りで基部端は丸い。222の角はいずれもするどい。223～234は細い二等辺三角形をしたもので，先端は鋭いものが多く，227は表裏とも大剥離面を残している。230は幅が広く，基部近くで外へ張り出している。231～233はえぐりの浅い，深いはあるが，先端・基部端とも鋭い。235～237は側縁が丸みをもっており，236は表裏面とも大剥離面を残している。238・239は剥片を利用して，片面は大剥離面を広く残しているため側縁はでこぼこしている。241～245は基部や半面などが欠けているが，調整はていねいである。

Ⅵ類（246～254）は長さが2.5㎝以上ある大型の鏃である。基部は246～251が丸く，252～254は直になっている。基部端は矩形となるものと，尖がるものとがある。

Ⅶ類（255～259）は基部が平らなものである。255～258は二等辺三角形をしており，255・256は先端が，258は基部の一部が欠けている。256の片面は大剥離面を広く残しているが，他は両面ともていねいに打ち欠いている。259は正三角形に近く，やや基部がくぼんでいる。周辺からていねいに打ち欠いているが，中央部は一次剥離面を残している。

②石錐（第33図　260～263）

逆三角形状を呈するものと菱形状を呈するものがあり，いずれも分厚い。260・261は小さい錐部を呈するものである。262はほとんど加工していない石核状の石材を用い，錐部は小さい。263は長い剥片の周辺をていねいに加工し，縦軸先端を錐部にしている。

③石匙（第33図　264～277）

横長のもの（Ⅰ類～Ⅲ類）と縦長のもの（Ⅳ類）の14点が出土している。横長のものは，普通のもののほかに刃部の幅が狭いもの，長さが短いものなど3種に分かれる。

Ⅰ類（264～273）の刃部は丸く外弯し，全体的にだ円形となる。いずれも周辺からていねいに打ち欠きがされ，つまみはほぼ中心にあるが，いくらか片寄ったものもある。刃部とつまみの間はえぐりの深いものが多いが，272・273などはえぐりがなく，まっすぐ伸びている。

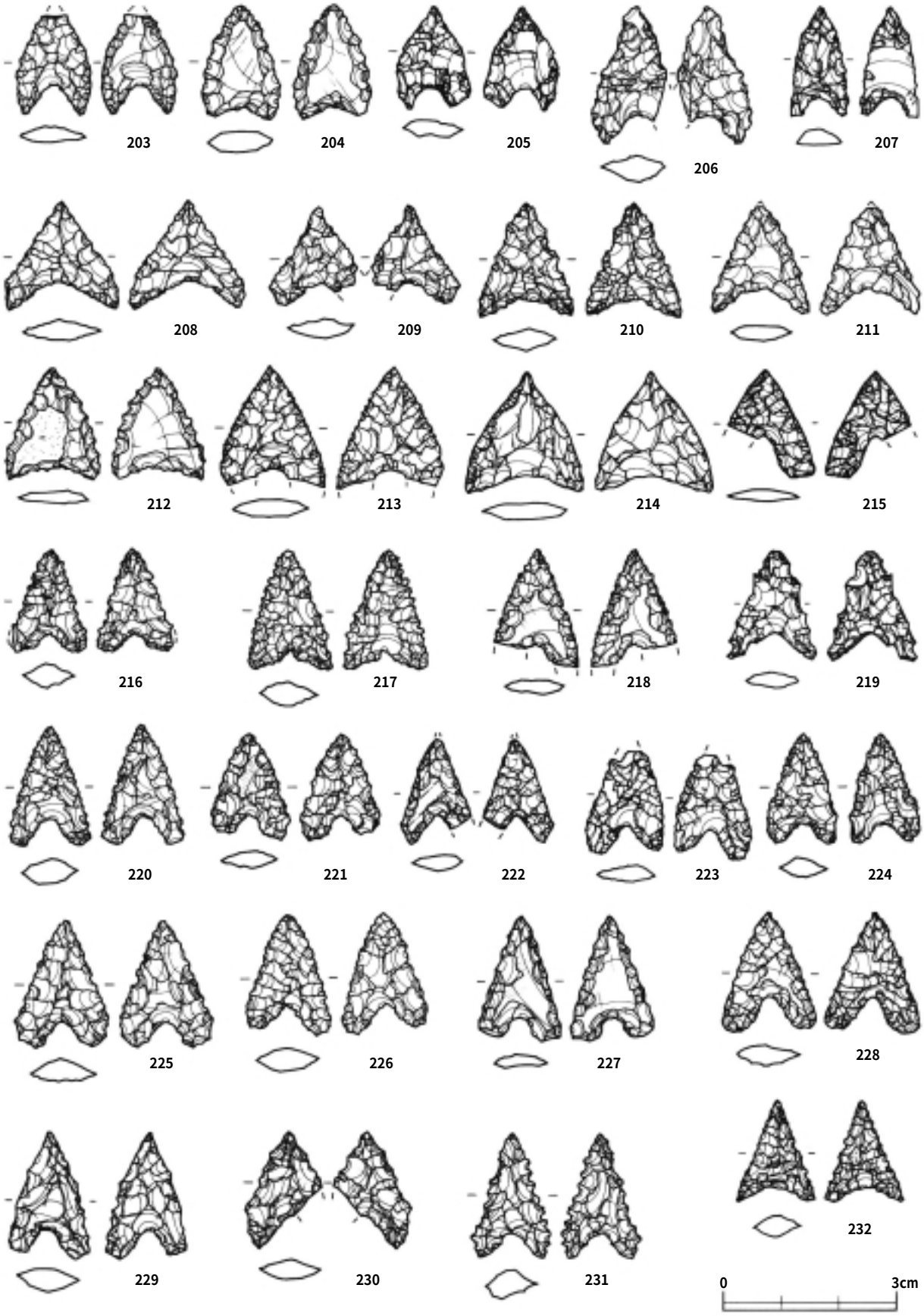
Ⅱ類（274）は刃部の長さ・幅とも狭く，つまみとその大きさは変わらない。分厚い作りである。

Ⅲ類（276・277)は刃部の幅が狭いもので，刃部は外反している。

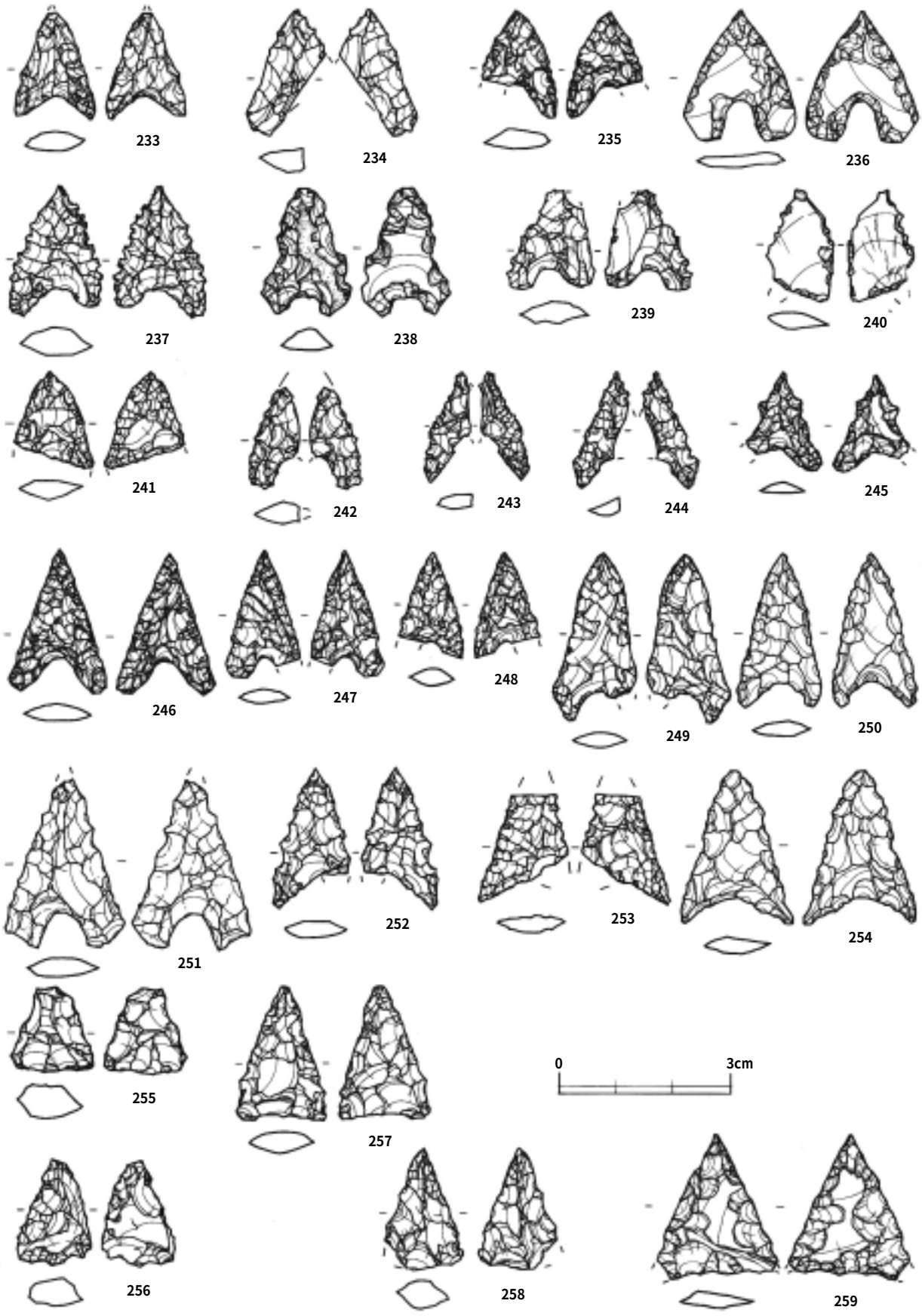
Ⅳ類（275）は横長剥片を用いた縦長のもので，表裏とも縁辺のみを加工し大剥離面を残している。刃部とつまみの境はえぐりとなる。主軸はやや傾いている。

④スクレイパー（第35図　278・279）

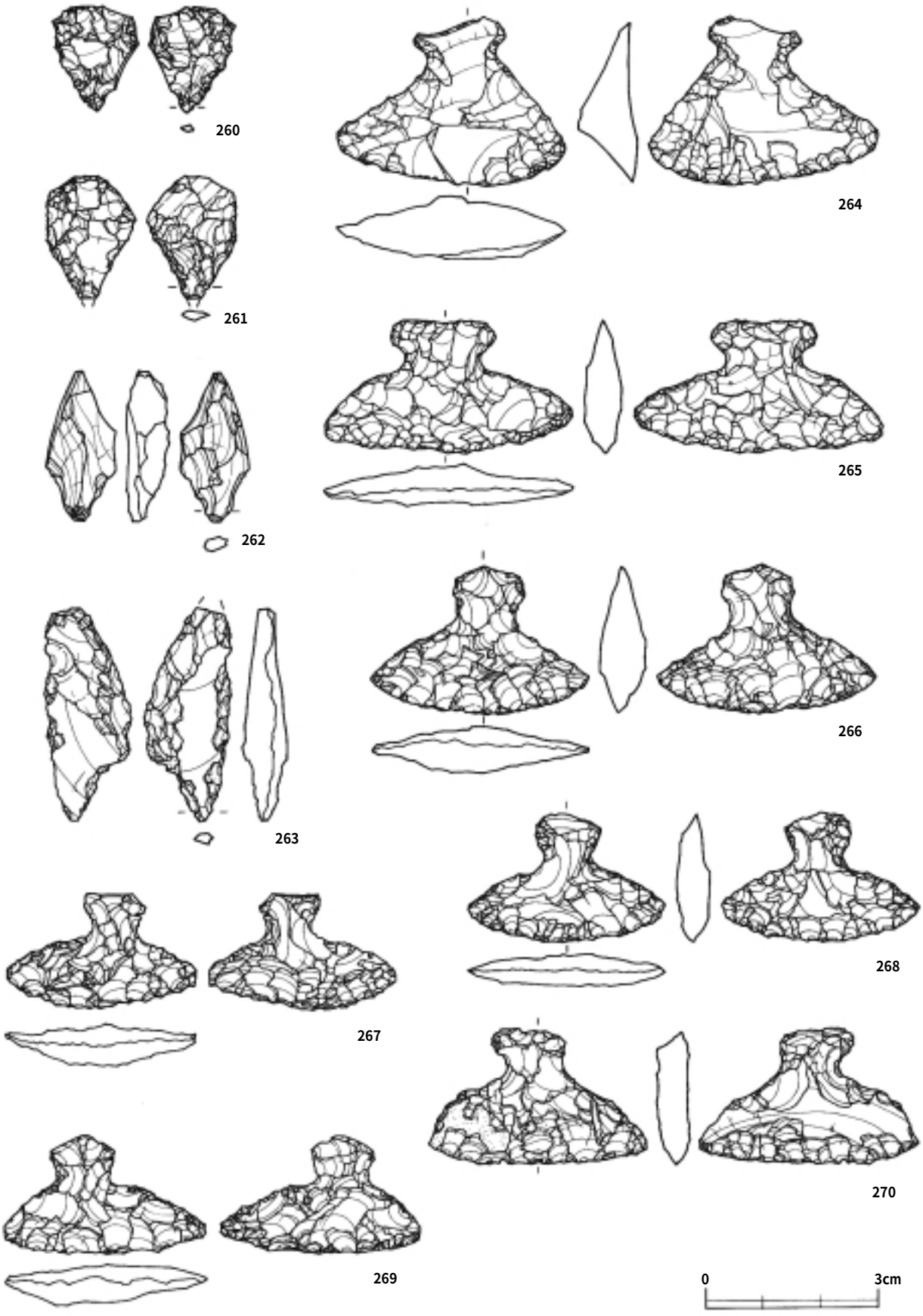
278は横長の縦剥ぎ剥片長軸の片方に両面から加工して刃部としたサイドスクレイパーで，片面には広く大剥離面を残している。短軸の一方には自然面を残し，片方には形状調整の加工をしている。279は半円形の分厚い剥片の周辺を両面からこまかく打ち欠いている，分厚い作りのラウンド



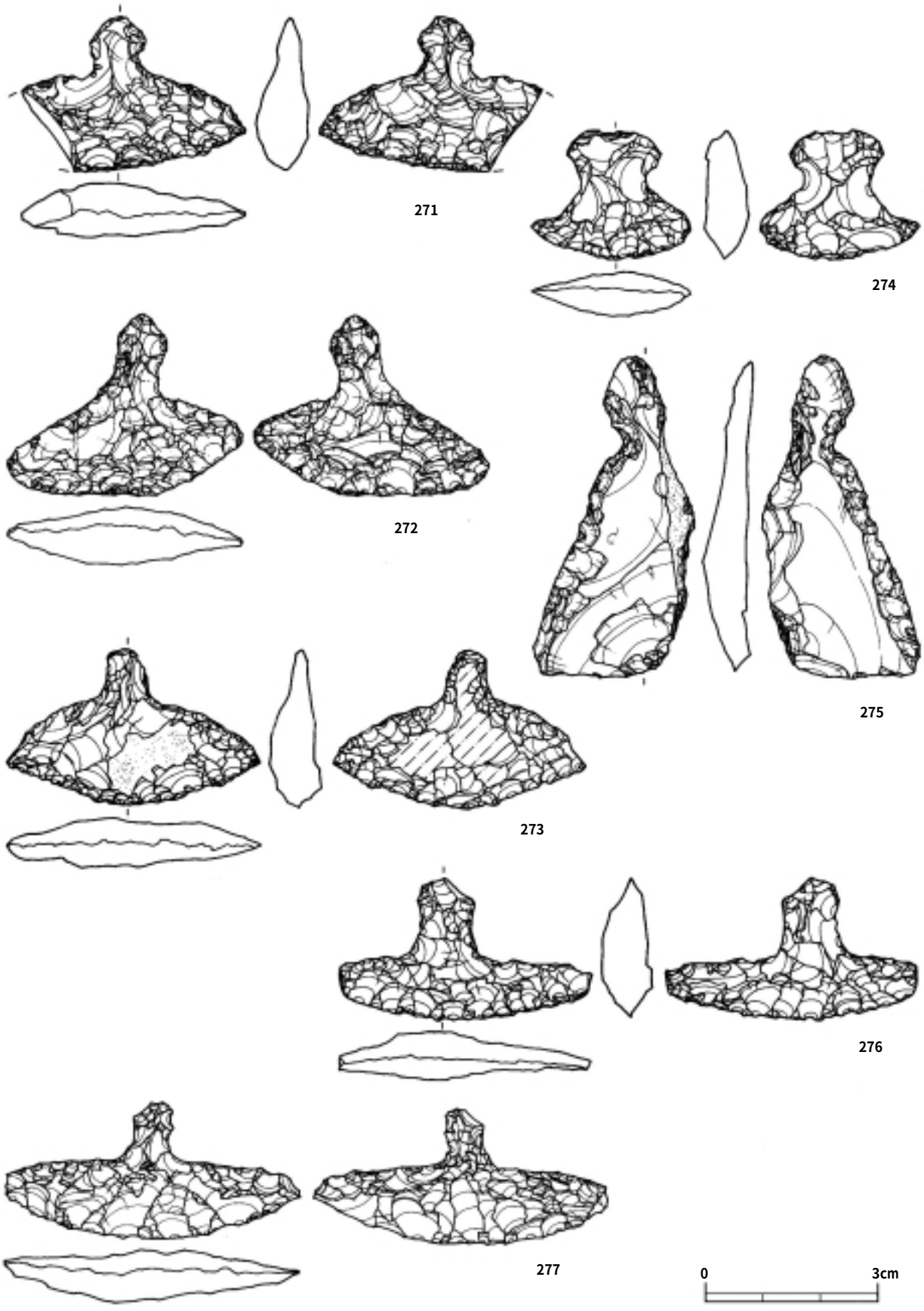

**第31図　石器（2）打製石鏃**




第32図　石器（3）打製石鏃




第33図　石器（4）石錐・石匙




**第34図　石器（5）石匙**

スクレイパーである。

⑤石槍（第35図　280）

長さ3.5cm，幅2.1cmの二等辺三角形をした分厚い両面加工の石槍である。基部は直とならず丸みをおびていることから，エンドスクレイパーの可能性もある。

⑥ピエス・エスキーユ（第35図　281）

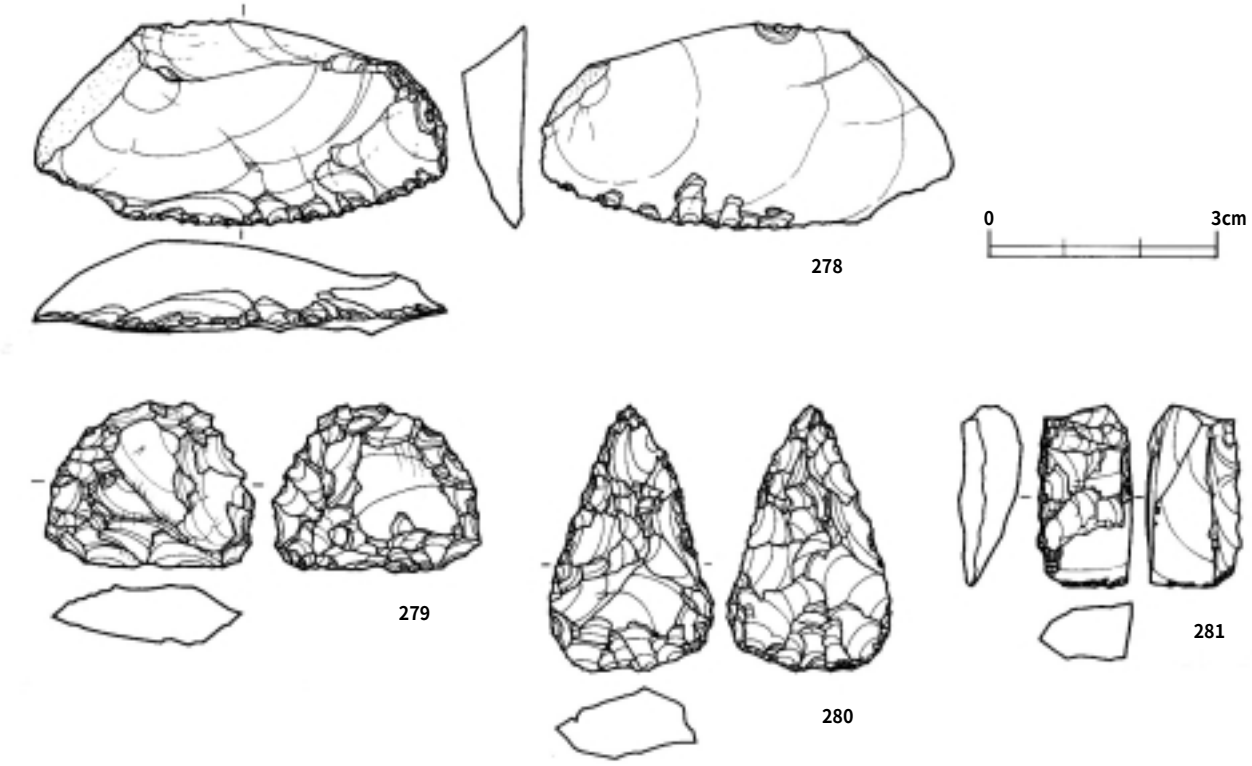
長さ2.3cm，幅1.3cmの長方形をした剥片の側辺を一部加工し，その短い一辺に使用痕のある分厚い石器である。

⑦磨製石斧（第36図～第38図　282～295）

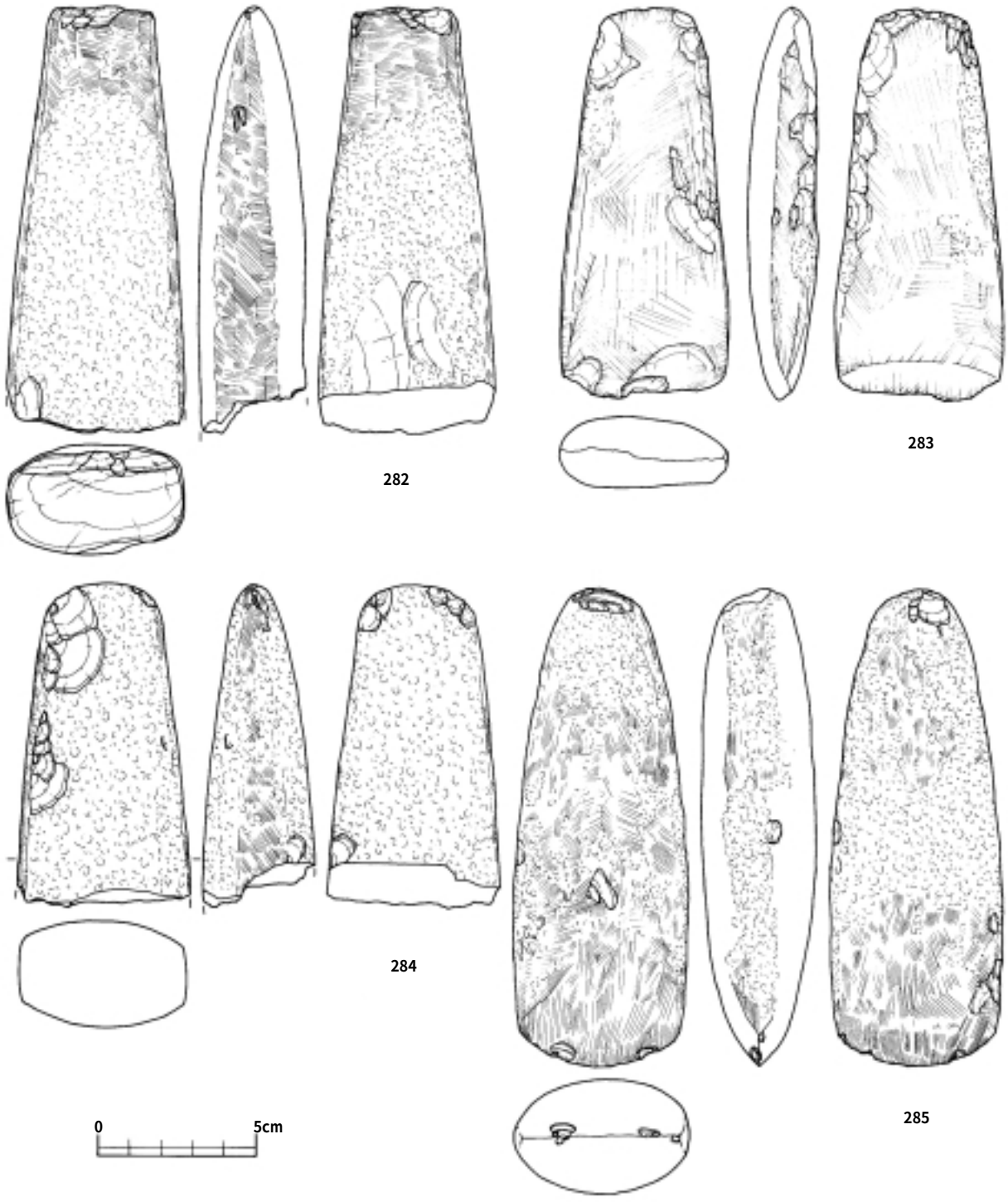
バチ形のもの，小型のもの，ノミ形のものとがある。

282～292はバチ形の石斧である。敲打によって形を整え，刃部をていねいに両面から磨いている。刃部は太い蛤刃となっている。282・283・286の頭部はやや矩形となっており，磨きがみられる。敲打痕を広く残したものと，面をていねいに磨いたものとがある。287は片面と頂部が欠けている。289は刃部近くの破片だが，刃部を欠き，片面も欠けている。290・292は蛤刃を呈する刃部で，両面からていねいに打ち欠いて形を整えたあと，ていねいに磨いているが，刃部に欠損部がみられる。

293と294は小型の両刃石斧である。293は刃部を欠いているが，自然円礫を利用した磨製石斧の基部である。頂部の一部も打ち欠いている。294は長さ6.7cm，幅4.0cmの両刃石斧で，両側辺に打痕跡がみられるが，両面ともていねいに磨いた蛤歯である。




**第35図　石器（6）スクレイパー・石槍・ピエスエスキーユ**

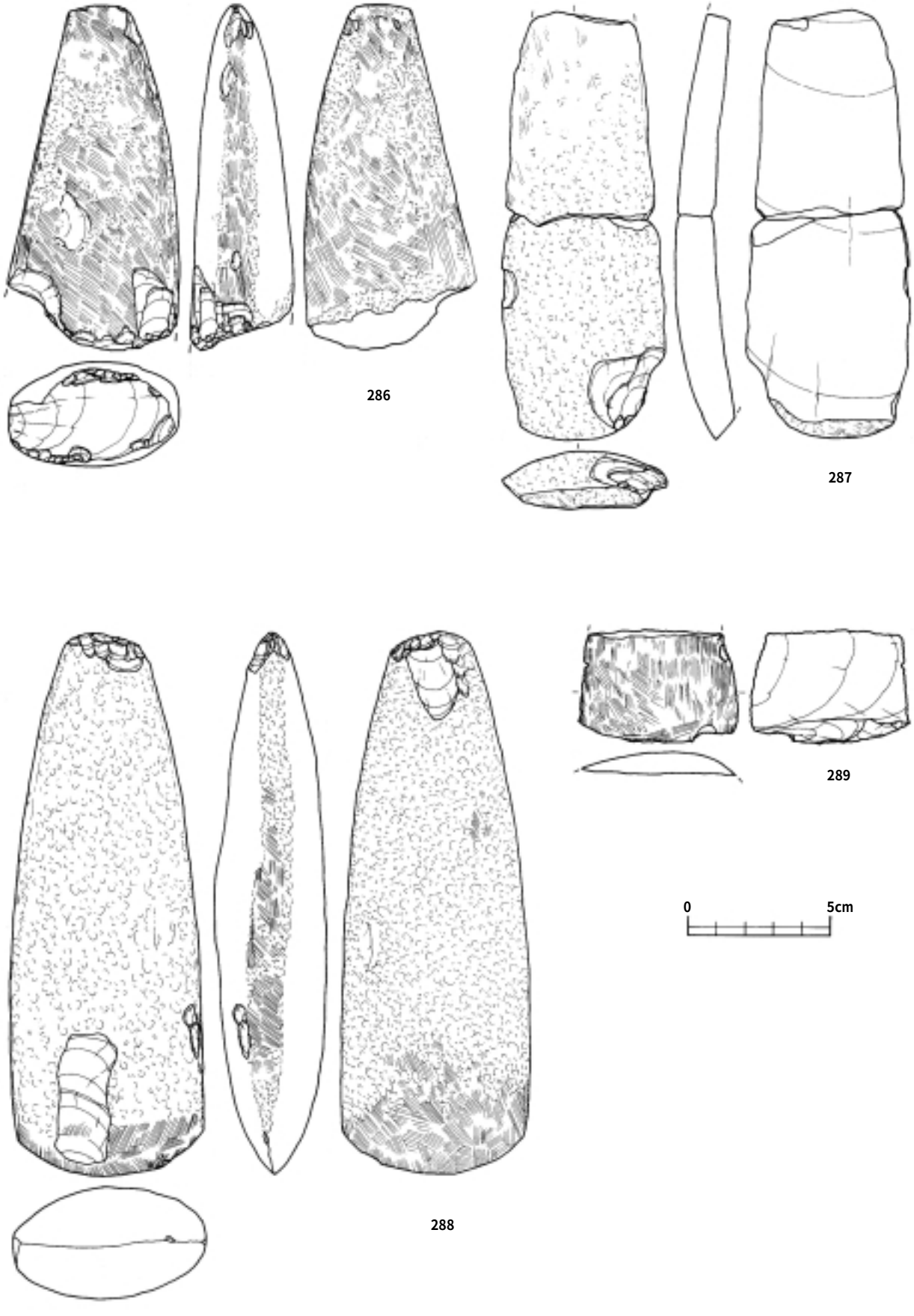



**第36図　石器（7）磨製石斧**

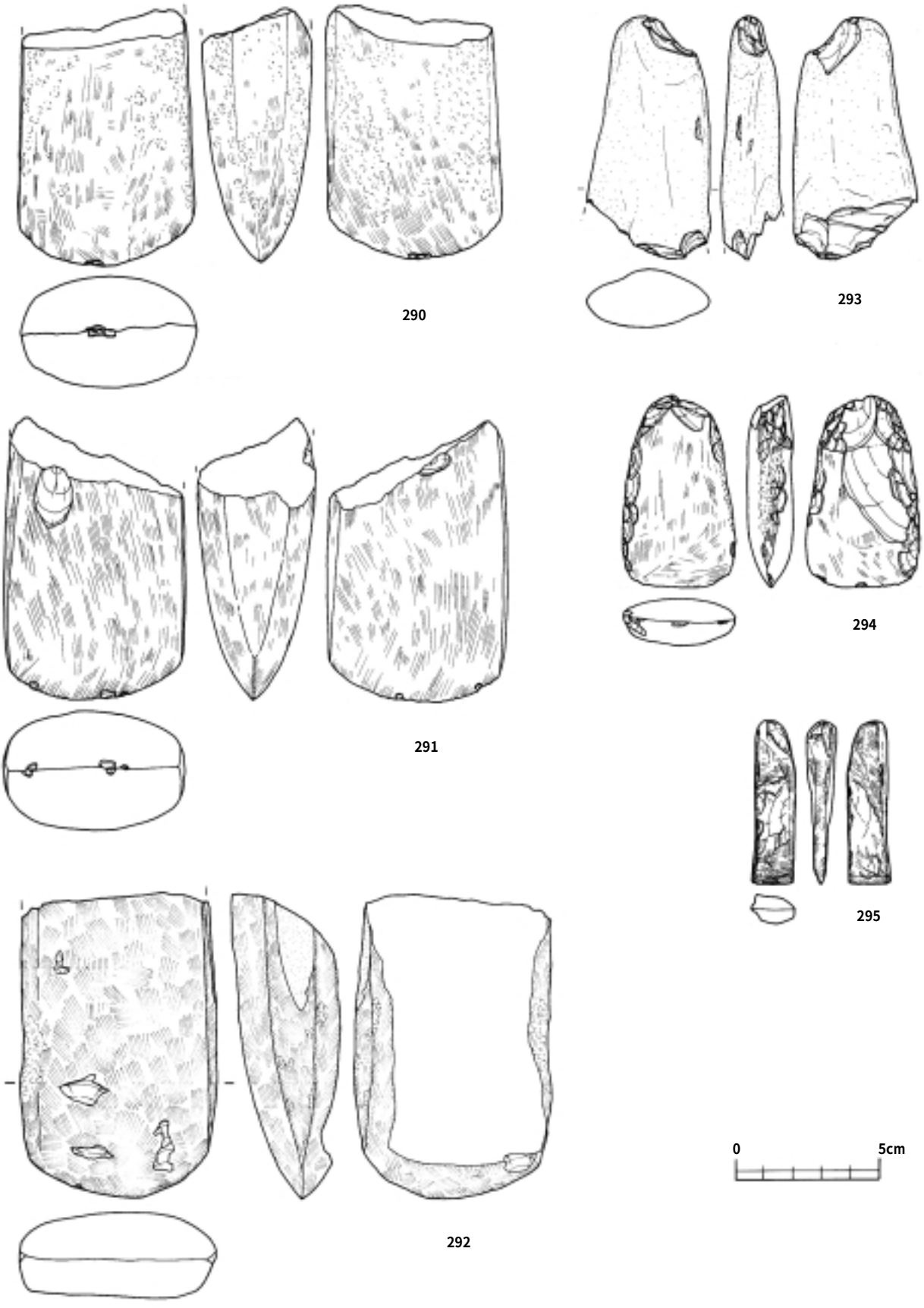
295は長さ5.7cm，幅1.5cm，厚さ0.9cmの小さいノミ形石斧で，両面から打ち欠き，刃部・側面ともていねいに磨いている。

⑧打製石斧（第39図　296・297）

刃部の欠けたえぐり入り打製石斧の基部が出土している。周辺は粗い剥離だが，えぐり部分は両面からこまかく調整されている。296は左右対称であるのに対して，297は一方に傾いている。




**第37図　石器（8）磨製石斧**




**第38図　石器（9）磨製石斧**

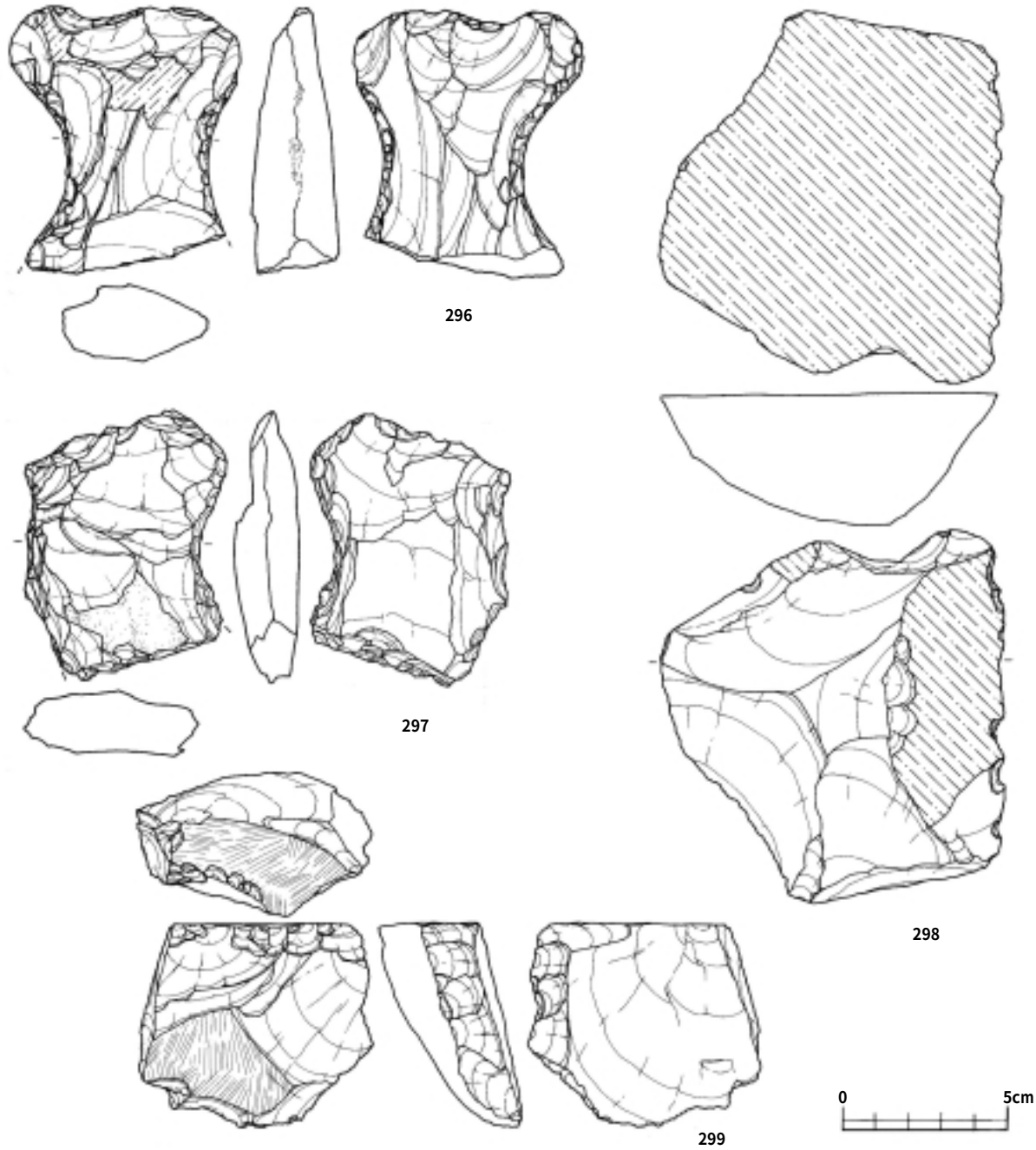
⑨石核（第39図・第40図　298～303）

あらゆる角度・方向から剥片を打ち欠いた石核が多く出土している。中には300・302のように表皮面を広く残しているものもある。298は平坦な上面から粗く打ち欠いており，301は二次加工の痕跡がみられる。

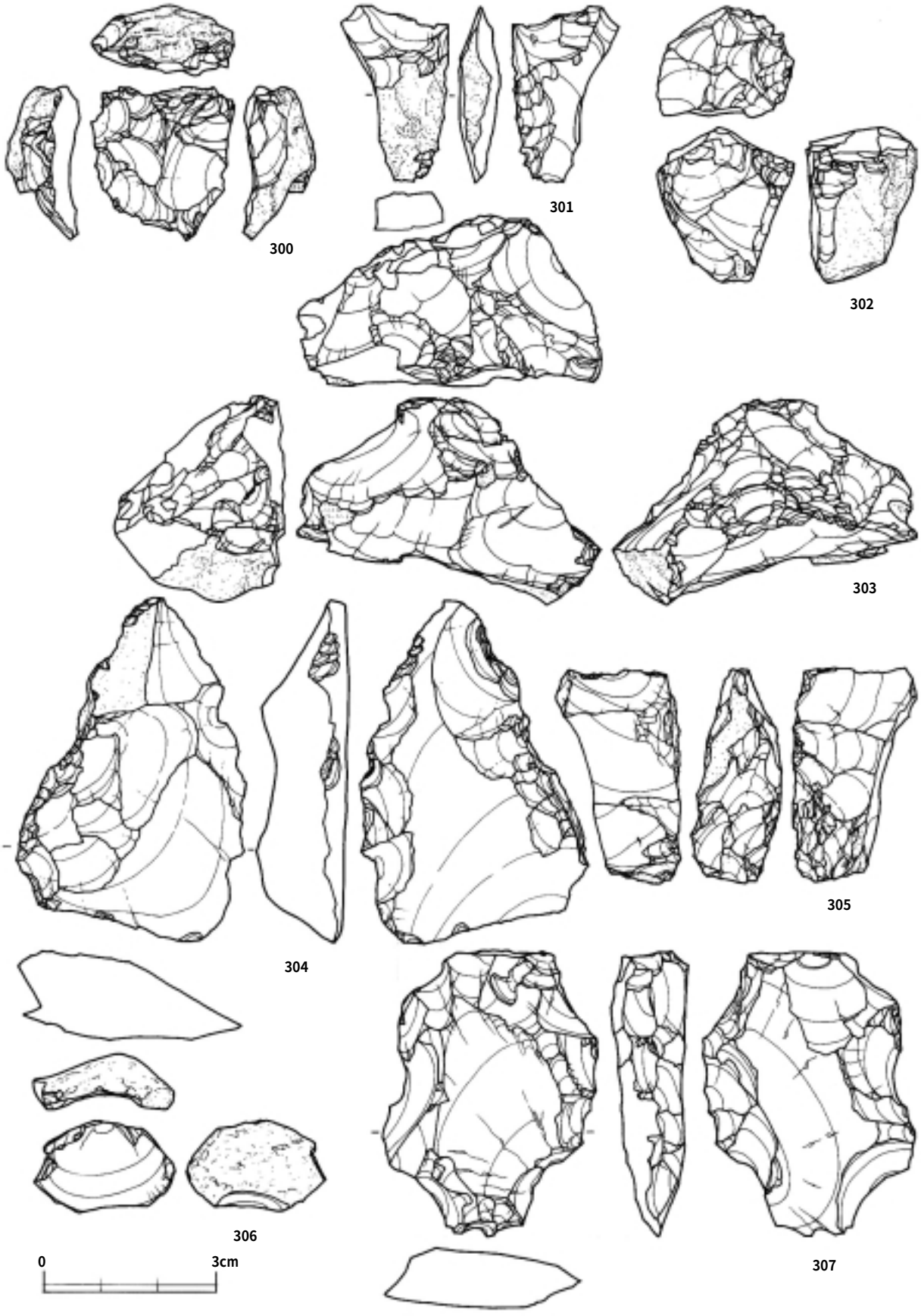
⑩剥片（第40図・第41図　304～313）

多量の剥片が出土しているが，この中には加工の施されているもの，使用痕のあるものなどがある。306は片面に表皮を広く残しているものである。307・309は周辺から二次加工がされ，製品を作ろうとしているが，途中でやめている。311も折損部の片面にこまかい剥離を加えている。

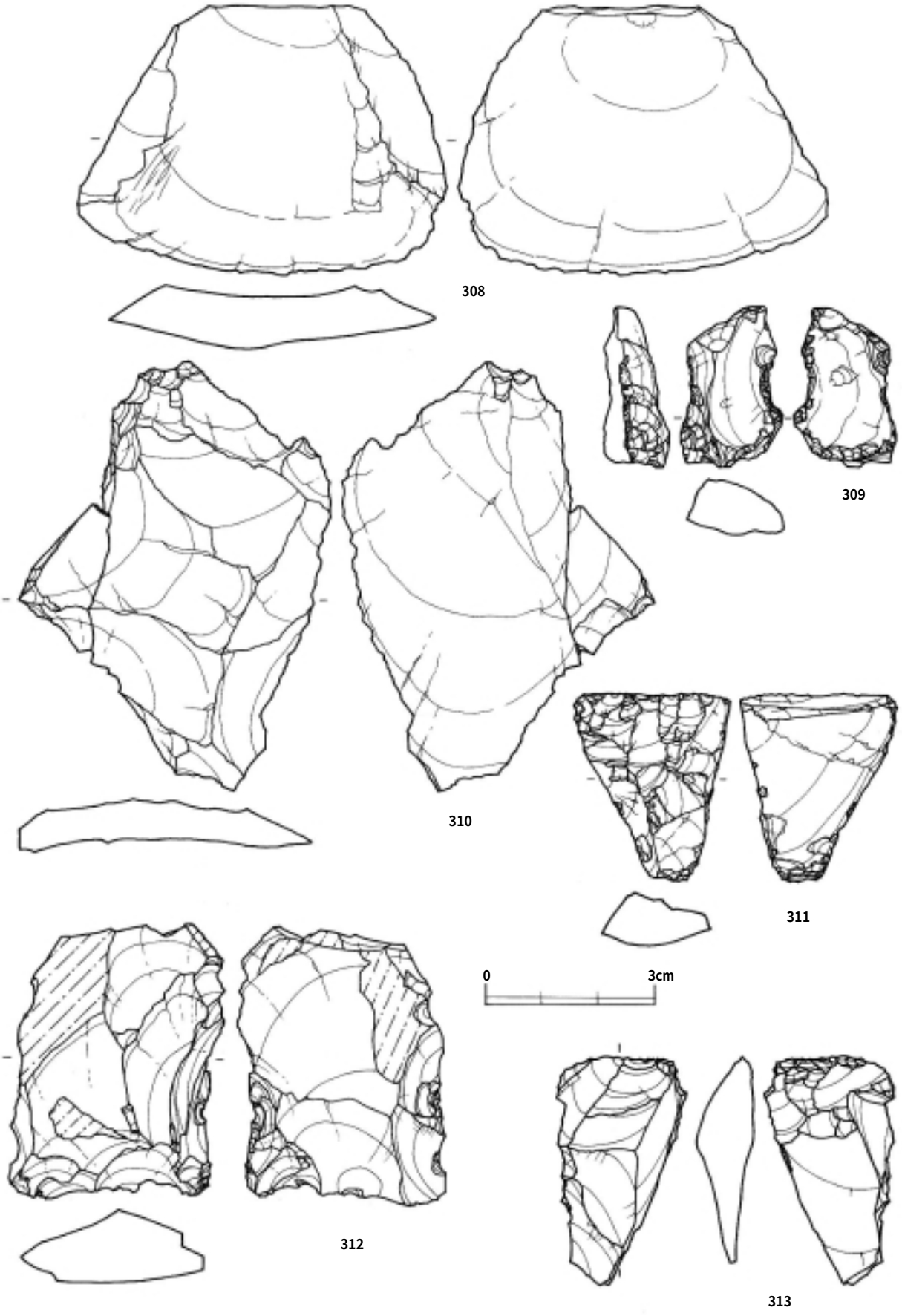
⑪接合資料（第42図・第43図　314）




**第39図　石器（10）打製石斧・石核**




**第40図　石器（11）石核・剥片**

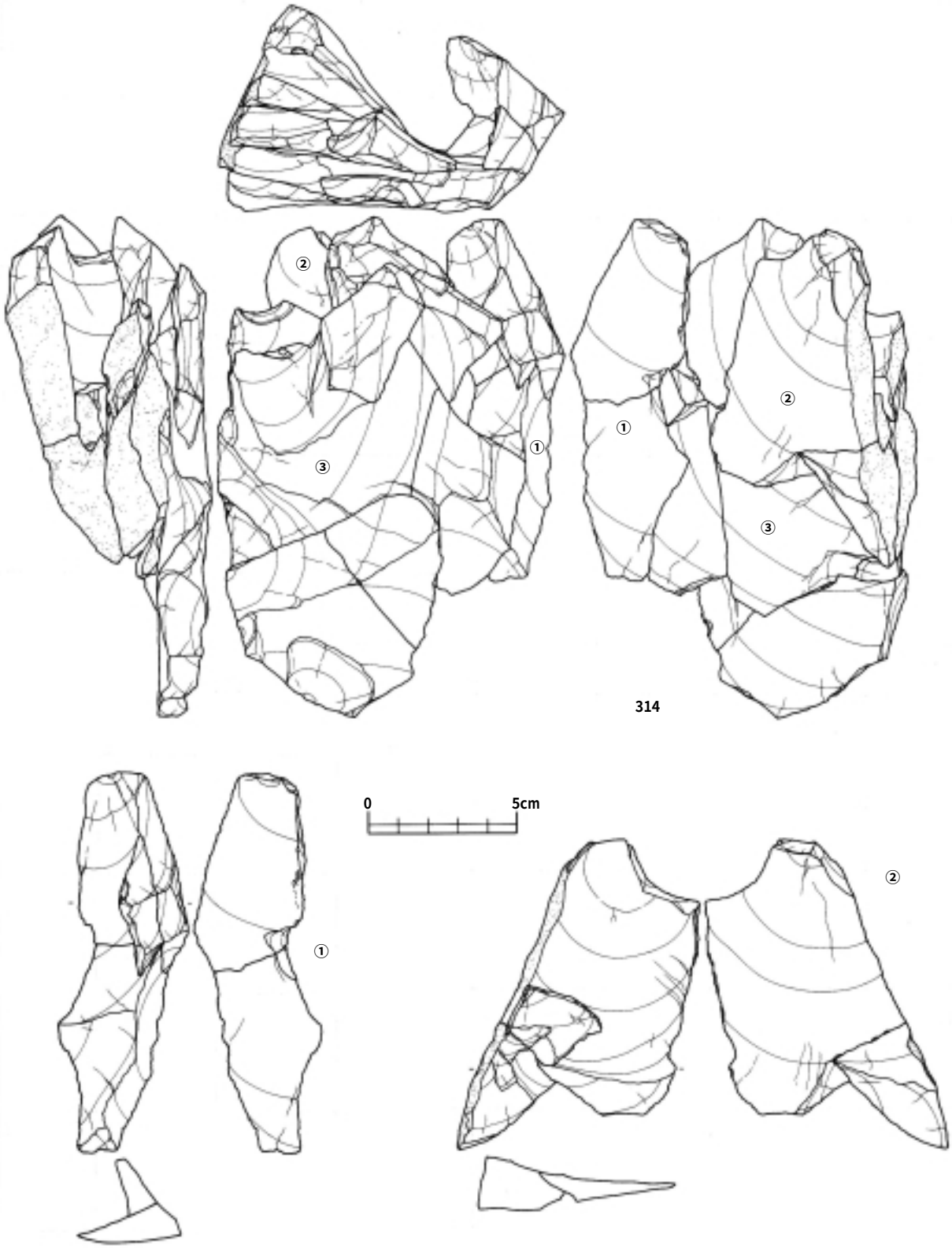



**第41図　石器（12）剥片**

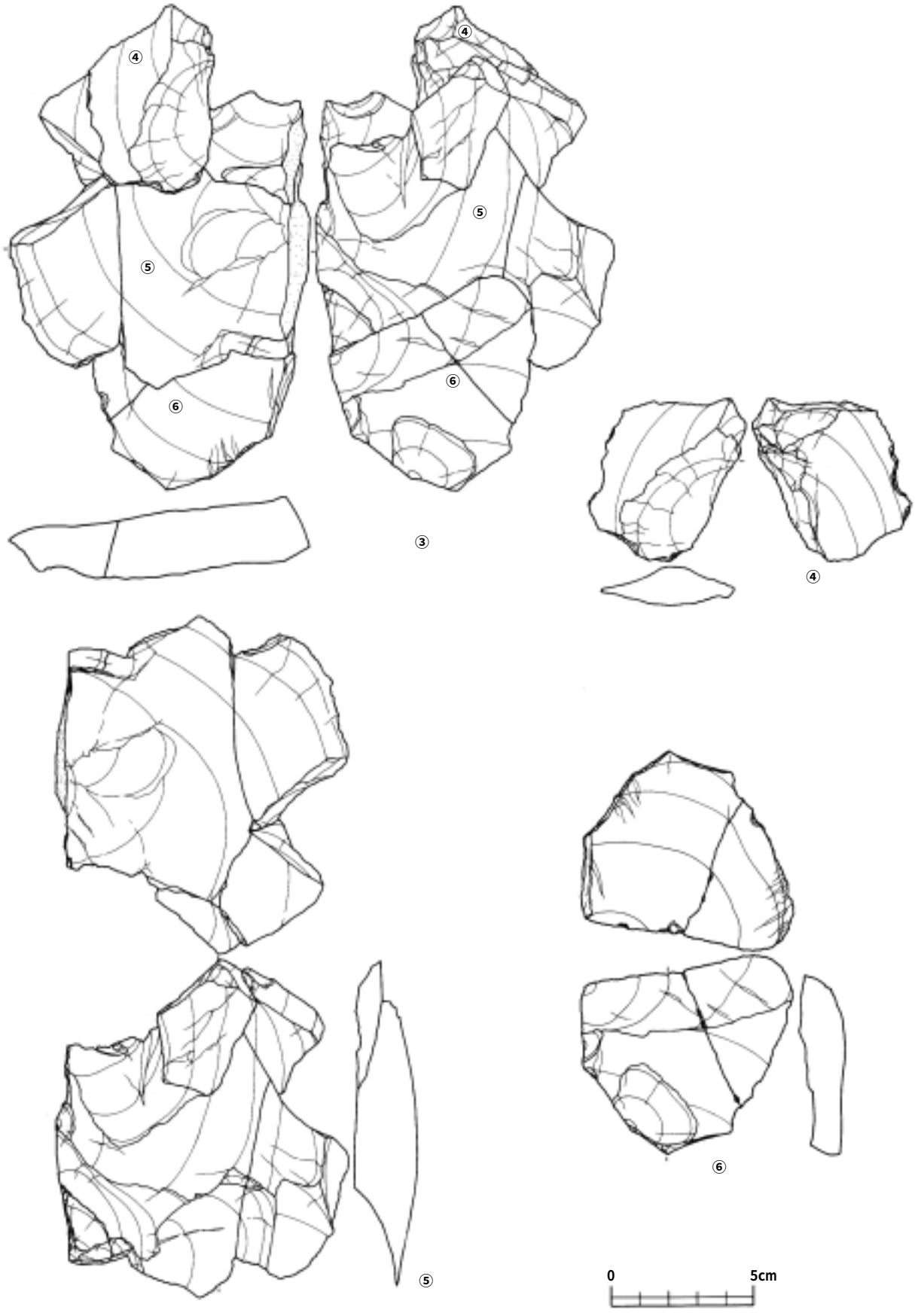
剥片どおしが接合できた資料が数点ある。314は17㎝×11㎝ほどの大剥片であるが，それを８つの剥片に分けている。二次的加工はない。

⑫磨石（第44図　315～323）

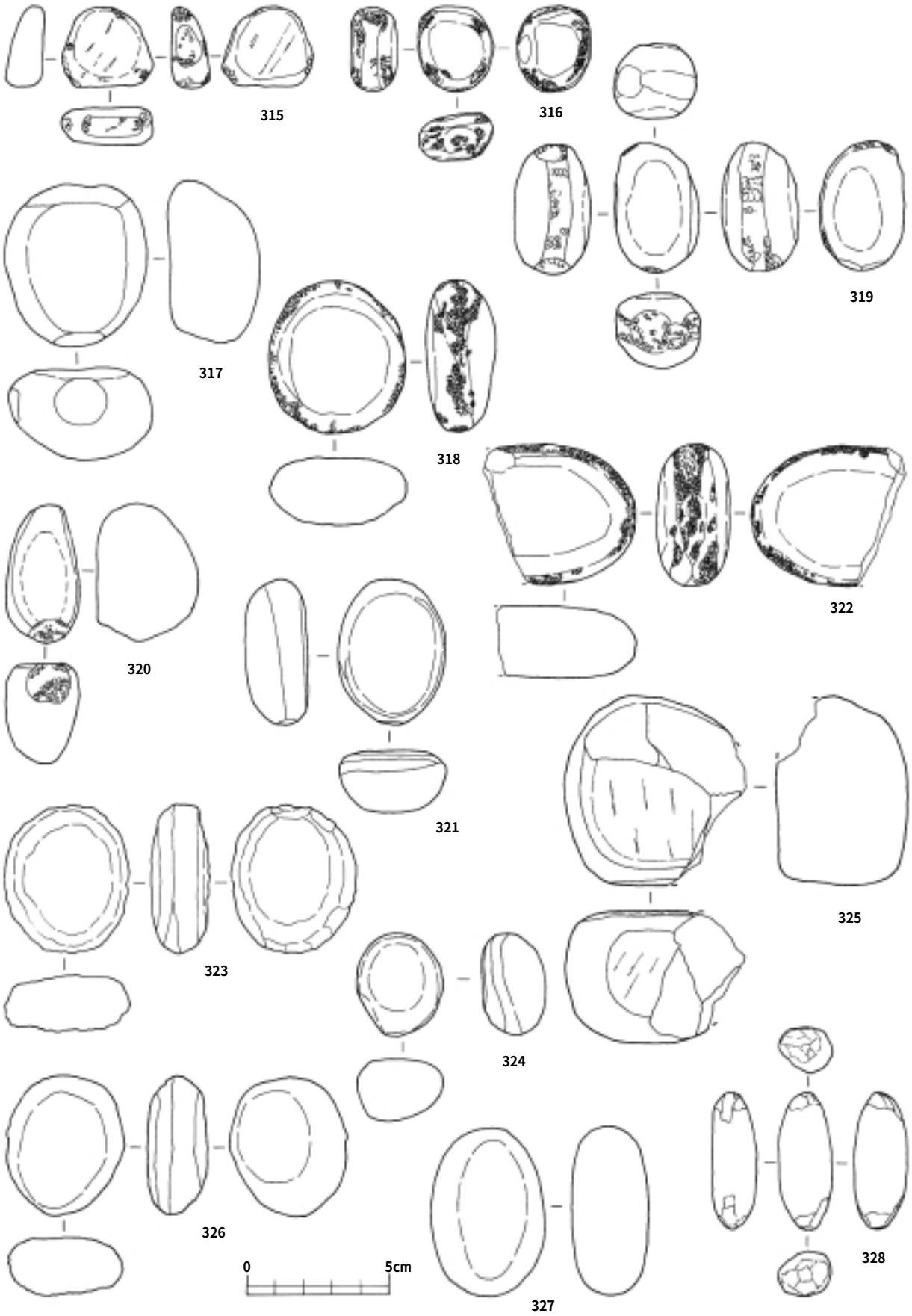
砂岩・安山岩・花崗岩を利用し，だ円形・円形などをした磨石である。この中には315～320のよ




**第42図　石器（13）接合資料（1）**




**第43図　石器（14）接合資料（2）**




第44図　石器（15）磨石・敲石

うに敲石を兼用したものもあり，使用痕が顕著でないものも多い。また，扁平なものもあるが，分厚いものも目立つ。315は丸みをおびた台形状のもので，角部分には敲打痕がみられる。集石に使われたためか，火を受け，焼けた痕跡がみられる。317・321は片面がふくらみ，あと一方はややくぼんでいる。317は両短側面のみに使用した痕跡がみられる。315・318・319・321は両面・側面とも使用しているが，318の使用痕跡は少ない。320は半分ほどを使用しており，短側面の一端は敲石として使用している。322・323はだ円形をした扁平なもので，周辺をていねいに使用しているが，323は花崗岩のため破損も目立つ。

⑬敲石（第44図　324～328）

安山岩・砂岩を用いたもので，円形・だ円形をしたものと，棒状を呈するものとがある。325は一面に磨った痕跡があり，石皿としても用いられているが，周辺が広く欠けている。328は棒状のもので，両側の短側辺の使用痕が顕著である。

⑭くぼみ石（第45図　329）

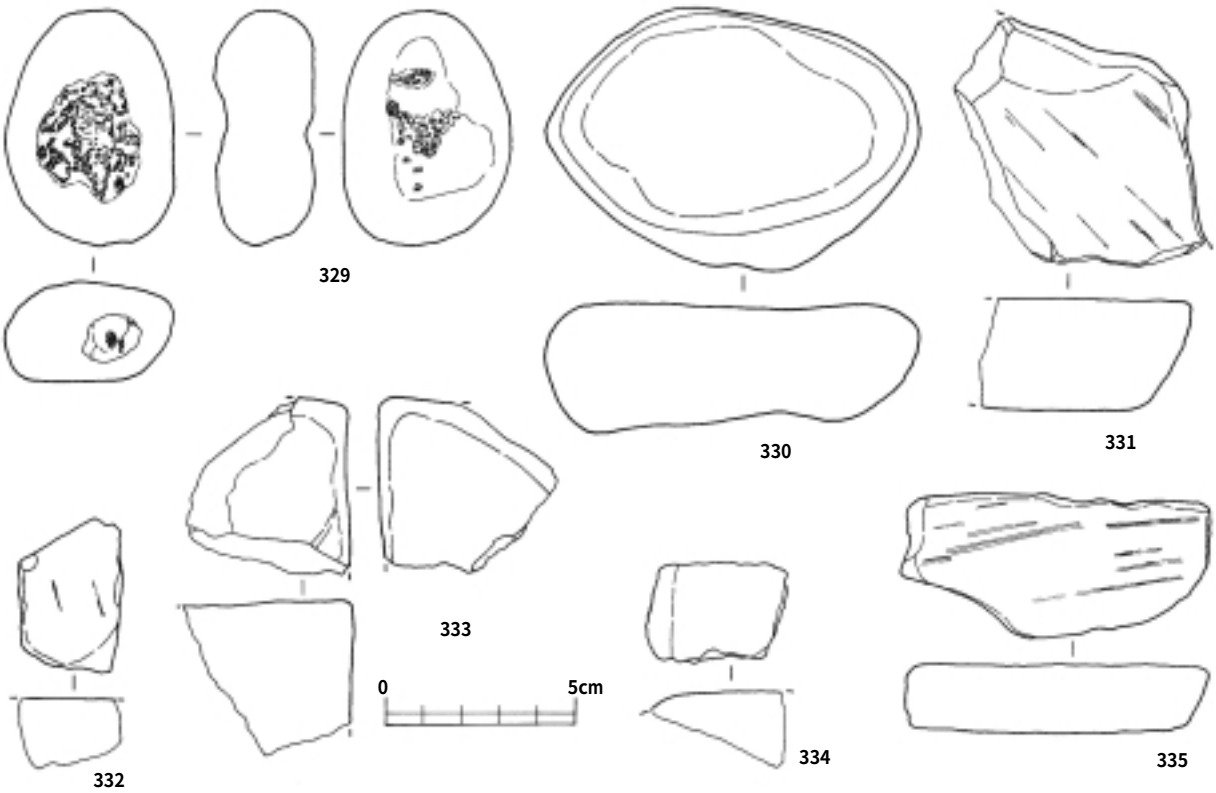
厚さ５㎝ほどのだ円形をした砂岩円礫の両面を台にして使用している。使用痕が顕著で，両面とも深くくぼんでいる。また，短側面の一端には敲石として使用した痕跡がみられる。

⑮石皿（第45図　330～334）

一面を使用した砂岩製の小型石皿で，いずれも深くはくぼまず平坦に近い。完形品は330だけで，他は小さな破片となっている。

⑯砥石（第45図　335）

平面形が丸みをおびた長方形に近い形をした厚さ3.5㎝ほどの扁平な砂岩礫を使用し，使用面は平坦である。縦方向に筋状となる使用痕がみられる。




**第45図　石器（16）くぼみ石・石皿**

## 第４節　弥生～古墳時代

### １　遺構

弥生～古墳時代の遺構には，竪穴住居跡25軒，掘立柱建物跡１軒，埋納ピット14基，ピット760基，柵列状遺構31条，溝状遺構４条などがある。堂園遺跡Ｂ地点の地形では，Ａ～Ｃ区は平坦地で東側に広がる舌状台地で，1～3区南西側は急傾斜の谷部に，Ｄ区は西側への緩傾斜地となる。

遺構群は概ね平坦部で発見され，遺跡南側からＡ～Ｃ－3～8区では竪穴住居跡群が，Ｂ・Ｃ－9～11区では柵列状遺構群や溝状遺構が検出された。また，Ａ－10・11区，Ａ～Ｃ－12～14区，Ｄ－22区で竪穴住居跡群が，Ａ－15区とＤ－15区では溝状遺構が検出された。

(1) 竪穴住居跡

堂園遺跡Ｂ地点では25軒の竪穴住居跡が検出された。いずれの住居跡もⅡb層上面で土色が変化した際に検出が可能となった。竪穴の深さは約20cmから60cmほどであった。埋土堆積状況からも実際の生活面は高かったものと考えられる。

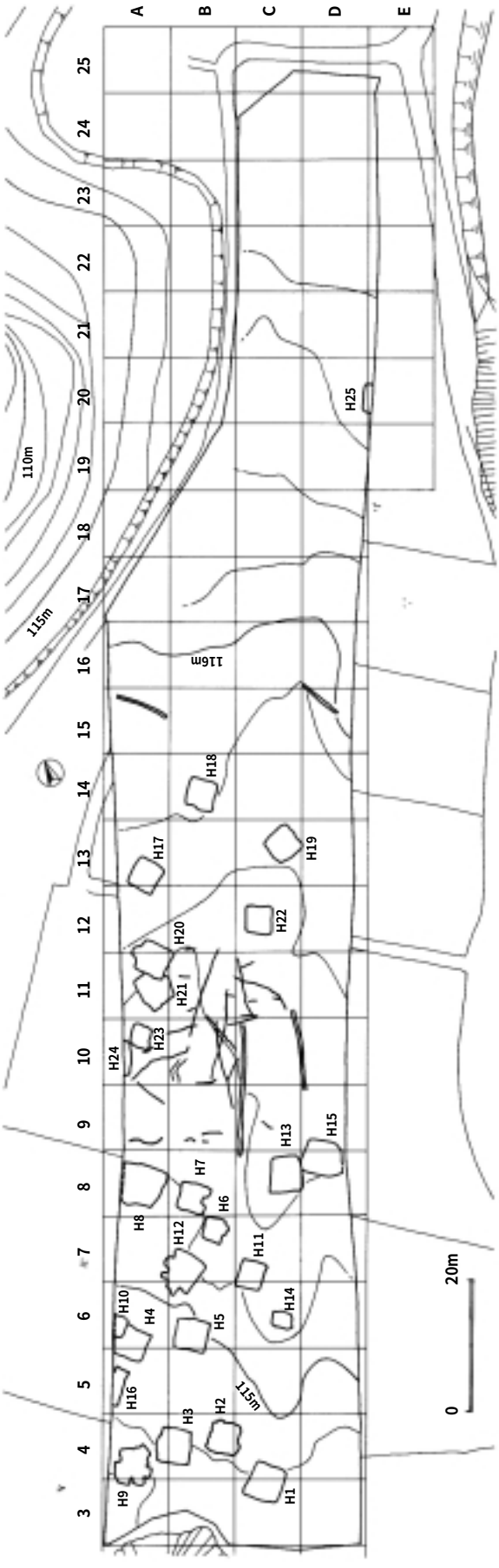
住居群は，Ａ～Ｃ－3～8区の範囲と，Ａ－10・11区及びＡ～Ｃ－12～14区の範囲の大きく２群に分かれて検出された。

ア　１号竪穴住居跡（SH-01）

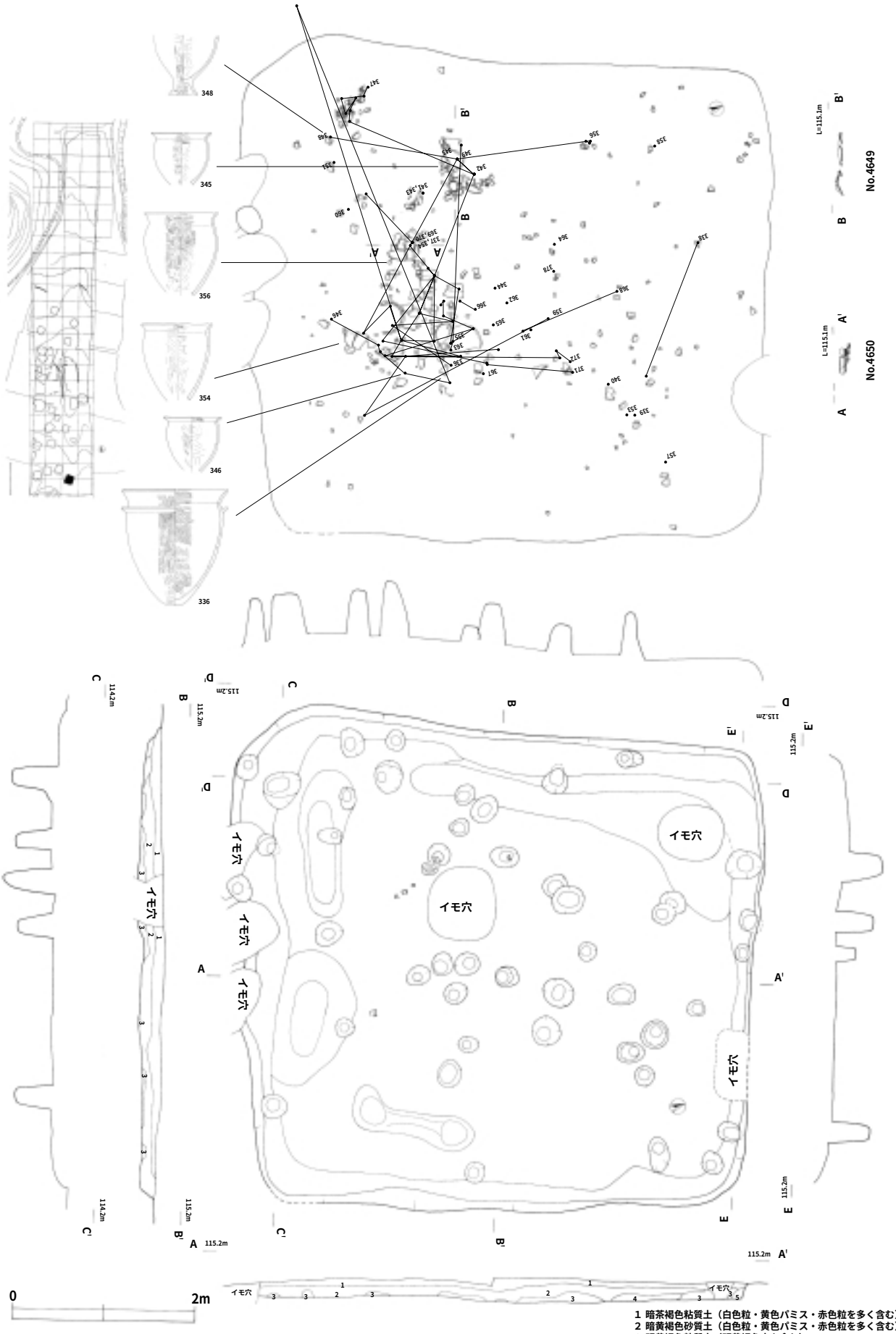
（第47図～第51図，図版７）

(7)　住居跡構造

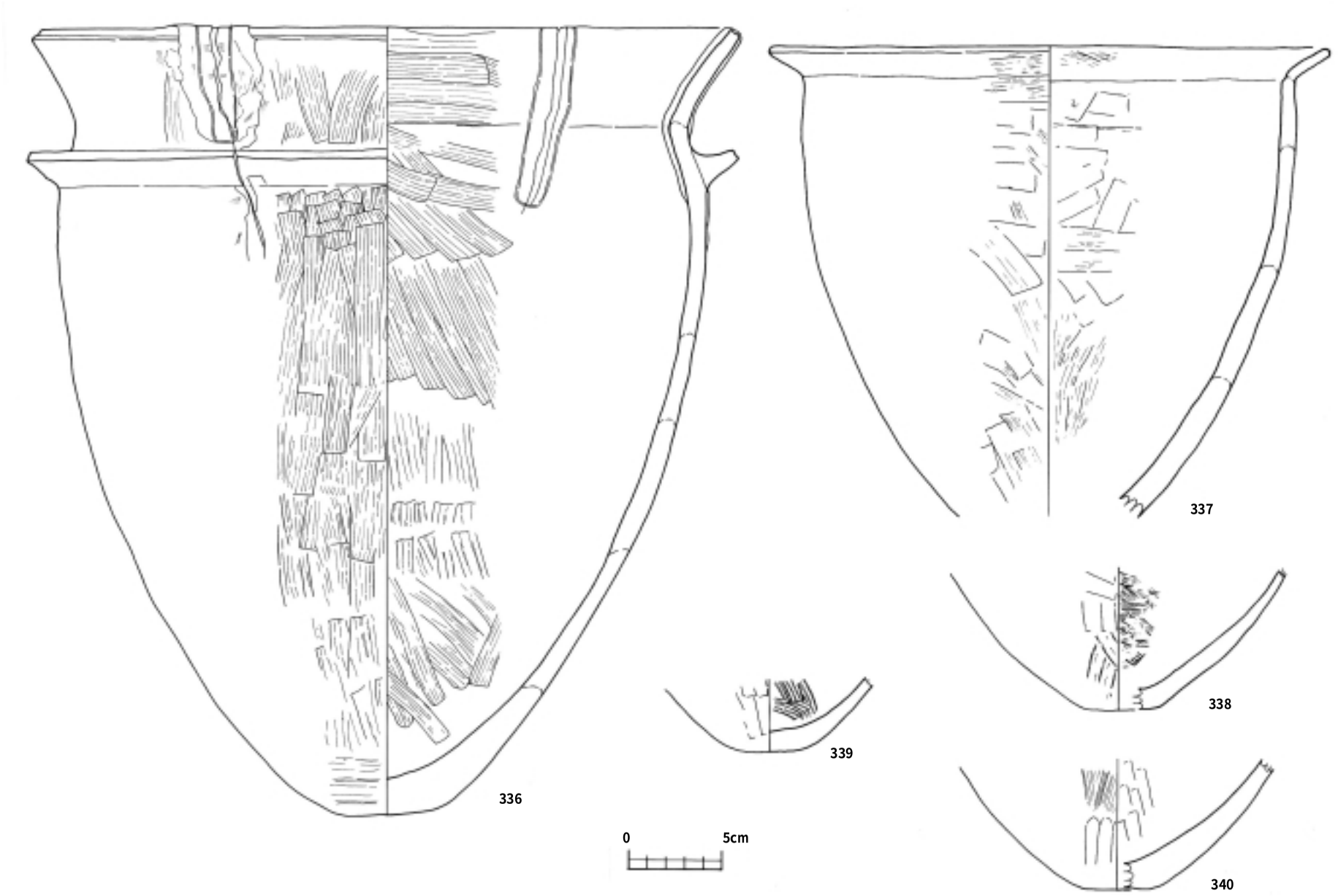
Ｃ－３・４区で検出され，上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約580cm×短辺約540cmである。検出面から床面までの深さは約20cmである。張り出し及び中央掘り込みなどの付帯施設は確認できなかった。床面には48基のピットを検出した。いずれのピットも深さがほぼ同じで，主柱と支柱の区別ができない。また，住居跡周辺には数多くのピットが検出され，いずれのピットも竪穴住居跡の埋土状況と同様のため，同時期のものと判断できた。したがって，住居跡内で検出した柱穴が，住居に伴うものなのかも判断ができない。



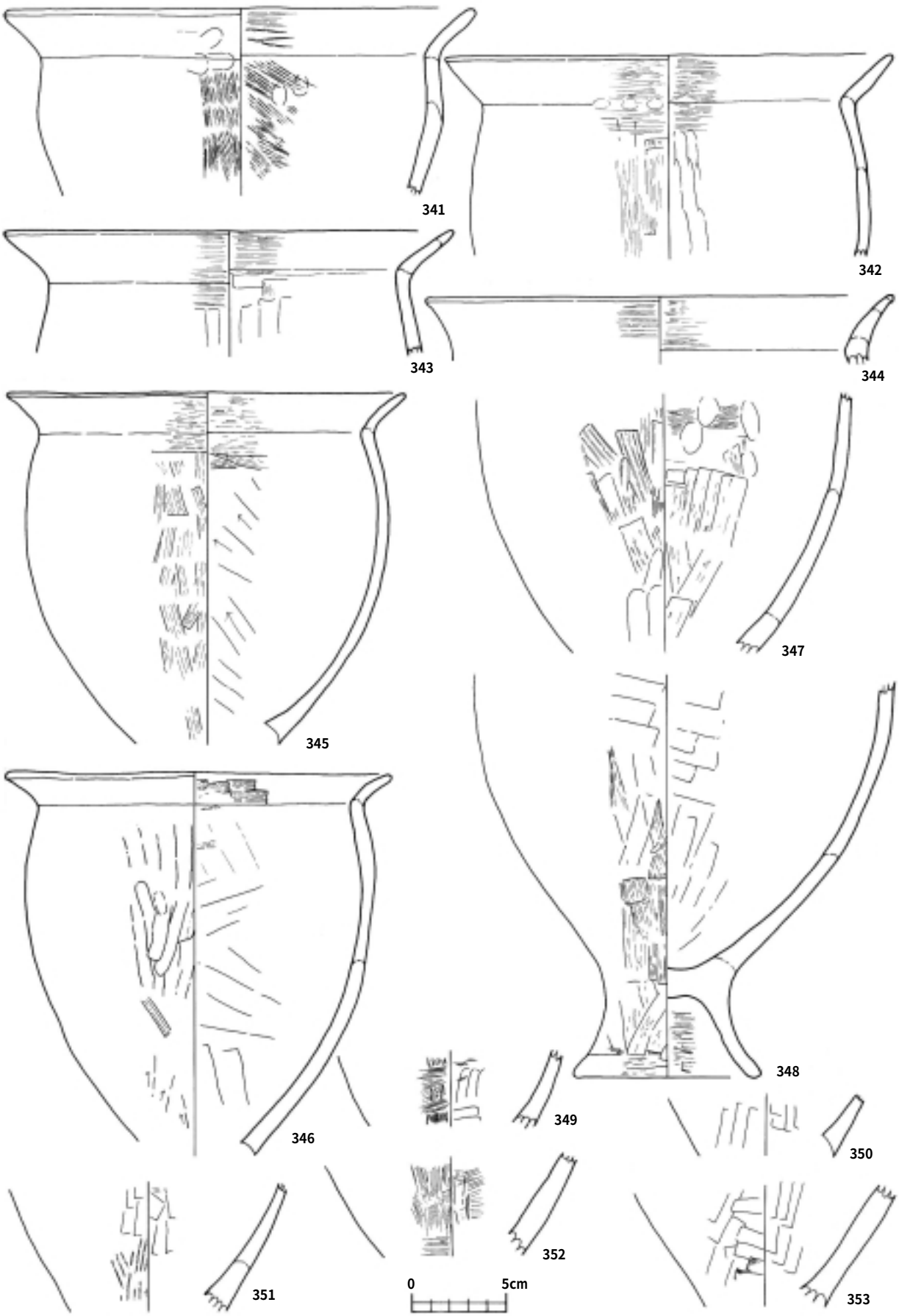

第46図　弥生～古墳時代の遺構配置図



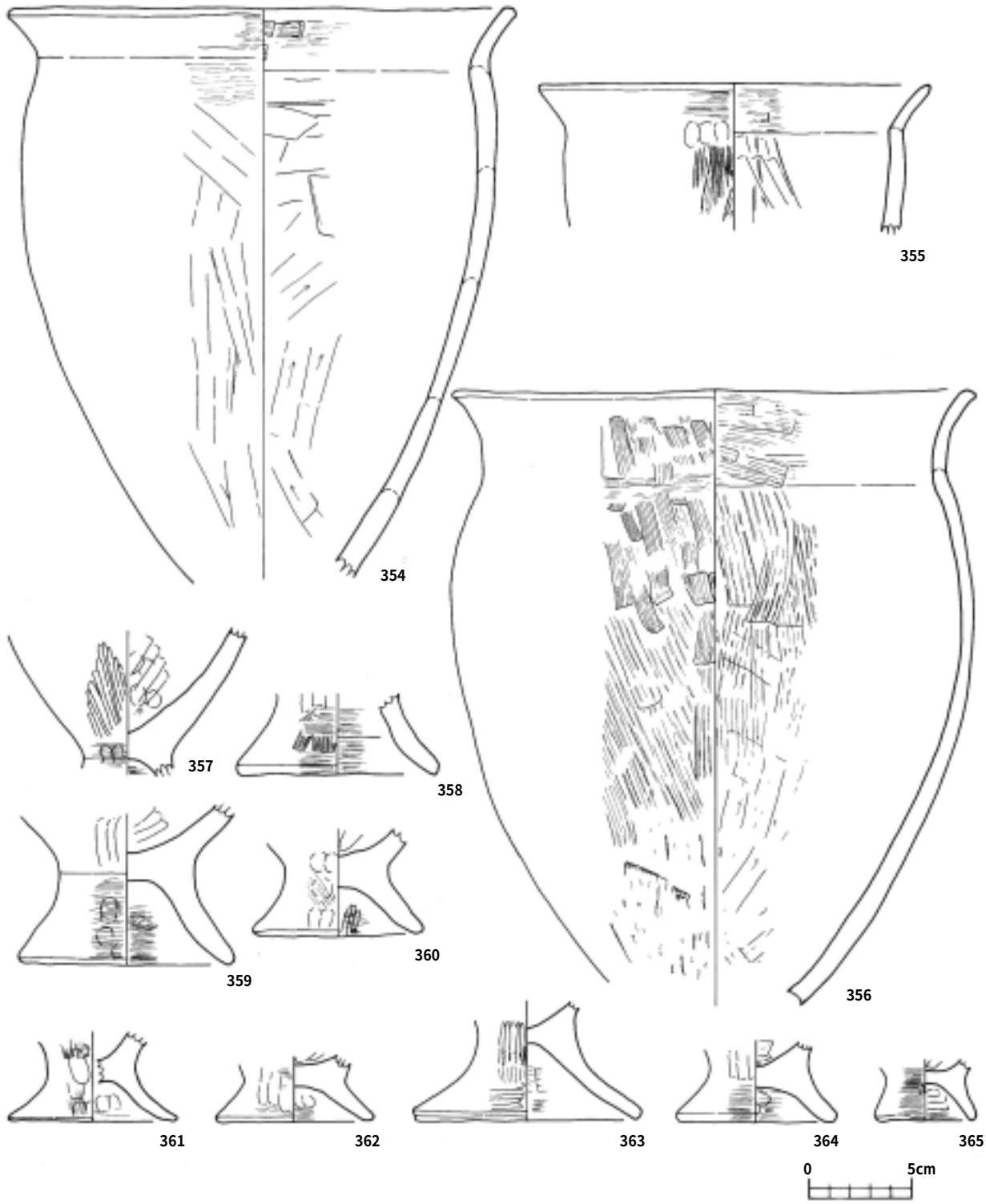

**第47図　1号竪穴住居跡検出･遺物出土状況**




第48図　1号竪穴住居跡出土遺物(土器1)



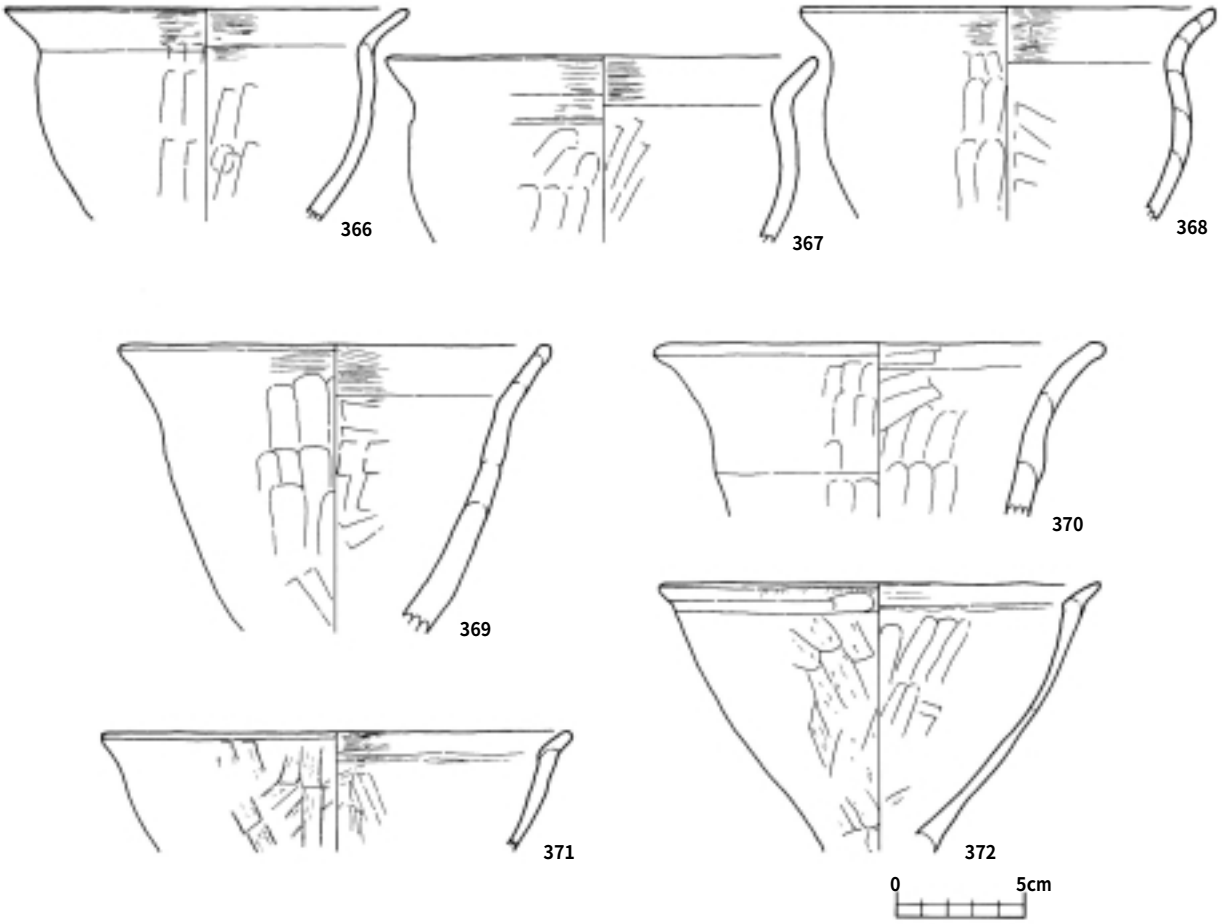

**第49図　1号竪穴住居跡出土遺物(土器2)**




**第50図　1号竪穴住居跡出土遺物(土器3)**

(イ)　住居跡内出土遺物

埋土は概ね２層に分かれ，多くの遺物は埋土上層の埋土１や埋土２から出土した。床面直上の出土遺物はなく，埋土下層の埋土３の出土遺物は５点出土したが，うち３点は埋土１の出土遺物と接合関係にあり，埋土内の上下動の激しさを示す。また，埋土内出土土器には完形に復元できたものが多く，住居廃絶後の一括廃棄と考えられる。なお，埋土１出土土器345は９号竪穴住居跡埋土２の出土土器と接合関係が認められ，埋土１出土土器378は２号竪穴住居跡埋土１の出土土器と接合




**第51図　1号竪穴住居跡出土遺物(土器4)**

関係が認められる。

出土土器は，甕形土器，鉢形土器で構成される。

甕形土器（第48図～第51図　336～368）

336は口縁直径38cm，高さ42.4cmの大きさの二重口縁甕である。口縁部は長めに外反し，長い鍔がつく。底部は径約4cmの小さな平底である。口縁部内面と胴部の境界に明瞭な稜線が観察できる。口縁外面には部分的に掻き上げ調整を，胴部外面では幅が細めのハケメ調整を行う。口縁部内面から口唇，外面には，焼成前に幅約2cm，厚さ2～3mmの補修のため粘土をかぶせている。胎土の質や発色などは土器本体と同様である。337～365は甕形土器である。338～340は径約4cmの小さな平底である。337，341～346は口縁部が「く」の字状に長めに外反する土器である。調整は，口縁部内外面にはヨコ調整を，胴部外面にはタテ方向のハケメ調整の後タテ方向のヘラナデ調整を，底部から胴部下端部ではタテケズリ調整を行う。354，355，356では口縁部は短めで外反の度合いが弱い。354，355では口縁部外面はヨコ調整を行う。356では口縁部外面には掻き上げ調整が施され，口縁部内面と胴部の境界は不明瞭である。357～365は底部である。359では脚が高く，361，362，364では脚が低く，363では脚が拡がる。366～368は小振りの甕形土器で，口径は16～18cmである。口縁部は「く」の字状に長めに外反し，胴部が張るのが特徴である。

鉢形土器（第51図　369～372）

371，372では器壁の厚さが特に薄く，胴部内外面のタテケズリ調整が明瞭に残り，口縁部内面と胴部の境界には明瞭な稜線が観察できる。

イ　2号竪穴住居跡（SH-02）（第52図～第60図，図版７）

(ｱ)　住居跡構造

Ｂ・Ｃ－４区で検出された２号竪穴住居跡の上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約480cm×短辺約470cmを測る。検出面から床面までの深さは約20cmである。住居西側に長辺約100cm×短辺約60cmを測る小規模な張り出しと，約120cmの１辺のみが残る中央掘り込みなどの不明瞭な付帯施設を確認した。床面には50基のピットを検出した。しかし，２本柱あるいは４本柱など規格性のある構造を認められず，また壁から約60cmから約120cmはなれて壁に沿って柱穴の列状配置を確認した。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね２層に分かれ，出土した多くの遺物は，埋土最上層の埋土１から出土した。床面直上の出土遺物はなく，埋土下層の埋土３の出土遺物は少なく，いずれも砕片である。特に，住居南側からは多量の土器が出土し，完形に復元できたものが非常に多く，住居廃絶後に一括廃棄されたものである。なお，378は１号竪穴住居跡と，埋土１出土土器の２点は３号竪穴住居跡埋土１の出土土器と，埋土１出土土器407は５号竪穴住居跡埋土２の出土土器と接合関係が認められる。

出土土器は，甕形土器，壺形土器，鉢形土器，小型土器で構成される。

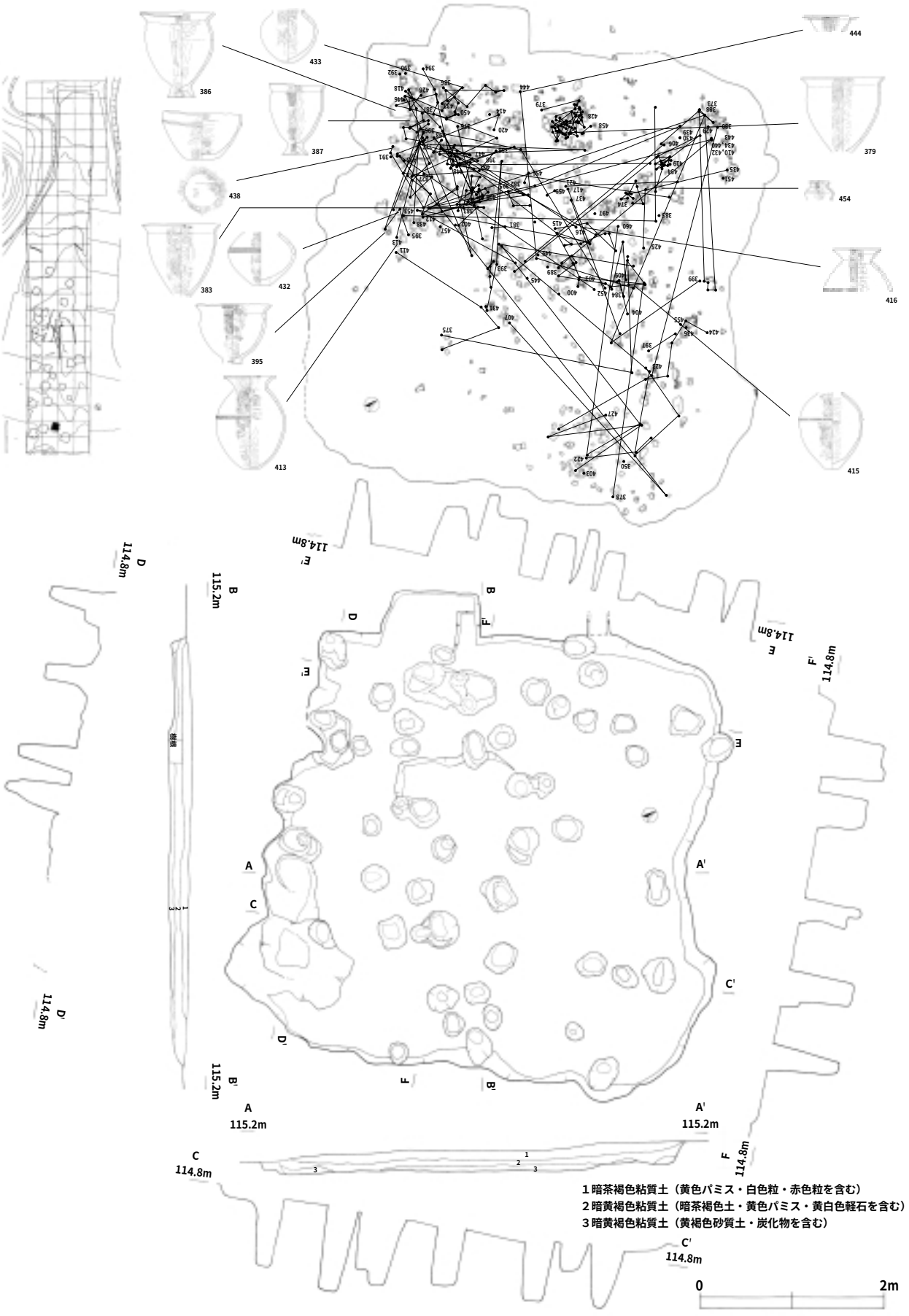
甕形土器（第53図～第56図　373～412）

373～378，380，381，383，384，386は口径約30cmの中型土器で，口縁部が「く」の字状に長めに外反する。多くの土器では，口縁部内外面にはヨコ調整が，胴部外面にはタテ方向のハケメ調整の後，タテ方向のヘラナデ調整が観察できる。胴部内面ではヘラナデ調整を丁寧に行うものや，明瞭なハケメ調整がみられるもの(374，378)がある。また，胴部下端部ではタテ方向のケズリ調整が残るもの(383)と，ハケメ調整やヘラナデ調整の卓越するもの(386)がある。383は口縁部内面と胴部の境界には明瞭な稜線が観察でき，口縁部は長い土器である。口縁部は外反の度合いが弱く，胴部外面のタテ方向のハケメ調整が口縁下部まで達し，口縁部外面と胴部の境には指頭押圧調整が行われ，境界の稜線は不明瞭である。386は口縁部が短く，「く」の字状に外反する土器で，胴部上半部で張るのが特徴である。

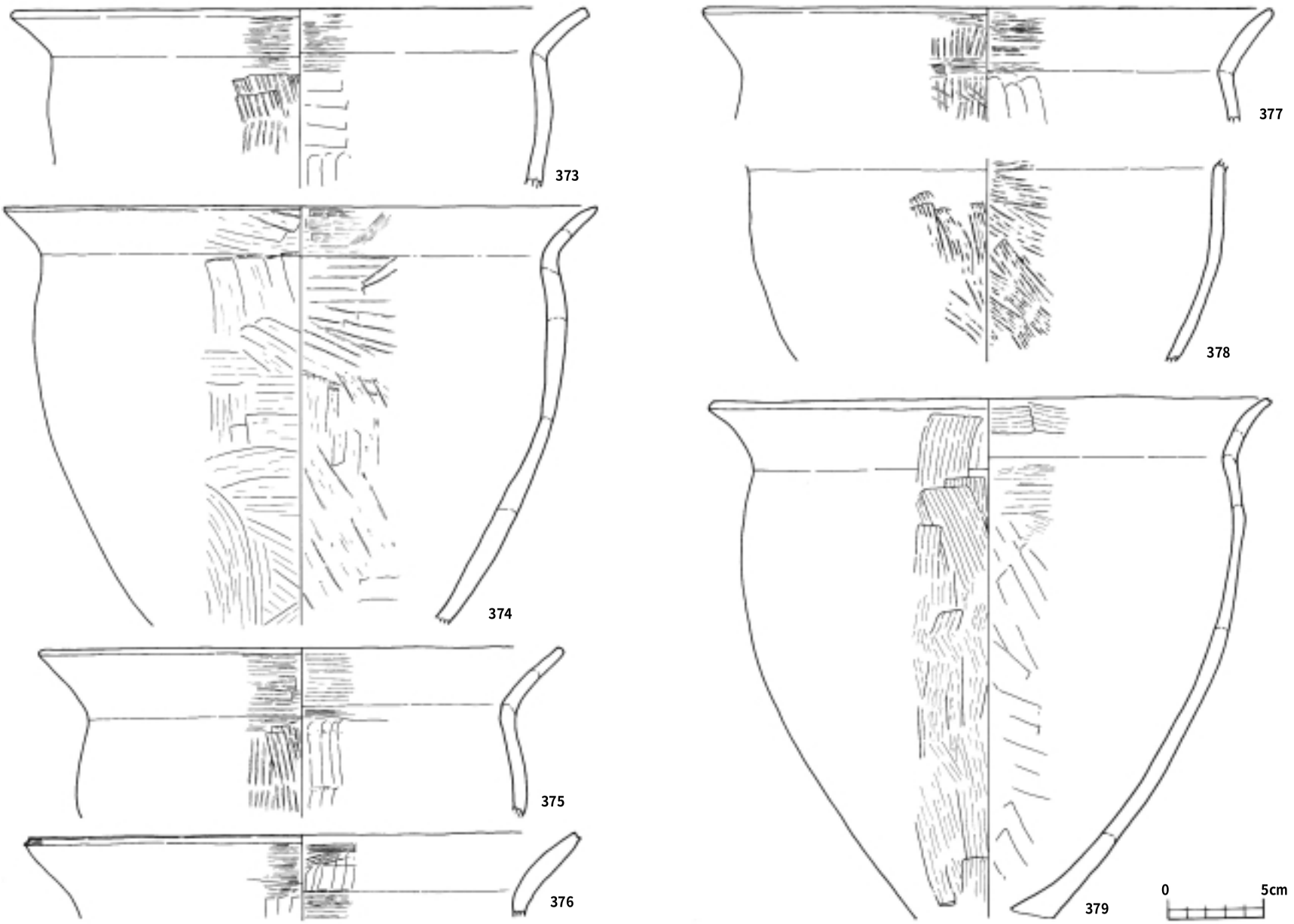
379は口径約30cmの中型土器で，口縁部は短めで外反の度合いが弱く，口縁部外面には掻き上げ調整が施される。口縁部内面と胴部の境界には，胴部上端部にヨコ方向の調整が強く行われるため明瞭な稜線が観察できる。また，口縁部外面と胴部の境界では，ハケメ調整をいったん切っており，明瞭な稜線が観察できる。

392，395は口径約30cmの中型土器で，口縁部内面と胴部の境界には，胴部上端部に斜方向のハケメ調整が強く行われるため明瞭な稜線が観察できる。口縁部外面と胴部の境界では，392ではヨコ方向のヘラナデ調整が，395では掻き上げ調整が施されるため，稜線は不明瞭である。

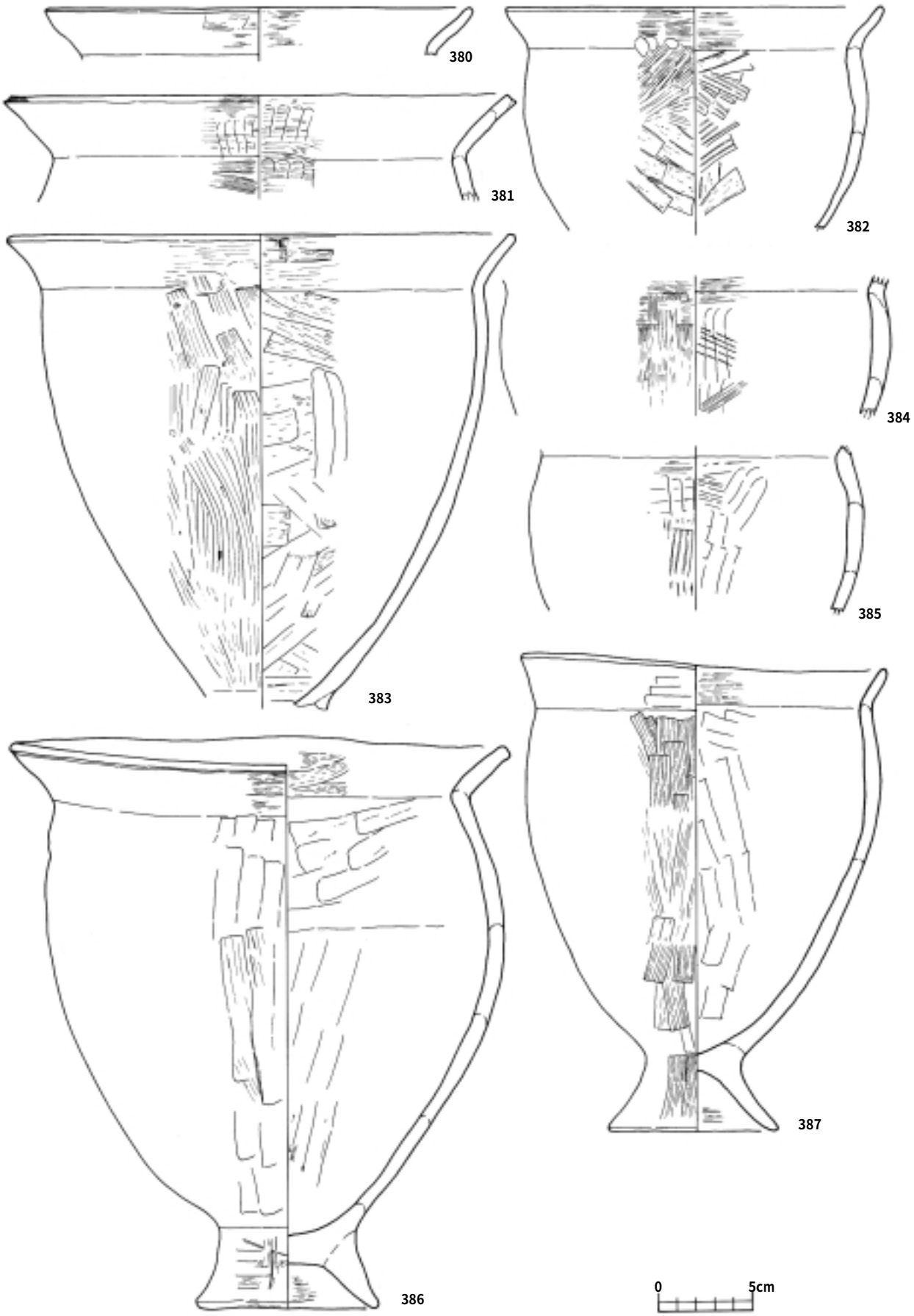
382，385，387，388～391，393，394，396は小振りの甕形土器で，口径は約20cmである。いずれも口縁部外面と胴部の境界では，指頭押圧調整やヨコ方向のヘラナデ調整，あるいは掻き上げ調整が施されるため，稜線は弱い，あるいは不明瞭である。388，390，391では口縁部は「く」の字状に長めに外反し，口縁部内面と胴部の境界には明瞭な稜線が観察できる土器である。389，393では口縁部は短めで外反の度合いが弱く，口縁下端部外面には掻き上げ調整が施され，稜線は弱い。いずれも胴部上半一面にススの付着が観察できるのが特徴である。



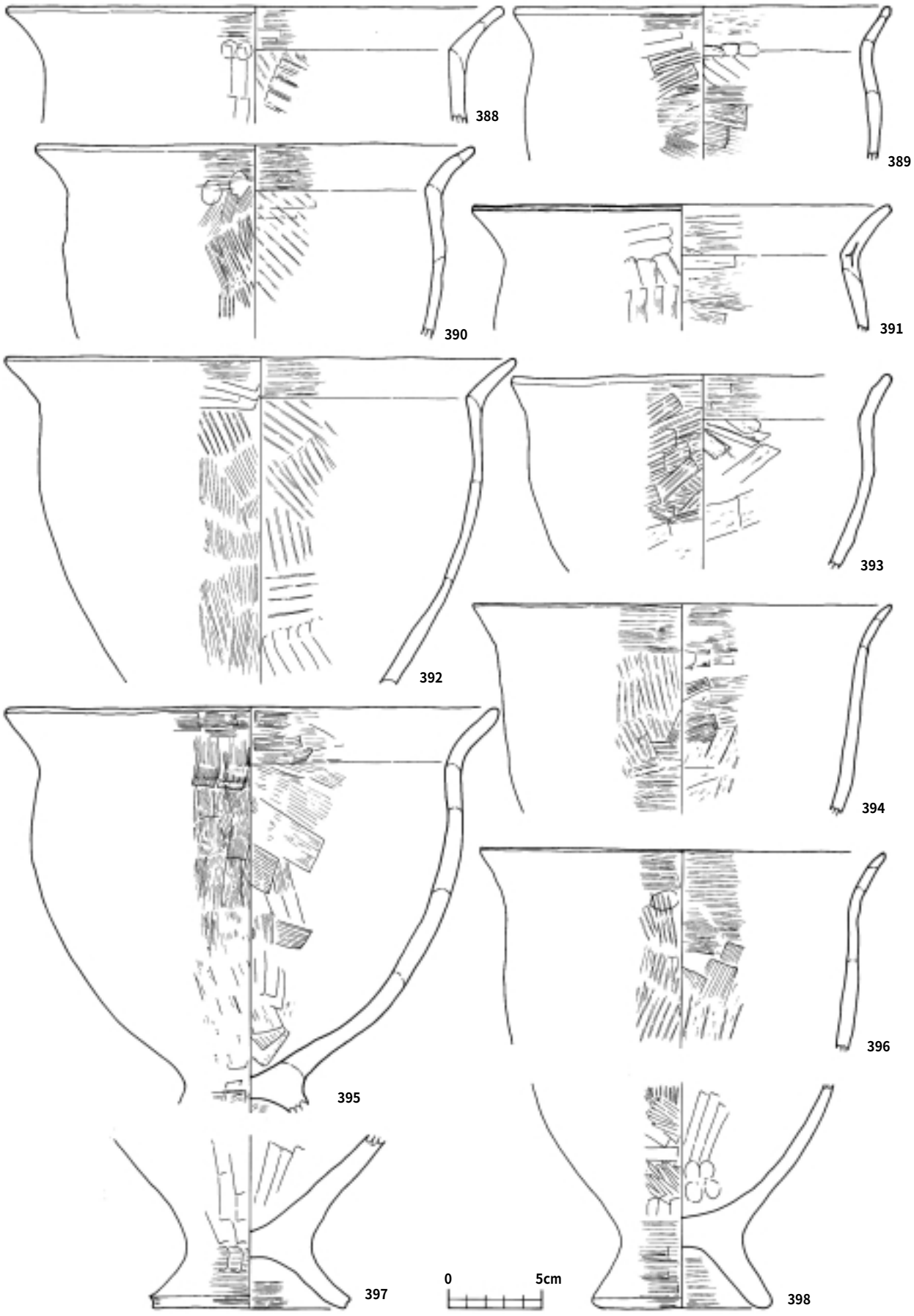

**第52図　2号竪穴住居跡検出･遺物出土状況**



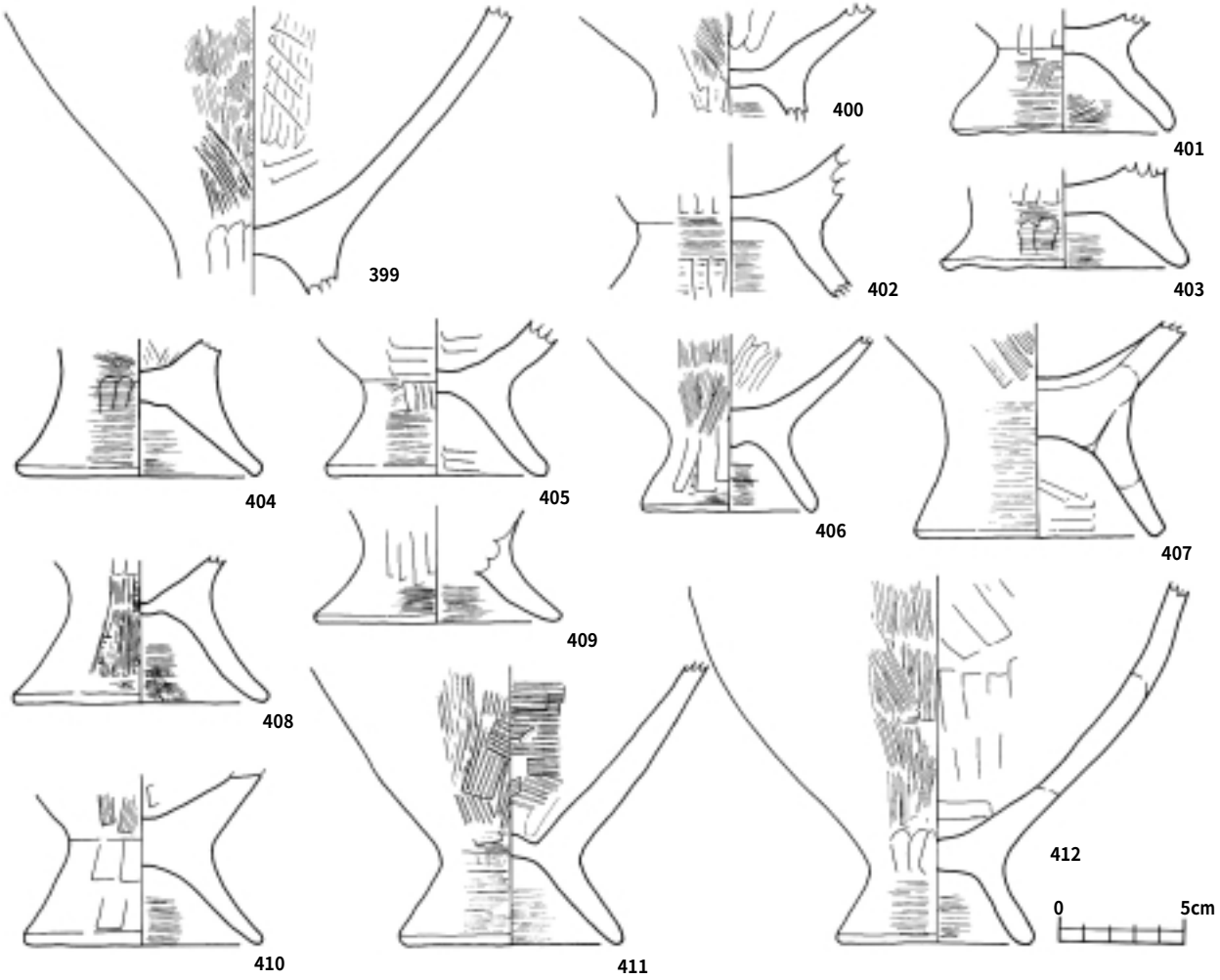

第53図　2号竪穴住居跡出土遺物(土器1)




**第54図　2号竪穴住居跡出土遺物(土器2)**




第55図　2号竪穴住居跡出土遺物（土器3）



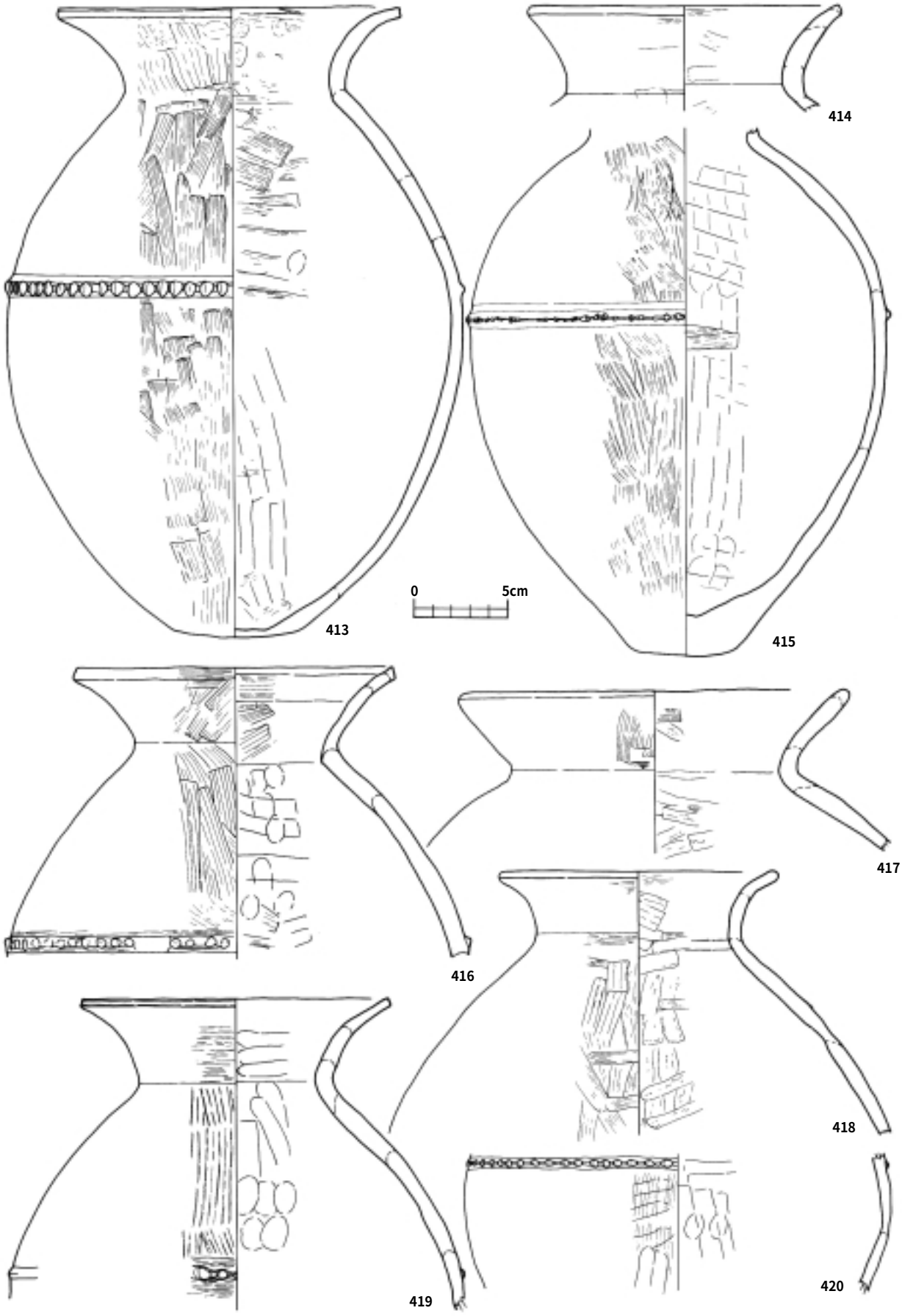

**第56図　2号竪穴住居跡出土遺物（土器4）**

400～410は底部である。401，403，406，407，412は脚が立ち気味になり，404，405，408～410は脚が拡がる土器である。403及び409は，脚部の形態にかかわらず，脚が低いのが注目できる。また，402及び403は底部内面が特に平坦な形態のもの，406及び408は底部内面に突起がつく形態のものである。底部の厚さに違いがあるものの，404及び407では，径の小さな平底の立ち上がり部分に中空の輪状の脚台を付ける成形技法が明瞭に観察できた。脚の低い409でも薄い底部を厚くしたうえで，中空の輪状の脚台を付けるようである。

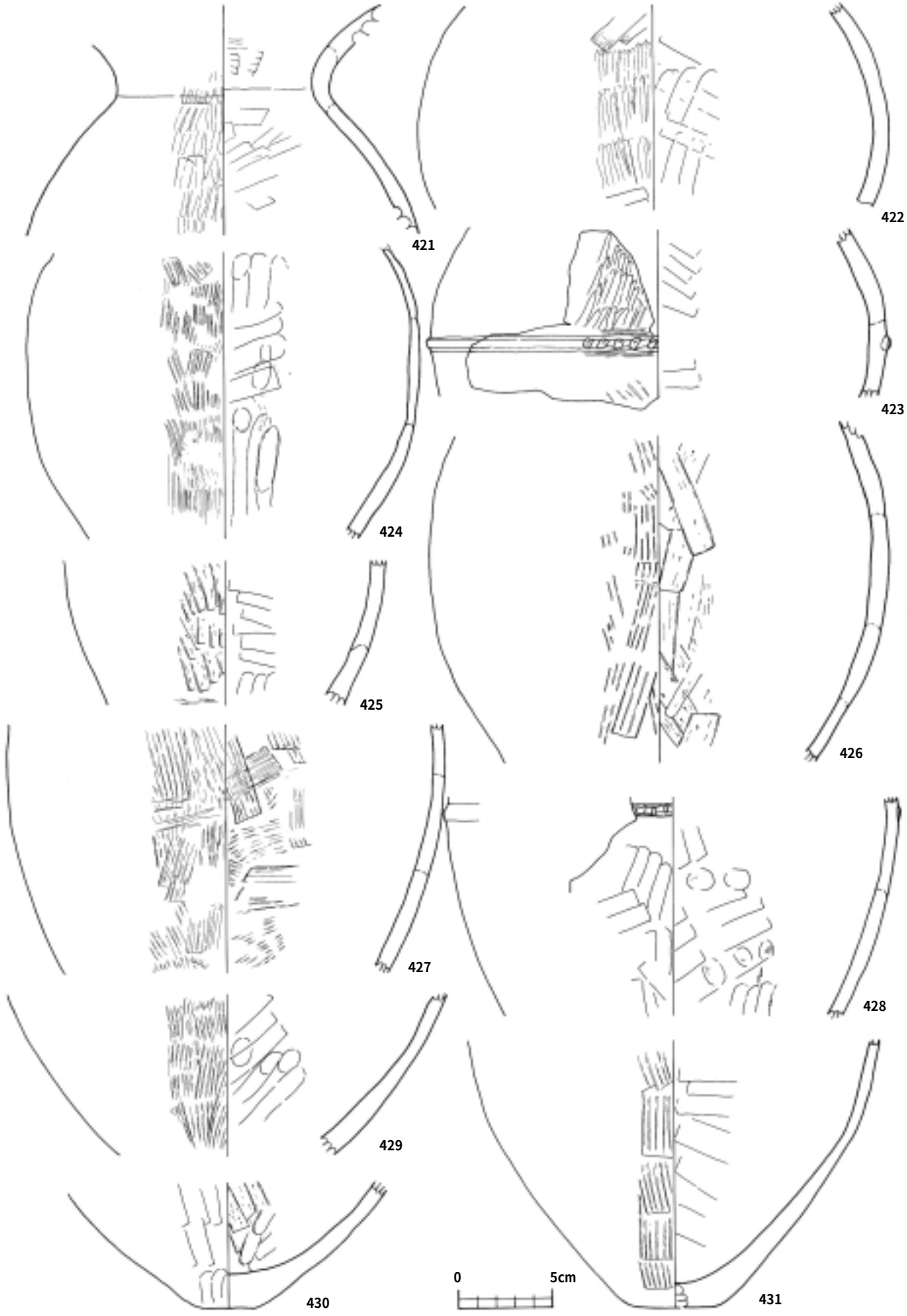
壺形土器（第57図～第59図　413～437）

413～431は中型土器のうち長胴形の壺形土器である。

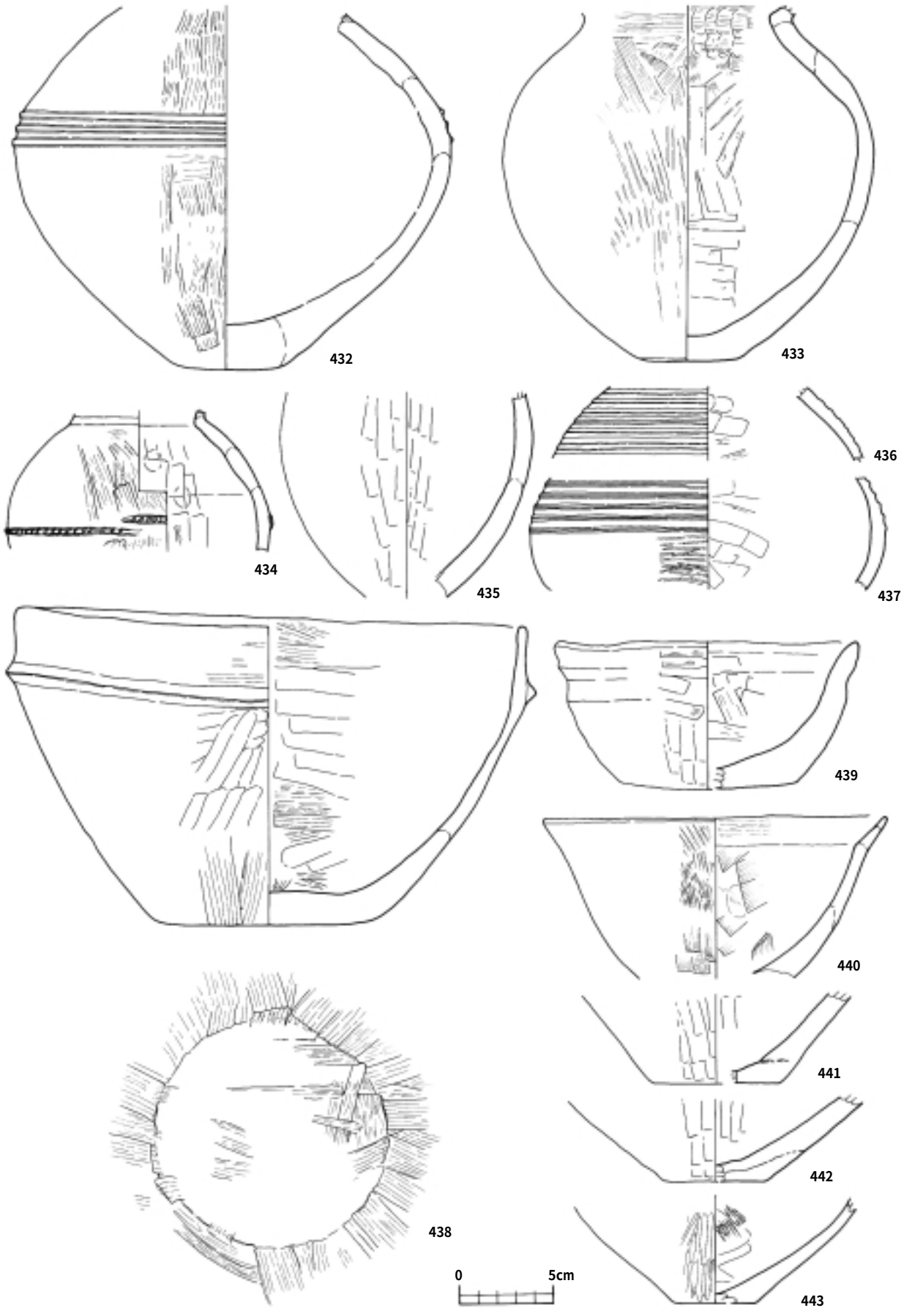
器形的特徴としては，口縁部形態では，大きく外反するもの（413，421）と，直線的に開くもの（416，417）と，肩部から頸部に立ち上がり，短く開く口縁部がつくもの（418，419）の3種類がみられる。肩部はいずれもなだらかに胴部に移行する。胴部中央部には，刻目を施す貼り付け突帯を1条巡らすもの（413，415，416，419，420，423，428）が多いものの，突帯を施さないもの（424，426，427）もみられる。胴部下半は緩やかにすぼまるもの（413，429）と，直線的にすぼまるもの（425，431）がある。



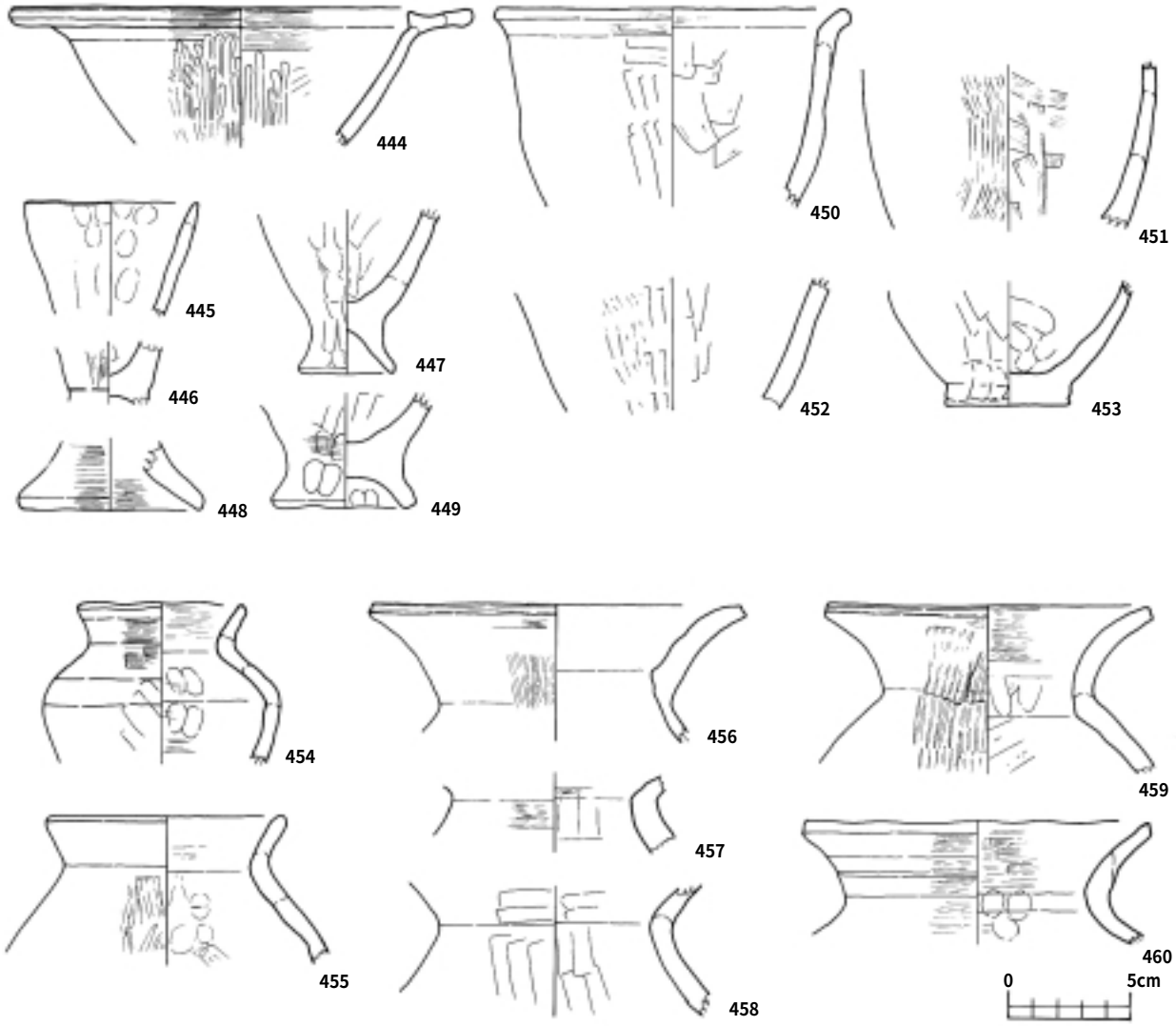

**第57図　2号竪穴住居跡出土遺物（土器5）**




**第58図　2号竪穴住居跡出土遺物（土器6）**




第59図　2号竪穴住居跡出土遺物（土器7）




**第60図　2号竪穴住居跡出土遺物（土器8）**

調整は，口縁部外面では，上端までハケメ調整を行うもの（413，416，417）と，上半はヨコ調整を，下半はタテ方向のハケメ調整を行うもの（418，419），ヨコ調整の後にナデ調整を行うもの（414）がある。肩部から胴部では，外面はハケメ調整を行い，内面は上半ではヨコあるいは斜方向のヘラナデ調整を行い，下半ではヘラナデ調整を行うものが多い。なお，刻目を施す貼り付け突帯を巡らすものは，突帯の上端と下端にヨコ調整を行うものが多い。ハケメ調整には，幅が太めの工具を使用するもの（419，426，431）と，幅が細めの工具を使用するもの（413，415，416など）がある。特徴的な土器としては，まず，421，423は胴部上半外面ではミガキに近い丁寧なナデ調整を行うものである。また，425は胴部下半外面ではケズリ調整の後にタテ方向のハケメ調整を行い，428及び430は胴部下半外面ではタテ方向のヘラナデ調整を行い，426は胴部下半内面ではタテ方向のケズリ調整の後にタテ方向のナデ調整を行うものを挙げることができる。

432，433は中型土器のうち胴部が球形に張る壺である。口縁部形は不明である。432では胴部中央部には貼り付け突帯を3条巡らし，胴部下半は直線的にすぼまる。433では胴部中央部には貼り

付け突帯を施さず，胴部下半は緩やかにすぼまる。調整は外面では共にタテ方向のハケメ調整を行い，内面ではヘラナデ調整を行う土器である。

435は長胴形の小振りの壺形土器である。突帯を施さず，胴部下半は緩やかにすぼまる土器である。調整は，内外面共にタテ方向のヘラナデ調整を行う土器である。

434，436，437は小振りの土器のうち胴部が球形に張る壺形土器である。完形の土器がないため，口縁部形及び胴部下半から底部形態は不明である。434は胴部中央部には貼り付け突帯を１条巡らし，調整は外面では共にタテ方向のハケメ調整を行い，内面ではタテ方向のヘラナデ調整を行う土器である。436と437は同一個体である。胴部上半外面ではミガキに近い丁寧なヨコ方向のナデ調整を行った後に，削り出しによる多条の突帯を施す土器である。内面ではヨコ方向の丁寧なヘラナデ調整を行う土器である。

鉢形土器（第59図　438～443）

438は口径約27cm，底径約13cm，高さ約17cmを測る土器である。口縁部は直立し，胴部は直線的に底部にすぼまる。底部は平底である。口縁部と胴部の境には断面三角形状の突帯を１条巡らす。調整では，口縁部外面ではヨコ調整を，胴部上半外面ではタテ方向のヘラナデ調整を，胴部下半外面ではタテ方向のハケメ調整を，内面ではヨコ方向のヘラナデ調整を行う。特に，底部外面のハケメ調整が注目できる。胴部下端のハケメ調整との先後関係は一方的でなく，この土器をもって，成形は口縁部から底部へ積み上げたとは言えない。ただし，底部から口縁部へ積み上げる順位方向での成形を考えた際には，生乾きの早い段階で底面を上げての底面調整であることを示している。

439～443は小振りの鉢形土器である。

439は底部から直線的に開き，口縁部外面直下に１条凹線を巡らす。口縁部内面と胴部の境界は不明瞭である。調整は，内外面共にナデ調整を行う。440は底部から口縁部では緩く弯曲したボウル形を呈し，口縁部外面と胴部の境界は不明瞭である。口縁部内面と胴部の境界には，胴部上端部に斜方向のハケメ調整及びナデ調整が行われ，明瞭な稜線が観察できる。441～443は底部である。底部から胴部下半では直線的に開き，441では立ち上がりが強く，442，443では大きく開くものである。調整は，内外面共にタテ方向のヘラナデ調整である。443では外面調整はタテ方向のミガキに近い丁寧なナデ調整が行われる。

444は鉢形土器あるいは蓋である。口縁部は長く延び，口唇先端は平坦面を呈する。口縁部内面と胴部との境には，断面三角形状の突帯を巡らす。胴部は緩やかに弯曲しながらすぼまる。調整は，口縁部は内外面共にヨコ調整が施され，胴部は内外面共にタテ方向のミガキに近い丁寧なナデ調整を行うものである。

第60図445～453は甕形土器のミニュチュア土器及び小型土器である。445は短頸壺形土器の直行する口縁を呈し，肩部はなだらかである。446～449は甕形土器を模したミニュチュア土器である。450～452は口縁部が短く外反する小型の甕形土器である。調整は，いずれもタテ方向のヘラナデ調整あるいはハケメ調整である。453は緩やかに弯曲しながらすぼまる土器である。胴部下半に円盤状の平底がつく。調整は内外面共にナデ調整である。

第60図454～460は壺形土器の小型土器である。454・455はわずかに開く短い口縁部から胴部へ肩部が張る形態を呈する。456～460は口縁部が大きく外反し，肩部はいずれもなだらかに胴部に移行する土器である。

ウ　3号竪穴住居跡（SH-03）（第61図～第64図，図版８）

(ｱ)　住居跡構造

Ａ・Ｂ－４区で検出された3号竪穴住居跡の上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約550cm×短辺約520cmで，検出面から床面までの深さは約35cmである。住居西側に長辺約100cm×短辺約80cmを測る小規模な張り出しを確認した。また,検出段階では確認できなかったものの，中央部にある掘り込みは，住居跡廃絶後に改めて造られた遺構であることが断面で明らかである。また，床面には33基のピットを検出した。そのうち北西壁から約140cm離れたＰ１及びＰ２と，南東壁から約70cm離れたＰ３及びＰ４を主柱と考え，４本柱の構造と認められる。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね2層に分かれ，出土した多くの遺物は，埋土最上層の埋土１から出土した。床面直上の出土遺物はなく，埋土下層の埋土３の出土遺物は１点である。また，478や462は住居廃絶後に一括廃棄されたものである。なお，378は１号竪穴住居跡と，出土土器のうち２点は２号竪穴住居跡と接合関係が認められる。

出土土器は，甕形土器，壺形土器，小型土器，蓋で構成される。

甕形土器（第62・63図　461～477）

461，462は口径約30cmを測り，口縁部が「く」の字状に長めに外反する中型土器である。口縁部内面と胴部の境界には明瞭な稜線が観察できる。463～465，471は口径約30cmを測り，口縁部は外反の度合いが弱い中型土器である。口縁部外面と胴部の境界ではヘラナデ調整（463，464），若しくは掻き上げ調整（465，471）が施され，稜線は不明瞭である。466～470，474～477は小振りの甕形土器で，466～468の口径は約20cmである。466では口縁部が内弯し，467では口縁部の外反の度合いが強く，468では口縁部の外反の度合いが弱い土器である。474～477は底部である。474～476は底部内面が平坦な形態を呈し，脚が立ち気味である。

壺形土器（第63・64図　478～484）

477，478は胴部が張り，胴部中央部に刻目を施す貼り付け突帯を１条巡らす土器である。478は口縁部が大きく外反するものである。483は径約４cmの平底である。

480，481，484は小型土器である。480は口縁部が直立し，481はわずかに開く口縁部形態を呈し，484は長胴形を呈する土器である。

鉢形土器（第64図　485）

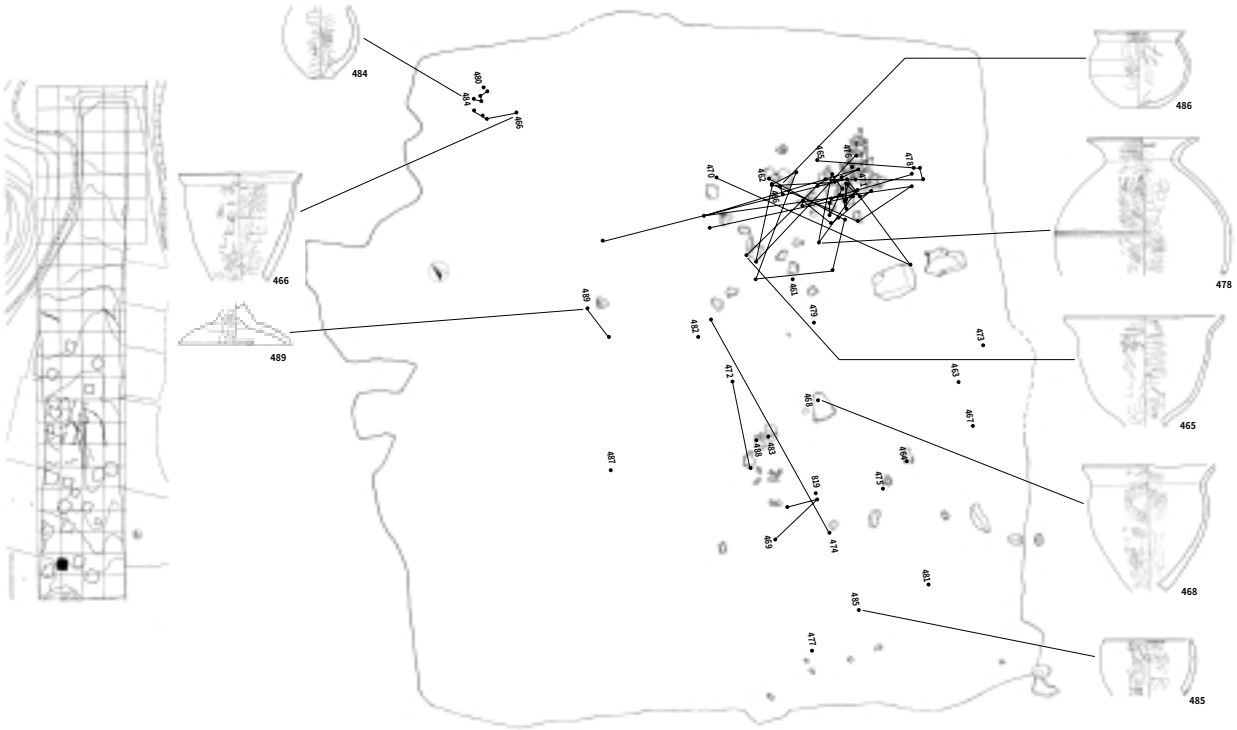
485は円形浮文が胴部下半に貼付される土器である。口唇部は丸く収まり，口縁部はやや内傾し，胴部は張らずに，直線的にすぼまる形態を呈する。調整は，細い篦状工具での強いナデ調整が行われる。

蓋（第64図　489）

489は蓋である。把手部先端は欠損し，全体形は不明である。体部は緩やかに弯曲し，端部へ移行し，端部内面には平坦面を作出する。内面中央部には円錐状の凹み部には，工具の回転痕が残り，篦状工具で整形後に作ったことがわかるほど，調整は粗い。

小型壺形土器（第64図　486）

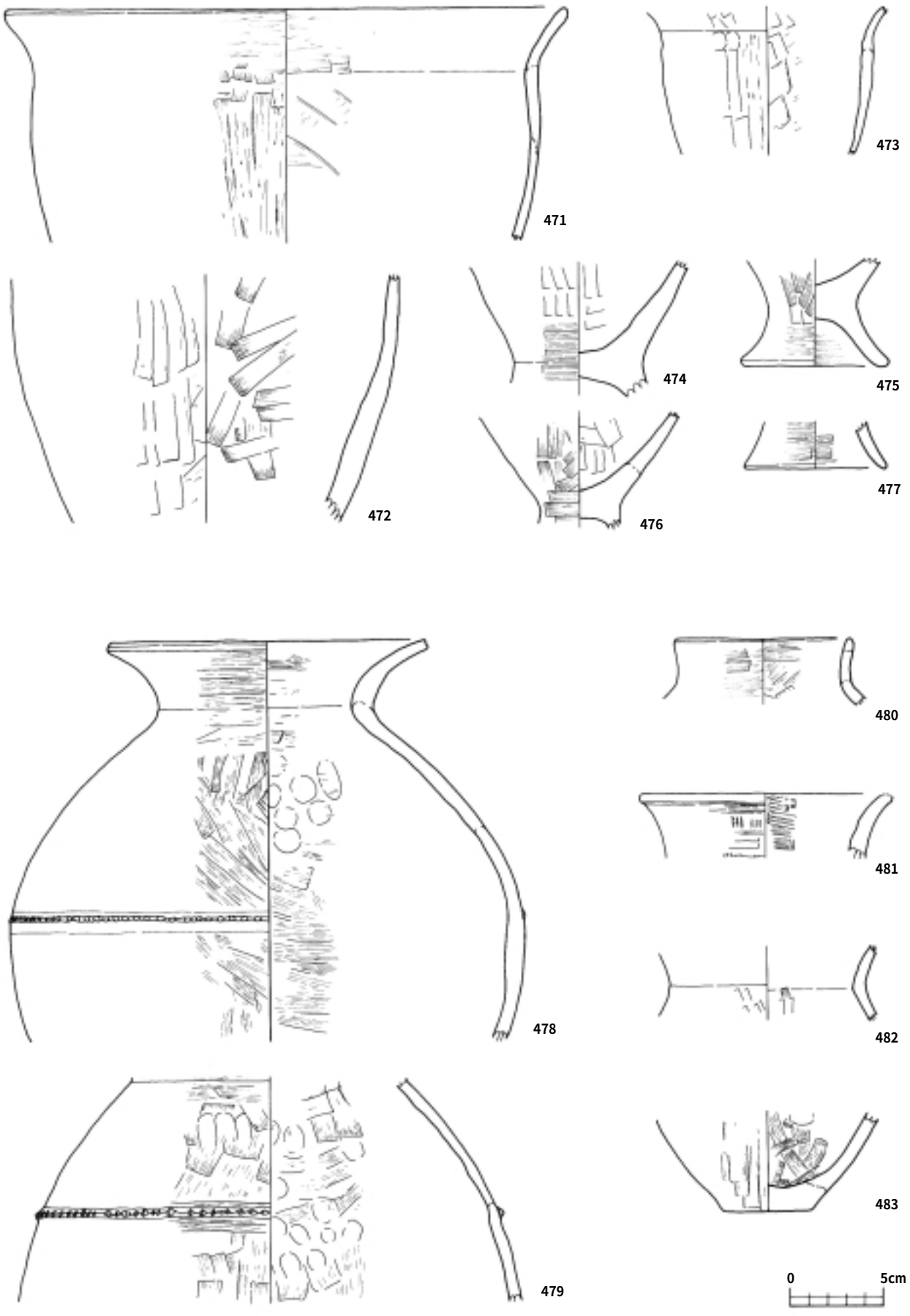
486の口縁部は短く，頸部から直接外へ開く。胴部は球形状を呈し，底部は直径約６cmの丸底に近い平底である。口縁部の器壁の厚さが薄いこと，内外面の色調が黄白色を呈すること，口縁部及



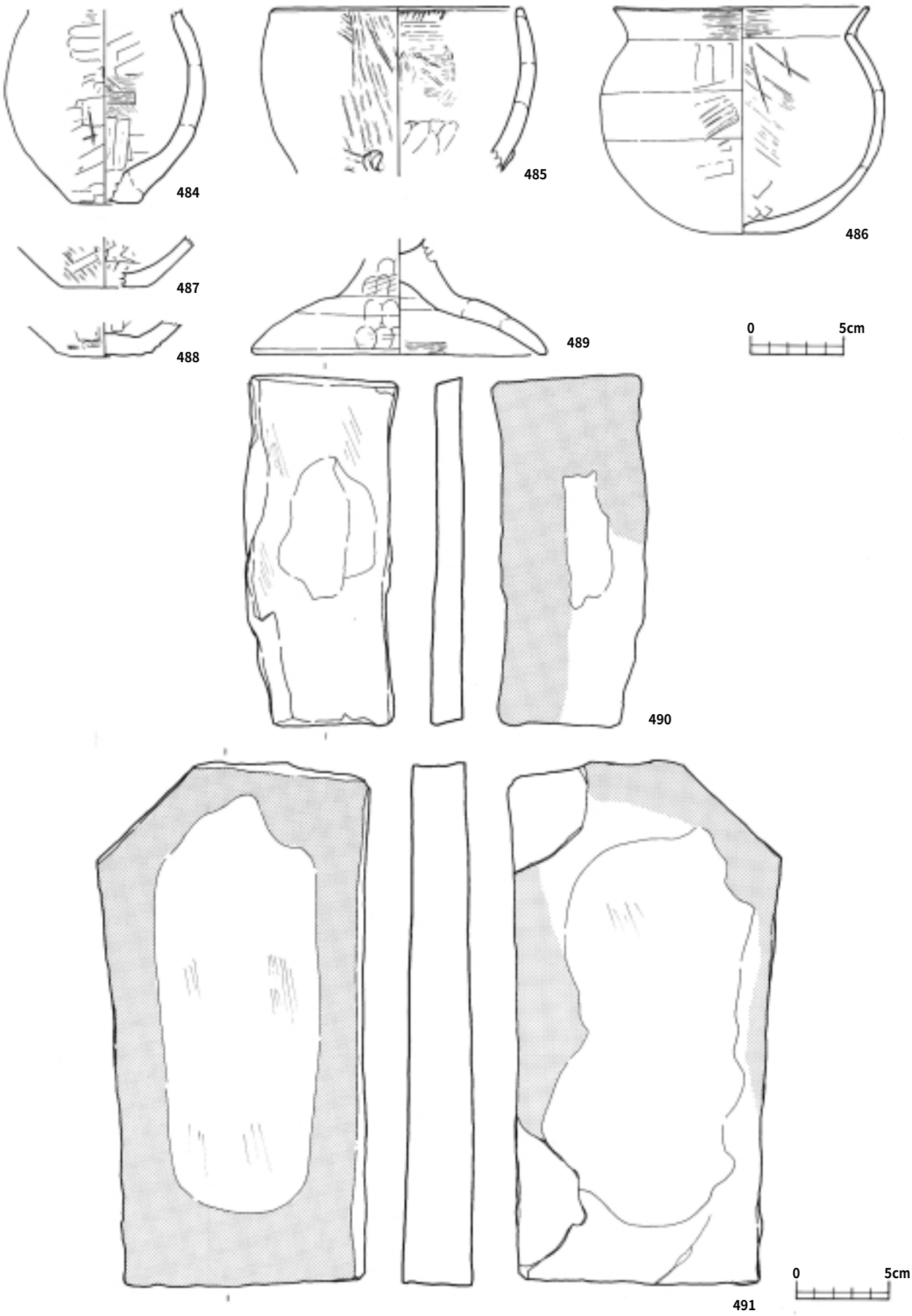

1暗褐色粘質土（白色粒・黄色パミスを含む）
2暗黄褐色粘質土（黄色パミスを多量に含む・白色粒を含む）
3暗茶褐色粘質土（黄色パミスを含む・炭化物を含む）
4黄褐色粘質土（黄色パミスを含む）
5暗茶褐色粘質土（黄色パミスを含む）
6暗黄褐色粘質土（黄色軽石粒を多量に含む）
7 3と同じ
8 4と同じ
9暗褐色粘質土（黄色パミスを含む・炭化物を含む）

**第61図　3号竪穴住居跡検出･遺物出土状況**

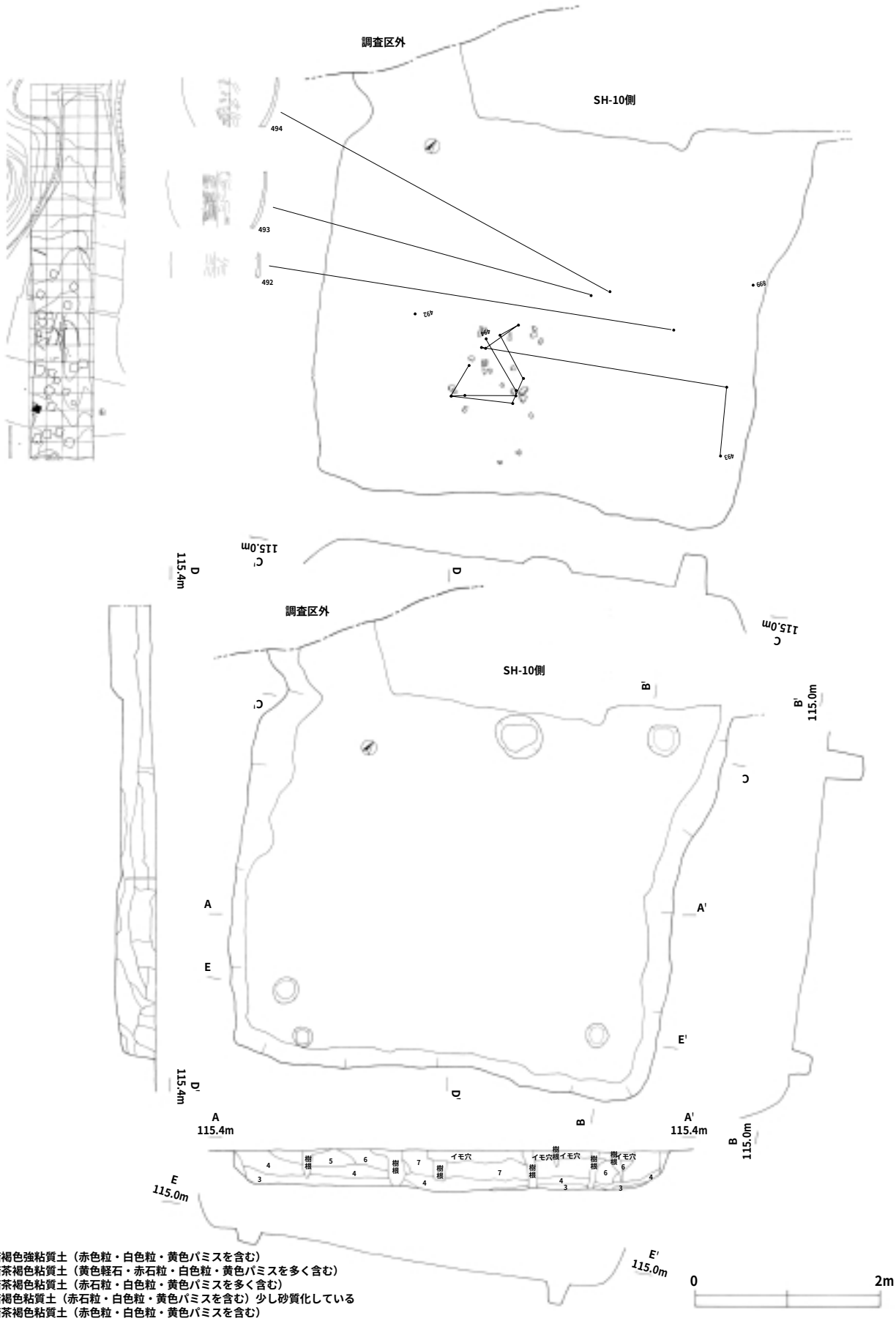
**第62図　3号竪穴住居跡出土遺物（土器1）**




第63図　3号竪穴住居跡出土遺物（土器2）

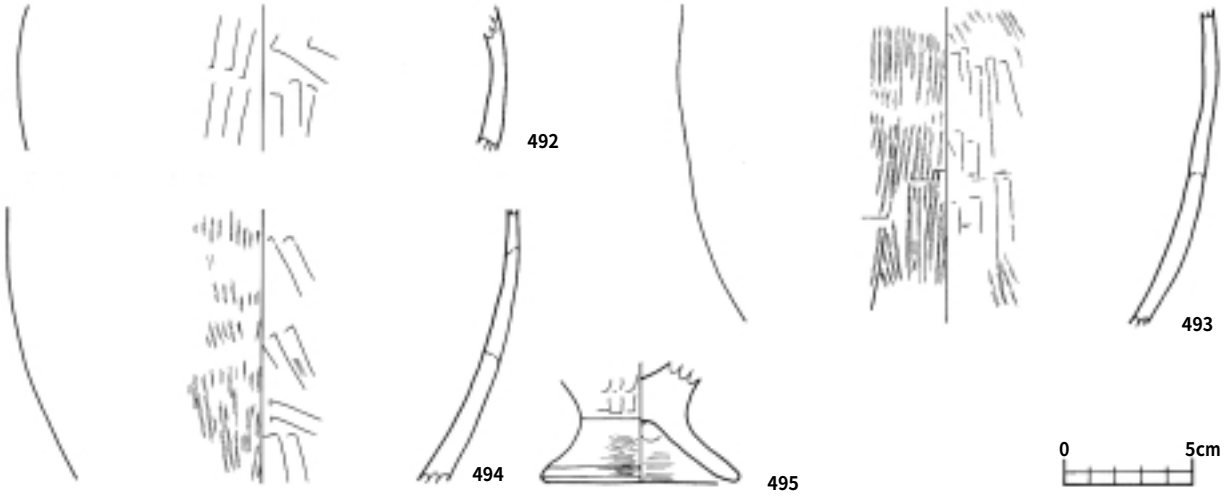



**第64図　3号竪穴住居跡出土遺物（土器3・石器）**




3 暗褐色強粘質土（赤色粒・白色粒・黄色パミスを含む）
4 暗茶褐色粘質土（黄色軽石・赤石粒・白色粒・黄色パミスを多く含む）
5 暗茶褐色粘質土（赤石粒・白色粒・黄色パミスを多く含む）
6 暗褐色粘質土（赤石粒・白色粒・黄色パミスを含む）少し砂質化している
7 暗茶褐色粘質土（赤色粒・白色粒・黄色パミスを含む）

**第65図　4号竪穴住居跡検出･遺物出土状況**




**第66図　4号竪穴住居跡出土遺物（土器）**

び胴部最大径部にススの吸着がみられることなど，特徴的な土器である。

出土石器は，砥石及び鉄床石で構成される。

490，491は扁平な石材を使用した砥石及び鉄床石である。表裏両面共に使い込んでいる。490では一面に，491では両面及び側縁部に鉄分の付着及び被熱による変色が観られる。

エ　4号竪穴住居跡（SH-04）（第65・66図，図版9）

(ｱ)　住居跡構造

Ａ－5・6区で検出された4号竪穴住居跡は，北側を10号竪穴住居跡に切られ，西側が調査区外に延びるため，全体形は不明である。上面観は隅丸長方形を呈し，規模は長辺約480cm（残存部）×短辺約470cmを測る。検出面から床面までの深さは約40cmである。残存部には付帯施設は確認できなかった。また，床面には5基の柱穴を認め，壁際の4基のうち3基は住居隅に，1基は中央部に検出された。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね3層に分かれ，資料化した遺物は，床面直上と埋土3，埋土2からの出土である。埋土3ではガラス製の小玉が出土している。また，493，494は床面直上からの出土である。なお，床面直上出土遺物のうちの1点は15号竪穴住居跡埋土1の出土土器と接合関係が認められる。

出土土器は甕形土器（第66図　492～495）のみである。492～494は胴部である。調整は，492では丁寧なヘラナデ調整が，493・494ではタテ方向のハケメ調整の後ヘラナデ調整が行われる。ハケメ調整には，幅が太めの工具を使用するもの（494）と，幅が細めの工具を使用するもの（493）がある。495は脚が拡がり，脚の高さが低めの底部である。

オ　5号竪穴住居跡（SH-05）（第67図～第70図，図版８・９）

(ｱ)　住居跡構造

Ｂ－５・６区で検出された５号竪穴住居跡の上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約480cm×短辺約470cmを測る。検出面から床面までの深さは約40cmである。張り出し及び中央掘り込みなどの付帯施設は確認できなかった。また，床面には27基のピットを検出した。そのうち北西壁から約70cm離れ，床面からの深さが約25cmあるＰ１と，南東壁から約70cm離れ，床面からの深さが約40cmあるＰ２を主柱と考えるか，あるいは北東壁から約240cm離れ，床面からの深さが約25cmあるＰ３と，南西壁から約150cm離れたＰ４を主柱と考える，いずれも２本柱の構造と認められる。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね３層に分かれ，埋土１は撹乱層である。出土した多くの遺物は，埋土上層の埋土２からの出土である。また，埋土下層の埋土３出土土器16点のうち７点は，埋土２出土遺物との接合関係にあり，埋土内の上下動の激しさを示す。また，中央部埋土３のサンプル土から水晶製の小玉が出土した。床面直上からの出土は少なく，資料化できなかった。407は２号竪穴住居跡と，埋土２出土土器のうち，３点は６号竪穴住居跡埋土３出土土器と，496は６号竪穴住居跡床面直上の出土土器と，埋土２出土土器のうち１点は11号竪穴住居跡埋土２の出土土器と接合関係が認められる。

出土土器は，甕形土器，壺形土器で構成される。

甕形土器（第68図　496～502）

496は口径が約20cmを測る小振りの甕形土器である。口縁部内外面と胴部の境界では，明瞭な稜線が観察できる。調整は内外面共にヘラナデ調整が丁寧に行われている。497は中型の胴部下半部の甕形土器である。調整は，外面では細めのハケメ調整が，内面ではヘラナデ調整が行われる。498～502は底部である。499，501，502は脚の高さが高く，拡がる土器である。調整は外面では細めのハケメ調整やヨコ調整が行われ，内面ではヨコ調整が行われる。500は脚の高さが低く，短く立ち気味になる土器である。498では，径の小さな平底の立ち上がり部分に中空の輪状の脚台を付ける成形技法が明瞭に観察できた。

壺形土器（第68図　503～515）

503～505，508，509は中型土器のうち長胴形の壺である。口縁部は大きく外反し，肩部はなだらかに移行し，胴部中央部には，刻目を施す貼り付け突帯を１条巡らすものである。調整は，口縁部外面ではヨコ調整の後にナデ調整を行い，肩部から胴部では，外面はハケメ調整の後にヘラナデ調整を行い，内面は斜方向のハケメ調整やヘラナデ調整を行う。

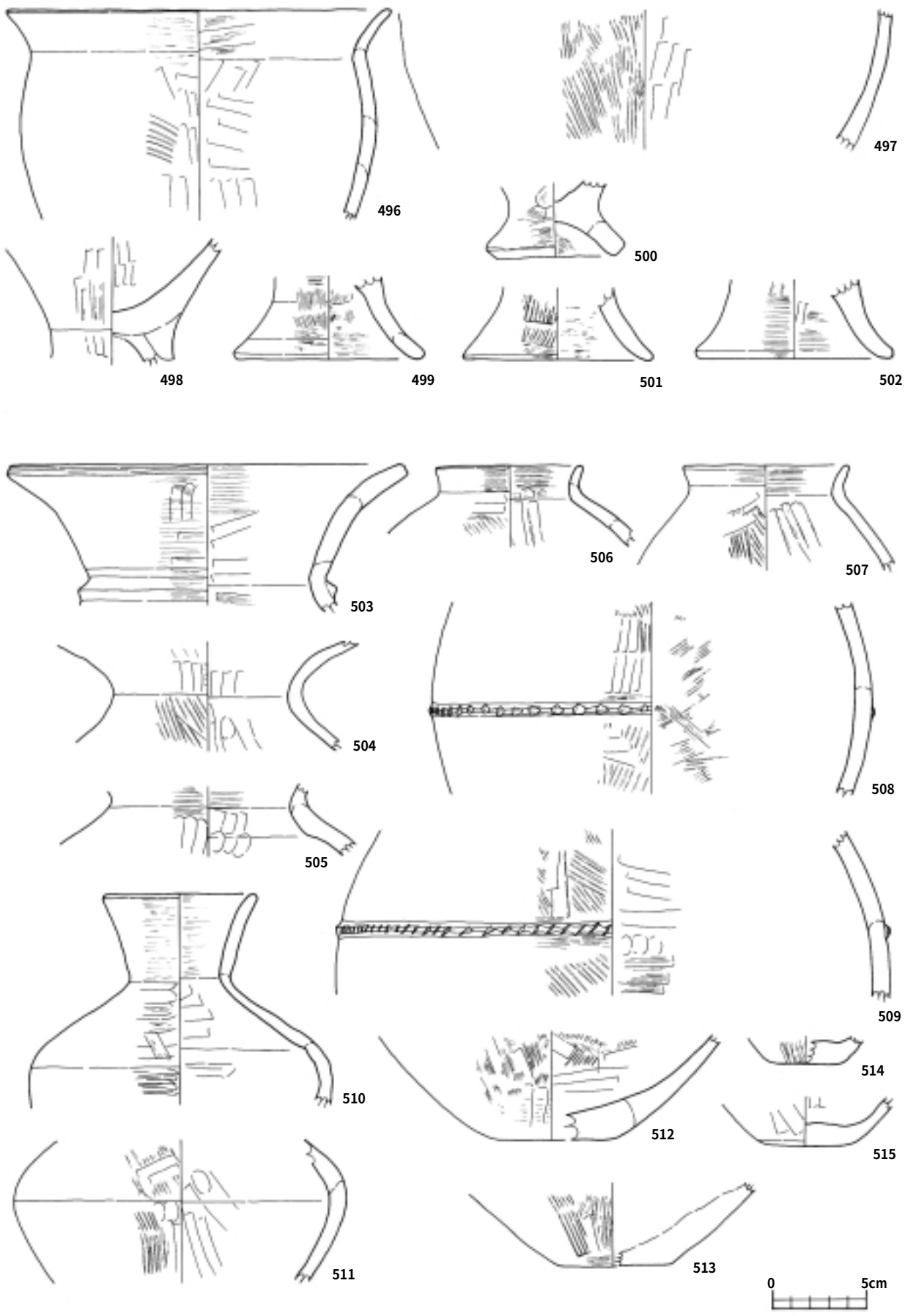
512，513，515は中型土器の底部である。512，513は底部が開き，胴部下半から直線的にすぼまり平底を呈する，胴部が球形に張る壺形土器の底部と考えられる。また，515は底部の立ち上がりが強く長胴形の壺形土器の底部と考えられる。

506，507は短頸壺形土器の小型土器である。わずかに開く口縁部は短い。506は肩部が張る形態を呈し，507は肩部がなだらかに胴部に移行する土器である。514は底径がかなり小さい平底を呈する。

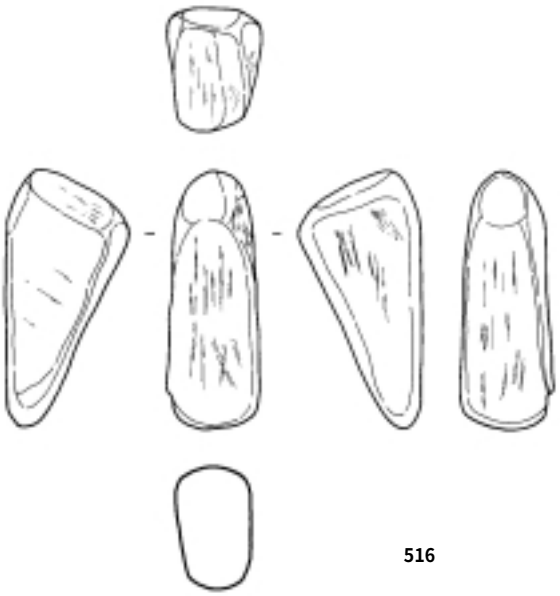
510・511は肩部から胴部上半へ強く張る長頸壺である。頸部から口縁部は直線的にわずかに開く形態を呈する。胴部上半から下半へは，外面では緩やかに移行し，稜線は非常に不明瞭である。ま

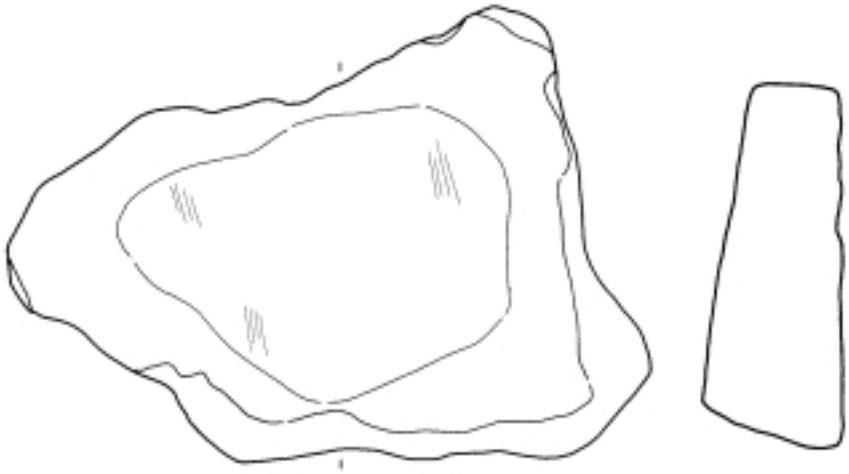
1暗褐色粘質土（赤色粒・白色粒・黄色パミスを含む）
2暗褐色強粘質土（黄白色軽石・赤色粒・白色粒・黄色パミスを含む）
3暗黄褐色粘質土（赤色粒・白色粒を含む）
4 3と同じ
5 4と同じ
6暗褐色強粘質土（黄色パミス・白色粒を多く含む）

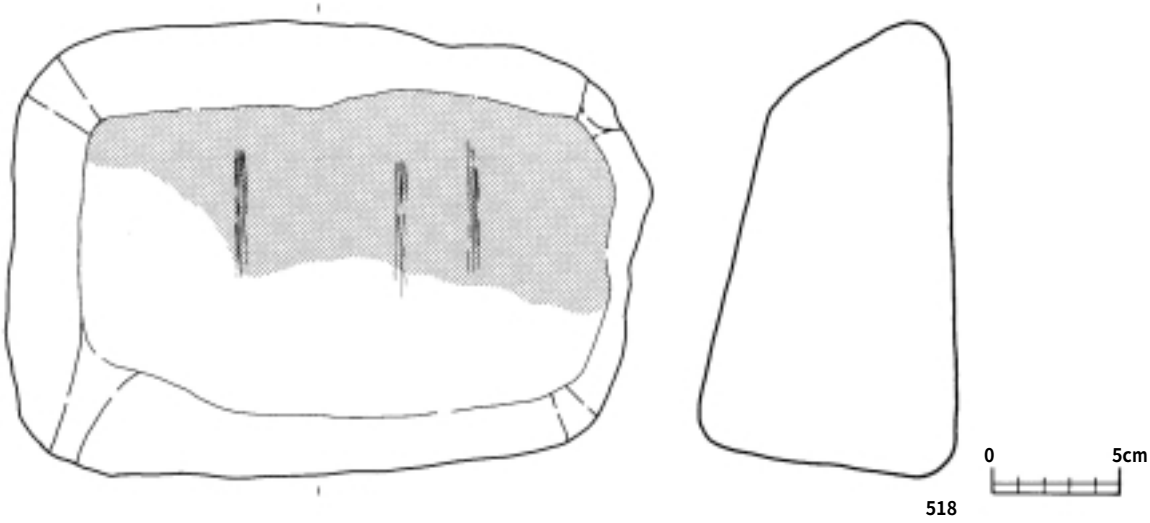
**第67図　5号竪穴住居跡検出･遺物出土状況**



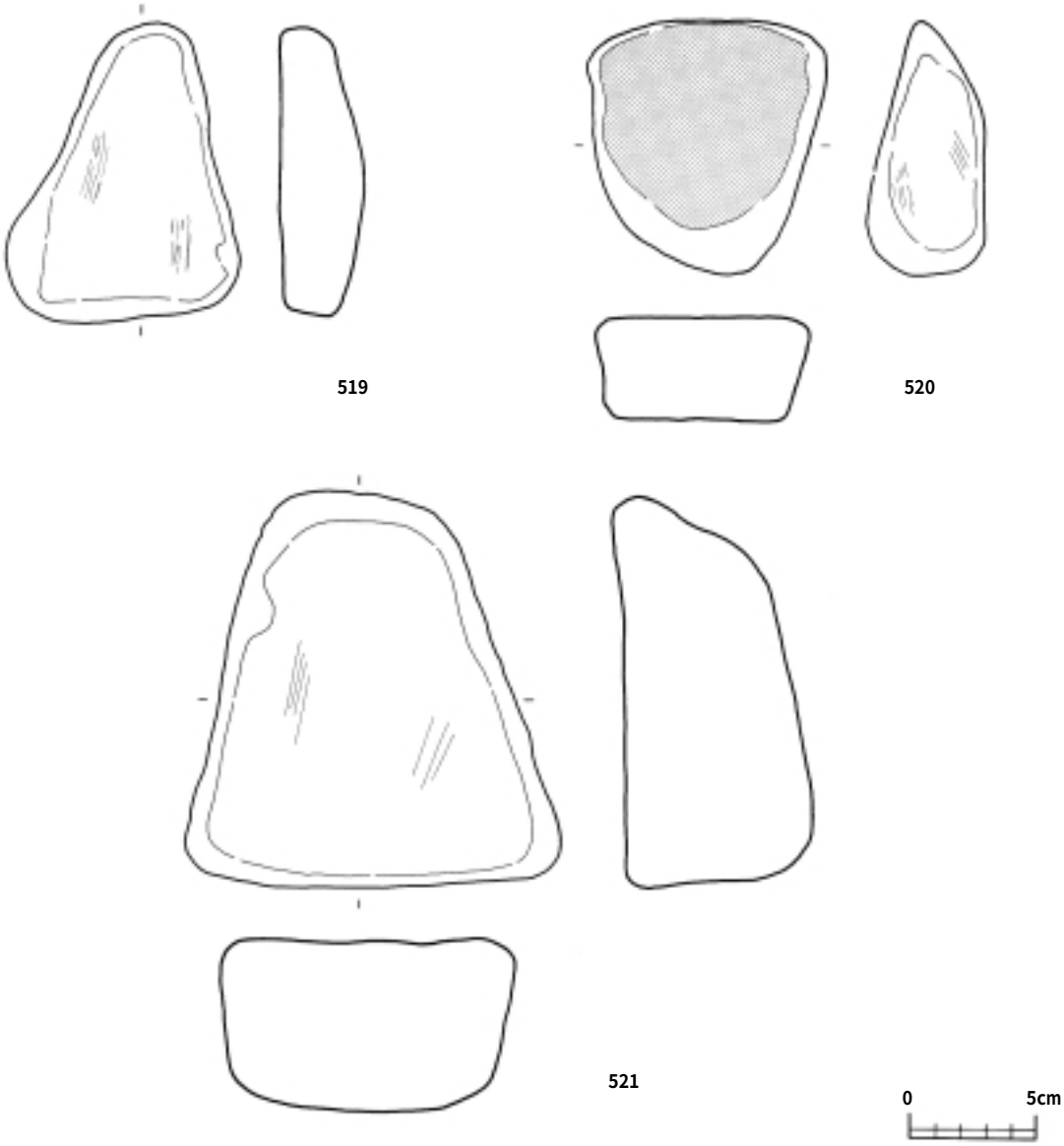

第68図　5号竪穴住居跡出土遺物（土器）




**第69図　5号竪穴住居跡出土遺物（石器1）**

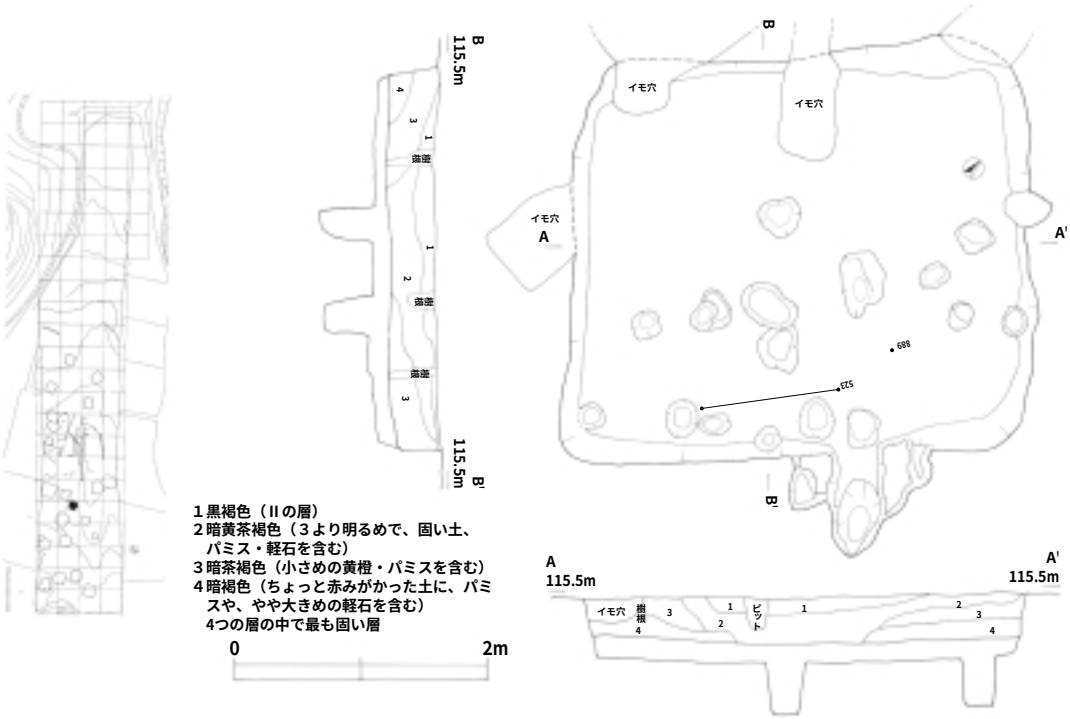



**第70図　5号竪穴住居跡出土遺物（石器2）**

た，内面では胴部上半に接合の際の痕跡が明瞭に残存し，しぼりも観察できる。調整は，外面では細めのハケメ調整が全体に行われ，特に肩部から胴部上半ではミガキに近い丁寧なナデ調整が行われる。また，内面ではヘラナデ調整が観察できる。

出土石器は，砥石及び鉄床石，鎚石で構成される。

516，519，520は砥石と鎚石の兼用品である。516では長さ約10cmの小円礫の5面を使用し，519，520では長さ約10cmの扁平な小円礫を使用し，共に，線条痕が観察できることから手持ち砥石と想定できる。また，被熱の影響と考えられる黒色化や赤色化が観られ，鎚石への使用も考えられる。517，518は鉄床石と砥石の兼用品である。共に大きな礫を使用し，表面が黒色化，赤色化し，517では側面部に敲打痕があり，鉄床石への使用が考えられる。また，多くの線条痕が観察できる面があり，置き砥石としての使用も想定できる。520は長さ約15cm，厚さ約8cmの円礫の1面が凹部を呈し，敲打痕があり台石と想定できる。




**第71図　6号竪穴住居跡検出状況**

**第72図　6号竪穴住居跡出土遺物（土器）**

カ　6号竪穴住居跡（SH-06）（第71・72図，図版9・10）

(ｱ)　住居跡構造

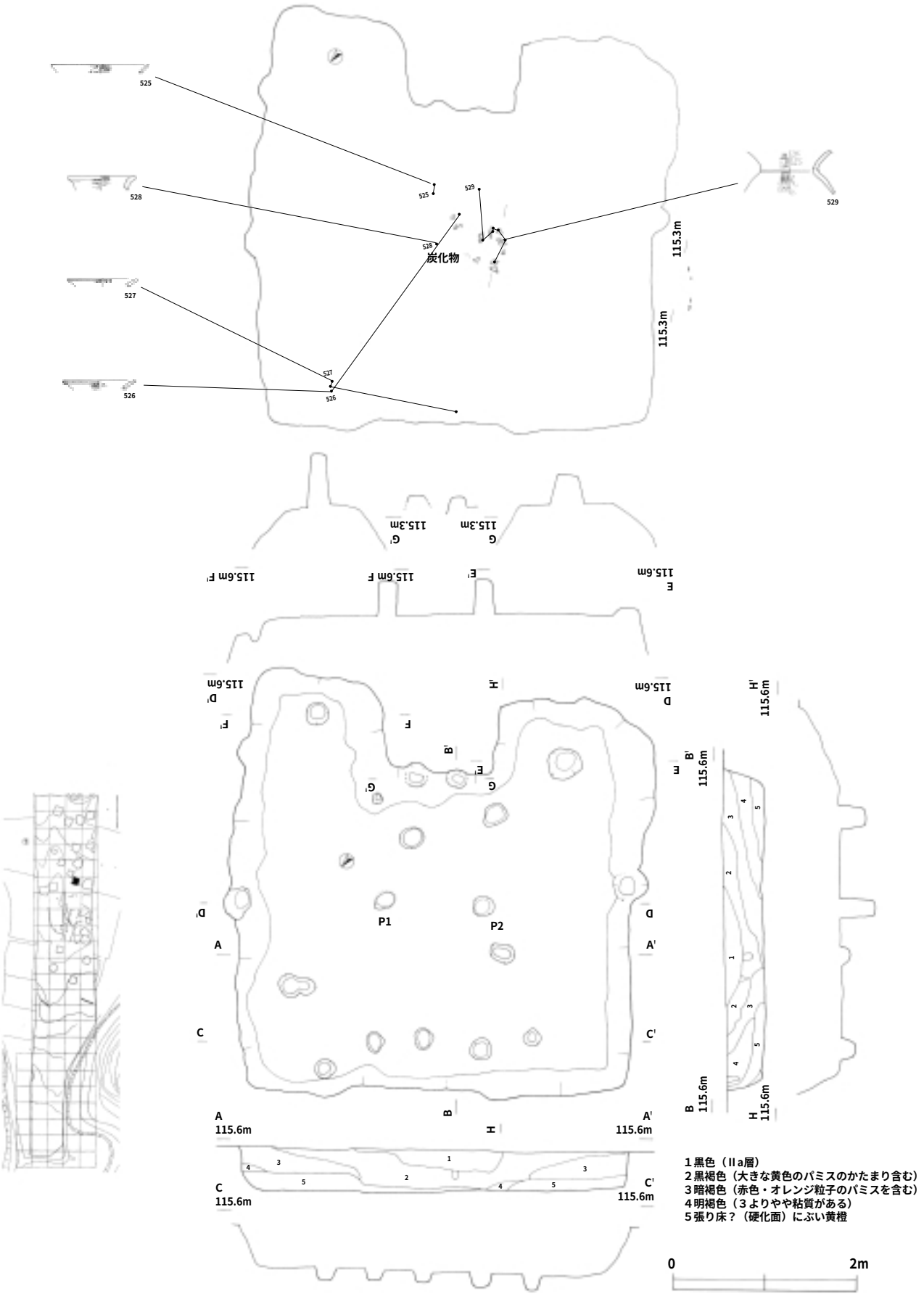
Ｂ－7区で検出された6号竪穴住居跡の上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約370cm×短辺約320cmを測る。検出面から床面までの深さは約30cmである。南東壁側に三角形状に約80cm突き出た付帯施設を確認した。先端部には深さ約30cmの斜方向に延びるピットが併せて検出されており，性格は不明である。また，床面には18基のピットを検出し，いずれも東側に集中し，特異的である。また，北東壁から約200cm離れ，床面からの深さが約40cmあるＰ1とＰ2を主柱と考え，心心距離が約70cmと短い2本柱の構造と認められる。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

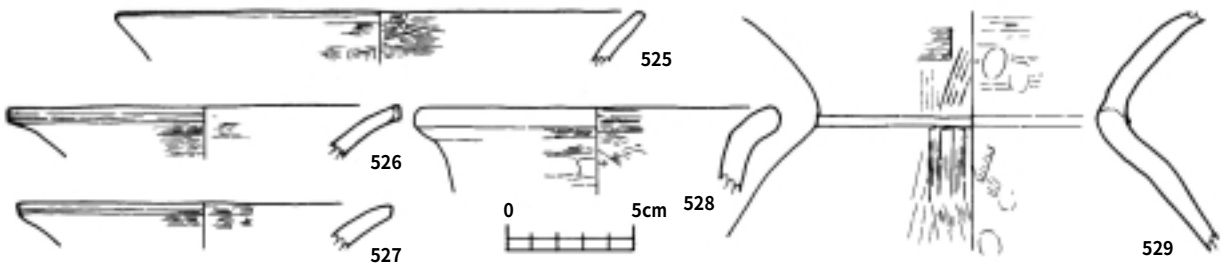
住居跡内の埋土は概ね3層に分かれ，出土した多くの遺物は，埋土下層の埋土3と埋土上層の埋土2からの出土で，床面直上の出土遺物はない。なお，496は，5号竪穴住居跡と接合関係が認められる。

出土土器は，甕形土器，鉢形土器で構成される。

522は口径が約20cmの小振りの甕形土器である。口縁部は短めで外反の度合いが弱く，口縁部内




**第73図　7号竪穴住居跡検出･遺物出土状況**




**第74図　7号竪穴住居跡出土遺物（土器）**

外面と胴部の境界には明瞭な稜線が観察できない。523は小型の甕形土器胴部である。524は口径約15cmの小型の鉢形土器である。口唇内面は内傾し，胴部は緩やかに弯曲する土器である。

キ　7号竪穴住居跡（SH-07）（第73・74図，図版10）

(ｱ)　住居跡構造

Ｂ－８区で検出された７号竪穴住居跡の上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約460cm×短辺約430cmである。検出面から床面までの深さは約45cmである。南東側には，北側に長辺140cm×短辺110cmと，南側に長辺170cm×短辺60cmを測る張り出しと，それぞれ１基ずつのピットを検出した。この張り出しについては，住居構造での主柱配置から考えると，建築当初から想定された施設と想定でき，「長辺130cm×短辺70cmの掘り残し部分がある」と認識するのが正確である。また，北東側と南西側では厚さ約20cmの張り床が検出された。

床面には18基のピットを検出した。そのうち北西壁から約200cm離れ，床面からの深さが約35cmあるＰ１とＰ２が主柱と考え，心心距離が約110cmある２本柱の構造と認められる。この主柱軸上の両壁際には深さの浅い小ピットを検出した。また，北西壁から約50cm離れて壁に沿って柱穴の列状配置を確認した。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね３層に分かれ，出土した多くの遺物は，埋土上層の埋土２から出土した。床面直上や埋土下層の埋土３からの出土遺物は少なく，いずれも砕片である。出土遺物は住居中央部に集中する傾向がある。なお，他の住居跡と接合関係にある遺物は認められなかった。

出土土器は，甕形土器，壺形土器で構成される。

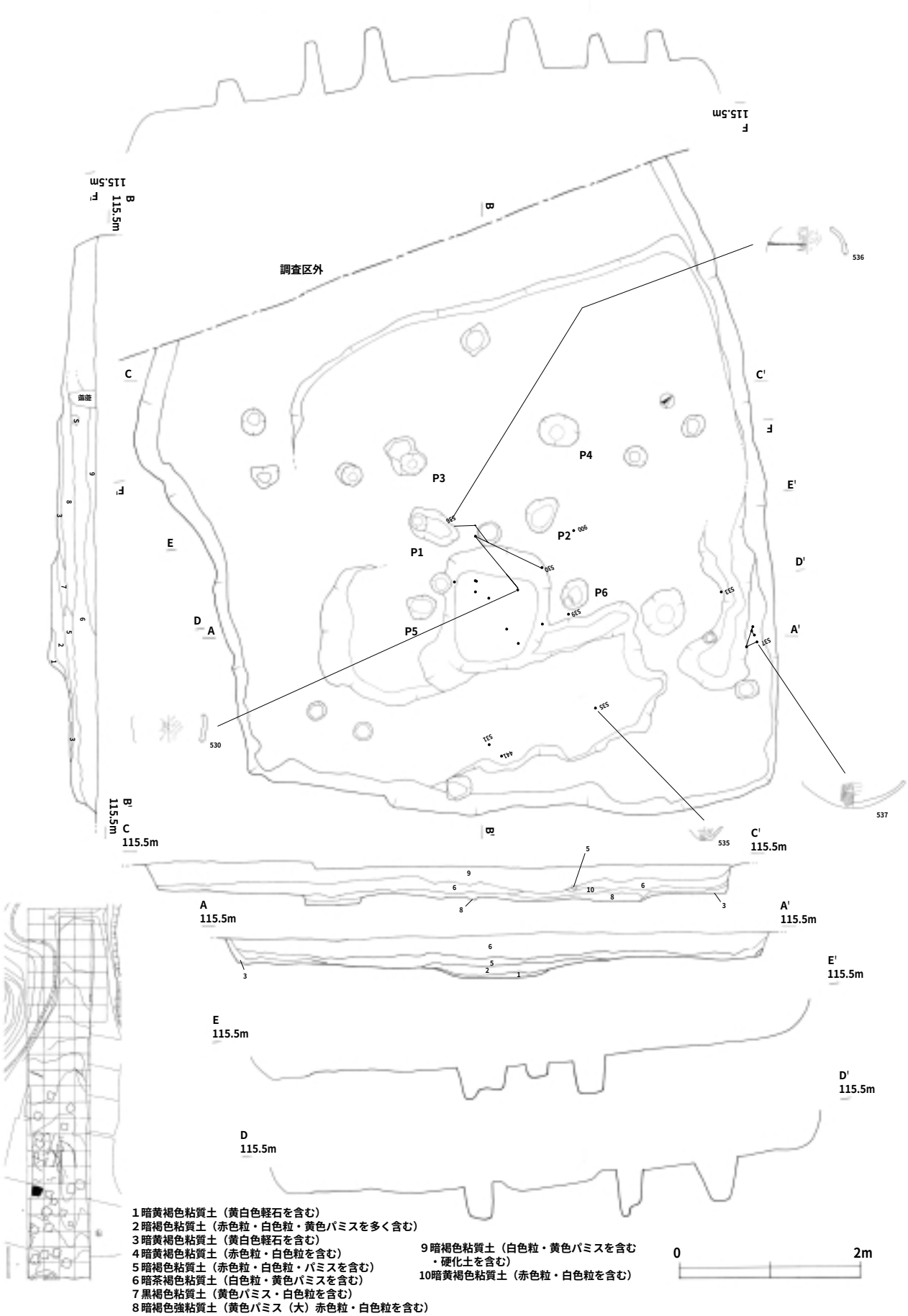
甕形土器（第74図　528）

口径約15cmを測る，口縁部が短く外反する長胴形の小型の甕形土器である。調整は，口縁部がヨコ調整，胴部上端がヨコ方向のヘラナデ調整である。

壺形土器（第74図　525～527，529）

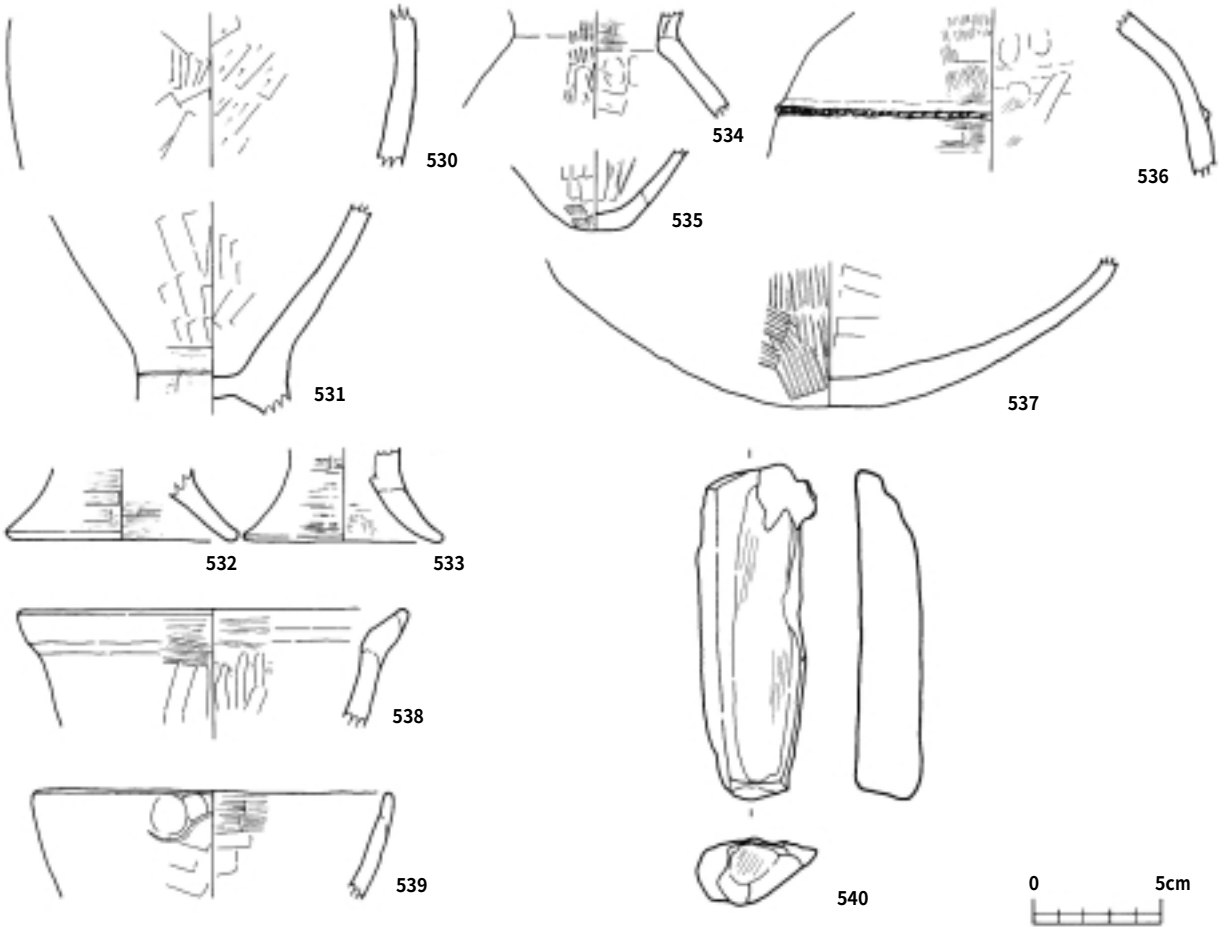
525，529は中型土器である。525は直線的に開く口縁部の先端部分である。529は口縁部が大きく外反し，長胴形を呈する土器である。525では調整が内外面共にヨコ調整を行い，529ではタテ方向のハケメ調整の後にナデ調整がを行う土器である。

526，527は小型土器である。いずれも口縁部が大きく外反し，調整は内外面共にヨコ調整を行う土器である。




1暗黄褐色粘質土（黄白色軽石を含む）
2暗褐色粘質土（赤色粒・白色粒・黄色パミスを多く含む）
3暗黄褐色粘質土（黄白色軽石を含む）
4暗黄褐色粘質土（赤色粒・白色粒を含む）
5暗褐色粘質土（赤色粒・白色粒・パミスを含む）
6暗茶褐色粘質土（白色粒・黄色パミスを含む）
7黒褐色粘質土（黄色パミス・白色粒を含む）
8暗褐色強粘質土（黄色パミス（大）赤色粒・白色粒を含む）
9暗褐色粘質土（白色粒・黄色パミスを含む・硬化土を含む）
10暗黄褐色粘質土（赤色粒・白色粒を含む）

**第75図　8号竪穴住居跡検出･遺物出土状況**




**第76図　8号竪穴住居跡出土遺物（土器・石器）**

ク　8号竪穴住居跡（SH-08）（第75・76図，図版11）

(ｱ)　住居跡構造

Ａ－８区で検出された８号竪穴住居跡は，西側が調査区外に延びるため，全体形は不明である。上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約690cm（残存部）×短辺約660cmを測る。検出面から床面までの深さは約50cmである。付帯施設では，北側を除く三方には高さ約5cmのベッド状遺構があり，南側では幅約120cmを測る。一段下がった部分の範囲は長辺約510cm×短辺約390cmを測る。東側に長辺140cm×短辺110cm，深さ約10cmを測る小規模な掘り込みを確認した。床面には20基のピットを検出した。そのうち，東壁から約330cm離れ，床面からの深さが約30cmあるＰ１及びＰ２を主柱と考える２本柱の構造と，西壁から約210cm（残存部）離れたＰ３及びＰ４と東壁から約240cm離れたP5及びP6を主柱と考える４本柱の構造とが認められる。このことから，住居構造を変更した建て替えがあったと想定できる。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね３層に分かれ，出土した多くの遺物は，埋土上層の埋土２からの出土である。床面直上の出土遺物は１点のみで，埋土下層の埋土３の出土遺物は少なく，いずれも砕片である。なお，他の住居跡と接合関係にある遺物は認められなかった。

出土土器は，甕形土器，壺形土器，小型土器で構成される。

甕形土器（第76図　530～533）

いずれも小振りの甕形土器である。530，531は長胴形を呈し，調整は内外面共にタテ方向のヘラナデ調整を行う。532，533は脚が拡がる底部である。532は脚の高さが低い土器である。

壺形土器（第76図　536・537）

536は小振りの土器のうち胴部が球形に張る壺である。胴部中央部には貼り付け突帯を１条巡らす。537は大振りの底部で，直径約6cmを測る丸底を呈する特異的な土器である。

小型土器（第76図　534，535，538，539）

538は口径約15cmを測る，口縁部が短く外反する長胴形の甕形土器である。調整は，口縁部がヨコ調整，胴部上端がタテ方向のヘラナデ調整である。534，535は壺形土器である。
534では肩部がなだらかに胴部へ移行する。535は特に小さな平底を呈する。539は鉢形土器で，口唇部は丸く収まり，口縁部はやや直立し，胴部は緩やかにすぼまる形態を呈する。

出土石器のうち資料化できたのは１点である。

540は棒状の石材を使用した砥石及び鎚石である。正面及び端部を使い込み，線条痕が確認できる手持ちの砥石である。また，もう一方の端部には被熱による変色が観られ鎚石の兼用品と考えられる。

ケ　９号竪穴住居跡（SH-09）（第77図～第81図，図版11・12）

(ｱ)　住居跡構造

Ａ－３・４区で検出された９号竪穴住居跡の上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約580cm×短辺約560cmを測る。検出面から床面までの深さは約60cmである。住居跡四辺それぞれに間仕切りのある，規模が概ね長辺約180～200cm×短辺約100～120cmを測る張り出しを６か所確認した。西側３か所の張り出し部には概ね長辺約140～160cm×短辺約70～80cm，深さ約10cm測る凹み状の土坑を検出した。この張り出しについても，７号竪穴住居跡と同様に建築当初から想定された施設と考えられる。中央竪穴部の規模は，長辺約320cm×短辺約300cm，張り出し部からの深さは約20cmを測る。竪穴部の北西壁際に，壁帯溝と呼ぶには幅が約70cmと広い深さ約10cmの凹み状の付帯施設を検出した。この凹みの中央部側に接して長辺約60cm×短辺約30cmの範囲に凝固した焼土が発見された。

また，床面には18基のピットを検出した。そのうち竪穴部の北西壁から約160cm離れ，北東及び南西壁際にある心心距離が約220ｃｍ，床面からの深さが約60cmと30cmあるＰ１とＰ２が主柱と考える２本柱の構造と認められる。また，張り出し部から７基のピットを，中央竪穴部の３隅で５基のピットを検出した。さらに，南西壁際に並んで発見された心心距離が約100cmある２基のピットは，出入口の可能性がある。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

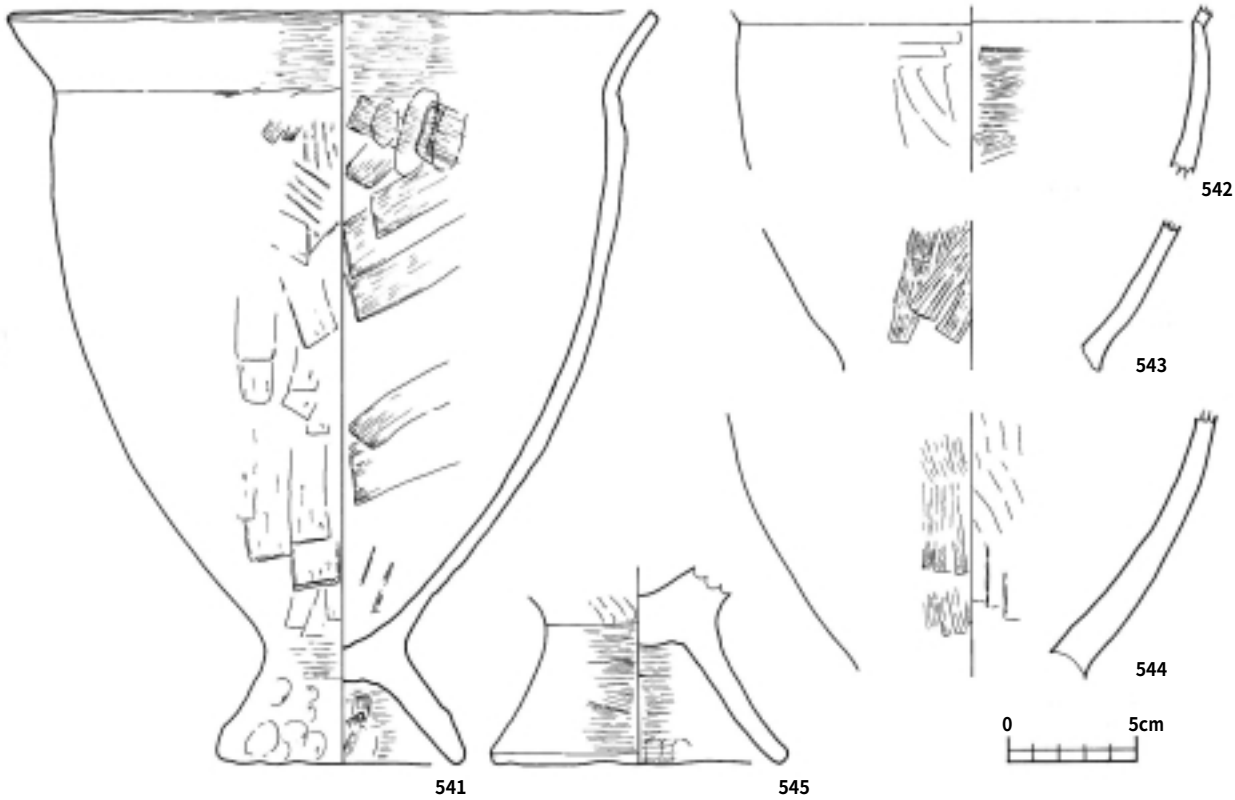
住居跡内の埋土は概ね４層に分かれ，出土した多くの遺物は，埋土上層の埋土１及び埋土２の出土である。床面直上及び埋土下層の埋土３の出土遺物は少なく，いずれも砕片である。なお，345は１号竪穴住居跡と接合関係が認められる。

出土土器は，甕形土器，壺形土器，小型土器，蓋で構成される。

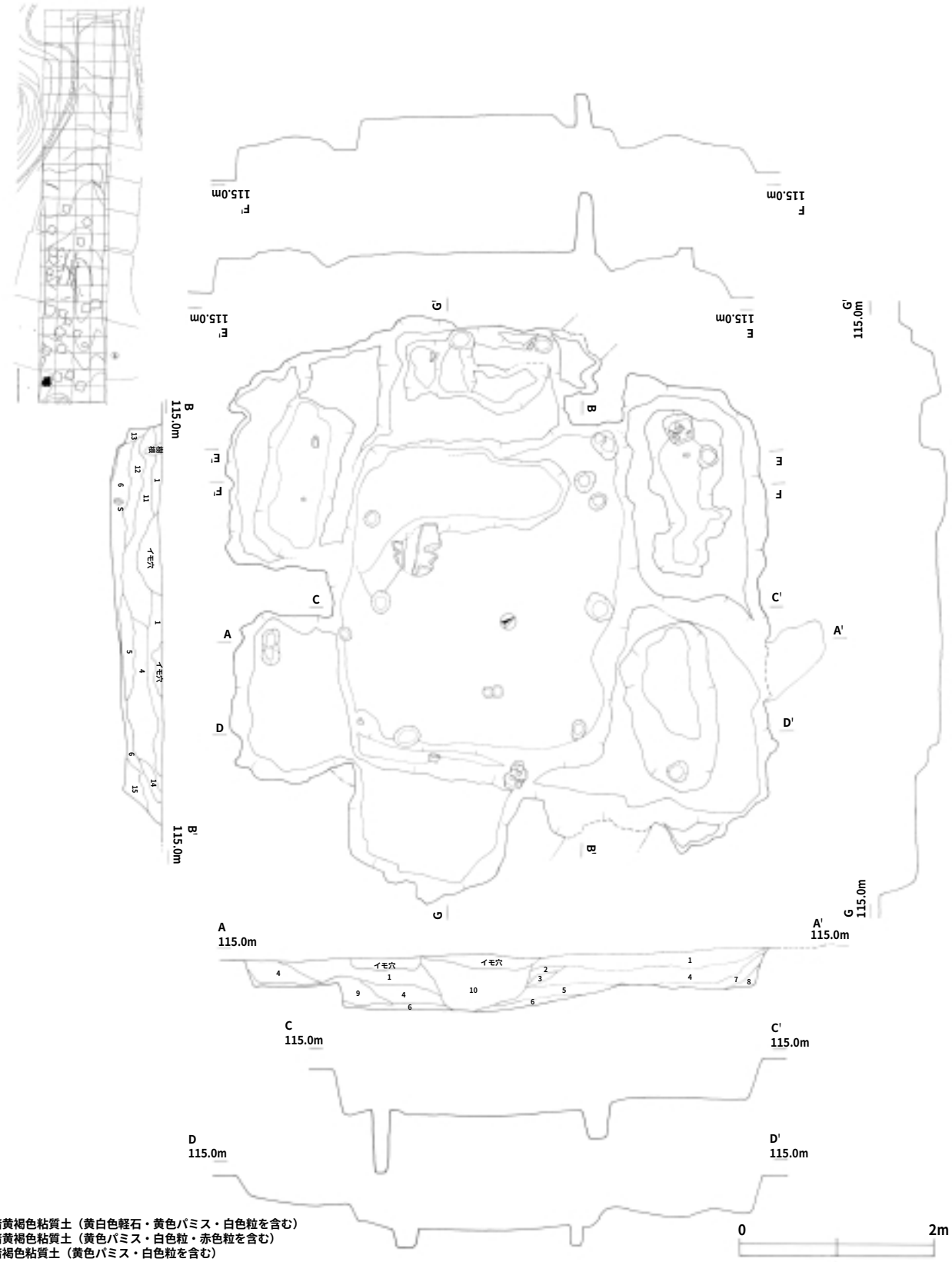
甕形土器（第78・80図　541～546）

546は二重口縁甕である。口縁直径43cmを測る。口縁部は長めに外反し，短い鍔がつく。口縁部

第77図　9号竪穴住居跡遺物出土状況

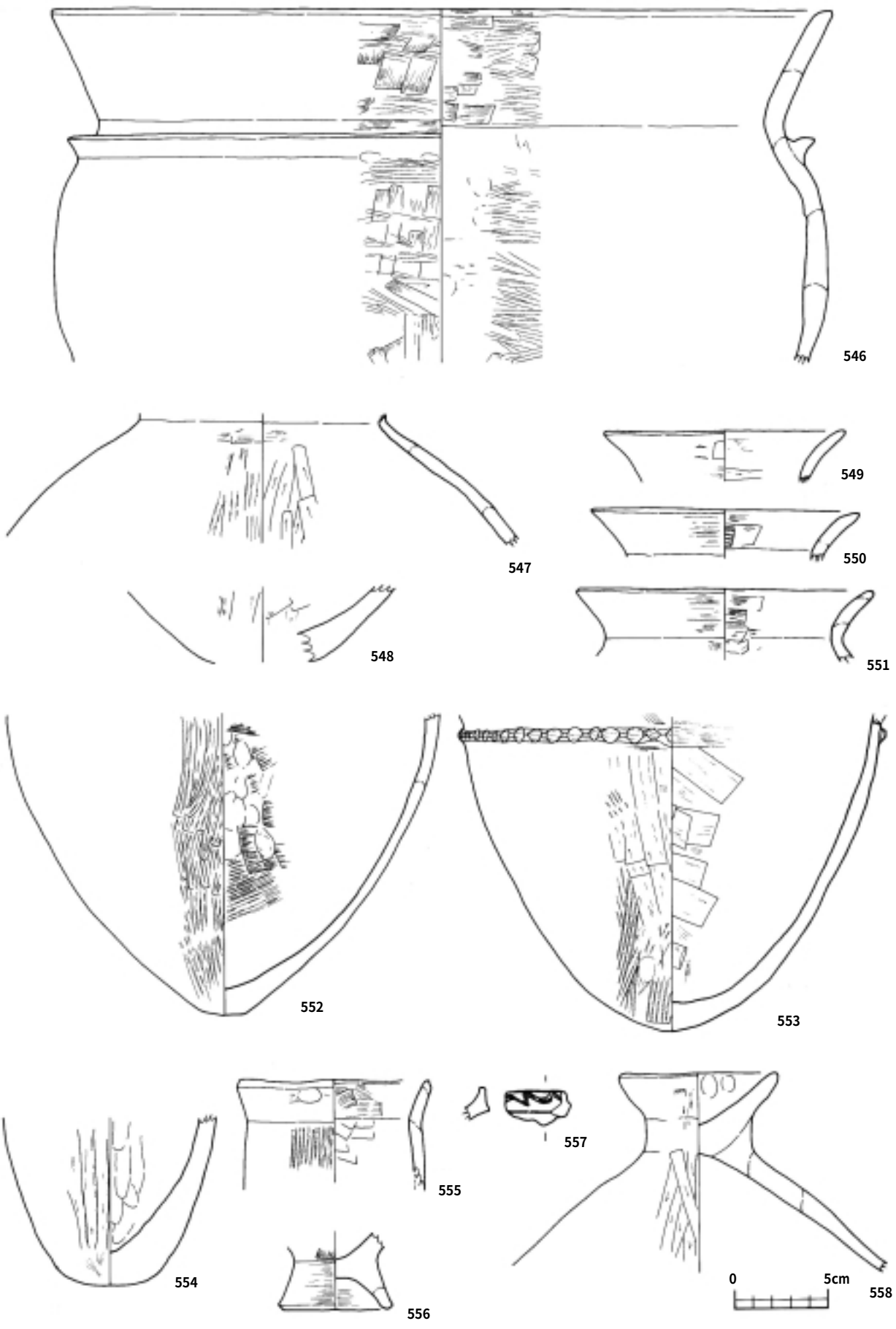



第78図　9号竪穴住居跡出土遺物（土器1）

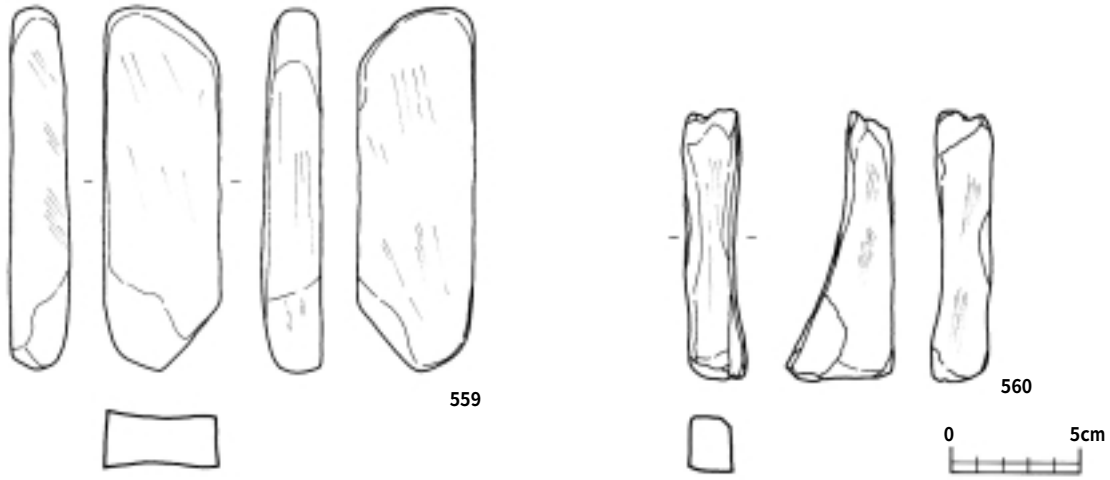



1暗黄褐色粘質土（黄白色軽石・黄色パミス・白色粒を含む）
2暗黄褐色粘質土（黄色パミス・白色粒・赤色粒を含む）
3暗褐色粘質土（黄色パミス・白色粒を含む）
4暗黄褐色強粘質土（黄色パミス・白色粒を含む）
5暗黄褐色粘質土（白色粒・赤色粒を多く含む）
6暗茶褐色粘質土（白色粒・黄色パミスを含む）
7暗褐色粘質土（黄色パミス・白色粒を含む）
8 5と同じ
9暗黄褐色粘質土（黄色パミス・黄白色軽石を含む）
10暗黄褐色粘質土（黄白色軽石・黄色パミス・赤色粒・白色粒を特に多く含む）
11褐色粘質土（赤色粒・白色粒・黄色パミスを含む）
12暗褐色粘質土（黄白色軽石・黄色パミス・赤色粒を含む）
13暗茶褐色粘質土（白色粒・赤色粒を含む）
14暗茶褐色強粘質土（黄白色軽石・黄色パミス・赤色粒を多く含む）
15暗黄褐色粘質土（黄色パミス・白色粒を多く含む）

**第79図　9号竪穴住居跡検出状況**




第80図　9号竪穴住居跡出土遺物（土器2）




**第81図　9号竪穴住居跡出土遺物（石器）**

内面と胴部の境界の稜線は不明瞭である。口縁内外面共にヨコ調整の後にヨコ方向のヘラナデ調整を，胴部外面ではタテ方向のミガキに近い丁寧なナデ調整を，胴部内面ではヨコ方向のヘラナデ調整を行う。

541・545は中型土器で，541は口縁部は外反の度合いが弱く，口縁部内面と胴部の境では指頭押圧調整を行い，境界の稜線は不明瞭である。また，口縁部外面と胴部の境界には，口縁部ではヨコ調整を強く行うため明瞭な稜線が観察できる。545は脚が広がり，脚の高さが高く，底部内面に突起がつく底部である。

542～544は小振りの土器胴部である。胴部外面にはタテ方向のハケメ調整の後，タテ方向あるいはヨコ方向のヘラナデ調整が観察できる。

壺形土器（第80図　547～554）

547は中型土器のうち胴部が球形に張る壺形土器である。549～551は小型土器のうち大きく外反する口縁部である。548，552，553は中型土器のうち長胴形の壺形土器である。548では径約４cmの平底で，直線的に立ち上がる。552，553，554は直線的にすぼまる胴部下半部である。

小型土器（第80図　555～556）

555は口縁部が短く外反する甕形土器である。外面ではタテ方向のハケメ調整，内面ではヨコ方向のヘラナデ調整を行う。556は底部内面が平坦な脚が立ち気味の底部である。

その他（第80図　557）

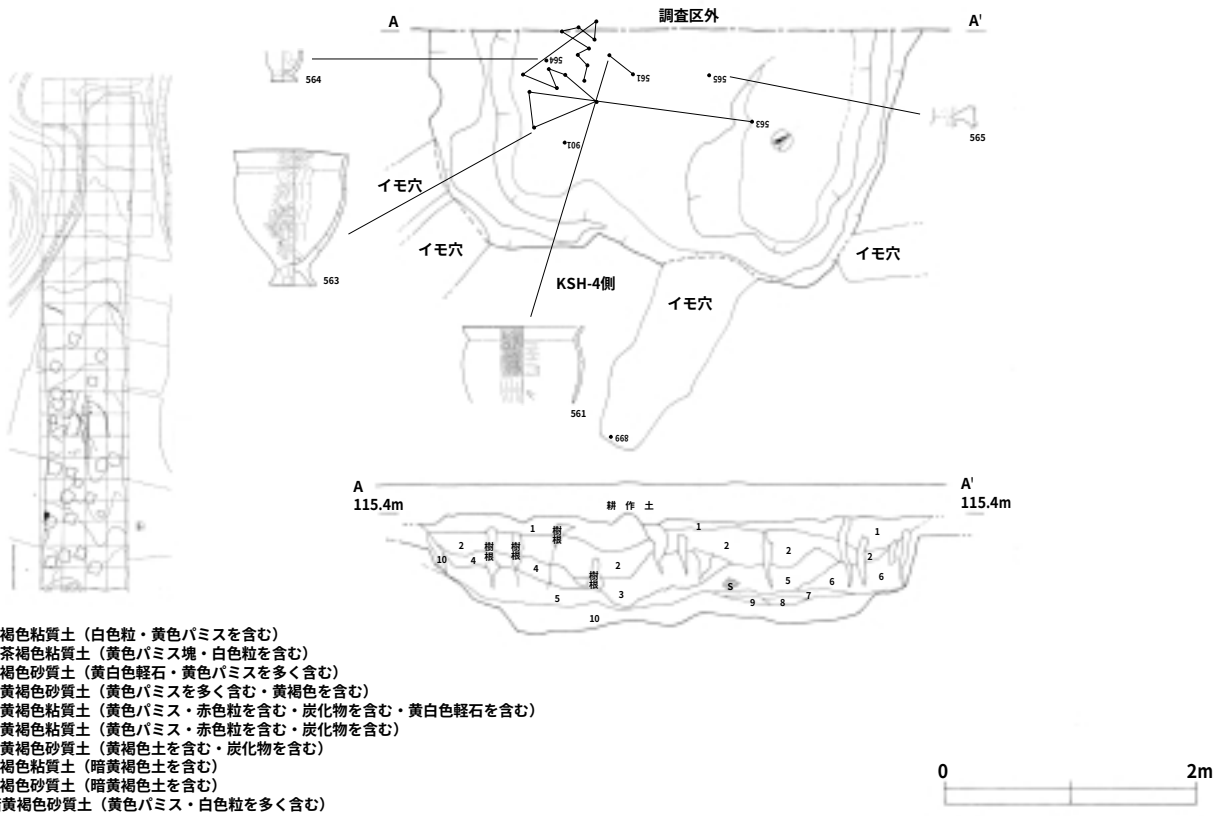
557は外面に櫛描きを模した波状文を施す二重口縁壺形土器の口縁部である。

蓋（第80図　558）

558は皿部内面中央部が若干凹み，最終ナデ調整が甘いことから，蓋と判断したが，脚台付き皿形土器の可能性もある。

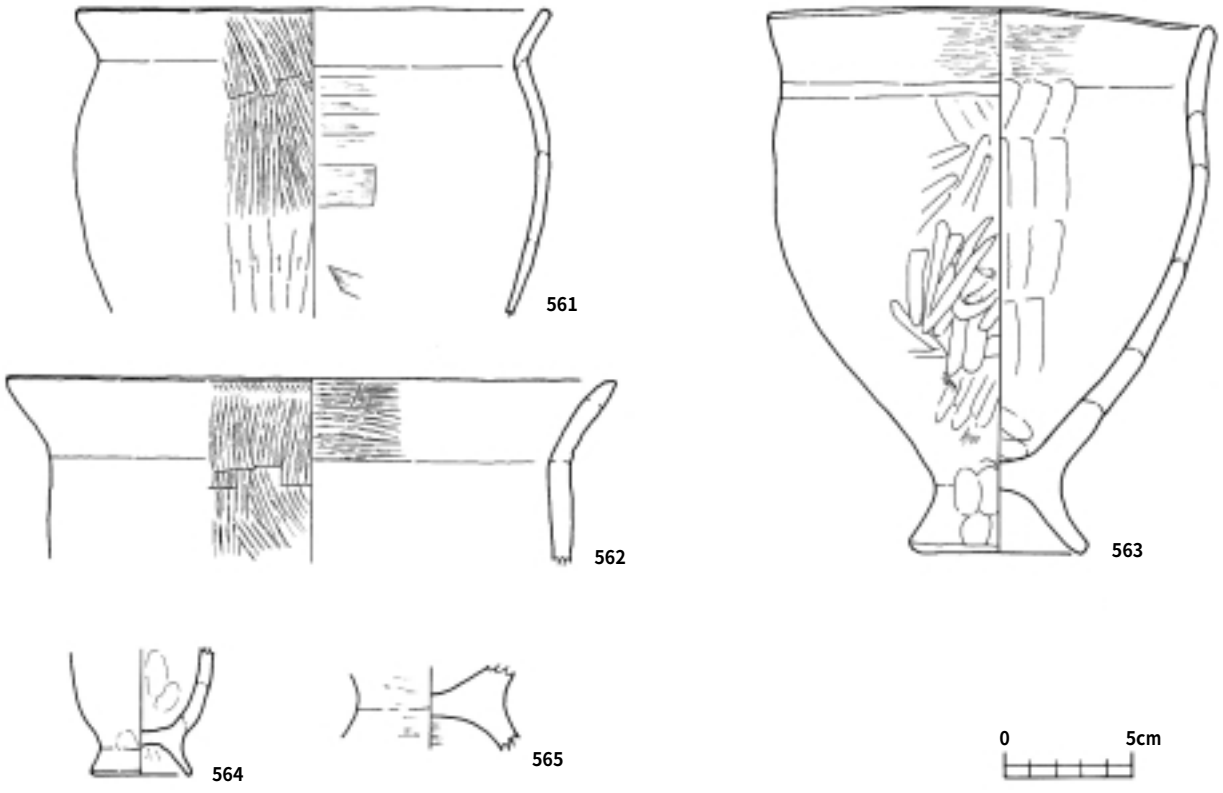
出土石器は，砥石及び鉄床石，鎚石で構成される。

559は砥石，鉄床石及び鎚石の兼用品である。扁平な石材を使用し，表裏面及び２側面の４面では多くの線条痕が観察できることから手持ち砥石と想定できる。また，表裏面では被熱の影響と考えられる黒色化や赤色化が観られ，鉄床石への使用も考えられる。さらに，先端部では敲打痕が多




1黒褐色粘質土（白色粒・黄色パミスを含む）
2暗茶褐色粘質土（黄色パミス塊・白色粒を含む）
3黄褐色砂質土（黄白色軽石・黄色パミスを多く含む）
4暗黄褐色砂質土（黄色パミスを多く含む・黄褐色を含む）
5暗黄褐色粘質土（黄色パミス・赤色粒を含む・炭化物を含む・黄白色軽石を含む）
6暗黄褐色粘質土（黄色パミス・赤色粒を含む・炭化物を含む）
7暗黄褐色砂質土（黄褐色土を含む・炭化物を含む）
8黄褐色粘質土（暗黄褐色土を含む）
9黄褐色砂質土（暗黄褐色土を含む）
10暗黄褐色砂質土（黄色パミス・白色粒を多く含む）

**第82図　10号竪穴住居跡検出状況**




**第83図　10号竪穴住居跡出土遺物（土器）**

数観察でき，鎚石への使用も考えられる。560は扁平な石材を使用し，３面で線条痕が観察でき，よく使い込まれていることから砥石と想定できる。石材は石英粗面岩の一種である「天草石」の可能性が大きい。

コ　10号竪穴住居跡（SH-10）（第82・83図，図版13）

(ｱ)　住居跡構造

Ａ－６区で検出された10号竪穴住居跡は，西側が調査区外に延びるため，全体形は不明である。上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約370cm×短辺約320cm（残存部）を測る。検出面から床面までの深さは約80cmである。南西壁側に幅約40cm，床面からの高さ約20cmを測るベッド状遺構が確認できた。一段下がった部分の範囲は長辺約320cm（残存部）×短辺約300cmを測る。北東壁際に長辺140cm（残存部）×短辺100cm，深さ約10cmを測る，上面観が楕円形を呈する小規模な掘り込みを確認した。また，床面にはピットを１基も確認できなかった。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね４層に分かれ，出土した多くの遺物は，埋土上層の埋土２の出土である。床面直上の出土遺物が10数点出土したのは，本遺跡では最多の住居跡の一つである。また，埋土下層の埋土３ではガラス製の小玉が出土している。なお，他の住居跡と接合関係にある遺物は認められなかった。

出土土器は，甕形土器，ミニュチュア土器で構成される。

甕形土器（第83図　561～565）

561～563，565は小振りの甕形土器である。561は口径が約20cm，562は口径が約25cmある。いずれも口縁部は短めで外反の度合いが弱く，口縁部外面には掻き上げ調整が施され，胴部との境界の稜線は不明瞭である。また，口縁部内面と胴部の境界では，ハケメ調整を一旦切り，明瞭な稜線が観察できる。563は口縁部がほぼ直立し，胴部が若干張り，胴部下半から底部へは直線的にすぼまり，底部内面は平坦な，脚は短く立ち気味の底部である。

ミニュチュア土器（第83図　564）

564は甕形土器を模した土器である。

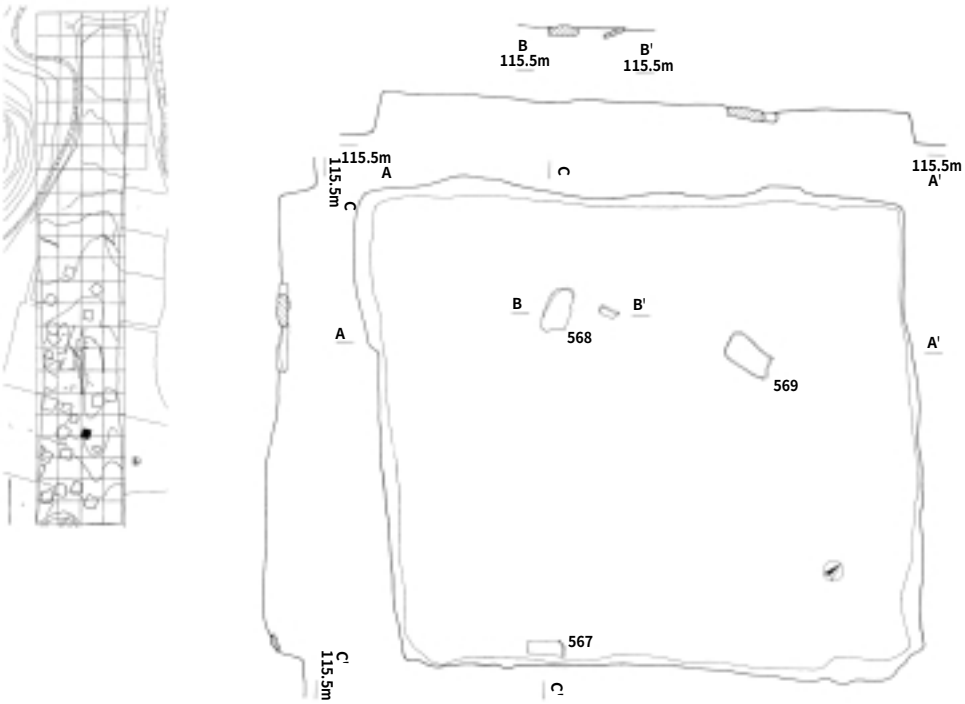
サ　11号竪穴住居跡（SH-11）（第84図～第86図，図版13）

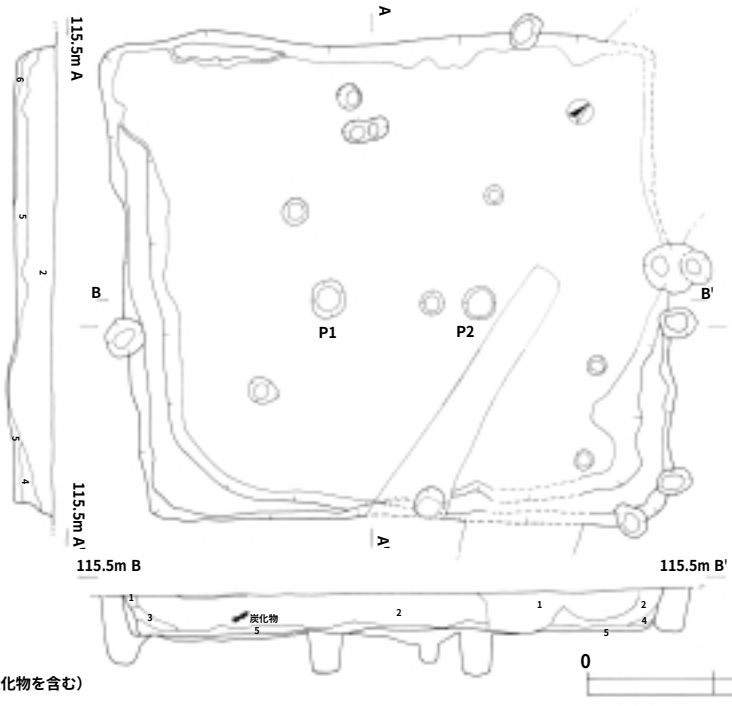
(ｱ)　住居跡構造

Ｃ－６・７区で検出された11号竪穴住居跡の上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約430cm×短辺約390cmを測る。検出面から床面までの深さは約35cmである。また，張り出し及び中央掘り込みなどの付帯施設は確認できなかった。床面には19基のピットを検出した。そのうち，南西壁と北東壁からそれぞれ約160cm離れ，床面からの深さが約30cmあるＰ１とＰ２を主柱と考え，心心距離が約120cmある２本柱の構造と認められる。この主柱軸上の両壁際には深さの浅い小ピットを検出した。この構造は７号竪穴住居跡と同様である。

また，北東壁際に並んで発見された心心距離が約120cmある２基のピットは，出入口の可能性がある。

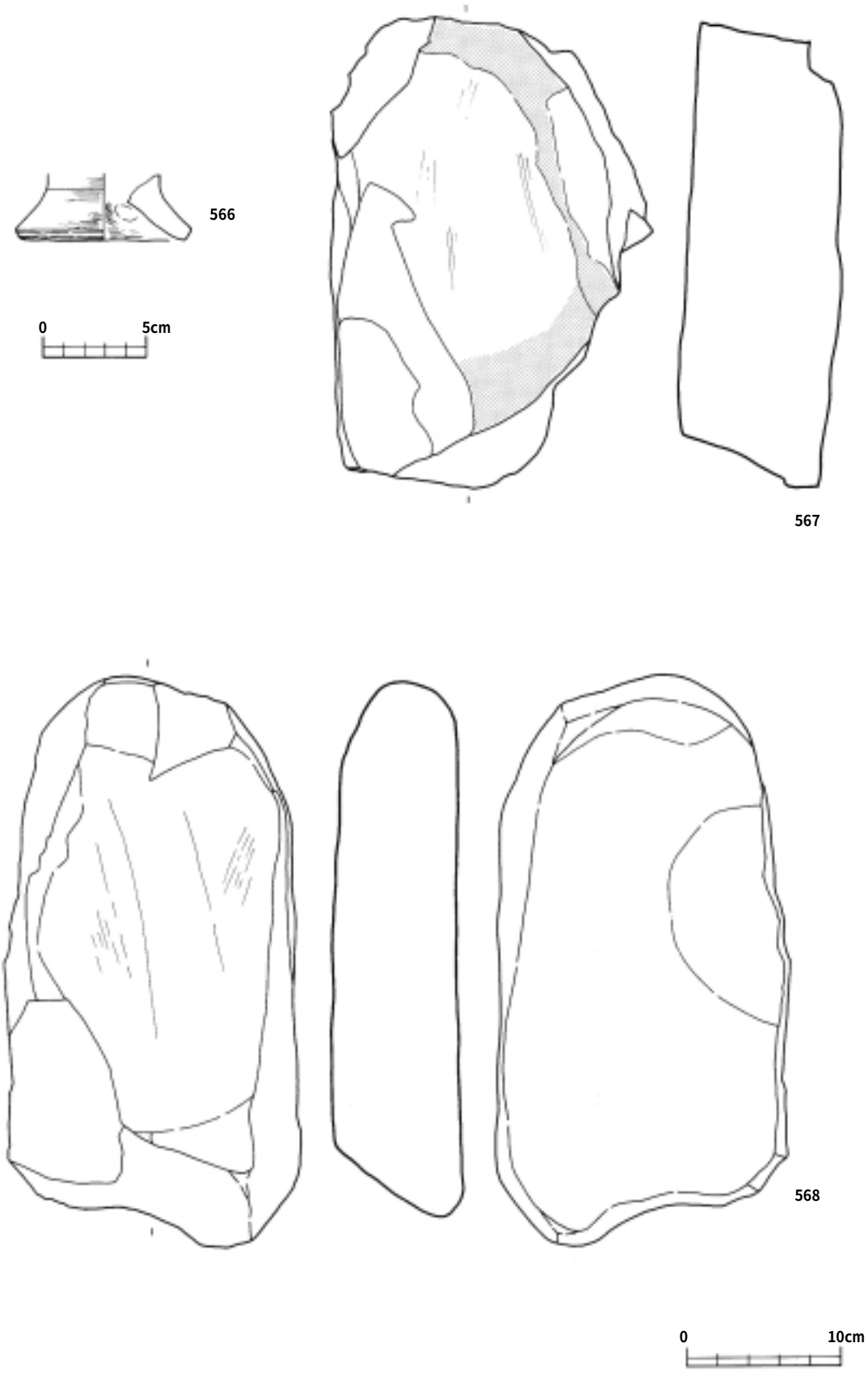
この住居跡では，床面から約10cm上の面で，鉄床石と考えられる台石が３個設置されたままで出



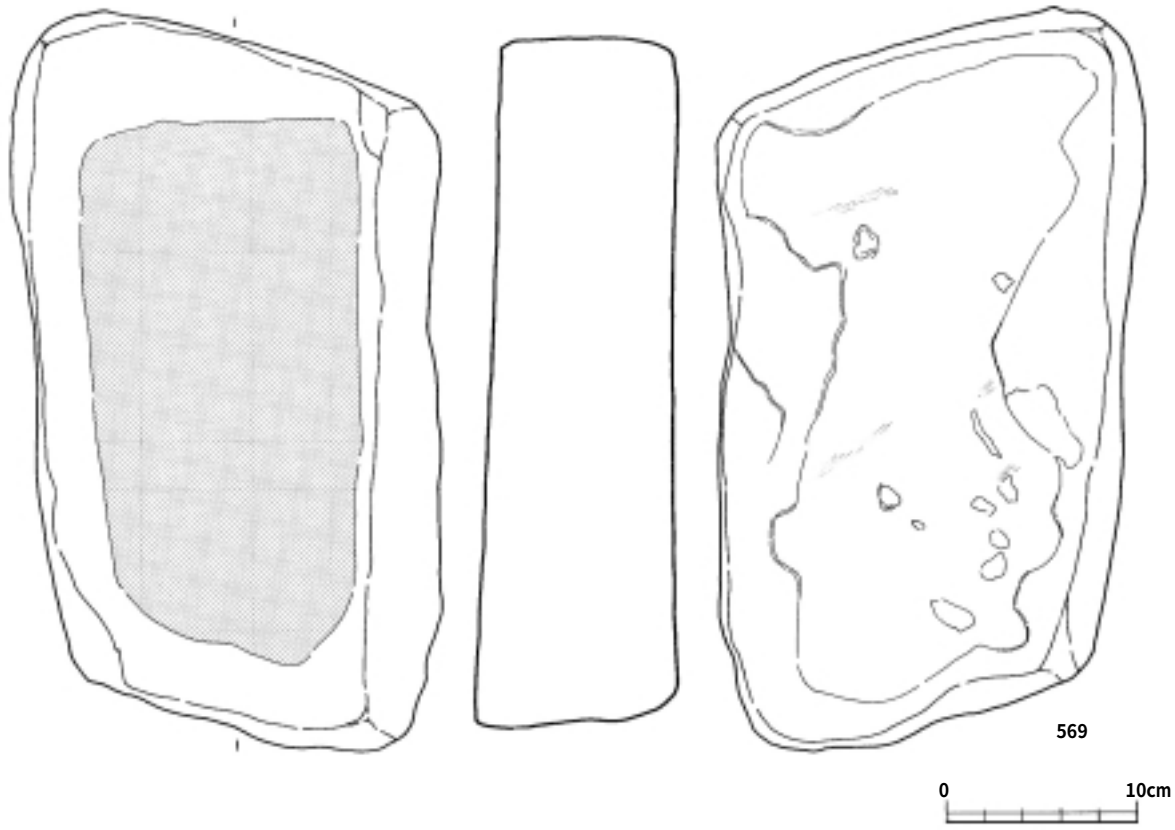




1イモ穴
2黒褐色粘質土（黄色パミス・白色粒を含む・炭化物を含む）
３４と同じ
4暗褐色粘質土
5暗黄褐色粘質土（黄白色軽石・黄色パミスを含む）
6黄褐色粘質土（赤色粒・白色粒・黄色パミスを含む）

**第84図　11号竪穴住居跡検出状況**




**第85図　11号竪穴住居跡出土遺物（土器・石器1）**




**第86図　11号竪穴住居跡出土遺物（石器2）**

土したことから，この面が第２次生活面と想定した。第１次生活面廃絶後に，上面の規格を全く変えずに，第２次生活面を造った貴重な例である。

(ｲ)　住居跡内出土遺物（第85・86図）

住居跡内の埋土は概ね３層に分かれ，出土した多くの遺物は，埋土上層の埋土２の出土である。第１次生活面の床面直上及び第２次生活面の床面直上の出土遺物は少なく，いずれも砕片である。なお，５号竪穴住居跡と接合関係が認められる土器が１点出土した。

出土土器は，甕形土器（566）である。

566は脚が低く，短い底部である。底部内面は平坦な形態を呈し，径の小さな平底の立ち上がり部分に中空の輪状の脚台を付ける成形技法が明瞭に観察できた。

出土石器は，砥石及び鉄床石で構成される。

567～569は鉄床石と砥石の兼用品である。567は厚さ約10cm，568は厚さ約８cm，569は厚さ約10cmを測る，いずれも重量のある大きな礫を使用し，表面が黒色化あるいは赤色化など変色していること，また側面部に敲打痕があることから，鉄床石への使用が考えられる。また，567では表面の１面が，568，569ではそれぞれ表裏面の２面が良く使い込まれ，多くの線条痕が観察できることから，置き砥石としての使用も想定できる。

シ　12号竪穴住居跡（SH-12）（第87図～第91図，図版13・14）

(ｱ)　住居跡構造

Ａ・Ｂ－６・７区で検出された12号竪穴住居跡の上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約520cm×短辺約440cmを測る。検出面から床面までの深さは約50cmである。付帯施設では張り出し部とベッド状遺構，中央竪穴部を検出した。

北西壁と南西壁にはそれぞれに間仕切りのある張り出しを３か所確認した。規模は，北西壁の張り出しでは長辺約200cm×短辺約100cmを測る。北西壁の張り出しには，さらに南西側に，長辺約80cm×短辺約70cmを測る小規模な張り出しを検出した。この張り出しについては，７号竪穴住居跡や９号竪穴住居跡とは異なり，住居構造での主柱配置から考えると，建築当初には想定されていなかった施設と想定できる。

住居跡四辺には床面からの高さが約20cmのベッド状遺構があり，南西側では幅約100cm，北西側では幅約130cm，北東側では幅約170cm，南東側では幅約120cmである。このベッド状遺構の中には，四方のうち，北東側には長辺約180cm×短辺約80cmを，南東側には長辺約260cm×短辺約80cmを，南西側には長辺約310cm×短辺約80cmを，深さそれぞれ約5cm～10cmを測る凹み状の土坑を検出した。

四方をベット状遺構に囲まれる中央竪穴部の規模は，隅丸長方形を呈し，長辺約250cm×短辺約200cmを測る。

また，床面には13基のピットを検出した。そのうち中央竪穴部の４隅にあるＰ１，Ｐ２，Ｐ３，Ｐ４が主柱と考えられ，４本柱の構造と認められる。床面からの深さはＰ１が約30cm，Ｐ２が約25cm，Ｐ３が約20cm，Ｐ４が約15cmである。

また他のピットは，張り出し部ではそれぞれ１基ずつ合計３基を，北東壁側の両隅にそれぞれ１基ずつ検出した。さらに，南西側のベット状遺構上で，並んで発見された心心距離が約120cmある２基のピットは，出入口の可能性がある。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね４層に分かれ，出土した多くの遺物は，埋土最上層の埋土１や埋土上層の埋土２の出土である。床面直上の出土遺物はほとんどなく，埋土下層の埋土３の出土遺物のうち資料化できるものはなかった。また，埋土２の出土遺物の多くが埋土１の出土遺物と接合関係にあり，埋土内の上下動の激しさを示す。また，581や599など埋土内出土土器には完形に復元できたものがあり，住居廃絶後の一括廃棄と考えられる。なお，他の住居跡と接合関係にある遺物は認められなかった。

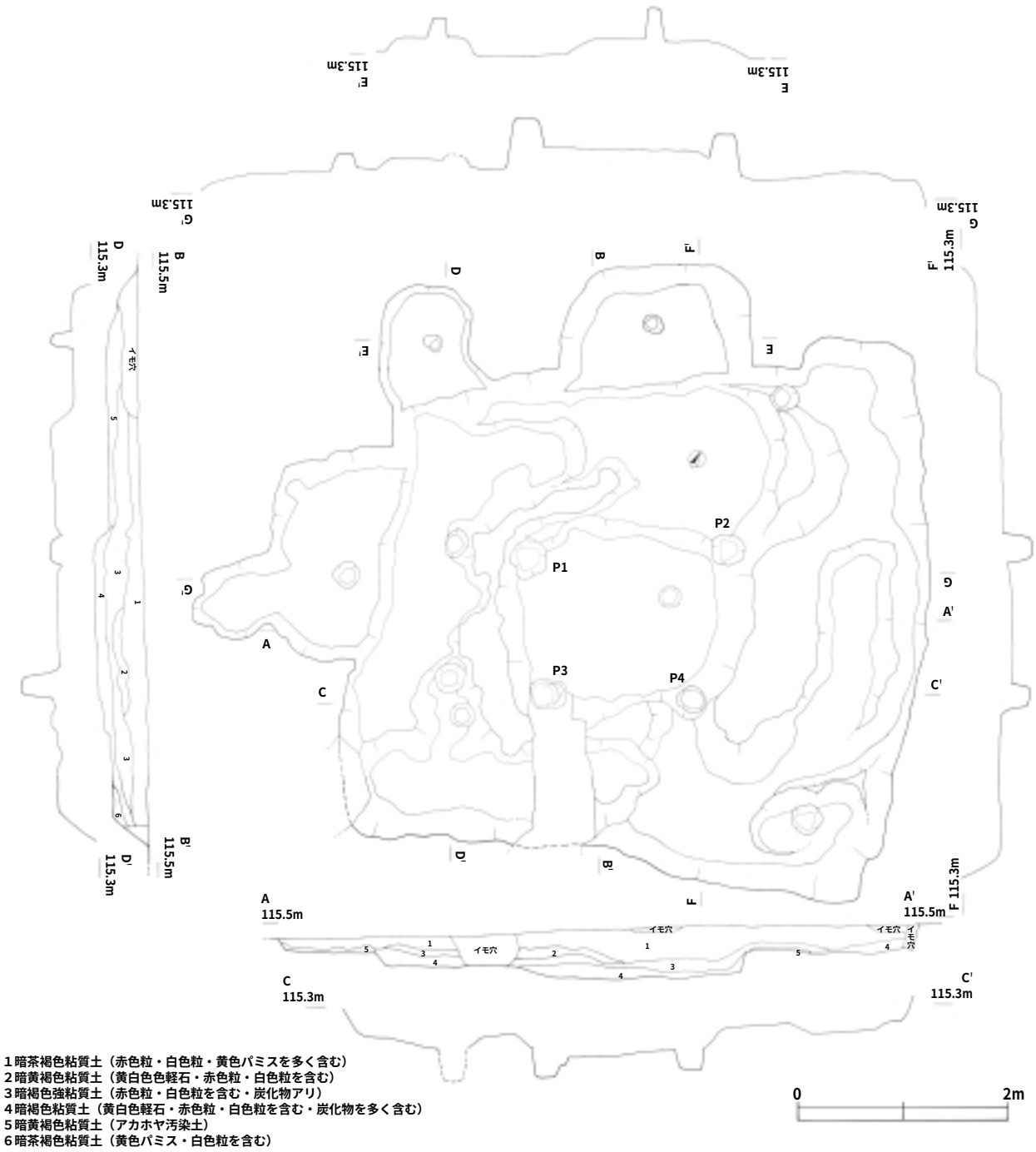
出土土器は，甕形土器，壺形土器，鉢形土器，小型土器，蓋で構成される。

甕形土器（第89・90図　570～588）

570～572，574，577は口縁部が「く」の字状に長めに外反する土器である。

570，571，577は口径約30cmの中型土器である。胴部がやや張り，底部へ緩やかにすぼまる土器である。口縁部内外面と胴部の境界には，明瞭な稜線が観察できる。570の底部では，脚が立ち気味で脚の高さが高く，底部内面が特に平坦な形態を呈する。調整は，口縁部内外面にはヨコ調整を，胴部外面にはタテ方向のハケメ調整の後，ヘラナデ調整を行い，胴部内面ではヘラナデ調整を丁寧に行い，胴部下端部ではタテ方向のケズリ調整が残る土器である。577には胴部下半外面に楕円状

**第87図　12号竪穴住居跡遺物出土状況**




**第88図　12号竪穴住居跡検出状況**

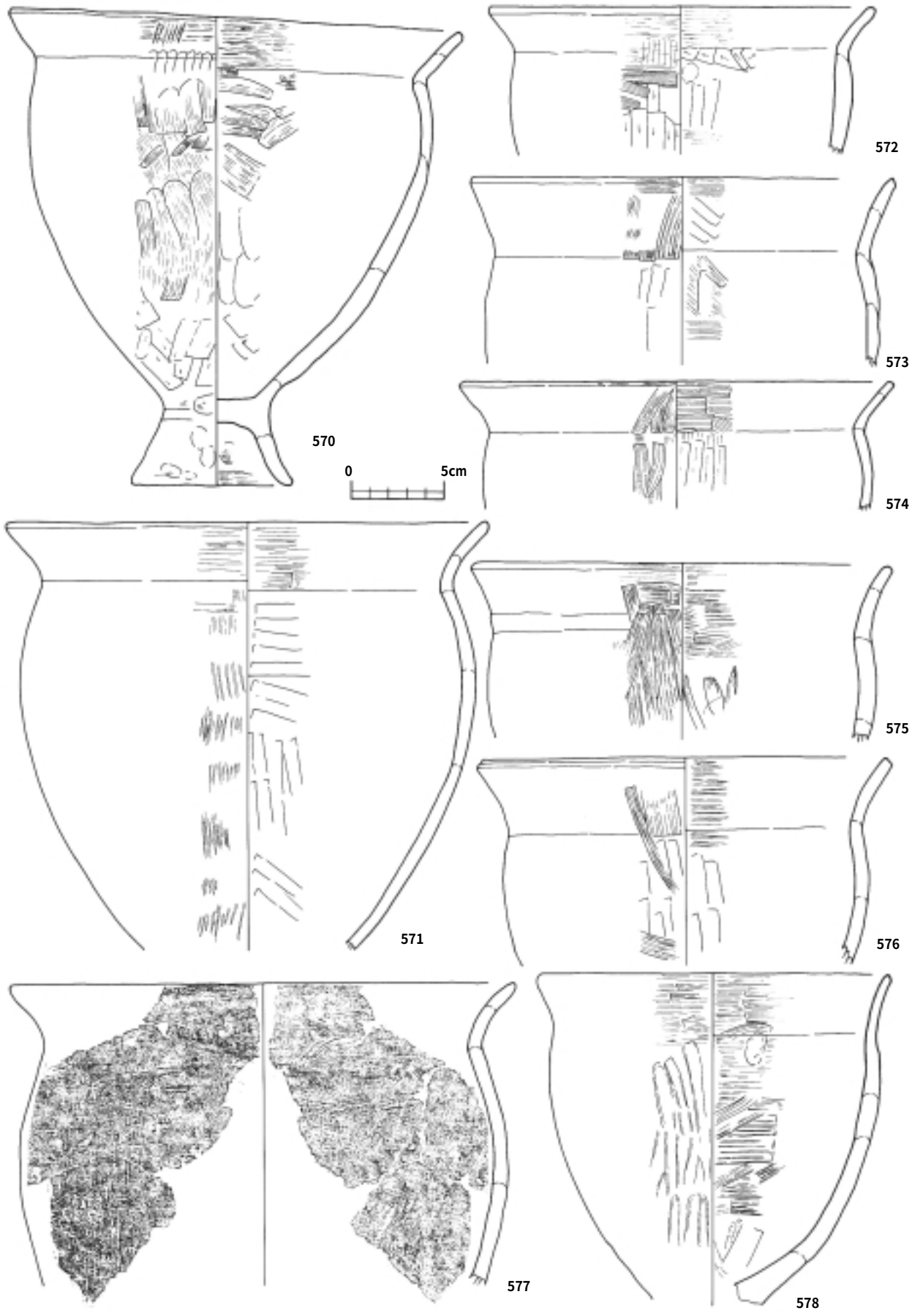
の線刻が観られる。

572，574は口径は約20cmを測る小振りの甕形土器である。いずれも口縁部外面と胴部の境界では，指頭押圧調整やヨコ方向のヘラナデ調整を行うため，稜線は弱い土器である。

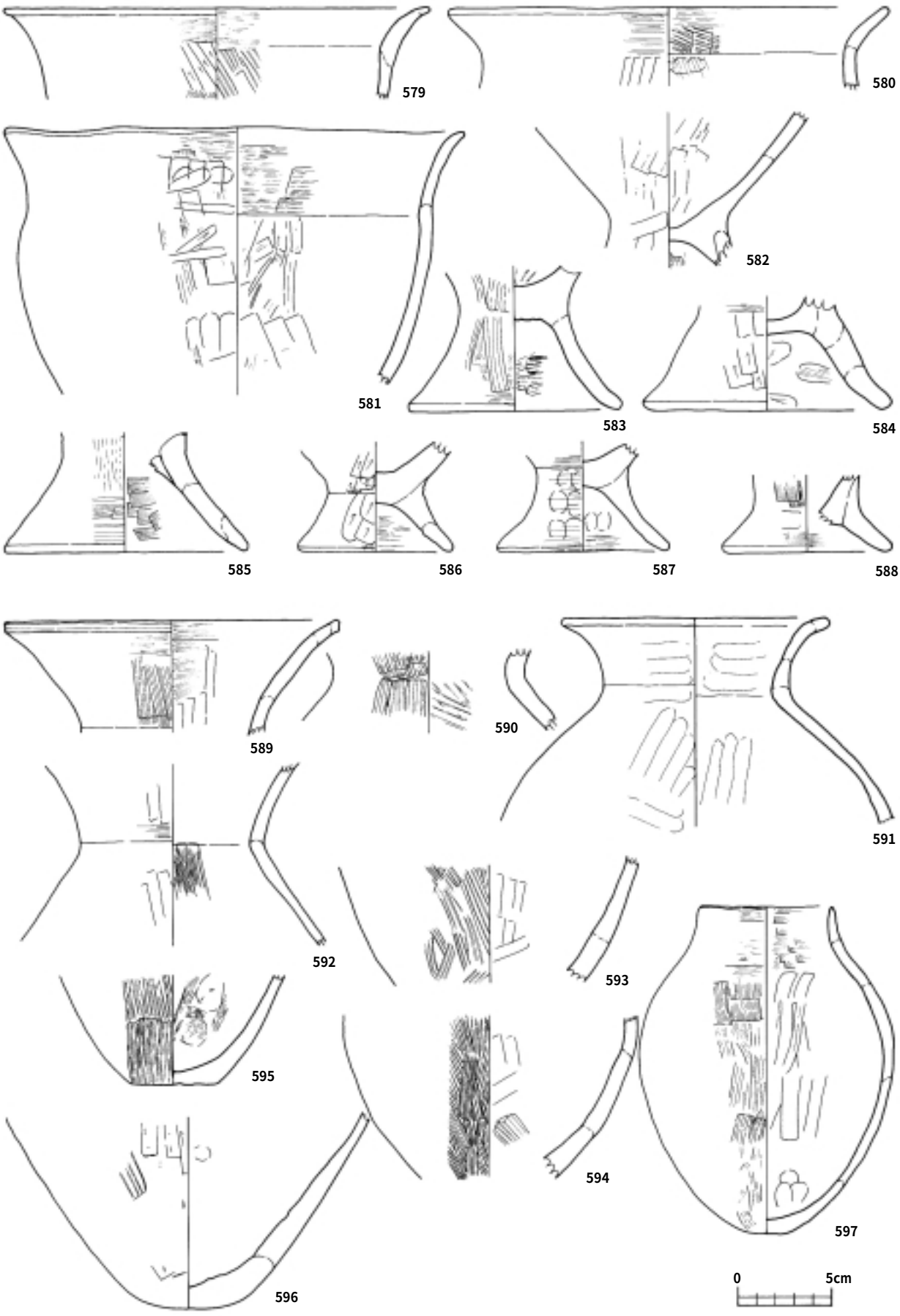
573，575，576，578～581は口縁部の外反の度合いが弱い土器である。

580，581は中型土器で，573，575，576，578，579は小振りの甕形土器である。口縁部外面と胴部の境界では，掻き上げ調整（573，576）や，ハケメ調整（575）や，ヨコ調整（578，580）や，ヘラナデ調整（579，581）を行い，稜線は不明瞭である。また，内面の稜線は明瞭である。

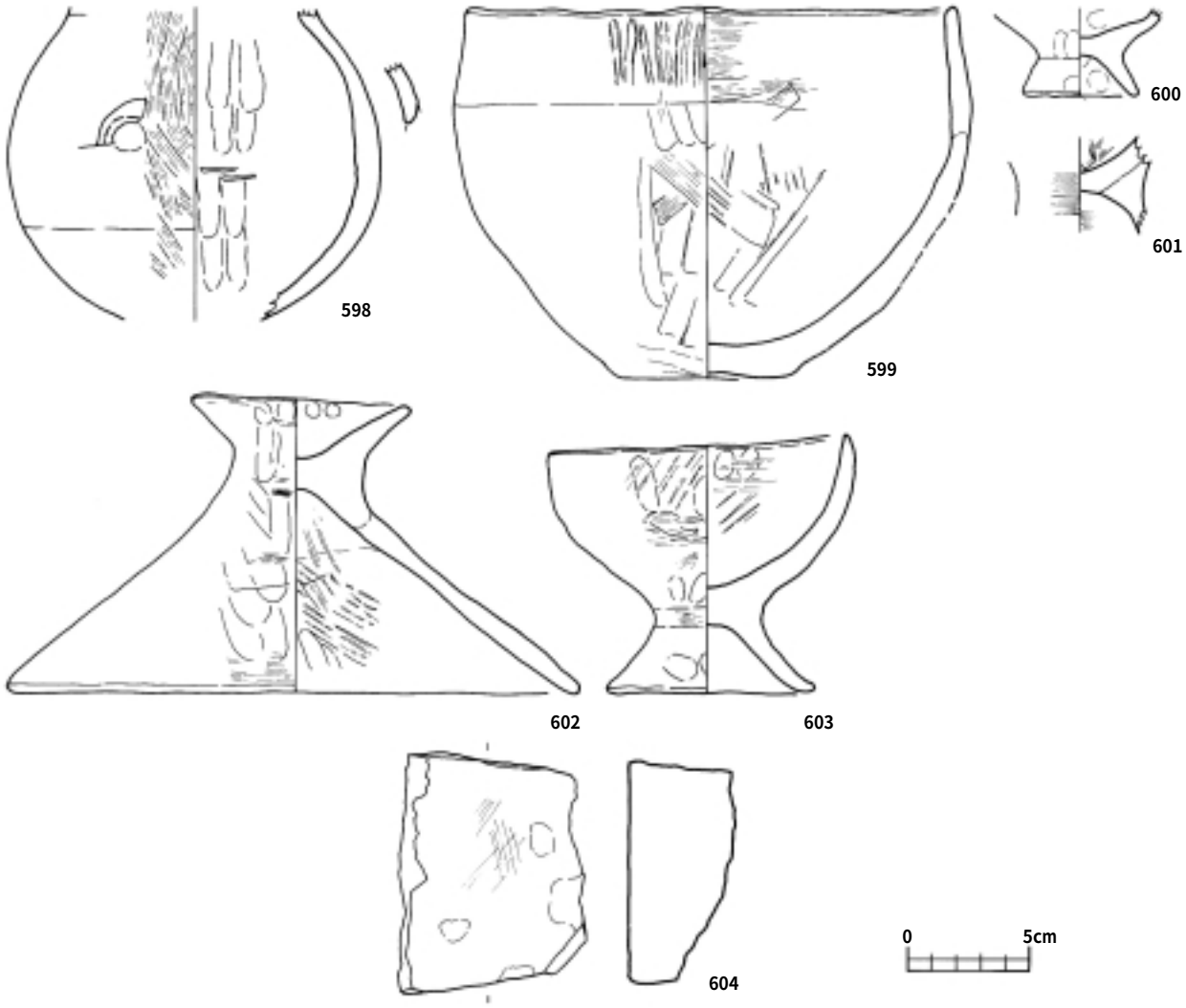
582～588は底部である。




第89図　12号竪穴住居跡出土遺物（土器1）




**第90図　12号竪穴住居跡出土遺物（土器2）**




**第91図　12号竪穴住居跡出土遺物（土器3・石器）**

583，585～588は脚が拡がる土器である。583，585，587では脚の高さが高く，588では低い。583，586，587では底部内面が平坦な形態を呈する。

584は脚が立ち気味の土器で，脚の高さが高く，底部内面が特に平坦な形態を呈する。

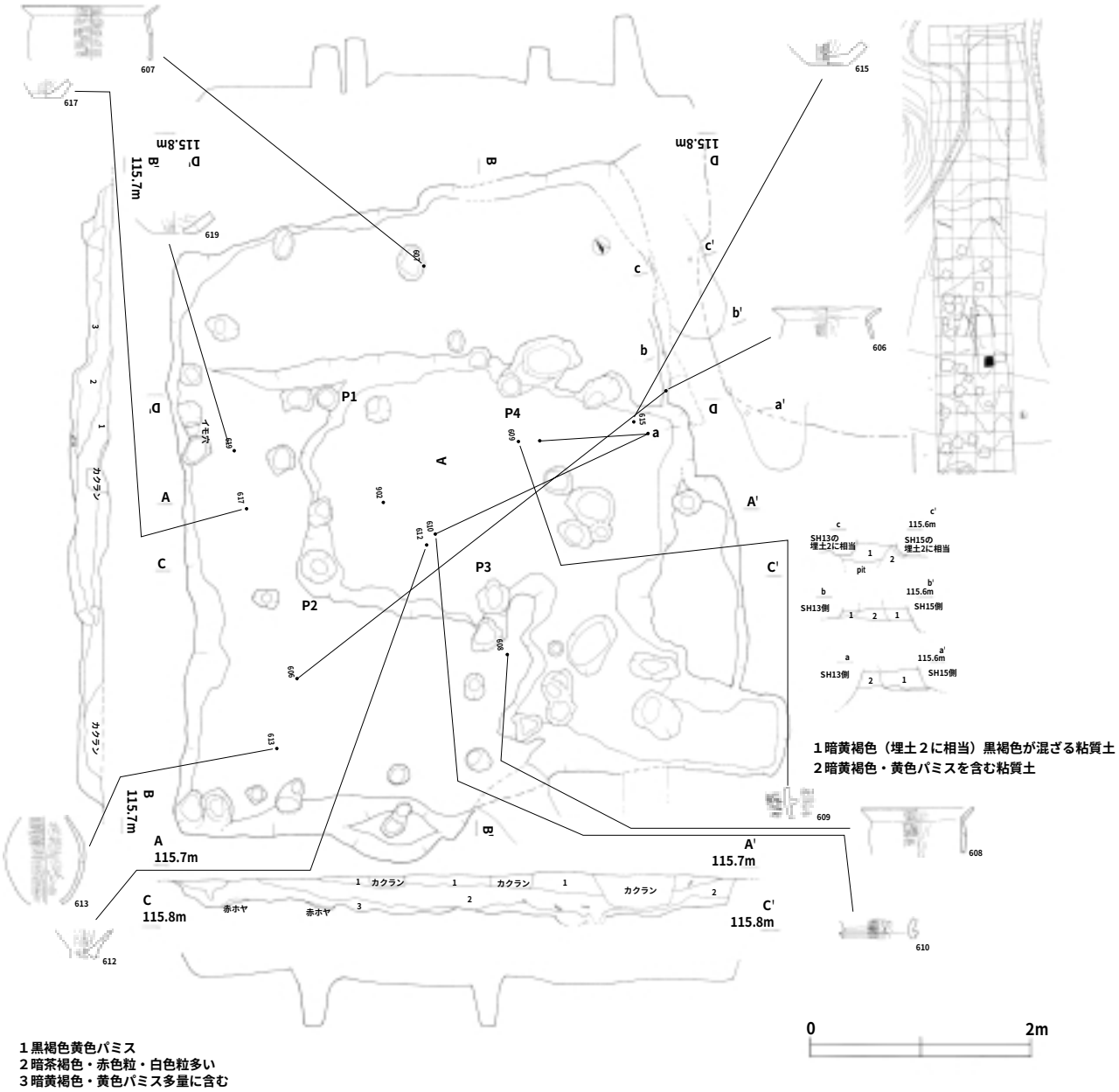
壺形土器（第90・91図　589～598）

589～596は長胴形を呈する中型土器である。

589，592は口縁部が直線的に開くもの，591は肩部から頸部に立ち上がり，短く開く口縁部がつくものである。調整は，589では，口縁部外面に上半はヨコ調整を，下半はタテ方向のハケメ調整を行い，591では全体的にナデ調整を丁寧に行う。593，594は胴部下半，595，596は底部である。593，594では緩やかにすぼまり，595，596では直線的にすぼまる。調整は，外面ではタテ方向のハケメ調整を，内面ではタテ方向のヘラナデ調整を行う。

597は長胴形を呈する小型土器で，口縁部は直立し，胴部は緩やかに底部へすぼまる。

598は胴部が球形に張る小型土器である。口縁部及び底部が欠落し，全体形は不明である。胴部中央部には貼り付け突帯などを施さず，胴部下半は直線的にすぼまる。胴部中央には外径約２cm，内径約１cmを測る，焼成後にあけられた穿孔がある。




**第92図　13号竪穴住居跡検出状況**

鉢形土器（第91図　599・603）

599では口径約27cm，底径約13cm，高さ約17cmを測る。口縁部は直立し，胴部は直線的にすぼまり，底部は平底である。外面に突帯を施さず，口縁部外面にはタテ方向のハケメ調整を行い，胎土にクロウンモが含まれることが特徴的であり，438と異なる点である。

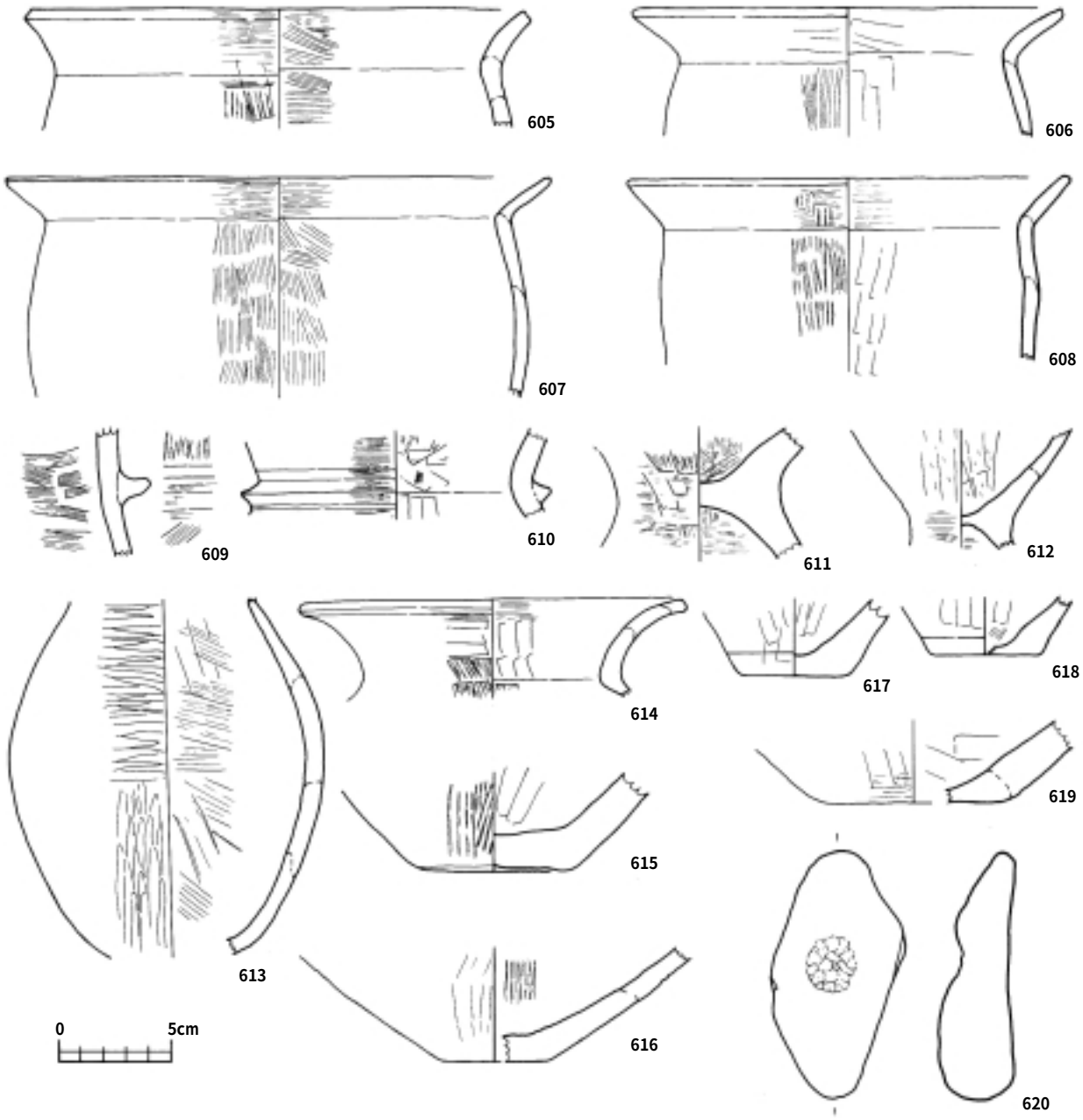
603は椀形土器に，底部内面が平坦な形態を呈し，脚が拡がる底部がついたものである。

蓋（602）には，大きなつまみがあり，先端部に向け直線的に延びる形態を呈する。

出土石器（604）は，鉄床石である。厚さ４cmを測る石材を使用し，よく使い込んでいる。被熱による変色及び敲打痕が観られる。

ス　13号竪穴住居跡（SH-13）（第92・93図，図版15）

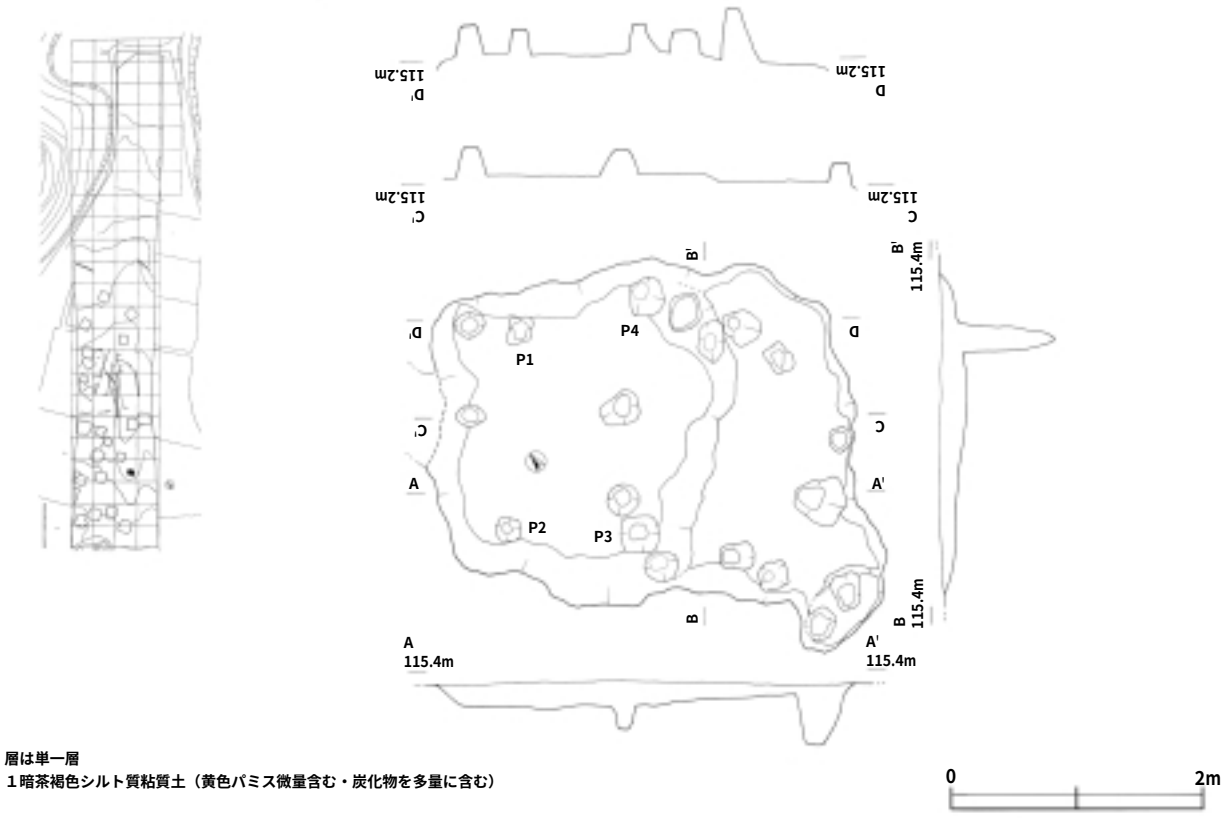
(7)　住居跡構造




**第93図　13号竪穴住居跡出土遺物（土器・石器）**

Ｃ・Ｄ－８区で検出された13号竪穴住居跡の上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約580cm×短辺約470cmを測る。検出面から床面までの深さは約25cmである。付帯施設ではベッド状遺構及び中央竪穴部を検出した。ベッド状遺構は，住居跡の三方で検出された。北東側では幅約120cm，北西側では幅約110cm，南西側では幅約200cm，床面からの高さが約10cmを測る。ベッド状遺構に囲まれる中央竪穴部は，隅丸長方形を呈し，規模は長辺約350cm×短辺約240cmを測る。また，床面には40基のピットを検出した。そのうち中央竪穴部の北西側の両角のＰ１とＰ２，南西側中央のＰ３及び北東側中央のＰ４が主柱と考え，４本柱の構造と認められる。床面からの深さはＰ１が約40cm，Ｐ２が約45cm，Ｐ３が約35cm，Ｐ４が約35cmを測る。また，南西壁から約40cm離れて柱穴の列状配置を確認した。

(ｲ)　住居跡内出土遺物




**第94図　14号竪穴住居跡検出状況**

**第95図　14号竪穴住居跡出土遺物（土器）**

出土土器は，甕形土器，壺形土器で構成される。

甕形土器（第93図　605～612）

605では短めの口縁部が，606～608では長めの口縁部が，「く」の字状に外反する。口縁部内外面共にヨコ調整を行う。609，610は二重口縁甕で，短い鍔がつく。611，612は胴部下半から底部である。底部内面は平坦な形態を呈する土器である。

壺形土器（第93図　613～619）

614は大きく外反する口縁部，613は長胴形小型土器，615～619は小さな平底である。615，616，619では立ち上がりが大きく開き，617，618では立ち上がりが強い土器である。

出土石器（620）は，棒状の石材を使用し，表面に敲打痕の集中部がある，鎚石である。

ガラス製小玉（902）が埋土下層の埋土３から出土している。

セ　14号竪穴住居跡（SH-14）（第94・95図，図版15）

(7)　住居跡構造

Ｃ－６区で検出された14号竪穴住居跡の上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約330cm×短辺約

270cmを測る。検出面から床面までの深さは約10cmである。南東壁側に幅約110cmのベッド状遺構を確認した。また，竪穴部の規模は，長辺約260cm×短辺約230cmを測る。床面には19基もの数多くのピットを検出した。竪穴部の4隅にあるピットＰ１，Ｐ２，Ｐ３，Ｐ４が主柱と考え，心心距離が約100cm～190cmと短い4本柱の構造と認められる。

本住居跡は，床面から検出面までの高さが，他の住居跡と比べ非常に低いことを考えると，本来の住居跡のうち中央竪穴部とベッド状遺構の部分である可能性が高い。

(ｲ)　住居跡内出土遺物（第95図）

621は鉢形土器の口縁部である。器壁が薄い。622は甕形土器の胴部下半で，接合痕がよく観察できる。

ソ　15号竪穴住居跡（SH-15）（第96・97図，図版15）

(ｱ)　住居跡構造

Ｄ－８区で検出された15号竪穴住居跡は，東側が調査区外に延びるため，全体形は不明である。上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約580cm（残存部）×短辺約510cmを測る。検出面から床面までの深さは約30cmである。調査区境にて張り出し様のラインがみられたが詳細は明らかでなく，また，中央掘り込みなどの付帯施設は確認できなかった。

床面には49基もの数多くのピットを検出したものの，２本柱あるいは４本柱など規格性のある構造を認められなかった。いずれのピットも深さがほぼ同じで，主柱と支柱の区別ができない構造は，１号竪穴住居跡と同様である。また，住居跡周辺には数多くのピットが検出され，いずれのピットも竪穴住居跡の埋土状況と同様のため，同時期のものと判断できた。したがって，住居跡内で検出した柱穴が，住居に伴うものなのかも判断ができない。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね３層に分かれ，出土した多くの遺物は，埋土最上層の埋土１と埋土上層の埋土２の出土である。床面直上の出土遺物や，埋土下層の埋土３の出土遺物は少なく，いずれも砕片である。この埋土層ではガラス製の小玉が出土している。なお，４号竪穴住居跡と接合関係が認められる土器が１点出土した。

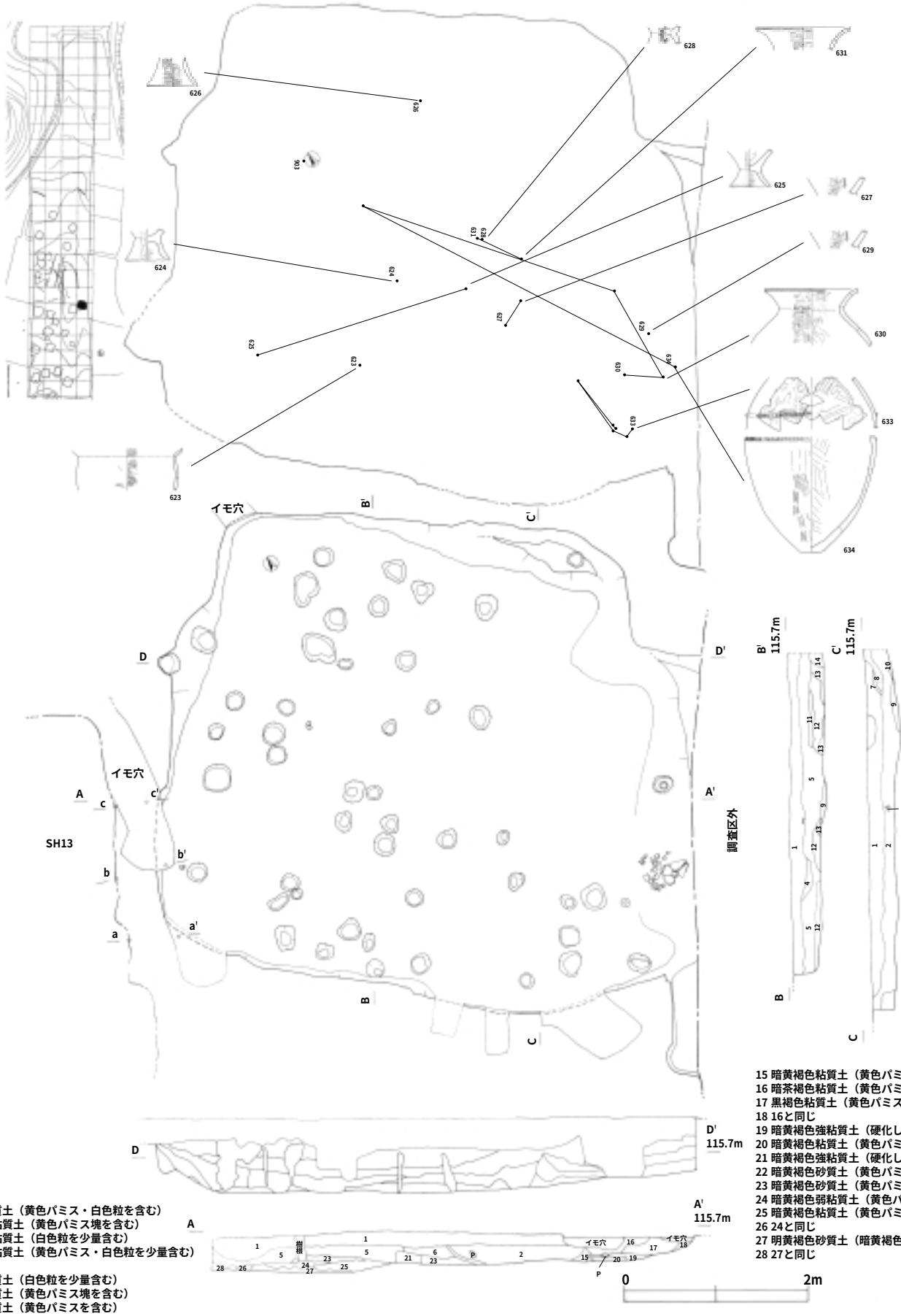
出土土器は，甕形土器，壺形土器で構成される。

甕形土器（第97図　623～629）

623は口縁部が「く」の字状に長めに外反し，胴部があまり張らない土器である。口縁部内外面共に胴部の境界には明瞭な稜線が観察できる。調整は，内外面共にハケメ調整の後にヘラナデ調整を行うものである。624～629は底部である。624～626，629ではいずれも脚の高さが高く，脚が拡がる形態である。624，625，628では底部内面が平坦な形態を呈し，624では特に平坦である。

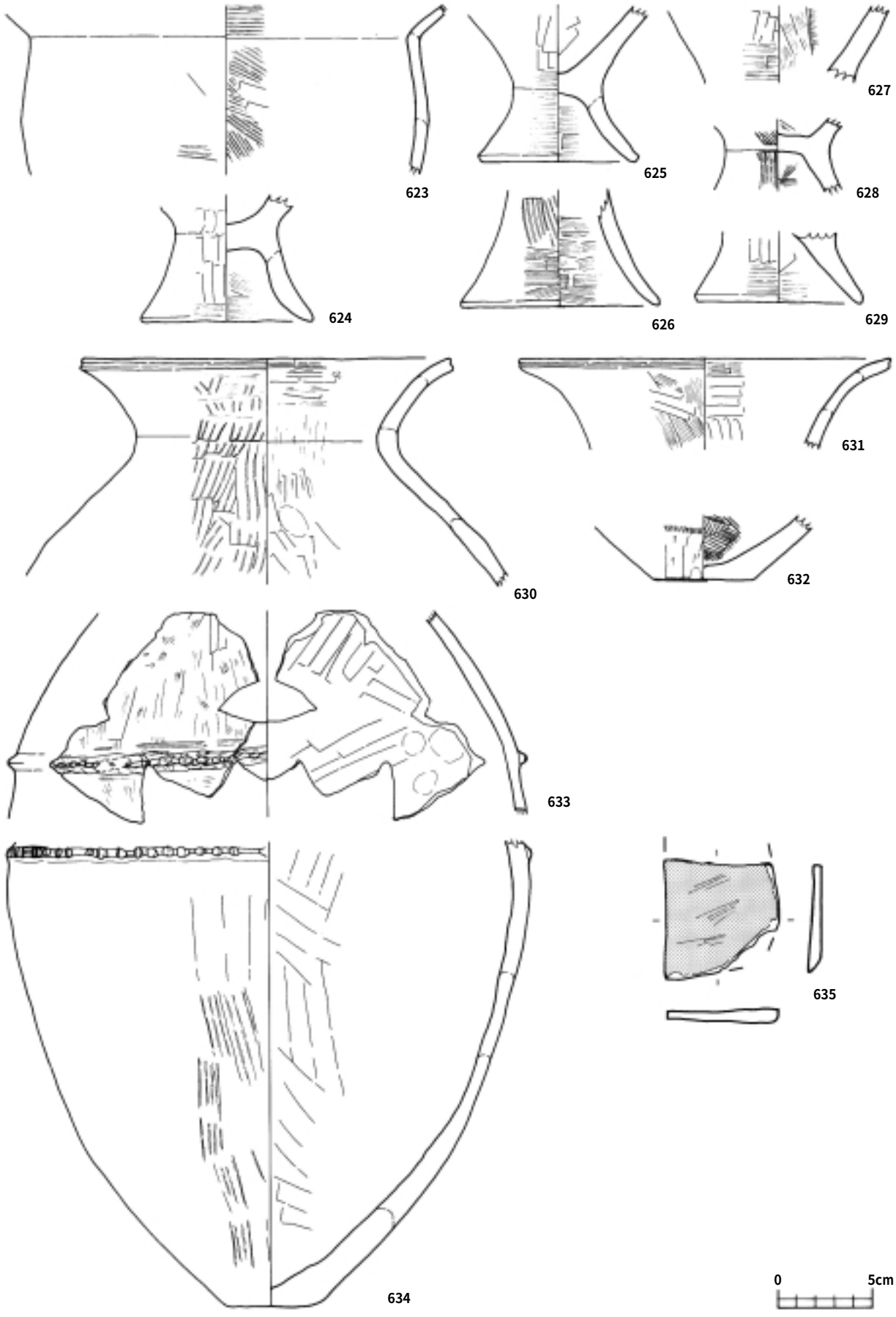
壺形土器（第97図　630～634）

いずれも長胴形を呈する中型土器である。630，631では口縁部は大きく外反する。630では肩部はいずれもなだらかに胴部に移行する。633，634では胴部中央部に刻目を施す貼り付け突帯を１条巡らす。634では胴部下半は直線的にすぼまる。632では胴部下半へ開き，小さな平底を呈する底部である。調整は，外面は幅が太めの工具を使用したハケメ調整の後にヘラナデ調整を行い，内面はヘラナデ調整を行うものである。




1 暗褐色粘質土（黄色パミス・白色粒を含む）
2 暗茶褐色粘質土（黄色パミス塊を含む）
3 暗茶褐色粘質土（白色粒を少量含む）
4 暗黄褐色粘質土（黄色パミス・白色粒を少量含む）
5 2と同じ
6 黒褐色粘質土（白色粒を少量含む）
7 暗褐色粘質土（黄色パミス塊を含む）
8 茶褐色粘質土（黄色パミスを含む）
9 暗黄褐色砂質土（黄色パミスを極めて多量に含む）
10 黄褐色砂質土
11 黄褐色粘質土（硬化した土）
12 暗黄褐色粘質土（黄色パミス塊を含む）
13 黄褐色粘質土（黒褐色土を含む）
14 10と同じ
15 暗黄褐色粘質土（黄色パミスを含む）
16 暗茶褐色粘質土（黄色パミスを少量含む）
17 黒褐色粘質土（黄色パミス・白色粒を少量含む）
18 16と同じ
19 暗黄褐色強粘質土（硬化した土）
20 暗黄褐色粘質土（黄色パミスを極めて多量に含む）
21 暗黄褐色強粘質土（硬化した土）
22 暗黄褐色砂質土（黄色パミスを多量に含む）
23 暗黄褐色砂質土（黄色パミス塊を含む）
24 暗黄褐色弱粘質土（黄色パミス塊を含む）
25 暗黄褐色粘質土（黄色パミス塊・黒色土を含む）
26 24と同じ
27 明黄褐色砂質土（暗黄褐色土を含む）
28 27と同じ

**第96図　15号竪穴住居跡検出状況**




第97図　15号竪穴住居跡出土遺物（土器・石器）

出土石器は，砥石及び鉄床石である。

635は扁平な石材を使用し，線条痕が観察できる面が凹面になることから手持ち砥石と想定できる。また，表裏両面共に被熱の影響と考えられる黄色化や赤色化や，鉄分の付着が観られることから鉄床石への使用も考えられる。石材は石英粗面岩の一種である「天草石」の可能性が大きい。

タ　16号竪穴住居跡（SH-16）（第98・99図，図版16）

(ｱ)　住居跡構造

Ａ－５区で検出された16号竪穴住居跡は，東側が調査区外に延びるため，全体形は不明である。上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約570cm×短辺約160cm（残存部）を測る。検出面から床面までの深さは約60cmである。北東壁には張り出しを検出した。南側が残存せず，全体形は不明である。規模は長辺約220cm（残存部）×短辺130cmである。この張り出しには，不整形な深さ約10cmの凹み状の土坑があった。

この住居跡は，生活面が２回にわたり構築されている可能性が，ピットの埋土が住居跡埋土最下層土を切っている状況などから指摘できる。

このうち第２次生活面では，長辺約160cm（残存部）×短辺50cm（残存部），深さ約10cmの中央竪穴部と推定できる土坑を，調査区境壁際で検出した。

床面には９基のピットを検出した。そのうち５基は第２次生活面検出時に壁面に沿って列状配置を確認し，１基は張り出し部にて検出したものの，全体像が判明せず，２本柱あるいは４本柱など規格性のある構造を認められなかった。また，第１次生活面検出時には調査区境壁際にて３基のピットを検出した。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね３層に分かれ，出土した多くの遺物は，埋土最上層の埋土１や埋土上層の埋土２の出土である。床面直上の出土遺物はなく，埋土下層の埋土３からの出土遺物は少なく，いずれも砕片である。埋土２ではガラス製小玉が２点（904，905）出土した。なお，他の住居跡と接合関係にある遺物は認められなかった。

出土土器は，甕形土器，壺形土器，鉢形土器，ミニュチュア土器で構成される。

甕形土器（第99図　636～642）

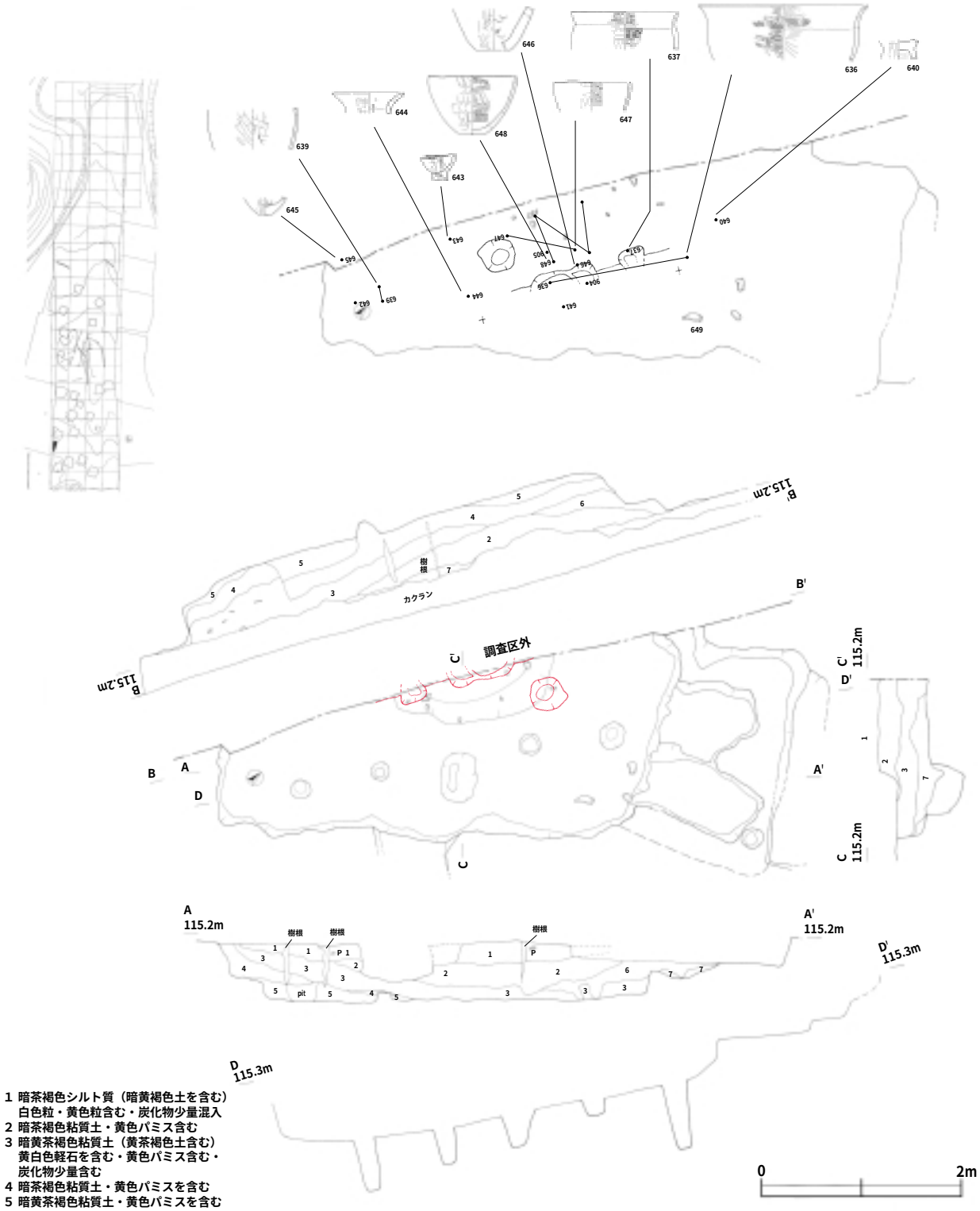
636は口径約30cmを測る中型土器である。口縁部は短めで外反の度合いが弱く，口縁部外面には掻き上げ調整が施され，稜線は弱い。口縁部内面と胴部の境界には，胴部上端部にヨコ方向の調整が強く行われるため明瞭な稜線が観察できる。

637～639は口径は約20cmを測る小振りの甕形土器である。637・638では口縁部は短めで外反の度合いが弱く，637では外面にヘラナデ調整を，638では掻き上げ調整を行い，稜線は不明瞭である。639では調整はタテ方向のケズリ調整の後にヘラナデ調整を行うものである。

640～642は底部である。642は脚が拡がる土器である。640，641は底部内面が特に平坦な形態のものである。

壺形土器（第99図　644～646）

644は肩部から頸部に立ち上がり，短く開く口縁部がつく土器である。調整はタテ方向のケズリ調整の後ヨコ調整を行うものである。

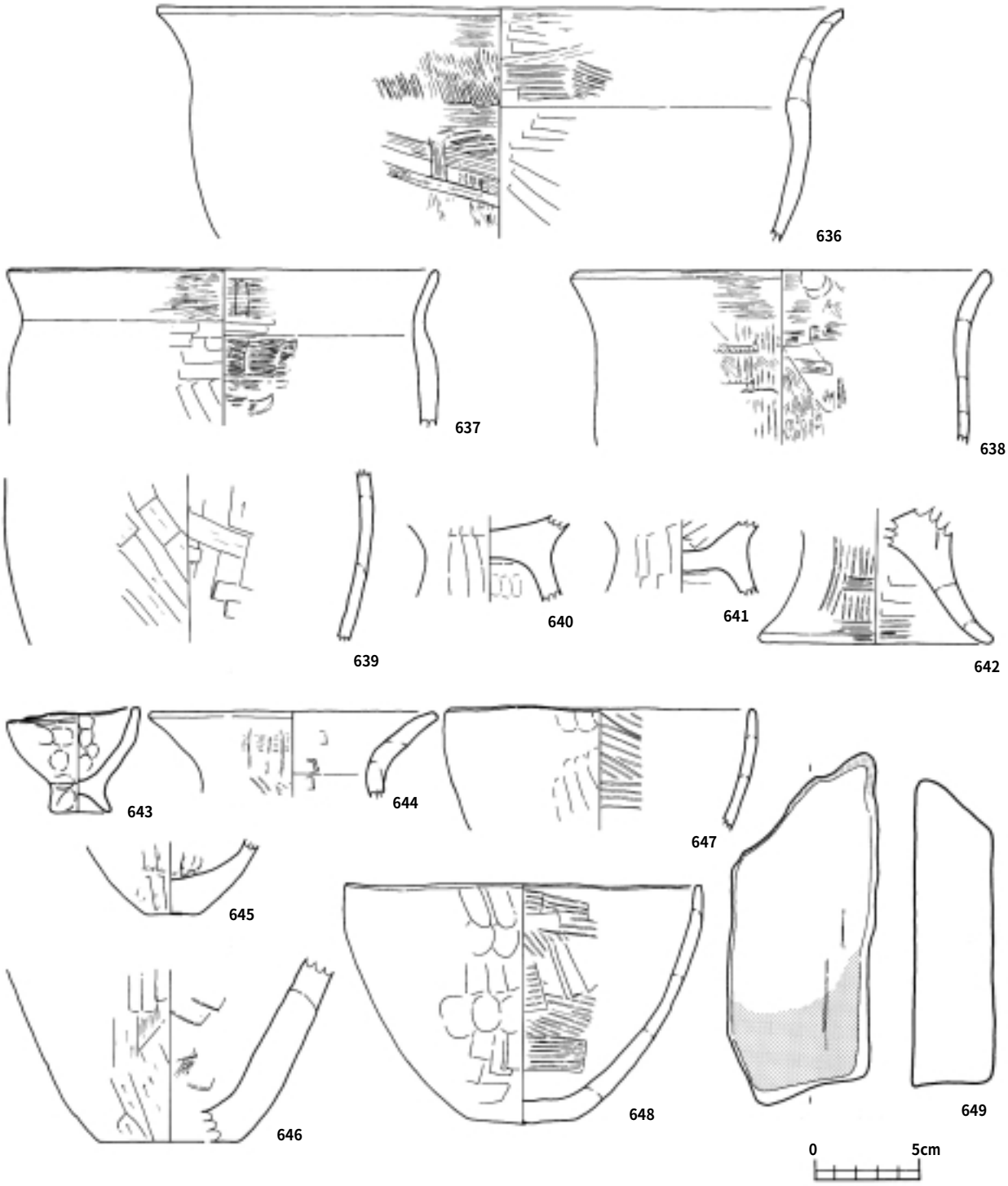



**第98図　16号竪穴住居跡検出状況**

645・646は底部である。小さな平底に立ち上がりが強い胴部下半がつくものである。

鉢形土器（第99図　647・648）

口径約15cm～17cmを測り，鉢形土器の中では小振りの土器である。口縁部は直立し，胴部は緩やかに弯曲しながら底部にすぼまる。底部は平底である。調整では，外面ではタテ方向のヘラナデ




**第99図　16号竪穴住居跡出土遺物（土器・石器）**

調整を，胴部下半外面ではタテ方向のケズリ調整を，内面では太めの工具を使用したハケメ調整を行う。

ミニュチュア土器（第99図　643）

643は脚台付き鉢形土器形土器のミニュチュア土器である。口径約６cm，高さ約５cmを測る。口縁部は直立し，胴部は緩やかに弯曲しながら底部にすぼまる。

資料化した出土石器は砥石及び鉄床石のみ１点である。

649は厚さ４cmの扁平な石材を使用し，表面は使い込まれ，線条痕が観察できることから砥石と

想定できる。また，被熱の影響と考えられる黄色化や赤色化が観られることから鉄床石への使用も考えられる。

チ　17号竪穴住居跡（SH-17）（第100・101図，図版16・17）

(ｱ)　住居跡構造

Ａ－12・13区で検出された17号竪穴住居跡の上面観は隅丸方形を呈し，規模は約460cm×約460cmを測る。検出面から床面までの深さは約30cmである。付帯施設では壁帯溝と炉跡を検出した。壁帯溝は北東壁から北西壁に沿って検出され，規模は幅約70cm～90cm，深さ約10cm～20cmの断面がＵ字形を呈す。炉跡は北東壁から約220cm，南東壁から約150cm離れた地点に，長径約80cm×短径約60cmの楕円形を呈する，深さ約15cmの土坑である。

床面には14基のピットを検出した。そのうち北西壁から約240cm離れ，床面からの深さが約40cmあるＰ１とＰ２を主柱と考え，心心距離が約120cmの２本柱の構造と認められる。また，北西壁から約150cm離れて柱穴の列状配置を確認した。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね３層に分かれ，出土した多くの遺物は，埋土最上層の埋土１や埋土上層の埋土２の出土である。床面直上の出土遺物はなく，埋土下層の埋土３からの出土遺物は少ない。なお，埋土２出土土器のうち，１点は18号竪穴住居跡埋土１の出土土器と，１点は19号竪穴住居跡埋土２の出土土器との接合関係が認められる。

出土土器は，甕形土器，壺形土器，鉢形土器で構成される。

甕形土器（第101図　650・652）

650・652は底部である。650では底部内面が特に平坦な形態を呈し，652では短く開き，脚に高さが低いものである。脚先端部には平坦面を作出するのが特徴である。

壺形土器（第101図　651）

651は大きく外反する口縁部である。調整はヨコ調整の後にナデ調整を行うものである。

鉢形土器（第101図　652）

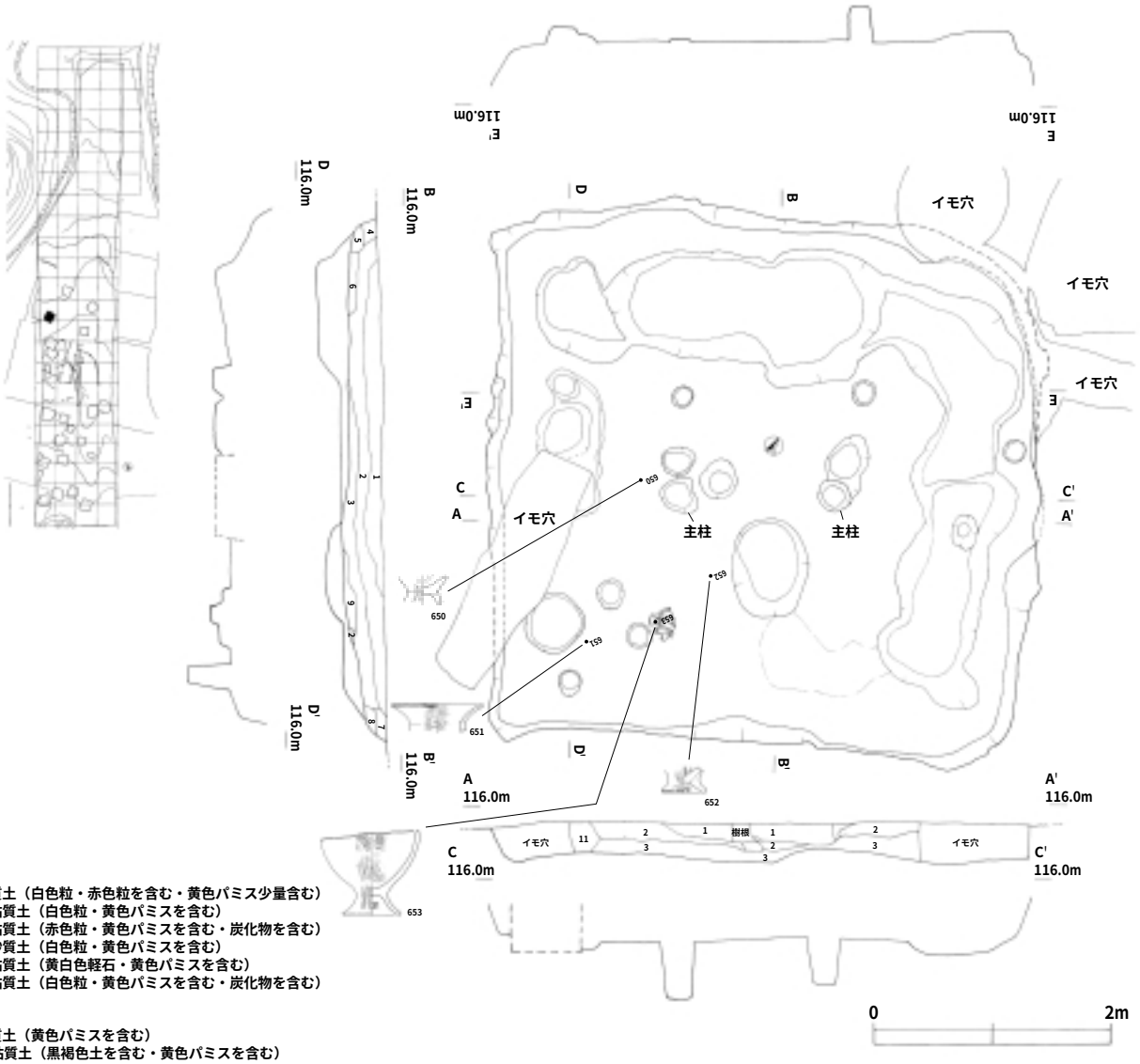
652は脚台付きの鉢形土器である。口径約16cm，底径約13cm，高さ約9.5cmを測る土器である。口縁部は直立し，胴部は緩やかに弯曲しながらすぼまり，脚が拡がる。調整は脚部から口縁部にタテ方向のハケメ調整の後ナデ調整を行うものである。

ツ　18号竪穴住居跡（SH-18）（第102図～第106図，図版17・18）

(ｱ)　住居跡構造

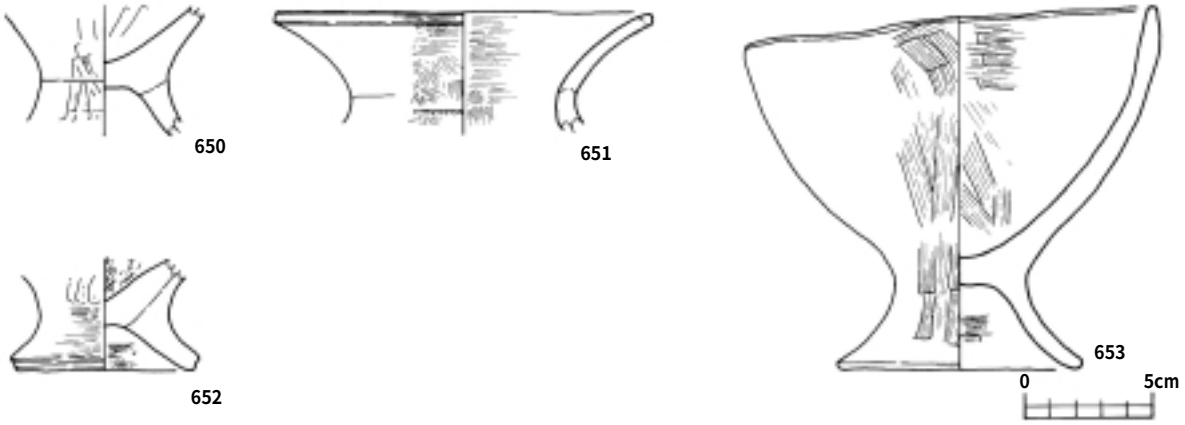
Ａ－14区で検出された18号竪穴住居跡の上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約460cm×短辺約430cmを測る。検出面から床面までの深さは約30cmである。南西側に長辺250cm×短辺50cmを測る張り出し１基を検出した。この張り出しについては，住居構造での主柱配置から考えると，建築当初から想定された施設と想定でき，「長辺約180cm×短辺50cmの掘り残し部分がある」と認識するのが正確である。

床面には22基のピットを検出した。そのうち北西壁から約180cm離れたＰ１及びＰ２と，南東壁から約130cm離れたＰ３及びＰ４を主柱と考え，４本柱の構造と認められる。

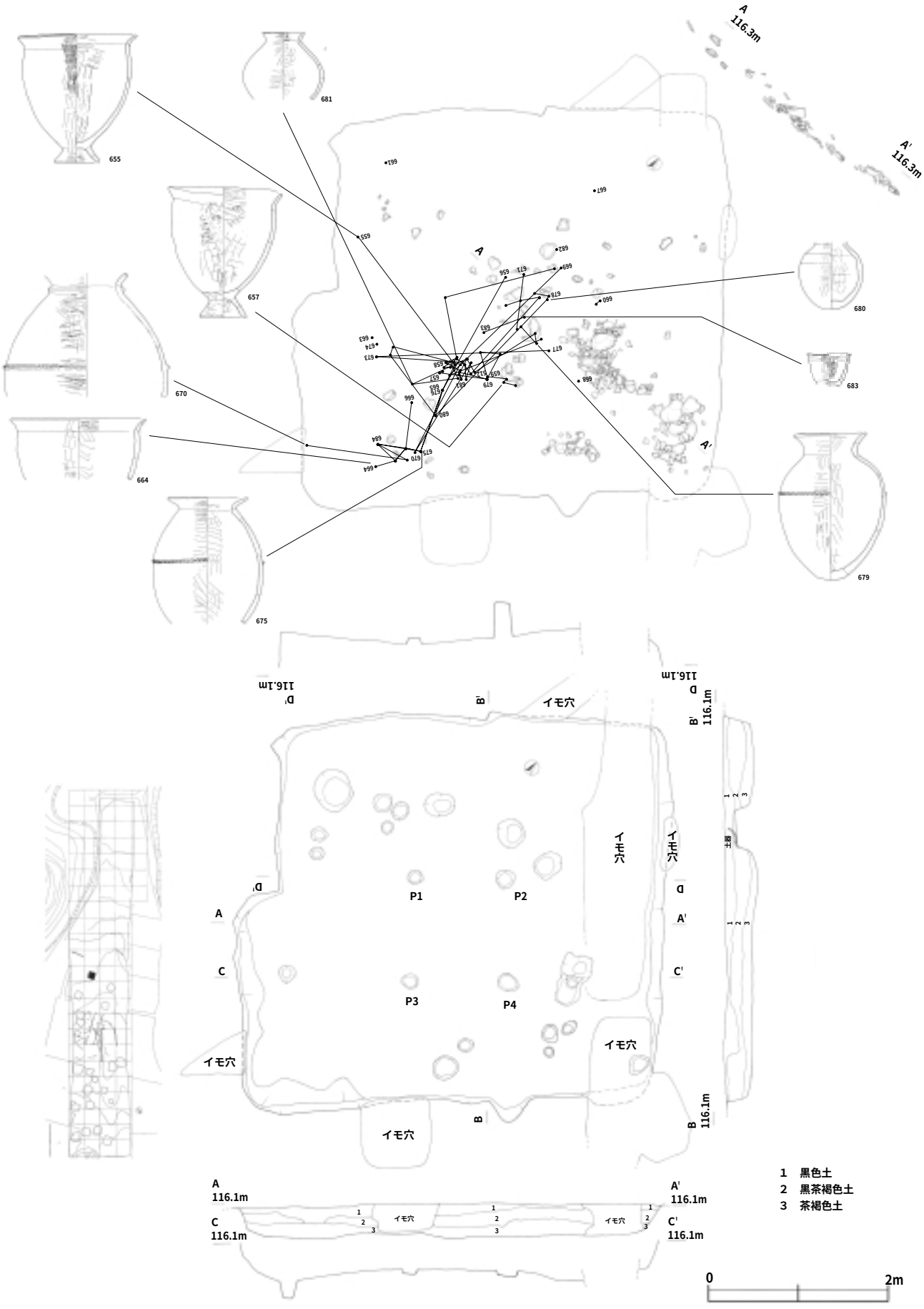



1 暗褐色砂質土（白色粒・赤色粒を含む・黄色パミス少量含む）
2 暗茶褐色粘質土（白色粒・黄色パミスを含む）
3 暗黄褐色粘質土（赤色粒・黄色パミスを含む・炭化物を含む）
4 暗黄褐色砂質土（白色粒・黄色パミスを含む）
5 暗黄褐色粘質土（黄白色軽石・黄色パミスを含む）
6 暗黄褐色粘質土（白色粒・黄色パミスを含む・炭化物を含む）
7 4と同じ
8 5と同じ
9 黒褐色粘質土（黄色パミスを含む）
10 暗黄褐色粘質土（黒褐色土を含む・黄色パミスを含む）

**第100図　17号竪穴住居跡検出状況**

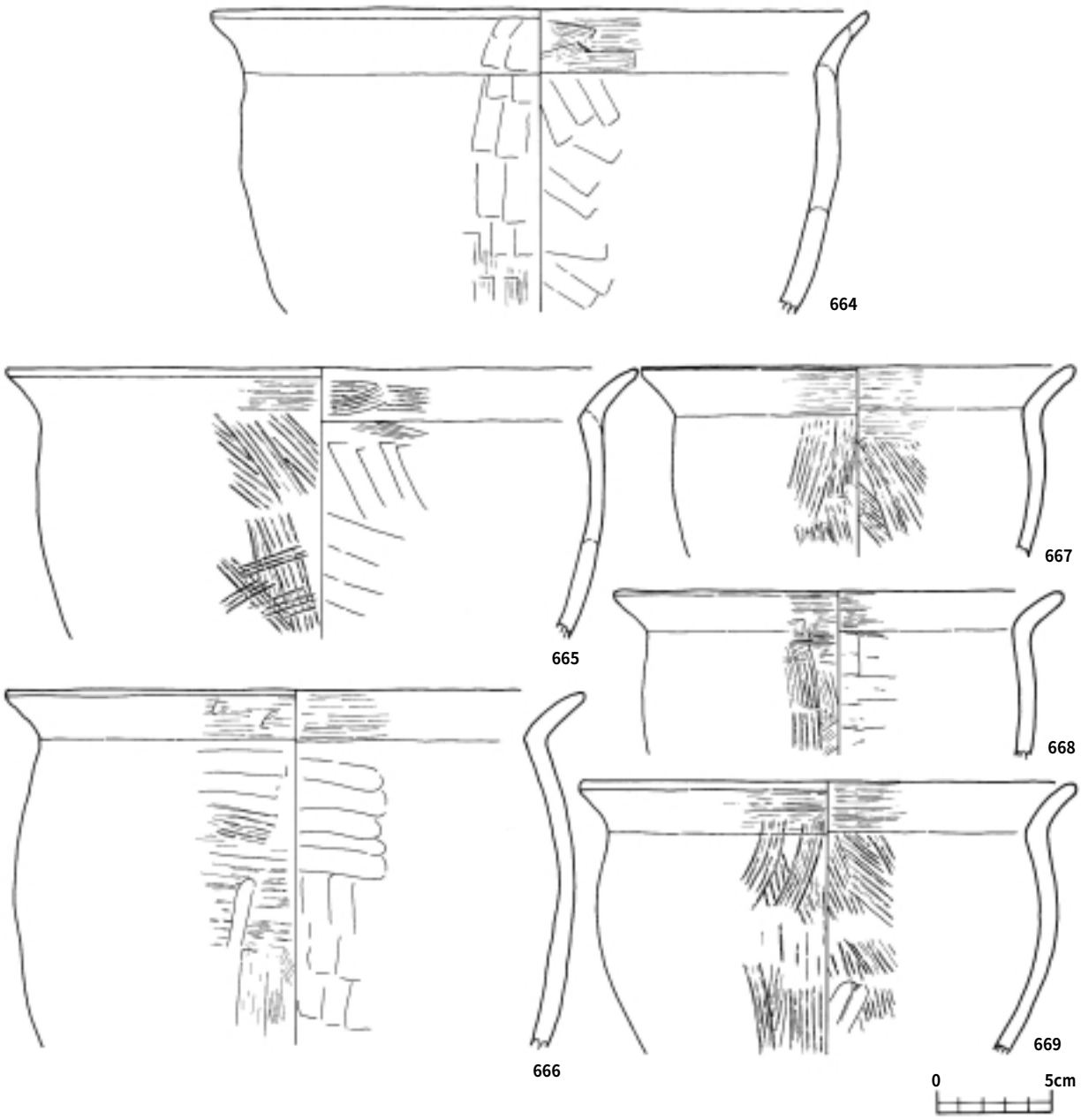



**第101図　17号竪穴住居跡出土遺物（土器）**




**第102図　18号竪穴住居跡検出･遺物出土状況**

第103図　18号竪穴住居跡出土遺物（土器1）




**第104図　18号竪穴住居跡出土遺物（土器2）**

(イ)　住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね３層に分かれ，出土した多くの遺物は，埋土最上層の埋土１や埋土上層の埋土２の出土である。特に，埋土２の出土遺物は，完形に復元できたものが多く，住居廃絶後に一括廃棄されたものと想定される。床面直上の出土遺物はなく，埋土下層の埋土３からの出土遺物は少ない。なお，出土土器のうち１点は17号竪穴住居跡と，２点は，19号竪穴住居跡と接合関係が認められる。

出土土器は，甕形土器，壺形土器，鉢形土器で構成される。

甕形土器（第103・104図　654～669）

654～657，664，665は口縁部は外反の度合いが弱い，口径約30cmを測る中型土器である。口縁部

外面と胴部の境界ではヘラナデ調整（654，664）や，胴部上端から口縁下部まで掻き上げ調整（655，657，665），若しくはハケメ調整（656）が施され，稜線は不明瞭である。そのうち，654～656，664，665では胴部上端部と口縁下部の調整をいったん切っており，境界は明瞭な稜線が観察できる。また，657ではヨコ方向のヘラナデ調整が施されるため，稜線は不明瞭である。

666は口縁部が「く」の字状に長めに外反する口径約30cmを測る中型土器である。口縁部内外面にはヨコ調整を，胴部外面にはヨコ方向のハケメ調整の後，タテ方向のヘラナデ調整を，胴部内面ではヘラナデ調整を丁寧に行うものである。

667～669は口径は約20cmを測る小振りの甕形土器である。口縁部は「く」の字状に長めに外反し，口縁部内面と胴部の境界には明瞭な稜線が観察できる土器である。

658～663は底部である。657の底部は脚が立ち気味になり，655，652は脚が拡がる土器である。655，650，663は底部内面が特に平坦な形態のもの，662は底部内面に突起がつく形態のものである。658，659，660，662，663では径の小さな平底の立ち上がり部分に中空の輪状の脚台を付ける成形技法が明瞭に観察できた。

壺形土器（第105・106図　670～682）

670～679は中型土器のうち長胴形の壺形土器である。

器形的特徴としては，肩部から頸部に立ち上がり，短く開く口縁部がつき（671，675，679），肩部はいずれもなだらかに胴部に移行し，胴部中央部には，刻目を施す貼り付け突帯を１条巡らすものである。胴部下半は緩やかにすぼまるもの（675，677，579）と，直線的にすぼまるもの（676，678）がある。底部は4cm～5cm程の小さめの底径の平底である。調整は，口縁部外面ではヨコ調整の後にナデ調整を行い，肩部から胴部では外面はハケメ調整を，内面は上半ではヨコあるいは斜方向のヘラナデ調整を，下半ではハケメ調整あるいはヘラナデ調整を行うものである。

特徴的な土器として670を挙げることができる。この土器は大振りの土器で，肩部と口縁部外面の境に，断面が三角形状を呈する無刻み目突帯を１条巡らし，調整では胴部外面ではミガキに近い丁寧なナデ調整を行うものである。

小型土器（第106図　680～683）

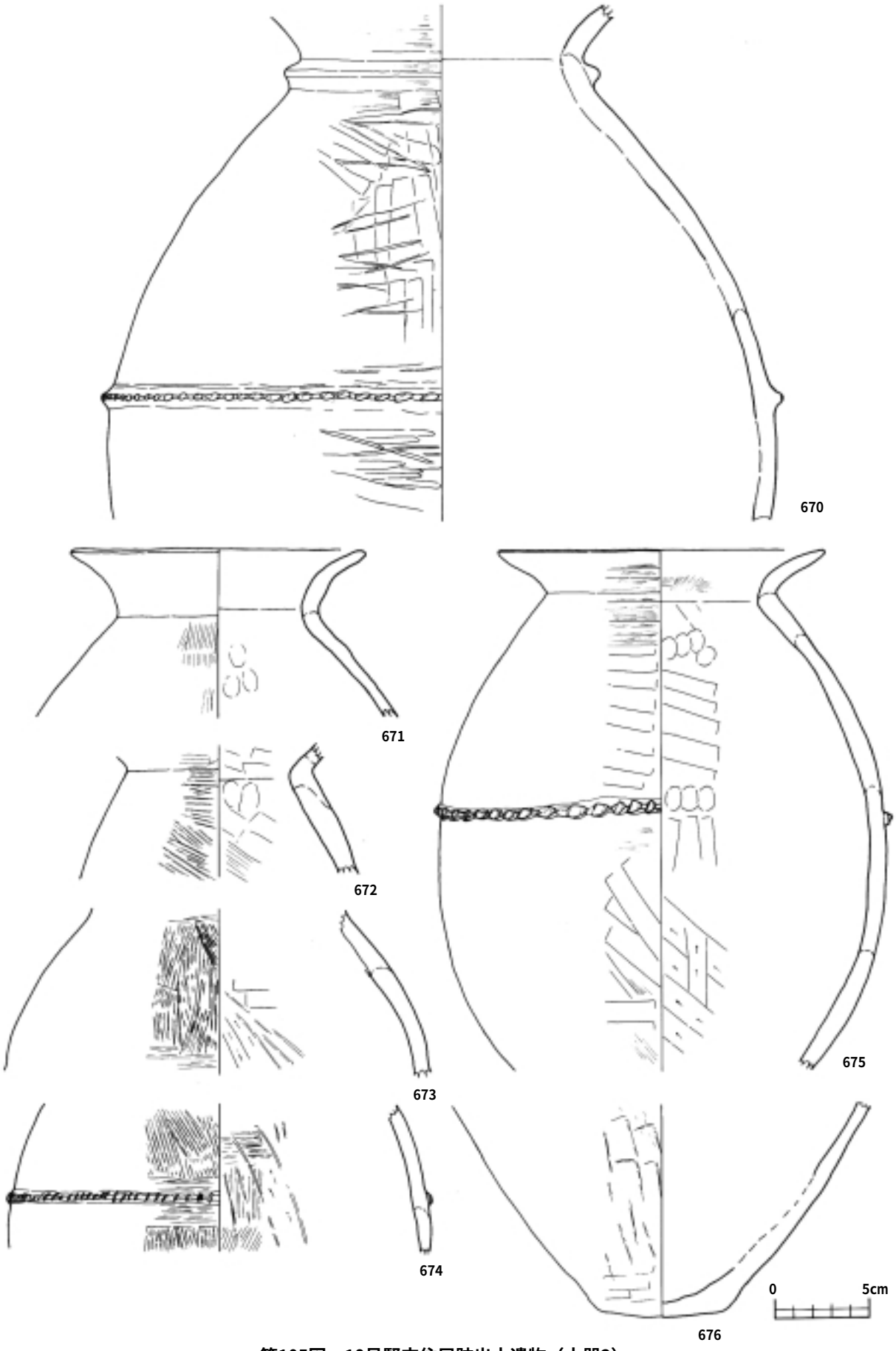
680は肩部から底部の土器で，長胴形の壺形土器である。調整は内外面共にタテ方向のケズリ調整の後に粗いナデ調整を行うものである。

681・682はわずかに開く短い口縁部から胴部へ肩部が張り，681は胴部が球形に張る形態を呈し，突帯は巡らさない土器である。調整は，681の外面ではヘラナデ調整を行い，内面では指頭圧調整とヘラナデ調整を行う。また，682の外面では共にタテ方向のハケメ調整を行い，内面ではタテ方向のハケメ調整を行う土器である。

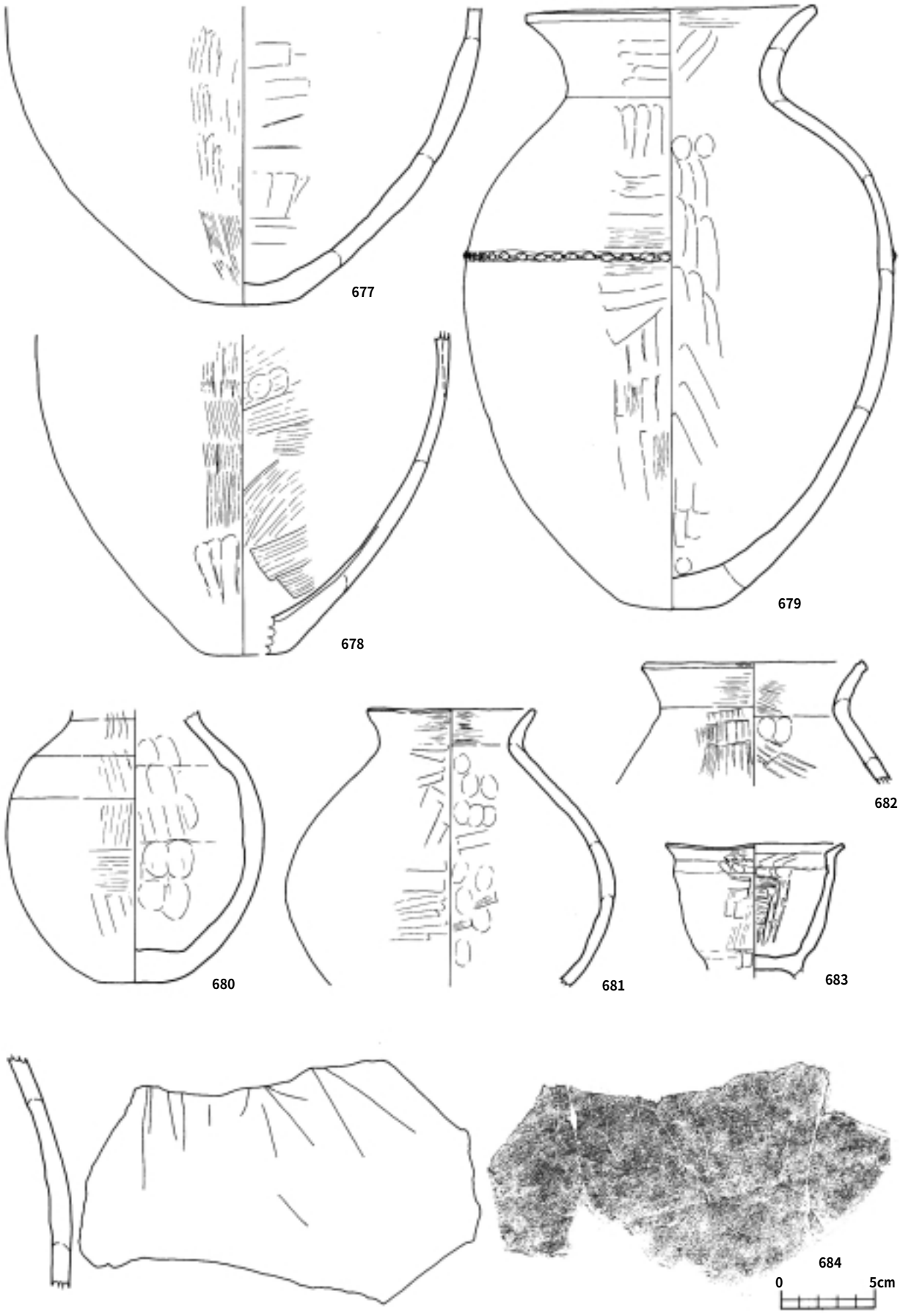
683は鉢形土器である。口縁部は「く」の字状に短めに外反し，口縁部内面と胴部の境界には明瞭な稜線が観察できる土器である。胴部はほぼ直立したまま直線的に底部に移行し，平底の立ち上がり部分に中空の輪状の脚台を付けるようである。調整は，外面ではタテ調整の後に指頭圧調整を行い，内面ではヘラナデ調整を行う。

線刻土器（第106図　684）

684は長胴形の壺形土器の胴部中央片である。胴部上半から続く線刻が10数本みられる。いずれも先の尖った工具による刻線である。描いた対象物は不明である。




第105図　18号竪穴住居跡出土遺物（土器3）




第106図　18号竪穴住居跡出土遺物（土器4）

テ　19号竪穴住居跡（SH-19）（第107図～第110図，図版18）

(ｱ)　住居跡構造

Ｃ－13区で検出された19号竪穴住居跡の上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約480cm×短辺約470cmを測る。検出面から床面までの深さは約40cmである。張り出し及び中央掘り込みなどの付帯施設は確認できなかった。

床面には39基のピットを検出したものの，２本柱あるいは４本柱など規格性のある構造を認められなかった。いずれのピットも深さがほぼ同じで，主柱と支柱の区別ができない。また，住居跡周辺には数多くのピットが検出され，いずれのピットも竪穴住居跡の埋土状況と同様のため，同時期ものと判断できた。したがって，住居跡内で検出した柱穴が，住居に伴うものなのかも判断ができない。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね３層に分かれ，出土した多くの遺物は，埋土最上層の埋土１や埋土上層の埋土２の出土である。床面直上の出土遺物はなく，埋土下層の埋土３からの出土遺物は少なく，資料化できたのは696の１点であった。特に，埋土２の出土土器では完形に復元できたものが多く，住居廃絶後に一括廃棄されたものと想定される。

なお，埋土２出土土器の中には18号竪穴住居跡埋土１の出土土器と，19号竪穴住居跡埋土２の出土土器と接合関係が認められるものがある。

出土土器は，甕形土器，壺形土器，鉢形土器，手づくね土器で構成される。

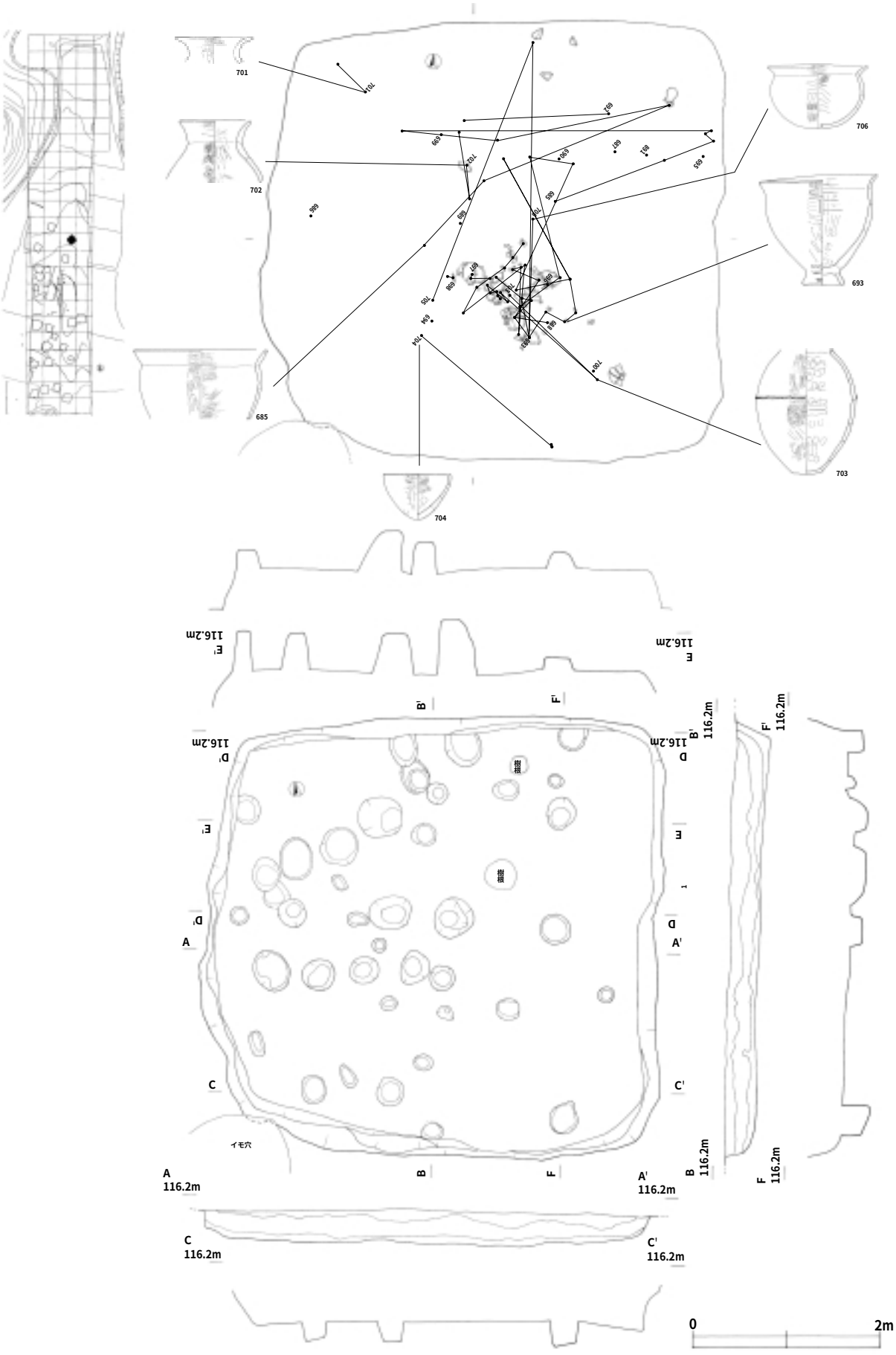
甕形土器（第108図　685～699）

甕形土器はくの字状口縁で，脚台の付くものである。胴部は肩が張り，概して短い。

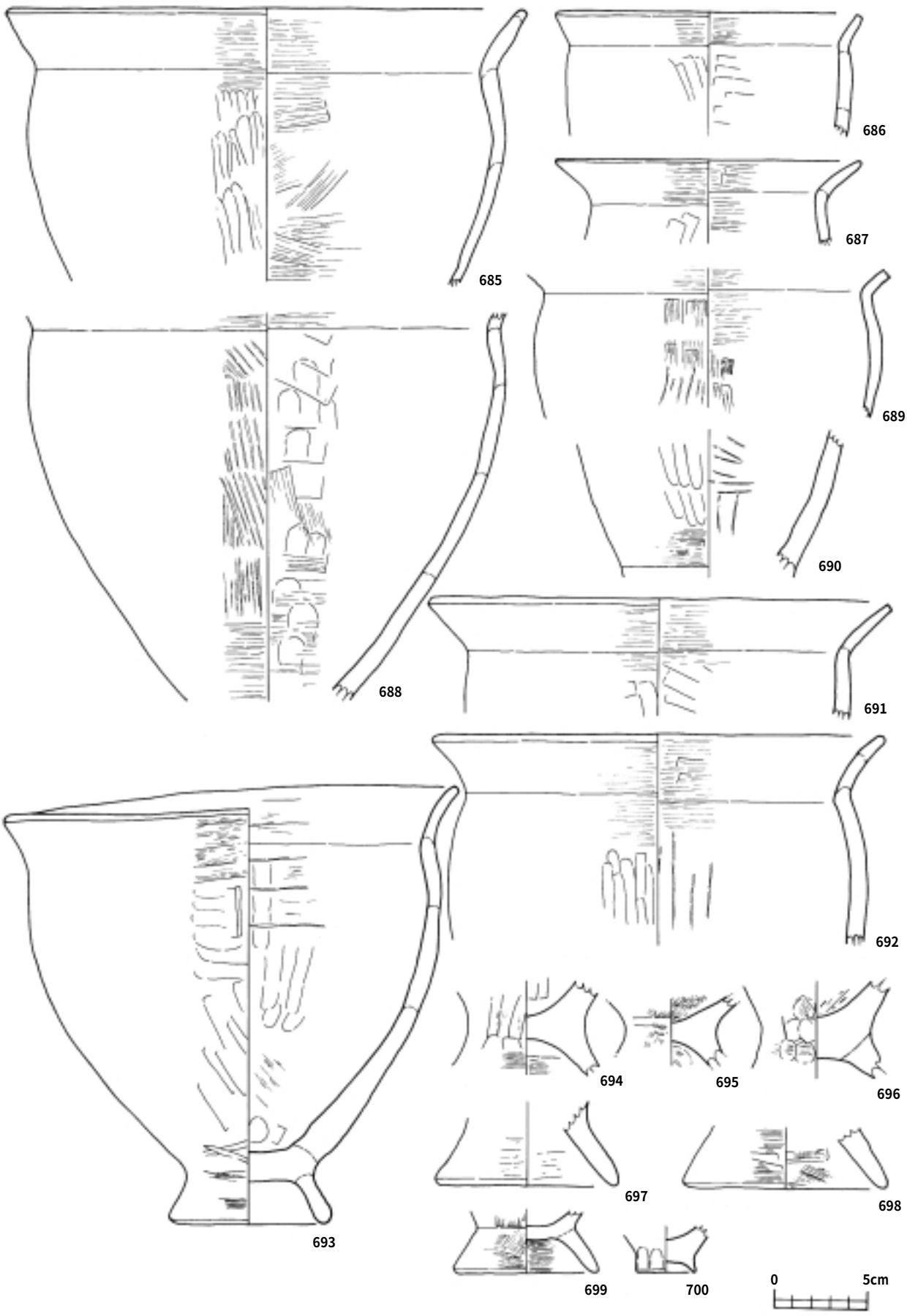
685は口縁直径が28cmとやや大きめのもので，口縁が外へ反るために，頸部の内面にはゆるやかな稜がみられる。外面は口縁部がヘラ横ナデ，胴部が粗いハケ縦ナデで仕上げ，内面は口縁部がていねいなヘラ横ナデ，胴部が繊維状ハケナデで，薄く仕上げている。686・687は口縁直径が16cmほどの小さいものであるが，686が頸部からゆるやかに立ち上がるのに対して，687は強く外反する。内外ともヘラナデで，外にはススが付いている。688は頸部から底部付近で，外面は粗いハケナデのあと，底部近くがヘラナデで仕上げている。内面はヘラ横ナデで仕上げて，薄くなっている。689も頸部付近で，内面は稜ができ，外にはヘラ痕跡がみられる。690は底付近でコゲがある。691・692は口縁直径が25cmほどのもので，頸部から稜をもって強く外反しているが，691が直に近く伸びているのに対して，692は外へ反って端部へ向かっており，口唇部は丸く収まる。内面の口縁部は横ナデで，胴部はケズリに近い粗いヘラナデである。厚い作りで，直径１cm大の小石も含まれている。693はややひずんでいるが，完形品である。口径直径が24cm，高さが23 cm，脚台直径が８cmあり，口径部はゆるやかに外反している。内外ともヘラナデで仕上げている。脚台端は丸く収まっており，脚台高が低い。底は大きく，どっしりした器形を呈している。脚台は低いもので，699は高さが2.8cmしかない。

壺形土器（第109図　701～703）

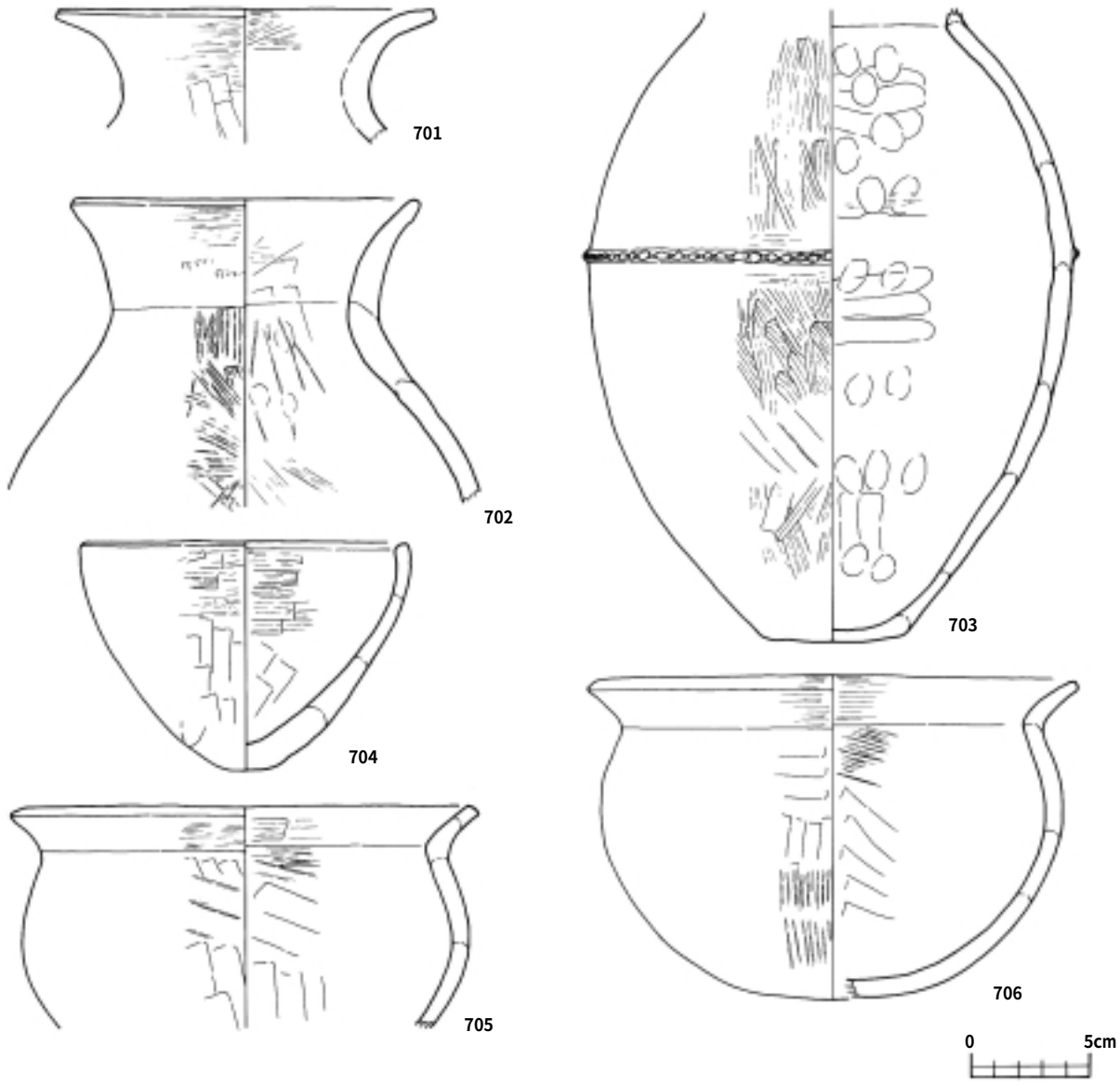
口縁が強く外反するものと，くの字状になるものとがあり，底は平たい。701は口縁直径が16cmで，頸部でくびれ，強く外反している。口唇部はくぼんでおり，内外ともヘラミガキ様のていねい




**第107図　19号竪穴住居跡検出･遺物出土状況**




**第108図　19号竪穴住居跡出土遺物（土器1）**

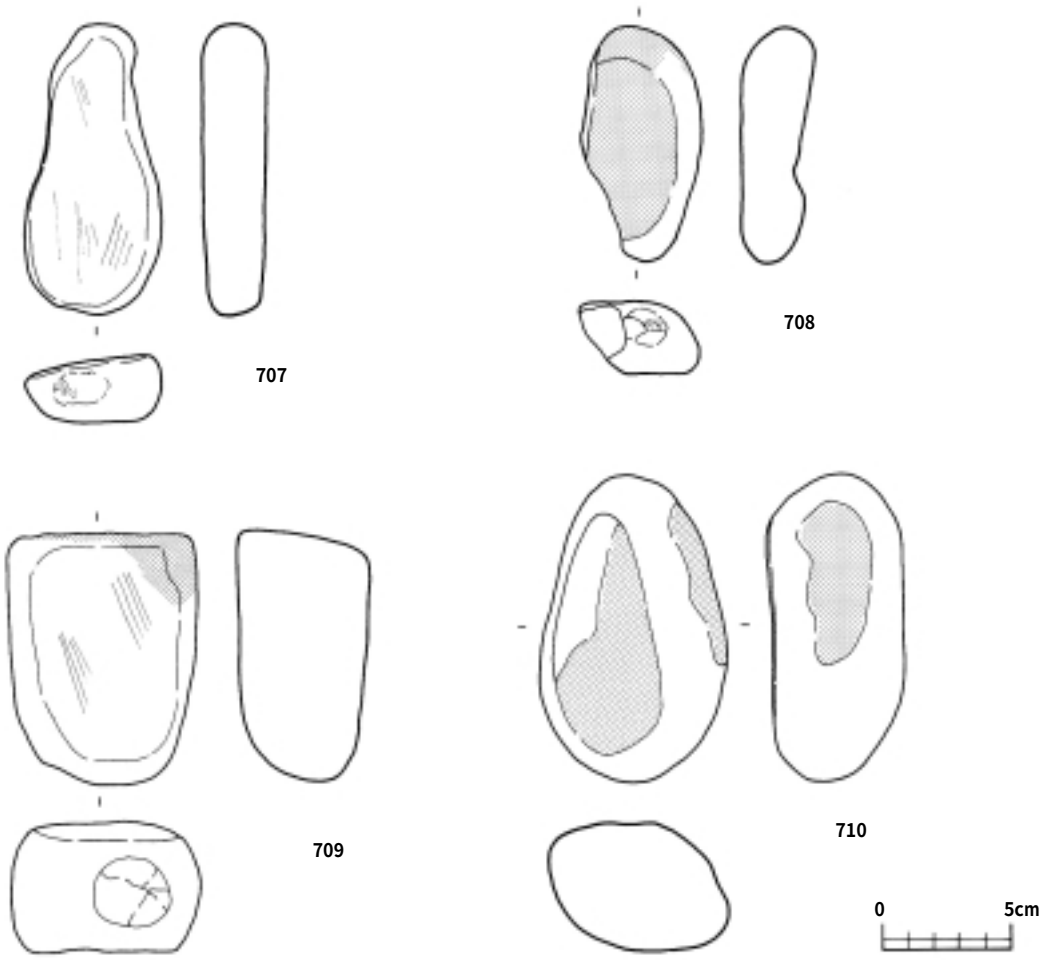



**第109図　19号竪穴住居跡出土遺物（土器2）**

なナデである。702も頸部がくびれて，外へ反っているが，外反度は弱い。口縁直径が14.5cmある。口縁の作りは雑で，ゆるやかな二重口縁風になっている。外面調整は粗いハケナデ，内面調整は口縁がヘラナデ，胴部がヘラケズリである。703は胴部中央あたりがもっともふくらんでおり，ここに小さな刻目突帯が貼り付いている。頸部までの高さが26.5cmと長胴形を呈している。底は直径 6 cmと安定した平底である。外面上部は縦方向のヘラナデだが，下部はそのあとていねいにヘラナデで仕上げている。内面もヘラナデだが，703には指頭圧痕が残っており，指ナデの可能性がある。

鉢形土器（第109図　704～706）

704は口縁直径が13.5cm，高さが10cmの小さい平底の器形をしており，口縁部がやや内反している。内外ともていねいなヘラナデで仕上げている。705・706は頸部から口縁部が強く外反し，丸底の鉢である。口縁直径は705が19cm，706が20cmあり，706の高さは14cmである。外面の下部はハケ




**第110図　19号竪穴住居跡出土遺物（石器）**

ナデであるが，ほかはヘラナデ仕上げでこしらえ，口縁には指頭圧痕がついている。

ミニチュア土器（第108図　700）

甕形のミニチュア土器である。先の尖った小さな脚台が付いており，外面はヘラでナデられている。

（イ）石器（第110図　707～710）

直方体の砂岩円礫を利用した砥石・敲石が4点出土している。707はやや扁平なもので，表裏二面を使用している。短側面は両側とも敲石として用いている。708は一部に欠損のみられるだ円形の円礫で，表裏と側面の三面を使用している。上下には敲打面があり，敲石としても用いられている。709は厚さ5㎝の分厚い礫の一面を砥石として使用しているが，短側面の両側には打痕跡がみられ，敲石としても使われている。710も分厚いだ円礫で，全面を使用している。砥石と磨石様の用途として用い，各所に擦痕がみられる。

ト　20号竪穴住居跡（SH-20）（第111図～第113図，図版19）

(ｱ)　住居跡構造

Ａ－11・12区で検出された20号竪穴住居跡の上面観は隅丸方形を呈し，規模は約480cm×約480cmを測る。検出面から床面までの深さは約40cmである。南西側では21号竪穴住居跡を切っている。北西側にテラスが２段ある階段状張り出し１基を検出した。全体は長辺230cm×短辺110cmを測る上面観が台形状を呈し，テラスの幅は約40cm～50cm，床面から１段目のテラスの高さが約20cm，１段目から２段目のテラスの高さは約10cmを測る。各テラスにはピットが向かい合って検出され，併せて出入口の可能性がある。また，北側隅には上面観が不整形を呈する深さ約10cmの凹み状の土坑が検出された。

床面には32基のピットを検出した。そのうち，北西壁から約170cm離れたＰ１と，南東壁から約180cm離れたＰ２を主柱と考え，心心距離が約110cmの２本柱の構造と認められる。この主柱軸上には深さの同程度や浅いものを検出し，これらは支柱の可能性が想定できる。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね３層に分かれ，出土した多くの遺物は，埋土最上層の埋土１や埋土上層の埋土２の出土である。床面直上の出土遺物はなく，埋土下層の埋土３からの出土遺物は少ない。特に，埋土２では復元がかなりできたものなどは，住居廃絶後に一括廃棄されたものと想定される。また，北側部分では生活面に接した状態で，７個ほどの自然礫を集積させた遺構を検出した。なお，埋土２出土土器722は21号竪穴住居跡埋土１の出土土器と接合関係がある。

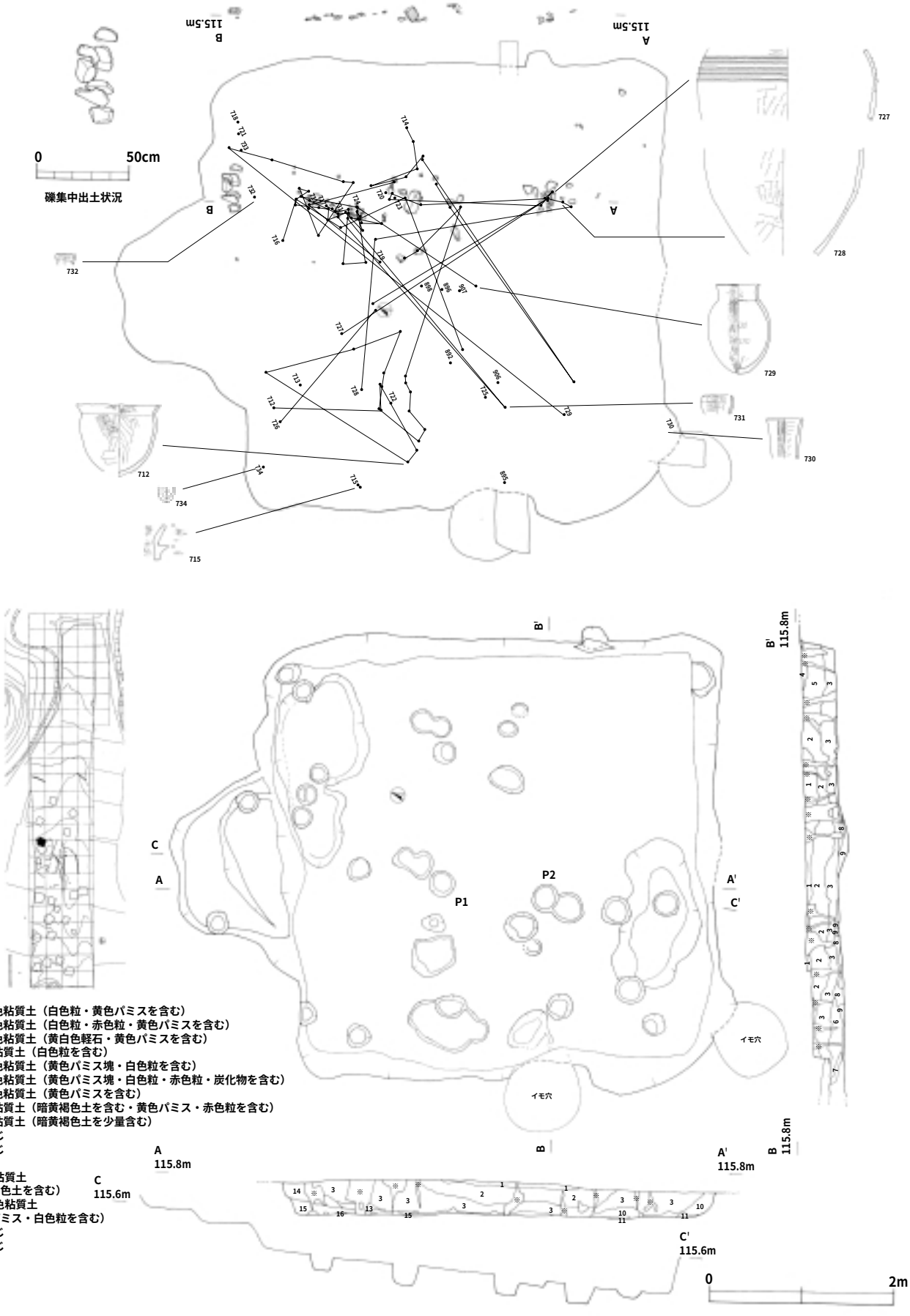
出土土器は，甕形土器，壺形土器，坩形土器，ミニュチュア土器で構成される。

甕形土器（第112図　711～725）

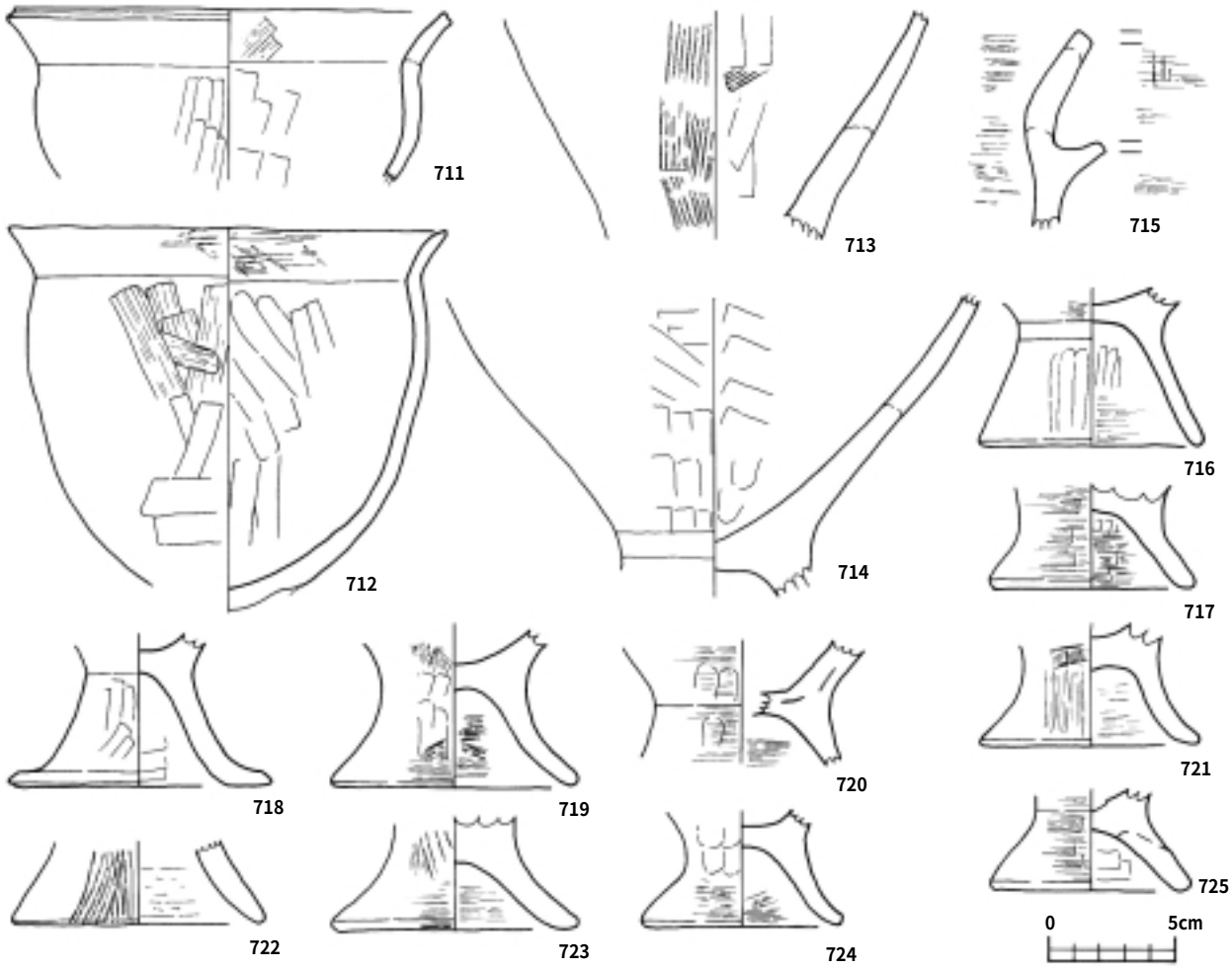
くの字状口縁で，低い胴部となり，脚台が付く。711は口縁直径が17cmで，内面は頸部から稜をもって胴部へ移るくの字状口縁となるもので，口唇部は矩形を呈する。内外ともヘラナデで仕上げており，丸底甕と思われる。外にはススが付着している。712は口縁直径が17.5cmで，頸部で強く外反し，頸部内面は稜線となる。丸みをおびた器形を呈し丸底の甕のようにもみえるが，脚台の剥離痕がみえることから尖がり底に脚台が付く。内外ともヘラナデで仕上げ，ヘラの稜がみえる。うすい作りになっている。外面は剥脱痕がみられ，ススも付着し，軟質の焼きである。713は底近くで，外面にスス，内面にコゲが付着している。外面が下から上への縦方向のハケナデ，内面がていねいなヘラナデ仕上げである。714は底部近くで，内外面ともヘラナデで仕上げ，外面の胴下部にはススも付着している。脚台と胴部の接合には粘土を厚く重ねている。715は頸部下に上向きの高い突帯の貼り付けられた大型のくの字状口縁甕形土器である。外面はていねいなヘラナデ，直面はヘラ横ナデ仕上げである。脚台は，直径が7.5cm～10cmあり，裾はまっすぐハの字状に広がるものと，外反するものとがある。概して低いが，716は５cmと高い。718はていねいな作りをしており，裾が広く広がり，端部はハケナデをしている。

壺形土器（第113図　726～730）

大型のものと小型ものがある。大型のもの（726～728）は内外面とも白っぽい乳灰色を呈し，芯は黒褐色のもので，同一個体と思われる。くびれた頸部から口縁へ強く外反するもので，肩部に五条の低い三角突帯が貼り付けられている。内外面とも剥脱が目立ち，特に内面は激しい。内外とも




**第111図　20号竪穴住居跡検出･遺物出土状況**

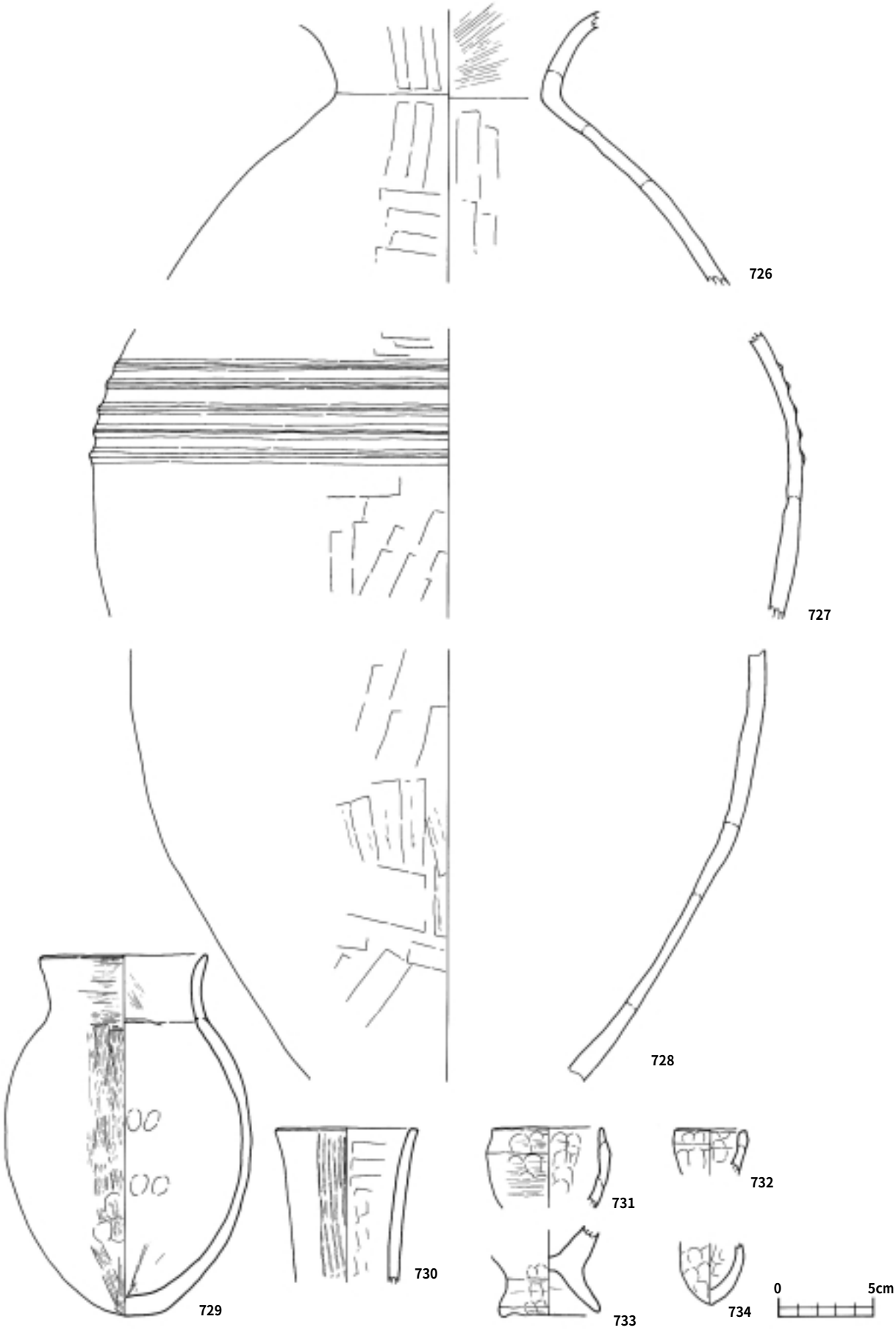



**第112図　20号竪穴住居跡出土遺物（土器1）**

ていねいなヘラナデで仕上げている。729は小型の長胴形をしたもので，口縁直径が8.5㎝，高さが20㎝である。頸部から内傾ぎみに立ち上がり，口縁でやや外反している。肩部はナデ肩となり，不安定な平底である。外面胴部はハケでていねいにナデており，口縁部はヘラで横方向にていねいにナデ，ミガキ風となる。内面もていねいなヘラナデ仕上げである。730は頸部から外へやや開きながらまっすぐ立ち上がる口縁直径7.5㎝の細頸壺形土器である。外面はヘラでていねいにミガいているため縦筋がみえる。内面もていねいなヘラ横ナデで仕上げており，口唇部は矩形を呈する。意図は不明だが，破損後に頸部を周辺から意識的に打ち欠いている。口縁部の三分の二ほどと外面にも同様の敲打痕がみられる。

ミニチュア土器(第113図　731～734)

鉢形・甕形のものとがある。鉢形の口縁部は，直径が６㎝で内弯するもの（731）と，直径が3.5㎝でまっすぐ伸びるもの（732）とがある。甕形のもの（733）は脚台が付き，脚台直径が５㎝とやや大型で，胴部も分厚い。一部ヘラナデもみられる。734は壺の底で，尖っている。焼成の良いものである。




**第113図　20号竪穴住居跡出土遺物（土器2）**

ナ　21号竪穴住居跡（SH-21）（第114図～第116図，図版20）

(ｱ)　住居跡構造

Ａ・Ｂ－11区で検出された21号竪穴住居跡は，北東側を20号竪穴住居跡に切られ，全体形は不明である。上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約350cm×短辺約240cmを測る。検出面から床面までの深さは約30cmである。付帯施設では壁帯溝と中央竪穴部を検出した。壁帯溝は南壁側を除く三方の壁際で検出した。西側では幅が約90cm，北側では約40cm，東側では約60cm，深さは約５cm～10cmを測る。この部分では，支柱と想定される多くの柱穴を検出した。また，中央竪穴部は隅丸方形を呈し，規模は長辺約90cm×短辺約70cmを測る，深さ約10cmを測り，小規模である。

また，床面には23基のピットを検出した。そのうち，東壁から約220ｃｍ離れたＰ１及びＰ２と，西壁から約180cm離れたＰ３及びＰ４を主柱と考え，４本柱の構造と認められる。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね３層に分かれ，遺物の出土層は埋土最上層の埋土１が最も多く，埋土２の出土も多い。床面直上の出土遺物はなく，埋土下層の埋土３からの出土遺物は少ない。特に，埋土１や埋土２では復元がかなりできたものなどは，住居廃絶後に一括廃棄されたものと想定される。なお，722は21号竪穴住居跡の出土土器と接合関係がある。

出土土器は，甕形土器，壺形土器，小型壺形土器で構成される。

甕形土器（第115図　735～744）

くの字状口縁で，長胴形の胴部に脚台の付く器形である。735・736・738は口縁直径が28～29cmほどの大きさで，口縁部は735がゆるやかに外反しているのに対して，736は頸部内面に稜ができるほど強く屈曲している。肩部はあまり張らずにゆるやかに底部へ移っている。737は口縁直径が15cmと小型のもので，口縁部は頸部内面に稜をもつほど強く屈曲し，まっすぐ外へ開いている。胴部はやや丸みをおびている。脚台はハの字状に開いており，裾が開くものと，まっすぐ伸びるものとがある。脚台端の直径は６cm～9.5cm位のものと，４～５cmしかない小型のものとがある。

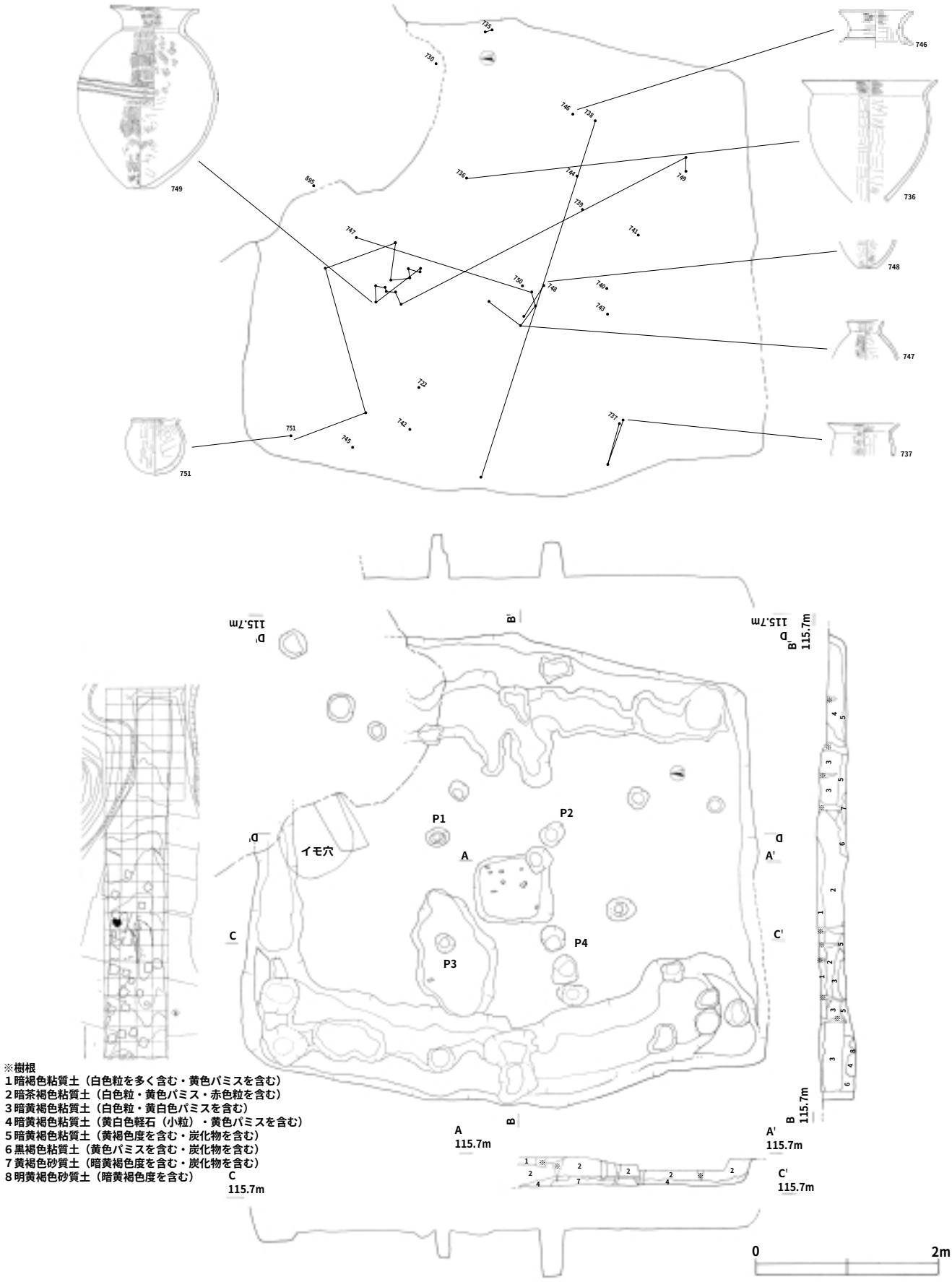
壺形土器（第115図　745～749）

口縁部はゆるやかに外反するものと，強く外反するもの，直に外へ開くものがあり，底は平底である。745は口縁直径が10.5cmで，ゆるやかに外反している口縁部である。746は口縁直径15cmの強く外反する口縁部で，端部は矩形を呈する。頸部に三角突帯が貼り付けられている。747は口縁直径が８cmの，頸部からやや外反ぎみにまっすぐ外へ開く小さなもので，ナデ肩となる。748も小型の平底である。749は口縁直径が19cm，高さが40.5cm，底部直径が５cmある。口縁部は頸部から外へゆるやかに反っており，内面に小さな三角突帯が削り出される。口唇部はくぼんでおり，頸部に先が丸みをおびた三角突帯が貼り付けられている。胴部中央には三条の三角突帯が貼り付けられている。

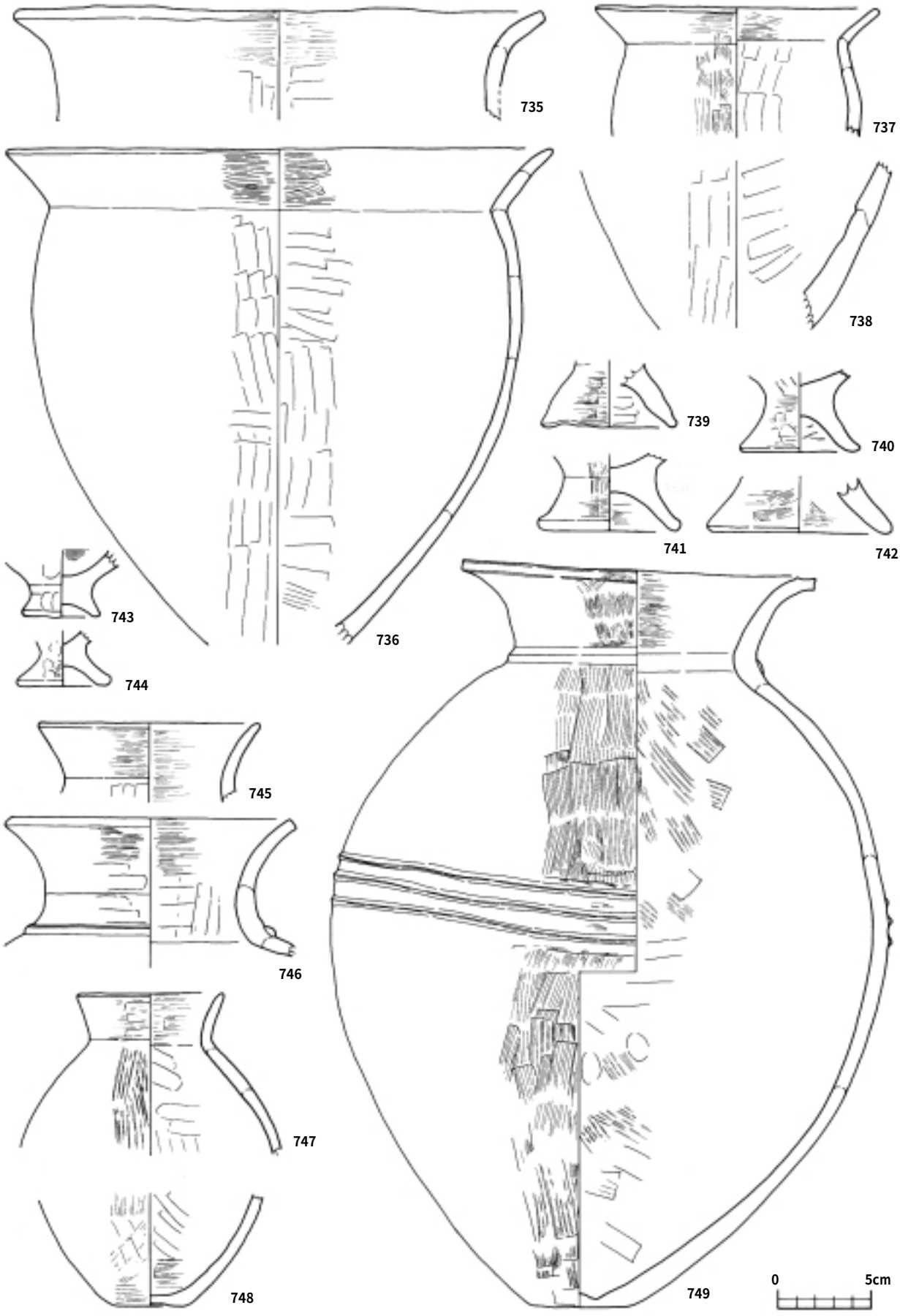
小型壺形土器（第116図　750・751）

750は外へ開きながらまっすぐ伸びる口縁部で，口縁直径が８cmある。長い口縁で，口唇部はくぼんでいる。

751は口縁直径が10cm，高さが12.5cmの，頸部から外へ開く短い口縁部と，球形状の胴部，丸底からなる壺形土器である。




**第114図　21号竪穴住居跡検出・遺物出土状況**




**第115図　21号竪穴住居跡出土遺物（土器1）**

**第116図　21号竪穴住居跡出土遺物（土器2）**

ニ　22号竪穴住居跡（SH-22）（第117・118図，図版20・21）

(ｱ)　住居跡構造

Ｃ－12区で検出された22号竪穴住居跡の上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約420cm×短辺約410cmを測る。検出面から床面までの深さは約50cmである。張り出し及び中央掘り込みなどの付帯施設は確認できなかった。また，床面には19基のピットを検出した。そのうち，北壁から約180cm，西壁から約180cm離れ，床面からの深さが約50cmあるＰ１と，南壁から約120cm，西壁から約200cm離れ，床面からの深さが約40cmあるＰ２を主柱と考え，心心距離が約120cmある４本柱の構造と認められる。また，４隅並びに各壁面近くに柱穴があり，支柱と想定できる。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね４層に分かれ，遺物の出土層は埋土上層の埋土１や埋土２よりも埋土下層の埋土３からの出土が多い。床面直上の出土遺物は少ない。また，埋土４の出土遺物には，ガラス製小玉や鉄製品などがみられる。埋土１出土土器755は23号竪穴住居跡埋土１の出土土器と接合関係が認められる。

出土土器は壺形土器，小型甕形土器，ミニチュア土器で構成される。

壺形土器（第118図　752）

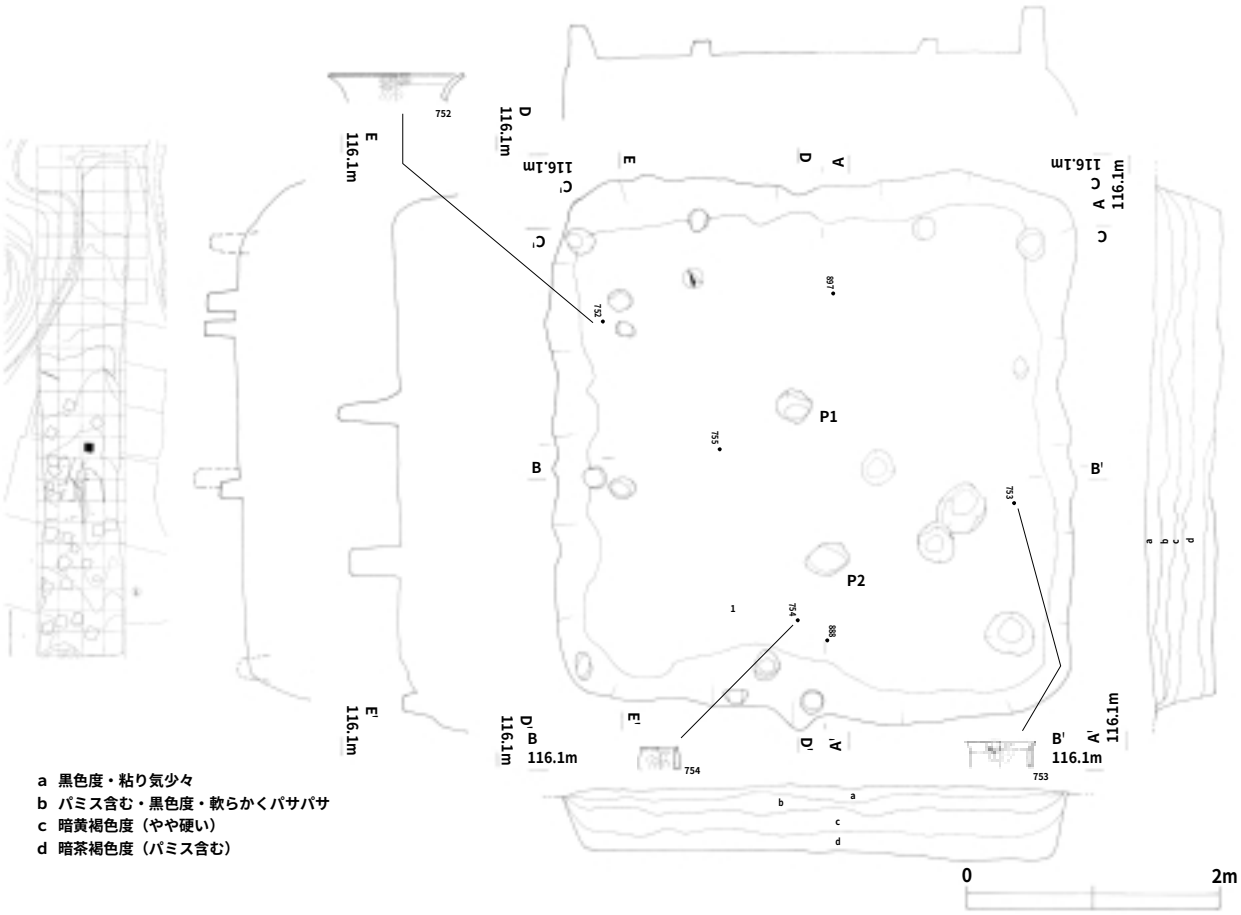
直径が21cmある広口口縁の土器で，口唇部は深いヘラ凹線が巡っており，口縁内面の端近くは指ナデでややくぼんでいる。白っぽい発色をし，ガラス・長石などを多く含んでいる。内外ともヘラナデ仕上げである。

小型甕形土器（第118図　753）

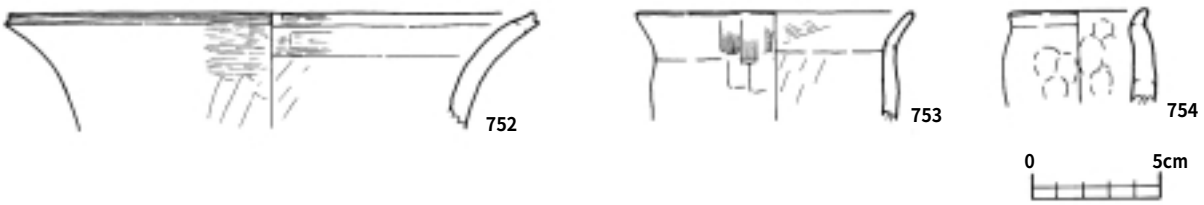
口縁直径が11cmあるくの字状口縁の甕形土器で，頸部内面は稜となる。内外ともヘラナデで仕上げているが，外面は縦方向に粗くナデている。

ミニチュア土器（第118図　754）

くの字状の短い口縁の甕形をしたもので，胴部は丸みをおびている。外面は丁寧にヘラでナデている。茶褐色を呈し，焼成良好である。




**第117図　22号竪穴住居跡検出状況**




**第118図　22号竪穴住居跡出土遺物（土器）**

ヌ　23号竪穴住居跡（SH-23）（第119・120図，図版21・22）

(ｱ)　住居跡構造

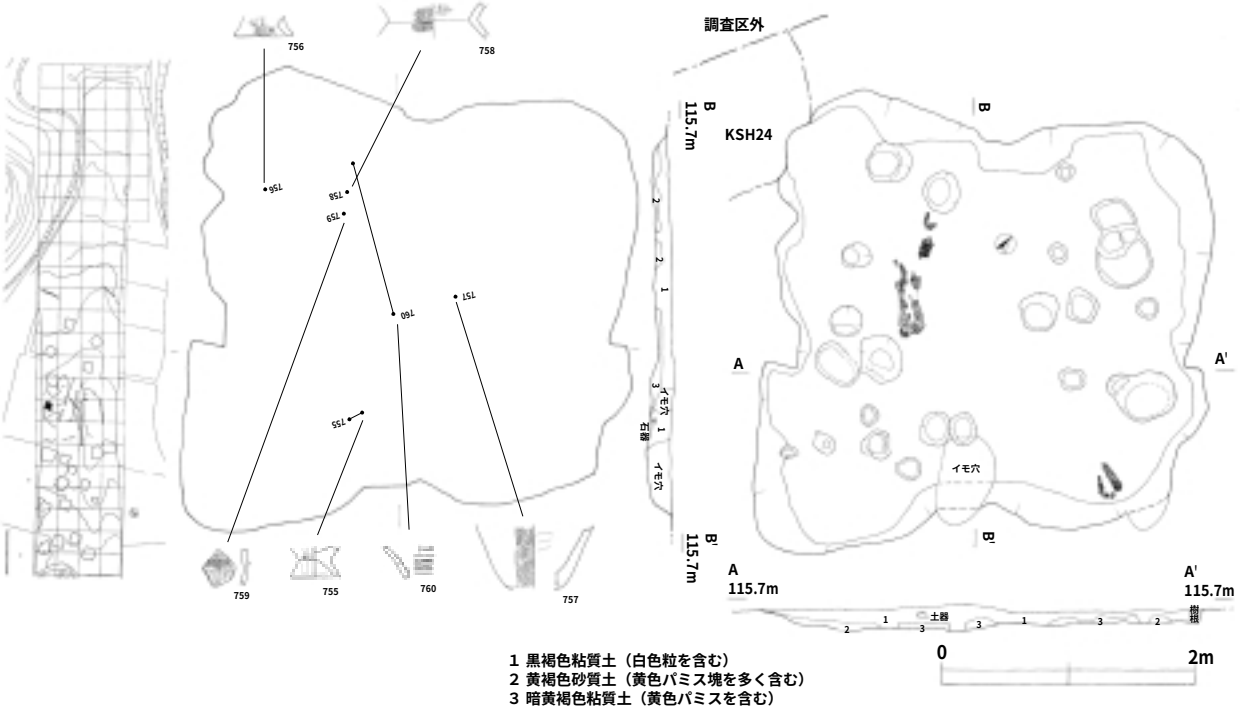
Ａ－10区で検出された23号竪穴住居跡は，北側隅を24号竪穴住居跡に切られる。上面観は隅丸方形を呈し，規模は約350ｃｍ×約350ｃｍを測る。検出面から床面までの深さは約10cmである。また，中央竪穴部などの付帯施設は確認できなかった。また，床面には21基ものピットを検出した。床面にはクリと同定された炭化材がみつかり，焼失住居と考えられる。

(ｲ)　住居跡内出土遺物

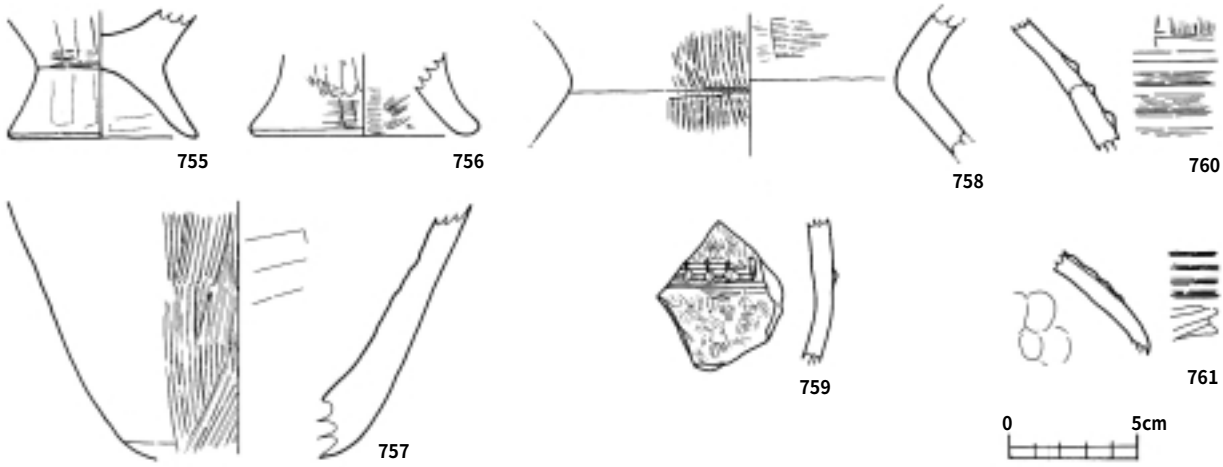
出土土器は，甕形土器，壺形土器で構成される。

甕形土器（第120図　755・756）

脚台は直径が７～8.5 ㎝あり，先端が細いものと丸みをおびた分厚いものがある。755はピンク色を呈し，焼きは普通である。756は内外ともていねいにヘラでナデている。




**第119図　23号竪穴住居跡検出状況**




**第120図　23号竪穴住居跡出土遺物（土器）**

壺形土器（第120図　757～761）

底部は安定した丸底である。外面は縦方向のハケナデで仕上げているが，内面は剥脱が目立つ。白色石・長石などの細石を多く含んでいる。頸部はくびれて，口縁部は外へまっすぐ広がる。外面はハケの縦ナデ，内面はヘラナデである。肩部には三条あるいは四条の低い三角突帯が貼り付けられるが，761は小さくて浅い。761は小型の壺形土器で，肩から胴にかけての破片である。759の外面はていねいなヘラナデで仕上げられ，低い三角突帯を貼り付けたあと，ヘラ刻みが施されている。758は小石を多く含んだ砂質土であるが，761は細かい砂を用いている。

ネ　24号竪穴住居跡（SH-24）（第121・122図，図版22）

(ｱ)　住居跡構造

Ａ－10区で検出された24号竪穴住居跡は，東側隅で23号竪穴住居跡を切り，西側が調査区外に延びるため，全体形は不明である。上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約530cm×短辺約130cm（残存部）を測る。検出面から床面までの深さは約50cmである。また，残存部には中央掘り込みなどの付帯施設は確認できなかった。また，床面には２基のピットを認め，南東壁際に１基，南西隅に１基検出した。

(ｲ) 住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね３層に分かれ，出土した遺物の多くは，埋土最上層の埋土１や埋土上層の埋土２の出土である。床面直上の出土遺物はなく，埋土下層の埋土３の出土遺物は少なく，いずれも砕片である。また，763は埋土３の出土である。なお，他の住居跡と接合関係にある遺物は認められなかった。

出土土器は甕形土器のみである。

甕形土器(第122図　762～763)

口縁部はくの字状に外反するものである。762は口縁直径が22cmあり，内面の口縁部はヘラ横ナデ，胴部はヘラ縦ナデで仕上げているが，頸部で段をもっている。764は球胴状を呈したもので，内外とも幅の狭いハケナデで仕上げ，薄く作っている。焼成は良くて，堅致である。

ﾉ　25号竪穴住居跡（SH-25）（第123・124図，図版22）

(ｱ) 住居跡構造

Ｄ－20区で検出された25号竪穴住居跡は，東側が調査区外に延びるため，全体形は不明である。上面観は隅丸方形を呈し，規模は長辺約460cm×短辺約130cm（残存部）を測る。検出面から床面までの深さは約50cmである。また，中央部には方形を呈する浅いくぼみを認識したものの，断面では確認できず，遺構と判断できなかった。他の部分では，残存部には中央掘り込みなどの付帯施設は確認できなかった。また，床面には５基のピットを認め，そのうち４基は南西壁際にて検出した。

(ｲ) 住居跡内出土遺物

住居跡内の埋土は概ね３層に分かれる。出土した遺物量が少なく，多くは埋土上層の埋土２の出土である。床面直上の出土遺物はなく，埋土下層の埋土３の出土遺物は少ない。なお，他の住居跡と接合関係にある遺物は認められなかった。

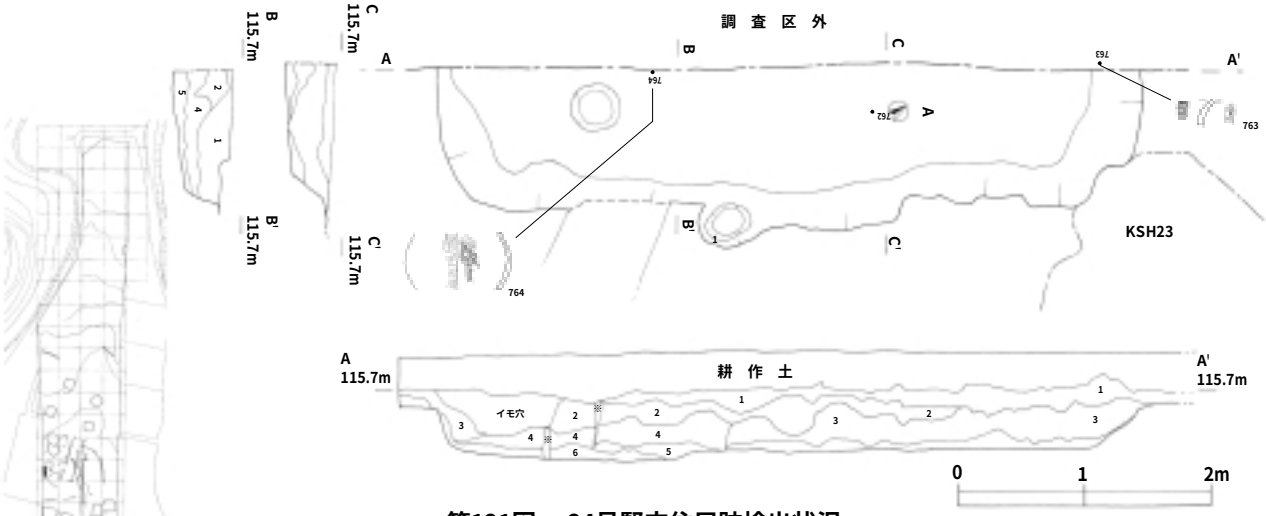
出土土器は，鉢形土器，甕形土器で構成される。

鉢形土器（第124図　765）

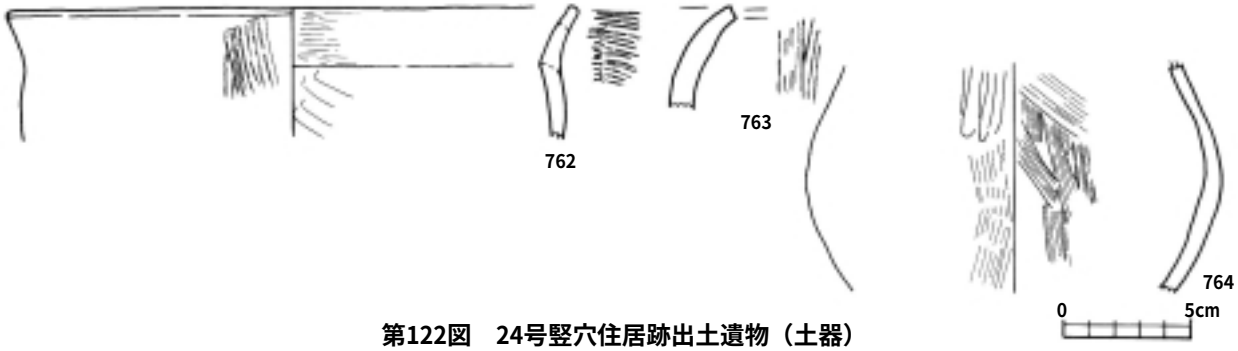
口縁直径が11cm，高さが9.5cm，脚台直径が４cmの台付鉢形土器である。鉢部は口縁端が内反する器形をし，低い脚台が付いている。外面はヘラナデだが，脚台付近は粗くケズっている。内面もヘラナデだが，黒くいぶされたようになっている。形は雑に作っているが，調整は内面ともていねいである。

甕形土器（第124図　766・767）

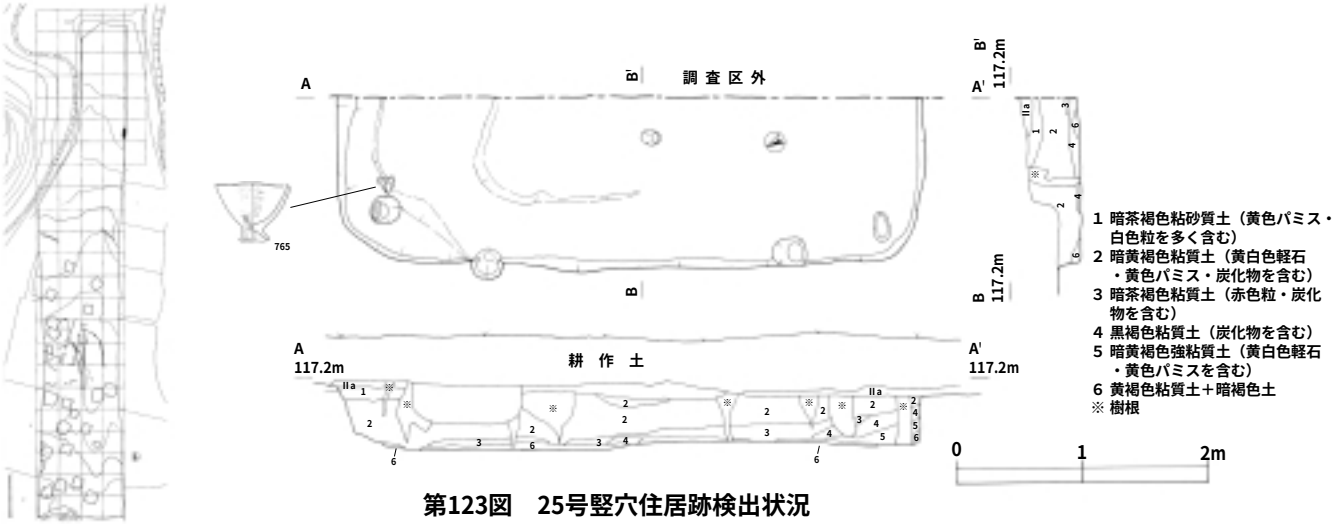
胴の下部が２点ある。内外ともヘラナデで仕上げているが，外は粗い。



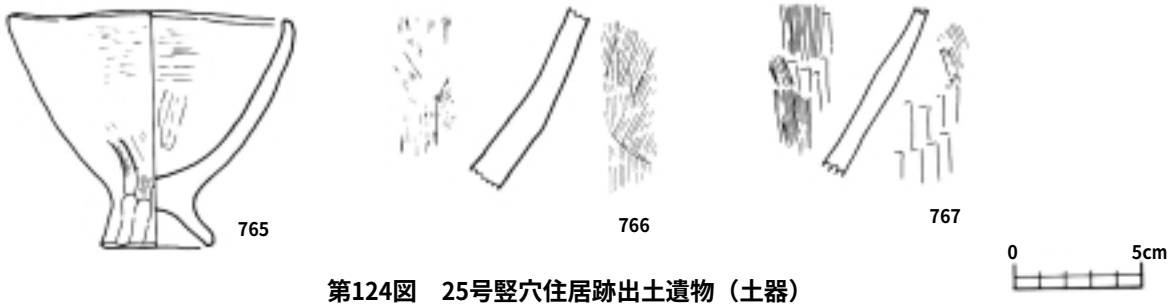

第121図　24号竪穴住居跡検出状況




第122図　24号竪穴住居跡出土遺物（土器）




第123図　25号竪穴住居跡検出状況




第124図　25号竪穴住居跡出土遺物（土器）

(2) 掘立柱建物跡（第125・126図）

堂園遺跡Ｂ地点では，１棟の掘立柱建物跡が，Ｃ－10区で検出された。この建物跡は，Ⅱｂ層上面で土色が変化した際に検出が可能となったもので，実際の生活面は高かったものと考えられる。

また，この建物跡の帰属時期は，ピットの埋土の土質や土色などが，先述した竪穴住居跡の柱穴や，後述する埋納ピットの土質や土色などと類似していることから，竪穴住居跡や埋納ピットの帰属時期と同じ，弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての時期に相当すると判断した。

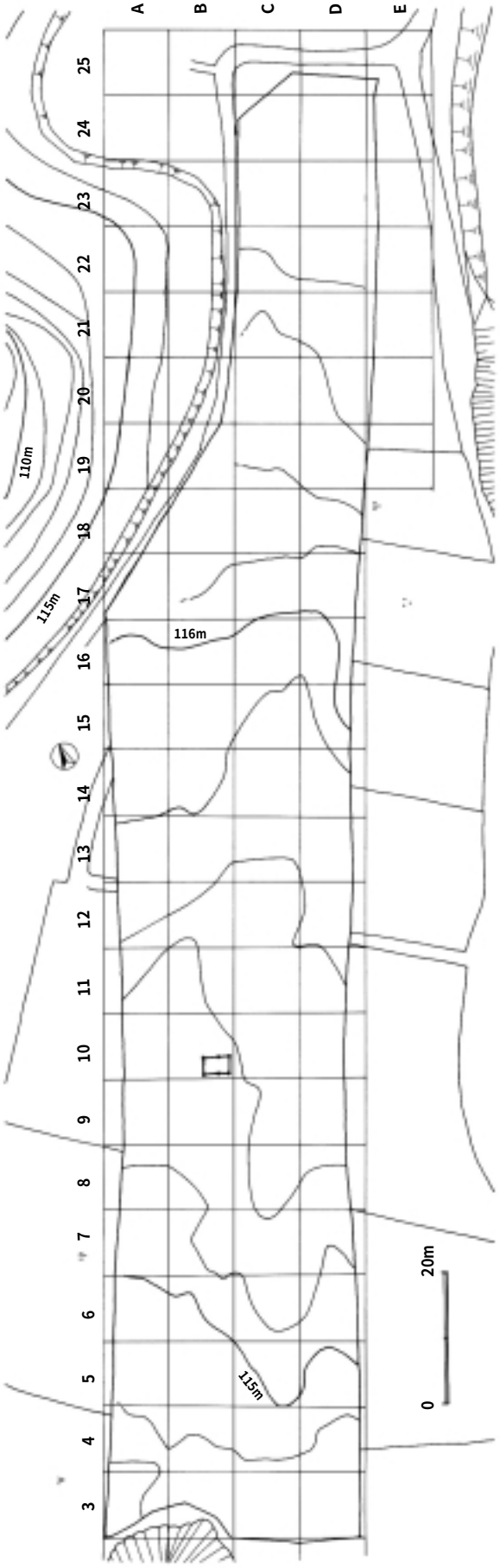
検出した建物跡の長軸の方向は，Ｎ－65°－Ｅを測る。建物規模は１間×２間で，桁行方向の平均値が400cm，梁間方向の平均値が265cm，面積は約10.6㎡を測る。また，柱穴規模の平均値は，上面長径が27cm，検出面からの深さが26cmである。

柱穴計測表　（単位：cm）

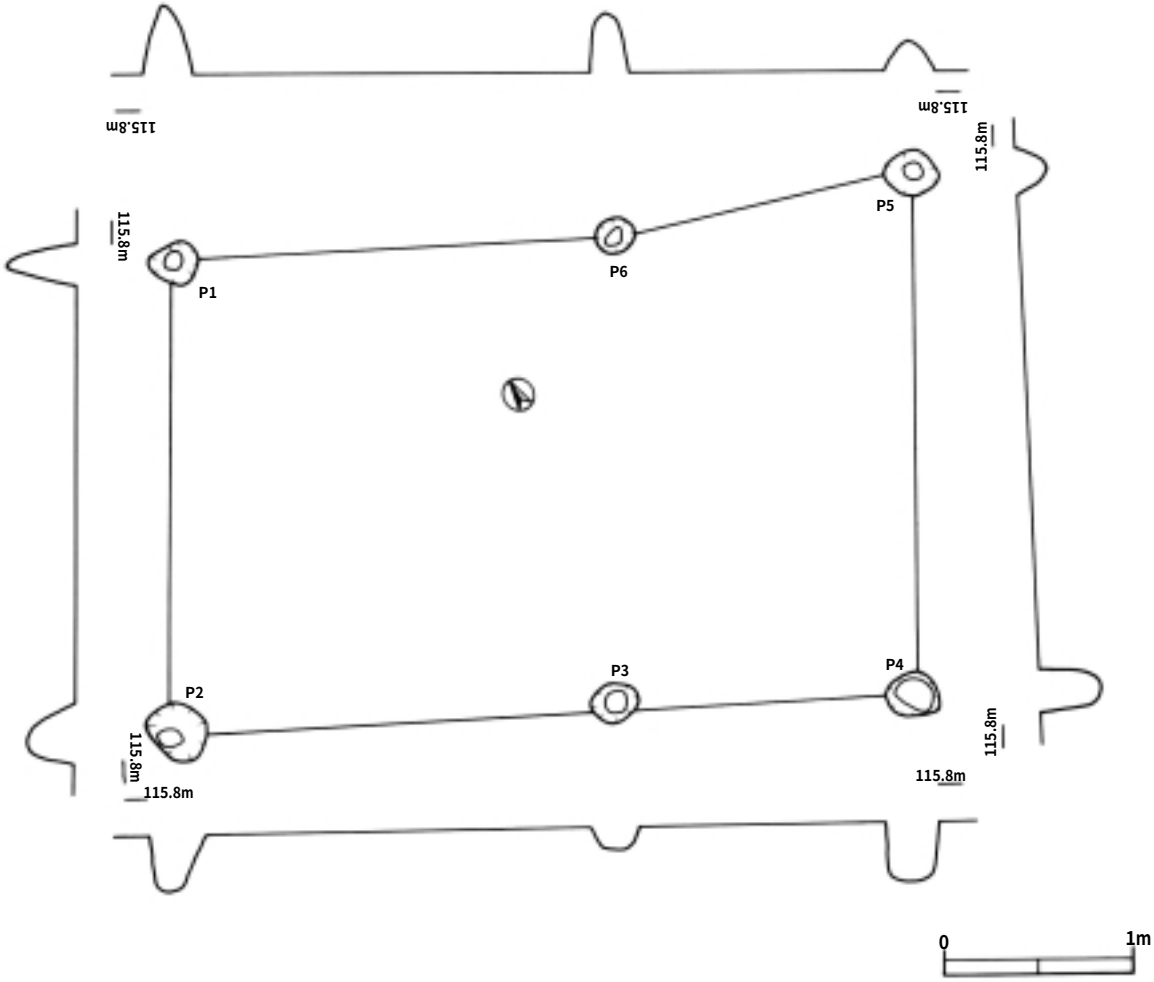
| 柱穴番号 | 柱穴痕 | | | 調査時 |
|---|---|---|---|---|
| | 長径 | 短径 | 深さ | pit番号 |
| 1 | 25 | 22 | 35 | 647 |
| 2 | 32 | 30 | 30 | 645 |
| 3 | 25 | 20 | 30 | 644 |
| 4 | 30 | 23 | 30 | 760 |
| 5 | 30 | 25 | 15 | 649 |
| 6 | 20 | 20 | 20 | 648 |

柱間心心距離計測表

| | 柱穴番号 | 柱間（単位：cm） |
|---|---|---|
| 桁行方向 | 2～3 | 225 |
| | 3～4 | 175 |
| | 2～4 | 400 |
| | 5～6 | 170 |
| | 6～1 | 230 |
| | 5～1 | 400 |
| 梁間方向 | 1～2 | 250 |
| | 4～5 | 280 |




第125図　掘立柱建物跡位置図




**第126図　掘立柱建物跡検出状況**

(3) 検出ピット

堂園遺跡Ｂ地点では，ほぼ全域にわたり，760基のピットを検出した。傾向としてはＣ区列及びＤ区列の集中し，東側調査区外に伸びる様相を呈している。

調査に当たっては，全てのピットを縮尺1/10で図化し，記録保存を行った。今回の報告にあたっては，紙数の関係上，配置図の提示にとどめた。

検出したピットの概要としては，上面観が略円形を呈し，直径が20cmから50cm，深さが20cmから100cm越えるものまであった。ピットの土色は，主観に基ずく分類ではあるが，暗茶褐色及び茶褐色を呈するものが多く，暗茶褐色を呈するのが455基，暗茶褐色を含むのが475基，茶褐色を呈するのが225基あった。また，中には黒褐色系を呈するものも観られた。土質はほとんどがシルト質の粘質土である。

以上の，土色茶褐色及び茶褐色を呈する特徴は，竪穴住居跡の柱穴や埋納ピットなどの規模や，土色・土質と共通するものであり，これらのピットの帰属時期は，竪穴住居跡や埋納ピットの帰属時期と同じ，弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての時期に相当すると判断した。ただし，黒褐色系を呈するものは帰属時期が新しくなる可能性が強い。

(4) 埋納ピット

（第127図～第132図　図版23～25）

堂園遺跡Ｂ地点では，750基以上のピットが検出されたが，そのうち，ピット中に完形土器，若しくは一括して納められた土器が出土したピットを，埋納ピットとした。合計14基を検出した。いずれも，竪穴住居跡の検出面と同じⅡb層，あるいはⅡc層上面の土色が変化した際に検出した。ピットを検出した後に土器が入れられているのが判明したものや，土器の出土が先で後にピットを検出したものがあった。特に，土器の出土が先のものは当時の生活面は高かったと判断できる。

埋納ピットの検出範囲は，Ａ～Ｃ－４～15区に限られ，数多くの竪穴住居跡の検出範囲と重なる。多くの埋納ピットは，竪穴住居跡近辺で検出されたが，４号，５号，７号，８号，９号など竪穴住居跡と関係なく検出されたのも確認できた。

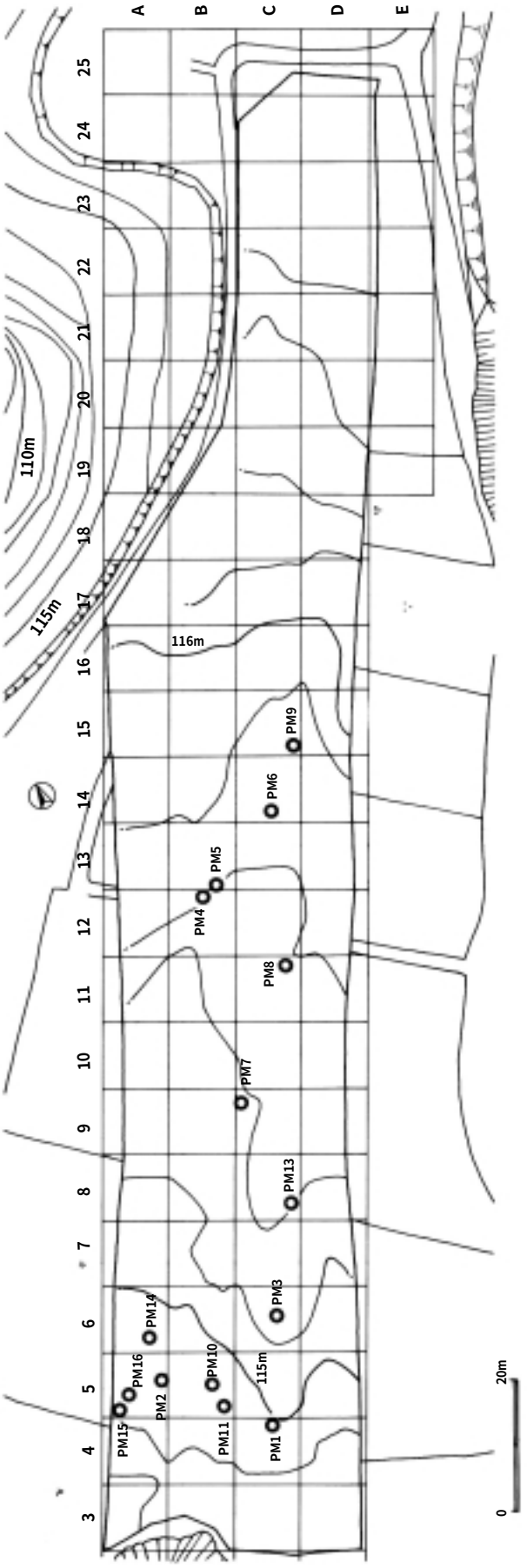
①　１号（第128図）

Ｃ－４区で検出された１号では，上面観が径約35ｃｍの円形を呈し，底径約20ｃｍ，検出面からの深さ約45ｃｍを測る。ピット検出面から５ｃｍほどの位置に，ほぼ完形の土器が横倒しになった状態で出土した。

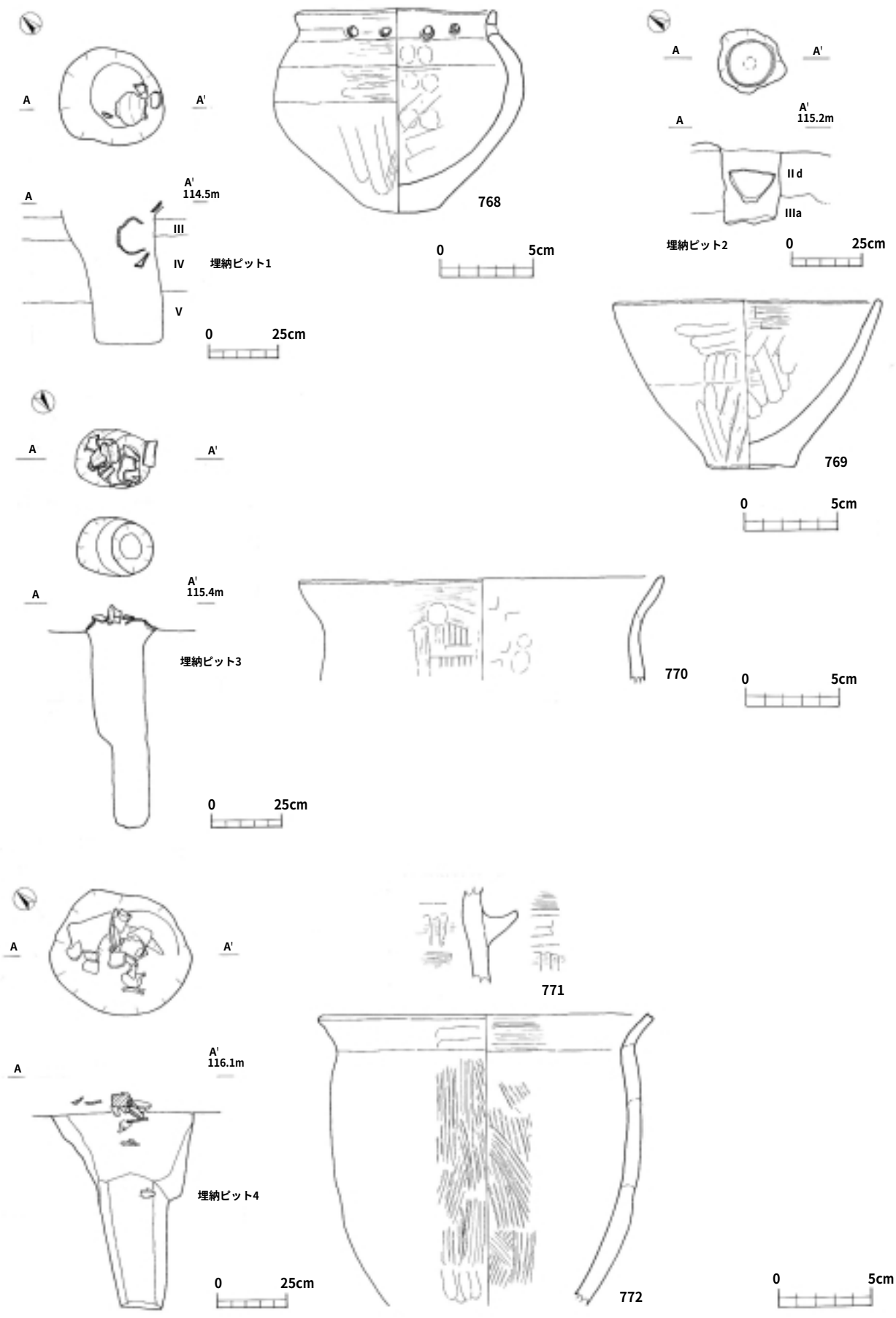
768はやや外へ開く短い口縁部の短頸小壺である。口縁直径は10.5㎝，高さは11㎝で，頸部に２個一対の小さな孔が穿たれている。肩が張っており，底は丸みをおびた平底である。外面上半は横方向，下半は縦方向のヘラナデで仕上げている。内面もヘラナデで仕上げるが，指頭押圧の痕が残っている。

②　２号（第128図）

Ａ－５区で検出された２号では，上面観が径約20ｃｍの略円形を呈し，底径約15ｃｍ，検出面からの深さ約25ｃｍを測る。ピット検出面から７ｃｍほどの位置に，ほぼ完形の土器が口縁部を上にした状態で出土した。




第127図　埋納ピット遺構配置図




**第128図　埋納ピット遺構検出状況・埋納土器（1）**

769は口縁直径が14cm，高さが9cm，底部直径が5cmの鉢形土器である。ややあげ底ぎみの平底から丸みをおびて，外へ開きながら口縁へ立ちあがっている。

③　3号（第128図）

C－6区で検出された3号は，14号竪穴住居跡の北側で検出された。上面観が長径約30cm×短径約20cmの略楕円形を呈し，底径約10cm，検出面からの深さ約300cmを測る。ピット上面に，甕形土器の上半部片が折り重なるように出土した。ピットは深さ約40cmで段掘りが行われていた。

770はゆるやかに外反する直径が20cmの口縁となる甕形土器である。口縁部はゆるやかに外反しているが，端部近くが直に立ち上がっている。

④　4号（第128図）

B－12区で検出された4号では，上面観が径約50cmの略円形を呈し，底径約15cm，検出面からの深さ約70cmを測る。ピット上面に土器片が折り重なるように出土した。ピットは深さ約30cmで段掘りが行われていた。

771は口縁下部にも，上向きの高いつば状突帯が貼り付けられている大型の甕形土器である。772は口縁部が外へ強く反る甕形土器である。口縁直径は18cmで，胴部は丸みをおびているが，張りは少ない。内外とも縦あるいは斜方向のハケナデを主とするが，口縁部外面は横方向，胴下部外面は縦方向のヘラナデである。

⑤　5号（第129図）

B－13区で検出された5号では，4号に隣接して検出された。上面観が長径約40cm×短径約30cmの略楕円形を呈し，底径約7cm，検出面からの深さ約75cmを測る。ピット上面に数個体の土器片が折り重なるように出土した。ピットは深さ約30cmで段掘りが行われ，深さ約40cm以下ではピット壁面に棒状工具の掘り痕跡が検出された。

773～775は壺形土器である。773は頸部から強く外反して，直径が14cmの口縁部へ向かう。胴部は中ほどでふくらむ器形をし，ここに小さなヘラ刻みのある三角突帯が二条に貼り付けられている。外面は縦方向のハケナデ，内面はヘラナデで仕上げているが，指頭圧痕がみられる。774は胴部の上半部で，ここに三角突帯が三条貼り付けられている。775は長胴形の胴部で，上半部に三条の三角突帯が貼り付けられている。外面・内面ともヘラナデで仕上げている。

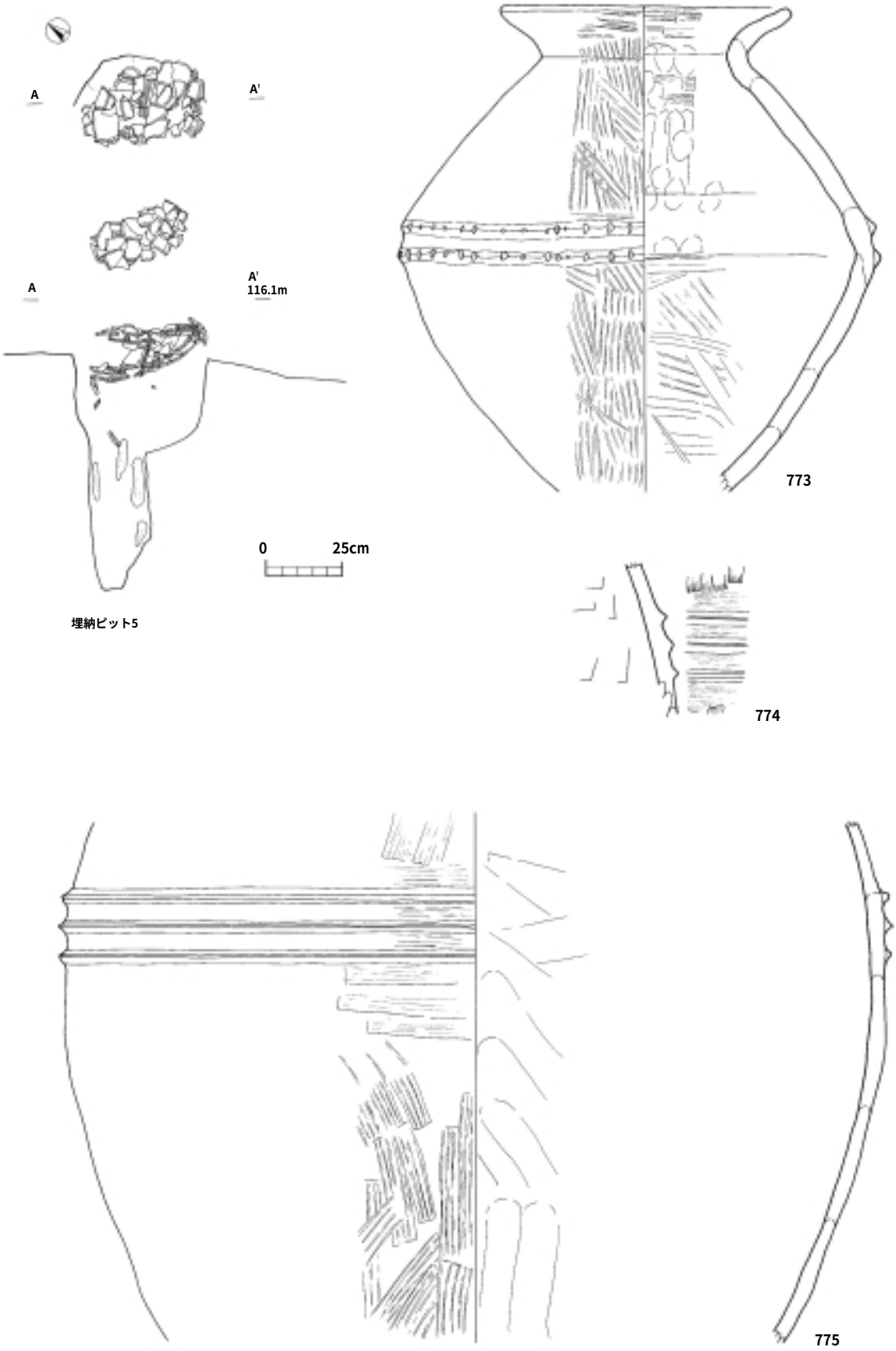
⑥　6号（第130図）

C－14区で検出された6号では，上面観が径約35cmの略円形を呈し，底径約7cm，検出面からの深さ約60cmを測る。ピット上面に土器片が折り重なるように出土した。

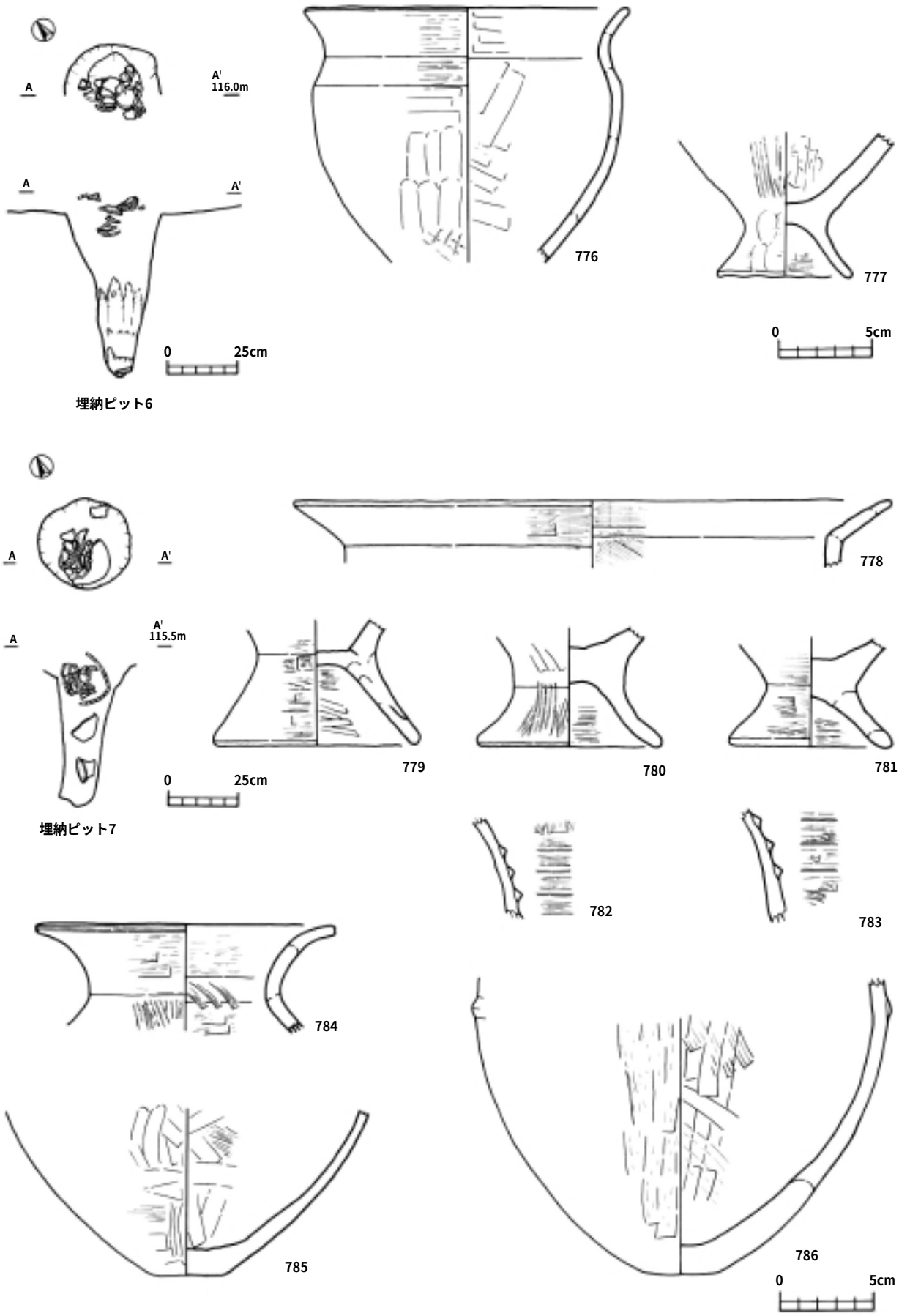
776は口縁直径が17.5cmのくの字状にゆるやかに外反する浅い甕形土器で，薄い作りであることから丸底の可能性もある。肩部がやや張っているが，丸みをおびて底へ向かう。777は台付き鉢形土器と思われる。直径が7cm，高さが3cmの八の字状に広がる脚台で，ヘラナデで仕上げて，薄い作りである。

⑦　7号（第130図）

C－9区で検出された7号は，溝状遺構4の床面で検出された。7号埋納ピット内出土土器が，溝状遺構4上層の出土遺物と接合関係にあることから，7号埋納ピットは溝状遺




**第129図　埋納ピット遺構検出状況・埋納土器（2）**




**第130図　埋納ピット遺構検出状況・埋納土器（3）**

構４廃絶後に造られたことが判明した。上面観は一辺約40cmの略隅丸方形を呈し，底径約10cm，検出面からの深さ約70cmを測る。ピット上面に，壺形土器底部の中に土器片が折り重なるように出土した。

甕形土器（778～781）と，壺形土器（782～786）が出土している。

甕形土器の口縁部は直径が32cmと大きく，頸部で外へ強く屈曲している。薄い作りである。脚台は直径が10.5cm，高さが4.5cmのハの字状を呈する高いものと，直径が9.5cmで高さが3.5cm，あるいは直径が8.5cmで高さ３cmの裾広がりとなる低いものとがある。

壺形土器の口縁部は，頸部から強く外反する形をしており，口唇部はくぼんでいる。直径は16cmである。胴部は中央付近がふくらむ長胴形をしており，782・783のように肩部に三条の三角突帯が貼り付けられているものもある。底は小さな平底を呈し，内外ともヘラナデで仕上げている。

⑧　８号（第131図）

Ｃ－11区で検出された８号では，上面観が長径約75cm×短径約20cm（残存部）の略楕円形を呈し，底径約10cm，検出面からの深さ約90cmを測る。ピット上面に数個体の土器片が出土した。ピットは深さ約５cmで段掘りが行われ，中程以下ではピット壁面に棒状工具の掘り痕跡が検出された。

787は口縁直径14.5cm，高さ13cm，脚台直径8.5cmの台付鉢形土器である。鉢部はやや丸みをおびながら口縁端へ立ち上がり，端部はとがりぎみに終わる。脚台はハの字状を呈しているが，やや外反し，薄い作りとなる。788は甕形土器の低い脚台である。直径が9.5cm，高さ3.5cmある。

⑨　９号（第131図）

Ｃ－15区で検出された９号では，上面観が径約20cmの円形を呈し，底径約７cm，検出面からの深さ約20cmを測る。ピット上面に数個体の土器片が出土した。

789・790はくの字状に外反する甕形土器である。内外ともヘラナデ調整である。

⑩　10号（第131図）

Ｂ－５区で検出された10号では，上面観が径約25cmの円形を呈し，底径約15cm，検出面からの深さ約27cmを測る。ピット下面に数個体の土器片が出土した。

791はゆるやかに外反する長い口縁の深鉢形土器である。口縁直径は17.5cmあり，ハケナデ仕上げである。

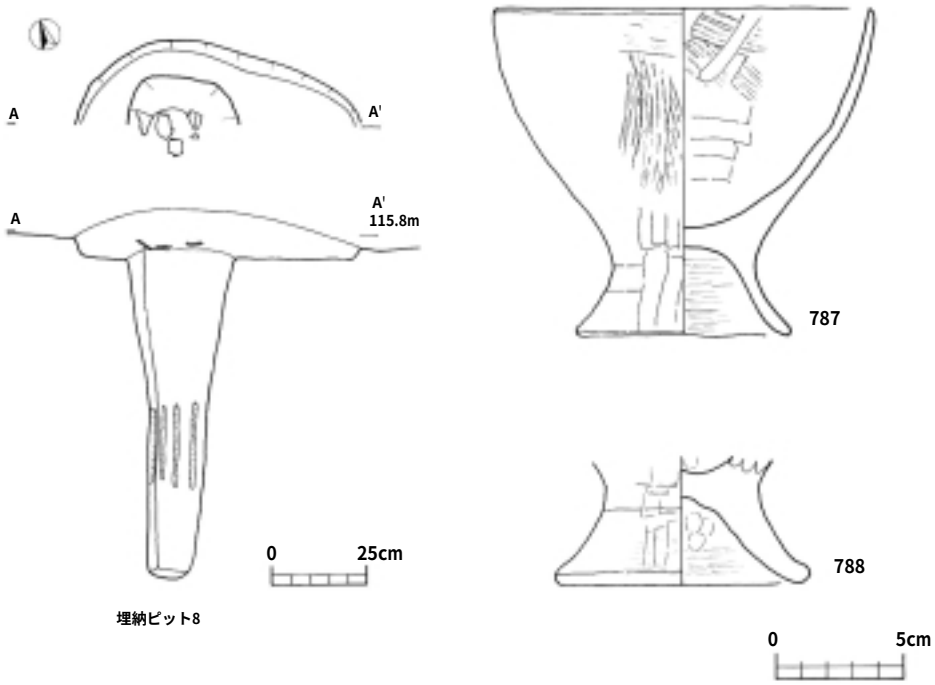
⑪　13号（第131図）

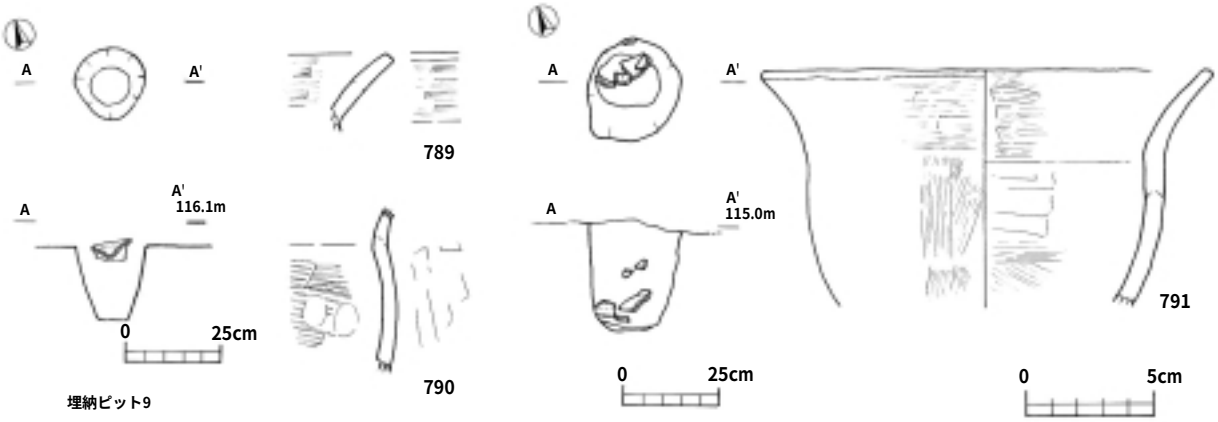
Ｃ－８区で検出された13号は，13号竪穴住居跡の南側で検出された。上面観が長径約40cm×短径約35cmの略円形を呈し，底径約５cm，検出面からの深さ約50cmを測る。ピット上面に，土器片が重なるように出土した。ピットは深さ約40cmで段掘りが行われていた。

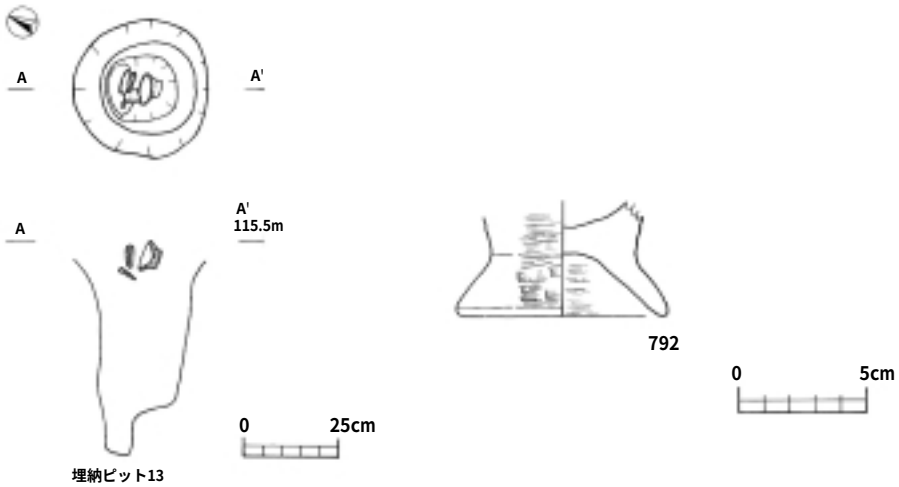
792は直径が８cm，高さが2.5cmの甕形土器脚台である。ハの字状に開き，低い脚台だが，先端はとがっている。

⑫　14号（第132図）

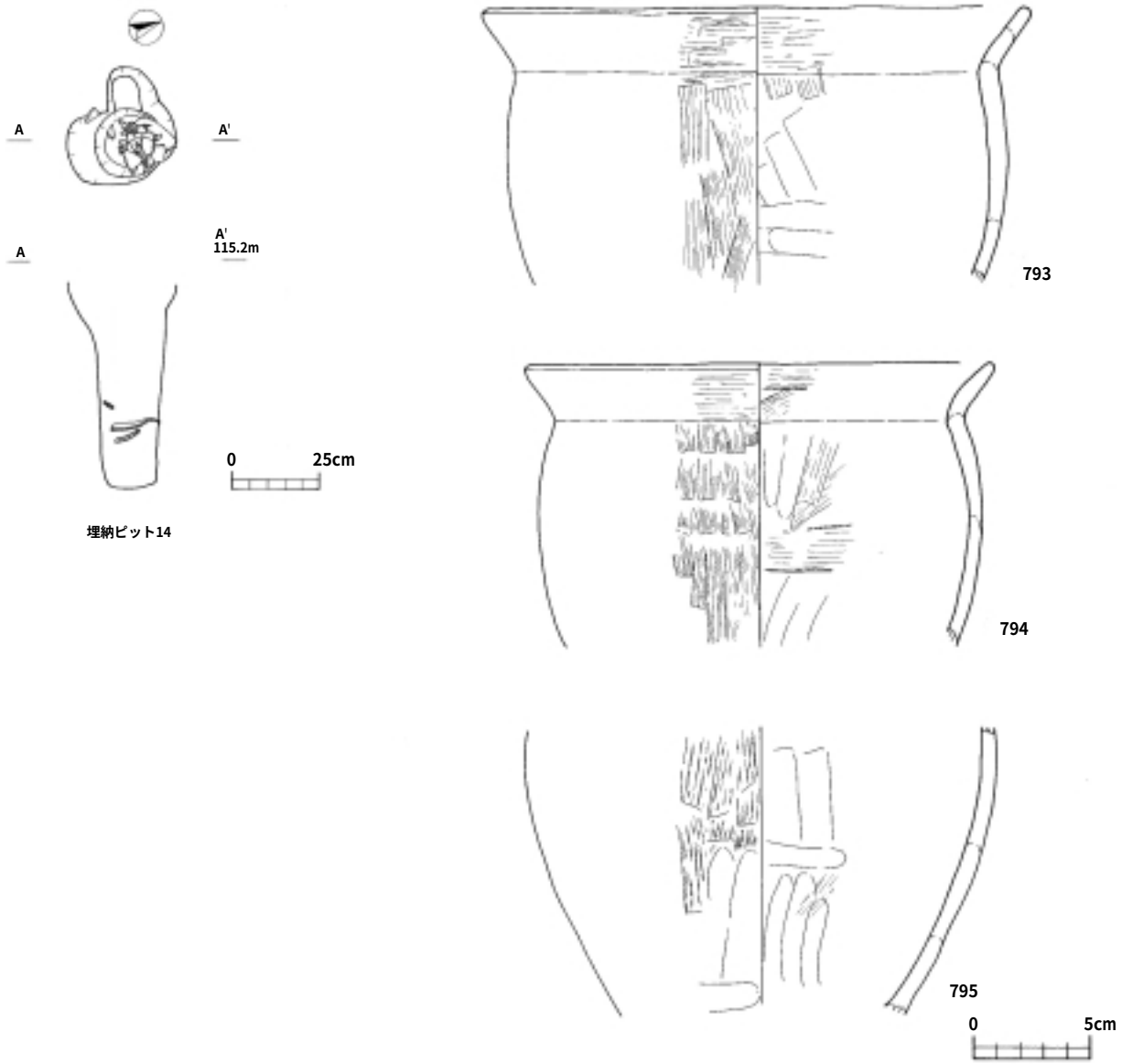
Ａ－６区で検出された14号は，４号竪穴住居跡の北西壁近くで検出された。上面観が長




**第131図　埋納ピット遺構検出状況・埋納土器（4）**




**第132図　埋納ピット遺構検出状況・埋納土器（5）**

径約30cm×短径約20cmの略楕円形を呈し，底径約10cm，検出面からの深さ約60cmを測る。ピット西側には，上面観が長径約15cm×短径約10cmの略楕円形を呈した階段状のテラスが張り出している。ピット検出面から30cmほどの位置に，土器片が重なるように出土した。ピットは深さ約7cmで段掘りが行われていた。

内面の頸部に陵ができるほど口縁部がくの字形に強く外反する甕形土器で，肩がややふくらむものの細まりながら低部へ移っている。口縁直径は793が23cm，794が20cmである。外面はハケナデ仕上げだが，口縁部が横ナデで，胴部が縦ナデである。内面はヘラナデである。

(5) 柵列状遺構（第133・134図　図版26）

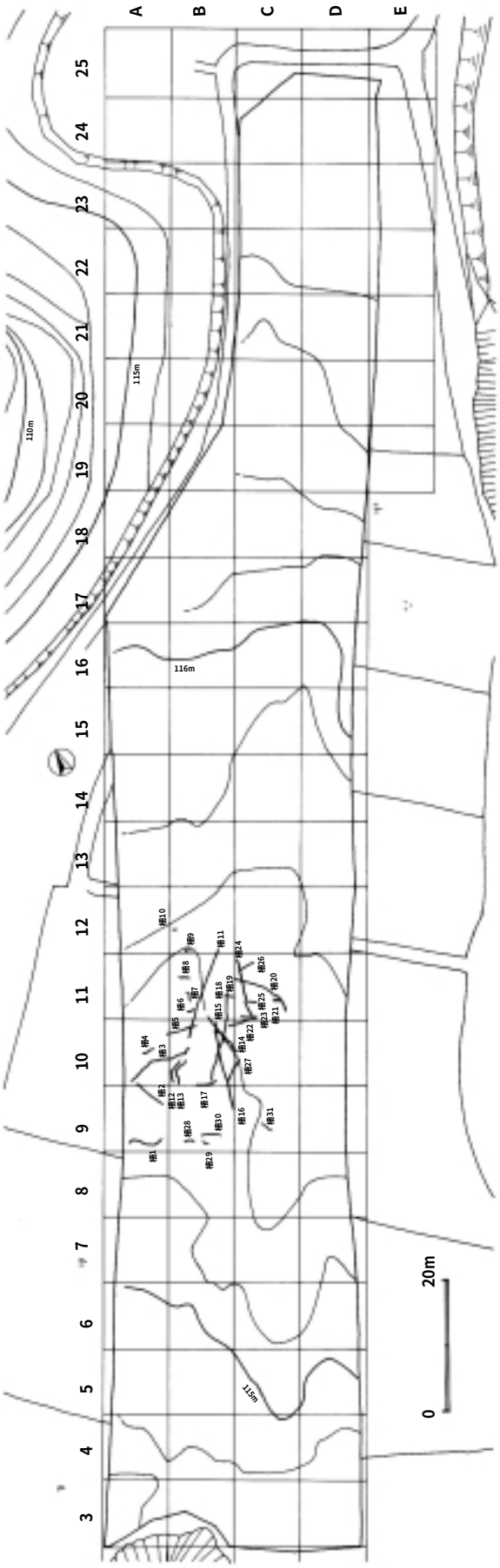
堂園遺跡Ｂ地点では，直径５cm～10cm，検出面からの深さ約10cmを測る，数多くの小ピットを検出した。そのうち，間隔が10cmから100cmを超えるものまであったものの，列状配置が見受けられるものについて，「柵列状遺構」とした。合計31条を検出した。いずれも，竪穴住居跡の検出面と同じⅡb層，あるいはⅡc層上面の土色が変化した際に検出した。

柵列状遺構の検出範囲は，Ａ～Ｃ－９～12区に限られる。この範囲は，竪穴住居跡の検出されるＡ～Ｃ－３～８区の範囲と，Ａ－10・11区及びＡ～Ｃ－12～14区の範囲に大きく２群に分かれる，合間の未検出地区に当たることが，注目される。

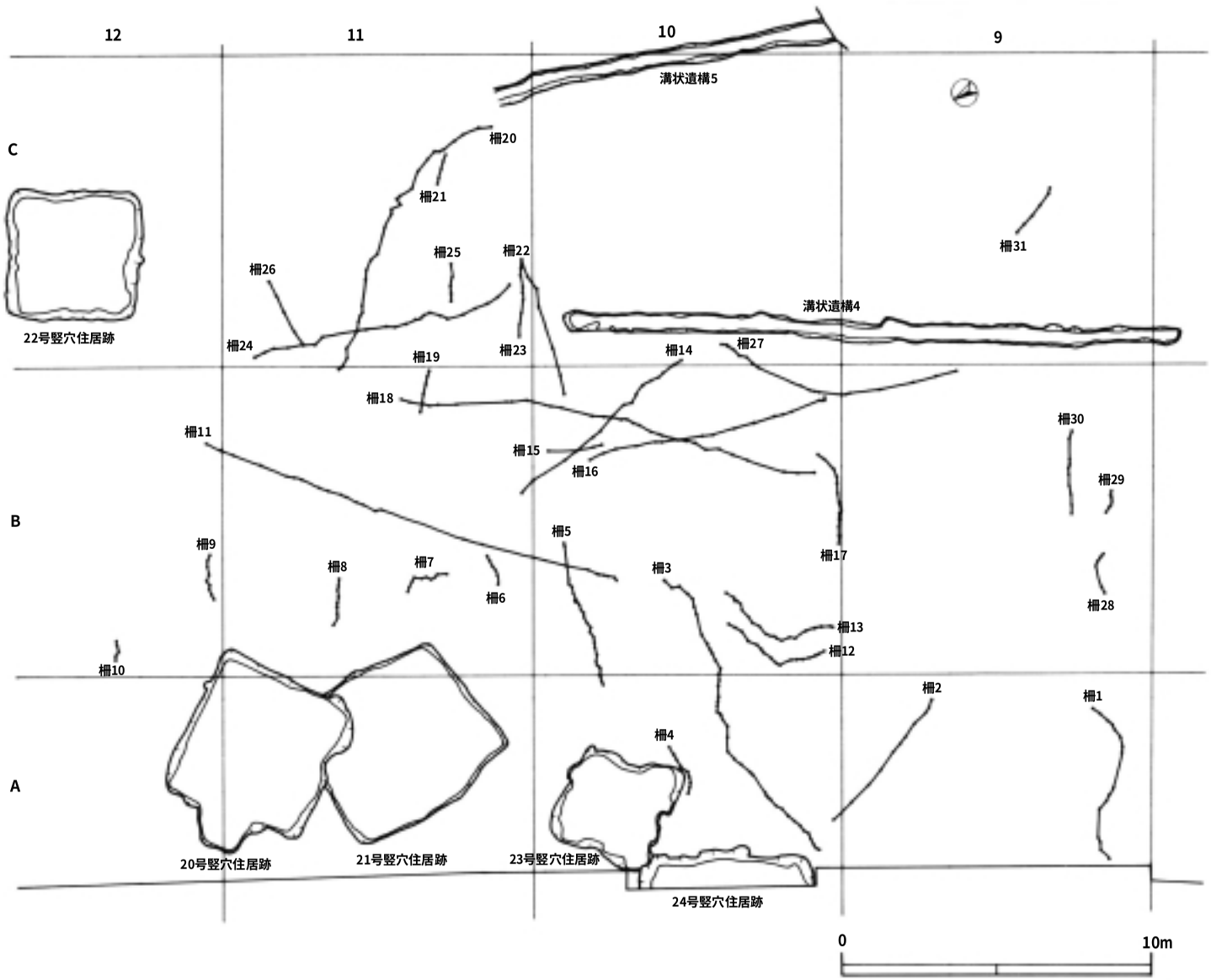
柵列状遺構の中には，交差するものがあることから，改築した可能性が大きいものの，新旧関係はつかめなかった。

この柵列状遺構には，柵６～10のように列の長さが短いものと，柵３，11，16，18のように列の長さが長いものがある。竪穴住居跡の近辺で検出されるものには，列の長さが短いものが多い傾向がある。

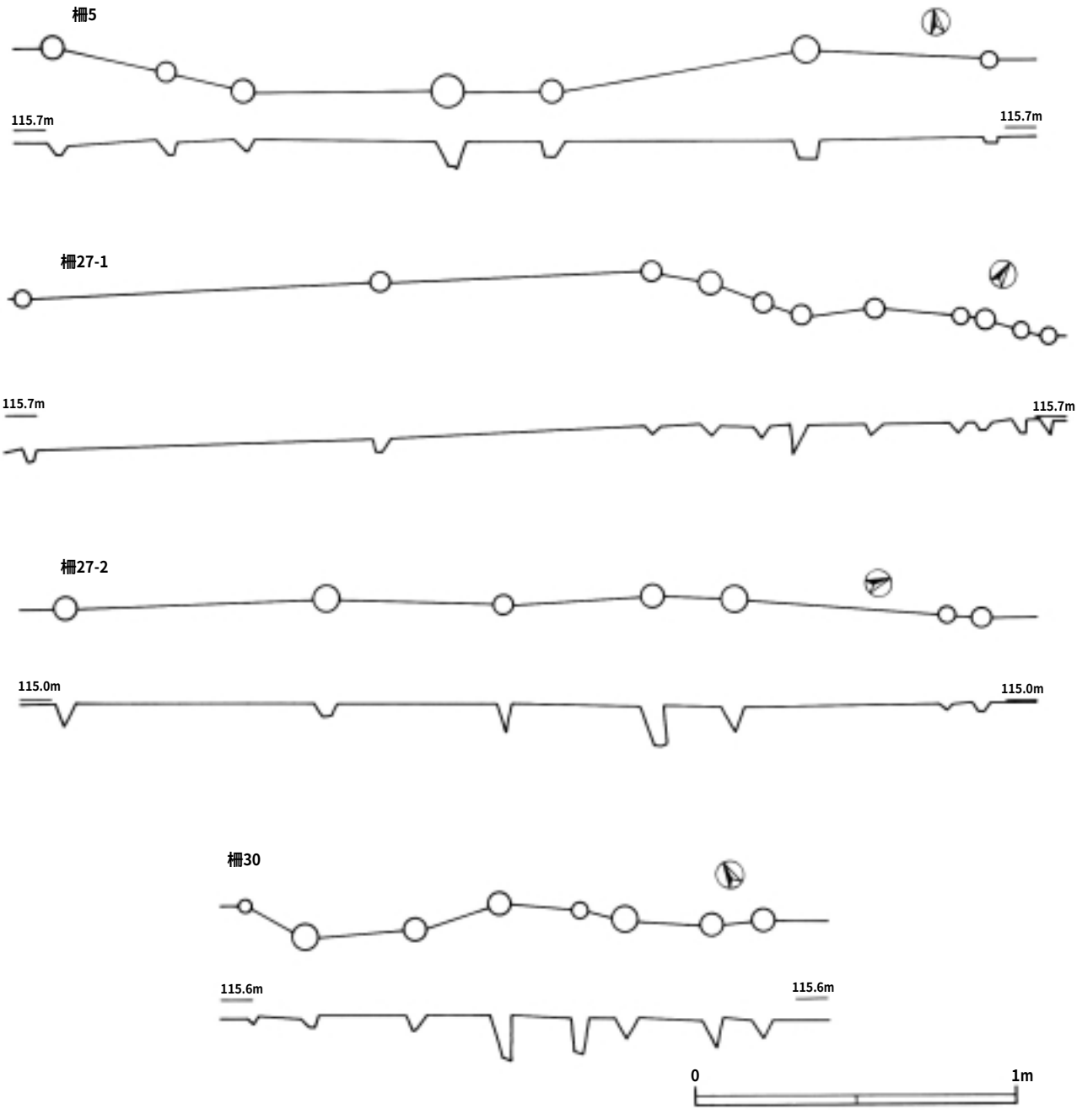
また，個々の小ピットの断面形態については，ピット底面が箱状の平らになるものと，三角形状に尖るものとがある。この両者は，同じ列で混在しており，形態による時期差や性格の差がないことが明らかである。




第133図　柵列状遺構配置図




第134図　柵列状遺構検出状況




**第135図　柵列状遺構小ピット断面状況**

（６）溝状遺構（第136図～第138図　図版28）

四条の溝状遺構が検出されている。いずれも南北方向に流れているが，それぞれの連続性は不明である。４号と５号はほぼ並行しているが，３号と６号は４号・５号といくらかずれている。

①３号（第136図・第137図）

Ａ－15区で検出された溝状遺構で南側は直に近く立ち上がって終わっているが，北側は用地外へ延びている。幅は50cmあり，約８ｍ検出されている。深さは10cm前後あり，中央はやや浅くなっている。埋土は２～３層に分かれ，下層が黒褐色粘質土で，その上に北側では暗黄褐色粘質土，南側では暗茶褐色粘質土，茶褐色粘質土が堆積している。

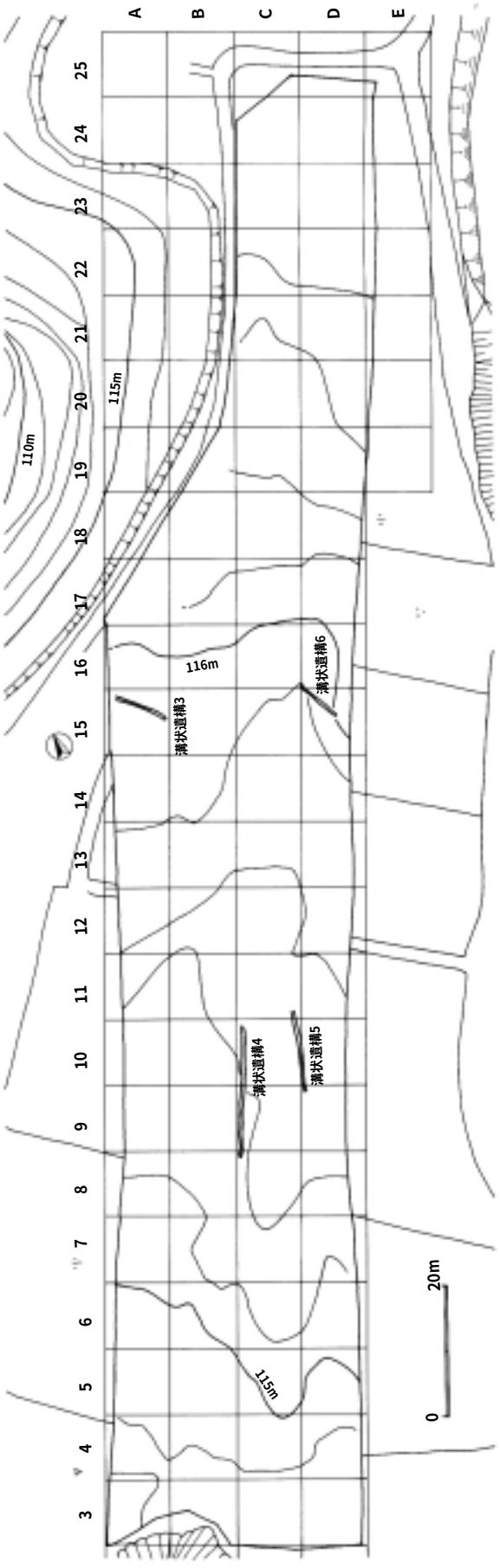
遺物はほとんどない。

②４号（第136図・137図・138図　796～811）

Ｃ区の西端近くの８～10区で検出されたほぼまっすぐ延びる溝状遺構で，両端とも途切れている。幅は40cm～80cmあり，約20ｍの長さである。深さは20cm～30cmと深く，上部のほうから多くの土器が出土した。796～798は埋土１で出土したものである。

甕形土器（796・797・800～803・806）は頸部がゆるやかに外反するもので，脚台は概して低い。脚台は裾部がゆるやかに広がるもので，直径は8.5cm～10cm，高さは３cm～４cmある。797でみられるように脚台と胴部を接合したのち，さらに外へ粘土を補填している。ヘラナデ仕上げである。

壺形土器（798・799・807～810）は，口縁部が外反するもので，胴部は長胴形をし，小さな平底である。798は直径が17cmと大きい広口壺で，口唇部に凹線がある。799の直径は14.5cmある。807はナデ肩で，口縁部が長い。外面調整がハケナデのものもあるが，ヘラナデのものが多い。




第136図　溝状遺構配置図

811は直径が7.5cmの安定した平底で，壺形土器の底である可能性があるが，弥生時代前期の甕形土器の可能性もある。内面の剥脱が目立つ。

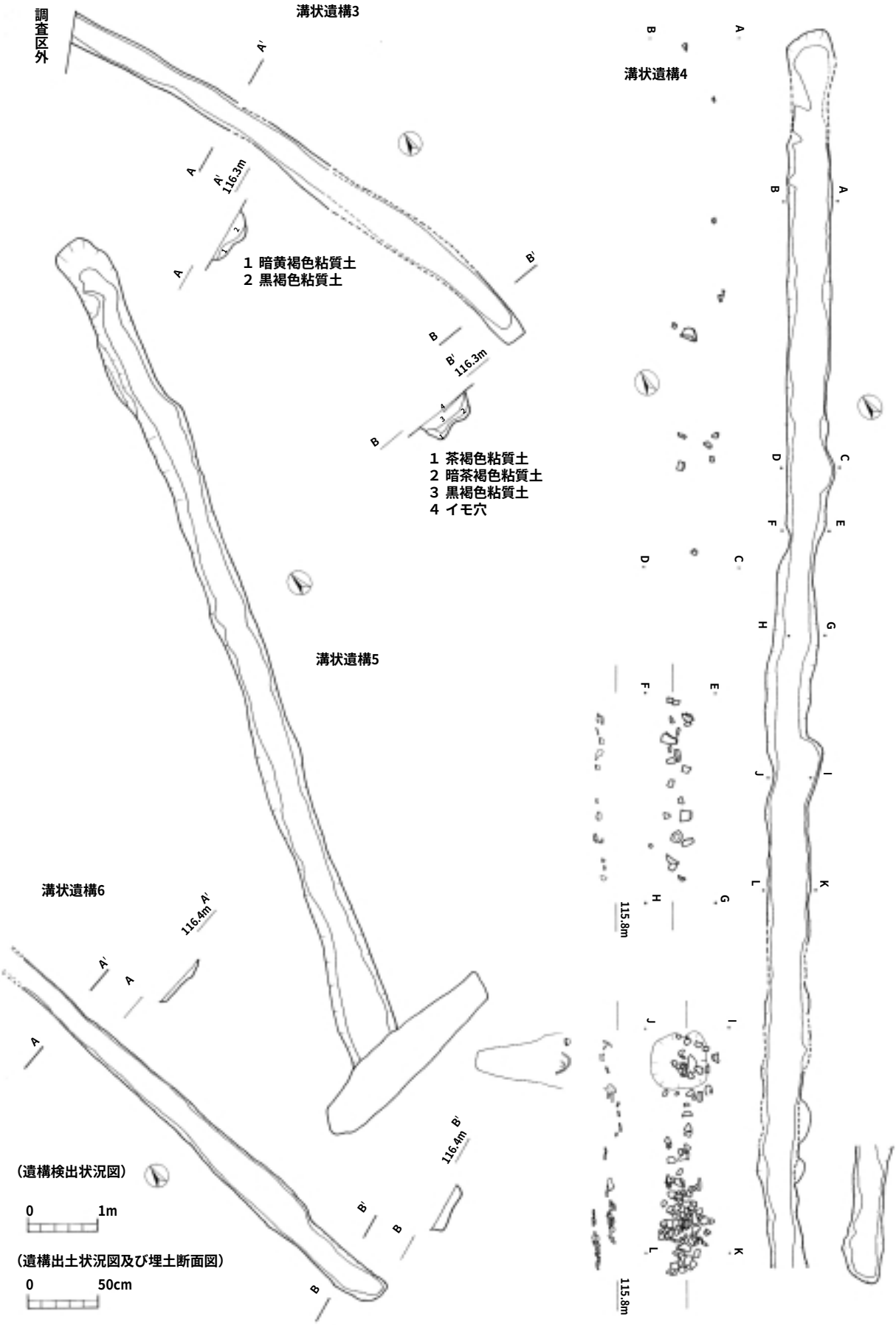
③5号（第136図・137図・138図　804・805）

4号の東約9mのC・D境付近，9～11区で検出された4号と並行する溝状遺構で，両側とも途切れている。幅は50cmで，長さが約13mある。

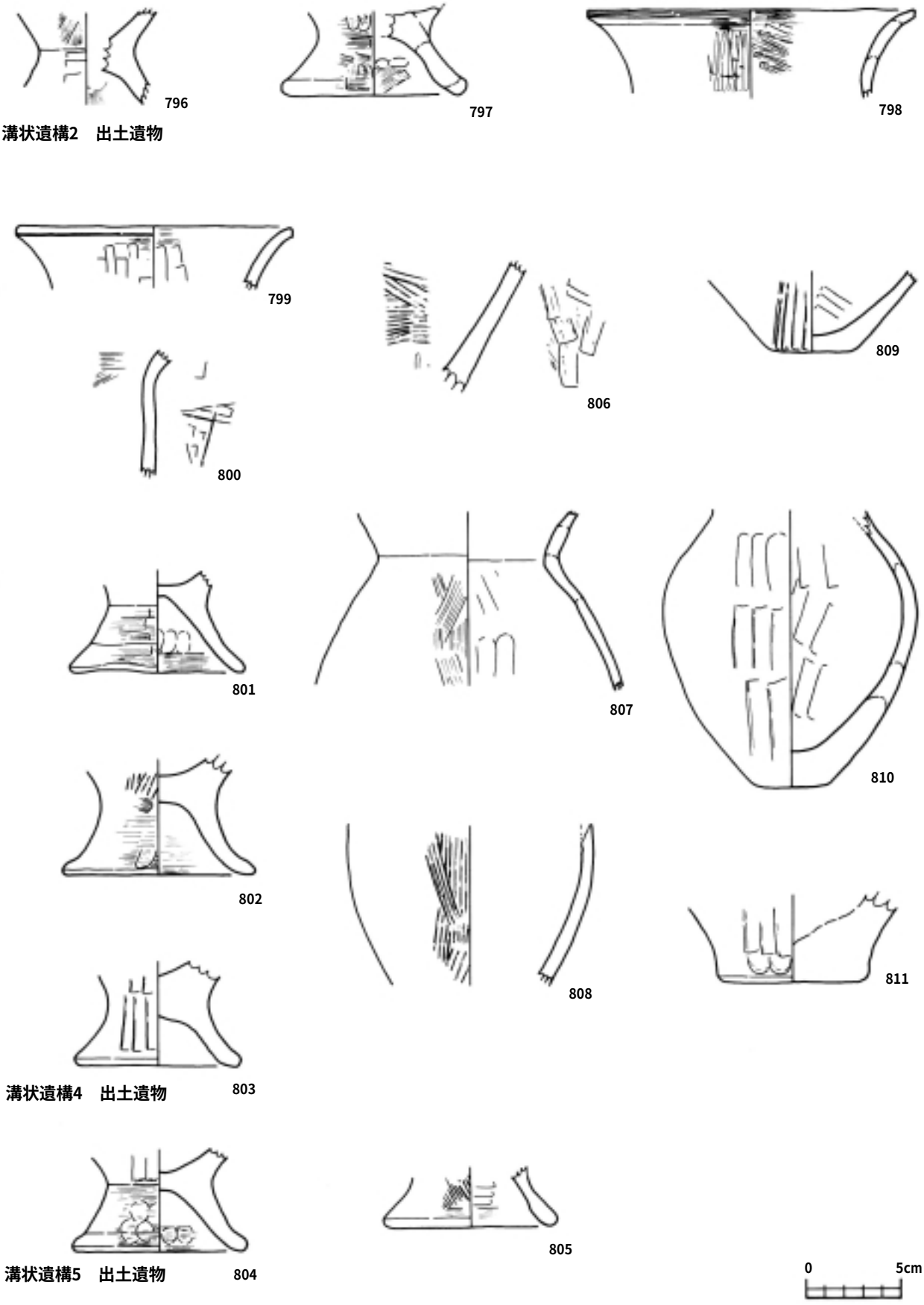
804・805は甕形土器の脚台で，直径が9cm，高さが3.5cmある。脚台端は外へ広がり，丸みをおびている。内外ともヘラナデだが，804の内・外面とも指頭圧痕がみられる。

④6号（第136図・第137図）

D－15区で検出されたほぼ南北に流れる溝状遺構で，南側は終わっているが，北は浅くなって切れている。幅が30～50cm，深さが5～10cmで，長さ7mが検出されている。




第137図　溝状遺構検出状況




第138図　溝状遺構出土遺物（土器）

## ２　包含層出土遺物

（１）　土器（第140図　812～818）

812は直径が15㎝の壺形土器の口縁部である。頸部から強く外反し，口唇部は中央に凹線がある矩形を呈している。外面はていねいなヘラナデである。

813は外反する壺形土器の頸部周辺の破片で，薄い作りになっている。外面は粗いヘラナデになっている。

814・815は免田式土器の壺形土器肩部で同一個体である。肩部の上側に九条の凹線が巡り，その最下部にヘラ押圧文が連続的に押されている。下側には五条の浅いヘラによる半円沈線が右から左へ描かれている。外面はていねいなナデ整形で，焼成度は良好である。茶褐色を呈し，白色石・茶色石が多く含まれている。

816は口唇部に粗い横方向の条痕がみられる壺形土器の口縁部で，口縁端近くで内側へ強く屈曲している。

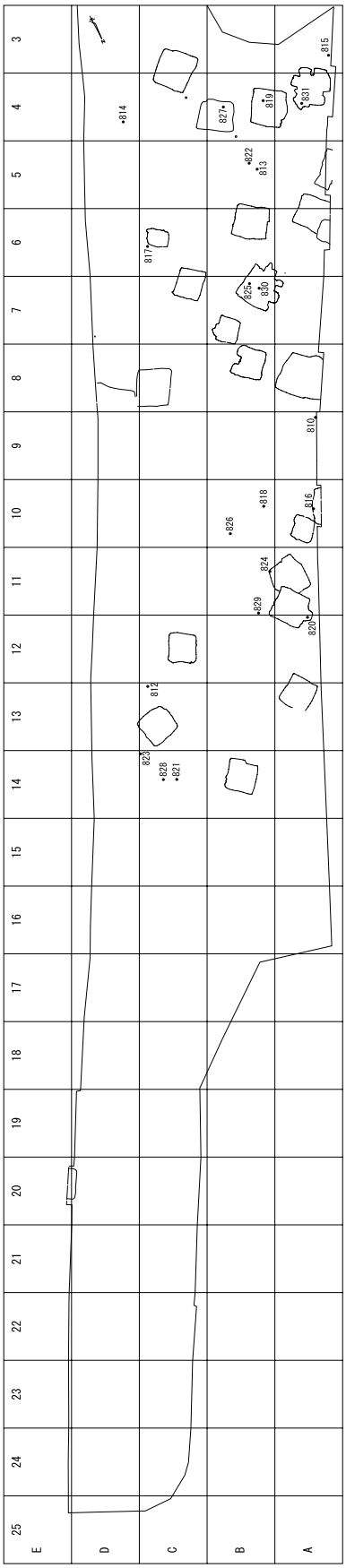
817は口縁直径19㎝，高さ７㎝の鉢形土器である。丸底から丸みをもって立ち上がった胴部は頸部で，強く外へ屈曲し，外反する口縁部へ至る。口唇部には一条の凹線がみられる。胴部外面はヘラケズリだが，口縁部外面や，内面はヘラナデで仕上げている。口縁内面はハケナデである。これは蓋形土器の可能性もある。

818は壺形土器の肩部である。内外ともヘラによるていねいな縦ナデで，外面にヘラによる絵画が描かれているが，なにを描いているのか不明である。

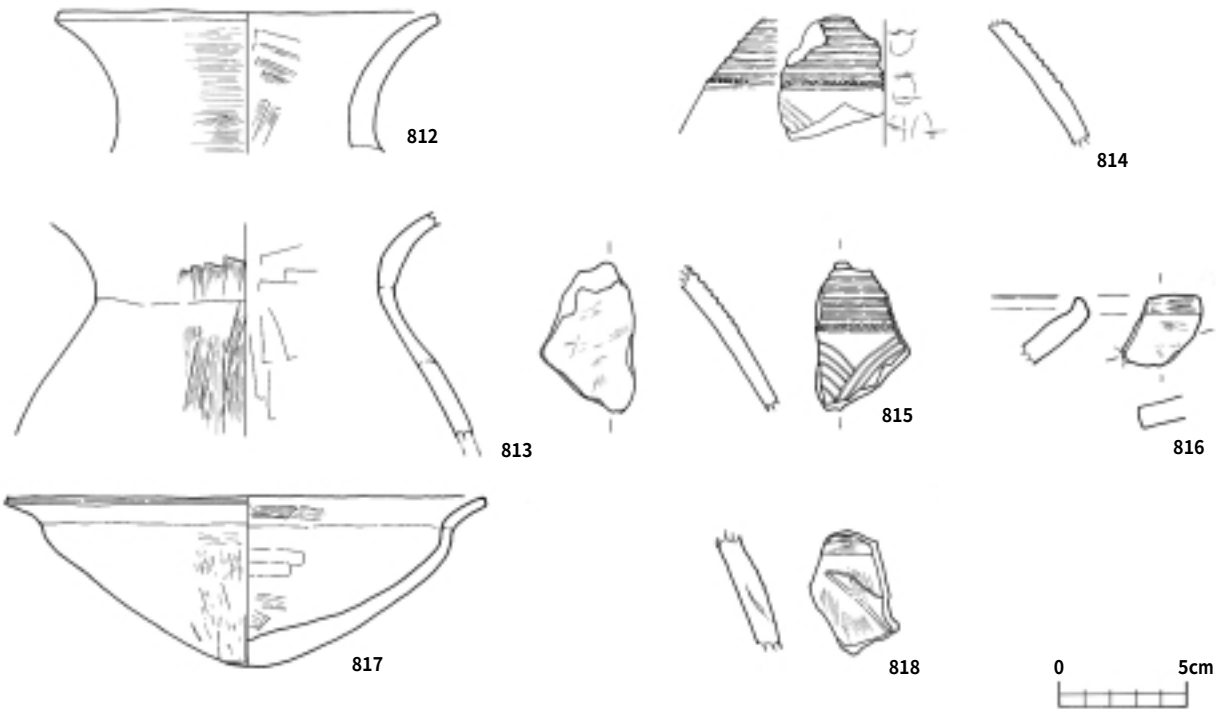
（２）　土製品

①　円盤形土製品（第141図　819～829）

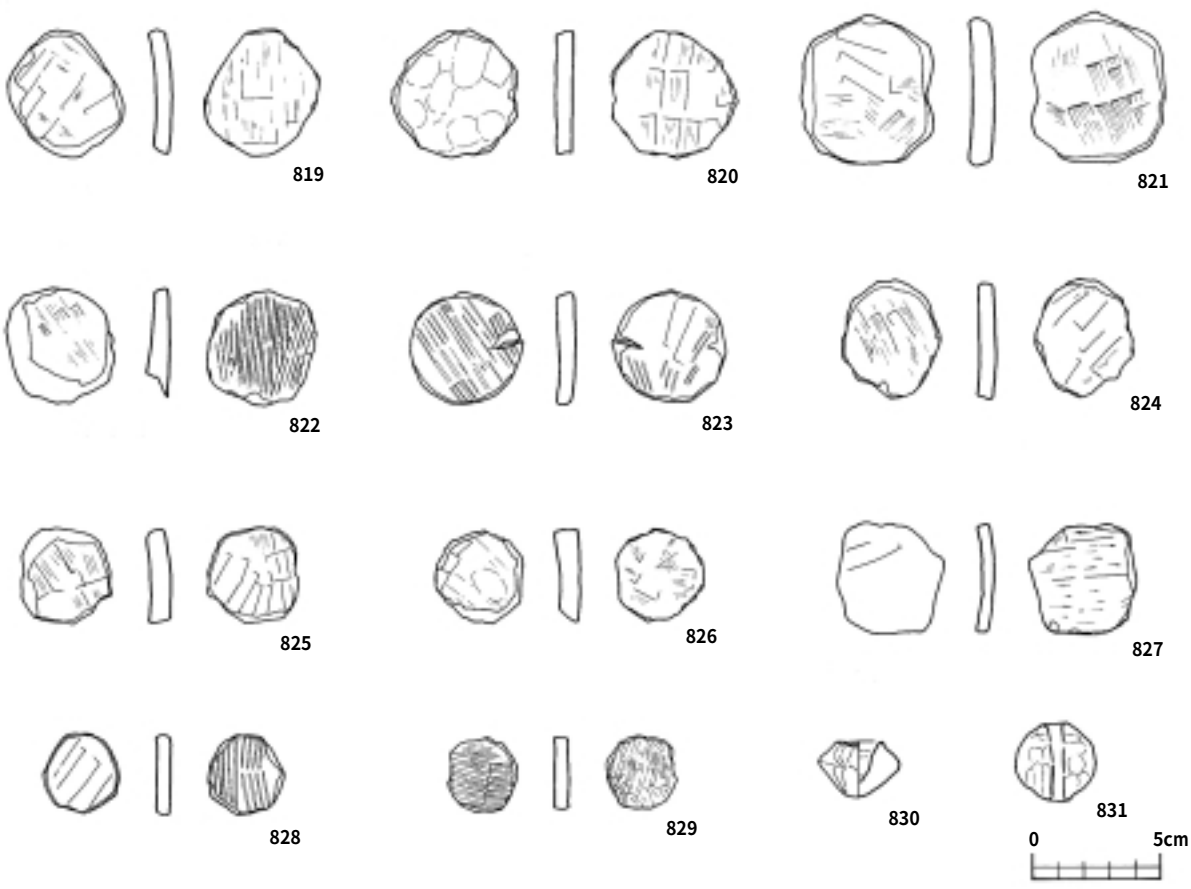
壺形土器や甕形土器の破片を円形に打ち欠いて，円盤形にこしらえたもので，包含層のほか２号（827）・３号（819）・９号（822）・12号（825）・21号（824）の各住居跡からも出土して




**第139図　弥生～古墳土器・土製品分布図**




第140図　弥生～古墳土器




第141図　弥生～古墳土製品

いる。直径は３cm足らずのもの（829）から６cmほどある大きなもの(821）まである。打ち欠いたままで角がとがったものが多いが，823・828は周辺をていねいにみがいて丸くこしらえている。820・821・823・824・826・828は縄文土器を加工したものである。

②ミニチュア土器（第141図　830）

12号住居跡で出土した，口縁直径が1.8cm，高さ2.2cmの壺を模したものである。ソロバン玉状に胴部がふくらみ，上から指頭状のもので穴をあけて直口壺状にしている。外面はヘラナデでていねいに仕上げている。

③球状土製品（第141図　831）

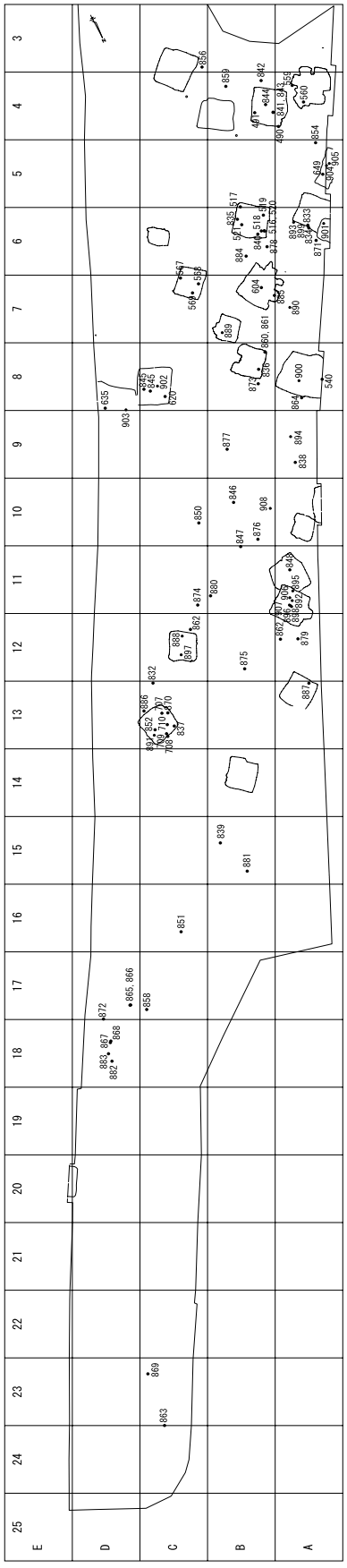
９号住居跡で出土した，直径が３cmほどの球状を呈する土玉で，３mmほどの孔が焼成前に穿たれている。周辺はヘラでていねいにナデている。

（３）　剥片石器類

ここでは，Ⅱ層から出土した石器のうち，弥生時代終末～古墳時代に該当する可能性が高い石器を取り扱う。層位的には縄文時代の石器と同一層から出土したものもあるが，石材及び製作技術から分離を行った。なお，分離が困難であった一部の剥片石器，石斧類，礫石器などについては，縄文時代の石器と同一項目で取り扱う。

磨製石鏃等(第143図832～837)

832～837は磨製石鏃及びその未製品と考えられるものである。832は頁岩を素材とする。全面を研磨によって丁寧に整形している。形態的には鉄鏃のプロポーションに近く，鉄鏃の模倣品として製作されたものとみられる。833は先端部と脚部の一部が欠損するものの，ほぼ完形をなす。表裏とも丁寧な研磨によって整形され，抉部の湾曲も研磨によって丁寧に作出されている。834は節理が発達するホルンフェルスを素材とし，周縁部に細かな整形剥離を施している。研磨はほとんど行われ

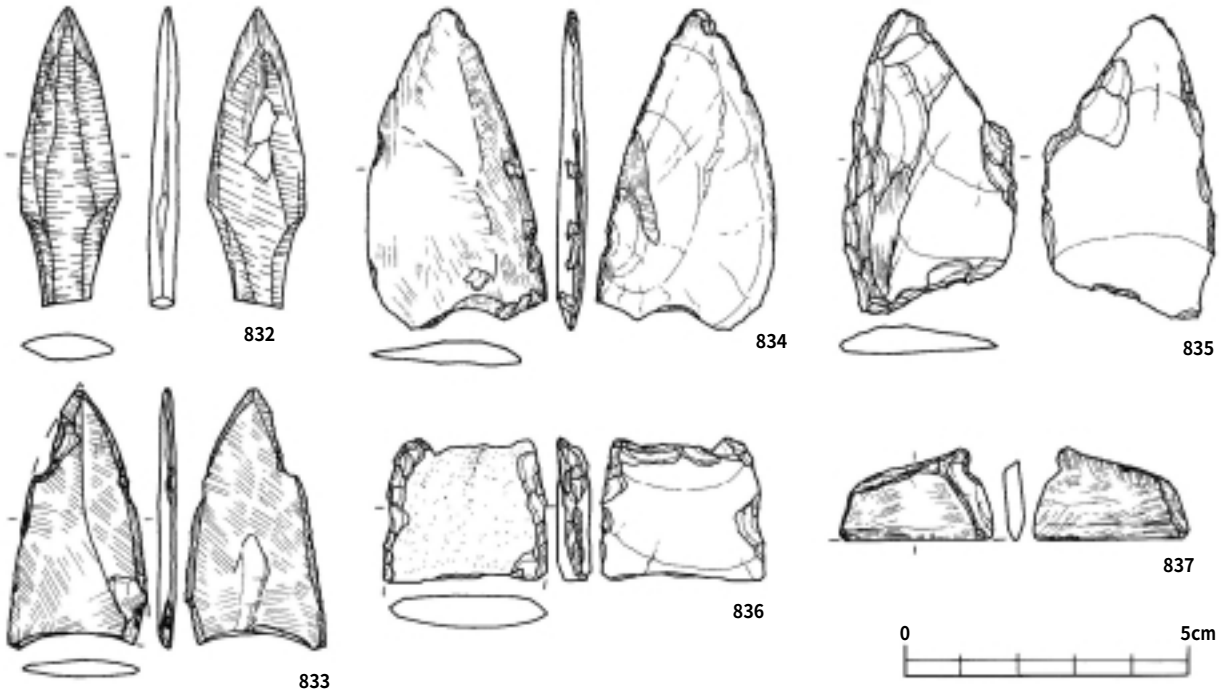



**第142図　弥生～古墳石器・石製品分布図**

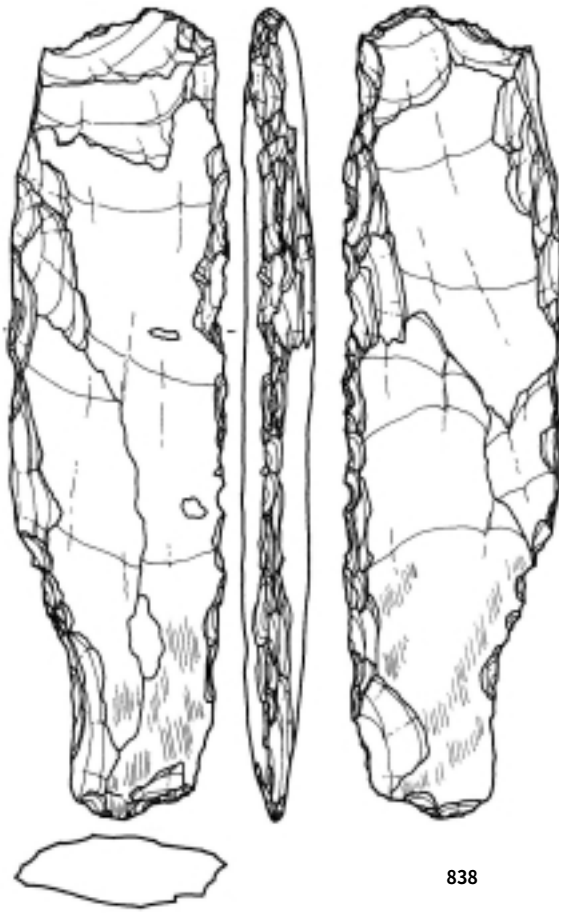
ておらず，整形剥離段階で放棄された未製品とみられる。835は薄いホルンフェルスの素材剥片を利用し，右側縁と抉部に研磨による加工が観察されるが，加工は部分的である。未製品の可能性もあるが，形状的には製品としても機能しうる。836もホルンフェルスを素材とするが，周縁の整形加工のみで研磨痕は観察されない。やや分厚く，上半分は折損する。特別な再生加工は行われておらず，そのまま放棄されたものとみられる。837は表裏とも丁寧に研磨された製品である。薄く扁平な資料であるが大部分は欠損しており，全体形は不明である。下端部はやや丸みを帯びる形状で摩滅痕が観察される。磨製石鏃ではなく，石庖丁の刃部である可能性が高い。

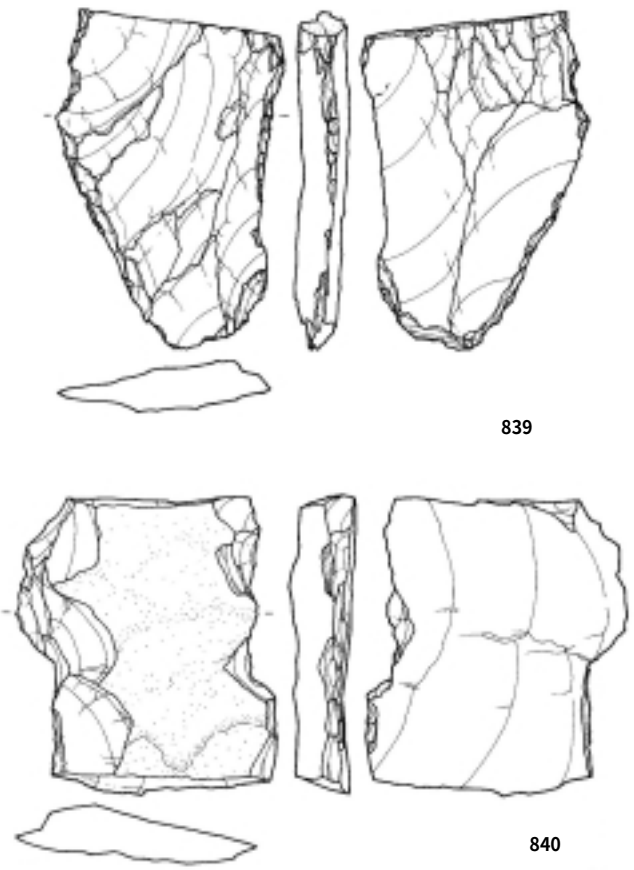
打製石斧等(第144図838～第146図847)

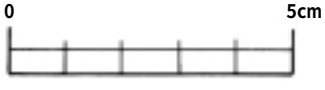
838～847は打製石斧およびその関連資料である。838は良質の頁岩を使用する打製石斧である。横長の扁平な素材剥片を利用し，周縁部に丁寧な整形剥離を施して短冊形に仕上げている。先端部は顕著な摩滅痕が観察され，刃部左側縁は再生加工を繰り返しながら使用された可能性が高い。839は打製石斧の未製品と考えられる資料である。素材剥片の周縁部に簡単な整形加工を施しているが，上半部は節理により折損している。摩滅痕等は観察されず，整形段階で放棄された可能性が高い。840も未製品と考えられる資料である。上部と下部は折損しており全体形は不明であるが，薄手の素材剥片を使用し，両側縁の整形加工にやや抉部の作出を意識した剥離が見られるため，打製石斧の関連資料として取り扱った。摩滅痕等は特に観察されない。841及び842は薄手のホルンフェルスの剥片を素材とし，周縁部に簡単な整形加工が施された資料である。素材はやや脆弱であるが，下端部にはわずかに微細剥離や摩滅痕が観察される。整形剥離は上半部に集中し，装着を意識したものと考



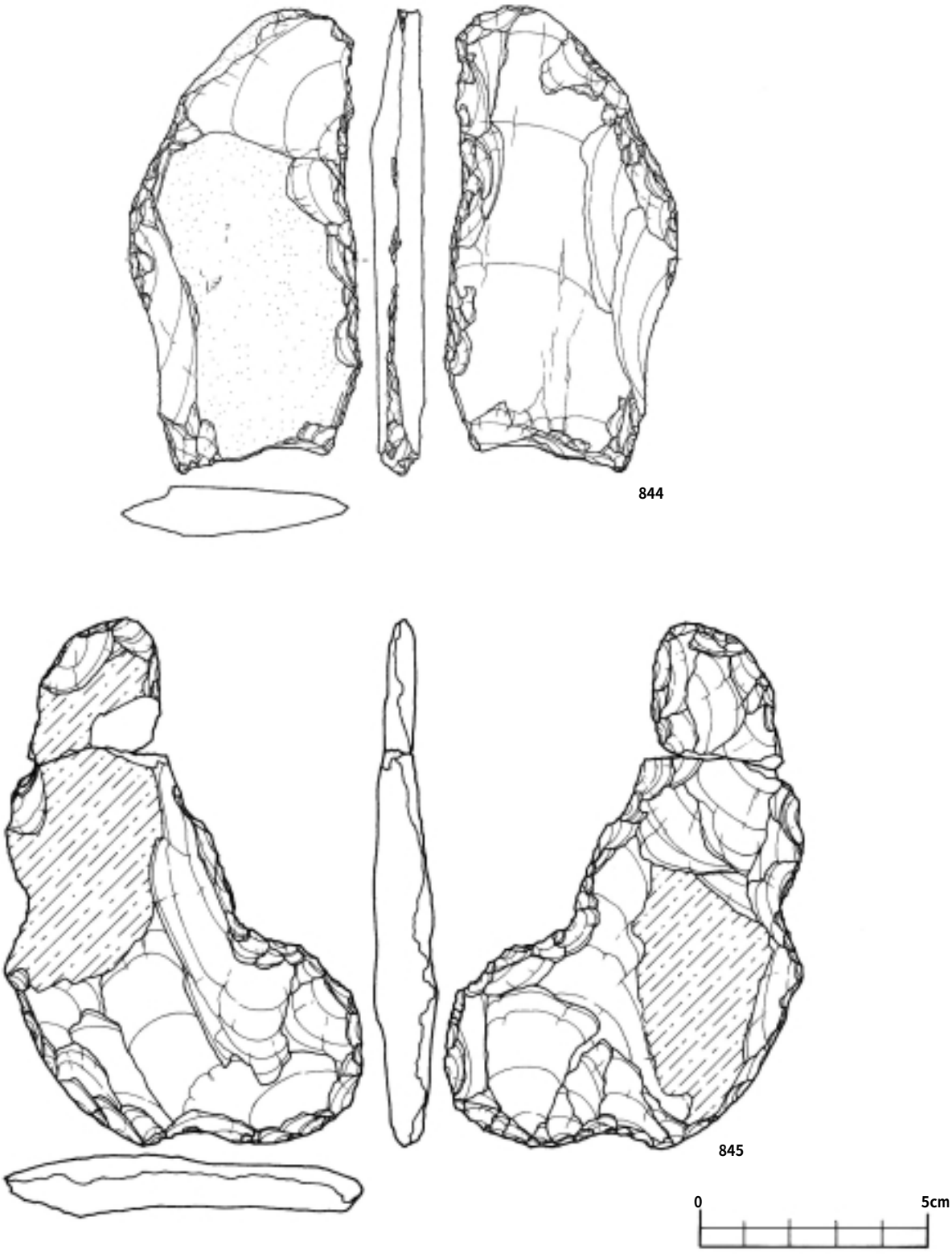

**第143図　弥生～古墳石器（1）**



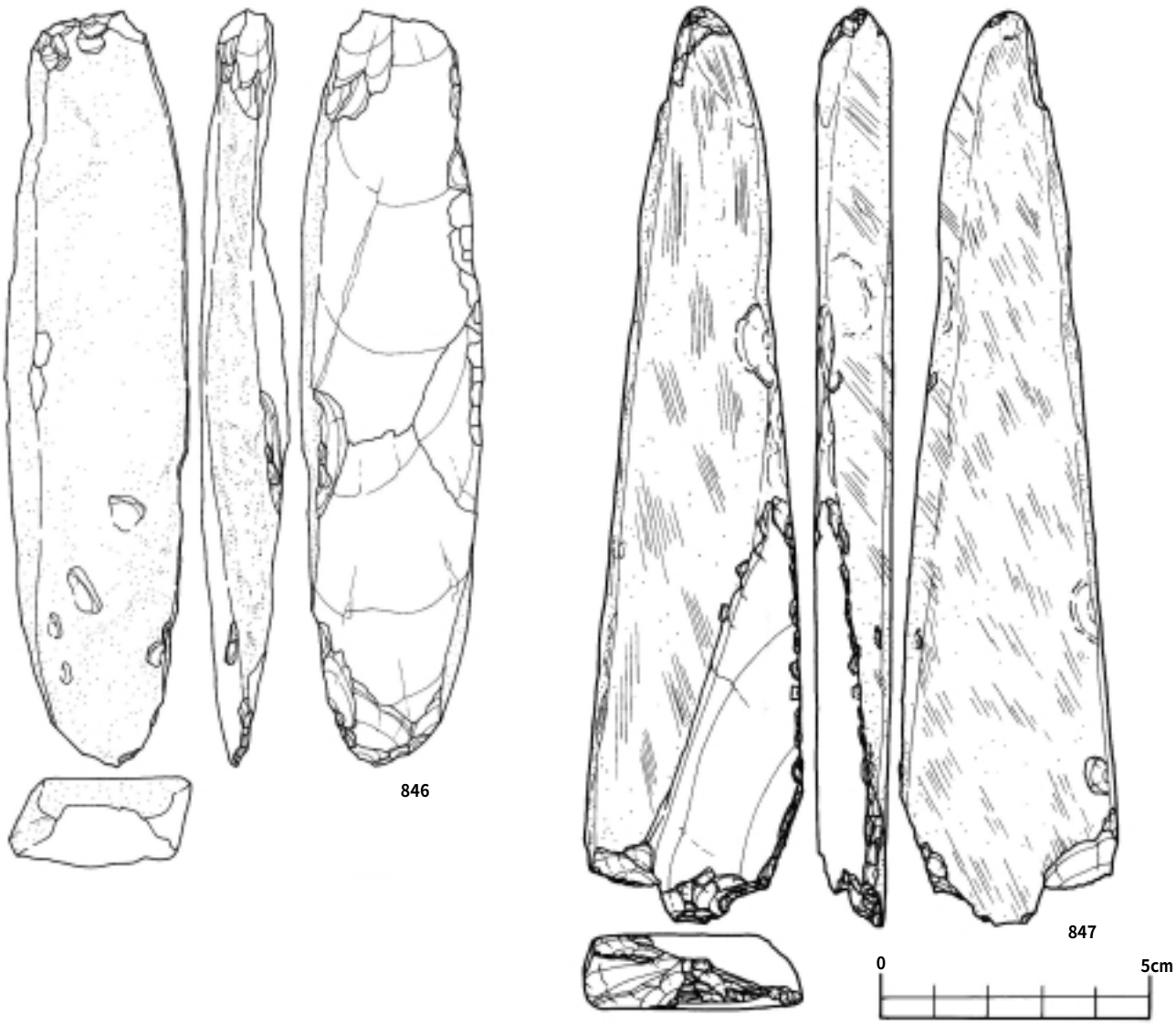



第144図　弥生～古墳石器（2）




**第145図　弥生～古墳石器（3）**

えられる。841は先端部にはほとんど加工が施されておらず，先端部が薄くなる素材剥片の形状を利用して製作が行われた可能性が高い。842についても，簡単な整形剥離が行われるのみで，基部付近に整形剥離が施されている。843は841と842の接合資料である。節理に沿って横剥ぎに近い形で素材剥片が生産されたことが分かる。844も下端部が欠損するものの，打製石斧と考えられる資

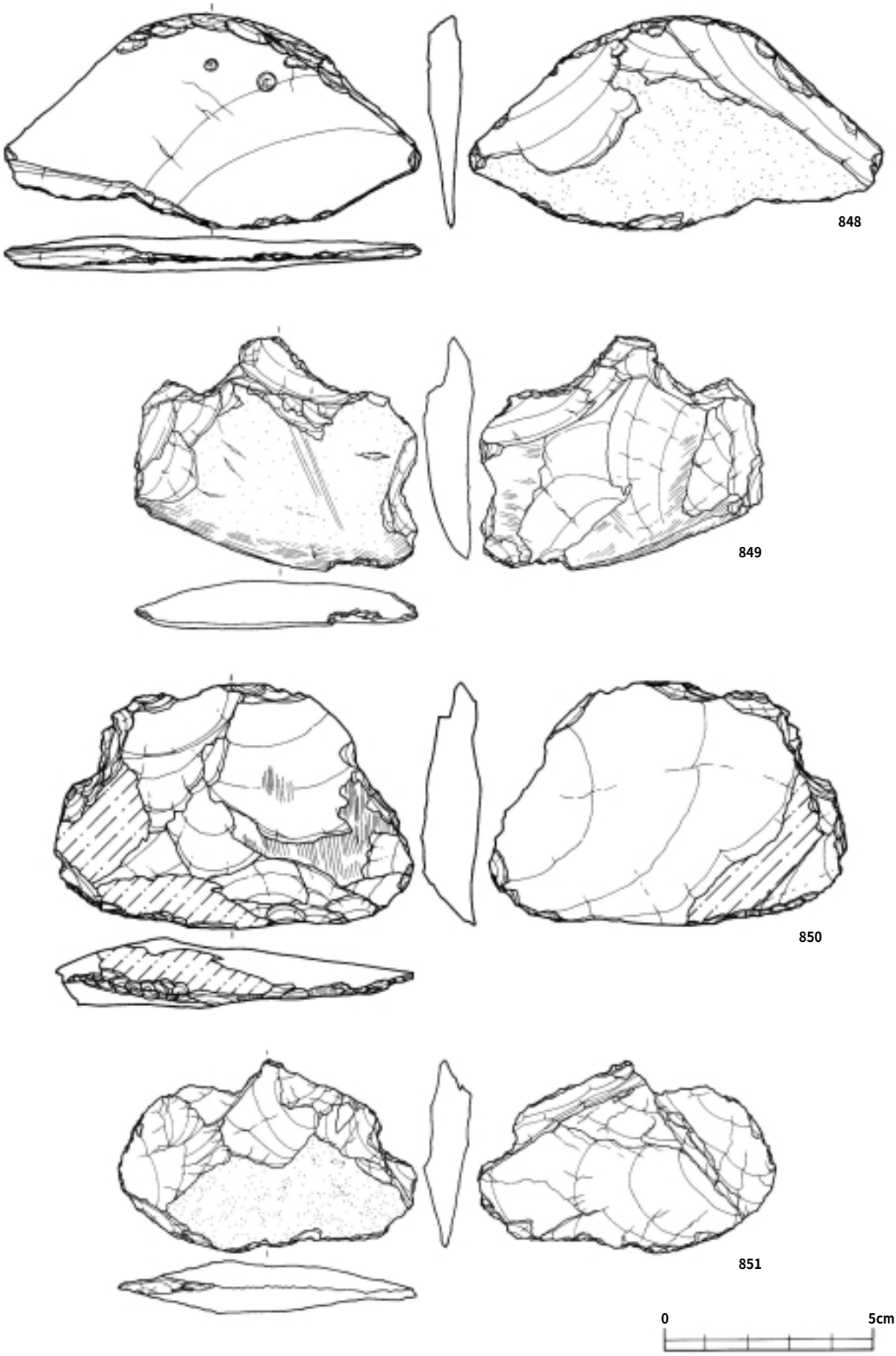



**第146図　弥生～古墳石器（4）**

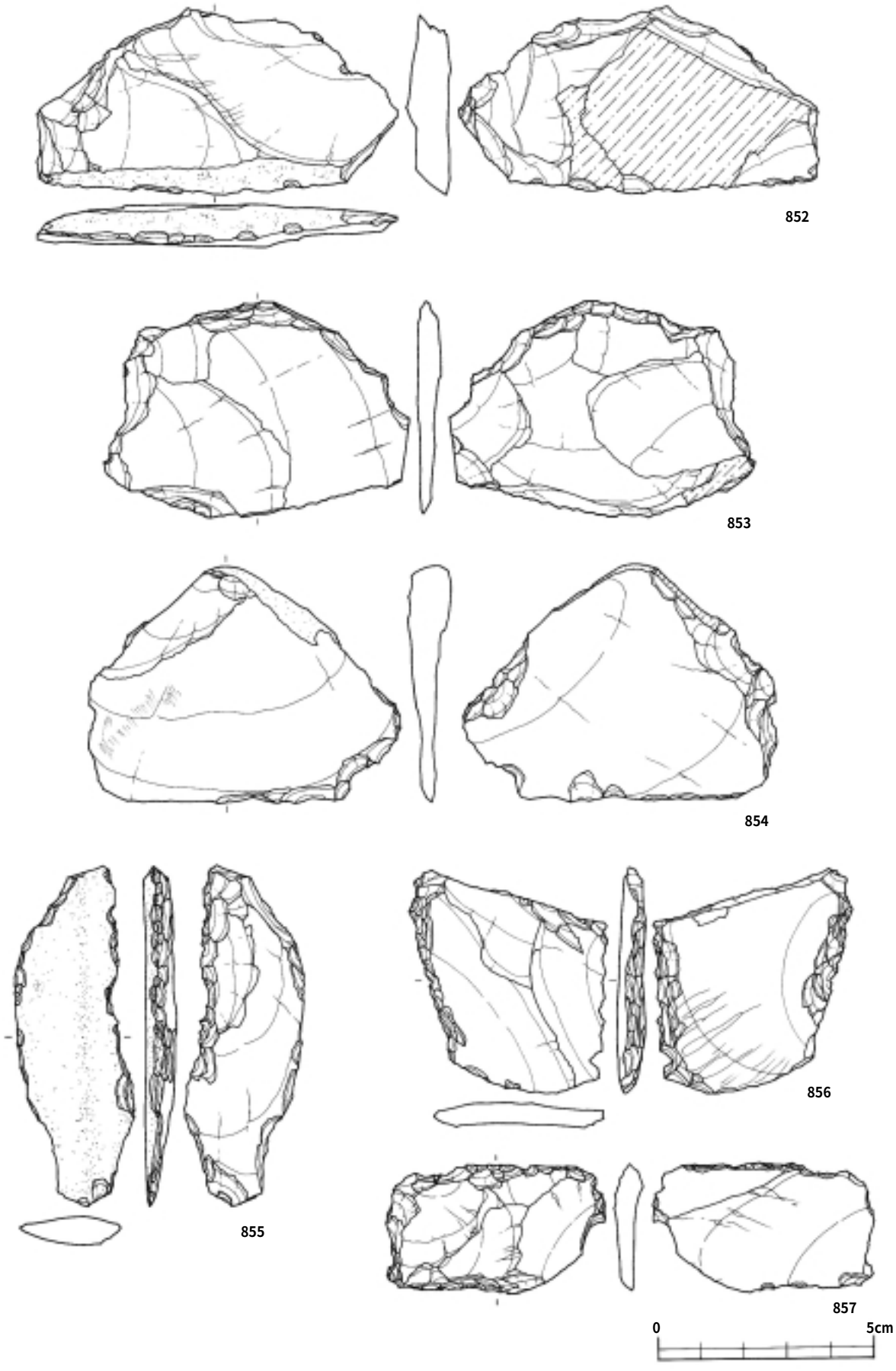
料である。良質なホルンフェルスを素材としており，破断面付近の両側縁には，わずかだが摩滅痕が観察される。右側縁には非常に丁寧な整形剥離が施されており，破断後に削器に転用されたものと考えられる。845は粘板岩質の粗質頁岩を素材とするものである。欠損と再生加工を繰り返したものと推測され，全体形は不整形を呈している。打製石斧として機能しうるものかどうか判然としないが，下端部付近には摩滅痕が観察されることから，打製石斧の関連資料と判断した。摩滅痕は右側縁の湾曲部の中程まで観察され，機能部は下端部のみでなく，下半部のかなり広い部分に及ぶものと推察される。

846・847は礫素材の形状を利用して加工を行っているものである。礫器として取り扱うべきものであるが，打製石斧に類する機能が想定されるため，これに準じて取り扱う。

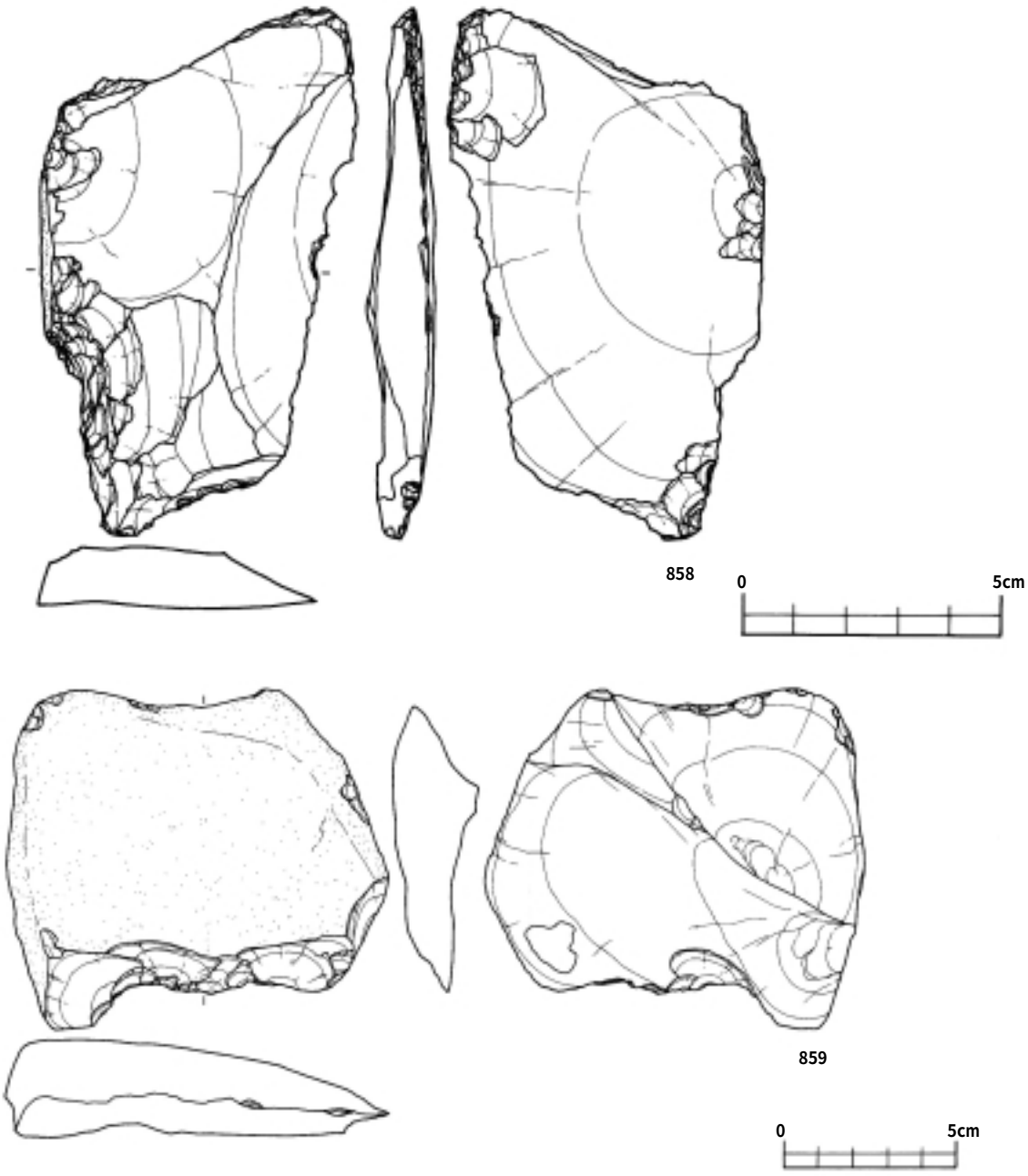
846は節理がやや発達するホルンフェルスを素材とするものである。棒状礫を利用し，先端部に鋭利な整形加工を施して機能部とする。また，装着部と想定される部分には，打撃痕や摩滅痕が観察される。847も棒状礫を素材とする。刃部加工は背面側からのみ行われており，未製品のまま放




**第147図　弥生～古墳石器（5）**




**第148図　弥生～古墳石器（6）**

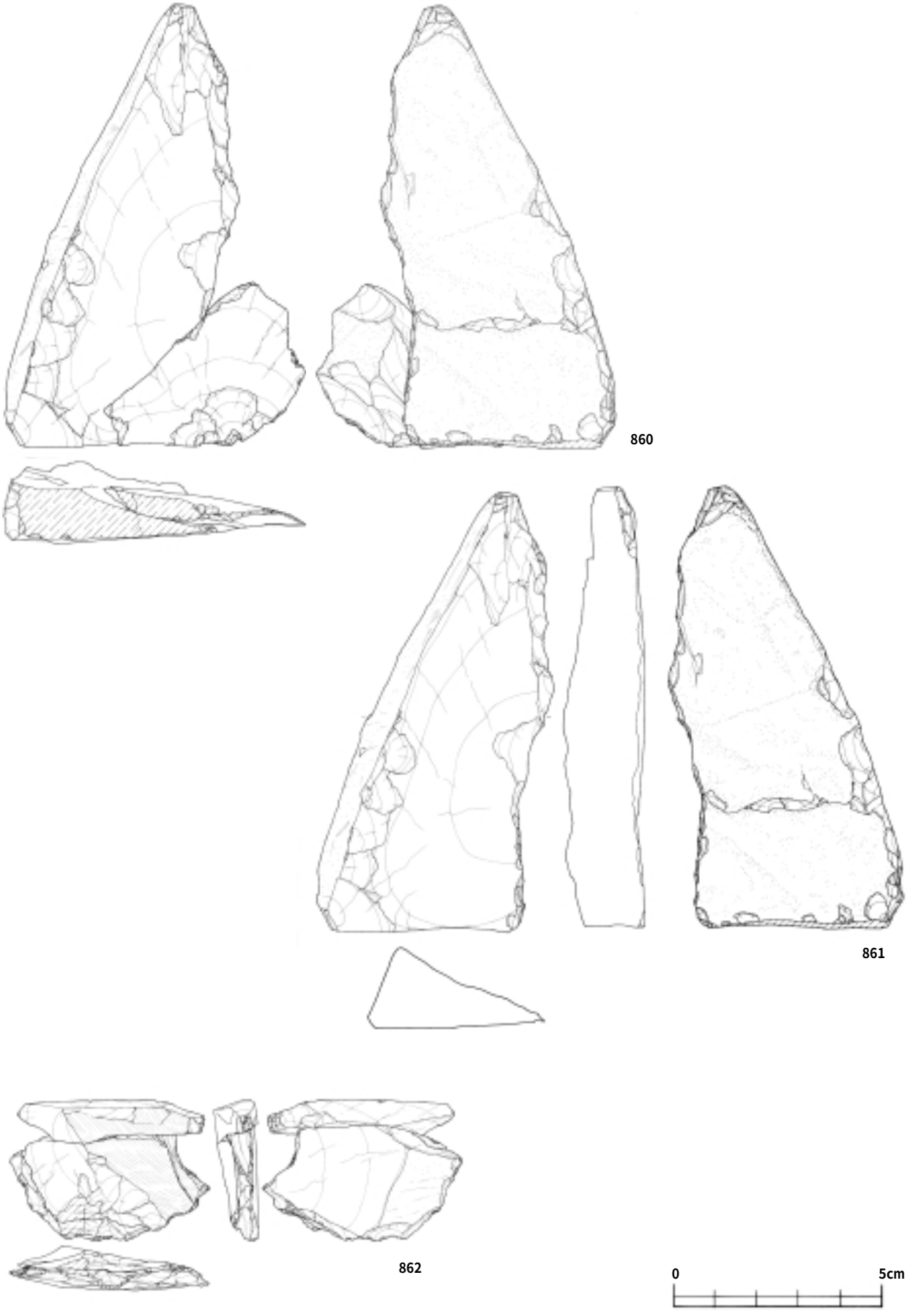



**第149図　弥生～古墳石器（7）**

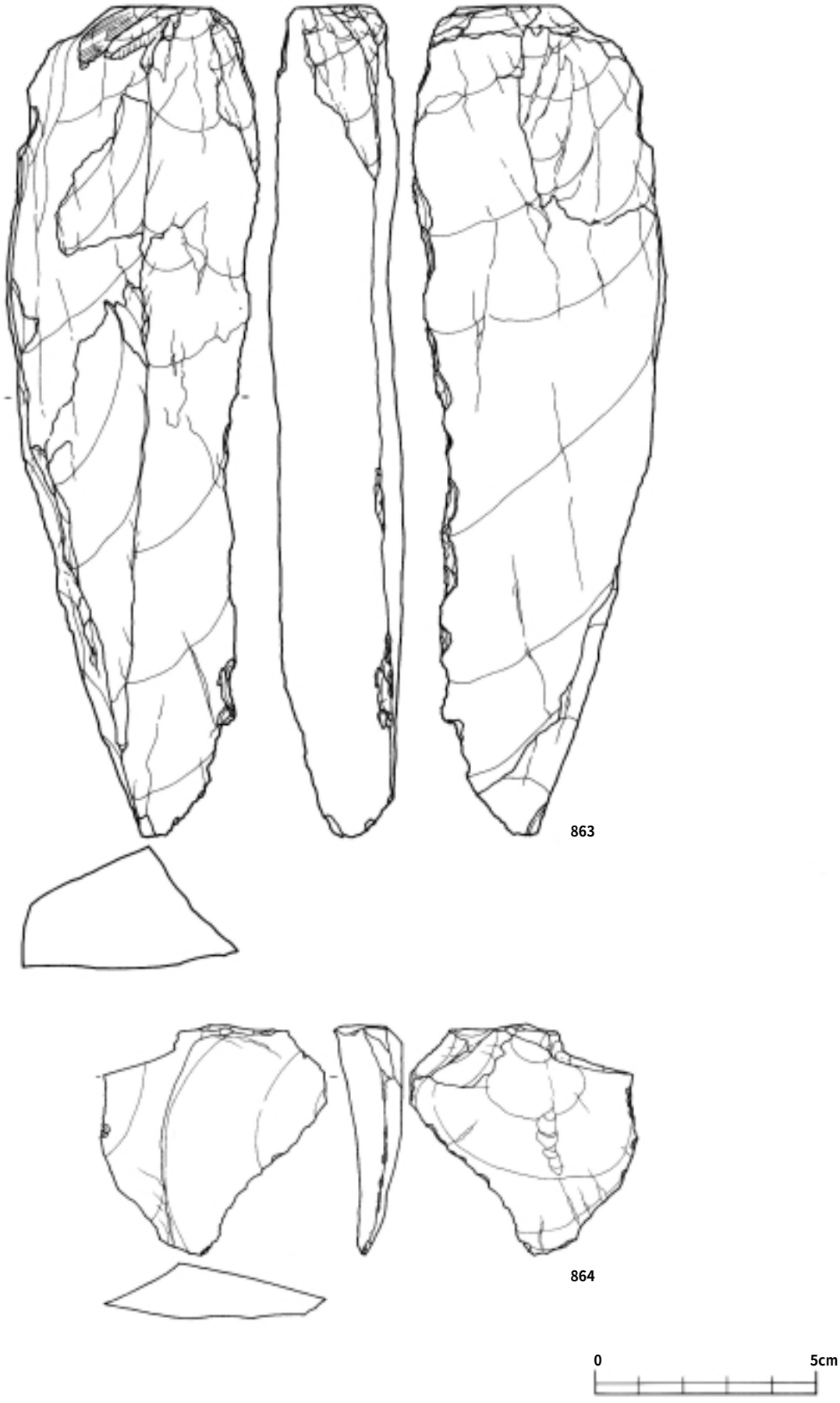
棄されたものと考えられる。

石庖丁・削器等(第147図848～第149図858)

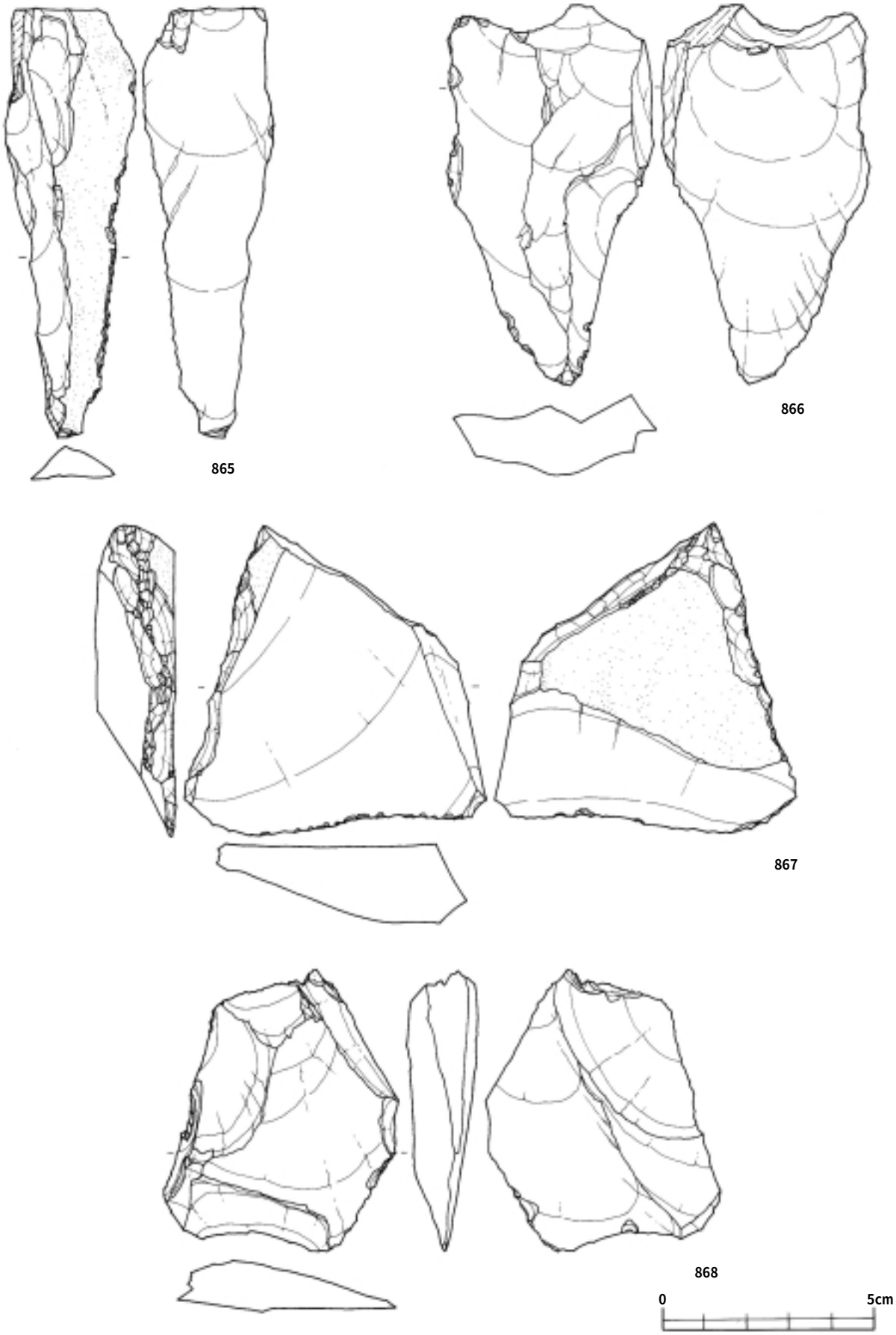
848～858は石庖丁ないしこれに類する削器等とみられる資料である。848は比較的良質なホルンフェルスを素材とし，丁寧な整形剥離によって半月形に仕上げられている。研磨痕はみられないが，下縁部には微細剥離痕が観察される。また，正面上部には２か所に穿孔がみられるが，貫通はしていない。849はやはり良質なホルンフェルスを素材とするものである。撹乱による損傷が激しいが，刃部付近を中心に丁寧に研磨されている。850はやや粗質のホルンフェルスを素材とする。周縁は丁寧な整形剥離によって整形されており，側縁がややえぐれる台形状を呈する。刃部はやや鈍いが細かな剥離痕が部分的に集中し，わずかながら摩滅痕も観察される。研磨によるものか，部分的に



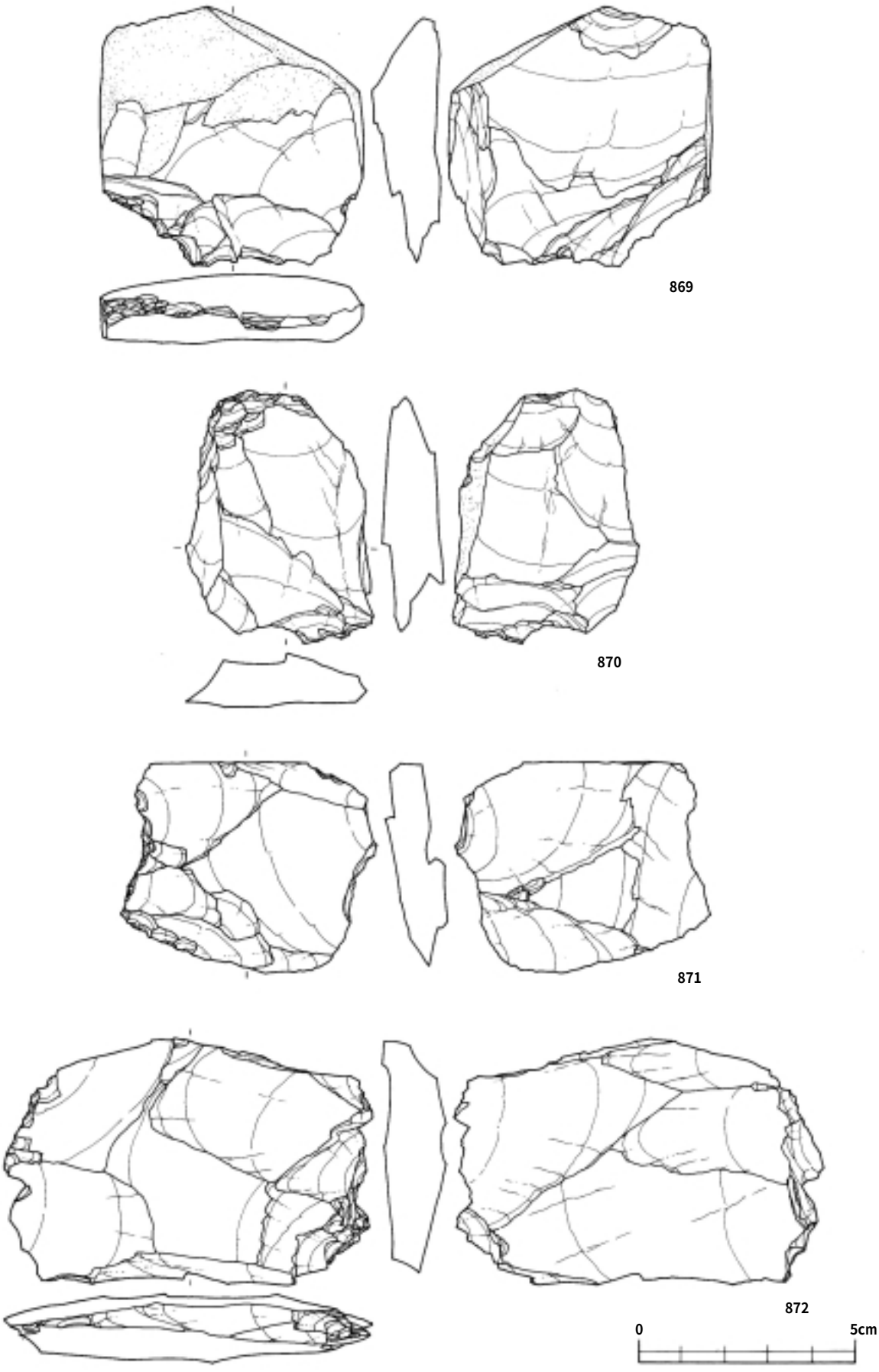

**第150図　弥生～古墳石器（8）**



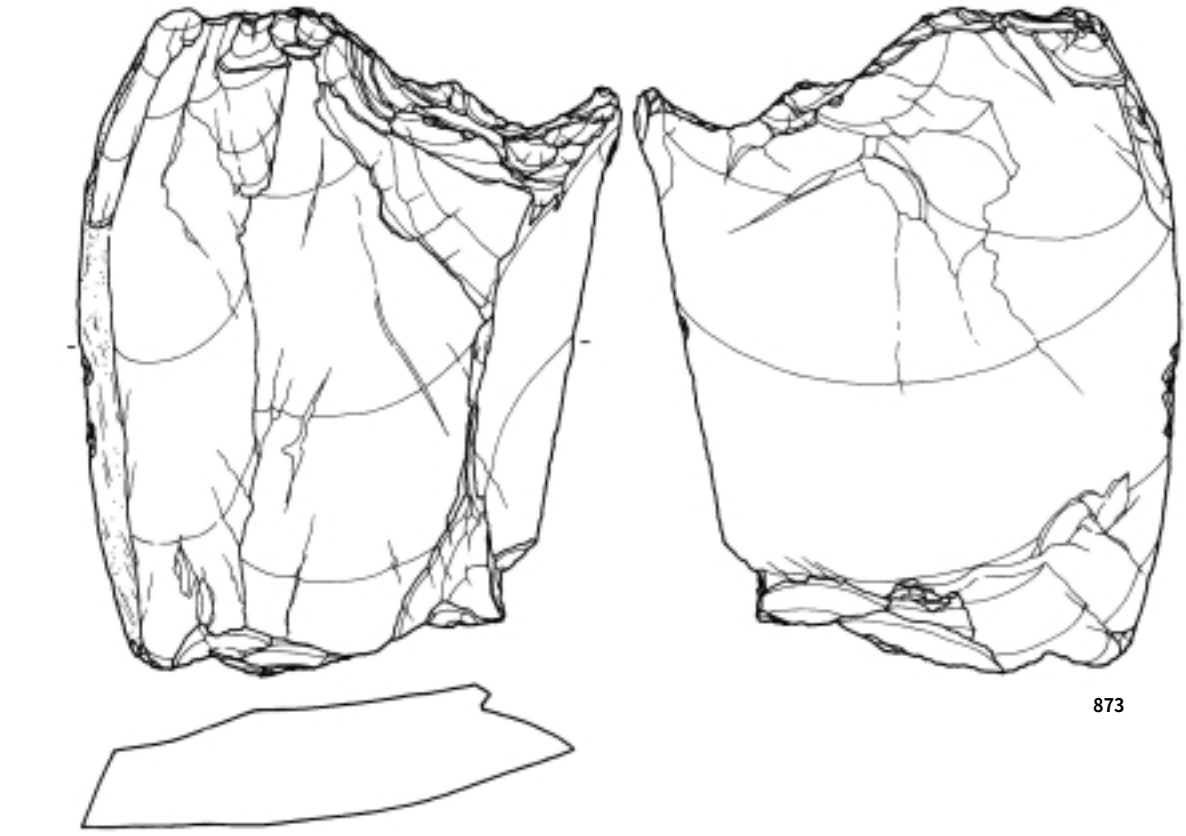

第151図　弥生～古墳石器（9）

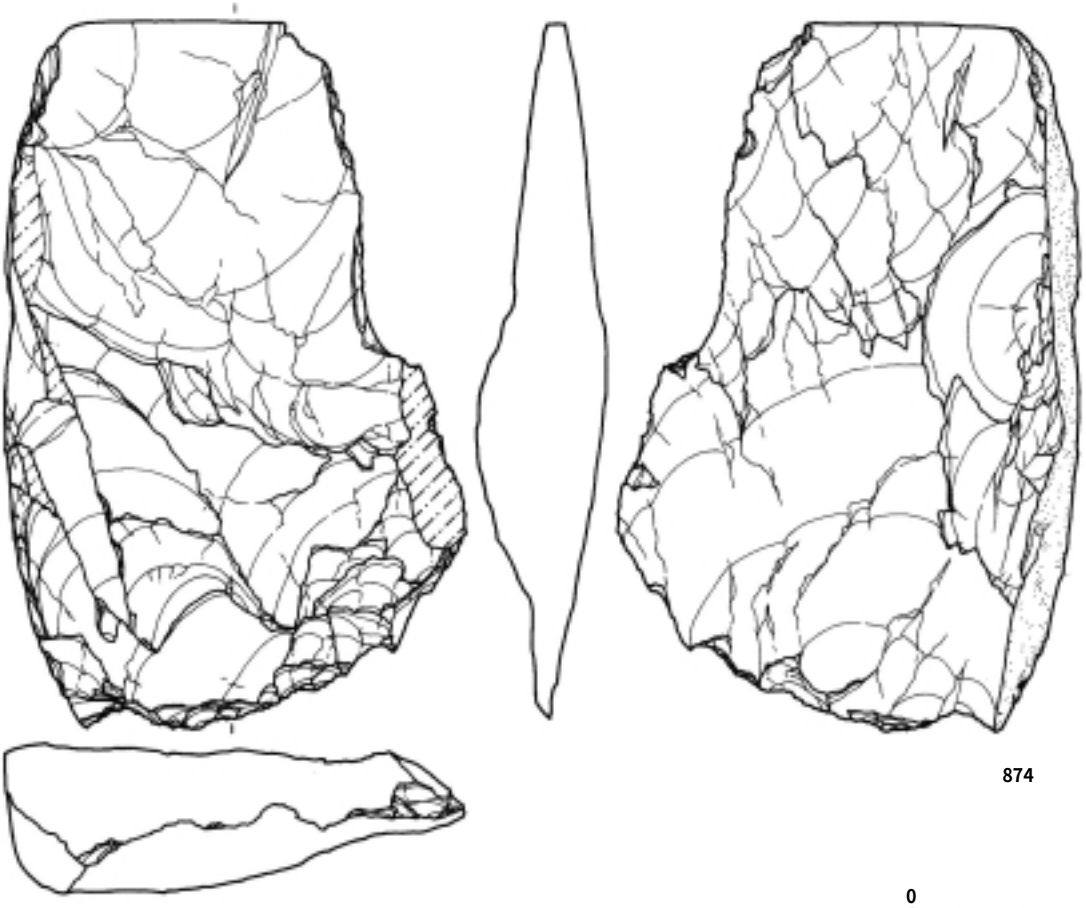


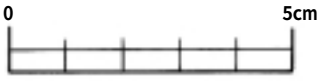

第152図　弥生～古墳石器（10）



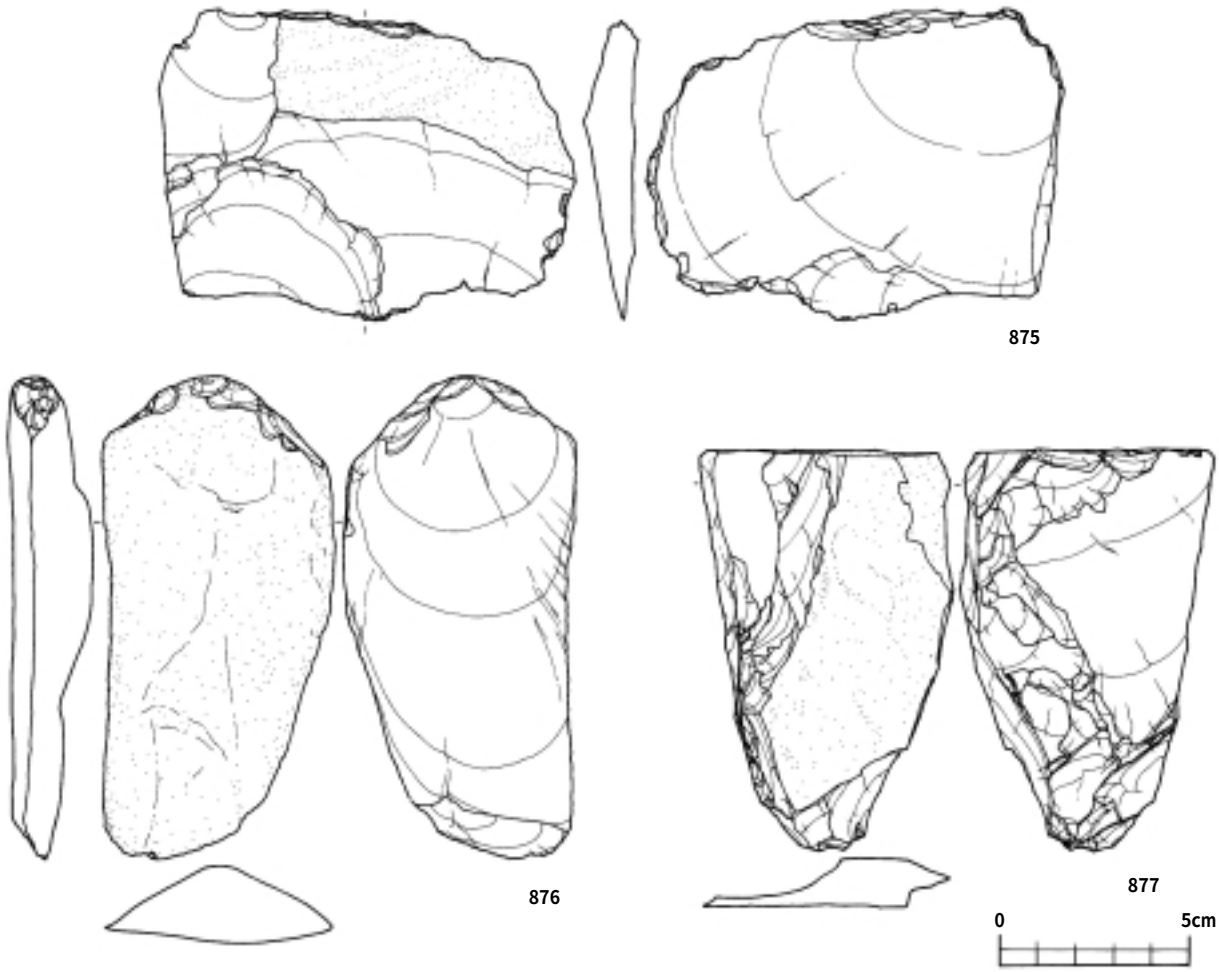

第153図　弥生～古墳石器（11）




第154図　弥生～古墳石器（12）




**第155図　弥生～古墳石器（13）**

平滑面が形成されている。851もやや粗質のホルンフェルスを素材とするものである。目立った整形剥離は行われていないが，下端部には使用によるとみられる微細な剥離痕が多く観察される。

852～858は削器として取り扱った。852はやや良質な薄いホルンフェルスの剥片を素材とする。両側縁～上部の周縁には簡単な整形剥離を施し，下端部は鈍いが使用によるとみられる微細剥離痕が観察される。853も薄いホルンフェルスの剥片を素材とし，同様に両側縁から上部の周縁に整形加工を施して製品としている。下端部には微細剥離痕が多く観察される。また左右の端部には浅い抉り状の加工がみられる。854は粗質のホルンフェルスを素材とし，三角形に剥離した素材の形状を利用して，両側縁に簡単な整形加工を施して製品としている。やはり下端部に微細剥離痕が観察される。852～854は積極的な整形剥離が観察されないため，削器として取り扱ったが，両側縁～上部の周縁に簡単な整形剥離を施し，下端部に使用によるとみられる剥離痕が形成される特徴から，石庖丁的な機能を想定しうる一群である。

855は削器である。自然面を残すやや粗質のホルンフェルスを素材とし，主に右側縁に整形剥離を施して製品としている。左側縁にはあまり整形剥離は施されていないが，微細剥離は多く観察される。856は薄い扁平な剥片を素材とする。上半分が欠損しているため，全体形は不明である。整形剥離が細かいことから削器として取り扱ったが，打製石斧の可能性もある。左側縁～下端部は，わずかながら摩滅している。857は削器である。剥落した削器ないし打製石斧の刃部とみられるが，

剥落後に二次加工を加え，再生している。858は大形のホルンフェルスの剥片を素材とする削器である。素材剥片の一部に部分的に刃部加工を施し，製品としている。

二次加工剥片等(第149図859～第152図868)

859は二次加工剥片として取り扱った。白く風化するホルンフェルスを素材とし，上端部と下端部にやや大柄の整形剥離を施した後，細かい剥離を加えて刃部を形成している。刃部は上下縁ともやや内湾する形状となっている。また，右側縁には微細剥離痕が観察される。

860～862は接合資料である。860と861は同一資料であり，860が接合状態を示す。大形のホルンフェルスを素材とし，自然面を打面として大形の剥片（14916）を剥離する。剥離された剥片にも簡単な整形剥離が加えられ，下端部には微細な剥離痕が観察される。削器として使用された可能性が高い。861は残核として残った大形の素材に二次加工を加え，礫器としている。862はやや節理が発達する良質のホルンフェルスを素材とする。周縁には粗い整形剥離が施されているが，刃部形成には至っていない。上部を右方向からスポール状に剥離している。石庖丁またはこれに類する削器の未製品と考えられる。

863～868は微細剥離痕剥片である。863は自然面を打面とする大形のホルンフェルスの縦長剥片を素材とする。右側縁の主要剥離面側に微細な剥離痕が観察され，削器的な機能を想定できる。864はホルンフェルスを素材とする不定形剥片である。両側縁の主要剥離面側に，わずかながら微細剥離痕が観察される。865もホルンフェルスを素材とするものである。右側縁に微細剥離痕が多く観察され，削器的な機能が想定される資料である。866は白く風化するホルンフェルスを素材とするもので，部分的に微細剥離痕が観察される。867も良質なホルンフェルスを素材とする。不定形剥片を利用しており，下端部を中心に微細剥離痕が観察される。868もホルンフェルスを素材とし，不定形剥片を利用している。部分的に微細剥離痕がみられる。

剥片等(第153図869～第155図877)

869～874は剥片等のうち，石庖丁ないしこれに類する削器類の未製品や素材と考えられる資料を抽出した。ホルンフェルスを素材とするものが多く，幅広で薄手の剥片を利用するものが多く，頭部ないし端部に折断的な加工を施す特徴がみられる。

869は自然面を残す素材に整形剥離を加えたものである。整形剥離は一方向のみで，刃部形成等がみられないことから，整形途中で放棄された未製品と判断した。870は剥片を素材とするものである。主に素材剥片の下端部から整形剥離を加えているが，やはり刃部形成等の意匠はみられない。871は素材剥片の頭部と端部に二次加工を加え，浅い抉りを意識した整形を行っている。製品の下端部には部分的ながら微細剥離痕も観察されるため，使用されている可能性もある。872も素材剥片の頭部と端部に二次加工を施している。製品の左側縁にみられる加工は折断的であり，製品の幅を意図した可能性が高い。873はやや大形ではあるが，加工方法には共通性がみられるため，関連資料として取り上げた。やはり素材剥片の頭部と端部に二次加工が集中している。左側縁に部分的な潰れが観察されるが，使用によるものかどうかは判然としない。874も大形であるが，同様に関連資料と判断した。節理が発達する粗質のホルンフェルスを素材とする。二次加工は素材剥片の頭部側に多く観察されるが，やや細かい。右側縁の上部に微細剥離痕が観察されるため，削器的に使用された可能性も考えられる。

875～877は剥片である。875は白く風化する頁岩であり，薄く扁平な素材である。素材の右側縁

には部分的に二次加工がみられるが，そのまま製品として使用されたかどうかは判然としない。石庖丁及びこれに類する削器等のなかに同様の石材を素材とするものはなく，縄文時代の石器である可能性もある。876はホルンフェルスを素材とする縦長剥片である。背面は自然面を残す。877は節理が発達するホルンフェルスである。自然面を多く残すが部分的に剥離痕がみられ簡単な整形剥離が施されているものとみられる。

(4) 礫石器類

Ⅱb，Ⅱc，Ⅱd層から砂岩製砥石と，軽石製品が出土している。

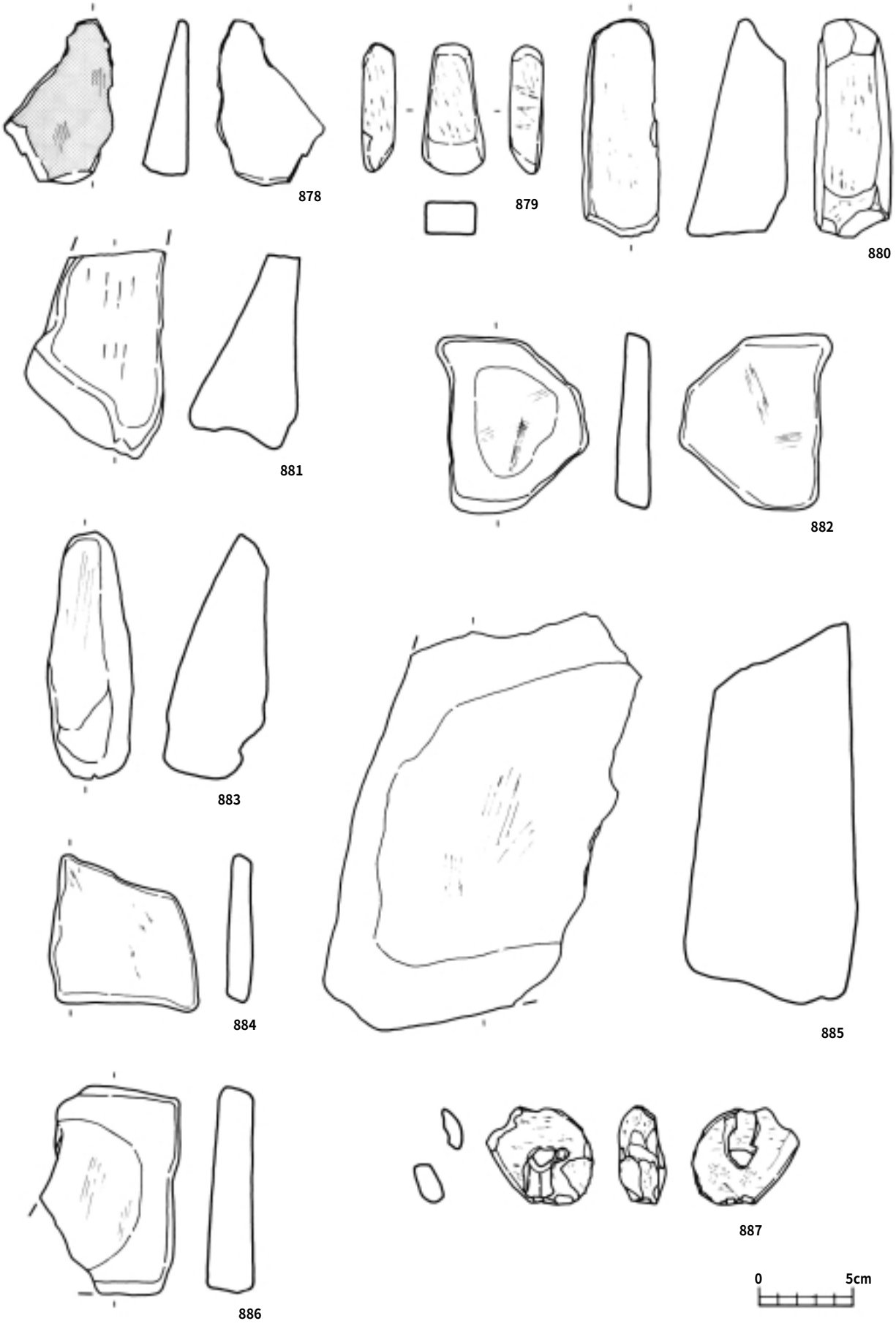
①砥石

いずれも河原石の円礫を用いており，形状は，扁平なものと分厚いものとがある。大きさは手に持てるほどの小さなものが多いが，大きなものも1点ある。置き砥石と，手持ち砥石とがあり，二面を使ったものと三面を使ったものがある。

878は二か所に欠損部があるが，長辺が9㎝ほどの小円礫を用いている。二面を使用しており，断面は台形様を呈している。879は長辺7㎝，短辺3㎝ほどの小さな円礫を使用し，裏面は自然面を残しているが，表面と二側面の三面を使用している。表面は屈曲部分にも使用痕のあることから，手持ち砥石として用いられるものと思われる。880は分厚い円礫の二側面を使用している。使い込みによりツルツルしている。881は一部が欠損している。分厚い石材の表裏二面を用い，使用により断面は台形状を呈している。882は扁平な石材を用いており，表裏二面を使っている。883は分厚い石材の一面を使用している。884は小さな扁平な石材を用いており，表裏二面を使い込んで，さらに厚さ1.5㎝程に薄くなっている。885は厚さが7～8㎝もある大きな礫を用いており，途中から欠損している。表面・裏面の二面を用いており，片面は平坦だが，一方は使い込んですり減っている。側面の角部の一か所には敲打痕もあり，台石としても兼用されている。886は一部を欠損しているが，扁平なもので，表裏面の二面を用いている。

(5) 軽石製品

17号住居跡で出土した有孔軽石製品である。直径が5.5㎝，厚さが2.5㎝ほどの気泡が多い軽石に両側から斜めに孔をうがっており，孔は広くなっている。




第156図　弥生～古墳石器（14）・石製品

(6) 鉄製品

888は無茎三角形鉄鏃である。基部には抉りを入れ，身の中央に穿孔を2か所施す。偏平で，基部の端を欠損しているが，残りは良好である。

889は小型の刀子である。刀身と茎の幅が同じで，目釘穴が2か所みられる。目釘穴は刀身に対して斜めに穿たれており，表裏両面に木質が残っている。

890はヤリガンナの先端である。作業部位に明瞭な裏すきが認められる。

891は工具の柄である。木の柄に溝を彫った後，方形の棒状鉄器をはめ込み，樹皮を巻いて工具の柄としている。棒状鉄器は幅5㎜，厚さ2㎜の細長い形態で，小型の鑿ではないかと思われる。

892は方形に成形された用途不明品である。

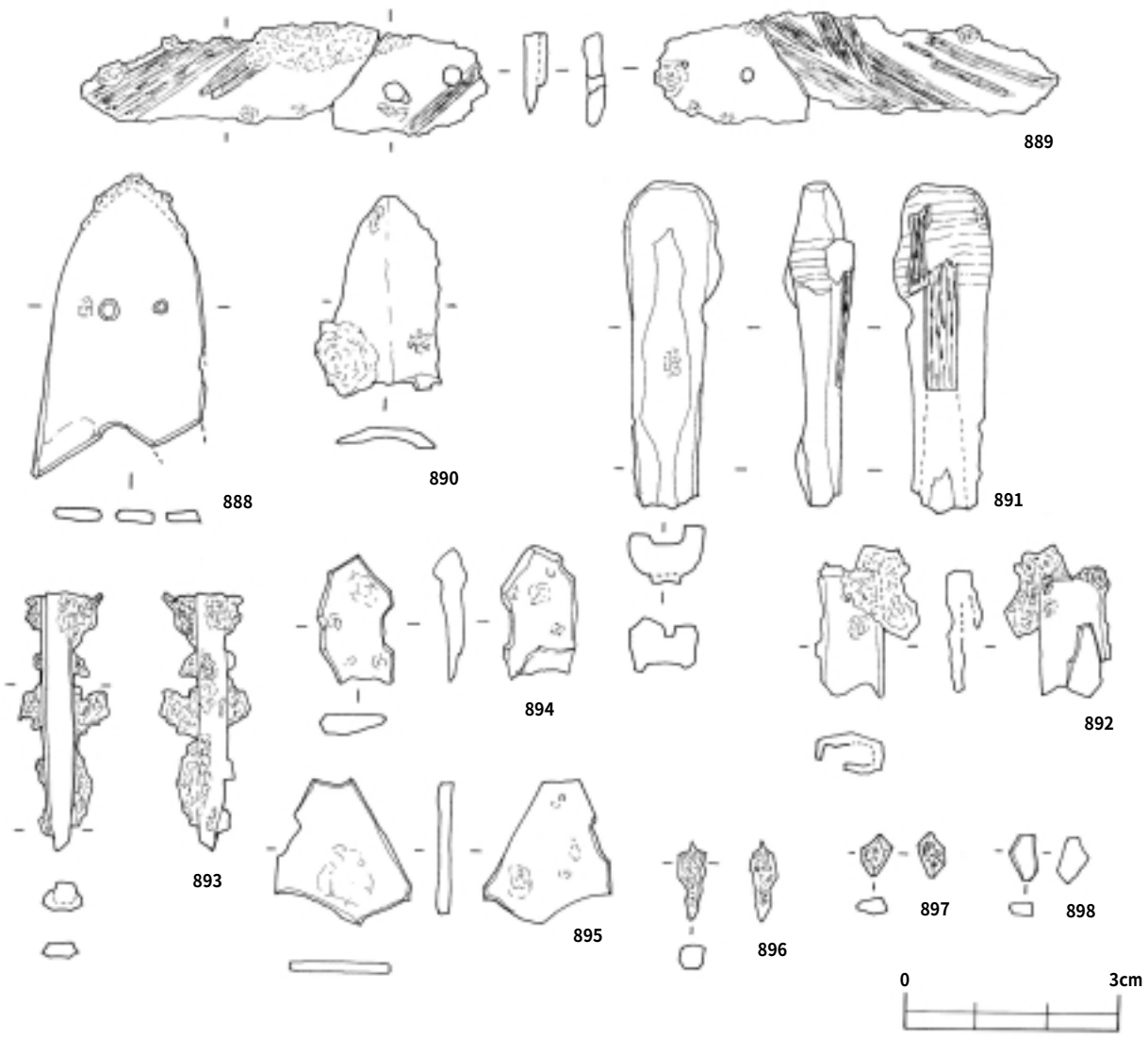
893は細身の棒状鉄器で，上半部は欠出していると思われる。断面方形で，先端は尖る。 894～898は鍛冶関連遺物と考えられる。894，895は三角形状鉄片で，側面は丸みを帯びている。896は棒状鉄片，897・898は微小鉄片である。

(7) ガラス製小玉・水晶製小玉

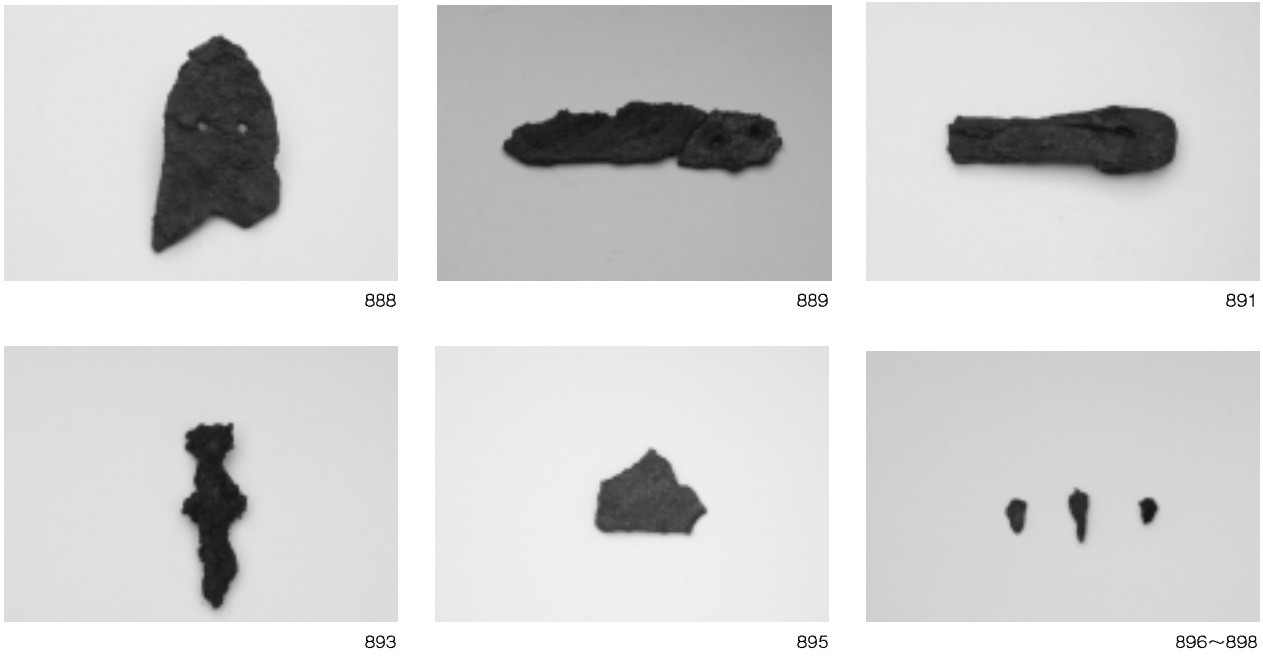
住居跡やⅡa層からガラス製あるいは水晶製の小玉が13点出土している。ガラス玉は直径が2㎜程度の小さいものから，6㎜程度の大きいものまで大小あり，色もコバルトブルーのような澄んだ青色のものや，藍色をしたものまで各種ある。16号住居跡と20号住居跡では2点出土しているが，その他の住居跡では1点ずつの出土である。

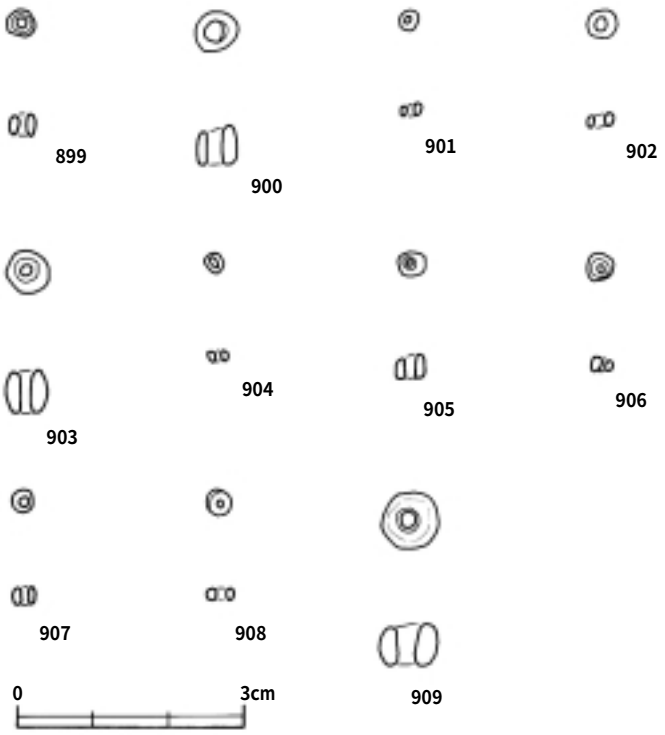
899は藍色をした中型のもので，4号住居跡で出土している。気泡が目立ち，丸みをおびている。900はやや緑がかった青色をした大型のもので，孔径も2㎜あり大きい。気泡が目立ち，分厚い。8号住居跡で出土している。901は澄んだ青色をした小型のもので，10号住居跡での出土である。902は藍色をした中型のもので，周辺は丸みをおびている。扁平なもので，13号住居跡での出土である。903は緑色がかった発色をした大型のもので，周辺は丸みをおび，気泡が目立つ。15号住居跡で出土している。904は澄んだ青色をした小型のもので，16号住居跡で出土している。905は澄んだ青色をした中型のもので分厚い。904と同じ16号住居跡で出土している。906は藍色をした小型のもので，20号住居跡で出土している。907も藍色をした中型のもので，分厚い。906と同じ20号住居跡の出土で，大きさ・色ともよく似ている。908は澄んだ青色をした小型のもので，丸みをおびている。Ｂ－10区Ⅱa層で出土している。

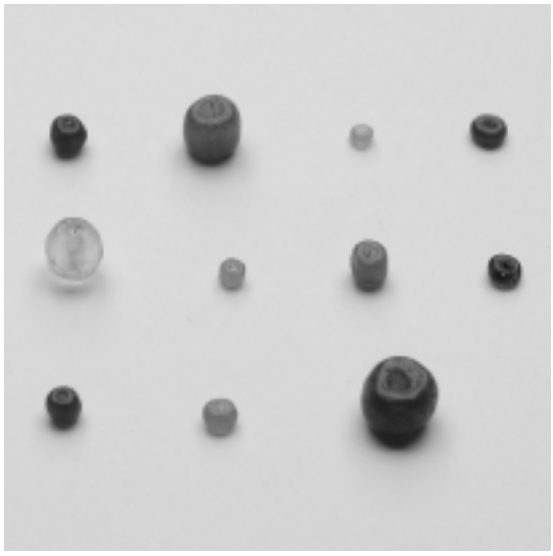
909は白色をした水晶製の大型のもので，中央が丸みをおびたソロバン玉に近い形状をしている。分厚い作りで，孔のうがたれる片方は直にすり切っており，一方はややくぼんでいる。5号住居跡で出土している。




**第157図　弥生～古墳鉄製品**





**第158図　弥生～古墳ガラス・水晶製品**

## 第５節　古代以降の遺構・遺物

古代以降の遺物が600点近く出土しており，その時期の遺構と思われる道跡や土坑なども発見されている。近世以降と思われる陶器・染付・瓦なども出土しており，その多くは近代以降のもののようであるが，中には堂平窯で焼かれたと思われる内面に当て具痕跡を残す薄手の甕破片もあることから近世初期のものが混入している可能性もある。伊万里焼などの染付が86点，苗代川焼・竜門司焼などの陶器が286点，瓦が３点ある。小破片が多く，推肥などに混入して二次的に運ばれたもののようである。

### １　遺構

古代以降のものと思われる遺構に道跡，土坑があるが，ほかに，上面が硬化し，その下にくぼみのある不定形硬化面と呼んだものがある。

１）道跡

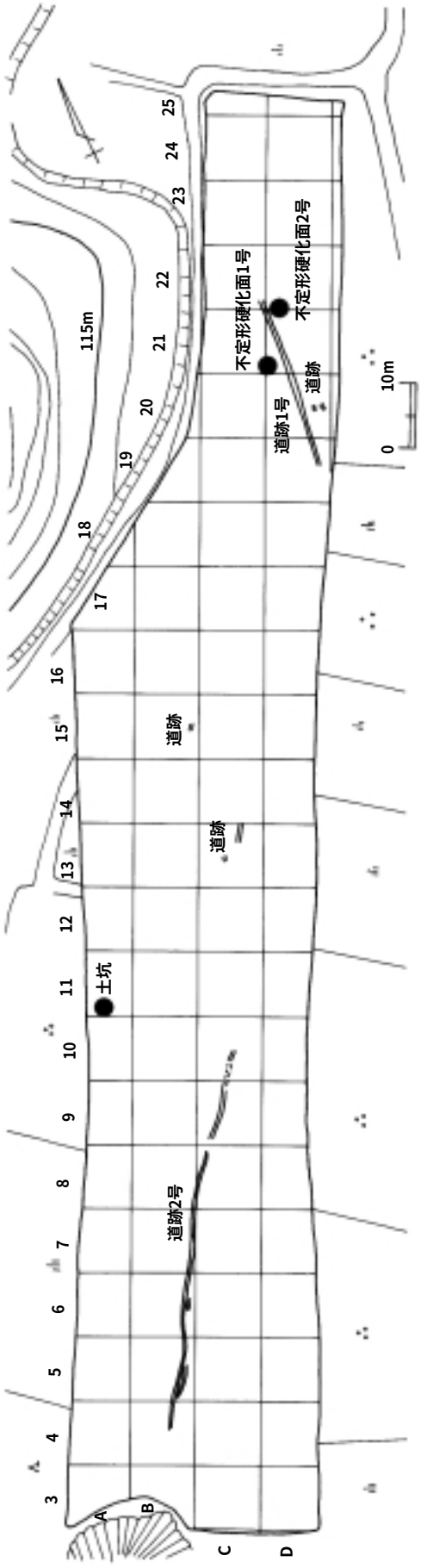
道跡と思われる硬化面が各地でみられているが，長く連なるものと，短い距離しか検出できないものとがあり，そのつながりもはっきりしない。３条以上の道跡を検出しているが，これらのなかには一連のものもあり，最終的にはもう少し少なくなるものと思われる。

①道跡１号（旧：溝状遺構１）

Ｄ19区からＤ20区，Ｃ・Ｄ21区，Ｃ22区へと続く幅40～90cm，深さ12cmほどの溝状となる道跡で，長さ約30mが検出されている。ほぼ一直線に続いており，主軸方向はＮ９度Ｅである。埋土は上から１・２・３の３層に分かれ，１層が黒褐色粘質土，２層が茶暗褐色粘質土，３層が暗黄褐色強粘質土となる。２層の上部と３層は硬化した土である。

②道跡２号（旧：古道跡１～５）

Ｂ４区からＢ－５～８区，Ｃ－８～10区へと続く幅が30cmほどの硬化面で，長さ約60ｍ




第159図　古代以降の遺構配置図

が検出されている。場所によって途切れたり，２～３条になったりしており，時期によって方向や場所を変えている可能性がある。この周辺から出土しているのはほとんどが成川式土器の小破片（66点）であるが，古代の土師器坏も４点あり，この道跡は古代以降のものと思われる。

910と911は坏の底部で，ヘラ切離しである。ともに底近くが外へ広がっている。明茶褐色あるいは淡茶褐色を呈し，焼成度は普通である。石英や茶色石などの微石が多いこまかい砂を使用している。

③その他の道跡（旧：古道跡６・７・Ａ・Ｂ）

Ｃ13区，Ｂ15区，Ｄ20区などで硬化面がみられ，状況からして道跡と思われる。Ｃ13区では幅30㎝，長さ2.7ｍ検出されており，向きや位置から道跡２号に続く同一のものである可能性がある。いずれも出土品がなく，時期は不明である。

２）土坑（旧：埋納ピット12）

Ａ11区のⅡｂ層で土師器坏の完形品が出土した。長径90㎝，短径60㎝，深さ90㎝の略だ円形をした土坑の直上にあるが，関連ははっきりしない。土師器坏の脇に古墳時代の甕形土器破片があった。

坏は口縁直径13.5㎝，高さ６㎝，底部直径５㎝の完形品で，薄い器壁であるが，底は厚い。外面・内面ともろくろびき調整で，雑な仕上げをしており，底はヘラ切り離しで仕上げている。明茶褐色を呈し，焼成度は普通である。石英・茶色石などの微石が多い細砂質土を用いている。

３）不定形硬化面

時期がはっきりせず，形状も不定のため，実測図は記載していない。自然にできたものの可能性もある。

①１号

Ｃ・Ｄ21区で東西３ｍ，南北２～３ｍの範囲に暗黒褐色をした硬化面がある。硬化部分は厚さ３～10㎜ほどである。下にはいくつかのピットがあるが，関連は不明である。

②２号

Ｄ21・22区で東西に3.6ｍ，南北に2.5ｍの範囲の硬化面があり，下のほうは10～25㎝ほどのくぼみが十か所近くみられる。

## ２　遺物

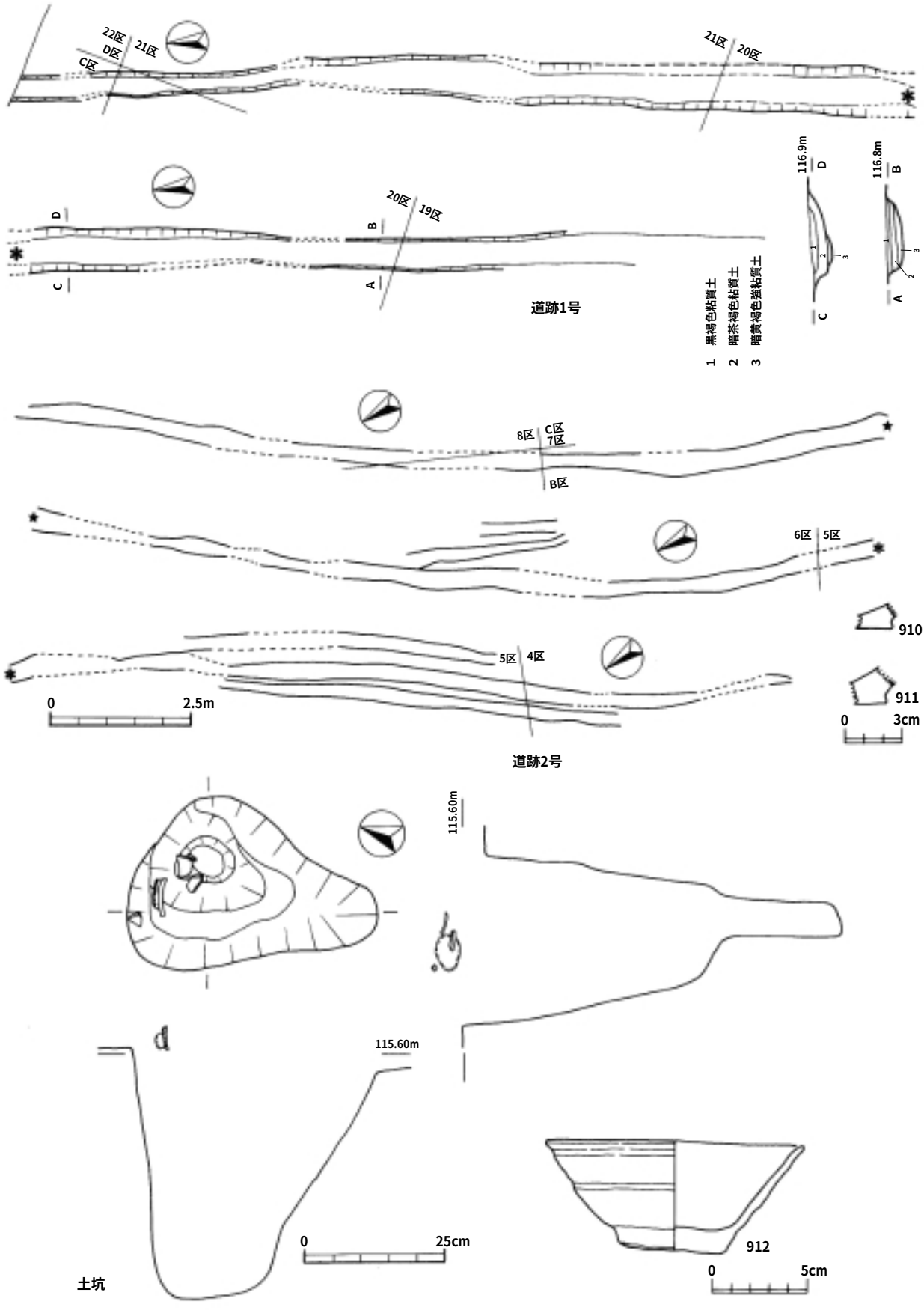
土師器・須恵器・青磁・白磁が出土している。

１）土師器（第161図913～930）

ほぼ全面に156点出土しており，ほとんど古代のものだが，糸切り底があり，さらに青磁・白磁などがあることから中世のものが含まれている可能性がある。器種には皿，坏と椀がある。

皿はゆるやかに外反するものと，強く外反するものとがある。913は口縁直径が11㎝あり，ゆるやかに外反している。914は口縁近くで強く外反している。さらに頸部の下では，擦ったようになり薄くなっているため，口縁部が玉縁状になっている。

坏の口縁部はまっすぐ伸びているが，916は傾きが強い。915は口縁直径が16.5㎝ある大型のもので，内面は横方向のヘラケズリが施されている。底は内外ともでこぼこが目立つヘラ切り離しの底部である。底近くでくびれをもって外へ広がるものと，段をもたずにすんなりと底へ至るものとがある。底の直径は5.5～７㎝である。918は内側中央が突出しているが，整然とした形状をしている。


22区
D区
21区
C区
21区
20区
D
B
C
A
20区
19区
116.9m
D
C
116.8m
B
A
1 黒褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 暗黄褐色強粘質土
道跡1号
8区
C区
7区
B区
6区
5区
5区
4区
910
911
0
2.5m
0
3cm
道跡2号
115.60m
d
115.60m
0
25cm
912
0
5cm
土坑

**第160図　古代の遺構**

921は分厚い底で，外底に植物繊維圧痕がみられる。焼成が良くなく磨滅が目立つ。石英・灰黒色石・長石などの微石を多く含む砂質土を用いており，乳茶褐色を呈している。

椀の口縁部は内外ともでこぼこが目立ち，端部は丸みをおびている。乳褐色を呈し，焼成度は良くないため，磨滅が目立つ。石英・黒色石・茶色石などの微石が多いこまかい土を用いている。

929・930は糸切り離し底の小型皿で，玉縁状の口縁を呈し，底から口縁へ向かってやや外反している。乳茶褐色を呈し，軟質の焼きで，精製土を用いている。これらは中世のものである。

2）須恵器（第161図　931～933）

壺の口縁部が1点と，甕の破片が3点出土している。口縁部は直径が14cmあり，頸部から外反し，強い段をもち外反する二重口縁状を呈する。内外とも褐釉がかかっており，焼成度は良好である。

甕の外面タタキは条痕だが，内面当て具痕は同心円のものと条痕のものとがある。932は外面が青灰色，内面が赤みがかった淡茶褐色を呈している。933は外面が灰褐色，内面が茶がかった灰褐色を呈している。2点とも外面には自然釉がかかり，933は緑っぽい。

3）青磁（第161図　934～941）

14～15世紀代の碗が13点と皿が1点ある。

碗の口縁部はまっすぐ伸びるものと，内弯するもの，底は小型のものと普通のものとがある。936は高台が欠けているが，内底部に花弁文の陽刻がある。外底部に輪状の露胎部があり，べっ甲色の釉もかかっている。ややあげ底となっている。937は高台がやや内側に傾くもので，底は露胎となり，内外とも釉の色が変わっている。胴部は深緑色，底は黄みがかった緑色を呈する。貫入が目立つ。938は丸みをもった高台であり，底部には輪状の露胎部がある。内底には貫入がみられる。939は内面に沈線による文様がある。小さい高台だが，高台貼付部の外には厚い釉がかかっている。940は逆台形のしっかりした高台があり，高台内面は鋭く切っている。畳付部から内側は露胎となっている。

皿は口縁直径が13cmほどの稜花皿で，貫入が目立つ。口縁部と底部の境は段をなしている。口縁端内面には横線がみられる。A・B 7・8区で出土している。

4）白磁（第161図　942～944）

端反り碗と無文碗・厚さの薄い坏とがある。943はやや内反ぎみにまっすぐ伸びる無文碗で，外面はやや窪む。厚さの薄い坏が2点出土している。高台は付着部内外に釉切れがあり，畳付部は露胎となっている。高台直径は7cmある。942はA10区，943はA・B 7・8区，944はC 6区で出土している。

5）染付（第161図　945）

断面が方形となる高台をもつ碗で，高台内面は露胎となる。内面には重ね焼きの痕跡がある。外面には2条の横線・多条の縦線がみられ，底部と高台境には釉切れがある。C 7区で出土している。

6）土師質土器（第161図　946）

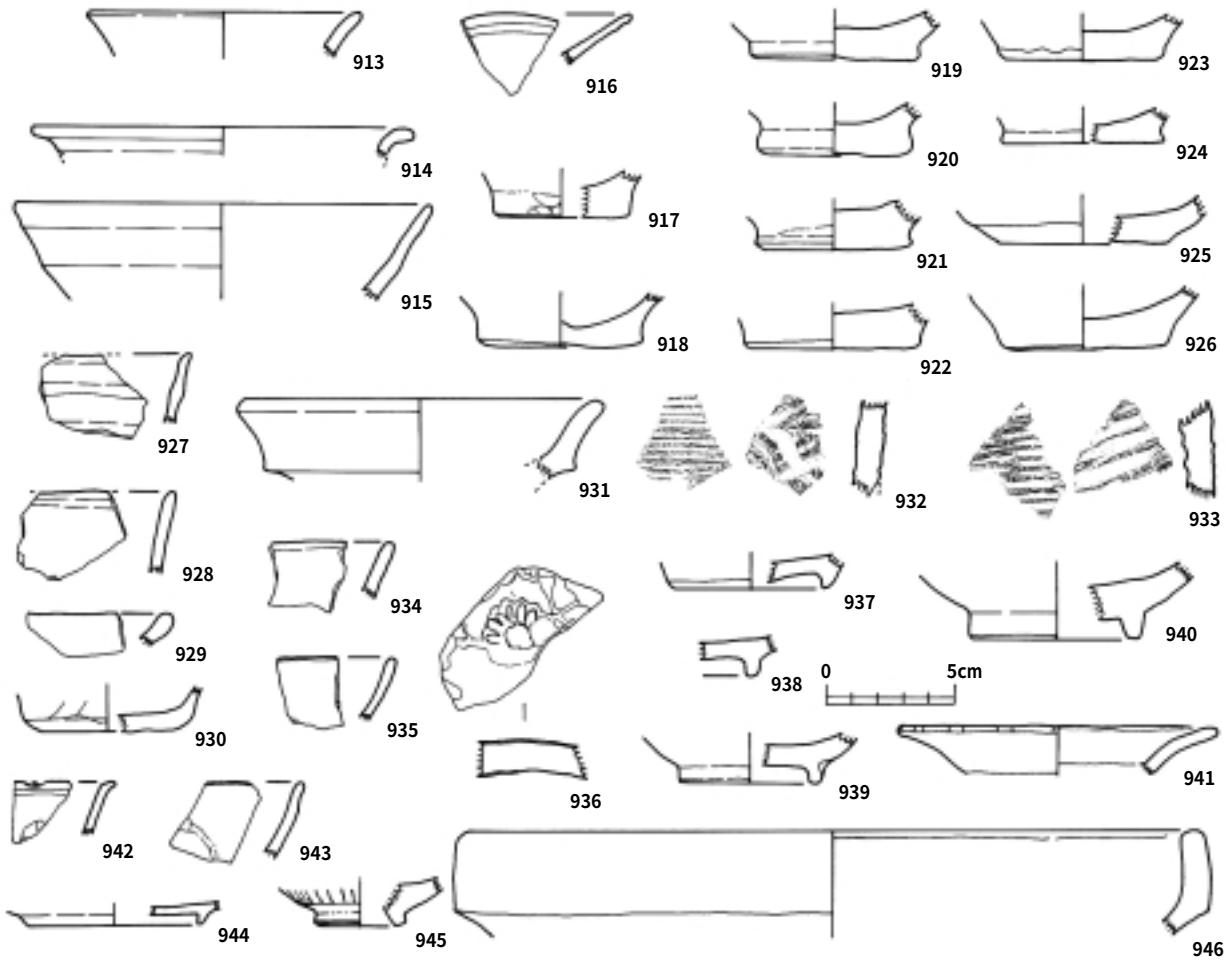
口縁の直径が29cmある鍋である。やや内傾する直立口縁部から稜をもって急角度で狭くなって底部へ移っている。内外とも横方向のナデ仕上げだが，外面の胴部は粗いナデである。淡茶褐色を呈しているが，内外ともススが付着し，暗くなっている。焼成度は良く，金雲母，白色石・茶色石などのこまかい石粒を含んでいる。B 7区で出土している。

３．小結

堂園遺跡のＡ地点では南北方向の道跡と，それに交叉するような東西方向の道跡が検出されている。これらは幅が１ｍほどあり，厚さも深い所で数㎝あるようなしっかりした道跡で，周辺から出土している土器からして古代頃のものとされている。

Ｂ地点で検出された道跡は向きからして，Ａ地点で検出された南北方向に続く道跡の延長部にあたる可能性が強い。この道跡は谷山方面から神殿を通り，平山へ抜ける古代の公道ともいえる大きな道で，その名残りをＡ地点では良く残しているが，Ｂ地点では削平が激しく一部分しか残していない。鳴野原台地では，堂園遺跡の両地点で検出された痕跡から推定すれば，Ａ地点の北東側で谷から台地へ上がり，山裾沿いに通ったあとＡ地点を横切り，Ｂ地点の南側で谷を降っているのだろう。現在では，この谷は急崖となっているが，当時はまだ浅い谷頭状の地形であった可能性がある。

出土している土器は，９～10世紀頃，12世紀後半～13世紀前半，14世紀～16世紀前半，17世紀と，多様な時期のものがあるが，その量はわずかづつであり，集落などの生活臭は探りにくい。ただその中で，９～10世紀頃の土師器は完形品も含め，一定の量がある。その中でも坏は一定量あり，その作りは一定している。つまり，底部が外へ張り出しており，底部整形はいずれも雑である。ただ坏のほかに皿・埦が存在するのに対し，甕の破片が皆無というのは，一般集落の出土状況とは異なっており，当遺跡の特殊なあり方を示している。今後，類例を探し，検討する必要がある。




**第161図　古代・中世の出土遺物**

## 第６節　分析・同定

堂園遺跡Ｂ地点の分析・同定については，平成17 年度から平成19 年度にかけて，放射性炭素年代測定，炭化種実同定，炭化材樹種同定は株式会社加速器分析研究が，黒曜石製石器の産地推定は有限会社遺物材料研究所が行った。本節は，各社の報告を基に，一部遺物の事実記載を加筆した。

### １ 鹿児島県鳴野原遺跡ほか出土植物遺体の同定調査　株式会社加速器分析研究所（平成19 年２月28 日/３月13 日）

(1) はじめに

鹿児島県に所在する堂園遺跡では、炭化した植物遺体が出土している。これについてその種類を同定したので、以下にその結果を示す。

(2) 調査方法

試料を実体顕微鏡下で観察し、その形態から種の同定を試みた。その際、石川茂雄（1994 年）、大井（1978 年）、北村・村田（1979 年）、中山・井之口・南谷（2000 年）を参照した。

(3) 結果

木本１種と草本１種が認められた。写真を示し、同定結果を表１,2 に記す。学名は北村・村田（1979 年）によった。

第２表　植物遺体同定表

| No. | 和　名 | 科　名 | 学　　名 | 種類 | 部位 | 写真No. |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 針葉樹 | — | — | 木本 | 雄球花 | 1 |
| 2 | 針葉樹 | — | — | 木本 | 雄球花 | 2 |
| 3 | タデ科 | タデ | Polygonaceae | 草本 | 果実 | 3 |
| 4 | タデ科 | タデ | Polygonaceae | 草本 | 果実 | 4 |

第３表　出土遺構と結果

| No. | 遺構No. | 地　区 | 出土層位 | 種類と部位 | 写真No. |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 12号竪穴住居跡南側ベルト | Ｂ－７ | 床上層 | 雄球花 | 1 |
| 2 | 12号竪穴住居跡中央炉 | Ｂ－７ | 床上層 | 雄球花 | 2 |
| 3 | 12号竪穴住居跡中央炉 | Ｂ－７ | — | タデ科の果実 | 3 |
| 4 | ５号竪穴住居跡中央炉 | Ｂ－６ | 床面直上 | タデ科の果実 | 1 |

[参考文献]
石川茂雄（1994 年）『原色日本植物種子写真図鑑』、石川茂雄図鑑刊行委員会
大井次三郎（1978 年）『改訂増補新版日本植物誌顕花編』、至文堂
北村四郎・村田源（1964 年）『原色日本植物図鑑草本編』上、中、下保育社
北村四郎・村田源（1979 年）『原色日本植物図鑑木本編』Ⅰ、Ⅱ、保育社
中山至大・井之口希秀・南谷忠志（2000 年）『日本植物種子図鑑』、東北大学出版会
牧野富太郎（1989 年）『改訂増補牧野新日本植物圖鑑』、北隆社

※）本測定は、当社協力会社・（株）吉田生物研究所にて実施した。

1.針葉樹の雄球花

2.針葉樹の雄球花

3.タデ科の果実

4.タデ科の種子

### ２ 堂園遺跡B 地点ほか出土炭化種実　株式会社加速器分析研究所（平成19 年８月３日）

(1) 分析結果

試料は肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察・同定を行った。以下に同定された分類群と部位を示す。

ア　試料番号1(取上No.9495,　5 号竪穴住居跡埋土 3)チャンチンモドキ(炭化内果皮)
イ　試料番号2(取上No.10600,　22 号竪穴住居跡埋土 4)不明(炭化種実)
ウ　試料番号3(取上No.5933,　7 号竪穴住居跡埋土 2)ブナ科(炭化子葉破片)
エ　試料番号4(取上No.9126,　21 号竪穴住居跡埋土 1)ブナ科(炭化子葉半分)
オ　試料番号5(取上No.2876,　5 号竪穴住居跡埋土 2)モモ(炭化核半分)

(2) 炭化種実の形態記載

ア　チャンチンモドキ(Choerospondias axillaris (Roxb) B.L.Burtt et A.W.Hill var.japonica (Ohwi) Ohwi)：内果皮は楕円形で骨質で堅く頂部同心円上に5 つの細い楕円形の穴がある。

イ　不明：果実または種子であるが、破片で形態や構造などに特徴がなく同定できない。

ウ　ブナ科(Fagaceae)：子葉は完形であれば楕円形で、中央から半分に割れやすい。子葉頂部に根があり、割れた子葉では根が離脱して微少な楕円形の穴があいていることが多い。試料番号3，4 ともにこの穴が確認できる。ブナ科のうちコナラ属とマテバシイ属がこの楕円形の子葉であり、子葉では両者の区別はつかない。

オ　モモ(Prunus persica (Linn.)Batsch)：核は楕円形で扁平、中央から2 つに分割される構造となっており、核壁は厚く堅い。核表面には流理状の深い溝が入り、穴がある。ウメの場合は深い溝はなく浅く細い溝と浅く小さな穴が散在する。

※）本測定は、当社協力会社・古代の森研究舎にて実施した。

### 3 鹿児島県鳴野原遺跡出土炭化材の樹種調査結果

**株式会社加速器分析研究所（平成19 年2 月28 日）**

(1) 試料

試料は鹿児島県堂園遺跡B 地点23 号竪穴住居跡床面直上から出土した柱材1 点である。

(2) 観察方法

炭化材の数mm 立方の試料をエポキシ樹脂に包埋し研磨して、木口(横断面)、柾目(放射断面)、板目(接線断面)面の薄片プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

(3) 結果

樹種同定結果（広葉樹1 種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

ブナ科クリ属クリ（Castanea crenata Sieb.et Zucc.）（遺物No.3）（写真No.3）

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管（～500μm）が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは2～3 個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

◆参考文献◆


島地　謙･伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）

島地　謙･伊東隆夫「図説木材組織」地球社（1982）

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所（1999）

北村四郎･村田　源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ･Ⅱ」保育社（1979）

深澤和三「樹体の解剖」海青社（1997）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所史料第27 冊　木器集成図録近畿古代篇」(1985)

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所史料第36 冊　木器集成図録近畿原始篇」(1993)


※）本測定は、当社協力会社・（株）吉田生物研究所にて実施した。

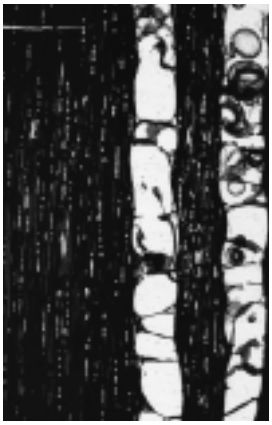
◆使用顕微鏡◆

Nikon

MICROFLEX UFX-DX Type 115

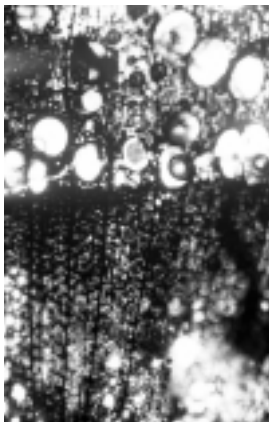
第4表　出土炭化材同定表

| No. | 品名 | 樹種 |
|---|---|---|
| 3 | 23号竪穴住居内出土炭化材 | ブナ科クリ属クリ |

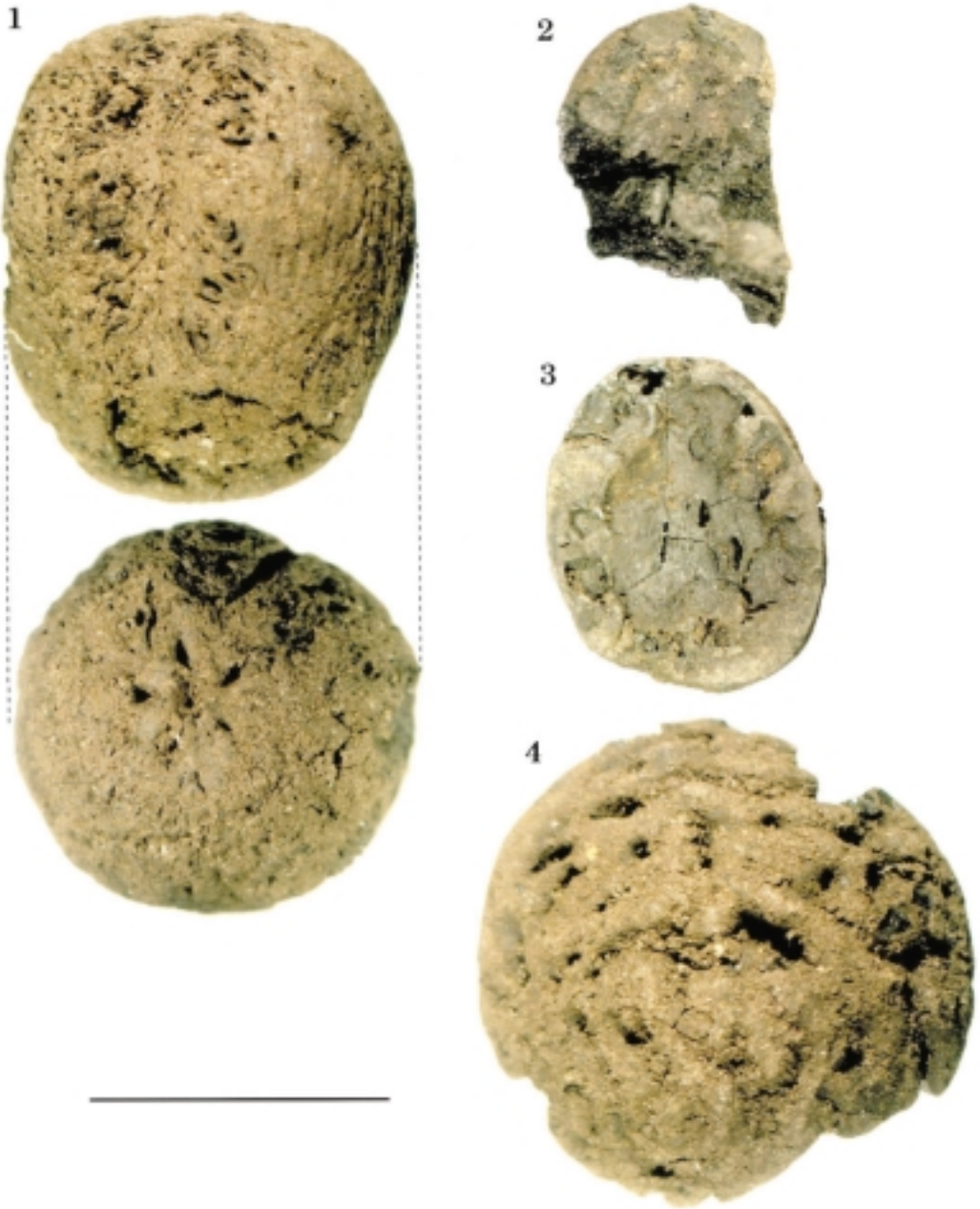


No.3 板目

No.3 柾目



No.3 木口




堂園遺跡B地点出土炭化種実
1. チャンチンモドキ 炭化内果皮(9495)，2. ブナ科 炭化子葉(5933)，3. ブナ科 炭化子葉(9126)，4. モモ 炭化核(2876)　　(スケールは10㎜)

## 4 放射性炭素年代測定結果報告書（AMS 測定）

株式会社加速器分析研究所（平成19 年2 月28 日/3 月13 日/8 月3 日）

(1) 遺跡の位置

堂園遺跡B地点は、鹿児島県川辺郡川辺町清水中堀316-1（北緯31 ° 25 ′ 03 ″、東経130 ° 24 ′ 50 ″）に位置する。

(2) 遺跡の立地

万之瀬川と神殿川の上流域に挟まれ、三方が谷に囲まれたシラス土壌の上の舌状台地に立地する。

(3) 測定の意義

遺跡内の複数の住居跡の前後関係および集落の継続期間を明らかにする。

(4) 測定対象試料

測定対象試料は、竪穴住居5 号の埋土3 出土のチャンチンモドキと同定された種実炭化物（No.2：取上番号9495：IAAA-70530）、竪穴住居7 号の埋土2 出土のブナ科と同定された種実炭化物（No.3：取上番号5933：IAAA-70531）、竪穴住居23 号（KSH-23）の床面直上から出土した柱材(IAAA-62158)、竪穴住居3 号（KSH-3）の床面直上から出土した柱材（IAAA-62159），竪穴住居7 号の床面直上から出土した炭化材1 点（No.1：IAAA-62475）の合計5 点である。検出面であるⅡc 層の上面から、開聞岳起源の火山噴出物（灰ゴラ、約2700 年前）が検出されている。

(5) 化学処理工程

ア　メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。

イ　AAA（Acid Alkali Acid）処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1N の塩酸（80 ℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001～1N の水酸化ナトリウム水溶液（80 ℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1N の塩酸（80 ℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90 ℃で乾燥する。

ウ　試料を酸化銅1g と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500 ℃で30 分、850 ℃で2 時間加熱する。

エ　液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO2）を精製する。

オ　精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（還元）し、グラファイトを作製する。

カ　グラファイトを内径1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

(6) 測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした14C-AMS 専用装置（NECPelletron 9SDH-2）を使用する。134 個の試料が装填できる。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により13C/12C の測定も同時に行う。

(7) 算出方法

ア　年代値の算出には、Libby の半減期5568 年を使用した。

イ　BP 年代値は、過去において大気中の炭素14 濃度が一定であったと仮定して測定された、1950 年を基準年として遡る放射性炭素年代である。

ウ　付記した誤差は、次のように算出した。

複数回の測定値について、$\chi^2$検定を行い測定値が1 つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い、みなせない場合には標準誤差を用いる。

エ　$\delta^{13}C$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定するが、AMS 測定の場合に同時に測定される$\delta^{13}C$ の値を用いることもある。

$\delta^{13}C$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表した。

$$\delta^{14}C=[(^{14}A_S-{}^{14}A_R)/{}^{14}A_R]\times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}C=[(^{13}A_S-{}^{13}A_{PDB})/{}^{13}A_{PDB}]\times 1000 \quad (2)$$

ここで、$^{14}A_S$：試料炭素の$^{14}C$ 濃度：$(^{14}C/^{12}C)_S$ または$(^{14}C/^{13}C)_S$

$^{14}A_R$：標準現代炭素の$^{14}C$ 濃度：$(^{14}C/^{12}C)_R$ または$(^{14}C/^{13}C)_R$

$\delta$13C は、質量分析計を用いて試料炭素の$^{13}C$ 濃度（$^{13}A_S=^{13}C/^{12}C$）を測定し、PDB（白亜紀のベレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、加速器により測定中に同時に$^{13}C/^{12}C$ を測定し、標準試料の測定値との比較から算出した$\delta^{13}C$ を用いることもある。この場合には表中に〔加速器〕と注記する。

また、$\Delta^{14}C$ は、試料炭素が$\delta^{13}C=-25.0$（‰）であるとしたときの$^{14}C$ 濃度（$^{14}A_N$）に換算した上で計算した値である。（1）式の$^{14}C$ 濃度を、$\delta^{13}C$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$^{14}A_N=^{14}A_S\times(0.975/(1+\delta^{13}C/1000))^2$($^{14}A_S$ として$^{14}C/^{12}C$ を使用するとき)

または

$=^{14}A_S\times(0.975/(1+\delta^{13}C/1000))$（$^{14}A_S$ として$^{14}C/^{13}C$ を使用するとき)

$\Delta^{14}C=[(^{14}A_N-{}^{14}A_R)/{}^{14}A_R]\times1000$ (‰)

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしない$\delta^{14}C$に相当するBP 年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

$^{14}C$ 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon)がよく使われており、$\Delta^{14}C$との関係は次のようになる。

$\Delta14C=(pMC/100-1)\times1000$ (‰)

$pMC=\Delta^{14}C/10+100$ (%)

国際的な取り決めにより、この$\Delta^{14}C$ あるいはpMC により、放射性炭素年代(Conventional Radiocarbon Age; yrBP)が次のように計算される。

$T=-8033\times\ln[(\Delta^{14}C/1000)+1]$

$=-8033\times\ln(pMC/100)$

オ　14C 年代値と誤差は，1 桁目を四捨五入して10 年単位で表示される。

カ　較正暦年代の計算では、IntCal04 データベース（Reimer et al 2004）を用い、OxCalv3.10 較正プログラム（Bronk Ransey1995 Bronk Ransey 2001 Bronk Ramsey,van der Plicht and Weninger2001）を使用した。

(8) 測定結果

竪穴住居23 号（KSH-23）の床面直上から出土した柱材(IAAA-62158)が1980 ±40yrBP 、竪穴住居3 号（KSH-3）の床面直上から出土した柱材（IAAA-62159）が1980 ±30yrBP の14C 年代である。暦年較正年代（1σ）は、それぞれ40BC～70AD の間に含まれ、ともに弥生時代後期前葉の年代である。2 基の住居の年代はほぼ等しく、層序との関係整合的であることから、妥当な年代と考えられる。

竪穴住居5 号の埋土3 出土の種実炭化物（No.2：取上番号9495：IAAA-70530）の14C 年代が1940 ±40yrBP 、竪穴住居7 号の埋土2 出土の種実炭化物（No.3：取上番号5933：IAAA-70531）の14C 年代が1920 ±30yrBP である。暦年較正年代（1σ=68.2%）は、No.2 が20～90AD（58.9%）・105～120AD（9.3%）、No.3 が50～125AD である。2 点の年代は誤差範囲で一致し、弥生時代後期に相当する。竪穴住居7 号から出土した炭化材1 点（No.1：IAAA-62475）が2090 ±30yrBP の14C 年代である。暦年較正年代（1σ=68.2%）は、170BC～50BC であり、弥生時代中期後半に相当する。化学処理および測定内容に問題は無く、妥当な年代と考えられる。

**参考文献**


Stuiver,M.and Polash,H.A.(1977)Discussion:Reporting of 14C data.Radiocarbon ,19:355-363

Bronk Ramsey C.(1995)Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy:the OxCal Program,Radiocarbon ,37(2)425-430

Bronk Ramsey C.(2001)Development of the Radiocarbon Program OxCal,Radiocarbon ,43(2A)355-363

Bronk Ramsey C.,J.van der Plicht and B.Weninger (2001)'Wiggle Matching'radiocarbon dates ,Radiocarbon ,43(2A)381-389


**第５表　放射性炭素年代測定結果**

| IAA Code No. | 試　　料 | BP年代および炭素の同位体比 | | |
|---|---|---|---|---|
| IAAA-62158 | 試料採取場所 | Libby Age (yrBP) | : 1,980 ± | 40 |
| | | $\delta^{13}C$ (‰)、(加速器) | = -23.61 ± | 0.80 |
| | 試料形態　：炭化材 | $\Delta^{14}C$ (‰) | = -218.3 ± | 3.4 |
| | 試料名(番号) 1 | pMC (%) | = 78.17 ± | 0.34 |
| | (参考)　$\delta^{13}C$ の補正無し | $\delta^{14}C$ (‰) | = -216.1 ± | 3.1 |
| | | pMC (%) | = 78.39 ± | 0.31 |
| #1543-1 | | Age (yrBP) | : 1,960 ± | 30 |
| IAAA-62159 | 試料採取場所 | Libby Age (yrBP) | : 1,980 ± | 30 |
| | | $\delta^{13}C$ (‰)、(加速器) | = -23.49 ± | 0.70 |
| | 試料形態　：柱材 | $\Delta^{14}C$ (‰) | = -218.1 ± | 3.3 |
| | 試料名(番号) 2 | pMC (%) | = 78.19 ± | 0.33 |
| | (参考)　$\delta^{13}C$ の補正無し | $\delta^{14}C$ (‰) | = -215.6 ± | 3.1 |
| | | pMC (%) | = 78.44 ± | 0.31 |
| #1543-2 | | Age (yrBP) | : 1,950 ± | 30 |
| IAAA-62475 | 試料採取場所 | Libby Age (yrBP) | : 2,090 ± | 30 |
| | | $\delta^{13}C$ (‰)、(加速器) | = -26.27 ± | 0.68 |
| | 試料形態　：炭化材 | $\Delta^{14}C$ (‰) | = -229.0 ± | 3.2 |
| | 試料名(番号) 1 | pMC (%) | = 77.10 ± | 0.32 |
| | (参考)　$\delta^{13}C$ の補正無し | $\delta^{14}C$ (‰) | = -231.0 ± | 3.0 |
| | | pMC (%) | = 76.90 ± | 0.30 |
| #1603 | | Age (yrBP) | : 2,110 ± | 30 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| IAAA-70530 | | Libby Age (yrBP) | : 1,940 ± | 40 |
| | | δ $^{13}$C (‰)、(加速器) | = -29.53 ± | 0.53 |
| | 試料形態　炭化物 | Δ $^{14}$C (‰) | = -214.6 ± | 3.4 |
| | 試料名(番号) 2(取上番号9495) | pMC (%) | = 78.54 ± | 0.34 |
| | | δ $^{14}$C (‰) | = -221.9 ± | 3.3 |
| | (参考)　δ $^{13}$C の補正無し | pMC (%) | = 77.81 ± | 0.33 |
| #1795-1 | | Age (yrBP) | : 2,020 ± | 30 |
| IAAA-70531 | | Libby Age (yrBP) | : 1,920 ± | 30 |
| | 試料形態　炭化物 | δ $^{13}$C (‰)、(加速器) | = -23.46 ± | 0.43 |
| | | Δ $^{14}$C (‰) | = -212.8 ± | 3.3 |
| | 試料名(番号) 3(取上番号5933) | pMC (%) | = 78.72 ± | 0.33 |
| | | δ $^{14}$C (‰) | = -210.3 ± | 3.2 |
| | (参考)　δ $^{13}$C の補正無し | pMC (%) | = 78.97 ± | 0.32 |
| #1795-2 | | Age (yrBP) | : 1,900 ± | 30 |

第６表　暦年較正用年代表

| IAA Code No. | 試料番号 | Libby Age (yrBP) |
|---|---|---|
| IAAA-62158 | 1 | 1978 ± 34 |
| IAAA-62159 | 2 | 1975 ± 33 |
| IAAA-62475 | 1 | 2089 ± 33 |
| IAAA-70530 | 2(取上番号 9495) | 1940 ± 35 |
| IAAA-70531 | 3(取上番号 5933) | 1922 ± 33 |

Reimer et al.(2004)IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration,0-26cal kyr BP.Radiocarbon 46,1029-1058
ここに記載するLibby Age（年代値）と誤差は下１桁を丸めない値です。

## ５ 堂園遺跡Ｂ 地点出土黒曜石製遺物の産地推定

有限会社　遺物材料研究所

(1) はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X 線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石製遺物の石材産地推定を行なっている[1,2,3]。最近の黒曜石の伝播距離に関する研究では、伝播距離は数千キロメートルは一般的で、６千キロメートルを推測する学者もでてきている。このような研究結果が出てきている現在、正確に産地を判定すると言うことは、原理原則に従って同定を行うことである。原理原則は、同じ元素組成の黒曜石が異なった産地では生成されないという理論がないために、少なくとも遺跡から半径数千キロメートルの内にある石器の原材産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。『遺物原材とある産地の原石が一致したという「必要条件」を満たしても、他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、他の産地には一致しないという「十分条件」を満たして、一致した産地の原石が使用されているとはじめて言い切れる。また、十分条件を求めることにより、一致しなかった産地との交流がなかったと結論でき、考古学に重要な資料が提供される。』

(2) 産地分析の方法

先ず原石採取であるが、本来、一つの産地から産出する全ての原石を採取し分析する必要があるが現実的には不可能である。そこで、産地から抽出した数十個の原石でも、その産地全ての原石を分析して比較した結果と同じ結果が推測出来、理論的にも証明されている方法として、マハラノビスの距離を求めてその結果を用いておこなうホテリングのＴ２ 乗検定法がある。ホテリングのＴ２ 乗検定法とクラスター判定法（同定ではなく分類）、元素散布図法（散布図範囲に入るか否かで判定）の各々の方法を比較すると以下の通りとなる。

クラスター判定法はクラスターを作る産地の組み合わせを変えることにより、クラスターが変動してしまう。例えば、Ａ 原石製の遺物とＡ 、Ｂ 、Ｃ 産地の原石でクラスターを作ったとき遺物はＡ 原石とクラスターを作るが、Ａ 原石を抜いて、Ｄ 、Ｅ 産地の原石を加えてクラスターを作ると、遺物がＥ 産地とクラスターを作ってしまう。もし、Ａ 産地が調査されていないと、遺物はＥ 原石製遺物と判定される可能性があり結果の信頼性に疑問が生じる。また、Ａ 原石製遺物と分かっていれば、Ｅ 原石とクラスターを作らないようにもできる。クラスター分析を正確に行うには遺物の原石産地を予め推測し、クラスターを組み立てる必要があるため、正しい結果を得るのは大変に困難なものとなる。

元素散布図法は肉眼で原石群元素散布図の中に分析した遺物の結果が入るか否かを図示した方法で、原石の含有元素の絶対定量値を求めてその違いを地球科学的に議論するには地質学では最も適した方法であるが、産地分析の見地からみると、クラスター法よりさらに後退した方法であり、何個の原石を分析すればその産地を正確に表現出来るのか不明で、例えば分析する原石の数が少ないときにはＡ 産地とＢ 産地が区別できていたのに、分析する原石数が増えるとＡ 産地、Ｂ 産地の区別ができなくなる可能性があり（クラスタ法でも同じ危険性がある）、判定結果に疑問が

残る。以上のことから産地分析の方法として理想的なものは、地質学の常識的な知識（高校生）さえあればよく、火山学、堆積学などの専門知識は必要なく、また、実際の分析においては非破壊で遺物の形態の違いによる相対定量値の影響を評価しながら同定を行うことが必要で、地球科学的なことは関係なく、如何に原理原則に従って正確な判定をおこなえるかが重要である。このようにクラスター判定法、元素散布図法の欠点を解決するために考え出され、理論的に証明された判定法がホテリングのＴ２ 乗検定法である。産地分析を正確におこなうには、ある産地の原石の元素組成と遺物の元素組成が一致すればそこの産地の原石と決定できるという理論がないために、多数の産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり、それらが一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する上で重要な意味をもつ結果である。しかし、石器の様式による分類ではなく自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とＡ 産地原石の元素組成が一致し、必要条件を満たしたとき、確かにＡ 産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなるが、偶然（産地分析法が不完全なために）に一致した可能性も大きく、もし他のＢ、Ｃ、Ｄ ・・・の産地の原石と比較していない場合それらの産地でないとの証拠がないために、Ａ 産地だと言い切れない。ここで、十分条件として、可能なかぎり地球上の全ての原産地（Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ ・・・・）の原石群と比較して、Ａ 産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がＡ 産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは観察する人たち個々の主観が入り、分類基準がまちまちとなるため混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によってそれぞれ異なるため、実際におこなってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかにより大きく左右され、比較した産地が少なければ信頼性の低い結果と言える。黒曜石、安山岩などの主成分組成は原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には違いがあると考えられるため、微量成分を中心に元素分析をおこないこれを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物の分析値を対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。また、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地が異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのＴ２ 乗検定を行う。この検定を分析した全ての産地についておこない、ある遺物原材と同じ元素組成の原石がＡ 産地では10 個中に一個みられ、Ｂ 産地では一万個中に一個、Ｃ 産地では百万個中に一個、Ｄ 産地では・・・・一個と各産地毎に求められるような、客観的な検定結果からＡ 産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。すなわち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

今回分析した遺物は鹿児島県川辺郡川辺町に位置する堂園遺跡Ｂ 地点出土の黒曜石製遺物30 個で、産地分析の結果が得られたので報告する。

(3) 黒曜石原石の分析

黒曜石原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行なう。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nb の12 元素で、塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zr の比の値を産地を区別する指標をしてそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図1 に示す。元素組成の違いによってこれら原石を分類して表1 に示す。この原石群に原石産地が不明の遺物で作った遺物群を加えると299 個の群になる。佐賀県の腰岳地域および大分県の姫島地域の観音崎、両瀬の両地区は黒曜石の有名な原産地であり、姫島地域ではガラス質安山岩もみられ、これについても分析をおこなった。隠岐島、壱岐島、青森県、和田峠の一部の黒曜石には、Sr の含有量が非常に少なく、この特徴により産地分析を行う際他の原産地と区別する有用な指標となっている。九州西北地域の原産地で採取された原石は、相互に元素組成が似た原石がみられる（表2)。九州西北地域で似た元素組成を示す黒曜石の原石群は、腰岳、古里第一、松浦第一の各群（腰岳系と仮称する）および淀姫、中町第二、古里第三、松浦第四の各群（淀姫系と仮称する）などである。淀姫産原石の中で中町第一群に一致する原石は12%で、一部は淀姫群に重なるが中町第一群に一致する遺物は中町系と分類した。また、古里第二群の原石と肉眼的および元素組成的に似た原石は嬉野町椎葉川露頭で多量に採取でき、この原石は姫島産乳灰色黒曜石と同色調をしているが、元素組成によって姫島産の黒曜石と容易に区別できる。もし似た元素組成の原石で遺物が作られたとき、この遺物は複数の原産地に帰属され原石産地を特定できない場合がある。たとえ遺物の原石産地がこれら腰岳系、淀姫系の原石群の中の一群および古里第二群のみに帰属されても、この遺物の原石産地は腰岳系、淀姫系および古里第二群の原石を産出する複数の地点を考えなければならない。角礫の黒曜石の原産地は腰岳および淀姫で、円礫は松浦（牟田、大石)、中町、古里（第二

群は角礫）の各産地で産出していることから、似た元素組成の原石産地の区別は遺物の自然面が円礫か角礫かを判断すれば原石産地の判定に有用な情報となる。旧石器の遺物の元素組成に一致する原石を産出する川棚町大崎産地から北方4km に位置するところに松岳産地があるが、現在露頭からは8mm 程度の小礫しか採取できない。また、佐賀県多久のサヌカイト原産地からは黒曜石の原石も採取され梅野群を作った。九州中部地域の塚瀬と小国の原産地は隣接し、黒曜石の生成マグマは同質と推測され両産地は区別できない。また、熊本県の南関、轟、冠ケ岳の各産地の原石はローム化した阿蘇の火砕流の層の中に含まれる最大でも親指大の黒曜石であり、非常に広範囲な地域から採取されるもので、福岡県八女市の昭和溜池からも同質の黒曜石が採取され昭和溜池群を作った。

従って南関等の産地に同定された遺物の原材産地を局所的に特定できない。桑の木津留原産地の原石は元素組成によって2 個の群に区別することができる。桑ノ木津留第１群は道路切り通し面の露頭から採取できるが、桑ノ木津留第2 群は転礫として採取でき、これら両者を肉眼的に区別はできない。また、間根ヶ平原産地では肉眼観察で淀姫黒曜石のような黒灰色不透明な黒曜石から桑ノ木津留に似た原石が採取され、これらについても原石群を作成し間根ヶ平産黒曜石を使用した遺物の産地分析を可能にした。遺物の産地分析によって桑ノ木津留第１群と第２群の使用頻度を遺跡毎に調査して比較することにより、遺跡相互で同じ比率であれば遺跡間の交易、交流が推測できるであろう。石炭様の黒曜石は大分県萩台地、熊本県滝室坂、箱石峠、長谷峠、五ヶ瀬川の各産地および大柿産、鹿児島県の樋脇町上牛鼻産および平木場産の各産地から採取されそれぞれ見た目は似ていて、肉眼観察ではそれぞれ区別が困難であるが、大半は元素組成で区別ができる。しかし、上牛鼻、平木場産の両原石については各元素比値が似ているため区別はできない。

これは両黒曜石を作ったマグマは同じで、このマグマが地殻の割れ目を通って上牛鼻および平木場地区に吹きだしたと考えられ、両者の原石の元素組成が似ていると推定できる。従って、産地分析で上牛鼻群または平木場群のどちらかに同定されても、遺物の原石産地は上牛鼻系として上牛鼻または平木場地区を考える必要がある。出水産原石の元素組成と同じ原石は日東、五女木の各原産地から産出していてこれらは相互に区別できず日東系とした。竜ヶ水産原石は桜島の対岸の竜ケ水地区の海岸および海岸の段丘面から採取される原石で元素組成で他の産地の黒曜石と容易に弁別できる。

(4) 結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器、石片は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗いするだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。黒曜石製石器で、水和層の影響を考慮するとすれば、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、水和層の影響を受けやすいと考えられる。Ca/K 、Ti/K の両軽元素比の値を除いて産地分析を行なった場合と除かずに産地分析を行った場合、いずれの場合にも同定される産地は同じである。他の元素比の値についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

今回分析した堂園遺跡Ｂ地点出土の黒曜石製遺物の分析結果を表3 に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRr/Zr の一変量だけを考える。表3 の試料番号99277 番の遺物ではRr/Zr の値は0.548 で、淀姫のRr/Zr の［平均値］±［標準偏差値］は、0.533 ±0.030 である。遺物と原石群の差を淀姫の標準偏差値（$\sigma$）を基準にして考えると遺物は原石群から0.5$\sigma$ 離れている。ところで淀姫の原産地から100 個の原石を採ってきて分析すると、平均値から±0.5$\sigma$ のずれより大きいものが62 個ある。すなわち、この遺物が、淀姫の原石から作られていたと仮定しても、0.5$\sigma$ 以上離れる確率は62％であると言える。だから、淀姫の平均値から0.5$\sigma$ しか離れていないときには、この遺物が淀姫の原石から作られたものでないとは到底言い切れない。ところがこの遺物を間根ヶ平第一群に比較すると、間根ヶ平第一群のRr/Zr の［平均値］±［標準偏差値］は、0.948 ±0.055 であるので間根ヶ平第一群の標準偏差値（$\sigma$）を基準にして考えると遺物は原石群から7.27$\sigma$ 離れている。これを確率の言葉で表現すると、間根ヶ平第一群の産地の原石を採ってきて分析したとき、平均値から7.27$\sigma$ 以上離れている確率は、三兆分の一であると言える。このように、三兆個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、間根ヶ平第一群産の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は淀姫に62％の確率で帰属され、信頼限界の0.1％を満たしていることから淀姫産原石が使用されていると同定され、さらに間根ヶ平第一群に三百億分の一％の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1％に満たないことから間根ヶ平第一群産原石でないと同定される」。遺物が一ヶ所の産地（淀姫産地）と一致したからと言って、例え淀姫と間根ヶ平第一群の原石は成分が異なっていても、分析している試料は原石でなく遺物であり、さらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから、他の産地に一致しないとは言えない。また、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は残る。すなわちある産地（淀姫）に一致し必要条件を満たしたと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表１の299 個すべての原石群・遺物群について行ない、十分条件である低い確率(0.1％未満)で帰属された原石群・遺物群の原石は使用していないとして消していくことにより、はじめて淀姫産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb／Zr といった唯１つの変量だけでなく、前述した8 個の変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えばＡ 原産地のＡ 群で、Ca 元素とSr 元素との間に相関があり、Ca の量を計ればSr の量は分析しなくても分かるようなときは、Ａ 群の石材で作られた遺物であれば、Ａ 群の原石群と比較したとき、

Ca 量が一致すれば当然Sr 量も一致するはずである。もしSr 量だけが少しずれている場合には、この試料はA 群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのＴ２ 乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する[4,5]。産地の同定結果は1 個の遺物に対して、黒曜石では299 個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる、すなわち、淀姫産原石と判定された遺物について、台湾の台東山脈産原石、北朝鮮の会寧遺跡で使用された原石および信州和田峠、霧ケ峰産の原石の可能性を考える必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみの結果を表4 に記入した。原石群を作った原石試料は直径3ｃｍ 以上であるが、小さな遺物試料は単位時間あたりの分析カウントは少なくなり、含有量の少ない元素では、得られた遺物の測定値には大きな誤差範囲が含まれ、原石群の元素組成のバラツキの範囲を超えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1％に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地（確率）の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離Ｄ２ 乗の値を記した。この遺物については、記入されたＤ２ 乗の値が原石群の中で最も小さなＤ２ 乗値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の元素組成と似ているといえるため、推定確率は低いが、そこの原石産地と考えてほゞ間違いないと判断されたものである。また、蛍光X 線分析では、分析試料の風化による表面状態の変化（粉末の場合粒度の違い）、不定形では試料の置き方で誤差範囲を越えて分析値に影響が残り、分析値は変動し判定結果は一定しない。特に元素組成の比の値の似た原産地同士では区別が困難で、遺物が複数の原石産地に同定されるとき、および、信頼限界の0.1％の判定境界に位置する場合は、分析場所を変えて3～12 回分析し最も多くの回数同定された産地を判定の欄に記している。また、判定結果には推定確率が求められているために、先史時代の交流を推測するときに、低確率（1％以下）の遺物はあまり重要に考えないなど、考古学者が推定確率をみて選択できるために、誤った先史時代交流を推測する可能性が低くなる。

今回、分析した堂園遺跡Ｂ 地点出土の黒曜石製遺物の中で、産地を判定する信頼限界の0.1％に達しない遺物がみられた。これら産地が特定できなかった理由は、(１)遺物が異常に風化し元素組成の変化が非常に激しい場合、(２)遺物の厚さが非常に薄いとき、特に遺物の平均厚さが1.5mm 以下の薄い試料では、Mn/Zr 、Fe/Zr の比値が大きく分析され、1mm 厚でFe/Zr 比は約15％程度大きく分析される。しかし、1mm 厚あればRb/Zr 、Sr/Zr 、Y/Zr については分析誤差範囲で産地分析結果への影響は小さく、Mn/Zr 、Fe/Zr の影響で推定確率は低くなるが原産地の同定は可能と思われる。(３)未発見の原石を使用している場合などが考えられる。分析番号99254 番と99269 番の遺物は1mm 以上の厚さがあり厚さの影響はない。また、軽元素比のCa/K 、Ti/K の値は、上牛鼻群と比較すると、風化を受けたように小さくなり（K が大きくなる）なり、しかし、見かけ上遺物表面には光沢があり風化していないようにみえるため、この両剥片にエアーブラシ処理で風化層を除き分析したところ、上牛鼻系と同定された。

また、分析番号99282 番の遺物は、厚さが薄く上記の(２)の場合と考えられ厚さが0.8mm のものを分析したときにおこなう厚さ補正をすると、古里・椎葉川群に一致した。

分析した黒曜石製遺物30 個の中で淀姫系産が43％(13個)、古里・中町・松浦産、上牛鼻系産が13％(４個)、竜ケ水産、腰岳産、堂園Ｂ 遺物群が7％(２個)、轟・冠ヶ岳・昭和溜池・南関産、中町系産、両瀬・観音崎産、古里産、古里・椎葉川産が3％(１個)と同定された。

この結果、使用頻度の高い原石産地と堂園遺跡Ｂ 地点の交易、交流が活発であったと推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

**参考文献**


１） 藁科哲男・東村武信(1975)，蛍光X 線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(II)。考古学と自然科学，8:61-69

２） 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌(1977),(1978)，蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(III)。(IV)。考古学と自然科学，10,11:53-81:33-47

３） 藁科哲男・東村武信(1983)，石器原材の産地分析。考古学と自然科学，16:59-89

４） 東村武信(1976)，産地推定における統計的手法。考古学と自然科学，9:77-90

５） 東村武信(1980)，考古学と物理化学。学生社

第7表－1　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

| 原産地原石群名 | | | 分析個数 | 元素比 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | Ca／K | Ti／K | Mn／Zr | Fe／Zr | Rb／Zr | Sr／Zr | Y／Zr | Nb／Zr | Al／K | Si／K |
| 北海道 | | 名寄第一群 | 114 | 0.478±0.011 | 0.121±0.005 | 0.035±0.007 | 2.011±0.063 | 0.614±0.032 | 0.574±0.022 | 0.120±0.017 | 0.024±0.016 | 0.033±0.002 | 0.451±0.010 |
| | | 名寄第二群 | 35 | 0.309±0.015 | 0.103±0.005 | 0.021±0.006 | 1.774±0.055 | 0.696±0.044 | 0.265±0.011 | 0.301±0.022 | 0.026±0.020 | 0.028±0.007 | 0.394±0.010 |
| | 白滝地区 | 赤石山 | 130 | 0.173±0.014 | 0.061±0.003 | 0.079±0.013 | 2.714±0.142 | 1.340±0.059 | 0.283±0.019 | 0.341±0.030 | 0.073±0.026 | 0.028±0.002 | 0.374±0.010 |
| | | 白土沢 | 27 | 0.138±0.004 | 0.021±0.002 | 0.102±0.015 | 3.049±0.181 | 1.855±0.088 | 0.097±0.016 | 0.492±0.039 | 0.107±0.019 | 0.027±0.002 | 0.368±0.006 |
| | | 八号沢 | 30 | 0.138±0.010 | 0.022±0.002 | 0.105±0.017 | 3.123±0.127 | 1.846±0.065 | 0.105±0.019 | 0.475±0.045 | 0.076±0.046 | 0.027±0.008 | 0.359±0.042 |
| | | 幌加沢 | 50 | 0.140±0.003 | 0.024±0.007 | 0.101±0.009 | 3.021±0.183 | 1.835±0.152 | 0.109±0.047 | 0.480±0.042 | 0.104±0.044 | 0.027±0.001 | 0.364±0.009 |
| | | あじさい滝 | 34 | 0.139±0.003 | 0.023±0.003 | 0.099±0.007 | 2.970±0.179 | 1.792±0.103 | 0.102±0.036 | 0.472±0.028 | 0.098±0.046 | 0.027±0.001 | 0.361±0.008 |
| | | 近文台第一群 | 30 | 0.819±0.013 | 0.165±0.006 | 0.081±0.010 | 3.266±0.117 | 0.604±0.031 | 0.941±0.030 | 0.165±0.020 | 0.039±0.016 | 0.039±0.002 | 0.457±0.008 |
| | | 近文台第二群 | 107 | 0.517±0.011 | 0.099±0.005 | 0.067±0.090 | 2.773±0.097 | 0.812±0.037 | 0.818±0.034 | 0.197±0.024 | 0.041±0.019 | 0.035±0.002 | 0.442±0.009 |
| | | 近文台第三群 | 47 | 0.529±0.014 | 0.096±0.008 | 0.068±0.018 | 2.746±0.262 | 0.838±0.100 | 0.796±0.081 | 0.220±0.043 | 0.035±0.021 | 0.036±0.004 | 0.413±0.014 |
| | | 台場第一群 | 50 | 1.076±0.052 | 0.142±0.005 | 0.072±0.011 | 2.912±0.117 | 0.291±0.020 | 0.678±0.035 | 0.126±0.022 | 0.022±0.012 | 0.049±0.005 | 0.517±0.014 |
| | | 台場第二群 | 42 | 0.670±0.030 | 0.126±0.006 | 0.074±0.017 | 3.046±0.163 | 0.759±0.044 | 0.849±0.045 | 0.204±0.032 | 0.035±0.018 | 0.038±0.004 | 0.414±0.019 |
| | | 秩父別第一群 | 51 | 0.249±0.017 | 0.122±0.006 | 0.078±0.011 | 1.614±0.068 | 0.995±0.037 | 0.458±0.023 | 0.235±0.024 | 0.023±0.021 | 0.022±0.004 | 0.334±0.013 |
| | | 秩父別第二群 | 48 | 0.519±0.016 | 0.097±0.005 | 0.065±0.016 | 2.705±0.125 | 0.814±0.034 | 0.789±0.043 | 0.204±0.025 | 0.032±0.016 | 0.037±0.003 | 0.417±0.016 |
| | | 滝川第一群 | 31 | 0.253±0.018 | 0.122±0.006 | 0.077±0.009 | 1.613±0.090 | 1.017±0.045 | 0.459±0.025 | 0.233±0.029 | 0.038±0.018 | 0.025±0.003 | 0.370±0.023 |
| | | 滝川第二群 | 40 | 0.522±0.016 | 0.101±0.010 | 0.068±0.019 | 2.751±0.140 | 0.809±0.055 | 0.783±0.044 | 0.201±0.030 | 0.040±0.019 | 0.036±0.003 | 0.419±0.014 |
| | | 生田原第1群 | 94 | 0.259±0.004 | 0.118±0.005 | 0.017±0.001 | 1.304±0.032 | 0.422±0.012 | 0.153±0.009 | 0.138±0.007 | 0.009±0.003 | 0.025±0.001 | 0.425±0.011 |
| | | 生田原第2群 | 50 | 0.275±0.011 | 0.128±0.008 | 0.018±0.001 | 1.349±0.037 | 0.413±0.013 | 0.167±0.010 | 0.137±0.006 | 0.008±0.003 | 0.025±0.001 | 0.429±0.009 |
| | | 社名渕群 | 41 | 0.340±0.018 | 0.105±0.009 | 0.054±0.003 | 2.140±0.106 | 0.676±0.022 | 0.407±0.040 | 0.223±0.007 | 0.152±0.041 | 0.025±0.001 | 0.429±0.009 |
| | | 社名渕-2群 | 46 | 0.284±0.004 | 0.077±0.003 | 0.025±0.001 | 1.679±0.030 | 0.721±0.019 | 0.234±0.013 | 0.313±0.009 | 0.031±0.006 | 0.028±0.001 | 0.382±0.005 |
| | | 置戸・所山 | 65 | 0.326±0.008 | 0.128±0.005 | 0.045±0.008 | 1.813±0.062 | 0.824±0.034 | 0.454±0.020 | 0.179±0.023 | 0.044±0.020 | 0.027±0.002 | 0.547±0.031 |
| | | 所山・流紋岩中 | 52 | 0.272±0.006 | 0.095±0.003 | 0.044±0.002 | 1.738±0.070 | 0.947±0.102 | 0.429±0.016 | 0.201±0.015 | 0.057±0.026 | 0.023±0.001 | 0.316±0.011 |
| | | 置戸・置戸山 | 58 | 0.464±0.016 | 0.138±0.005 | 0.049±0.008 | 1.726±0.072 | 0.449±0.024 | 0.407±0.023 | 0.133±0.019 | 0.026±0.014 | 0.032±0.003 | 0.456±0.010 |
| | | 北見・常呂川第2群 | 48 | 0.554±0.023 | 0.145±0.009 | 0.037±0.002 | 1.705±0.061 | 0.378±0.016 | 0.422±0.022 | 0.115±0.008 | 0.033±0.017 | 0.039±0.002 | 0.478±0.029 |
| | | 北見・常呂川第3群 | 48 | 0.390±0.011 | 0.137±0.006 | 0.030±0.006 | 1.510±0.059 | 0.372±0.018 | 0.238±0.014 | 0.179±0.019 | 0.029±0.015 | 0.033±0.004 | 0.414±0.011 |
| | | 北見・常呂川第4群 | 50 | 0.291±0.017 | 0.109±0.008 | 0.046±0.012 | 1.812±0.098 | 0.807±0.041 | 0.445±0.029 | 0.192±0.033 | 0.034±0.015 | 0.031±0.003 | 0.362±0.023 |
| | | 北見・常呂川第5群 | 51 | 0.470±0.034 | 0.116±0.015 | 0.044±0.004 | 1.932±0.161 | 0.503±0.045 | 0.459±0.080 | 0.153±0.012 | 0.043±0.020 | 0.034±0.002 | 0.418±0.031 |
| | | 北見・常呂川第6群 | 48 | 0.851±0.006 | 0.224±0.004 | 0.045±0.001 | 2.347±0.032 | 0.409±0.010 | 0.706±0.014 | 0.116±0.006 | 0.029±0.015 | 0.033±0.001 | 0.426±0.008 |
| | | 北見・常呂川第7群 | 48 | 0.510±0.017 | 0.098±0.004 | 0.053±0.001 | 2.667±0.038 | 0.529±0.013 | 0.688±0.016 | 0.154±0.006 | 0.014±0.007 | 0.028±0.001 | 0.351±0.013 |
| | | 北見・常呂川第8群 | 48 | 0.358±0.005 | 0.113±0.004 | 0.027±0.001 | 1.799±0.023 | 0.603±0.013 | 0.273±0.013 | 0.214±0.006 | 0.023±0.006 | 0.026±0.001 | 0.352±0.007 |
| | | ケショマップ第1群 | 68 | 0.575±0.056 | 0.110±0.011 | 0.051±0.011 | 2.555±0.086 | 0.595±0.058 | 0.636±0.027 | 0.167±0.027 | 0.037±0.020 | 0.030±0.003 | 0.397±0.013 |
| | | ケショマップ第2群 | 65 | 0.676±0.011 | 0.145±0.005 | 0.056±0.014 | 2.631±0.126 | 0.606±0.030 | 0.712±0.032 | 0.170±0.028 | 0.030±0.013 | 0.030±0.003 | 0.392±0.010 |
| | | ケショマップ第3群 | 62 | 0.701±0.028 | 0.154±0.009 | 0.052±0.003 | 2.447±0.097 | 0.550±0.026 | 0.694±0.023 | 0.159±0.011 | 0.035±0.018 | 0.031±0.001 | 0.396±0.014 |
| | 十勝 | 十勝三股 | 60 | 0.256±0.018 | 0.074±0.005 | 0.068±0.010 | 2.281±0.087 | 1.097±0.055 | 0.434±0.023 | 0.334±0.029 | 0.064±0.025 | 0.029±0.002 | 0.396±0.013 |
| | | 美蔓第一群 | 41 | 0.499±0.020 | 0.124±0.007 | 0.052±0.010 | 2.635±0.181 | 0.802±0.061 | 0.707±0.044 | 0.199±0.029 | 0.039±0.023 | 0.033±0.002 | 0.442±0.015 |
| | | 美蔓第二群 | 28 | 0.593±0.036 | 0.144±0.012 | 0.056±0.010 | 3.028±0.251 | 0.762±0.040 | 0.764±0.051 | 0.197±0.026 | 0.038±0.022 | 0.034±0.002 | 0.449±0.009 |
| | | 赤井川第一群 | 50 | 0.254±0.029 | 0.070±0.004 | 0.086±0.010 | 2.213±0.104 | 0.969±0.060 | 0.428±0.021 | 0.249±0.024 | 0.058±0.023 | 0.027±0.002 | 0.371±0.009 |
| | | 赤井川第二群 | 30 | 0.258±0.065 | 0.072±0.002 | 0.080±0.010 | 2.207±0.083 | 0.970±0.045 | 0.436±0.026 | 0.245±0.021 | 0.021±0.029 | 0.025±0.007 | 0.371±0.007 |
| | | 豊泉第一群 | 75 | 0.473±0.019 | 0.148±0.007 | 0.060±0.015 | 1.764±0.072 | 0.438±0.027 | 0.607±0.028 | 0.157±0.020 | 0.025±0.017 | 0.032±0.002 | 0.469±0.013 |
| | | 豊泉第二群 | 40 | 0.377±0.009 | 0.133±0.006 | 0.055±0.008 | 1.723±0.066 | 0.516±0.019 | 0.513±0.018 | 0.177±0.016 | 0.007±0.015 | 0.030±0.005 | 0.431±0.010 |
| | | 奥尻島・幌内川 | 58 | 0.285±0.026 | 0.087±0.005 | 0.193±0.032 | 1.834±0.182 | 2.043±0.224 | 1.475±0.207 | 0.269±0.068 | 0.085±0.031 | 0.031±0.004 | 0.347±0.011 |
| 青森県 | | 折腰内 | 35 | 0.190±0.015 | 0.075±0.003 | 0.040±0.008 | 1.575±0.066 | 1.241±0.046 | 0.318±0.014 | 0.141±0.033 | 0.076±0.021 | 0.024±0.002 | 0.348±0.010 |
| | | 出来島 | 27 | 0.346±0.022 | 0.132±0.007 | 0.231±0.019 | 2.268±0.085 | 0.865±0.044 | 1.106±0.056 | 0.399±0.038 | 0.179±0.031 | 0.038±0.003 | 0.499±0.013 |
| | 深浦 | 六角沢 | 36 | 0.080±0.008 | 0.097±0.011 | 0.013±0.002 | 0.697±0.021 | 0.128±0.008 | 0.002±0.002 | 0.064±0.007 | 0.035±0.004 | 0.026±0.002 | 0.379±0.010 |
| | | 八森山 | 41 | 0.077±0.005 | 0.098±0.003 | 0.013±0.002 | 0.701±0.018 | 0.134±0.005 | 0.002±0.002 | 0.070±0.005 | 0.034±0.006 | 0.027±0.005 | 0.384±0.009 |
| | 青森市 | 戸門第一群 | 28 | 0.250±0.024 | 0.069±0.003 | 0.068±0.012 | 2.358±0.257 | 1.168±0.062 | 0.521±0.063 | 0.277±0.065 | 0.076±0.025 | 0.026±0.002 | 0.362±0.015 |
| | | 戸門第二群 | 28 | 0.084±0.006 | 0.104±0.004 | 0.013±0.002 | 0.691±0.021 | 0.123±0.006 | 0.002±0.002 | 0.069±0.010 | 0.033±0.005 | 0.025±0.002 | 0.369±0.007 |
| | | 鶴ケ坂 | 33 | 0.344±0.017 | 0.132±0.007 | 0.232±0.023 | 2.261±0.143 | 0.861±0.052 | 1.081±0.060 | 0.390±0.039 | 0.186±0.037 | 0.037±0.002 | 0.496±0.018 |
| | | 鷹森山 | 45 | 0.250±0.009 | 0.066±0.003 | 0.074±0.009 | 2.547±0.131 | 1.153±0.066 | 0.551±0.031 | 0.284±0.031 | 0.049±0.037 | 0.028±0.005 | 0.381±0.010 |
| | | 西田沢 | 52 | 0.250±0.004 | 0.066±0.003 | 0.072±0.003 | 2.445±0.083 | 1.121±0.032 | 0.539±0.025 | 0.239±0.025 | 0.060±0.026 | 0.029±0.001 | 0.381±0.006 |
| | | 下湯川 | 36 | 9.673±0.479 | 2.703±0.149 | 3.267±0.217 | 21.648±1.500 | 0.090±0.021 | 1.708±0.102 | 0.155±0.015 | 0.169±0.031 | 0.053±0.042 | 0.858±0.088 |
| | | 大釈迦 | 64 | 0.252±0.012 | 0.066±0.003 | 0.074±0.012 | 2.516±0.148 | 1.149±0.063 | 0.548±0.035 | 0.284±0.032 | 0.044±0.035 | 0.028±0.002 | 0.383±0.010 |
| | | 黒石 | 41 | 8.905±0.243 | 2.484±0.055 | 0.161±0.018 | 7.570±0.336 | 0.068±0.014 | 1.621±0.063 | 0.244±0.022 | 0.027±0.014 | 0.124±0.014 | 1.409±0.044 |
| 秋田県 | 男鹿 | 金ケ崎 | 43 | 0.294±0.009 | 0.087±0.004 | 0.220±0.018 | 1.644±0.081 | 1.493±0.081 | 0.930±0.043 | 0.287±0.039 | 0.098±0.040 | 0.029±0.002 | 0.368±0.008 |
| | | 脇本 | 45 | 0.295±0.008 | 0.087±0.004 | 0.219±0.017 | 1.671±0.077 | 1.503±0.072 | 0.939±0.054 | 0.286±0.045 | 0.108±0.034 | 0.028±0.006 | 0.367±0.009 |
| 山形県 | | 月山 | 44 | 0.285±0.021 | 0.123±0.007 | 0.182±0.016 | 1.906±0.096 | 0.966±0.069 | 1.022±0.071 | 0.276±0.036 | 0.119±0.033 | 0.033±0.002 | 0.443±0.014 |
| | | 寒河江 | 48 | 0.385±0.008 | 0.116±0.005 | 0.049±0.017 | 1.806±0.054 | 0.580±0.025 | 0.441±0.023 | 0.212±0.020 | 0.056±0.015 | 0.033±0.003 | 0.460±0.010 |
| 岩手県 | | 雫石 | 25 | 0.636±0.033 | 0.187±0.012 | 0.052±0.007 | 1.764±0.061 | 0.305±0.016 | 0.431±0.021 | 0.209±0.016 | 0.045±0.014 | 0.041±0.003 | 0.594±0.014 |
| | | 折居第1群 | 37 | 0.632±0.033 | 0.185±0.013 | 0.052±0.002 | 1.766±0.048 | 0.307±0.017 | 0.420±0.026 | 0.205±0.015 | 0.039±0.016 | 0.040±0.001 | 0.579±0.019 |
| | | 折居第2群 | 54 | 0.708±0.033 | 0.143±0.008 | 0.061±0.002 | 1.826±0.048 | 0.179±0.010 | 0.246±0.022 | 0.416±0.012 | 0.112±0.014 | 0.057±0.001 | 0.805±0.012 |
| | | 花泉 | 29 | 0.602±0.044 | 0.175±0.015 | 0.053±0.003 | 1.781±0.068 | 0.313±0.020 | 0.416±0.027 | 0.214±0.013 | 0.036±0.016 | 0.040±0.002 | 0.576±0.037 |
| 宮城県 | | 湯倉 | 21 | 2.174±0.068 | 0.349±0.017 | 0.057±0.005 | 2.544±0.149 | 0.116±0.009 | 0.658±0.024 | 0.138±0.015 | 0.020±0.013 | 0.073±0.003 | 0.956±0.040 |
| | | 塩釜 | 37 | 4.828±0.395 | 1.630±0.104 | 0.178±0.017 | 11.362±1.150 | 0.168±0.018 | 1.298±0.063 | 0.155±0.016 | 0.037±0.018 | 0.077±0.002 | 0.720±0.032 |
| 栃木県 | | 高原山 | 40 | 0.738±0.067 | 0.200±0.010 | 0.044±0.007 | 2.016±0.110 | 0.381±0.025 | 0.502±0.028 | 0.190±0.017 | 0.023±0.014 | 0.036±0.002 | 0.516±0.012 |
| 東京都 | | 神津島第一群 | 56 | 0.381±0.014 | 0.136±0.005 | 0.102±0.011 | 1.729±0.079 | 0.471±0.027 | 0.689±0.037 | 0.247±0.021 | 0.090±0.026 | 0.036±0.003 | 0.504±0.012 |
| | | 神津島第二群 | 46 | 0.317±0.021 | 0.120±0.007 | 0.114±0.005 | 1.833±0.089 | 0.615±0.044 | 0.656±0.064 | 0.303±0.029 | 0.107±0.057 | 0.033±0.001 | 0.471±0.022 |
| | | 長根 | 40 | 0.318±0.020 | 0.120±0.005 | 0.118±0.014 | 1.805±0.096 | 0.614±0.036 | 0.664±0.045 | 0.291±0.029 | 0.093±0.039 | 0.034±0.006 | 0.476±0.012 |

第7表 ー2　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

| 原産地原石群名 | | | 分析個数 | 元素比 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | Ca／K | Ti／K | Mn／Zr | Fe／Zr | Rb／Zr | Sr／Zr | Y／Zr | Nb／Zr | Al／K | Si／K |
| 神奈川県 | | 箱根・笛塚 | 30 | 6.765±0.254 | 2.219±0.057 | 0.228±0.019 | 9.282±0.622 | 0.048±0.017 | 1.757±0.061 | 0.252±0.017 | 0.025±0.019 | 0.140±0.008 | 1.528±0.046 |
| | | 箱根・畑宿 | 41 | 2.056±0.064 | 0.669±0.019 | 0.076±0.007 | 2.912±0.104 | 0.062±0.007 | 0.680±0.029 | 0.202±0.011 | 0.011±0.010 | 0.080±0.005 | 1.126±0.031 |
| | | 鍛冶屋 | 31 | 1.663±0.071 | 0.381±0.019 | 0.056±0.007 | 2.139±0.097 | 0.073±0.008 | 0.629±0.025 | 0.154±0.009 | 0.011±0.009 | 0.067±0.005 | 0.904±0.020 |
| | | 熱海峠 | 52 | 2.225±0.149 | 0.506±0.015 | 0.042±0.009 | 2.228±0.164 | 0.085±0.008 | 0.737±0.039 | 0.135±0.013 | 0.007±0.007 | 0.071±0.006 | 0.880±0.033 |
| 静岡県 | | 上多賀 | 31 | 1.329±0.078 | 0.294±0.018 | 0.041±0.006 | 1.697±0.068 | 0.087±0.009 | 0.551±0.023 | 0.138±0.011 | 0.010±0.009 | 0.059±0.004 | 0.856±0.018 |
| | | 柏峠西 | 35 | 1.213±0.164 | 0.314±0.028 | 0.031±0.004 | 1.699±0.167 | 0.113±0.007 | 0.391±0.022 | 0.143±0.007 | 0.009±0.009 | 0.047±0.004 | 0.663±0.020 |
| | | 小豆峠 | 40 | 0.110±0.008 | 0.052±0.004 | 0.297±0.038 | 3.211±0.319 | 0.829±0.089 | 0.154±0.030 | 0.547±0.054 | 0.087±0.057 | 0.025±0.014 | 0.429±0.016 |
| 富山県 | | 魚津 | 42 | 0.278±0.012 | 0.065±0.003 | 0.064±0.013 | 2.013±0.119 | 0.878±0.052 | 0.599±0.039 | 0.190±0.029 | 0.077±0.033 | 0.031±0.004 | 0.353±0.012 |
| | 高岡市 | 二上山第一群 | 36 | 0.319±0.017 | 0.113±0.006 | 0.040±0.008 | 1.720±0.080 | 0.740±0.052 | 0.665±0.029 | 0.121±0.026 | 0.047±0.031 | 0.015±0.014 | 0.392±0.018 |
| | 高岡市 | 二上山第二群 | 40 | 0.710±0.017 | 0.202±0.008 | 0.054±0.011 | 1.994±0.152 | 0.413±0.028 | 0.840±0.050 | 0.118±0.025 | 0.051±0.031 | 0.020±0.020 | 0.599±0.024 |
| | 高岡市 | 二上山第三群 | 45 | 0.441±0.052 | 0.108±0.014 | 0.079±0.021 | 2.251±0.138 | 0.794±0.155 | 1.222±0.088 | 0.127±0.041 | 0.067±0.053 | 0.015±0.014 | 0.412±0.025 |
| 長野県 | | 霧ケ峰 | 168 | 0.156±0.010 | 0.068±0.003 | 0.101±0.018 | 1.331±0.070 | 1.052±0.051 | 0.360±0.030 | 0.275±0.039 | 0.090±0.035 | 0.029±0.003 | 0.346±0.011 |
| | | 観音沢 | 72 | 0.159±0.010 | 0.069±0.002 | 0.100±0.019 | 1.324±0.084 | 1.055±0.057 | 0.368±0.033 | 0.279±0.032 | 0.086±0.033 | 0.030±0.003 | 0.345±0.010 |
| | | 和田峠第一群 | 143 | 0.167±0.028 | 0.049±0.008 | 0.117±0.011 | 1.346±0.085 | 1.853±0.124 | 0.112±0.056 | 0.409±0.048 | 0.139±0.026 | 0.025±0.002 | 0.355±0.016 |
| | | 和田峠第二群 | 32 | 0.147±0.004 | 0.032±0.003 | 0.153±0.011 | 1.481±0.084 | 2.487±0.169 | 0.027±0.024 | 0.527±0.040 | 0.185±0.023 | 0.026±0.001 | 0.363±0.010 |
| | | 和田峠第三群 | 57 | 0.247±0.043 | 0.064±0.012 | 0.114±0.011 | 1.509±0.173 | 1.667±0.135 | 0.275±0.097 | 0.372±0.046 | 0.122±0.024 | 0.025±0.003 | 0.347±0.017 |
| | | 和田峠第四群 | 37 | 0.144±0.017 | 0.063±0.004 | 0.094±0.009 | 1.373±0.085 | 1.311±0.037 | 0.206±0.030 | 0.263±0.038 | 0.090±0.022 | 0.023±0.002 | 0.331±0.019 |
| | | 和田峠第五群 | 47 | 0.176±0.019 | 0.075±0.010 | 0.073±0.011 | 1.282±0.086 | 1.053±0.196 | 0.275±0.058 | 0.184±0.042 | 0.066±0.023 | 0.021±0.002 | 0.306±0.013 |
| | | 和田峠第六群 | 53 | 0.156±0.011 | 0.055±0.005 | 0.095±0.012 | 1.333±0.064 | 1.523±0.093 | 0.134±0.031 | 0.279±0.039 | 0.010±0.017 | 0.021±0.002 | 0.313±0.012 |
| | | 鷹山・和田 | 53 | 0.138±0.004 | 0.042±0.002 | 0.123±0.010 | 1.259±0.041 | 1.978±0.067 | 0.045±0.010 | 0.442±0.039 | 0.142±0.022 | 0.026±0.002 | 0.360±0.010 |
| | | 男女倉 | 101 | 0.223±0.024 | 0.103±0.009 | 0.058±0.008 | 1.164±0.078 | 0.693±0.101 | 0.409±0.046 | 0.126±0.022 | 0.052±0.017 | 0.026±0.002 | 0.354±0.008 |
| | | 高松沢 | 53 | 0.206±0.017 | 0.090±0.005 | 0.064±0.008 | 1.257±0.069 | 0.850±0.077 | 0.357±0.034 | 0.149±0.026 | 0.056±0.017 | 0.022±0.002 | 0.318±0.008 |
| | | うつぎ沢 | 81 | 0.222±0.014 | 0.099±0.006 | 0.058±0.008 | 1.189±0.060 | 0.748±0.075 | 0.392±0.031 | 0.140±0.022 | 0.046±0.021 | 0.025±0.005 | 0.340±0.009 |
| | | 立科 | 49 | 0.155±0.007 | 0.068±0.003 | 0.102±0.018 | 1.320±0.077 | 1.033±0.063 | 0.362±0.030 | 0.285±0.035 | 0.104±0.040 | 0.030±0.003 | 0.356±0.011 |
| | | 麦草峠 | 97 | 0.274±0.017 | 0.136±0.010 | 0.051±0.012 | 1.397±0.099 | 0.542±0.058 | 0.736±0.044 | 0.110±0.024 | 0.043±0.017 | 0.031±0.003 | 0.383±0.013 |
| | | 双子池 | 83 | 0.252±0.027 | 0.129±0.007 | 0.059±0.010 | 1.630±0.179 | 0.669±0.052 | 0.802±0.058 | 0.111±0.024 | 0.037±0.032 | 0.027±0.007 | 0.401±0.011 |
| | | 冷山 | 87 | 0.267±0.011 | 0.134±0.006 | 0.048±0.013 | 1.382±0.066 | 0.546±0.034 | 0.727±0.036 | 0.109±0.031 | 0.045±0.022 | 0.031±0.004 | 0.381±0.011 |
| | | 大窪沢 | 42 | 1.481±0.117 | 0.466±0.021 | 0.042±0.006 | 2.005±0.135 | 0.182±0.011 | 0.841±0.044 | 0.105±0.010 | 0.009±0.008 | 0.033±0.005 | 0.459±0.012 |
| | | 横川 | 41 | 3.047±0.066 | 1.071±0.026 | 0.115±0.015 | 7.380±0.366 | 0.158±0.016 | 0.833±0.040 | 0.186±0.015 | 0.023±0.012 | 0.045±0.005 | 0.513±0.021 |
| 新潟県 | | 佐渡第一群 | 34 | 0.228±0.013 | 0.078±0.006 | 0.020±0.005 | 1.492±0.079 | 0.821±0.047 | 0.288±0.018 | 0.142±0.018 | 0.049±0.017 | 0.024±0.004 | 0.338±0.013 |
| | | 佐渡第二群 | 12 | 0.263±0.032 | 0.097±0.018 | 0.020±0.006 | 1.501±0.053 | 0.717±0.106 | 0.326±0.029 | 0.091±0.022 | 0.046±0.015 | 0.026±0.002 | 0.338±0.009 |
| | | 上石川 | 45 | 0.321±0.007 | 0.070±0.003 | 0.069±0.011 | 2.051±0.070 | 0.981±0.042 | 0.773±0.034 | 0.182±0.023 | 0.038±0.027 | 0.026±0.007 | 0.359±0.009 |
| | | 板山 | 44 | 0.232±0.011 | 0.068±0.003 | 0.169±0.017 | 2.178±0.110 | 1.772±0.098 | 0.772±0.046 | 0.374±0.047 | 0.154±0.034 | 0.027±0.002 | 0.359±0.009 |
| | | 大白川 | 47 | 0.569±0.006 | 0.142±0.005 | 0.033±0.001 | 1.608±0.034 | 0.261±0.009 | 0.332±0.009 | 0.150±0.008 | 0.033±0.009 | 0.036±0.001 | 0.491±0.014 |
| | | 金津 | 46 | 0.331±0.011 | 0.097±0.037 | 0.030±0.007 | 1.711±0.066 | 0.618±0.027 | 0.283±0.012 | 0.181±0.016 | 0.035±0.018 | 0.027±0.009 | 0.402±0.012 |
| | | 羽根川 | 55 | 0.163±0.019 | 0.053±0.005 | 0.099±0.011 | 1.354±0.058 | 1.615±0.063 | 0.084±0.012 | 0.309±0.036 | 0.100±0.028 | 0.023±0.007 | 0.340±0.030 |
| 石川県 | | 比那 | 48 | 0.370±0.009 | 0.087±0.005 | 0.060±0.003 | 2.699±0.088 | 0.639±0.021 | 0.534±0.026 | 0.172±0.011 | 0.052±0.025 | 0.032±0.002 | 0.396±0.016 |
| 福井県 | | 安島 | 42 | 0.407±0.006 | 0.123±0.006 | 0.038±0.002 | 1.628±0.048 | 0.643±0.026 | 0.675±0.023 | 0.113±0.008 | 0.061±0.022 | 0.032±0.001 | 0.450±0.010 |
| | | 三里山 | 37 | 0.295±0.020 | 0.127±0.008 | 0.035±0.003 | 1.411±0.095 | 0.597±0.021 | 0.740±0.053 | 0.114±0.010 | 0.027±0.012 | 0.022±0.001 | 0.324±0.007 |
| 兵庫県 | | 香住第一群 | 30 | 0.216±0.005 | 0.062±0.002 | 0.045±0.007 | 1.828±0.056 | 0.883±0.034 | 0.265±0.012 | 0.097±0.021 | 0.139±0.018 | 0.024±0.007 | 0.365±0.008 |
| | | 香住第二群 | 40 | 0.278±0.012 | 0.100±0.004 | 0.048±0.009 | 1.764±0.066 | 0.813±0.045 | 0.397±0.020 | 0.112±0.026 | 0.138±0.024 | 0.026±0.012 | 0.446±0.012 |
| | | 雨滝(微粒集) | 48 | 0.123±0.004 | 0.056±0.002 | 0.083±0.012 | 1.967±0.061 | 1.171±0.040 | 0.157±0.013 | 0.183±0.044 | 0.221±0.021 | 0.026±0.025 | 0.316±0.006 |
| 島根県 | | 加茂 | 20 | 0.166±0.006 | 0.093±0.008 | 0.014±0.003 | 0.899±0.031 | 0.278±0.017 | 0.009±0.003 | 0.061±0.015 | 0.154±0.018 | 0.020±0.001 | 0.249±0.016 |
| | | 津井 | 30 | 0.161±0.008 | 0.132±0.182 | 0.015±0.003 | 0.940±0.041 | 0.301±0.014 | 0.015±0.005 | 0.060±0.013 | 0.144±0.008 | 0.020±0.002 | 0.244±0.008 |
| | | 久見 | 31 | 0.145±0.006 | 0.061±0.003 | 0.021±0.004 | 0.980±0.023 | 0.386±0.011 | 0.007±0.003 | 0.109±0.013 | 0.238±0.011 | 0.023±0.002 | 0.315±0.006 |
| 岡山県 | | 津 | 48 | 0.268±0.009 | 0.078±0.003 | 0.077±0.018 | 1.927±0.150 | 1.721±0.113 | 0.808±0.060 | 0.244±0.051 | 0.083±0.036 | 0.031±0.004 | 0.367±0.009 |
| 香川県 | | 奥池第一群 | 51 | 1.202±0.077 | 0.141±0.010 | 0.032±0.008 | 3.126±0.170 | 0.686±0.065 | 1.350±0.082 | 0.026±0.026 | 0.065±0.019 | 0.041±0.004 | 0.507±0.011 |
| | | 奥池第二群 | 50 | 1.585±0.126 | 0.194±0.018 | 0.035±0.007 | 2.860±0.160 | 0.423±0.058 | 1.044±0.077 | 0.024±0.019 | 0.042±0.013 | 0.045±0.004 | 0.507±0.013 |
| | | 雄山 | 50 | 1.224±0.081 | 0.144±0.011 | 0.035±0.012 | 3.138±0.163 | 0.669±0.078 | 1.335±0.091 | 0.023±0.027 | 0.061±0.020 | 0.041±0.003 | 0.500±0.012 |
| | | 神谷・南山 | 51 | 1.186±0.057 | 0.143±0.008 | 0.038±0.012 | 3.202±0.163 | 0.707±0.061 | 1.386±0.088 | 0.029±0.025 | 0.073±0.021 | 0.041±0.005 | 0.500±0.014 |
| | | 大麻山南第一群 | 39 | 1.467±0.120 | 0.203±0.023 | 0.042±0.009 | 3.125±0.179 | 0.494±0.080 | 1.010±0.073 | 0.038±0.023 | 0.047±0.013 | 0.041±0.003 | 0.487±0.016 |
| | | 大麻山南第二群 | 34 | 1.018±0.043 | 0.116±0.012 | 0.043±0.014 | 3.305±0.199 | 0.895±0.048 | 1.256±0.050 | 0.029±0.030 | 0.072±0.018 | 0.038±0.004 | 0.476±0.012 |
| 福岡県 | | 昭和溜池 | 68 | 0.261±0.010 | 0.211±0.007 | 0.033±0.003 | 0.798±0.027 | 0.326±0.013 | 0.283±0.015 | 0.071±0.009 | 0.034±0.008 | 0.024±0.006 | 0.279±0.009 |
| 佐賀県 | | 中野第一群 | 39 | 0.267±0.007 | 0.087±0.003 | 0.027±0.005 | 1.619±0.083 | 0.628±0.028 | 0.348±0.015 | 0.103±0.018 | 0.075±0.018 | 0.023±0.007 | 0.321±0.011 |
| | | 中野第二群 | 40 | 0.345±0.007 | 0.104±0.003 | 0.027±0.005 | 1.535±0.039 | 0.455±0.017 | 0.397±0.014 | 0.069±0.016 | 0.059±0.014 | 0.026±0.008 | 0.328±0.008 |
| | | 梅野 | 39 | 0.657±0.014 | 0.202±0.006 | 0.071±0.013 | 4.239±0.205 | 1.046±0.065 | 1.269±0.058 | 0.104±0.032 | 0.380±0.047 | 0.028±0.005 | 0.345±0.009 |
| | | 腰岳 | 44 | 0.211±0.009 | 0.031±0.005 | 0.075±0.019 | 2.572±0.212 | 1.600±0.086 | 0.414±0.042 | 0.311±0.046 | 0.256±0.043 | 0.025±0.002 | 0.335±0.008 |
| | | 椎葉川 | 59 | 0.414±0.009 | 0.071±0.003 | 0.101±0.017 | 2.947±0.142 | 1.253±0.081 | 2.015±0.099 | 0.147±0.035 | 0.255±0.040 | 0.030±0.007 | 0.388±0.009 |
| | | 松尾第一群 | 40 | 0.600±0.067 | 0.153±0.029 | 0.125±0.018 | 4.692±0.369 | 1.170±0.114 | 2.023±0.122 | 0.171±0.032 | 0.255±0.037 | 0.032±0.003 | 0.376±0.008 |
| | | 松尾第二群 | 40 | 0.953±0.027 | 0.307±0.010 | 0.126±0.013 | 6.666±0.342 | 0.856±0.070 | 1.907±0.119 | 0.147±0.029 | 0.194±0.028 | 0.033±0.008 | 0.383±0.010 |
| 大分県 | 姫島地域 | 観音崎 | 42 | 0.223±0.010 | 0.046±0.005 | 0.409±0.086 | 6.691±0.878 | 1.805±0.257 | 1.562±0.231 | 0.344±0.087 | 0.579±0.126 | 0.039±0.003 | 0.400±0.011 |
| | 姫島地域 | 両瀬第一群 | 51 | 0.226±0.011 | 0.045±0.003 | 0.411±0.066 | 6.743±0.900 | 1.845±0.286 | 1.553±0.230 | 0.318±0.087 | 0.560±0.144 | 0.038±0.004 | 0.401±0.012 |
| | 姫島地域 | ＊両瀬第二群 | 50 | 0.649±0.044 | 0.141±0.010 | 0.186±0.046 | 4.355±0.683 | 0.610±0.095 | 3.017±0.459 | 0.142±0.050 | 0.188±0.056 | 0.041±0.004 | 0.427±0.014 |
| | 姫島地域 | ＊両瀬第三群 | 46 | 1.038±0.131 | 0.211±0.024 | 0.110±0.027 | 3.367±0.617 | 0.311±0.058 | 3.756±0.668 | 0.105±0.030 | 0.094±0.037 | 0.042±0.007 | 0.442±0.021 |
| | 姫島地域 | ＊オイ崎 | 50 | 1.059±0.143 | 0.214±0.030 | 0.120±0.043 | 3.598±1.035 | 0.335±0.106 | 4.000±1.162 | 0.118±0.048 | 0.092±0.036 | 0.044±0.004 | 0.449±0.018 |
| | 姫島地域 | ＊稲積 | 45 | 0.680±0.061 | 0.145±0.013 | 0.168±0.037 | 4.397±0.776 | 0.612±0.095 | 3.080±0.476 | 0.147±0.046 | 0.194±0.060 | 0.041±0.005 | 0.431±0.015 |
| | | 塚瀬 | 30 | 0.313±0.023 | 0.127±0.009 | 0.065±0.010 | 1.489±0.124 | 0.600±0.051 | 0.686±0.082 | 0.175±0.018 | 0.102±0.020 | 0.028±0.002 | 0.371±0.009 |
| | | 荻台地 | 50 | 1.615±0.042 | 0.670±0.013 | 0.096±0.008 | 5.509±0.269 | 0.284±0.031 | 1.526±0.053 | 0.097±0.016 | 0.032±0.018 | 0.032±0.005 | 0.310±0.011 |
| | | 緒方下尾平 | 64 | 0.482±0.036 | 0.286±0.015 | 0.051±0.008 | 1.361±0.095 | 0.303±0.019 | 0.712±0.043 | 0.089±0.018 | 0.055±0.021 | 0.012±0.010 | 0.288±0.016 |

第7表－3　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

| 原産地原石群名 | | | 分析個数 | 元素比 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | Ca／K | Ti／K | Mn／Zr | Fe／Zr | Rb／Zr | Sr／Zr | Y／Zr | Nb／Zr | Al／K | Si／K |
| 長崎県 | 壱岐島 | 久喜ノ辻 | 37 | 0.172±0.009 | 0.066±0.002 | 0.030±0.005 | 1.176±0.043 | 0.385±0.012 | 0.011±0.004 | 0.135±0.018 | 0.354±0.014 | 0.023±0.002 | 0.276±0.007 |
| | | 君ケ浦 | 28 | 0.174±0.007 | 0.065±0.002 | 0.033±0.006 | 1.174±0.035 | 0.389±0.012 | 0.013±0.005 | 0.129±0.014 | 0.356±0.012 | 0.023±0.003 | 0.275±0.008 |
| | | 角川 | 28 | 0.146±0.009 | 0.038±0.002 | 0.059±0.009 | 1.691±0.100 | 1.726±0.085 | 0.035±0.008 | 0.344±0.040 | 0.717±0.047 | 0.023±0.002 | 0.338±0.010 |
| | | 貝畑 | 49 | 0.135±0.010 | 0.037±0.002 | 0.056±0.009 | 1.746±0.073 | 1.834±0.064 | 0.022±0.013 | 0.334±0.046 | 0.714±0.040 | 0.021±0.009 | 0.339±0.015 |
| | | 松浦第一群 | 42 | 0.213±0.005 | 0.031±0.004 | 0.073±0.006 | 2.545±0.134 | 1.579±0.079 | 0.420±0.034 | 0.292±0.019 | 0.258±0.037 | 0.027±0.003 | 0.341±0.011 |
| | | 松浦第二群 | 42 | 0.190±0.012 | 0.032±0.006 | 0.068±0.011 | 2.371±0.323 | 1.582±0.199 | 0.315±0.069 | 0.276±0.055 | 0.210±0.056 | 0.026±0.003 | 0.336±0.010 |
| | | 松浦第三群 | 42 | 0.244±0.016 | 0.063±0.010 | 0.046±0.007 | 1.880±0.200 | 0.836±0.121 | 0.368±0.098 | 0.145±0.019 | 0.127±0.030 | 0.026±0.003 | 0.329±0.020 |
| | | 松浦第四群 | 41 | 0.288±0.014 | 0.070±0.006 | 0.042±0.003 | 1.833±0.086 | 0.717±0.179 | 0.451±0.040 | 0.111±0.010 | 0.123±0.022 | 0.027±0.003 | 0.341±0.012 |
| | | 淀姫 | 44 | 0.334±0.014 | 0.080±0.004 | 0.044±0.009 | 1.744±0.069 | 0.533±0.030 | 0.485±0.039 | 0.094±0.022 | 0.119±0.017 | 0.027±0.002 | 0.353±0.011 |
| | | 中町第一群 | 42 | 0.244±0.011 | 0.060±0.010 | 0.057±0.004 | 1.866±0.089 | 0.810±0.087 | 0.398±0.039 | 0.135±0.017 | 0.146±0.026 | 0.025±0.001 | 0.342±0.007 |
| | | 中町第二群 | 42 | 0.319±0.042 | 0.079±0.023 | 0.046±0.003 | 1.793±0.089 | 0.666±0.091 | 0.482±0.044 | 0.118±0.018 | 0.101±0.024 | 0.025±0.001 | 0.333±0.015 |
| | | 古里第一群 | 50 | 0.202±0.012 | 0.029±0.004 | 0.076±0.018 | 2.628±0.214 | 1.695±0.146 | 0.403±0.060 | 0.319±0.073 | 0.233±0.074 | 0.030±0.003 | 0.342±0.011 |
| | | 古里第二群 | 40 | 0.423±0.016 | 0.075±0.007 | 0.089±0.017 | 2.797±0.274 | 1.148±0.133 | 1.814±0.192 | 0.103±0.060 | 0.208±0.053 | 0.034±0.003 | 0.367±0.009 |
| | | 古里第三群 | 41 | 0.265±0.032 | 0.064±0.009 | 0.046±0.010 | 1.931±0.143 | 0.799±0.110 | 0.433±0.049 | 0.122±0.041 | 0.119±0.044 | 0.031±0.003 | 0.347±0.010 |
| | | 松岳 | 43 | 0.194±0.009 | 0.054±0.005 | 0.040±0.008 | 1.686±0.114 | 0.833±0.058 | 0.251±0.025 | 0.192±0.032 | 0.124±0.039 | 0.018±0.011 | 0.331±0.017 |
| | | 大崎 | 74 | 0.176±0.012 | 0.053±0.002 | 0.041±0.012 | 1.710±0.081 | 0.912±0.036 | 0.181±0.022 | 0.202±0.029 | 0.133±0.024 | 0.023±0.002 | 0.319±0.010 |
| 熊本県 | | 小国 | 30 | 0.317±0.023 | 0.127±0.005 | 0.063±0.007 | 1.441±0.070 | 0.611±0.032 | 0.703±0.044 | 0.175±0.233 | 0.097±0.017 | 0.023±0.002 | 0.320±0.007 |
| | | 南関 | 30 | 0.261±0.016 | 0.214±0.007 | 0.034±0.003 | 0.788±0.033 | 0.326±0.012 | 0.278±0.015 | 0.069±0.012 | 0.031±0.009 | 0.021±0.002 | 0.243±0.008 |
| | | 轟 | 44 | 0.258±0.009 | 0.214±0.006 | 0.033±0.005 | 0.794±0.078 | 0.329±0.017 | 0.275±0.010 | 0.066±0.011 | 0.033±0.009 | 0.020±0.003 | 0.243±0.008 |
| | | 大柿 | 53 | 1.534±0.139 | 0.665±0.035 | 0.075±0.008 | 4.494±0.460 | 0.247±0.014 | 1.236±0.092 | 0.090±0.018 | 0.041±0.012 | 0.030±0.003 | 0.292±0.010 |
| | | 冠ケ岳 | 21 | 0.261±0.012 | 0.211±0.008 | 0.032±0.003 | 0.780±0.038 | 0.324±0.011 | 0.279±0.017 | 0.064±0.011 | 0.037±0.006 | 0.025±0.002 | 0.277±0.009 |
| | | 滝室坂 | 57 | 1.599±0.107 | 0.722±0.046 | 0.085±0.011 | 6.205±0.305 | 0.256±0.018 | 1.154±0.055 | 0.103±0.014 | 0.047±0.013 | 0.027±0.004 | 0.247±0.016 |
| | | 箱石峠 | 84 | 0.791±0.082 | 0.279±0.009 | 0.045±0.005 | 1.208±0.023 | 0.279±0.018 | 0.811±0.046 | 0.046±0.012 | 0.029±0.014 | 0.031±0.009 | 0.366±0.033 |
| | | 長谷峠 | 53 | 1.668±0.165 | 0.694±0.036 | 0.080±0.010 | 4.977±0.587 | 0.253±0.015 | 1.335±0.104 | 0.098±0.016 | 0.040±0.008 | 0.031±0.003 | 0.295±0.012 |
| | | 五ヶ瀬川 | 48 | 1.471±0.136 | 0.602±0.041 | 0.078±0.011 | 4.838±0.634 | 0.252±0.016 | 1.288±0.124 | 0.101±0.014 | 0.043±0.013 | 0.027±0.003 | 0.265±0.020 |
| | | 御船 | 49 | 1.558±0.146 | 0.651±0.030 | 0.075±0.011 | 4.571±0.572 | 0.257±0.016 | 1.252±0.112 | 0.091±0.016 | 0.040±0.009 | 0.030±0.004 | 0.291±0.010 |
| | | 白浜 | 78 | 0.208±0.021 | 0.101±0.009 | 0.024±0.006 | 1.382±0.086 | 1.021±0.099 | 0.351±0.037 | 0.162±0.027 | 0.027±0.022 | 0.022±0.007 | 0.317±0.009 |
| 宮崎県 | | 桑ノ木津留第一群 | 47 | 0.207±0.015 | 0.094±0.006 | 0.070±0.009 | 1.521±0.075 | 1.080±0.048 | 0.418±0.020 | 0.266±0.034 | 0.063±0.024 | 0.020±0.003 | 0.314±0.011 |
| | | 桑ノ木津留第二群 | 33 | 0.261±0.015 | 0.094±0.006 | 0.066±0.010 | 1.743±0.095 | 1.242±0.060 | 0.753±0.039 | 0.205±0.029 | 0.047±0.036 | 0.022±0.002 | 0.323±0.019 |
| | | 霧島 | 36 | 35.158±1.118 | 5.001±0.175 | 0.041±0.002 | 0.038±0.002 | 0.009±0.004 | 0.155±0.005 | 0.035±0.019 | 0.000±0.000 | 0.035±0.019 | 0.446±0.022 |
| 鹿児島県 | | 間根ヶ平第一群 | 45 | 0.186±0.010 | 0.083±0.005 | 0.047±0.008 | 1.611±0.079 | 0.948±0.055 | 0.340±0.032 | 0.281±0.031 | 0.041±0.032 | 0.022±0.008 | 0.358±0.014 |
| | | 間根ヶ平第二群 | 45 | 0.247±0.018 | 0.106±0.006 | 0.047±0.008 | 1.488±0.074 | 0.768±0.034 | 0.428±0.049 | 0.235±0.020 | 0.039±0.027 | 0.024±0.008 | 0.378±0.013 |
| | | 間根ヶ平第三群 | 42 | 0.584±0.012 | 0.176±0.005 | 0.037±0.007 | 1.484±0.097 | 0.449±0.031 | 0.675±0.049 | 0.143±0.023 | 0.036±0.022 | 0.023±0.014 | 0.390±0.019 |
| | | 日東 | 42 | 0.262±0.018 | 0.143±0.006 | 0.022±0.004 | 1.178±0.040 | 0.712±0.028 | 0.408±0.025 | 0.100±0.018 | 0.029±0.013 | 0.019±0.001 | 0.275±0.006 |
| | | 五女木 | 37 | 0.266±0.021 | 0.140±0.006 | 0.019±0.003 | 1.170±0.064 | 0.705±0.027 | 0.405±0.021 | 0.108±0.015 | 0.028±0.013 | 0.019±0.001 | 0.275±0.006 |
| | | 上牛鼻 | 41 | 1.629±0.098 | 0.804±0.037 | 0.053±0.006 | 3.342±0.215 | 0.188±0.013 | 1.105±0.056 | 0.087±0.009 | 0.022±0.009 | 0.036±0.002 | 0.391±0.011 |
| | | 平木場 | 34 | 1.944±0.054 | 0.912±0.028 | 0.062±0.005 | 3.975±0.182 | 0.184±0.011 | 1.266±0.049 | 0.093±0.010 | 0.021±0.010 | 0.038±0.003 | 0.408±0.010 |
| | | 竜ケ水 | 48 | 0.533±0.029 | 0.167±0.006 | 0.061±0.013 | 1.494±0.093 | 0.611±0.039 | 0.688±0.052 | 0.127±0.023 | 0.069±0.022 | 0.033±0.003 | 0.494±0.011 |
| | | 長谷 | 30 | 0.553±0.032 | 0.137±0.006 | 0.065±0.010 | 1.815±0.062 | 0.644±0.028 | 0.553±0.029 | 0.146±0.021 | 0.066±0.020 | 0.037±0.003 | 0.524±0.012 |
| 台　湾 | | 台東山脈 | 37 | 0.510±0.010 | 0.198±0.007 | 0.038±0.007 | 1.862±0.079 | 0.353±0.019 | 0.519±0.017 | 0.123±0.012 | 0.024±0.017 | 0.029±0.007 | 0.407±0.010 |
| ロシア | | イリスタヤ川 | 40 | 19.739±1.451 | 6.053±0.538 | 0.292±0.051 | 32.021±4.964 | 0.060±0.016 | 2.859±0.412 | 0.176±0.027 | 0.025±0.016 | 0.185±0.026 | 1.574±0.152 |
| | | ナチキ | 48 | 0.220±0.008 | 0.104±0.004 | 0.099±0.016 | 1.261±0.062 | 0.608±0.028 | 0.500±0.026 | 0.122±0.030 | 0.064±0.023 | 0.024±0.003 | 0.340±0.006 |
| | | RED LAKE-1 | 40 | 0.134±0.004 | 0.044±0.003 | 0.014±0.002 | 1.238±0.027 | 1.019±0.026 | 0.011±0.009 | 0.395±0.016 | 0.044±0.031 | 0.023±0.000 | 0.334±0.005 |
| | | クネビチャン川第2群 | 44 | 0.188±0.005 | 0.486±0.103 | 0.031±0.002 | 1.866±0.036 | 0.188±0.008 | 0.580±0.012 | 0.066±0.003 | 0.086±0.015 | 0.029±0.001 | 0.486±0.023 |
| アラスカ | | ｲﾝﾃﾞｨｱﾝ・MLZ群 | 48 | 0.204±0.004 | 0.044±0.002 | 0.564±0.025 | 5.868±0.191 | 1.170±0.039 | 0.021±0.016 | 0.508±0.023 | 0.259±0.018 | 0.791±0.025 | 7.208±0.279 |
| 北朝鮮 | | 白頭山灰皿 | 50 | 0.154±0.009 | 0.067±0.003 | 0.018±0.005 | 1.081±0.028 | 0.530±0.013 | 0.081±0.008 | 0.151±0.015 | 0.338±0.012 | 0.027±0.003 | 0.306±0.008 |

第7表－6　黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

| 各地遺物群名 | | 分析個数 | 元素比 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | Ca／K | Ti／K | Mn／Zr | Fe／Zr | Rb／Zr | Sr／Zr | Y／Zr | Nb／Zr | Al／K | Si／K |
| 北海道 | HS1遺物群 | 67 | 0.241±0.021 | 0.107±0.005 | 0.018±0.006 | 1.296±0.077 | 0.430±0.016 | 0.153±0.009 | 0.140±0.015 | 0.008±0.013 | 0.018±0.012 | 0.325±0.042 |
| | HS2遺物群 | 60 | 0.453±0.011 | 0.135±0.008 | 0.041±0.008 | 1.765±0.075 | 0.448±0.021 | 0.419±0.019 | 0.130±0.015 | 0.015±0.019 | 0.034±0.010 | 0.500±0.015 |
| | FR1遺物群 | 51 | 0.643±0.012 | 0.124±0.008 | 0.052±0.007 | 2.547±0.143 | 0.530±0.032 | 0.689±0.032 | 0.156±0.015 | 0.004±0.008 | 0.029±0.011 | 0.407±0.047 |
| | FR2遺物群 | 59 | 0.535±0.061 | 0.106±0.012 | 0.053±0.009 | 2.545±0.138 | 0.557±0.051 | 0.685±0.029 | 0.165±0.021 | 0.016±0.022 | 0.027±0.009 | 0.373±0.043 |
| | FR3遺物群 | 37 | 0.380±0.037 | 0.084±0.007 | 0.052±0.009 | 2.548±0.145 | 0.586±0.056 | 0.681±0.033 | 0.164±0.021 | 0.017±0.023 | 0.023±0.006 | 0.292±0.037 |
| | FR4遺物群 | 44 | 0.261±0.043 | 0.074±0.010 | 0.051±0.008 | 2.500±0.117 | 0.639±0.057 | 0.679±0.032 | 0.155±0.021 | 0.009±0.017 | 0.018±0.008 | 0.258±0.036 |
| | FH1遺物群 | 32 | 0.898±0.032 | 0.221±0.007 | 0.054±0.006 | 2.540±0.101 | 0.426±0.018 | 0.802±0.023 | 0.109±0.013 | 0.017±0.021 | 0.037±0.003 | 0.447±0.011 |
| | KT1遺物群 | 56 | 1.103±0.050 | 0.146±0.007 | 0.081±0.008 | 2.942±0.133 | 0.314±0.053 | 0.775±0.082 | 0.133±0.016 | 0.019±0.021 | 0.043±0.007 | 0.516±0.015 |
| | KT2遺物群 | 38 | 0.959±0.027 | 0.154±0.005 | 0.085±0.010 | 2.882±0.092 | 0.542±0.028 | 1.111±0.040 | 0.107±0.015 | 0.012±0.016 | 0.042±0.008 | 0.519±0.010 |
| | KS1遺物群 | 32 | 0.275±0.007 | 0.107±0.005 | 0.047±0.010 | 1.751±0.051 | 0.836±0.038 | 0.468±0.021 | 0.180±0.019 | 0.023±0.028 | 0.025±0.007 | 0.345±0.010 |
| | KS2遺物群 | 62 | 0.244±0.011 | 0.070±0.004 | 0.056±0.013 | 1.749±0.168 | 1.080±0.108 | 0.424±0.036 | 0.327±0.042 | 0.037±0.031 | 0.023±0.011 | 0.379±0.011 |
| | KS3遺物群 | 48 | 0.164±0.008 | 0.041±0.002 | 0.080±0.013 | 2.565±0.126 | 1.460±0.057 | 0.162±0.019 | 0.389±0.042 | 0.069±0.028 | 0.024±0.002 | 0.337±0.015 |
| | K19遺物群 | 48 | 0.185±0.007 | 0.049±0.003 | 0.081±0.013 | 2.162±0.122 | 1.031±0.041 | 0.435±0.025 | 0.263±0.028 | 0.050±0.019 | 0.023±0.002 | 0.260±0.009 |
| | NI29遺物群 | 51 | 5.445±0.122 | 2.301±0.074 | 0.207±0.024 | 13.422±1.113 | 0.151±0.018 | 1.839±0.134 | 0.207±0.022 | 0.007±0.011 | 0.069±0.006 | 0.622±0.021 |
| 青森県 | HY遺物群 | 31 | 0.238±0.011 | 0.131±0.006 | 0.048±0.008 | 1.636±0.066 | 0.418±0.028 | 1.441±0.015 | 0.482±0.024 | 0.029±0.028 | 0.020±0.015 | 0.481±0.068 |
| | SN1遺物群 | 33 | 0.287±0.006 | 0.087±0.004 | 0.033±0.005 | 1.597±0.037 | 0.244±0.011 | 0.258±0.011 | 0.281±0.012 | 0.009±0.012 | 0.021±0.006 | 0.329±0.006 |
| | SN2遺物群 | 29 | 0.209±0.006 | 0.116±0.006 | 0.076±0.008 | 1.571±0.082 | 0.716±0.035 | 0.292±0.017 | 0.264±0.029 | 0.028±0.030 | 0.023±0.009 | 0.383±0.015 |
| | SW4遺物群 | 45 | 0.287±0.003 | 0.147±0.003 | 0.095±0.004 | 1.909±0.073 | 0.912±0.033 | 0.480±0.024 | 0.255±0.014 | 0.160±0.047 | 0.024±0.001 | 0.511±0.013 |
| 秋田県 | KN遺物群 | 107 | 0.351±0.011 | 0.121±0.006 | 0.053±0.007 | 1.581±0.071 | 0.347±0.020 | 0.219±0.014 | 0.216±0.015 | 0.054±0.017 | 0.029±0.011 | 0.475±0.040 |
| | TB遺物群 | 60 | 0.252±0.014 | 0.113±0.007 | 0.124±0.015 | 1.805±0.088 | 0.875±0.056 | 0.663±0.038 | 0.272±0.029 | 0.083±0.037 | 0.026±0.008 | 0.378±0.021 |
| | HR遺物群 | 48 | 0.259±0.008 | 0.093±0.003 | 0.067±0.011 | 2.055±0.067 | 0.741±0.028 | 0.293±0.016 | 0.331±0.021 | 0.064±0.019 | 0.036±0.003 | 0.444±0.010 |
| 岩手県 | AI1遺物群 | 41 | 1.519±0.026 | 0.277±0.010 | 0.078±0.006 | 2.849±0.073 | 0.167±0.010 | 0.526±0.017 | 0.251±0.013 | 0.009±0.012 | 0.058±0.017 | 0.929±0.024 |
| | AI2遺物群 | 61 | 3.141±0.074 | 0.552±0.021 | 0.080±0.008 | 2.752±0.062 | 0.094±0.009 | 0.716±0.019 | 0.242±0.011 | 0.008±0.014 | 0.083±0.029 | 1.353±0.049 |
| | AI3遺物群 | 61 | 0.950±0.013 | 0.215±0.004 | 0.117±0.009 | 4.306±0.100 | 0.114±0.008 | 0.909±0.028 | 0.248±0.012 | 0.014±0.016 | 0.028±0.006 | 0.360±0.009 |
| | AI4遺物群 | 122 | 1.850±0.059 | 0.474±0.025 | 0.067±0.007 | 2.055±0.077 | 0.083±0.006 | 0.531±0.030 | 0.177±0.010 | 0.011±0.013 | 0.064±0.025 | 1.061±0.105 |
| | AI5遺物群 | 122 | 3.167±0.092 | 0.696±0.027 | 0.101±0.009 | 3.787±0.108 | 0.114±0.010 | 0.892±0.026 | 0.241±0.012 | 0.006±0.012 | 0.091±0.020 | 1.234±0.052 |
| | FS遺物群 | 45 | 0.272±0.090 | 0.097±0.029 | 0.053±0.007 | 1.791±0.083 | 0.327±0.019 | 0.453±0.024 | 0.207±0.018 | 0.029±0.027 | 0.017±0.011 | 0.339±0.011 |
| | SD遺物群 | 48 | 2.900±0.050 | 0.741±0.016 | 0.118±0.010 | 3.922±0.077 | 0.117±0.012 | 0.906±0.026 | 0.246±0.013 | 0.008±0.017 | 0.083±0.013 | 1.195±0.029 |
| | UN51遺物群 | 45 | 2.903±0.121 | 0.542±0.056 | 0.104±0.003 | 3.507±0.099 | 0.118±0.012 | 0.851±0.023 | 0.238±0.016 | 0.082±0.032 | 0.085±0.004 | 1.206±0.061 |
| 新潟県 | AC1遺物群 | 63 | 0.479±0.014 | 0.192±0.006 | 0.054±0.008 | 1.561±0.075 | 0.400±0.017 | 0.440±0.019 | 0.169±0.019 | 0.061±0.015 | 0.033±0.005 | 0.427±0.016 |
| | AC2遺物群 | 48 | 0.251±0.007 | 0.081±0.003 | 0.112±0.013 | 2.081±0.076 | 0.904±0.035 | 0.406±0.020 | 0.409±0.024 | 0.108±0.023 | 0.036±0.003 | 0.419±0.007 |
| | AC3遺物群 | 36 | 0.657±0.016 | 0.144±0.005 | 0.083±0.010 | 1.891±0.051 | 0.202±0.010 | 0.381±0.017 | 0.286±0.018 | 0.041±0.012 | 0.049±0.005 | 0.616±0.013 |
| | IN1遺物群 | 56 | 0.320±0.010 | 0.082±0.015 | 0.063±0.006 | 2.009±0.199 | 0.903±0.035 | 0.742±0.033 | 0.172±0.010 | 0.064±0.030 | 0.027±0.001 | 0.333±0.011 |
| | IN2遺物群 | 48 | 0.745±0.013 | 0.110±0.004 | 0.140±0.015 | 3.176±0.212 | 0.728±0.039 | 1.582±0.080 | 0.104±0.030 | 0.038±0.013 | 0.036±0.003 | 0.396±0.010 |
| | IN3遺物群 | 45 | 0.311±0.015 | 0.089±0.026 | 0.061±0.003 | 2.037±0.204 | 0.887±0.030 | 0.736±0.053 | 0.170±0.010 | 0.057±0.025 | 0.027±0.001 | 0.326±0.016 |
| | IN4遺物群 | 45 | 0.233±0.006 | 0.044±0.002 | 0.058±0.002 | 1.841±0.056 | 0.935±0.030 | 0.754±0.024 | 0.182±0.011 | 0.057±0.029 | 0.018±0.001 | 0.214±0.003 |
| 長野県 | NK遺物群 | 57 | 0.566±0.019 | 0.163±0.007 | 0.086±0.011 | 1.822±0.084 | 0.467±0.031 | 1.691±0.064 | 0.102±0.021 | 0.041±0.028 | 0.038±0.003 | 0.500±0.014 |
| | UH63遺物群 | 48 | 0.308±0.018 | 0.118±0.005 | 0.040±0.010 | 1.646±0.100 | 0.811±0.039 | 0.562±0.030 | 0.138±0.031 | 0.057±0.020 | 0.036±0.005 | 0.426±0.022 |
| | UH66遺物群 | 48 | 0.310±0.019 | 0.075±0.005 | 0.064±0.014 | 1.980±0.082 | 0.901±0.051 | 0.841±0.040 | 0.159±0.038 | 0.054±0.020 | 0.041±0.018 | 0.378±0.025 |
| | UH35遺物群 | 44 | 0.297±0.005 | 0.115±0.003 | 0.050±0.014 | 1.580±0.045 | 0.567±0.017 | 0.502±0.023 | 0.120±0.017 | 0.075±0.044 | 0.025±0.001 | 0.346±0.006 |
| | FUTI3遺物群 | 50 | 0.730±0.108 | 0.270±0.023 | 0.155±0.017 | 4.326±0.434 | 0.777±0.125 | 1.809±0.206 | 0.477±0.124 | 0.038±0.089 | 0.039±0.003 | 1.724±0.089 |
| 山口県 | YM遺物群 | 56 | 0.381±0.016 | 0.138±0.005 | 0.038±0.012 | 1.611±0.102 | 0.721±0.039 | 0.497±0.026 | 0.128±0.022 | 0.047±0.016 | 0.023±0.003 | 0.331±0.013 |
| | NM遺物群 | 40 | 0.330±0.010 | 0.103±0.003 | 0.042±0.012 | 1.751±0.083 | 1.048±0.057 | 0.518±0.034 | 0.196±0.037 | 0.058±0.018 | 0.022±0.003 | 0.326±0.011 |
| | MK-1遺物群 | 48 | 0.087±0.008 | 0.059±0.002 | 0.010±0.003 | 0.677±0.023 | 0.370±0.097 | 0.006±0.002 | 0.125±0.012 | 0.292±0.010 | 0.022±0.002 | 0.337±0.010 |
| | MK-2遺物群 | 48 | 0.258±0.010 | 0.026±0.002 | 0.055±0.013 | 1.745±0.121 | 1.149±0.092 | 0.297±0.029 | 0.202±0.037 | 0.177±0.022 | 0.021±0.002 | 0.268±0.007 |
| 大分県 | I遺物群 | 54 | 0.794±0.070 | 0.202±0.009 | 0.061±0.013 | 1.774±0.132 | 0.380±0.030 | 1.350±0.096 | 0.076±0.032 | 0.079±0.022 | 0.040±0.004 | 0.434±0.015 |
| 宮崎県 | HB1遺物群 | 48 | 0.197±0.035 | 0.754±0.055 | 0.098±0.042 | 7.099±0.844 | 0.434±0.062 | 0.975±0.130 | 0.368±0.079 | 0.126±0.079 | 0.093±0.022 | 6.312±0.525 |
| | HB2遺物群 | 48 | 0.414±0.100 | 1.557±0.674 | 0.110±0.044 | 9.900±1.595 | 0.176±0.088 | 1.209±0.459 | 0.327±0.052 | 0.178±0.069 | 0.178±0.044 | 9.938±1.532 |
| | UT1遺物群 | 46 | 0.297±0.013 | 0.107±0.005 | 0.053±0.010 | 1.638±0.104 | 1.012±0.056 | 0.736±0.039 | 0.168±0.027 | 0.034±0.028 | 0.024±0.011 | 0.390±0.014 |
| | KU4遺物群 | 48 | 1.871±0.365 | 1.018±0.094 | 3.790±0.705 | 14.990±4.008 | 0.673±0.081 | 2.043±0.233 | 0.752±0.079 | 0.056±0.045 | 0.090±0.017 | 4.302±0.246 |
| 鹿児島県 | KI1遺物群 | 45 | 0.383±0.012 | 0.101±0.005 | 0.061±0.024 | 1.913±0.158 | 0.985±0.057 | 0.527±0.038 | 0.197±0.030 | 0.079±0.028 | 0.028±0.002 | 0.409±0.009 |
| | KI2遺物群 | 46 | 0.402±0.015 | 0.146±0.008 | 0.060±0.017 | 1.529±0.148 | 0.729±0.052 | 0.565±0.038 | 0.137±0.024 | 0.083±0.026 | 0.029±0.003 | 0.443±0.022 |
| | KI3遺物群 | 48 | 1.545±0.154 | 0.557±0.045 | 0.074±0.011 | 3.746±0.455 | 0.284±0.018 | 0.783±0.044 | 0.106±0.021 | 0.025±0.011 | 0.047±0.006 | 0.499±0.021 |
| | KI4遺物群 | 56 | 2.625±0.109 | 0.871±0.136 | 0.093±0.007 | 5.623±0.602 | 0.255±0.015 | 0.906±0.074 | 0.107±0.009 | 0.031±0.015 | 0.062±0.007 | 0.587±0.038 |
| | KI5遺物群 | 52 | 0.206±0.012 | 0.064±0.007 | 0.061±0.004 | 1.570±0.073 | 1.213±0.063 | 0.728±0.036 | 0.224±0.013 | 0.044±0.030 | 0.014±0.001 | 0.259±0.026 |
| | KI18遺物群 | 46 | 0.447±0.011 | 0.122±0.005 | 0.045±0.020 | 1.737±0.046 | 0.687±0.023 | 0.481±0.020 | 0.140±0.009 | 0.050±0.024 | 0.030±0.001 | 0.428±0.008 |
| | KI84遺物群 | 48 | 0.655±0.009 | 0.151±0.009 | 0.026±0.001 | 1.515±0.020 | 0.332±0.011 | 0.340±0.011 | 0.102±0.005 | 0.051±0.011 | 0.032±0.001 | 0.431±0.007 |
| | SG遺物群 | 48 | 1.668±0.034 | 0.778±0.038 | 0.082±0.010 | 4.106±0.222 | 0.202±0.014 | 0.699±0.025 | 0.133±0.013 | 0.015±0.019 | 0.027±0.021 | 0.553±0.033 |
| | OK遺物群 | 32 | 1.371±0.074 | 0.687±0.025 | 0.061±0.008 | 3.109±0.161 | 0.202±0.012 | 0.579±0.027 | 0.122±0.014 | 0.009±0.014 | 0.027±0.018 | 0.518±0.021 |
| | KK1遺物群 | 48 | 0.347±0.010 | 0.080±0.003 | 0.081±0.012 | 3.085±0.155 | 0.887±0.036 | 1.487±0.065 | 0.119±0.036 | 0.184±0.023 | 0.027±0.002 | 0.265±0.009 |
| | KK2遺物群 | 46 | 0.521±0.012 | 0.122±0.004 | 0.076±0.013 | 3.125±0.222 | 0.877±0.048 | 1.500±0.074 | 0.109±0.034 | 0.187±0.023 | 0.035±0.004 | 0.359±0.010 |
| | HM1遺物群 | 44 | 0.683±0.024 | 0.861±0.021 | 0.063±0.013 | 8.678±0.663 | 0.642±0.039 | 0.739±0.054 | 0.127±0.034 | 0.065±0.018 | 0.037±0.005 | 0.282±0.008 |
| | HM2遺物群 | 50 | 0.483±0.022 | 0.121±0.006 | 0.054±0.014 | 1.975±0.122 | 0.695±0.040 | 0.454±0.034 | 0.191±0.028 | 0.058±0.028 | 0.034±0.006 | 0.474±0.016 |
| | ON1遺物群 | 54 | 0.303±0.012 | 0.167±0.006 | 0.038±0.007 | 1.157±0.044 | 0.447±0.020 | 0.435±0.016 | 0.126±0.025 | 0.039±0.016 | 0.032±0.004 | 0.376±0.012 |
| | ON2遺物群 | 56 | 0.276±0.019 | 0.053±0.004 | 0.084±0.017 | 2.491±0.128 | 1.492±0.088 | 0.667±0.046 | 0.211±0.032 | 0.108±0.028 | 0.030±0.004 | 0.345±0.011 |
| | MTR20遺物群 | 45 | 0.262±0.010 | 0.104±0.003 | 0.064±0.003 | 1.468±0.046 | 1.017±0.038 | 0.496±0.030 | 0.275±0.018 | 0.067±0.040 | 0.025±0.000 | 0.343±0.005 |
| | MTR21遺物群 | 45 | 0.777±0.063 | 0.154±0.008 | 0.029±0.002 | 1.627±0.105 | 0.287±0.019 | 0.345±0.042 | 0.120±0.008 | 0.036±0.016 | 0.035±0.001 | 0.466±0.005 |
| | NTO-6遺物群 | 41 | 0.376±0.016 | 0.134±0.023 | 0.063±0.004 | 1.557±0.041 | 0.890±0.031 | 0.686±0.029 | 0.151±0.011 | 0.102±0.033 | 0.029±0.001 | 0.422±0.014 |

第7表ー7　黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

| 各地遺物群名 | | | 分析個数 | 元素比 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | Ca／K | Ti／K | Mn／Zr | Fe／Zr | Rb／Zr | Sr／Zr | Y／Zr | Nb／Zr | Al／K | Si／K |
| 北朝鮮 | | 会寧城外遺跡遺物群 | 70 | 0.135±0.012 | 0.062±0.006 | 0.017±0.003 | 1.118±0.051 | 0.585±0.036 | 0.068±0.019 | 0.150±0.022 | 0.372±0.035 | 0.025±0.004 | 0.319±0.012 |
| ロシア | イリスタヤ地域 | イリスタヤ | 26 | 18.888±2.100 | 6.088±0.868 | 0.293±0.032 | 27.963±2.608 | 0.055±0.017 | 2.716±0.162 | 0.163±0.019 | 0.036±0.030 | 0.173±0.029 | 1.674±0.240 |
| | | RMA-1遺物群 | 43 | 28.381±1.693 | 10.508±0.636 | 0.240±0.010 | 26.686±1.014 | 0.176±0.031 | 2.337±0.092 | 0.105±0.025 | 0.031±0.041 | 0.222±0.013 | 2.176±0.123 |
| | | RMA-3遺物群 | 43 | 20.226±1.462 | 8.128±0.592 | 0.218±0.009 | 24.174±0.833 | 0.193±0.023 | 2.233±0.079 | 0.099±0.022 | 0.059±0.051 | 0.155±0.012 | 1.548±0.114 |
| | | RMA-4遺物群 | 43 | 27.653±3.592 | 9.780±1.292 | 0.253±0.010 | 27.839±1.009 | 0.179±0.021 | 2.379±0.089 | 0.121±0.029 | 0.026±0.030 | 0.225±0.030 | 2.201±0.292 |
| | | RMA-5遺物群 | 43 | 27.580±1.836 | 9.965±0.667 | 0.250±0.010 | 27.523±1.037 | 0.189±0.029 | 2.287±0.088 | 0.111±0.029 | 0.033±0.039 | 0.219±0.015 | 2.177±0.157 |
| | | RO-1B遺物群 | 43 | 24.212±2.767 | 9.472±1.106 | 0.241±0.010 | 27.056±1.109 | 0.180±0.026 | 2.132±0.096 | 0.134±0.022 | 0.029±0.033 | 0.192±0.022 | 1.904±0.221 |
| | | RQ-1遺物群 | 43 | 20.615±1.401 | 8.370±0.622 | 0.211±0.009 | 23.337±0.721 | 0.176±0.027 | 2.219±0.075 | 0.097±0.019 | 0.057±0.041 | 0.156±0.011 | 1.554±0.108 |
| | | RSN-1B遺物群 | 43 | 16.950±1.452 | 7.993±0.713 | 0.155±0.005 | 18.028±0.466 | 0.133±0.018 | 2.664±0.073 | 0.071±0.020 | 0.032±0.030 | 0.135±0.012 | 1.369±0.120 |
| | | RW-1遺物群 | 43 | 16.252±1.229 | 7.622±0.591 | 0.151±0.005 | 17.579±0.460 | 0.133±0.016 | 2.653±0.073 | 0.065±0.018 | 0.041±0.032 | 0.128±0.010 | 1.290±0.098 |
| | | Bogopol遺物群 | 46 | 18.260±1.136 | 7.064±0.466 | 0.463±0.013 | 40.787±0.844 | 0.080±0.007 | 1.038±0.033 | 0.275±0.020 | 0.092±0.024 | 0.132±0.009 | 1.164±0.080 |
| | | Bolshoy遺物群 | 43 | 0.118±0.006 | 0.122±0.004 | 0.005±0.000 | 0.475±0.020 | 0.155±0.003 | 0.003±0.002 | 0.054±0.001 | 0.142±0.002 | 0.030±0.003 | 0.371±0.010 |
| | | ｺﾑｿﾓﾘｽｸ　ﾌｰﾐ遺物群 | 47 | 0.349±0.008 | 0.168±0.003 | 0.115±0.005 | 1.382±0.065 | 0.219±0.017 | 0.504±0.028 | 0.109±0.012 | 0.109±0.031 | 0.036±0.010 | 0.440±0.013 |
| | | ﾊﾟﾘﾂ3遺物群 | 45 | 0.260±0.019 | 0.081±0.007 | 0.019±0.002 | 1.198±0.106 | 0.726±0.078 | 0.007±0.028 | 0.228±0.036 | 0.056±0.015 | 0.035±0.003 | 0.502±0.045 |
| | | ﾌﾟﾘﾀﾞﾛｼﾞｭﾅﾔ12-1遺物群 | 48 | 0.129±0.004 | 0.045±0.002 | 0.012±0.001 | 0.899±0.071 | 0.740±0.056 | 0.008±0.006 | 0.290±0.021 | 0.028±0.016 | 0.023±0.001 | 0.342±0.007 |
| | | ｺﾙｷﾞﾁｬﾝ2-3遺物群 | 48 | 0.275±0.009 | 0.137±0.003 | 0.069±0.002 | 1.230±0.020 | 0.412±0.014 | 0.559±0.026 | 0.121±0.013 | 0.165±0.026 | 0.029±0.001 | 0.386±0.011 |
| | | ﾍﾀｸﾁｬﾝ7-3遺物群 | 45 | 0.296±0.050 | 0.048±0.008 | 0.055±0.012 | 1.181±0.037 | 0.1024±0.030 | 0.025±0.013 | 0.392±0.014 | 0.038±0.025 | 0.020±0.001 | 0.293±0.007 |
| | カムチャツカ半島 | ﾊﾟﾗﾄｳﾝｶｰ1 | 56 | 0.706±0.048 | 0.225±0.011 | 0.048±0.010 | 1.851±0.180 | 0.246±0.014 | 0.752±0.070 | 0.075±0.016 | 0.015±0.008 | 0.041±0.004 | 0.482±0.022 |
| | | ﾊﾟﾗﾄｳﾝｶｰ2 | 40 | 0.717±0.018 | 0.269±0.006 | 0.031±0.006 | 1.604±0.043 | 0.119±0.007 | 0.398±0.016 | 0.095±0.008 | 0.016±0.006 | 0.031±0.003 | 0.402±0.010 |
| | | ﾊﾟﾗﾄｳﾝｶｰ3 | 48 | 0.384±0.008 | 0.097±0.004 | 0.043±0.007 | 1.642±0.053 | 0.262±0.011 | 0.753±0.026 | 0.066±0.026 | 0.013±0.062 | 0.017±0.003 | 0.176±0.009 |
| | | ﾊﾟﾗﾄｳﾝｶｰ4 | 48 | 0.141±0.007 | 0.074±0.003 | 0.029±0.004 | 1.069±0.025 | 0.203±0.007 | 0.150±0.006 | 0.106±0.009 | 0.024±0.006 | 0.016±0.002 | 0.146±0.004 |
| | | アバチャ | 40 | 0.255±0.007 | 0.160±0.005 | 0.029±0.004 | 1.121±0.034 | 0.192±0.007 | 0.151±0.008 | 0.106±0.009 | 0.024±0.007 | 0.026±0.003 | 0.303±0.007 |
| | | ミリコボ遺物群 | 45 | 0.467±0.009 | 0.163±0.005 | 0.045±0.002 | 1.528±0.047 | 0.186±0.015 | 0.490±0.019 | 0.118±0.011 | 0.010±0.013 | 0.032±0.001 | 0.448±0.010 |
| | | Ushiki Ⅴ遺物群 | 44 | 0.184±0.006 | 0.074±0.003 | 0.075±0.004 | 1.406±0.079 | 0.756±0.038 | 0.435±0.045 | 0.151±0.027 | 0.281±0.079 | 0.022±0.001 | 0.328±0.003 |
| | | Ushiki遺物群 | 50 | 0.537±0.015 | 0.186±0.011 | 0.061±0.004 | 1.384±0.082 | 0.253±0.023 | 1.423±0.086 | 0.080±0.018 | 0.020±0.023 | 0.030±0.001 | 0.397±0.012 |
| | | Ushiki Ⅱ遺物群 | 50 | 0.281±0.005 | 0.141±0.003 | 0.066±0.002 | 1.250±0.028 | 0.377±0.017 | 0.568±0.022 | 0.114±0.015 | 0.151±0.032 | 0.028±0.001 | 0.386±0.004 |
| アラスカ | | GUL09遺物群 | 40 | 0.167±0.017 | 0.074±0.003 | 0.035±0.002 | 1.498±0.030 | 0.975±0.037 | 0.215±0.023 | 0.220±0.018 | 0.139±0.038 | 0.023±0.001 | 0.327±0.005 |
| | | XMK02遺物群 | 40 | 2.897±0.065 | 1.695±0.046 | 0.078±0.001 | 4.555±0.074 | 0.100±0.007 | 0.831±0.018 | 0.103±0.006 | 0.043±0.018 | 0.047±0.001 | 0.508±0.014 |
| | | YUK01遺物群 | 40 | 0.155±0.005 | 0.041±0.002 | 0.026±0.002 | 1.530±0.035 | 1.022±0.027 | 0.007±0.010 | 0.253±0.017 | 0.146±0.043 | 0.022±0.001 | 0.331±0.010 |
| | | YUK16遺物群 | 40 | 0.154±0.007 | 0.066±0.004 | 0.037±0.002 | 1.496±0.039 | 1.046±0.032 | 0.178±0.017 | 0.232±0.014 | 0.146±0.036 | 0.023±0.001 | 0.327±0.007 |
| | | YUK34遺物群 | 40 | 0.172±0.003 | 0.085±0.003 | 0.032±0.002 | 1.495±0.041 | 0.830±0.028 | 0.312±0.022 | 0.177±0.017 | 0.098±0.043 | 0.022±0.001 | 0.327±0.004 |
| | | UNL01遺物群 | 40 | 0.427±0.005 | 0.170±0.002 | 0.024±0.001 | 1.162±0.009 | 0.128±0.005 | 0.136±0.005 | 0.129±0.004 | 0.037±0.010 | 0.027±0.001 | 0.361±0.004 |
| | | UNI07遺物群 | 40 | 0.428±0.027 | 0.249±0.017 | 0.020±0.001 | 1.215±0.032 | 0.202±0.007 | 0.208±0.009 | 0.087±0.006 | 0.011±0.010 | 0.025±0.001 | 0.334±0.004 |
| | | CHK02遺物群 | 40 | 0.606±0.008 | 0.269±0.029 | 0.043±0.001 | 1.774±0.045 | 0.106±0.007 | 0.246±0.007 | 0.106±0.007 | 0.041±0.015 | 0.034±0.001 | 0.459±0.016 |
| | | CRG01遺物群 | 40 | 0.089±0.003 | 0.153±0.003 | 0.005±0.000 | 0.411±0.004 | 0.074±0.002 | 0.000±0.001 | 0.064±0.002 | 0.219±0.004 | 0.021±0.001 | 0.313±0.002 |
| | | MMK03遺物群 | 41 | 0.438±0.007 | 0.165±0.005 | 0.027±0.001 | 1.409±0.029 | 0.245±0.010 | 0.560±0.016 | 0.068±0.010 | 0.020±0.017 | 0.029±0.001 | 0.371±0.007 |
| | | MMK12遺物群 | 41 | 0.126±0.004 | 0.085±0.003 | 0.066±0.003 | 1.091±0.031 | 0.830±0.030 | 0.046±0.016 | 0.211±0.015 | 0.318±0.037 | 0.023±0.001 | 0.335±0.006 |
| | | HEA10遺物群 | 41 | 0.222±0.007 | 0.130±0.004 | 0.021±0.001 | 1.338±0.135 | 0.454±0.026 | 0.412±0.018 | 0.134±0.014 | 0.052±0.022 | 0.020±0.001 | 0.279±0.003 |
| | | HEA26遺物群 | 41 | 0.235±0.005 | 0.082±0.003 | 0.028±0.002 | 1.843±0.089 | 1.066±0.035 | 0.207±0.028 | 0.351±0.021 | 0.057±0.048 | 0.026±0.001 | 0.363±0.005 |
| | | XBD61遺物群 | 41 | 0.073±0.004 | 0.214±0.004 | 0.008±0.000 | 0.721±0.004 | 0.063±0.002 | 0.001±0.001 | 0.067±0.002 | 0.179±0.004 | 0.019±0.001 | 0.322±0.003 |
| | | XBD124遺物群 | 41 | 0.274±0.006 | 0.170±0.003 | 0.031±0.001 | 1.293±0.020 | 0.409±0.010 | 0.412±0.017 | 0.090±0.015 | 0.103±0.025 | 0.026±0.001 | 0.359±0.003 |
| | | XBD131遺物群 | 41 | 0.156±0.004 | 0.048±0.003 | 0.131±0.006 | 1.244±0.041 | 2.125±0.091 | 0.031±0.023 | 0.430±0.024 | 0.790±0.062 | 0.024±0.001 | 0.342±0.002 |
| | | NOA02遺物群 | 41 | 0.149±0.003 | 0.134±0.004 | 0.043±0.002 | 1.075±0.043 | 0.654±0.032 | 0.285±0.018 | 0.142±0.012 | 0.183±0.035 | 0.023±0.001 | 0.323±0.004 |
| | | NOA07遺物群 | 41 | 0.210±0.005 | 0.176±0.011 | 0.017±0.001 | 0.871±0.016 | 0.221±0.007 | 0.068±0.006 | 0.097±0.006 | 0.065±0.014 | 0.024±0.001 | 0.301±0.005 |
| | | SIT-E遺物群 | 40 | 0.076±0.010 | 0.121±0.020 | 0.006±0.000 | 0.454±0.005 | 0.097±0.002 | 0.001±0.001 | 0.073±0.002 | 0.224±0.005 | 0.022±0.001 | 0.338±0.009 |
| | | SIT-Z-2遺物群 | 40 | 0.098±0.003 | 0.152±0.003 | 0.005±0.000 | 0.449±0.004 | 0.075±0.002 | 0.000±0.000 | 0.063±0.002 | 0.220±0.004 | 0.022±0.001 | 0.316±0.003 |
| エクアドル | | BAEZA遺物群 | 45 | 0.543±0.006 | 0.289±0.005 | 0.038±0.001 | 1.396±0.017 | 0.464±0.011 | 1.595±0.024 | 0.073±0.006 | 0.095±0.028 | 0.031±0.001 | 0.549±0.009 |
| 標準試料 | | JG-1[a)] | 127 | 0.755±0.010 | 0.202±0.005 | 0.076±0.011 | 3.759±0.111 | 0.993±0.036 | 1.331±0.046 | 0.251±0.027 | 0.105±0.017 | 0.028±0.002 | 0.342±0.004 |

M群＝桑ノ木津留第1群、F群＝UT遺物群、HS2群＝置戸・置戸山群、FR2群＝ケショマップ第一群にそれぞれ一致　平均値±標準偏差値、＊：ガラス質安山岩、NK遺物群：中ッ原遺跡、HY遺物群：日和山遺跡、SN遺物群：三内丸山遺跡出土、KN遺物群：此掛沢遺跡、HS遺物群：北進遺跡、KI遺物群：桐木遺跡、UT遺物群：内屋敷遺跡、AI遺物群：相ノ沢遺跡、FS遺物群：房ノ沢遺跡、SD遺物群：下舘銅屋遺跡、FR遺物群：東麓郷1，2遺跡、FH遺物群：東9線8遺跡、KT遺物群：北区1遺跡、KS遺物群：キウス4遺跡A-R地区、SG遺物群：志風頭遺跡、OK遺物群：奥名野遺跡、TB遺物群：戸平川遺跡、NM遺物群：長桝遺跡、MK遺物群：南方遺跡、YM遺物群：南方、藤尾、岩上遺跡、AC1、2、3遺物群：アチャ平遺跡、IN1、2遺物群：岩野原遺跡、K19遺物群：K39遺跡、KK1，2遺物群：計志加里遺跡、HB1，2（フリント様）：八久保第2遺跡、HR遺物群：堀量遺跡、HM遺物群：春ノ山遺跡、KU4（硬質頁岩様）：久木野遺跡、ON1,2：大原野遺跡、NI29：穂香遺跡、UH63・UH66：上ノ原遺跡、UN51遺物群：雲南遺跡など出土遺物の産地不明の原石群。ウラジオストック付近：イリスタヤ遺跡、南カムチャッカ：パラトウンカ、ナチキ、アバチャ遺跡、中部カムチャッカ：Ushiki Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ遺跡、コムソモリスクーナーアムール：フーミ遺物群、MTR21遺物群：耳取遺跡、FUTI3遺物群：八千代村封地遺跡、NTO一6遺物群：仁田尾遺跡、SW4遺物群：沢ノ黒遺跡。

a)：Ando,A., Kurasawa,H., Ohmori,T. & Takeda,E.(1974). 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol.8, 175-192.

第8表 [illegible]

| 原石群名 | 九州西北地域原産地地区名(原石個数) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 腰岳 (28) | 淀姫 (44) | 古里陸地 (66) | 古里海岸 (21) | 中町 (44) | 牟田 (48) | 大石 (39) | 椎葉川 (59) |
| 腰岳群 | 100 | | 37 | | | 24 | 33 | |
| 淀姫群 | | 100 | | | | | | |
| 古里第一群 | 100 | | 63 | 5 | | 40 | 51 | |
| 古里第二群 | | | 11 | 57 | 2 | | | 100 |
| 古里第三群 | | 95 | 25 | 33 | 68 | 50 | 26 | |
| 中町第一群 | | 12 | 14 | 24 | 68 | 28 | 18 | |
| 中町第二群 | | 98 | 14 | 24 | 57 | 38 | 28 | |
| 松浦第一群 | 88 | | 32 | | | 24 | 33 | |
| 松浦第二群 | 96 | | 51 | 5 | 2 | 38 | 51 | |
| 松浦第三群 | | 57 | 24 | 33 | 81 | 54 | 49 | |
| 松浦第四群 | | 93 | 17 | 24 | 80 | 52 | 33 | |
| 椎葉川群 | | | 8 | 48 | 2 | | | 100 |

注:同定確率を1%以上に設定した。古里陸地で採取された原石1個(No.6)を例=古里第1群(63%),松浦第1群(37%),松浦第2群(23%),腰岳(21%)が1%以上で同定され残りの原石群に対しては1%以下の同定確率であった。古里陸地(66個)の腰岳群37%は66個の中の37%個は腰岳群に1%以上の同定確率で帰属される。

第9表 [illegible]

| 分析番号 | 元素比 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ca/K | Ti/K | Mn/Zr | Fe/Zr | Rb/Zr | Sr/Zr | Y/Zr | Nb/Zr | Al/K | Si/K |
| 89253 | 1.780 | 0.814 | 0.062 | 2.740 | 0.205 | 1.161 | 0.180 | 0.027 | 0.049 | 0.432 |
| 89254 | 1.044 | 0.810 | 0.058 | 2.085 | 0.189 | 1.202 | 0.087 | 0.030 | 0.047 | 0.474 |
| 89255 | 0.460 | 0.172 | 0.053 | 1.581 | 0.546 | 0.641 | 0.135 | 0.075 | 0.022 | 0.445 |
| 89256 | 0.589 | 0.157 | 0.058 | 1.455 | 0.610 | 0.651 | 0.139 | 0.089 | 0.003 | 0.462 |
| 89257 | 0.257 | 0.208 | 0.038 | 0.944 | 0.336 | 0.277 | 0.085 | 0.030 | 0.019 | 0.232 |
| 89258 | 0.170 | 0.053 | 0.073 | 2.461 | 1.607 | 0.262 | 0.034 | 0.240 | 0.017 | 0.222 |
| 89259 | 0.237 | 0.051 | 0.051 | 1.987 | 0.899 | 0.251 | 0.125 | 0.129 | 0.030 | 0.347 |
| 89260 | 0.333 | 0.077 | 0.041 | 1.779 | 0.530 | 0.492 | 0.102 | 0.108 | 0.027 | 0.339 |
| 89261 | 0.327 | 0.080 | 0.042 | 1.649 | 0.522 | 0.478 | 0.083 | 0.110 | 0.027 | 0.347 |
| 89262 | 0.295 | 0.040 | 0.050 | 1.986 | 0.904 | 0.303 | 0.135 | 0.130 | 0.021 | 0.281 |
| 89263 | 0.239 | 0.054 | 0.429 | 1.180 | 1.854 | 1.124 | 0.084 | 0.469 | 0.049 | 0.380 |
| 89264 | 0.339 | 0.026 | 0.072 | 2.586 | 1.360 | 0.426 | 0.072 | 0.261 | 0.025 | 0.327 |
| 89265 | 0.421 | 0.071 | 0.062 | 2.818 | 1.184 | 1.627 | 0.107 | 0.200 | 0.022 | 0.340 |
| 89266 | 0.341 | 0.052 | 0.046 | 1.914 | 0.555 | 0.528 | 0.101 | 0.110 | 0.027 | 0.346 |
| 89267 | 0.372 | 0.814 | 0.046 | 1.750 | 0.694 | 0.458 | 0.122 | 0.095 | 0.025 | 0.339 |
| 89268 | 1.044 | 0.863 | 0.053 | 3.024 | 0.182 | 1.238 | 0.107 | 0.040 | 0.045 | 0.436 |
| 89269 | 1.040 | 0.889 | 0.058 | 2.785 | 0.200 | 1.208 | 0.106 | 0.004 | 0.048 | 0.489 |
| 89270 | 0.334 | 0.075 | 0.042 | 1.767 | 0.505 | 0.465 | 0.089 | 0.117 | 0.026 | 0.330 |
| 89271 | 0.334 | 0.073 | 0.043 | 1.732 | 0.539 | 0.488 | 0.083 | 0.101 | 0.028 | 0.343 |
| 89272 | 0.324 | 0.063 | 0.047 | 1.859 | 0.544 | 0.511 | 0.087 | 0.121 | 0.028 | 0.340 |
| 89273 | 0.327 | 0.077 | 0.041 | 1.621 | 0.509 | 0.458 | 0.086 | 0.111 | 0.027 | 0.347 |
| 89274 | 0.334 | 0.052 | 0.046 | 1.960 | 0.549 | 0.504 | 0.082 | 0.104 | 0.025 | 0.332 |
| 89275 | 0.321 | 0.077 | 0.047 | 1.986 | 0.350 | 0.494 | 0.089 | 0.102 | 0.025 | 0.314 |
| 89276 | 0.272 | 0.042 | 0.037 | 1.721 | 0.625 | 0.460 | 0.088 | 0.101 | 0.016 | 0.186 |
| 89277 | 0.334 | 0.080 | 0.046 | 1.780 | 0.546 | 0.511 | 0.100 | 0.113 | 0.026 | 0.341 |
| 89278 | 0.250 | 0.069 | 0.045 | 1.921 | 0.861 | 0.337 | 0.112 | 0.193 | 0.025 | 0.317 |
| 89279 | 0.340 | 0.079 | 0.043 | 1.769 | 0.549 | 0.494 | 0.084 | 0.113 | 0.026 | 0.329 |
| 89280 | 0.329 | 0.080 | 0.040 | 1.676 | 0.500 | 0.472 | 0.087 | 0.108 | 0.027 | 0.348 |
| 89281 | 0.395 | 0.079 | 0.038 | 1.684 | 0.469 | 0.445 | 0.089 | 0.093 | 0.027 | 0.344 |
| 89282 | 0.456 | 0.069 | 0.113 | 3.071 | 1.290 | 1.958 | 0.086 | 0.207 | 0.002 | 0.340 |
| JG-1 | 0.780 | 0.208 | 0.072 | 4.170 | 0.969 | 1.268 | 0.250 | 0.047 | 0.031 | 0.377 |

JG-1:[illegible]—Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T.& Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192 (1974)

第10表 堂園遺跡Ｂ地点出土黒曜石製遺物の測定結果

| 分析番号 | 番号 | ブロック | 取上No. | 区 | 層位 | ホテリングのT2検定結果 | 判定 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 89253 | 1 | | 21158 | A-5 | Ⅱd | [illegible] | 上牛鼻系 | |
| 89254 | 2 | | 1787 | B-4 | Ⅱa | [illegible] | 上牛鼻系 | エアブラシ処理 |
| 89255 | 3 | | 20890 | A-4 | Ⅱd | [illegible] | [illegible] | |
| 89256 | 4 | ブロック24 | 15992 | B-12 | Ⅱd | [illegible] | [illegible] | |
| 89257 | 5 | | 22456 | A-3 | Ⅱd | [illegible] | [illegible] | |
| 89258 | 6 | | 13180 | B-12 | Ⅱc | [illegible] | [illegible] | |
| 89259 | 7 | ブロック24 | 15959 | B-12 | Ⅱd | [illegible] | 古里・中町・松浦 | |
| 89260 | 8 | | 18630 | C-10 | Ⅱd | [illegible] | 淀姫系 | |
| 89261 | 9 | ブロック7 | 20498 | B-5 | Ⅱd | [illegible] | 淀姫系 | |
| 89262 | 10 | | 19426 | A-4 | Ⅱd | [illegible] | [illegible] | |
| 89263 | 11 | | 20431 | A-4 | Ⅱd | [illegible] | [illegible] | |
| 89264 | 12 | | 15413 | C-10 | Ⅱd | [illegible] | [illegible] | |
| 89265 | 13 | | 17374 | B-8 | Ⅱd | [illegible] | 古里 | |
| 89266 | 14 | ブロック30 | 13842 | C-8 | Ⅱa | [illegible] | 淀姫系 | |
| 89267 | 15 | | 16767 | B-10 | Ⅱd | [illegible] | 古里・中町・松浦 | |
| 89268 | 16 | | 15393 | B-4 | Ⅱb | [illegible] | 上牛鼻系 | |
| 89269 | 17 | | 1778 | B-3 | Ⅱ | [illegible] | 上牛鼻系 | エアブラシ処理 |
| 89270 | 18 | | 17982 | A-10 | Ⅱd | [illegible] | 淀姫系 | |
| 89271 | 19 | | 14147 | B-12 | Ⅱc | [illegible] | 淀姫系 | |
| 89272 | 20 | ブロック1 | 19618 | B-8 | Ⅱd | [illegible] | 淀姫系 | |
| 89273 | 21 | ブロック7 | 20460 | B-5 | Ⅱd | [illegible] | 淀姫系 | |
| 89274 | 22 | ブロック7 | 10932 | B-5 | Ⅱc | [illegible] | 淀姫系 | |
| 89275 | 23 | | 12601 | C-8 | Ⅱa | [illegible] | 淀姫系 | |
| 89276 | 24 | ブロック24 | 15604 | A-6 | Ⅱd | [illegible] | 古里・中町・松浦 | |
| 89277 | 25 | | 14604 | B-8 | Ⅱc | [illegible] | 淀姫系 | |
| 89278 | 26 | | 16887 | A-13 | Ⅱd | [illegible] | 古里・中町・松浦 | |
| 89279 | 27 | | 1766 | B-4 | Ⅱa | [illegible] | 淀姫系 | |
| 89280 | 28 | | 21311 | A-5 | Ⅱd | [illegible] | 淀姫系 | |
| 89281 | 29 | ブロック1 | 18628 | B-10 | Ⅱd | [illegible] | 淀姫系 | |
| 89282 | 30 | ブロック26 | 6517 | C-16 | Ⅱd | [illegible] | [illegible] | 0.5mmの厚さ補正 |

[illegible]

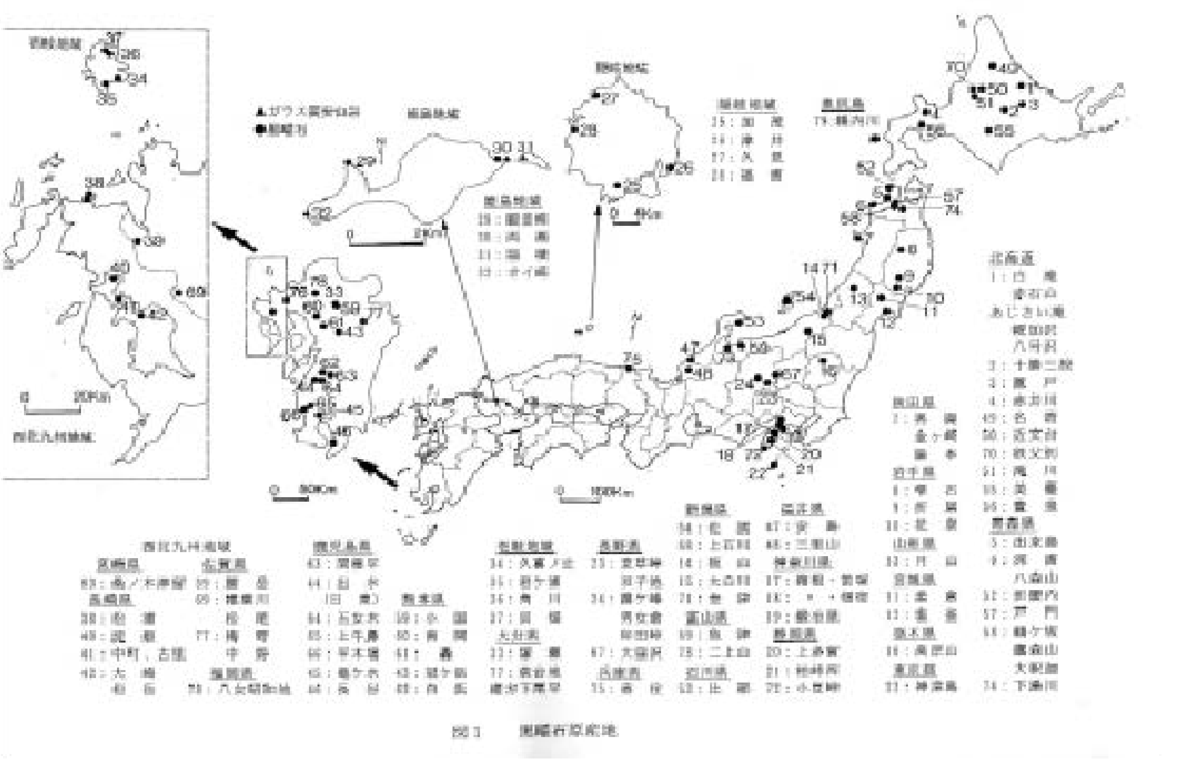


図3 黒曜石原産地

## ６　堂園B遺跡出土小玉４点の蛍光Ｘ線分析装置を用いた分析結果について

(1) はじめに

ガラスは，人類が最初に創り出した素材で，化学的に非常に安定していることから現代においても生活に必要不可欠な素材である。また，天然素材では得られない澄んだ美しさと多様な色彩によって古くから工芸品として使われている。

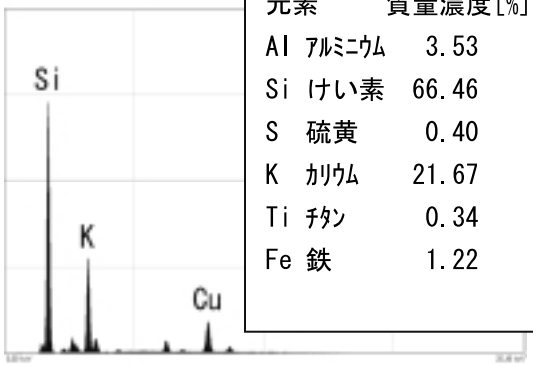
日本においては，青森県の亀ヶ岡遺跡から縄文時代晩期（約２３００年前）の青色ガラス小玉が出土し，弥生時代に入ると佐賀県の吉野ヶ里遺跡からガラス製管玉，岡山県の鹿田遺跡からガラス塊・炉跡，福岡県の三雲遺跡・須玖遺跡からガラス製璧が出土している。古墳時代に入ると福岡から関東の範囲で多孔土盤が出土し，鋳造鋳型によるビーズ製作が行われたと考えられている。鹿児島県においては，最近の調査でガラス製小玉の出土例が増えてきているが，調査事例が少なく研究はこれからである。

(2) 分析方法

今回堂園B遺跡で出土したガラス玉については，当センター所有の堀場製作所製の蛍光X線分析装置ＸＧＴ－1000を用いて成分分析を行い，標準試料を用いないＦＲＭで定量分析を試みた。測定条件は，Ｘ線照射範囲:直径100 μｍ，測定時間:200 ｓ，パルス処理時間:P3，Ｘ線管電圧:15/50 kV，電流:自動，Ｘ線フィルタ:なし，試料セル:なしである。

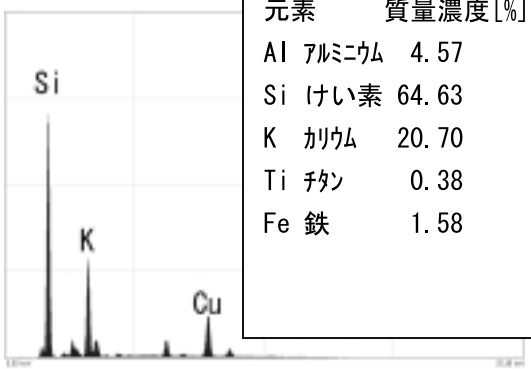
(3) 分析結果

ア　No.2908



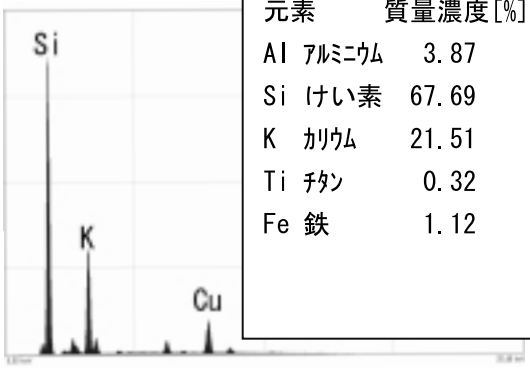

| 元素 | 質量濃度[%] | 強度[cps/mA] | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| Al ｱﾙﾐﾆｳﾑ | 3.53 | 11.47 | Cu 銅 | 4.21 | 754.75 |
| Si けい素 | 66.46 | 427.28 | Rb ﾙﾋﾞｼﾞｳﾑ | 0.12 | 30.49 |
| S 硫黄 | 0.40 | 5.14 | Zr ｼﾞﾙｺﾆｳﾑ | 0.05 | 14.18 |
| K ｶﾘｳﾑ | 21.67 | 233.59 | Sn すず | 0.32 | 13.66 |
| Ti ﾁﾀﾝ | 0.34 | 14.85 | Pb 鉛 | 1.68 | 112.63 |
| Fe 鉄 | 1.22 | 148.75 | | | |

イ　No.5991



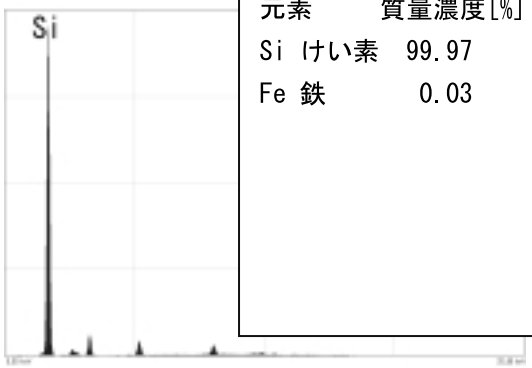

| 元素 | 質量濃度[%] | 強度[cps/mA] | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| Al ｱﾙﾐﾆｳﾑ | 4.57 | 15.20 | Cu 銅 | 5.36 | 1015.41 |
| Si けい素 | 64.63 | 422.37 | Rb ﾙﾋﾞｼﾞｳﾑ | 0.13 | 32.05 |
| K ｶﾘｳﾑ | 20.70 | 239.73 | Zr ｼﾞﾙｺﾆｳﾑ | 0.07 | 22.56 |
| Ti ﾁﾀﾝ | 0.38 | 17.76 | Sn すず | 0.47 | 19.81 |
| Fe 鉄 | 1.58 | 208.20 | Pb 鉛 | 2.10 | 143.35 |

ウ　No.7804




| 元素 | | 質量濃度[%] | 強度[cps/mA] | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| Al | ｱﾙﾐﾆｳﾑ | 3.87 | 15.42 | Cu | 銅 | 3.49 | 756.73 |
| Si | けい素 | 67.69 | 523.54 | Rb | ﾙﾋﾞｼﾞｳﾑ | 0.15 | 44.79 |
| K | ｶﾘｳﾑ | 21.51 | 274.78 | Zr | ｼﾞﾙｺﾆｳﾑ | 0.07 | 24.22 |
| Ti | ﾁﾀﾝ | 0.32 | 16.46 | Pb | 鉛 | 1.80 | 148.71 |
| Fe | 鉄 | 1.12 | 163.59 | | | | |

エ　中央サンプル




| 元素 | | 質量濃度[%] | 強度[cps/mA] |
|---|---|---|---|
| Si | けい素 | 99.97 | 687.47 |
| Fe | 鉄 | 0.03 | 3.84 |

(4) 考察

今回分析した小玉のうち３点は，カリウム，銅，鉛，鉄を含むガラスであることが確認できた。また，１点については，ケイ素以外にごく少量の鉄しか確認できず，天然素材を加工した小玉である可能性が高いと思われる。

(5) 参考文献

臼井洋輔　著　謎を秘めた古代ビーズ再現　２００７／３／２５

黒川高明　著　ガラスの技術史　２００５／７／１０

中山公男　監修　世界ガラス工芸史　２０００／３／３１

# 第Ⅴ章　堂園遺跡Ａ地点

## 第１節　発掘調査の概要と経過

平成19年度の本調査の調査対象地は，堂園遺跡Ａ地点を南北に通っている県道部分である。

平成16・17年度の調査では，県道を境界として，字名を用いて東側を瀬戸口地区，西側を堂園堀地区として調査した。平成16年度は，両地区のⅡ～Ⅲ層の本調査と堂園堀地区のⅣ層以下の調査を実施した。Ⅱ～Ⅲ層にかけては，古代の道跡のほか，弥生時代後期～古墳時代初頭の土坑などの遺構を検出し，土器や鉄器等の遺物が出土した。土坑は近くで完形土器の出土する例が多く，埋土中から赤色顔料が検出されたことなどから，木棺土坑墓である可能性が高く，包含層出土土器にも完形に復元可能なものが多く，土坑墓との関係が想起された。

平成19年度の調査は，平成16・17年度の発掘調査の際に設定した10ｍ×10ｍ間隔のグリッド網を復元して用いた。 現道のアスファルト及び，砂利，砂を撤去した後，調査を開始したが，砂利，砂の直下から旧道面が検出されたので，旧道部分の位置を一部記録し，撤去した。旧道は，Ⅲ層途中まで掘り込み，砂と粘土層を交互に締め固め建設されていたので，人力での撤去は途中で断念し，重機で剥ぎ取ることとした。旧道部分のⅡ層，Ⅲ層の包含層は道路建設の際に削平されていた。Ⅱ層直上では，前回の調査で検出された道跡と交わる古代の道跡が検出された。Ⅱ～Ⅲ層にかけての調査では，前回の調査から継続している住居跡の調査を行ったが，土坑墓の可能性のある遺構は検出されなかった。

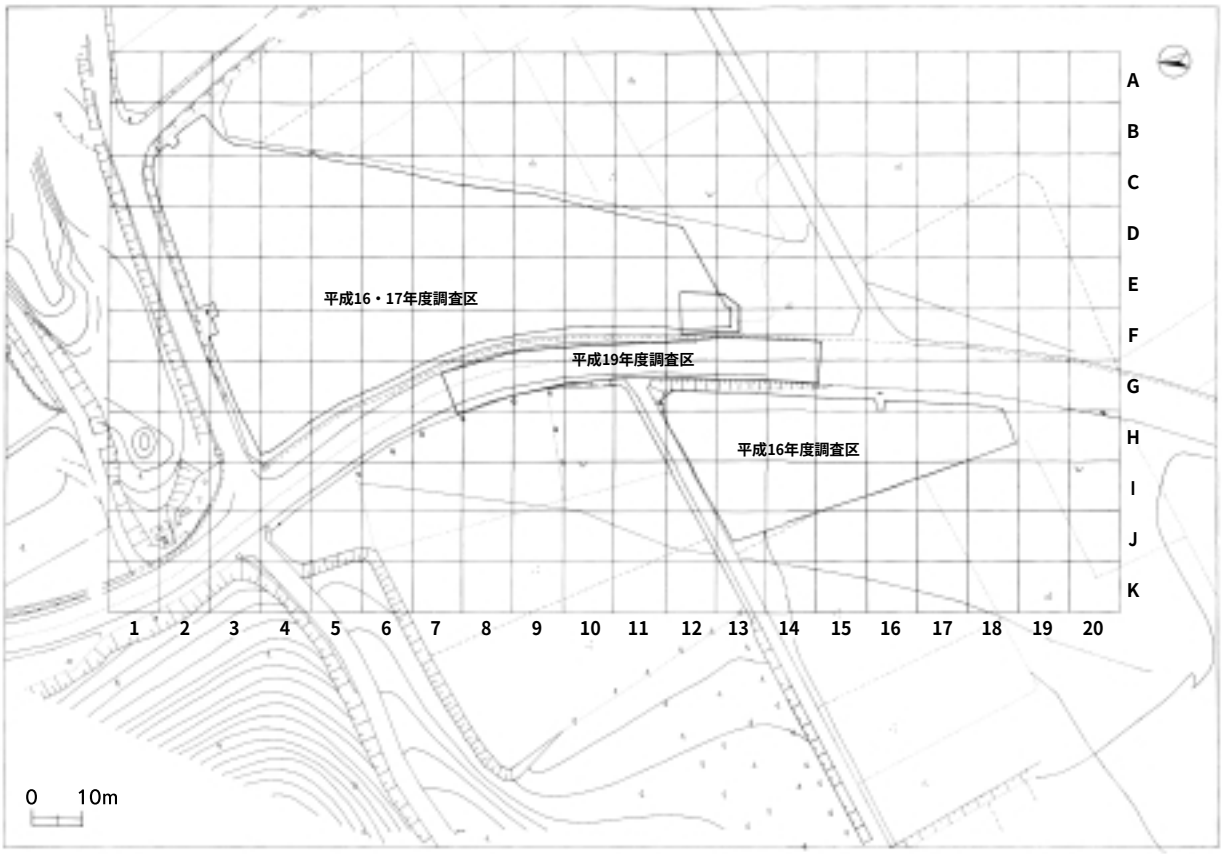
| 年度 | 調査区 | 内　　容 | 期間 |
|---|---|---|---|
| 平成 16 | B-2 区～F-13 区（瀬戸口） | 本調査（Ⅱ～Ⅲ層） | 平成 16 年 8 月 16 日 |
| | G-11 区～H-18 区（堂園堀） | 本調査（Ⅱ～Ⅲ層，Ⅳ層以下） | ～平成 17 年 3 月 18 日 |
| 平成 17 | B-2 区～F-13 区（瀬戸口） | 本調査（Ⅱ～Ⅲ層）<br>※　土坑墓群の調査 | 平成 17 年 6 月 14 日<br>～平成 17 年 10 月 7 日 |

## 第２節　層位

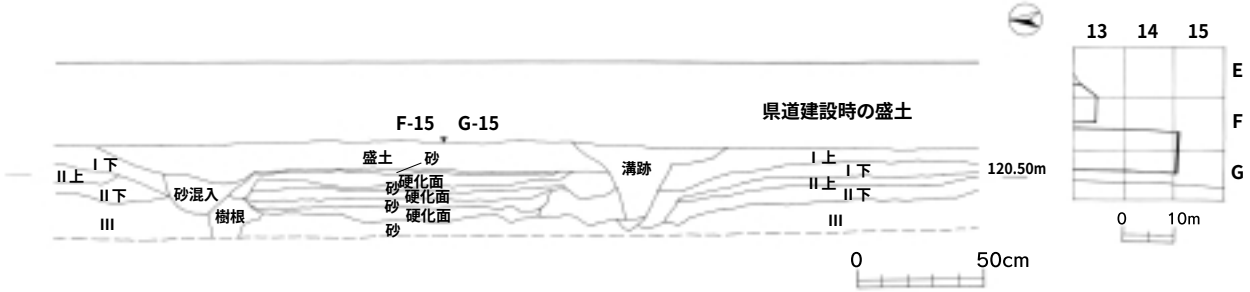
平成19年度の調査区は，県道のストレートから緩いカーブ部分で，道路幅だけで狭いという条件と，調査の継続性を維持する目的から，平成17年度までの調査で用いた土層区分をそのまま用いることとした。

堂園遺跡Ａ地点の土層堆積状況は，背後に小丘があり鳴野原台地の中央部に位置しており，おおむね安定している。しかし，火山灰層の堆積については発達しておらず，明瞭でもない。層ごとの特徴を柱状図で略述する。

| | |
|---|---|
| Ⅰ層 | 灰黒色土（現代の耕作土） |
| Ⅱ層 | 黒茶褐色土（弥生～古墳時代の包含層） |
| Ⅲ層 | 黄茶褐色火山灰腐植土（アカホヤ火山灰ベース，縄文時代後期の包含層） |
| Ⅳ層 | 暗褐色土 |
| Ⅴ層 | 黒褐色硬質土（無遺物層） |
| Ⅵ層 | 黄褐色火山灰（薩摩火山灰，無遺物層） |
| Ⅶ層 | 暗茶褐色（無遺物層） |
| Ⅷ層 | 暗茶褐色粘質土（無遺物層） |
| Ⅸ層 | 砂質土（無遺物層） |
| Ⅹ層 | 砂礫混火山灰土（シラス，無遺物層） |




第162図　グリッド配置図




第163図　土層断面図

## 第３節　縄文時代

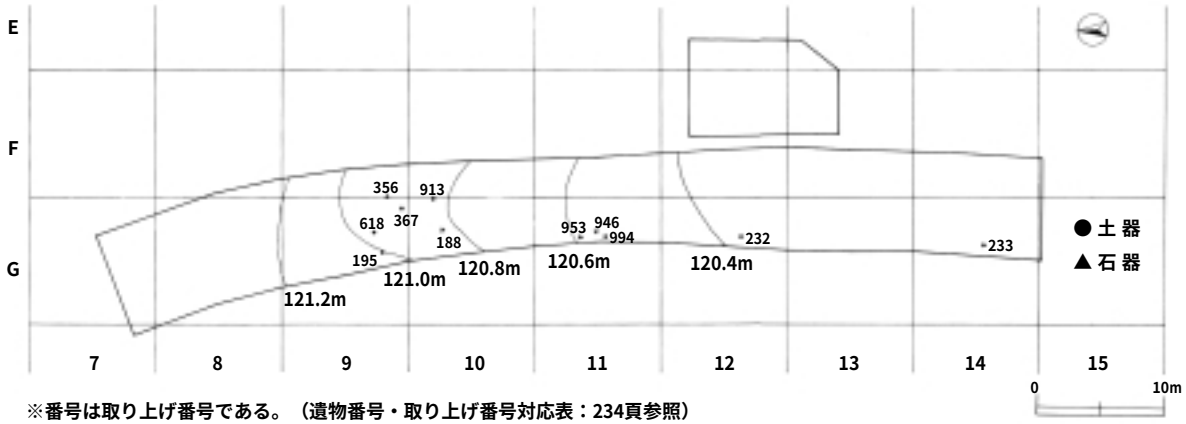
１　調査の概要

縄文時代の調査は，弥生時代から古墳時代の遺物の包含層であるⅡ層の調査終了後におこなった。縄文時代の遺物の包含層であるⅢ層は，旧道建設による削平がⅡ層ほど進んでおらず，G－11,12,14区からも遺物が出土している。土器片４点と石器７点が出土した。

２　縄文土器（第165図　947～950）

947は，口唇部に貝殻によると思われる刺突文が縦位に繰り返される。外面には二枚貝の復縁を使用した斜位の条痕が見られ，内面には波状の条痕が見られる。外面，内面とも黒褐色である。

948は，口縁部下に一条の沈線が器形に沿って施されている。外面，内面ともヘラ磨きが施されている。胴部に近い部位から口唇部にかけて，器厚は6.5mmから4.5mmへと薄くなる。外面，内面とも黒褐色であるが，外面は，より黒色が強い。949は，口縁部にかけて内弯する。口縁部内側には浅い沈線が施され，断面は玉縁状となる。950は，頸部から胴部にかけてと考えられ，外反すると思われる口縁部は破損している。丁寧なヘラナデと思われる調整が施されている。




※番号は取り上げ番号である。（遺物番号・取り上げ番号対応表：234頁参照）

**第164図　縄文時代遺物出土状況図及びコンタ図**

3　石器（第166図　951～957）

(1) 打製石鏃（951～955）

951は，安山岩を素材とし，側辺は弧状に張り出している。抉りは僅かで浅い。952は，頁岩を素材とし，側辺は弧状に張り出している。抉りは深く半弧状に入る。953は，黒曜石を素材とし，脚部の作出が明確に意図されている。954は，黒曜石を素材とし，側辺の弧状の張り出しは見られない。抉りは僅かで浅い。955は，頁岩を素材とし，側辺の弧状の張り出しは見られないが，両側縁に鋸歯状の加工が施されている。抉りは深いが直線的に入る。

(2) 打製石斧（957）

957は，打製石斧である。両側縁部に結束のための抉り部が整形され，抉り部は使用により磨滅している。刃部は欠けており，そのあと部分的に再加工されている。

(3) その他（956）

956は，黒曜石を両面加工した二等辺三角形の分厚い石器である。長さが39mm，最大幅が22.5mmである。先端はにぶい。

## 第４節　弥生～古墳時代

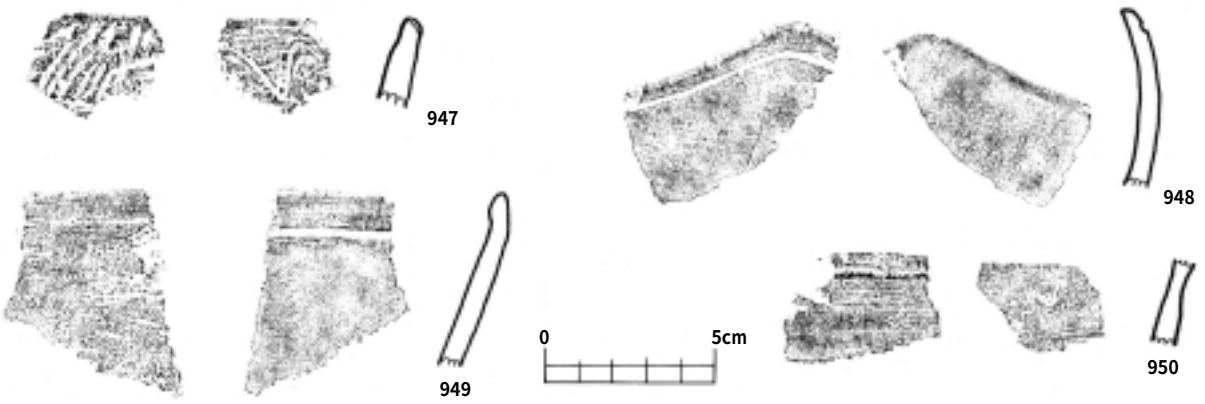
弥生時代から古墳時代にかけての調査は，旧道を剥ぎ取り，旧道建設により削平されていない調査区のⅠ層（現代の耕作土）を掘り下げた後，Ⅱ層の調査として実施した。遺物の出土状況が，F・G－8・9区に集中して見えるが，F・G－8・9区は，旧道の範囲からはずれた部分で，Ⅱ層が撹乱されていなかったためである。

1　遺構

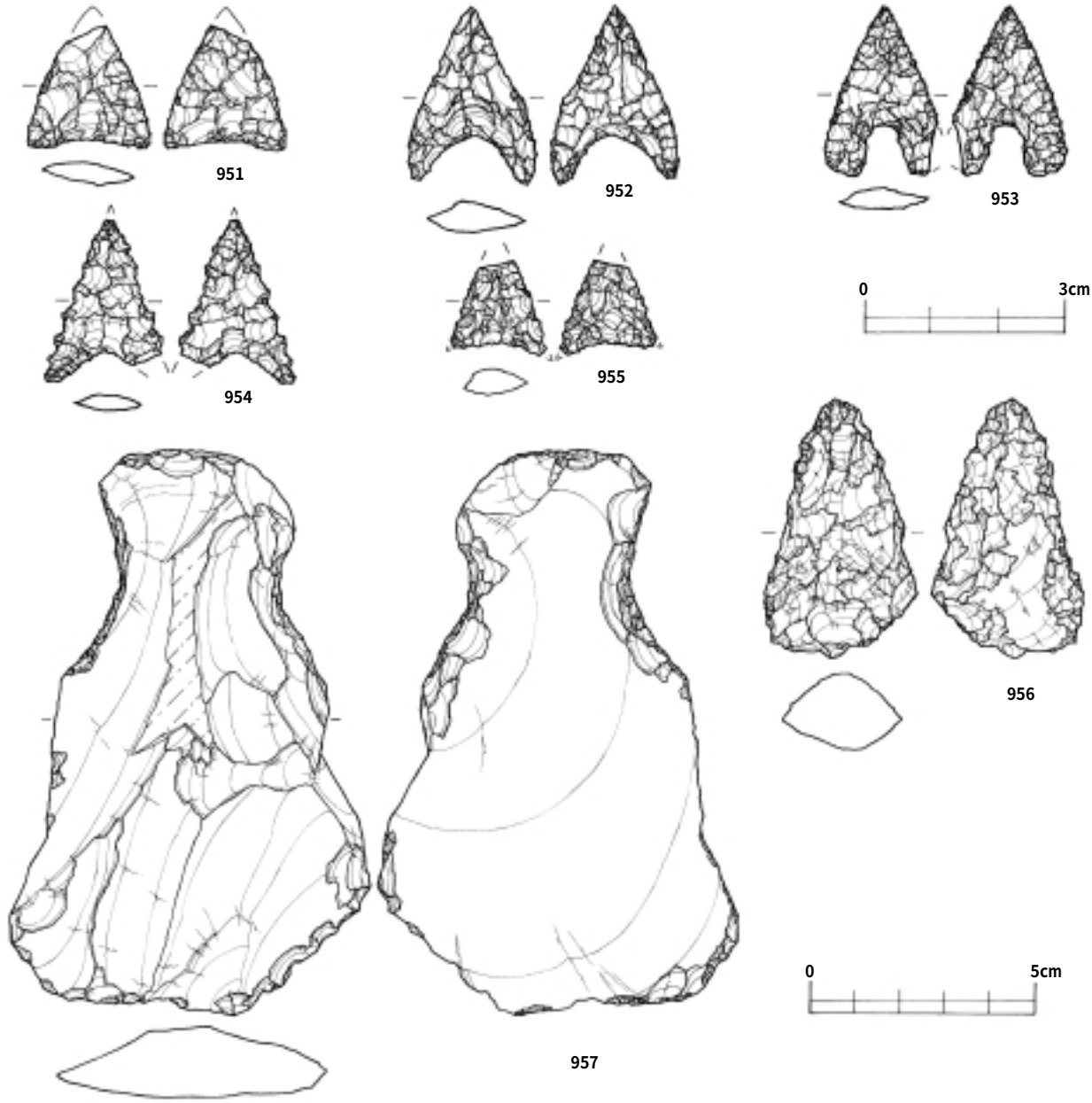
平成17年度の本調査の際に，E・F－12・13区で確認されていた竪穴住居跡と思われる遺構の調査を，平成19年度に継続して行った。

(1) 竪穴住居跡(第168図)

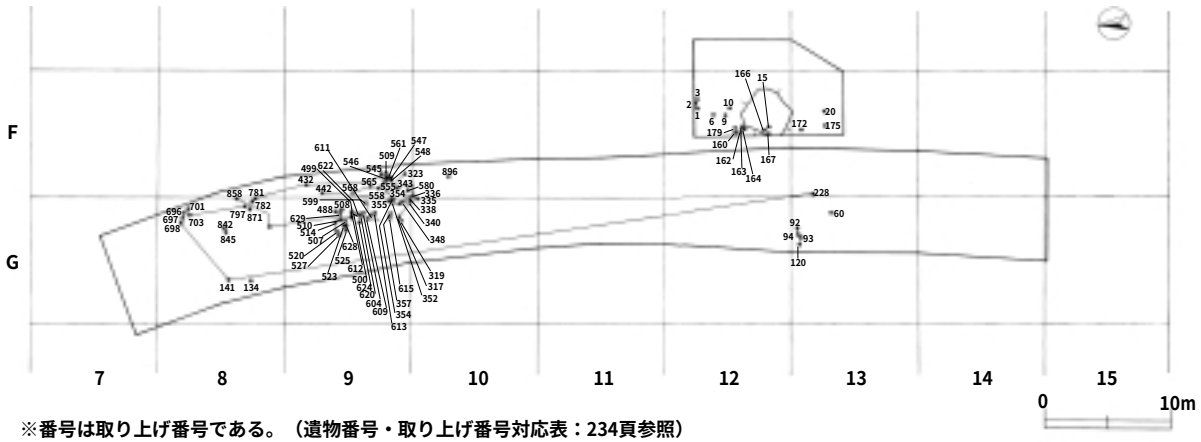
住居跡と考えられる遺構は，Ⅲ層上面で検出された。西側の一部を既設建造物の撤去が困難であったため調査することができなかったが，プランは，長軸が3.53m，短軸が3.20mの隅丸方形であると考えられる。床面は，検出面から18.0cmほど掘り込んであるが，実際の掘り込み検出面より上面であると考えられる。北西側には，掘り込みが床面より6cmほど浅い，長軸が2.2m，短軸が1.1mの略方形をしたベッド状の高まりがある。長軸を主軸とすると，主軸の方位は，N－53°－Eで




第165図　III層出土土器実測図・縄文時代




第166図　III層出土石器実測図・縄文時代




※番号は取り上げ番号である。（遺物番号・取り上げ番号対応表：234頁参照）

**第167図　弥生時代から古墳時代の遺構配置図及び遺物分布図**

ある。床面で柱穴の可能性が考えられるピットを8基検出した。このうち主柱穴と思われる2本のピットがあり，柱間隔は，52cmである。北側の柱穴は，直径が28cm，深さが32cmである。南側の柱穴は，直径が27cm，深さが32cmである。遺物は，土器が2点，石器が1点出土したが，床着ではない。

（2）住居跡内出土遺物（第169図　958～960）

住居内から，3点の遺物が出土した。958は，口縁部が逆L字状に屈曲する壺形土器である。垂れ下がり気味で内面は突出している。口唇部はややくぼんでおり，表面は丁寧に調整されている。959は，断面三角形の突帯が二条確認できる壷形土器の肩部である。資料から断定することはできないが，958の一部の可能性もある。

960は，頁岩を素材として用いた，加工痕がある剥片である。最大長12cm，最大幅7cm，最大厚1.5cmを測る。抉りの部分に両側からの加工が見られ，加工途中の打製石斧の可能性も考えられる。

2　遺物(第170，171図)

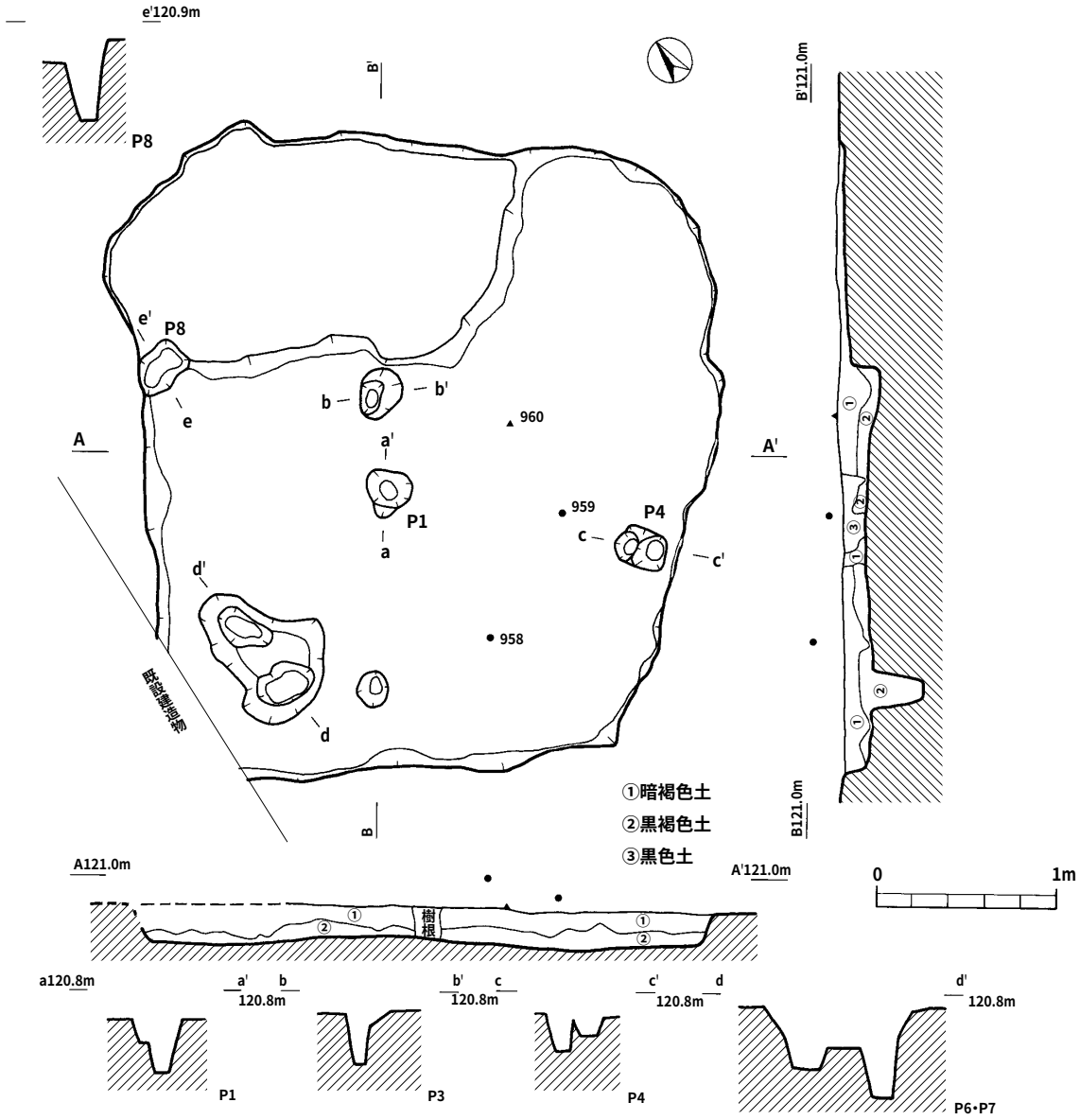
壺形土器，甕形土器などがⅡ層より出土した。包含層には，堆積に時期差を表すような明確な変化が見られなかったため，前回の発掘調査報告書の区分に準じ，時期別にまとめた。

961と962は，甕形土器の口縁部である。961は，口縁直径が25.5cmと小型で，断面舌状の口縁部が，上方へ傾き，内面の突出が顕著である。口唇先端は厚い。胴部は，復元できなかったが，口縁部から胴部にかけて張る方向に残存している口縁部から胴部にかけての器壁は薄く4㎜程である。胎土の粒は細かく，金雲母や角せん石が含まれている。962は，直径が38cmで断面舌状の口縁部が上方へ傾き，内面の突出が顕著であるが，口唇部先端が尖り気味である。頸部の器壁が薄い。胎土の粒は細かいが，金雲母や角せん石の粒の大きさが961と比して細かい。

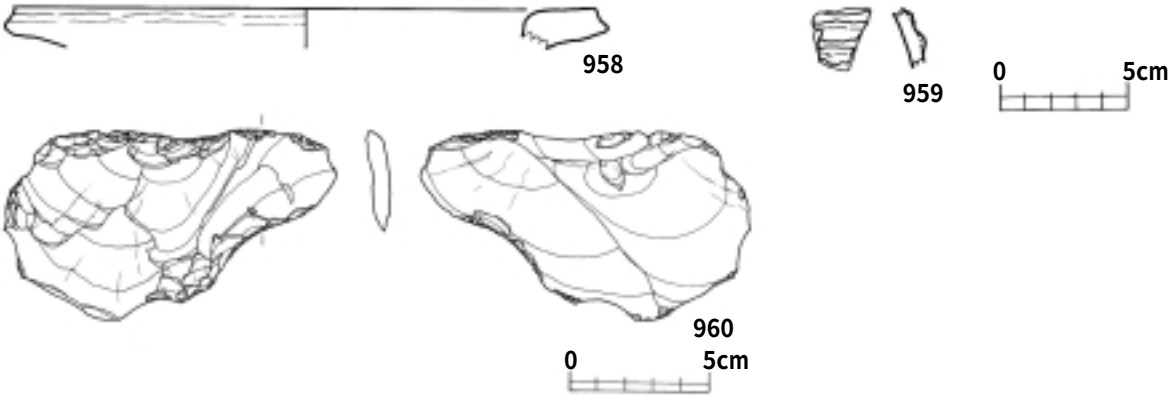
963は，二重の口縁となる甕形土器の胴部である。断面舌状の突帯が上方へ弧を描きせり上がる。表面には煤が付着している。

964は，口唇部から胴部までが残る口縁直径が30cmの甕形土器である。口縁部は断面方形で，上方へ傾き内面は屈曲し稜をもつ。胴部には断面が略三角形の突帯が2条巡らされている。口縁部と胴部の境目には，土器製作時の指圧痕が見られる。表面には，口縁部から突帯間，突帯直下までは，横位のヘラ磨き等の器面調整，胴部は斜位のヘラ磨きの器面調整が見られる。

965は，甕形土器の充実脚台で，端部がやや広がる形状である。内面には焦げ跡と思われる黒ず




第168図　竪穴住居跡実測図




第169図　住居跡内出土遺物実測図

みがみられる。966は，高坏形土器の脚部の一部と思われ，表面は横方向に丁寧なヘラ磨きが施され，朱色に塗られている。

967と968は，壺の口縁部から頸部にかけての部位で逆L字状を呈するが，やや外が下がっている。967の口縁部は厚みがあり，内面はやや突出している。頸部外面は，上下方向にヘラ磨きによると思われる調整が施されているが，内面の摩滅が激しい。復元口径は，18cmである。970の口縁部も967同様であるが，口唇部には凹線がみられる。頸部の口縁部側には，製作時に頸部と口縁部の境の補強のため付け足したと思われる粘土と圧着痕が見て取れる。頸部の器面調整は，上下方向のヘラ磨きである。復元口径は17.5cmである。969は，壺の肩部と思われる。三角形の突帯が三条巡らされている。

970から972は，縦方向の筋がみられる彩文土器と思われる資料である。器壁は薄く堅緻である。底は小さい平底で，底まで筋がみられる。

973と974は，甕形土器の口縁部である。立ち上がりの弱い「く」字形口縁で口縁部内面に弱い稜を形成している。973の口唇部は方形で，胎土には細かく微粒の角せん石が混在する。974の口唇部は円形で，胎土には細かく微粒の角せん石が混在する。裏面にハケ目調整が施されている。

975は，壺形土器の口縁部から頸部にかけての部位で，内面に稜は見られない。976は，壺の頸部から胴部までの部位である。突帯は巡らされていない。977は，胴部全体がアーモンド形の器形となる。胴部に断面三角形の刻目突帯が巡らされ丸底である。978は，安定した平底である。表面はハケ目調整が施されている。979は，丸底の底部である。表面には丁寧なヘラナデが施されている。

## 第５節　古代～中世

Ⅱ層直上から，古代から中世にかけての道跡と考えられる硬化面が検出された。遺物は，土師器，内黒土師器，内赤土師器，須恵器があり，墨書土師器も１点出土した。

### １　遺構

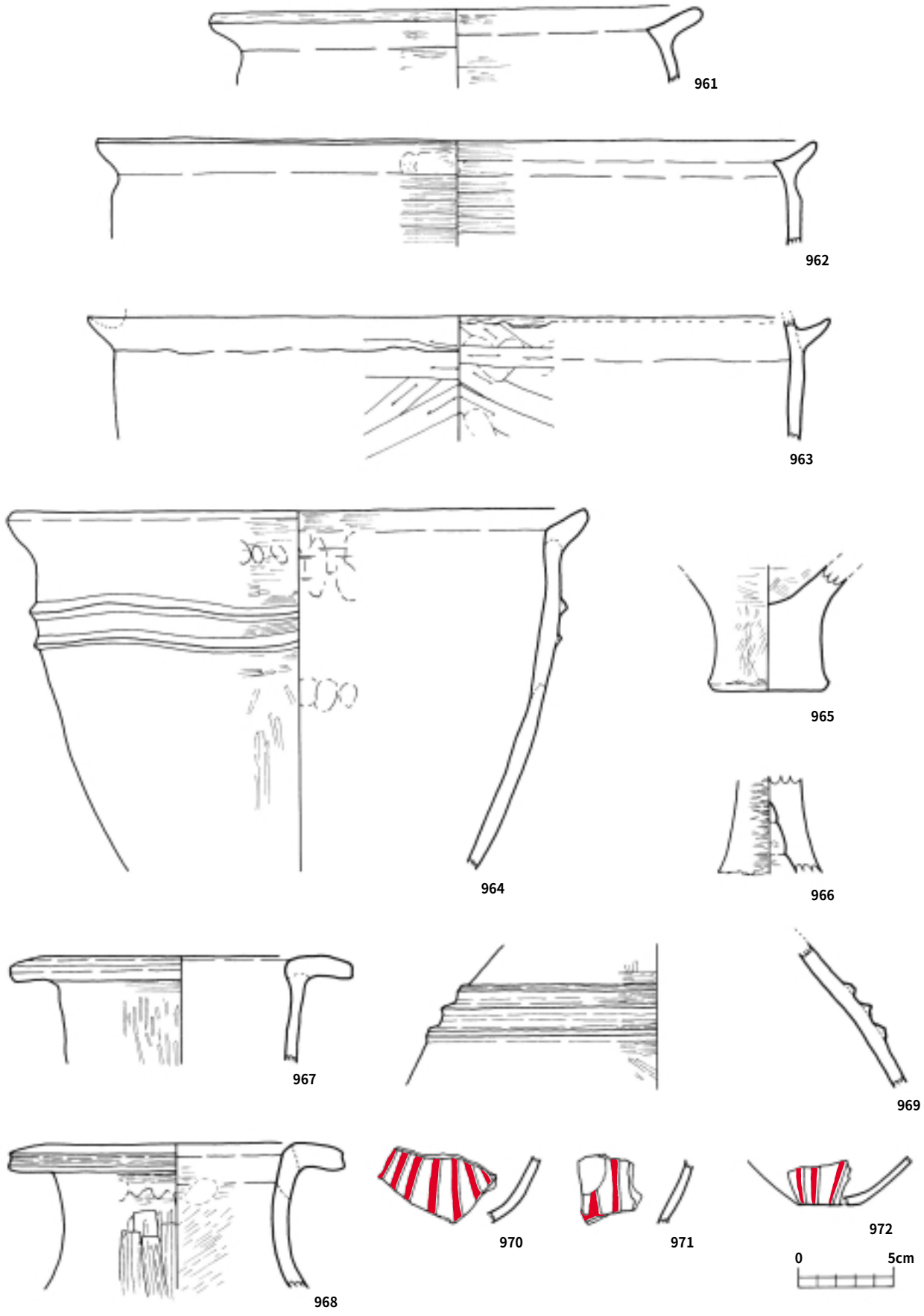
F・G－８～10区にかけて，道跡と考えられる硬化面及び，柱穴と思われるピットが20基検出された。

#### (1) 道跡（第173図）

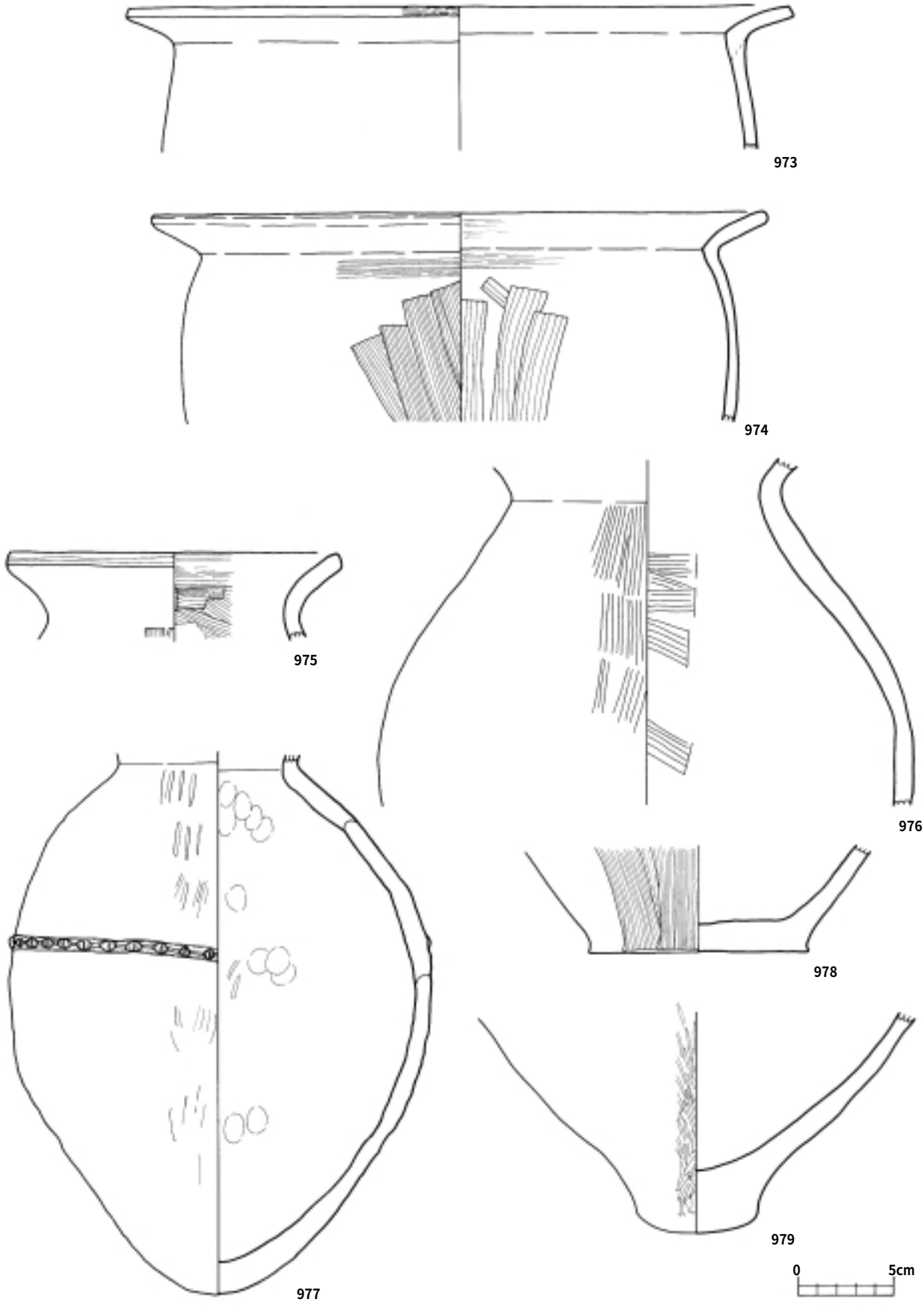
G・F－８～11区に，道跡と考えられる硬化面を検出した。時期は，硬化面で出土した遺物から古代から中世にかけての時期に該当すると考えられる。硬化面の様子から２層に大別した。１層は２層に比べて硬く，よく踏みしめられており，道幅は35cm～100cm程度である。G・F－10区で平成17年度の調査で検出された北東の方角から続く硬化面と交わる。G－11区に，僅かであるが調査区外に道跡が続くことをうかがわせる硬化面が残る。G－10・11区の道跡は旧道の建設のために削平されており検出できなかった。

#### (2) 柱穴（第174図）

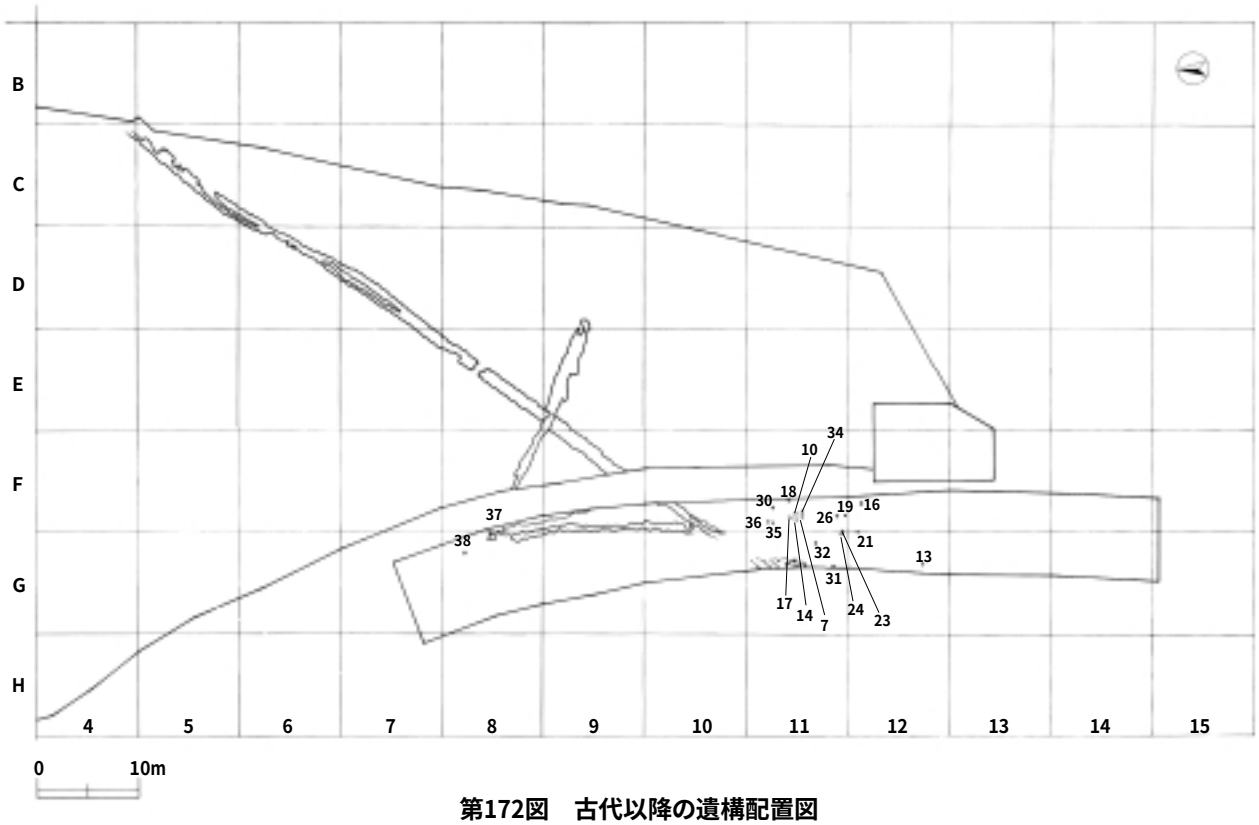
G－８区から2基，F－11区から12基，G－11区から３基，F－12区から１基，G－12区から２基の柱穴跡と考えられるピットが検出された。20基の柱穴の中から６基を図化した。いずれもⅢ層上面で検出し，埋土は，いずれもⅡ層の黒褐色土である。



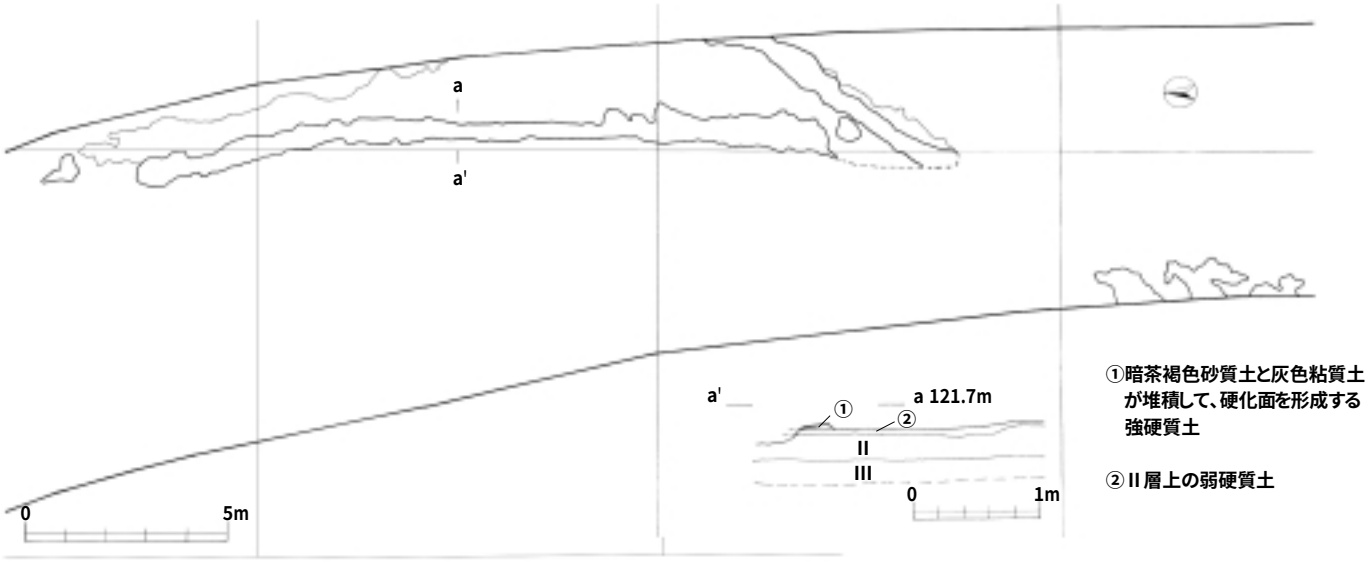

第170図　II層出土遺物実測図･弥生～古墳時代（1）



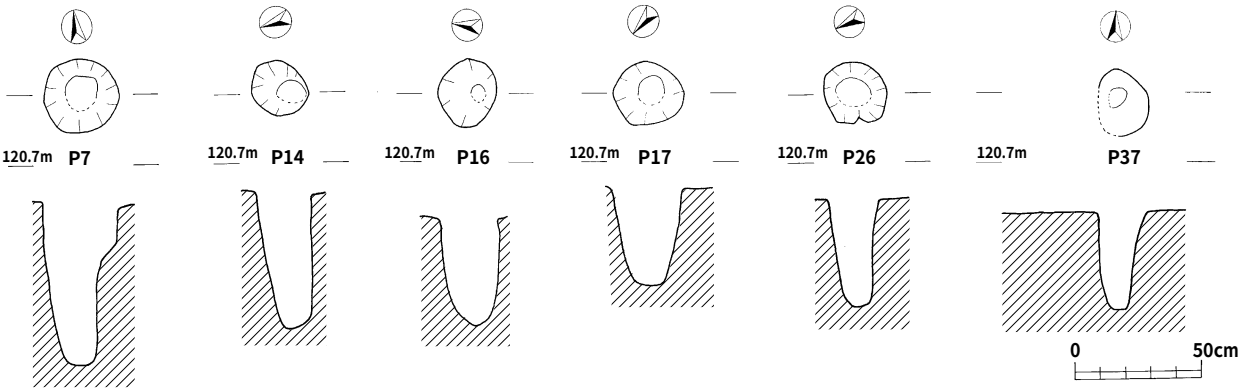

**第171図　II層出土遺物実測図･弥生～古墳時代（2）**



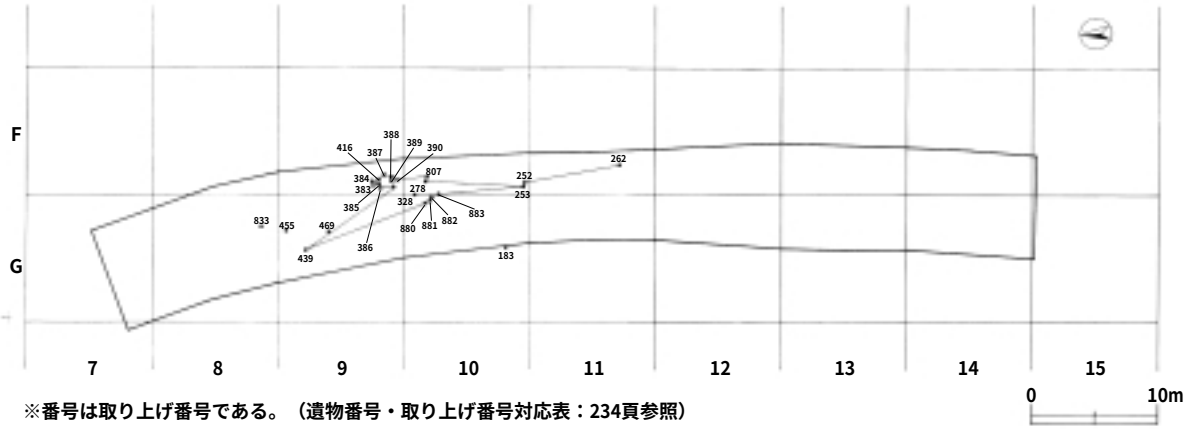

第172図　古代以降の遺構配置図




第173図　道跡実測図




第174図　ピット状遺構




※番号は取り上げ番号である。（遺物番号・取り上げ番号対応表：234頁参照）

**第175図　古代以降の遺物出土状況図**

| 番号 | 区 | 平面形 | 長軸 | 短軸 | 深さ | 番号 | 区 | 平面形 | 長軸 | 短軸 | 深さ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 37 | G－8 | 長丸円 | 28cm | 24cm | 43cm | 14 | F－11 | 円 | 25cm | 24cm | 59cm |
| 38 | G－8 | 円 | 31cm | 29cm | 27cm | 26 | F－11 | 歪円 | 27cm | 25cm | 47cm |
| 30 | F－11 | 楕円 | 60cm | 40cm | 41cm | 23 | F－11 | 楕円 | 24cm | 20cm | 23cm |
| 36 | F－11 | 円 | 32cm | 30cm | 52cm | 19 | F－11 | 歪円 | 26cm | 21cm | 26cm |
| 35 | F－11 | 楕円 | 31cm | 28cm | 54cm | 32 | G－11 | 楕円 | 27cm | 23cm | 43cm |
| 18 | F－11 | 楕円 | 31cm | 22cm | 40cm | 24 | G－11 | 長丸円 | 29cm | 21cm | 42cm |
| 10 | F－11 | 歪円 | 34cm | 29cm | 51cm | 31 | G－11 | 円 | 24cm | 23cm | 27cm |
| 17 | F－11 | 楕円 | 32cm | 27cm | 42cm | 16 | F－12 | 長丸円 | 29cm | 26cm | 47cm |
| 34 | F－11 | 楕円 | 34cm | 26cm | 33cm | 21 | G－12 | 円 | 25cm | 25cm | 35cm |
| 7 | F－11 | 円 | 33cm | 33cm | 70cm | 13 | G－12 | 歪円 | 22cm | 18cm | 41cm |

**第11表　堂園遺跡A地点ピット一覧表**

2　遺物（第176図）

(1) 墨書土器(980)

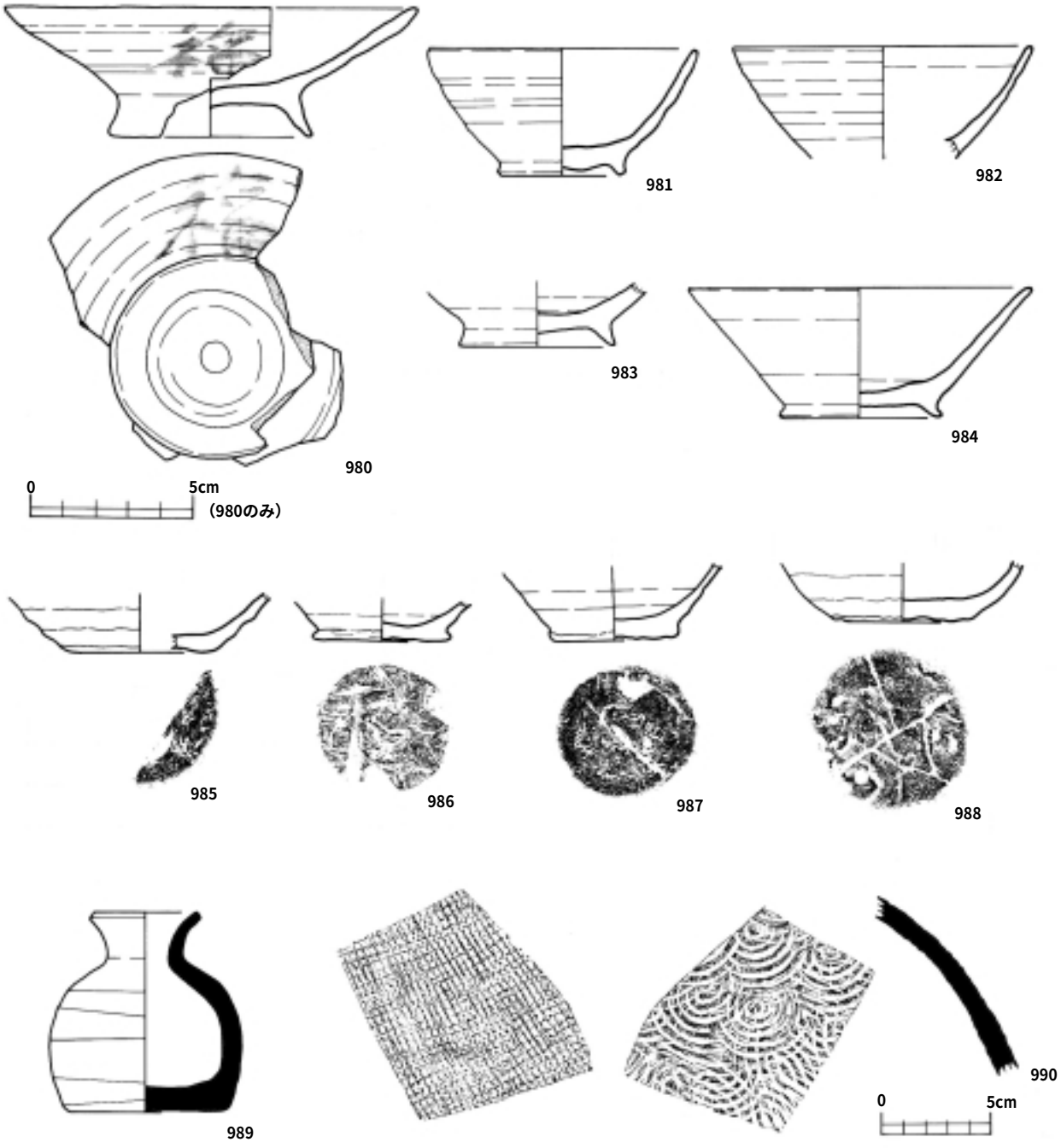
980は，外面に墨で「福」とも読み取れる文字が書かれた，内黒土師器の杯である。口径12.8cm，底径6.0cm，器高4.0cmである。内面は，丁寧に磨かれている。

(2) 土師器(981～988)

981は，輪高台をもつ椀である。口径12.4cm，底径5.6cm，器高5.3cmあり，内面に赤色の着色が残る。984は，口径15.2cm，底径7.1cm，器高6.0cmである。981と982・983は，内面に赤色の着色が残る。983は，輪高台を持つ底部で，982は，体部から口縁部にかけての小片であるが，982と同一個体の可能性もある。986と987は，高台は持たないが，底部に僅かの張り出しをもち，器形は底部の開き具合から椀に近い形が考えられる。987と986の底径は，それぞれ5.5cmと5.8cmであり，986の焼成は堅緻である。985と988は，高台をもたず，底部の開き具合から杯であると考えられる。いずれも底部の座り具合は安定せず，緻密さを感じない作りである。

(3) 須恵器（989・990）

989は，口縁部が一部欠損しているが，完形に近い小型の壺である。肩部の張り出しが強く，底部までほぼ直行する。口径4.8cm，底径7.6cm，器高9.1cmである。990は，外面にこまかい格子目タタキが施されたものであり，内面には同心円当て具痕が残る。




**第176図　古代以降出土遺物**

## 第12表　土器観察表（1）

| 挿図No | 遺物番号 | 類 | 出土区 | 層 | 調整 | | 色調 | | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | |
| 第10図 | 1 | 1 | B-7 | H6 | ていねいなヘラナデ | ヘラナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，茶石などの細石 | ニ条の凹線 |
| | 2 | 2 | D－4 | Ⅱ | ヘラナデ | 貝殻条痕 | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石多 | |
| | 3 | 2 | A-4 | H9 | ヘラナデ・貝殻条痕 | 貝殻条痕の後ヘラナデ | 黒褐色 | 灰褐色 | 火山ガラス，石英，灰白石などの細石 | |
| | 4 | 2 | C－13 | Ⅱd | 縦貝殻条痕 | 浅い貝殻条痕 | 黒っぽい明茶褐色 | 灰がかった明茶褐色 | 火山ガラス，白石，黄白石など細石の多い粗砂 | |
| | 5 | 2 | B－14 | Ⅱd | ヘラナデ | ヘラナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，角閃石，茶石などの細石 | |
| | 6 | 2 | B－6 | Ⅱd | ヘラナデ | ヘラナデ | 黒褐色 | 黒褐色 | 火山ガラス，石英などの細石 | スス付着 |
| | 7 | 2 | B－12 | Ⅱd | ヘラナデ | ヘラナデ | 灰がかった明茶褐色 | 灰がかった明茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 8 | 2 | B－4 | Ⅱd | ヘラナデ | ヘラナデ | 茶褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，白石などの細石 | |
| | 9 | 2 | B－12 | Ⅱd | ヘラ縦ナデ | ヘラ横ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石など細石の多い粗砂 | |
| | 10 | 2 | B－12 | Ⅱc | ヘラ縦ナデ | ヘラ横ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石など細石の多い粗砂 | |
| | 11 | 2 | C－12 | Ⅱd | ヘラナデ | 貝殻条痕 | 黒褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，白石，青灰石などの細石 | |
| | 12 | 2 | D－10・13 | Ⅱbd | 貝殻条痕 | ヘラナデ | 黄みがかる明茶褐色 | 黄みがかる明茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの細石 | |
| | 13 | 2 | C－5 | Ⅱb | 縦貝殻条痕 | 横貝殻条痕 | 黒褐色 | 一部暗茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石等の細石多 | |
| | 14 | 2 | C－11<br>C－6<br>B－5 | Ⅱc<br>Ⅱb<br>Ⅱb | 縦貝殻条痕 | 横貝殻条痕 | 黒褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄色などの細石 | |
| 第11図 | 15 | 2 | C－20 | Ⅲab | 縦貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 黒褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 16 | 2 | D-22 | Ⅱd | 貝殻条痕の後ヘラ縦ナデ | 貝殻条痕 | 黒褐色 | 黒褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 17 | 2 | C－11 | Ⅱc | 条痕の後ヘラ縦ナデ | 貝殻条痕 | 黒褐色 | 黄明茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの細石 | |
| | 18 | 2 | A－12 | Ⅱd | ヘラナデ | 貝殻条痕 | 黒褐色 | 黒褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 19 | 2 | C－6・7<br>D－7 | Ⅱa<br>Ⅱb | ていねいなヘラナデ | ヘラ横ナデ | 暗茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，白石，石英，茶石，青灰石などの細石 | スス付着 |
| | 20 | 2 | B－11<br>B－12 | Ⅱd | 縦貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 黄みの暗茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの細石 | スス付着 |
| | 21 | 2 | C－11 | Ⅱc | ヘラナデ | ヘラナデ | 暗黄茶褐色 | 暗黄茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石など細石の多い粗砂 | スス付着 |
| | 22 | 2 | B－12 | Ⅱd | ヘラナデ | 貝殻条痕の後ヘラナデ | 黒褐色 | 黄明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石，白石，角閃石などの細石 | |
| | 23 | 2 | B－12 | Ⅱd<br>Ⅱc | ヘラナデ | 貝殻条痕 | 黄褐色 | 黄褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの細石 | |
| | 24 | 2 | A－12<br>B－13 | Ⅱd<br>Ⅱc | 貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 黒褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，白石，黄白石，石英，茶石などの細石 | |
| 第12図 | 25 | 2 | B・C－9・10など | Ⅱa～d | 貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，白石などの細石 | スス付着 |
| | 26 | 2 | B－10<br>A－9 | Ⅱd<br>Ⅱd | 貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，白石などの砂質土 | スス付着 |
| | 27 | 2 | A－10 | Ⅱd | 縦貝殻条痕 | 横・縦貝殻条痕 | 黒褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| | 28 | 2 | B－17 | Ⅱc | 縦貝殻条痕 | 横貝殻条痕 | 黄みの明茶褐色 | 黄みの明茶褐色 | 白石，角閃石などの小石 | スス付着 |
| | 29 | 2 | B－10・12 | Ⅱd | 縦貝殻条痕 | 横貝殻条痕 | 茶黒褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，白石など細石の多い粗砂 | |
| 第13図 | 30 | 2 | A・B－7・8 | Ⅱa～d | 条痕後ナデ | 条痕後ナデ | 黄明茶褐色 | 黄明茶褐色 | 火山ガラス，白石，黄白石，茶石などの細石 | スス付着 |
| | 31 | 2 | B－10 | Ⅱd | 縦貝殻条痕 | 横貝殻条痕 | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの粗砂 | |
| | 32 | 2 | B－5 | Ⅱc | 縦貝殻条痕 | 横貝殻条痕 | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，白石，角閃石，青灰石などの砂質土 | スス付着 |
| | 33 | 2 | A－8 | H8 | 貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 茶褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 34 | 2 | A－10 | Ⅱd | 貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 35 | 2 | B－12 | Ⅱd | ヘラナデ | 貝殻条痕 | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，石英などの細石 | 外に白粉 |
| | 36 | 2 | C－13 | Ⅱd | ヘラナデ | 貝殻条痕 | 灰明褐色 | 黒褐色 | 火山ガラス，黄白石，角閃石などの細石 | |
| | 37 | 2 | B－5 | H4 | 貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 赤淡茶褐色 | 黒褐色 | 火山ガラス，青灰石，黄白石などの細石 | |
| 第14図 | 38 | 3 | A－3 | Ⅱd | 縄文 | ヘラナデ | 黒灰褐色 | 黒灰褐色 | 白石，石英などの細石多い特異な粗砂 | |
| | 39 | 3 | B－6 | H5 | ていねいなナデ | ヘラ縦ナデ | 灰黄褐色 | 灰黄褐色 | 白石，石英など細石の多い特異な粗砂 | |
| | 40 | 4 | B－22 | Ⅱd | 粗いヘラ縦ナデ | 貝殻条痕，ヘラナデ | 黄淡茶褐色 | 黄淡茶褐色 | 火山ガラス，白石，黄白石，茶石などの細石 | |
| | 41 | 4 | C－16 | Ⅱd | ていねいなヘラナデ | ケズリ後ヘラ横ナデ | 黄み明褐色 | 黄み明褐色 | 火山ガラス，白石，黄白石などの小石 | |
| | 42 | 4 | B－5 | Ⅱd | ヘラナデ | ヘラナデ | 灰淡茶褐色 | 灰淡茶褐色 | 火山ガラス，白石などの砂質土 | スス付着 |
| | 43 | 4 | D－17 | Ⅱd | ナデ | ヘラ押圧ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | 網代あり |
| | 44 | 5 | C－15 | Ⅱb | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，白石などの細石 | スス付着 |
| | 45 | 5 | C－15 | Ⅱb | ヘラ縦ナデ | ヘラ横ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | スス付着 |
| | 46 | 5 | C－10 | Ⅱd<br>Ⅱb | 条痕後ヘラナデ | 貝殻条痕 | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | 指圧痕 |

# 第13表　土器観察表（2）

| 挿図No | 遺物番号 | 類 | 出土区 | 層 | 調整 | | 色調 | | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | |
| 第14図 | 47 | 6 | C. D−17〜22 | イモ穴 | ヘラナデ | ヘラナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石など細石の多い砂質土 | |
| 第15図 | 48 | 6 | D−7 | Ⅱa | ヘラナデ | ヘラナデ | 淡茶褐色 | 灰黒褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| | 49 | 6 | A〜C | 14〜16 | ヘラナデ | ヘラナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 石英，白石などの細石 | |
| | 50 | 6 | A−13 | H17 | ヘラ縦ナデ | ヘラ横ナデ | 黒明茶褐色 | 赤明茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの細石 | |
| | 51 | 7 | D−7 | Ⅱa | ヘラナデ | ヘラナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | スス付着 |
| | 52 | 8 | C−15 | Ⅱb | ていねいなヘラナデ | ていねいなヘラナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの小石 | |
| | 53 | 8 | C−15 | Ⅱd | ていねいなヘラナデ | ていねいなヘラナデ | 暗茶褐色 | 暗茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの細石 | スス付着 |
| | 54 | 8 | C−15 | Ⅱd<br>Ⅱb | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの小石 | |
| | 55 | 8 | 4T | Ⅱ | ていねいなヘラ縦ナデ | ヘラ横ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの小石 | |
| | 56 | 9 | C−17 | Ⅱd | ていねいなヘラ横ナデ | ていねいなヘラ横ナデ | 淡黄茶褐色 | 淡黄茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，青灰石などの細石 | |
| | 57 | 9 | B−10 | 表 | ヘラナデ | ヘラナデ | 淡茶褐色（やや黒） | 淡茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 58 | 9 | B−14 | Ⅱd | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 淡茶褐色（やや黒） | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，灰白石などの細石 | |
| | 59 | 9 | B−11 | Ⅱd | ていねいなヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石などの細石 | |
| | 60 | 10 | B−11 | Ⅱc | ヘラ横ナデ | 繊維状ハケ横ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，灰白石，茶石などの細石 | スス付着 |
| 第16図 | 61 | 11 | C−13 | Ⅱc<br>Ⅱd | ヘラ縦ナデ | ヘラケズリに近いナデ | 暗灰褐色 | 黄明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，白石，石英などの細石 | スス付着 |
| | 62 | 11 | B−11 | Ⅱd | 貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，灰青石，黄白石，茶石などの細石 | |
| | 63 | 11 | C−16 | Ⅱb<br>Ⅱd | 貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 紫明茶褐色 | 紫明茶褐色 | 火山ガラス，白石，角閃石などの細石 | |
| | 64 | 11 | B−15<br>C−14・15 | Ⅱd<br>Ⅱc，Ⅱd | ヘラ斜めケズリ | ヘラ横ナデ | 赤茶褐色 | 赤茶褐色 | 火山ガラス，白石などの粗砂質土 | |
| | 65 | 11 | B−13 | ⅡC | 貝殻条痕 | 貝殻条痕の後ヘラ横ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，角閃石，白石などの細石 | |
| | 66 | 11 | B−10 | Ⅱd | ヘラケズリ | 貝殻条痕 | 黄みがかった淡灰褐色 | 黄みがかった淡灰褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 67 | 11 | C−16 | Ⅱd | ヘラナデ | 貝殻条痕 | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石などの細石 | |
| | 68 | 11 | C−23 | Ⅱd | ヘラ横ナデ | ていねいなヘラ横ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，青灰白石などの細石 | |
| | 69 | 11 | A−9 | Ⅱd | ヘラナデ | ヘラケズリ | 赤淡茶褐色 | 赤淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| | 70 | 11 | B−10 | Ⅱd | ヘラ横ナデ | ヘラケズリ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| 第17図 | 71 | 11 | B−13 | Ⅱc | ていねいな横ナデ | ヘラ横ナデ | 黄明茶褐色 | 黄明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| | 72 | 11 | C−17 | Ⅱd | ていねいなヘラナデ | ヘラケズリ | 黄明茶褐色 | 黄明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石，灰青石などの細石 | スス付着 |
| | 73 | 11 | B−16<br>C−15 | Ⅱd<br>Ⅱb | ヘラナデ | ヘラ横ナデ | 暗茶褐色 | 灰黒褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| | 74 | 11 | C−15 | Ⅱb<br>Ⅱd | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 赤っぽい淡茶褐色 | 赤っぽい淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | スス付着 |
| | 75 | 11 | C−16 | Ⅱb<br>Ⅱd | ヘラ横ナデ | ヘラナデ | 茶褐色 | 明茶褐と灰褐色 | 火山ガラス，灰白石，茶石，黄白石などの細石 | |
| | 76 | 11 | C−16・17 | Ⅱbd | ヘラ横ナデ（粗い） | ヘラ横ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石などの細石 | |
| | 77 | 11 | B−11 | Ⅱd | ていねいなヘラ横ナデ | ヘラナデ | 赤淡茶褐色 | 赤淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石などの細石 | |
| | 78 | 11 | C−17 | Ⅱb | ヘラナデ | ヘラナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，角閃石などの細石 | |
| | 79 | 11 | B−13<br>AB，13〜15 | Ⅱc<br>表 | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，角閃石などの細石 | |
| | 80 | 11 | B−11 | Ⅱbd | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 茶褐色 | 黄淡茶褐色 | 黄白石，石英，白石などの砂質土 | スス付着 |
| 第18図 | 81 | 11 | D−18 | Ⅱb〜d | ナデ | ヘラナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| | 82 | 11 | A−3 | Ⅱd | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰黄褐色 | 灰黄褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 83 | 11 | A−12<br>D−14 | カクラン<br>Ⅱa | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰明茶褐色 | 灰明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石などの細石 | スス付着 |
| | 84 | 11 | A−11<br>B−10 | Ⅱc<br>Ⅱd | ヘラ縦ナデ | ヘラ横ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石，白石などの細石 | |
| | 85 | 11 | B−9・10 | Ⅱcd | ていねいなヘラナデ | ヘラ横ナデ | 乳茶褐色 | 乳茶褐色 | 火山ガラス，茶石，灰白石，白石などの細石 | |
| | 86 | 11 | C−15 | Ⅱd | ヘラ縦ナデ | 貝殻条痕の後部分的にナデ | 灰明茶褐色 | 灰明茶褐色 | 火山ガラス，茶石，黄白石など細石の多い砂質土 | |
| | 87 | 11 | B−10 | Ⅱc<br>Ⅱd | 貝殻条痕後粗いナデ | ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 88 | 11 | B−17 | Ⅱb | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石，灰白石などの細石 | |
| 第19図 | 89 | 11 | A−9 | Ⅱd | ケズリ風ヘラ縦ナデ | ケズリ風ヘラ横ナデ | 茶褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，白石，角閃石などの細石 | |

## 第14表　土器観察表（3）

| 挿図No | 遺物番号 | 類 | 出土区 | 層 | 調整 | | 色調 | | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | |
| 第19図 | 90 | 11 | C−11･12 | Ⅱd | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 黄明茶褐色 | 黄明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石などの細石 | |
| | 91 | 11 | C−16 | Ⅱb<br>Ⅱd | ヘラナデ | ヘラナデ部分的にハケ目 | 黒褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，茶石，白石，角閃石などの細石 | |
| | 92 | 11 | A−10 | H23 | ヘラナデ | 粗い貝殻条痕 | 黄明茶褐色 | 黄明茶褐色 | 火山ガ，白石，石英，黄白石，茶石などの細石 | |
| | 93 | 11 | C−12 | Ⅱd | ヘラ斜めナデ | ヘラ横ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，茶石，灰白石など細石の多い砂質土 | |
| | 94 | 11 | C−17 | Ⅱd | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，灰青石，茶石などの細石 | スス付着 |
| 第20図 | 95 | 11 | C−16 | Ⅱabd | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，白石，黄白石などの細石 | スス付着 |
| | 96 | 11 | C−13･16 | Ⅱbc | ていねいなヘラ横ナデ | 粗いナデ | 黄明茶褐色 | 黄明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，角閃石などの細石 | |
| | 97 | 11 | C−15 | Ⅱc | 粗いヘラナデ | ヘラ横ナデ | 明茶褐色 | 黄明茶褐色 | 石英，黄白石，茶石などの細石 | |
| | 98 | 11 | C−12 | Ⅱd | ていねいなヘラナデ | 貝殻条痕の後ヘラ横ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの細石 | |
| 第21図 | 99 | 11 | B−13 | Ⅱc | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 黄みがかった明茶褐色 | 黄みがかった明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，灰白石などの砂質土 | |
| | 100 | 11 | A−9 | Ⅱd | ヘラナデ | ヘラケズリ | 赤茶褐色 | 赤茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| | 101 | 11 | B−14 | Ⅱb | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 黒みがかった淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石などの細石 | |
| | 102 | 11 | A−C<br>13〜16 | Ⅱ | ていねいなナデ | ていねいなナデ，ヘラケズリ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，灰白石などの細石 | |
| | 103 | 11 | B−12 | Ⅱc | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 黄褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | スス付着 |
| | 104 | 11 | C−15 | Ⅱd | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 黄明茶褐色 | 黄明茶褐色 | 火山ガラス，石英，黄白石などの細石 | |
| | 105 | 11 | A−9 | Ⅱd | ヘラ縦ナデ | ヘラ縦ナデ | 茶褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | スス付着 |
| 第22図 | 106 | 11 | C−17 | Ⅱa〜d | 粗いナデ，ヘラケズリ | 貝殻条痕後ヘラナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，角閃石などの細石 | スス付着 |
| | 107 | 11 | B−14 | Ⅱd | ていねいなヘラ縦ナデ | ていねいなヘラ横ナデ | 明黄っぽい灰褐色 | 明黄っぽい灰褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石，青灰石などの細石 | |
| | 108 | 11 | B−13 | Ⅱc | ていねいなナデ | やや粗いナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，白石，茶石などの細石 | |
| 第23図 | 109 | 11 | C−16 | Ⅱd | ヘラナデ | 粗いヘラ横ナデ | 黄みがかった明茶褐色 | 黄みがかった明茶褐色 | 火山ガラス，白石，黄白石，茶石などの細石 | スス付着 |
| | 110 | 11 | B−11 | Ⅱd | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 黄茶褐色 | 黄茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 111 | 11 | 5T | ⅡⅢ | ナデ，ケズリ | ていねいなヘラナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，角閃石，茶石などの細石 | |
| | 112 | 11 | C−16 | Ⅱb | ていねいなヘラナデ | ヘラ横ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラスなどの細砂質土 | |
| | 113 | 11 | A−8 | Ⅱc | ていねいなヘラ横ナデ | ていねいなヘラ横ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの細石 | |
| | 114 | 11 | C−17 | Ⅱc | ヘラナデ | ヘラケズリ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石などの細石 | |
| | 115 | 11 | C−12 | H22 | ていねいなヘラナデ | ヘラナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| | 116 | 11 | C−15 | Ⅱc | ヘラナデ | ヘラ縦ナデ | 茶褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| 第24図 | 117 | 11 | A−9 | Ⅱd | ヘラナデ | ヘラナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，角閃石，黄白石などの細石 | |
| | 118 | 11 | C−15 | Ⅱb〜c | ヘラナデ | ヘラナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，白石などの細石 | |
| | 119 | 11 | B−13 | Ⅱc | ナデ | | 茶褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，白石などの細石 | |
| | 120 | 11 | C−16 | Ⅱd | ていねいなナデ | ていねいなナデ | 茶褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，白石などの細石 | |
| | 121 | 11 | A−15 | Ⅱc | ヘラ縦ナデ | ヘラナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，角閃石などの細石 | |
| | 122 | 11 | C−17 | Ⅱa<br>Ⅱb | ヘラナデ | ていねいな横ヘラナデ | 茶褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，白石，黄白石などの細石 | |
| | 123 | 11 | B−11 | Ⅱd | ヘラナデ | ヘラナデ | 黄みがかった明茶褐色 | 黄みがかった明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石などの細石 | |
| | 124 | 11 | B−16 | Ⅱd | ハケナデ，ヘラケズリ | 貝殻条痕 | 黄みがかった明茶褐色 | 黄みがかった明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石，角閃石などの小石 | |
| | 125 | 11 | D−16 | Ⅱc | ヘラナデ | ヘラナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石，白石などの小石 | |
| | 126 | 11 | C−16 | Ⅱd | 網代 | ヘラナデ | 淡茶褐色 | 黒灰色 | 火山ガラス，黄白石，茶石などの細石 | |
| | 127 | 11 | B−14 | Ⅱb | ていねいなヘラナデ | ていねいなヘラナデ | 茶褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，灰白石，茶石などの小石 | |
| | 128 | 11 | B−15 | Ⅱc | 鯨骨 | ヘラナデ | 茶褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，角閃石，黄白石などの細石 | |
| | 129 | 11 | D−7 | Ⅱac | ケズリ後ナデ | ナデ | 黄っぽい明茶褐色 | 黄っぽい明茶褐色 | 火山ガラス，白石，石英などの細石 | |
| | 130 | 11 | B−8 | H7 | ヘラナデ | 貝殻条痕 | 茶褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，白石，石英などの細石 | |
| | 131 | 11 | D−17 | Ⅱd | ていねいなナデ | 貝殻条痕後ヘラナデ | 乳茶褐色 | 乳茶褐色 | 火山ガラス，白石，角閃石などの細石 | |
| | 132 | 11 | D−18 | Ⅱbcd | ヘラナデ | ヘラナデ | 淡茶褐色 | 黒褐色 | 火山ガラス，黄白石，白石，茶石などの細石 | |
| | 133 | 11 | D−18 | Ⅱc | 貝殻条痕，ナデ | 貝殻条痕，ナデ | 淡茶褐色 | 灰黒褐色 | 火山ガラス，石英，青灰石，黄白石などの細石 | |
| 第25図 | 134 | 12 | D−18 | Ⅱc | ヘラ横ナデ | ケズリ | 茶褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，白石，茶石などの細石 | |
| | 135 | 12 | B−17 | Ⅱc | 貝殻条痕 | 貝殻条痕，ヘラナデ | 黒灰色 | 黒灰色 | 火山ガラス，黄白石，白石などの細石 | |
| | 136 | 12 | A−7 | Ⅱd | 貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| | 137 | 12 | C−17 | Ⅱc | 貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 黄灰褐色 | 黄灰褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 138 | 12 | B〜D<br>7〜8 | 表 | ていねいなヘラナデ | ていねいなヘラナデ | 黒褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの細石 | |
| | 139 | 13 | C〜D | Ⅱd | ケズリ，ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 黒淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |

## 第15表　土器観察表（4）

| 挿図No | 遺物番号 | 類 | 出土区 | 層 | 調整 | | 色調 | | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | |
| 第25図 | 140 | 13 | D－18 | Ⅱb<br>Ⅱc | 貝殻条痕，ヘラ横ナデ | 貝殻条痕，ヘラ横ナデ | 明茶褐色 | 黒褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの細石 | |
| | 141 | 13 | D－18 | Ⅱc<br>Ⅱb | 貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 明茶褐色 | 黒褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| | 142 | 13 | C－12 | Ⅱa | 貝殻条痕，ヘラナデ | 貝殻条痕，ヘラナデ | 灰茶褐色 | 灰茶褐色 | 火山ガラス，白石，黄白石，石英などの細石 | |
| | 143 | 13 | C－16 | Ⅱd | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 黒褐色 | 暗茶褐色 | 火山ガラス，白石，黄白石などの細石 | |
| | 144 | 13 | C－14 | Ⅱc | ヘラナデ | ていねいなヘラ横ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | スス付着 |
| | 145 | 13 | A･B－9 | Ⅰ･Ⅱd | ていねいなヘラ横ナデ | ていねいなヘラ横ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，白石，石英などの細石 | |
| 第26図 | 146 | 13 | D･E－25 | Ⅱd | ヘラナデ | ケズリ，ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，白石，黄白石などの細石 | |
| | 147 | 13 | B－11 | Ⅱd | 貝殻条痕ていねいなヘラナデ | 貝殻条痕，ヘラナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，白石，茶石などの細石 | |
| | 148 | 13 | B－13 | Ⅱc<br>Ⅱb | 貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 149 | 13 | D－19 | Ⅲb | ていねいなヘラナデ | ていねいなヘラナデ | 灰がかった淡茶褐色 | 灰がかった淡茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの細石 | |
| | 150 | 13 | D－18 | Ⅱc | 貝殻条痕，ヘラナデ | 貝殻条痕，ヘラナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| | 151 | 13 | B･D－18･19 | Ⅱcd | 貝殻条痕 | 貝殻条痕，ヘラナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | スス付着 |
| | 152 | 13 | D－25 | Ⅱd | 貝殻条痕ヘラ縦斜めナデ | 貝殻条痕，ヘラ横ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，茶石，黄白石などの細石 | |
| | 153 | 13 | D－17 | Ⅱd<br>Ⅱc | 貝殻条痕後ヘラナデ | 貝殻条痕後ヘラナデ | 黄みがかった茶褐色 | 黄みがかった茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| 第27図 | 154 | 13 | D－21 | Ⅱd | 貝殻条痕後ナデ | ヘラ横ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| | 155 | 13 | C－14 | Ⅱc | 貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 茶褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，黄白石，茶石などの細石 | |
| | 156 | 13 | D－18 | Ⅱcd | 貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 淡褐色 | 淡褐色 | 火山ガ，黄白石，灰黄白石，茶石，角閃石などの細石 | |
| 第28図 | 157 | 13 | D－20 | Ⅲa | ヘラナデ | 貝殻条痕 | 茶褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 158 | 13 | A－9 | Ⅱc | ヘラ横ナデ | ケズリ風ヘラ横ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 159 | 13 | B－9 | Ⅱd | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 淡茶褐色 | 黄淡茶褐色 | 火山ガラス，角閃石，黄白石などの細石 | |
| | 160 | 13 | C－22･23 | Ⅱd | 指圧痕，ナデ，貝殻条痕 | 貝殻条痕の後ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，白石，黄白石，角閃石などの細石 | |
| | 161 | 13 | B－10 | Ⅱd | ナデ | ていねいなヘラ横ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石など金雲母の多い粗砂質土 | |
| | 162 | 13 | C－12 | Ⅱbcd | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 163 | 13 | C－15，16<br>B－15 | Ⅱbcd | 粗いヘラ横ナデ | 粗いヘラ縦ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 164 | 13 | C－13 | Ⅱd | ヘラナデ | ヘラナデ | 黄色っぽい明茶褐色 | 黄色っぽい明茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 165 | 13 | A－13 | Ⅱd | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 茶がかった黒灰色 | 茶がかった黒灰色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 166 | 13 | C－7 | Ⅱa | ヘラナデ | ヘラナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，角閃石，石英などの細石 | |
| | 167 | 13 | C－D7 | Ⅱd | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| | 168 | 13 | D－17 | Ⅱd | 貝殻条痕 | 貝殻条痕後ナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 169 | 13 | 5T | Ⅲ | ヘラナデ | 粗いヘラナデ | 茶褐色 | 灰褐色 | 火山ガラス，黄白石，白石などの細石 | 土製品 |
| 第29図 | 170 | 14 | B－12 | Ⅱbc | ていねいな横ヘラナデ | ていねいな横ヘラナデ | 黄褐色 | 黄褐色 | 火山ガラス，白石，灰白石，角閃石などの細石 | |
| | 171 | 14 | B－12 | Ⅱc | ていねいな横ヘラナデ | ていねいな横ヘラナデ | 黄みがかった灰黒褐色 | 黄みがかった灰黒褐色 | 角閃石，白石などの細石 | |
| | 172 | 15 | B－8 | Ⅱa | ていねいなヘラナデ | ヘラナデ | 茶褐色 | 茶褐色 | 火山ガラス，白石などの細石 | |
| | 173 | 16 | D－7 | Ⅱa | 貝殻条痕 | 貝殻条痕 | 暗い黄茶褐色 | 暗い黄茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの細石 | |
| | 174 | 16 | D－7 | Ⅱa | ヘラナデ | 貝殻条痕 | 暗茶褐色 | 暗茶褐色 | 火山ガラス，白石など金雲母の多い粗砂 | |
| | 175 | 16 | D－7 | Ⅱa | ヘラナデ | ヘラケズリ | 黄みがかった明茶褐色 | 黄みがかった明茶褐色 | 黄白石，金雲母，石英などの細石 | |
| | 176 | 16 | D－7 | Ⅱa | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 黒褐色 | 黒褐色 | 火山ガラス，金雲母，白石などの細石 | |
| | 177 | 16 | D－7 | Ⅱa | ていねいなヘラナデ | ヘラナデ | 明茶褐色 | 明茶褐色 | 黄白石，金雲母，石英などの細石 | |
| | 178 | 16 | D－7 | Ⅱa | ヘラナデ | ヘラナデ | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 火山ガラス，白石，茶石などの細石 | |
| | 179 | 16 | D－7 | Ⅱa | ヘラナデ | ヘラケズリ | 黄みがかった明茶褐色 | 黄みがかった明茶褐色 | 黄白石，金雲母など石英を含む細石 | |
| | 180 | 17 | A－5 | H16 | ヘラ横ナデ | ていねいなヘラ横ナデ | 茶褐色 | 明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| | 181 | 17 | A－7 | Ⅱd | ていねいなヘラナデ | ヘラナデ | 黄っぽい明茶褐色 | 黄っぽい明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |
| | 182 | 17 | B－10 | Ⅱd | ヘラナデ | ヘラナデ | 黄っぽい明茶褐色 | 黄っぽい明茶褐色 | 火山ガラス，黄白石などの細石 | |

# 第16表　土器観察表（5）

| 挿図No | 掲載No | 出土区 | 層 | 遺構L1 | 遺構L2 | 遺構L3 | 調整(外) | 調整(内) | 色調(外) | 色調(内) | 胎　土 | 取上No | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第48図 | 336 | C-3<br>C-3 | | SH-01<br>SH-01 | 埋土1<br>埋土3 | | 細目のタテハケ目→ナデ,ヨコ調整 | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | 茶褐色,暗褐色 | 茶褐色,暗茶褐色 | 輝石,細粒,赤粒 | 9796ほか<br>12695ほか | 外:スス付着 |
| | 337 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | タテ調整→タテヘラナデ,ヨコヘラナデ | タテハケ目,ヨコヘラナデ | 茶褐色,暗黄褐色 | 茶褐色 | 雲母,角閃石,砂粒 | 4650 | |
| | 338 | C-4 | | SH-01 | 埋土1 | | タテケズリ→タテヘラナデ,ヨコヘラナデ | 細目のタテハケ目 | 茶褐色 | 暗茶褐色 | 角閃石,輝石,赤粒 | 2830ほか | |
| | 339 | C-4 | | SH-01 | 埋土1 | | タテハケ目→タテヘラナデ | 太目のタテハケ目 | 茶褐色 | 黄白色 | 雲母,輝石,角閃石 | 3199 | |
| | 340 | C-4 | | SH-01 | 埋土1 | | タテヘラナデ,タテ調整 | タテヘラナデ | 暗燈褐色,暗茶褐色 | 暗燈褐色 | 石英,雲母,赤粒 | 3212 | |
| 第49図 | 341 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | タテハケ目→タテヘラナデ,ヨコ調整 | ヨコハケ目→タテヘラナデ,ヨコ調整 | 茶褐色,暗茶褐色 | 茶褐色,暗茶褐色 | 石英,雲母,輝石,砂粒 | 9813 | 外:スス付着 |
| | 342 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | タテ調整→タテヘラナデ,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 暗黄褐色,暗茶褐色 | 暗燈褐色 | 輝石,雲母,細粒 | 12643 | |
| | 343 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | タテヘラナデ,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 暗燈褐色 | 暗燈褐色 | 石英,雲母,砂粒 | 9813 | 外,内:スス付着 |
| | 344 | C-3 | | SH-01 | 埋土2 | | ヨコ調整 | ヨコ調整 | 暗黄褐色,茶褐色,黒褐色 | 暗黄褐色 | 雲母,角閃石,砂粒 | 17206 | 外:スス付着 |
| | 345 | C-3<br>A-4 | | SH-01<br>SH-09 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 暗燈褐色,暗黄褐色 | 茶褐色,黒褐色 | 輝石,細粒,赤粒 | 4649ほか<br>4647 | |
| | 346 | C-3<br>C-3 | | SH-01<br>SH-01 | 埋土1<br>埋土3 | | タテヘラナデ→丁寧なタテナデ,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコヘラナデ | 暗黄褐色,暗赤褐色 | 茶褐色,暗燈褐色 | 輝石,黒耀石,砂粒,赤粒 | 3232ほか<br>12689ほか | 外:スス付着 |
| | 347 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | タテヘラナデ,タテハケ目 | タテケズリ,ヨコ調整 | 暗燈褐色 | 暗黄褐色 | 雲母,角閃石,砂粒 | 3222ほか | 外:スス付着 |
| | 348 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | タテヘラナデ,細目のタテハケ目→ヨコヘラナデ | タテヘラナデ,ヨコヘラナデ | 暗茶褐色,茶褐色 | 暗黄褐色,暗茶褐色 | 輝石,角閃石,細粒,赤粒 | 3227ほか | 外:スス付着 |
| | 349 | D-18<br>C-3 | Ⅱ | SH-01 | 埋土1 | | タテ調整,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコヘラナデ | 暗燈褐色,暗茶褐色 | 暗茶褐色,暗黄褐色 | 輝石,雲母,砂粒 | 12463<br>4649 | |
| | 350 | C-4 | | SH-02 | 埋土2 | | タテヘラナデ | タテヘラナデ | 暗燈褐色 | 暗黄褐色 | 雲母,角閃石,砂粒 | 12710 | |
| | 351 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | タテハケ目,タテヘラナデ | タテヘラナデ | 暗燈褐色,灰褐色 | 灰褐色,暗黄褐色 | 角閃石,赤粒,砂粒 | 3228 | |
| | 352 | B-9 | Ⅱ | ブロックJ | | | タテ調整→ナデ | ヨコ調整→ナデ | 暗燈褐色,灰褐色 | 暗燈褐色 | 雲母,輝石,細粒 | 19803 | |
| | 353 | C-4 | | SH-01 | 埋土1 | | タテヘラナデ,ヨコヘラナデ | タテヘラナデ | 茶褐色 | 暗茶褐色 | 角閃石,石英,赤粒,砂粒 | 5921 | 内:スス付着 |
| 第50図 | 354 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | タテケズリ→丁寧なタテナデ | タテヘラナデ,ヨコヘラナデ | 暗赤褐色,暗燈褐色 | 暗燈褐色,茶褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 4650ほか | 外:スス付着 |
| | 355 | C-3 | | SH-01 | 埋土3 | | 細目のタテハケ目,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 燈褐色,暗燈褐色 | 暗燈褐色,暗黄褐色 | 輝石,雲母,細粒 | 12695 | |
| | 356 | C-4 | | SH-01 | 埋土1 | | タテケズリ→太目のタテハケ目,細目のタテハケ目 | 太目のタテハケ目,細目のヨコハケ目 | 茶褐色,暗茶褐色 | 茶褐色,黒褐色 | 輝石,角閃石,砂粒,赤粒 | 2816ほか | 外・内ススス付着 |
| | 357 | C-4 | | SH-01 | 埋土1 | | 丁寧なタテナデ | タテヘラナデ | 暗黄褐色,暗燈褐色 | 暗黄褐色,灰褐色 | 角閃石,雲母,細粒 | 3201 | |
| | 358 | C-4 | | SH-01 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目,指頭圧痕 | ヨコ調整,指頭圧痕 | 暗茶褐色,暗黄褐色 | 暗赤褐色,暗茶褐色 | 角閃石,雲母,細粒 | 2821 | |
| | 359 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | タテナデ,ヨコ調整 | タテヘラナデ | 暗黄褐色,暗赤褐色 | 暗黄褐色,暗燈褐色 | 角閃石,雲母,細粒 | 4667ほか | |
| | 360 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | タテ調整,指頭圧痕 | タテナデ,ヨコ調整 | 暗茶褐色,暗黄褐色 | 暗黄褐色,灰褐色 | 角閃石,雲母,細粒 | 9808 | |
| | 361 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | 指頭圧痕,タテ調整 | タテ,ヨコ調整 | 暗赤褐色,暗黄褐色 | 暗燈褐色,暗黄褐色 | 角閃石,雲母,赤粒 | 17182 | |
| | 362 | C-3 | | SH-01 | 埋土2 | | ヨコ調整→タテヘラナデ | ヨコ調整,指頭圧痕 | 暗赤褐色 | 暗赤褐色 | 角閃石,雲母,砂粒 | 17204 | 内:スス付着 |
| | 363 | C-3<br>C-3 | | SH-01<br>SH-01 | 埋土1<br>埋土2 | | ヨコヘラナデ,丁寧なタテナデ | ヨコ調整,ヨコハケ目→ヨコナデ | 燈褐色,暗赤褐色 | 燈褐色,暗茶褐色 | 輝石,雲母,細粒 | 9797ほか<br>13805 | 外:スス付着 |
| | 364 | C-4 | | SH-01 | 埋土1 | | タテヘラナデ,ヨコ調整 | ヨコ調整 | 暗赤褐色,黒褐色 | 暗燈褐色,黒褐色 | 角閃石,雲母,細粒,赤粒 | 2840 | 外:スス付着 |
| | 365 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | ヨコ調整 | ヨコ調整,ヨコヘラナデ | 灰褐色,黒褐色 | 灰褐色,黒褐色 | 角閃石,細粒 | 9792 | |
| 第51図 | 366 | C-3 | | SH-01 | 埋土3 | | タテヘラナデ,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 暗黄褐色,暗茶褐色 | 暗茶褐色,暗黄褐色 | 角閃石,輝石,砂粒,赤粒 | 12699ほか | 外:スス付着 |
| | 367 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | タテヘラナデ,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 暗燈褐色,暗黄褐色 | 暗黄褐色,灰褐色 | 角閃石,輝石,砂粒 | 9794 | 外:スス付着 |
| | 368 | C-4<br>C-3 | | SH-01<br>SH-01 | 埋土1<br>埋土2 | | タテヘラナデ,ヨコ調整 | ヨコヘラナデ,ヨコ調整 | 暗茶褐色,暗黄褐色 | 暗茶褐色,灰褐色 | 角閃石,輝石,雲母,細粒 | 3218<br>17199 | 外:スス付着 |
| | 369 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | タテヘラナデ,タテナデ,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコヘラナデ | 暗茶褐色,暗黄褐色 | 暗燈褐色 | 角閃石,輝石,砂粒,赤粒 | 4650ほか | |
| | 370 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | タテヘラナデ | タテヘラナデ,ヨコヘラナデ | 暗燈褐色,灰褐色 | 暗燈褐色 | 角閃石,輝石,砂粒 | 4650 | |
| | 371 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | タテケズリ | 丁寧なタテナデ,ヨコ調整 | 燈褐色,黄褐色 | 燈褐色,暗黄褐色 | 角閃石,微粒砂粒 | 3213ほか | |
| | 372 | C-3<br>C-3 | | SH-01<br>SH-01 | 埋土1<br>埋土3 | | タテケズリ | タテケズリ→丁寧なタテナデ | 暗燈褐色,暗黄褐色 | 黄褐色,燈褐色 | 角閃石,微粒砂粒,赤粒 | 3214ほか<br>12690ほか | |
| 第53図 | 373 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目,ヨコ調整 | 細目のタテハケ目→ヨコヘラナデ,タテヘラナデ | 暗赤褐色,暗茶褐色 | 茶褐色,暗黄褐色 | 角閃石,砂粒,赤粒 | 6540ほか | 外:スス付着 |
| | 374 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整→タテヘラナデ,ヨコ調整 | タテケズリ,ヨコヘラナデ,ヨコ調整 | 茶褐色,暗燈褐色,黒褐色 | 暗黄褐色,黒褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 7286ほか | 外:スス付着 |
| | 375 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ,ヨコ調整 | タテナデ,ヨコ調整 | 暗茶褐色,黒褐色 | 茶褐色,暗茶褐色 | 輝石,細粒 | 3640ほか | 外:スス付着,指 |
| | 376 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテヘラナデ,ヨコ調整 | タテナデ,ヨコ調整 | 茶褐色,黒褐色 | 暗茶褐色,暗赤褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 18070ほか | |
| | 377 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 暗茶褐色,黒褐色 | 暗赤褐色,黒褐色 | 角閃石,細粒,赤粒 | 18207ほか | 外:スス付着 |
| | 378 | C-3 | | SH-01 | 埋土1 | | | | | | | 17191 | |

# 第17表　土器観察表（6）

| 挿図No | 掲載No | 出土区 | 層 | 遺構L1 | 遺構L2 | 遺構L3 | 調整(外) | 調整(内) | 色調(外) | 色調(内) | 胎　土 | 取上No | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第53図 | 378 | C-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテハケ目→ナデ | 太目のヨコハケ目 | 暗黄褐色, 暗燈褐色 | 暗黄褐色, 灰褐色 | クロウンモ, 砂粒, 赤粒 | 6614ほか | 外:スス付着 |
| | 379 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目→ナデ, ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコ調整 | 暗褐色, 茶褐色 | 茶褐色, 暗茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 3693ほか | 外:スス付着 |
| 第54図 | 380 | B-4<br>C-4 | | SH-02<br>SH-02 | 埋土1<br>埋土2 | | ヨコ調整→ヨコヘラナデ | ヨコ調整 | 茶褐色, 暗茶褐色 | 茶褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 6545ほか<br>12720 | |
| | 381 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテヘラナデ, ヨコ調整 | タテナデ, ヨコ調整 | 茶褐色, 黒褐色 | 暗茶褐色, 暗赤褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 19287ほか | |
| | 382 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテケズリ, タテヘラナデ, ヨコ調整 | 細目のヨコハケ目, ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | 暗茶褐色, 黒褐色 | 茶褐色, 暗茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 19282ほか | 外:スス付着 |
| | 383 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ, ヨコ調整 | 太目のヨコハケ目, タテヘラナデ | 暗褐色, 暗黄褐色 | 黄白色, 暗褐色 | 輝石, 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 3654ほか | 外:スス付着 |
| | 384 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目, ヨコ調整 | タテ調整→タテヘラナデ, ヨコ調整 | 暗燈褐色, 黒褐色 | 暗燈褐色, 暗茶褐色 | クロウンモ, 細粒 | 14005ほか | 外:スス付着 |
| | 385 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目, タテヘラナデ | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | 燈褐色, 黒褐色 | 燈褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 雲母, 砂粒, 赤粒 | 21264 | 外:スス付着 |
| | 386 | B-4<br>B-4 | Ⅱ | SH-02 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ, ヨコ調整 | タテケズリ→タテナデ, ヨコ調整 | 暗燈褐色, 暗茶褐色 | 茶褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 雲母, 砂粒, 赤粒 | 20668ほか<br>3667ほか | 外:スス付着 |
| | 387 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ, ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | 燈褐色, 暗黄褐色 | 暗黄褐色, 暗茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 18091ほか | 外:スス付着 |
| 第55図 | 388 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテヘラナデ, ヨコ調整 | 太目のタテハケ目, ヨコ調整→ヨコヘラナデ | 暗黄褐色, 黒褐色 | 黄白色, 暗褐色 | クロウンモ, 角閃石, 細粒, 赤粒 | 6540ほか | 外:スス付着 |
| | 389 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコハケ目→ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | ヨコ調整→タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | 黒褐色, 暗茶褐色 | 茶褐色, 黒褐色 | 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 22412 | 外:全面スス付着 |
| | 390 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目, ヨコ調整 | 太目のタテハケ目, ヨコ調整 | 燈褐色, 暗茶褐色, 黒褐色 | 燈褐色, 暗黄褐色 | クロウンモ, 輝石, 砂粒, 赤粒 | 21499 | 外:スス付着 |
| | 391 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | ヨコ調整, ヨコヘラナデ→ナデ | 茶褐色, 黒褐色 | 暗燈褐色, 暗褐色 | 輝石, 雲母, 砂粒, 赤粒 | 18256 | 外:スス付着 |
| | 392 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテケズリ→細目のタテハケ目, ヨコ調整 | 太目のタテハケ目, ヨコ調整 | 暗黄褐色, 黒褐色 | 燈褐色, 暗茶褐色 | 角閃石, 雲母, 細粒 | 19766 | 外:スス付着 |
| | 393 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテケズリ, ヨコハケ目, ヨコ調整 | ヨコ調整→ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | 黒褐色, 暗茶褐色 | 茶褐色, 黒褐色 | 輝石, 雲母, 砂粒, 赤粒 | 22435ほか | 外:全面スス付着 |
| | 394 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目, ヨコ調整 | タテケズリ→細目のヨコハケ目, ヨコ調整 | 燈褐色, 暗赤褐色 | 燈褐色, 暗褐色 | 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 3593ほか | |
| | 395 | B-4<br>B-6 | Ⅱ | SH-02<br>ブロックN | 埋土1 | | 細目のタテハケ目, ヨコ調整 | タテヘラナデ, 細目のヨコハケ目 | 茶褐色, 暗茶褐色 | 茶褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 3620ほか<br>18787 | 外:スス付着 |
| | 396 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテハケ目→ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | タテケズリ→タテハケ目, ヨコ調整 | 暗褐色, 暗黄褐色 | 茶褐色, 暗茶褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 18205ほか | |
| | 397 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整, タテヘラナデ | タテヘラナデ | 茶褐色, 暗褐色 | 黒褐色, 暗茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 6565ほか | 内:スス付着 |
| | 398 | B-4<br>B-9 | Ⅱ | SH-02<br>ブロックJ | 埋土1 | | ヨコ調整, タテケズリ→丁寧なタテナデ | タテヘラナデ, 指頭圧痕 | 暗燈褐色, 暗赤褐色 | 暗黄褐色, 黒褐色 | 角閃石, 輝石, 砂粒, 赤粒 | 18737ほか<br>20064 | 内:スス付着 |
| 第56図 | 399 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | ヨコヘラナデ, タテヘラナデ | 黄褐色, 灰褐色 | 暗茶褐色, 黄白色 | クロウンモ, 輝石, 砂粒, 赤粒 | 6555ほか | |
| | 400 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテ調整→タテヘラナデ | タテナデ | 茶褐色, 暗茶褐色 | 黒褐色, 暗茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 22400 | 内:スス付着 |
| | 401 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整, タテヘラナデ | ヨコ調整, タテ調整 | 茶褐色, 暗黄褐色 | 茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 3733ほか | |
| | 402 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整, タテヘラナデ | ヨコ調整 | 暗赤褐色, 暗茶褐色 | 茶褐色, 黒褐色 | 輝石, 雲母, 砂粒, 赤粒 | 3653 | 内:スス付着 |
| | 403 | C-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整, タテヘラナデ | ヨコ調整 | 暗燈褐色 | 暗燈褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 6617 | |
| | 404 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整 | ヨコ調整 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 茶褐色, 暗黄褐色 | クロウンモ, 輝石, 砂粒, 赤粒 | 6577ほか | 外:スス付着 |
| | 405 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整, ヨコヘラナデ | ヨコ調整, ヨコヘラナデ | 燈褐色, 暗黄褐色 | 茶褐色, 黒褐色 | 角閃石, 輝石, 砂粒, 赤粒 | 18747 | |
| | 406 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテヘラナデ, 丁寧なタテナデ | 丁寧なタテナデ | 暗赤褐色, 暗茶褐色 | 茶褐色, 暗赤褐色 | クロウンモ, 輝石, 砂粒, 赤粒 | 21244ほか | |
| | 407 | B-4<br>B-6 | | SH-02<br>SH-05 | 埋土1<br>埋土2 | | ヨコ調整, タテ調整 | ヨコハケ目→ナデ | 暗黄褐色, 燈褐色 | 灰褐色, 暗黄褐色 | 角閃石, 輝石, 砂粒 | 7271ほか<br>2740 | |
| | 408 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整→細目のタテハケ目, タテヘラナデ | ヨコ調整, タテハケ目 | 茶褐色, 暗黄褐色 | 暗黄褐色, 暗赤褐色 | 輝石, 砂粒 | 18285 | |
| | 409 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整, タテヘラナデ | ヨコ調整 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 暗黄褐色, 燈褐色 | クロウンモ, 角閃石, 輝石, 砂粒 | 22396 | |
| | 410 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整→タテヘラナデ | タテヘラナデ | 暗黄褐色, 茶褐色 | 暗黄褐色, 茶褐色 | 角閃石, 輝石, 砂粒 | 14024 | 内:スス付着 |
| | 411 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整, 細目のタテハケ目 | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ | 茶褐色, 暗茶褐色 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 3634ほか | |
| | 412 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整, 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | 茶褐色, 暗茶褐色 | 暗黄褐色, 黒褐色 | 輝石, 雲母, 砂粒 | 3615ほか | 外内:スス付着 |
| 第57図 | 413 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→ナデ, 太目のタテハケ目 | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 暗燈褐色, 暗褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 3632ほか | |
| | 414 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテヘラナデ, ヨコ調整 | ヨコヘラナデ, タテヘラナデ | 暗黄褐色, 暗赤褐色 | 暗黄褐色 | 輝石, 角閃石, 細粒, 赤粒 | 3683 | |
| | 415 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目 | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | 黄褐色, 暗赤褐色 | 暗燈褐色, 茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 3730ほか | |
| | 416 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→丁寧なタテナデ | ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | 黄白色, 暗赤褐色 | 暗燈褐色, 黄白色 | 輝石, 角閃石, 細粒, 赤粒 | 7277ほか | |
| | 417 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ, ヨコ調整 | ヨコ調整→ヨコナデ | 暗燈褐色, 暗赤褐色 | 暗燈褐色, 灰褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 3724ほか | |
| | 418 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目→タテナデ, ヨコ調整 | タテケズリ→タテヘラナデ, 細目のヨコハケ目 | 茶褐色, 暗赤褐色 | 暗燈褐色, 暗赤褐色 | 輝石, 雲母, 砂粒, 赤粒 | 3590ほか | |
| | 419 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目→ナデ, ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコナデ | 暗黄褐色, 暗茶褐色 | 暗黄褐色, 灰褐色 | 輝石, クロウンモ, 砂粒, 赤粒 | 20925ほか | |
| | 420 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→ヨコナデ | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 暗褐色, 黄白色 | 輝石, 雲母, 砂粒, 赤粒 | 18144ほか | |
| 第58図 | 421 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目→丁寧なタテナデ | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | 暗燈褐色 | 黄白色 | クロウンモ, 輝石, 細粒, 赤粒 | 7283ほか | |

# 第18表　土器観察表（7）

| 挿図No | 掲載No | 出土区 | 層 | 遺構L1 | 遺構L2 | 遺構L3 | 調整(外) | 調整(内) | 色調(外) | 色調(内) | 胎　土 | 取上No | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第58図 | 422 | C-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテ調整→丁寧なタテナデ,タテヘラナデ | タテナデ,ヨコヘラナデ | 燈褐色,暗茶褐色 | 暗燈褐色,暗黄褐色 | 角閃石,輝石,砂粒 | 6624ほか | |
| | 423 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 丁寧なタテナデ,ヨコ調整 | ヨコ調整→タテヘラナデ | 黒褐色,灰褐色 | 黄白色 | クロウンモ,輝石,細粒 | 6589ほか | |
| | 424 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテ調整,細目のタテハケ目→タテナデ | タテナデ,指頭圧痕 | 暗茶褐色,暗燈褐色 | 茶褐色,暗茶褐色 | 輝石,細粒,赤粒 | 6560ほか | 外内:ススト付着 |
| | 425 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテケズリ→細目のタテハケ目 | ヨコヘラナデ | 茶褐色,暗茶褐色 | 暗黄褐色,黒褐色 | 角閃石,雲母,砂粒 | 14018ほか | |
| | 426 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目→タテナデ | タテケズリ→タテヘラナデ | 茶褐色,暗茶褐色 | 暗黄褐色,灰褐色 | クロウンモ,輝石,細粒,赤粒 | 3600ほか | |
| | 427 | C-4<br>C-4 | | SH-02<br>SH-02 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目,太目のタテハケ目 | 太目のタテハケ目,細目のタテハケ目 | 暗黄褐色,暗燈褐色 | 暗燈褐色 | 輝石,雲母,砂粒,赤粒 | 6605ほか<br>12717 | 外:ススト付着 |
| | 428 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテヘラナデ | タテヘラナデ,指頭圧痕 | 暗黄褐色,暗茶褐色 | 茶褐色,暗茶褐色 | 輝石,雲母,細粒,赤粒 | 3708ほか | |
| | 429 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目→ナデ | 指頭圧痕,タテヘラナデ | 茶褐色,黒褐色 | 灰褐色,暗褐色 | 角閃石,雲母,砂粒,赤粒 | 21236 | |
| | 430 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテヘラナデ | タテケズリ,タテヘラナデ | 暗茶褐色,黒褐色 | 茶褐色,暗燈褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 21241 | |
| | 431 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目,ヨコヘラナデ | ヨコヘラナデ | 暗褐色,黄褐色 | 暗褐色,灰褐色 | 輝石,雲母,砂粒,赤粒 | 3647ほか | |
| 第59図 | 432 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目→ナデ | タテヘラナデ | 黄褐色,暗褐色 | 暗褐色,黄白色 | 輝石,クロウンモ,砂粒,赤粒 | 14024 | |
| | 433 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目→丁寧なタテナデ | ヨコヘラナデ,タテヘラナデ | 暗赤褐色,暗燈褐色 | 茶褐色,暗黄褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 3666ほか | |
| | 434 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→ヨコナデ,ヨコ調整 | ヨコ調整→タテヘラナデ | 暗燈褐色,暗赤褐色 | 灰褐色,暗黄褐色 | 輝石,微粒 | 14024 | |
| | 435 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整→タテヘラナデ | タテケズリ→タテヘラナデ | 茶褐色,暗黄褐色 | 暗黄褐色,暗茶褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 3742ほか | 外:ススト付着 |
| | 436 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 丁寧なヨコナデ | ヨコヘラナデ→丁寧なヨコナデ | 茶褐色 | 灰褐色 | 輝石,細粒,赤粒 | 6563 | |
| | 437 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 丁寧なヨコナデ | ヨコヘラナデ→丁寧なヨコナデ | 茶褐色 | 灰褐色 | 輝石,細粒,赤粒 | 3725ほか | |
| | 438 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | 太目のタテハケ目→ヨコヘラナデ | 黄褐色,茶褐色 | 茶褐色,暗赤褐色 | 輝石,角閃石,砂粒,赤粒 | 3617ほか | |
| | 439 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテヘラナデ,ヨコ調整 | ヨコ調整,タテヘラナデ | 暗燈褐色,茶褐色 | 茶褐色,黒褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 21241 | |
| | 440 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目,ヨコ調整 | 細目のタテハケ目,細目のヨコハケ目 | 茶褐色,暗黄褐色,黒褐色 | 暗黄褐色,灰褐色 | 輝石,クロウンモ,細粒 | 21234 | 外:ススト付着 |
| | 441 | A-8 | | SH-08 | 埋土1 | | タテ調整→丁寧なタテナデ | タテヘラナデ | 茶褐色,暗黄褐色 | 黄褐色,灰褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 9584 | |
| | 442 | | | | | | タテ調整→タテヘラナデ | ヨコ調整→タテヘラナデ | 暗茶褐色,暗燈褐色 | 灰褐色 | 輝石,雲母,砂粒 | 一括 | |
| | 443 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテ調整→丁寧なタテナデ | タテ調整→タテヘラナデ | 茶褐色,暗赤褐色 | 茶褐色,暗黄褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 14024ほか | |
| 第60図 | 444 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→丁寧なタテナデ | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 黄褐色,暗赤褐色 | 暗茶褐色,暗黄褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 20648ほか | |
| | 445 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 指頭圧痕,タテヘラナデ | 指頭圧痕,ナデ | 茶褐色 | 暗黄褐色,茶褐色 | 輝石,クロウンモ,細粒 | 22428 | |
| | 446 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテ調整→ナデ | ヨコヘラナデ | 暗黄褐色 | 暗黄褐色 | 角閃石,砂粒,赤粒 | 18127 | |
| | 447 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 指頭圧痕,タテヘラナデ | 指頭圧痕,ナデ | 茶褐色 | 暗赤褐色,黒褐色 | クロウンモ,輝石,砂粒 | 18739 | |
| | 448 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整 | ヨコ調整 | 暗黄褐色,暗褐色 | 暗黄褐色,暗燈褐色 | 輝石,角閃石,砂粒 | 21119ほか | |
| | 449 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整→タテ調整,指頭圧痕 | タテヘラナデ | 暗赤褐色,暗褐色 | 暗茶褐色,暗黄褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 22418 | |
| | 450 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテケズリ→タテヘラナデ | タテケズリ,ヨコ調整 | 暗黄褐色,暗褐色 | 暗黄褐色,暗茶褐色 | 雲母,砂粒,赤粒 | 18072ほか | 外:ススト付着 |
| | 451 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→ナデ | タテケズリ→タテヘラナデ,ヨコ調整 | 暗褐色,黒褐色 | 暗褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 3739 | |
| | 452 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテヘラナデ | 丁寧なタテナデ | 暗燈褐色 | 暗黄褐色,黒褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 6581ほか | |
| | 453 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整→タテヘラナデ | タテ調整→ナデ | 茶褐色 | 暗黄褐色,黒褐色 | 輝石,角閃石,砂粒,赤粒 | 3621ほか | 獣毛痕アリ |
| | 454 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 指頭圧痕,ヨコ調整 | 暗燈褐色,茶褐色 | 茶褐色,黄白色 | 輝石,雲母,微粒,赤粒 | 21131ほか | |
| | 455 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテ調整→丁寧なタテナデ,ヨコヘラナデ | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 暗燈褐色 | 黄白色 | 輝石,角閃石,砂粒,赤粒 | 6564 | |
| | 456 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目,ヨコ調整 | ヨコ調整 | 黄褐色 | 黄褐色 | 輝石,角閃石,細粒 | 18120ほか | |
| | 457 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテヘラナデ,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 茶褐色 | 茶褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 20771 | |
| | 458 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテヘラナデ,ヨコヘラナデ | タテヘラナデ,ヨコヘラナデ | 茶褐色,暗黄褐色 | 茶褐色,暗茶褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 3712ほか | |
| | 459 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 暗褐色,暗燈褐色 | 暗茶褐色,暗黄褐色 | 輝石,角閃石,砂粒,赤粒 | 7273ほか | |
| | 460 | B-4<br>C-4 | | SH-02<br>SH-02 | 埋土1<br>埋土2 | | 丁寧なタテナデ,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 茶褐色,暗茶褐色 | 暗茶褐色,暗赤褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 7303ほか<br>12716 | |
| 第62図 | 461 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | ヨコハケ目,ヨコ調整 | ヨコハケ目 | 暗茶褐色,暗燈褐色 | 暗燈褐色 | 角閃石,輝石,砂粒 | 7616 | |
| | 462 | B-4<br>B-4 | | SH-03<br>SH-03 | 埋土1<br>埋土2 | | タテハケ目,ヨコハケ目 | ヨコハケ目.ヨコ調整 | 暗赤褐色,暗茶褐色 | 茶褐色,暗黄褐色 | 輝石,雲母,細粒 | 2511ほか<br>4093ほか | 外:ススト付着 |
| | 463 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | タテヘラナデ,ヨコ調整 | ヨコハケ目→タテヘラナデ | 暗燈褐色,暗黄褐色 | 暗黄褐色 | 角閃石,雲母,砂粒,赤粒 | 2569 | 外:ススト付着 |
| | 464 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | タテヘラナデ,ヨコ調整 | ヨコヘラナデ,ヨコ調整 | 暗燈褐色,暗茶褐色 | 燈褐色,赤褐色 | 角閃石,雲母,砂粒 | 7635 | 外:ススト付着 |
| | 465 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | タテ調整→タテヘラナデ,ヨコ調整 | ヨコハケ目,ヨコ調整 | 暗赤褐色,黒褐色 | 暗赤褐色,黒褐色 | 角閃石,砂粒,赤粒 | 2512ほか | |
| | 466 | A-4 | | SH-03 | 埋土1 | | タテハケ目→タテヘラナデ,ヨコ調整 | タテケズリ,太目のタテハケ目 | 暗黄褐色,黒褐色 | 暗燈褐色,暗黄褐色 | 角閃石,輝石,砂粒,赤粒 | 4695ほか | |
| | 467 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目,ヨコ調整 | 太目のヨコハケ目→ヨコヘラナデ | 黄褐色,暗黄褐色 | 燈褐色 | 輝石,雲母,砂粒 | 2571 | 外:ススト付着 |

# 第19表　土器観察表（8）

| 挿図No | 掲載No | 出土区 | 層 | 遺構L1 | 遺構L2 | 遺構L3 | 調整(外) | 調整(内) | 色調(外) | 色調(内) | 胎　土 | 取上No | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第62図 | 468 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | タテ太目のハケ目，ヨコヘラナデ | タテヘラナデ，ヨコハケ目→灰褐色 | 暗燈褐色，暗黄褐色 | 暗燈褐色，暗茶褐色 | 角閃石，雲母，砂粒 | 15324 | 内・外:スス付着 |
| | 469 | B-4<br>B-4 | | SH-03<br>SH-03 | 埋土1<br>埋土2 | | タテケズリ，ヨコ調整→タテナデ | ヨコヘラナデ→タテナデ | 暗赤褐色，暗黄褐色 | 暗黄褐色，黒褐色 | 輝石，雲母，砂粒 | 2585ほか<br>2998 | 外:スス付着 |
| | 470 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | タテハケ目 | タテハケ目→丁寧なタテナデ | 暗赤褐色，暗黄褐色 | 暗燈褐色，黒褐色 | 角閃石，輝石，砂粒，赤粒 | 2510ほか | 外:スス付着 |
| 第63図 | 471 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | タテケズリ，ヨコ調整 | タテハケ目→タテヘラナデ | 灰褐色，暗燈褐色 | 暗茶褐色，暗黄褐色 | 角閃石，砂粒，赤粒 | 7587ほか | 内:スス付着<br>口唇部ナシ |
| | 472 | B-4<br>B-4 | | SH-03<br>SH-03 | 埋土1<br>埋土2 | | タテケズリ→タテヘラナデ | タテハケ目→タテヘラナデ | 暗黄褐色，暗茶褐色 | 黄白色 | 雲母，砂粒，赤粒 | 10739<br>15339 | 外:スス付着，指 |
| | 473 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | タテケズリ→タテヘラナデ | ヨコハケ目→タテヘラナデ | 暗燈褐色，暗茶褐色 | 暗燈褐色，暗茶褐色 | 角閃石，輝石，砂粒 | 2525 | 外:スス付着 |
| | 474 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | ヨコ調整，タテヘラナデ | ヨコヘラナデ，タテヘラナデ | 暗黄褐色，暗赤褐色 | 暗燈褐色，暗茶褐色 | 輝石，雲母，砂粒 | 2582ほか | |
| | 475 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | ヨコ調整，タテ調整 | ヨコ調整 | 暗黄褐色，暗赤褐色 | 暗黄褐色，暗燈褐色 | 輝石，砂粒 | 7634 | |
| | 476 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | ヨコ調整，タテ調整→タテヘラナデ | ヨコヘラナデ，タテヘラナデ | 燈褐色 | 暗燈褐色，黒褐色 | 輝石，雲母，細粒 | 7576 | 内:スス付着 |
| | 477 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | ヨコ調整 | ヨコ調整 | 暗黄褐色 | 暗黄褐色，暗赤褐色 | 輝石，細粒，指 | 2595 | |
| | 478 | B-4<br>B-4 | | SH-03<br>SH-03 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目，ヨコ調整 | 細目のヨコハケ目→ヨコナデ | 茶褐色，暗赤褐色 | 茶褐色，暗赤褐色 | 輝石，細粒，赤粒 | 2515ほか<br>15325ほか | |
| | 479 | B-4 | | SH-03 | 埋土2 | | タテ調整→丁寧なタテナデ | 指頭圧痕，ヨコ調整 | 暗赤褐色，暗茶褐色 | 暗黄褐色，灰褐色 | 獣毛，輝石，砂粒，赤粒 | 15332 | |
| | 480 | A-4 | | SH-03 | 埋土1 | | ヨコ調整 | ヨコ調整，タテ調整 | 暗茶褐色 | 暗茶褐色，黒褐色 | 角閃石，雲母，砂粒，赤粒 | 4706 | |
| | 481 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | 細目のヨコハケ目→ヨコ調整 | 細目のヨコハケ目 | 黒褐色 | 黒褐色 | 角閃石，雲母，砂粒，赤粒 | 2573 | |
| | 482 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | タテヘラナデ | タテヘラナデ | 暗燈褐色 | 黄白色 | 角閃石，雲母，細粒，赤粒 | 2758 | |
| | 483 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | タテケズリ→タテヘラナデ | タテ調整→タテヘラナデ | 暗茶褐色，暗黄褐色 | 暗燈褐色 | 角閃石，雲母，砂粒，赤粒 | 7624 | |
| 第64図 | 484 | A-4 | | SH-03 | 埋土1 | | タテケズリ→タテヘラナデ | タテケズリ→ヨコ調整，タテヘラナデ | 暗茶褐色，暗赤褐色 | 黒褐色，暗茶褐色 | 角閃石，雲母，砂粒，赤粒 | 4702ほか | |
| | 485 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目 | タテヘラナデ，太目のヨコハケ目 | 茶褐色，暗茶褐色 | 暗赤褐色，暗茶褐色 | 輝石，細粒，赤粒 | 2577 | |
| | 486 | B-4<br>B-4 | | SH-03<br>SH-03 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目→ヨコヘラナデ，タテヘラナデ | タテケズリ→細目のタテハケ目，ヨコ調整 | 暗黄褐色，暗褐色 | 黄褐色，黄白色 | 輝石，角閃石，砂粒 | 7606<br>10727 | |
| | 487 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | タテハケ目→ナデ | タテヘラナデ | 灰褐色，暗黄褐色 | 暗燈褐色 | 雲母，細粒，赤粒 | 10680 | |
| | 488 | B-4 | | SH-03 | 埋土1 | | タテヘラナデ | タテヘラナデ | 燈褐色 | 暗燈褐色 | 雲母，砂粒，赤粒 | 7626 | |
| | 489 | B-4<br>B-4 | | SH-03<br>SH-03 | 埋土1<br>埋土2 | | ヨコ調整→タテナデ | ヨコ調整→ナデ | 暗燈褐色 | 暗燈褐色，暗黄褐色 | 輝石，雲母，砂粒 | 15340<br>10711 | |
| 第66図 | 492 | A-5 | | SH-04 | 埋土2 | | タテヘラナデ | タテヘラナデ | 暗燈褐色 | 黄白色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 5316 | |
| | 493 | A-6<br>A-6 | | SH-04<br>SH-04 | 床直<br>埋土2 | | 太目のタテハケ目 | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ | 暗茶褐色 | 暗茶褐色，暗燈褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 15282ほか<br>3119ほか | |
| | 494 | A-6<br>A-5 | | SH-04<br>SH-04 | 床直<br>埋土2 | | 太目のタテハケ目，ヨコナデ | タテヘラナデ，ヨコヘラナデ | 暗黄褐色，暗赤褐色 | 暗黄褐色，暗茶褐色 | 輝石，雲母，砂粒 | 15286ほか<br>5323 | 外:スス付着 |
| | 495 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | ヨコ調整，タテヘラナデ | ヨコ調整，指頭圧痕 | 暗赤褐色，暗燈褐色 | 暗赤褐色 | 輝石，雲母，砂粒，赤粒 | 18261 | |
| 第68図 | 496 | B-6<br>B-6<br>B-6 | | SH-05<br>SH-05<br>SH-06 | 埋土2<br>埋土3<br>床面 | | 太目のヨコハケ目→タテヘラナデ，ヨコ調整 | タテヘラナデ，ヨコヘラナデ | 暗燈褐色，暗茶褐色 | 暗燈褐色 | 輝石，雲母，砂粒，赤粒 | 12852ほか<br>12312<br>12666 | 外:スス付着 |
| | 497 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテハケ目 | タテヘラナデ | 茶褐色，暗茶褐色 | 暗燈褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 7300 | |
| | 498 | B-6 | | SH-05 | 埋土2 | | タテヘラナデ | タテヘラナデ | 暗黄褐色，灰褐色 | 暗黄褐色，黒褐色 | 角閃石，雲母，細粒，赤粒 | 4858 | 外:スス付着 |
| | 499 | | | | | | ヨコ調整，タテ調整→ナデ | ヨコ調整 | 暗燈褐色，暗黄褐色 | 暗燈褐色 | 角閃石，輝石，砂粒 | 一括 | |
| | 500 | | | | | | ヨコ調整，指頭圧痕 | タテ調整，ヨコナデ | 暗黄褐色 | 暗黄褐色 | 角閃石，輝石，砂粒，赤粒 | 一括 | |
| | 501 | | | | | | 細目のタテハケ目，ヨコ調整 | ヨコ調整 | 暗黄褐色 | 暗黄褐色，燈褐色 | 角閃石，雲母，砂粒 | 一括 | |
| | 502 | B-6 | | SH-05 | 埋土2 | | ヨコ調整，タテヘラナデ | ヨコ調整，タテヘラナデ | 黒褐色，暗茶褐色 | 暗黄褐色，暗燈褐色 | 雲母，輝石，砂粒 | 2888ほか | 外:スス付着 |
| | 503 | B-6 | | SH-05 | 埋土3 | | ヨコ調整→タテナデ，ヨコヘラナデ | 細目のヨコハケ目，ヨコヘラナデ | 暗黄褐色，暗赤褐色 | 暗燈褐色，暗黄褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 12290 | |
| | 504 | B-6 | | SH-05 | 埋土2 | | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ | ヨコ調整，タテヘラナデ | 暗黄褐色，暗燈褐色 | 黄白色，暗燈褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 3944 | |
| | 505 | | | | | | タテヘラナデ，ヨコ調整 | タテヘラナデ，ヨコ調整 | 暗燈褐色 | 暗赤褐色，燈褐色 | 輝石，雲母，砂粒，赤粒 | 28096 | |
| | 506 | B-6 | | SH-05 | 埋土2 | | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ，ヨコ調整 | 指頭圧痕，タテヘラナデ，ヨコ調整 | 黄白色 | 黄白色 | 輝石，微粒，赤粒 | 2737 | |
| | 507 | B-6 | | SH-05 | 埋土3 | | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ，ヨコ調整 | 指頭圧痕，タテヘラナデ，ヨコ調整 | 黄白色 | 暗黄褐色，黄白色 | 輝石，微粒，赤粒 | 12276 | |
| | 508 | B-6 | | SH-06 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→丁寧なタテナデ | タテハケ目→タテヘラナデ | 暗黄褐色，黄白色 | 黒褐色，灰褐色 | 角閃石，雲母，細粒，赤粒 | 12669 | |
| | 509 | B-6 | | SH-05 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ，ヨコ調整 | 暗茶褐色 | 黒褐色 | 雲母，細粒 | 3790ほか | |
| | 510 | B-6<br>B-6 | | SH-05<br>SH-05 | 埋土2<br>埋土3 | | 丁寧なヨコナデ，ヨコヘラナデ，ヨコ調整 | ヨコヘラナデ，タテヘラナデ，ヨコ調整 | 暗赤褐色，暗茶褐色 | 黄褐色，黒褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 2211ほか<br>9504ほか | |
| | 511 | B-6 | | SH-05 | 埋土3 | | 太目のタテハケ目→ヨコヘラナデ | タテヘラナデ | 暗茶褐色，黄白色 | 黄白色，暗茶褐色 | 角閃石，微粒，赤粒 | 12281 | |
| | 512 | B-14 | | SH-18 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | 茶褐色，暗茶褐色 | 黄白色，灰褐色 | 輝石，角閃石，砂粒 | 7656 | |
| | 513 | B-6 | | SH-05 | 埋土3 | | タテハケ目 | | 暗黄褐色 | 暗黄褐色，黄白色 | 角閃石，雲母，砂粒，赤粒 | 12310 | |

# 第20表　土器観察表（9）

| 挿図No | 掲載No | 出土区 | 層 | 遺構L1 | 遺構L2 | 遺構L3 | 調整(外) | 調整(内) | 色調(外) | 色調(内) | 胎　土 | 取上No | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第68図 | 514 | B-6 | | SH-05 | 埋土2 | | 丁寧なタテナデ | | 暗燈褐色 | 黒褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 2734 | |
| | 515 | B-6 | | SH-05 | 埋土3 | | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ | 燈褐色,暗茶褐色 | 灰褐色,黒褐色 | 輝石,雲母,砂粒,赤粒 | 12281ほか | |
| 第72図 | 522 | B-7 | | | 埋土2 | | ヨコヘラナデ,ヨコ調整 | ヨコ調整,細目のヨコハケ目 | 暗燈褐色,黒褐色 | 暗黄褐色,暗茶褐色 | 雲母,砂粒,赤粒 | 13082 | 外:スス付着 |
| | 523 | B-7 | | SH-06 | 埋土2 | | タテケズリ→タテヘラナデ | タテケズリ→タテヘラナデ | 暗褐色,黒褐色 | 暗赤褐色,暗褐色 | 雲母,砂粒 | 2171ほか | |
| | 524 | B-7 | | | 埋土2 | | タテケズリ→タテヘラナデ | ヨコケズリ,タテケズリ | 茶褐色,黒褐色 | 茶褐色,黒褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 13080ほか | |
| 第74図 | 525 | B-8 | | SH-07 | 埋土2 | | ヨコ調整,細目のタテハケ目 | 細目のヨコハケ目,ヨコ調整 | 燈褐色,赤褐色,暗黄褐色 | 明黄褐色 | 輝石,微粒,赤粒 | 2627ほか | |
| | 526 | B-8 | | SH-07 | 埋土2 | | ヨコ調整 | ヨコ調整→ヨコヘラナデ | 暗燈褐色 | 暗黄褐色 | 輝石,角閃石,微粒 | 2913ほか | |
| | 527 | B-8 | | SH-07 | 埋土2 | | ヨコ調整 | ヨコ調整→ヨコヘラナデ | 暗黄褐色 | 暗燈褐色,燈褐色 | 輝石,微粒,赤粒 | 2914ほか | |
| | 528 | B-8 | | SH-07 | 埋土2 | | タテヘラナデ,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 黒褐色,暗茶褐色 | 黒褐色 | 角閃石,雲母,細粒 | 2621 | |
| | 529 | A-8<br>B-8<br>B-8 | Ⅱ | SH-07<br>SH-07 | 埋土1<br>埋土2 | | 太目のタテハケ目→ナデ | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | 暗黄褐色,暗燈褐色 | 黄褐色,暗燈褐色 | 輝石,雲母,微粒,赤粒 | 210<br>5258<br>6646ほか | |
| 第76図 | 530 | A-8 | | SH-08 | 埋土2 | | タテ調整→丁寧なタテナデ | タテケズリ→ヨコヘラナデ | 暗茶褐色,暗燈褐色 | 暗燈褐色,暗黄褐色 | 輝石,雲母,細粒,赤粒 | 3021ほか | |
| | 531 | A-8<br>A-8 | Ⅱ | SH-08 | 埋土2 | | タテヘラナデ,ヨコ調整 | タテヘラナデ | 明燈褐色,暗燈褐色 | 暗燈褐色,暗茶褐色 | クロウンモ,細粒,赤粒 | 669<br>10825 | 内:スス付着 |
| | 532 | A-8 | Ⅱ | | | | ヨコ調整 | ヨコ調整 | 黄白色 | 黄白色 | クロウンモ,角閃石,微粒,赤粒 | 221ほか | |
| | 533 | A-8 | | SH-08 | 埋土2 | | ヨコ調整→ヨコヘラナデ | ヨコ調整 | 茶褐色,暗赤褐色 | 茶褐色,暗赤褐色 | 輝石,雲母,砂粒,赤粒 | 2714 | |
| | 534 | A-8 | | | 埋土2 | | タテハケ目→タテヘラナデ | ヨコヘラナデ,ヨコ調整 | 暗燈褐色 | 暗燈褐色,灰褐色 | 輝石,雲母,細粒,赤粒 | 13262 | |
| | 535 | A-8 | | SH-08 | 埋土2 | | タテヘラナデ | タテ調整→タテヘラナデ | 茶褐色,黒褐色 | 茶褐色,黒褐色 | 角閃石,微粒 | 2132 | |
| | 536 | A-8 | | SH-08 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 暗燈褐色,茶褐色 | 暗燈褐色 | 角閃石,輝石,砂粒 | 4450ほか | |
| | 537 | A-8<br>A-8 | Ⅱ | SH-08 | 埋土2 | | 太目のタテハケ目→ナデ | ヨコヘラナデ | 燈褐色,暗茶褐色 | 暗燈褐色,暗赤褐色,黒褐色 | 角閃石,輝石,砂粒,赤粒 | 215<br>2126ほか | |
| | 538 | | | | | | タテヘラナデ,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 暗茶褐色,暗黄褐色 | 茶褐色,暗茶褐色 | 角閃石,砂粒 | 一括 | 外:スス付着 |
| | 539 | A-8 | | SH-08 | 埋土2 | | ヨコヘラナデ,指頭圧痕 | ヨコ調整 | 暗赤褐色,暗燈褐色 | 燈褐色 | 角閃石,輝石,細粒 | 7716 | |
| 第78図 | 541 | A-4 | | SH-09 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ,ヨコ調整 | タテヘラナデ,ヨコ調整 | 暗赤褐色,黒褐色 | 茶褐色,暗赤褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 22140 | 外:スス付着 |
| | 542 | A-4 | | SH-09 | 埋土1 | | 丁寧なタテナデ,ヨコヘラナデ | ヨコ調整 | 暗茶褐色,黒褐色 | 茶褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 9626 | |
| | 543 | A-4 | | SH-09 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→ナデ | タテヘラナデ | 黒褐色 | 茶褐色,暗茶褐色 | 輝石,雲母,砂粒,赤粒 | 4086 | 内:スス付着 |
| | 544 | A-4 | | SH-09 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→丁寧なタテナデ | 細目のタテハケ目→丁寧なタテナデ | 暗燈褐色,黒褐色 | 暗茶褐色,暗燈褐色 | 角閃石,雲母,砂粒,赤粒 | 4079ほか | |
| | 545 | A-4 | | SH-09 | 埋土2 | | ヨコ調整,細目のタテハケ目 | 細目のヨコハケ目→ヨコ調整 | 暗茶褐色,暗燈褐色 | 茶褐色,茶褐色 | 角閃石,輝石,砂粒 | 22141 | |
| 第80図 | 546 | A-4 | | SH-09 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→丁寧なヨコナデ | ヨコ調整→丁寧なヨコナデ | 暗茶褐色,黒褐色 | 茶褐色,暗燈褐色,黒褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 2964ほか | |
| | 547 | B-5 | | SH-09 | 埋土2 | 埋納ピット1 | 太目のタテハケ目→ヨコヘラナデ | タテケズリ→タテヘラナデ | 暗燈褐色,暗赤褐色 | 暗黄褐色,灰褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 22819 | |
| | 548 | | | | | | タテケズリ→タテヘラナデ | タテヘラナデ | 暗褐色,暗黄褐色 | 暗黄褐色,暗黄褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 一括 | |
| | 549 | | | | | | ヨコ調整 | ヨコ調整→ヨコヘラナデ | 茶褐色 | 茶褐色 | 輝石,細粒,赤粒 | 一括 | |
| | 550 | A-4 | | SH-09 | 埋土2 | | ヨコ調整 | ヨコ調整,ヨコハケ目→ヨコヘラナデ | 茶褐色 | 茶褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 4084ほか | |
| | 551 | | | | | | ヨコ調整→ヨコヘラナデ | ヨコ調整,ヨコヘラナデ | 茶褐色,暗茶褐色 | 茶褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 一括 | |
| | 552 | A-4<br>A-4 | | SH-09<br>SH-09 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目 | 細目のヨコハケ目,指頭圧痕 | 暗黄褐色,暗茶褐色 | 暗燈褐色,暗黄褐色 | 輝石,雲母,細粒 | 9600ほか<br>2977ほか | 外:スス付着 |
| | 553 | A-4 | | SH-09 | 埋土2 | | タテケズリ→細目のタテハケ目 | ヨコ調整→ヨコヘラナデ | 茶褐色,暗黄褐色 | 黄白色,暗黄褐色 | 輝石,雲母,砂粒,赤粒 | 22143 | |
| | 554 | A-4 | | SH-09 | 埋土2 | | タテケズリ→タテヘラナデ | タテヘラナデ | 暗黄褐色,黒褐色 | 黄白色,暗黄褐色 | 角閃石,雲母,砂粒 | 7552ほか | |
| | 555 | A-4 | | SH-09 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目,ヨコ調整 | ヨコヘラナデ,ヨコハケ目→ナデ | 暗黄褐色,黒褐色 | 茶褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 7536 | |
| | 556 | A-4 | | SH-09 | 埋土2 | | ヨコ調整,細目のタテハケ目 | ヨコ調整 | 暗黄褐色,燈褐色 | 暗黄褐色 | 輝石,雲母,細粒,赤粒 | 3172 | |
| | 557 | A-4 | | SH-09 | 埋土1 | | ヨコ調整 | ヨコ調整 | 暗褐色,暗燈褐色 | 暗黄褐色,暗燈褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 9613 | |
| | 558 | A-4 | | SH-09 | 埋土1 | | タテケズリ→タテヘラナデ | ヨコヘラナデ | 暗燈褐色,暗茶褐色 | 暗燈褐色,暗黄褐色 | 輝石,雲母,砂粒,赤粒 | 5411 | |
| 第83図 | 561 | A-6 | | SH-10 | 床直 | | タテケズリ,太目のタテハケ目 | ヨコ調整→ヨコヘラナデ,ヨコ調整 | 黒褐色,暗茶褐色 | 暗茶褐色,暗燈褐色 | 角閃石,細粒 | 15255ほか | 外:スス付着 |
| | 562 | | | | | | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ | タテヘラナデ→ナデ,太目のヨコハケ目 | 暗茶褐色,黒褐色 | 茶褐色,暗燈褐色 | 輝石,細粒 | 一括 | 外:スス付着 |
| | 563 | A-6<br>A-6<br>A-6 | | SH-10<br>SH-10<br>SH-10 | 床直<br>埋土<br>埋土2 | | タテヘラナデ,ヨコ調整 | ヨコヘラナデ→タテヘラナデ | 茶褐色,黒褐色 | 茶褐色,暗燈褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 15258ほか<br>9819<br>6674ほか | |
| | 564 | A-6 | | SH-10 | 埋土2 | | ヨコ調整→タテヘラナデ | 指頭圧痕,ヨコ調整 | 茶褐色,暗黄褐色 | 茶褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 6682 | |
| | 565 | A-6 | | SH-10 | 埋土2 | | ヨコ調整 | ヨコヘラナデ | 暗黄褐色,暗燈褐色 | 灰褐色,暗黄褐色 | クロウンモ,角閃石,砂粒 | 6678 | |
| 第85図 | 566 | | | | | | ヨコ調整,指頭圧痕 | ヨコ調整→ナデ | 暗黄褐色,燈褐色 | 燈褐色,暗黄褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 一括 | |
| 第89図 | 570 | A-7<br>B-6<br>B-7 | Ⅱ | SH-12<br>SH-12 | 埋土1<br>埋土2 | | タテケズリ,細目のタテハケ目→タテヘラナデ | タテナデ,ヨコ調整 | 暗茶褐色,黒褐色 | 黒褐色,暗赤褐色 | 輝石,砂粒,赤粒 | 80ほか<br>5413<br>3918ほか | |

# 第21表　土器観察表（10）

| 挿図No | 掲載No | 出土区 | 層 | 遺構L1 | 遺構L2 | 遺構L3 | 調整(外) | 調整(内) | 色調(外) | 色調(内) | 胎　土 | 取上No | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第89図 | 571 | B-6 | | SH-12 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→丁寧なタテナデ，ヨコ調整 | タテヘラナデ，ヨコヘラナデ，ヨコ調整 | 暗茶褐色，黒褐色 | 茶褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 5413 | |
| | 572 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | タテケズリ→ヨコハケ目，ヨコ調整 | タテヘラナデ，ヨコ調整 | 暗茶褐色，黒褐色 | 暗茶褐色，暗燈褐色 | 雲母，輝石，砂粒 | 12752 | 外：スス付着 |
| | 573 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | タテヘラナデ，細目のタテハケ目→ヨコ調整 | ヨコ調整→タテヘラナデ，ヨコ調整 | 暗赤褐色，黒褐色 | 暗黄褐色，黒褐色 | 角閃石，細粒，赤粒 | 5286 | 外：スス付着 |
| | 574 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ，タテ調整 | タテヘラナデ，細目のヨコハケ目→ヨコ調整 | 暗黄褐色，暗燈褐色 | 燈褐色 | 角閃石，細粒，赤粒 | 4605ほか | 外：スス付着 |
| | 575 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテ調整，ヨコ調整 | タテヘラナデ，細目のヨコハケ目 | 暗茶褐色，黒褐色 | 茶褐色 | 角閃石，輝石，砂粒，赤粒 | 5287 | 外：スス付着 |
| | 576 | B-6 | | SH-12 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ，ヨコ調整 | タテヘラナデ，細目のヨコハケ目 | 暗黄褐色，黒褐色 | 暗燈褐色，暗黄褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 5413 | 外：スス付着 |
| | 577 | A-7<br>B-6 | Ⅱ | SH-12 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→ヨコヘラナデ，ヨコ調整 | タテ調整→ヨコヘラナデ，ヨコ調整 | 暗茶褐色，暗黄褐色 | 茶褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 79<br>5413 | 線刻土器 |
| | 578 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | タテヘラナデ，ヨコ調整 | 細目のヨコハケ目，ヨコ調整 | 暗褐色，茶褐色 | 暗赤褐色，暗黄褐色 | 輝石，角閃石，砂粒，赤粒 | 5274ほか | 外：スス付着 |
| 第90図 | 579 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | 太目のタテハケ目→ヨコ調整，細目のヨコハケ目 | 暗茶褐色，茶褐色 | 暗燈褐色 | 角閃石，細粒 | 12746 | 外：スス付着 |
| | 580 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | タテヘラナデ，ヨコ調整 | ヨコハケ目→ヨコ調整，タテ調整 | 暗茶褐色，黒褐色 | 暗燈褐色，暗茶褐色 | クロウンモ，細粒，赤粒 | 3045ほか | 外：スス付着 |
| | 581 | B-6<br>B-7 | | SH-12<br>SH-12 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ，ヨコ調整 | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ，細目のヨコハケ目 | 暗燈褐色，黒褐色 | 暗燈褐色，暗赤褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 5413<br>3820ほか | 外：スス付着 |
| | 582 | B-6<br>B-7 | | SH-12<br>SH-12 | 埋土1<br>埋土2 | | タテヘラナデ | タテヘラナデ | 茶褐色，暗赤褐色 | 黒褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 5894<br>7109ほか | 内：スス付着 |
| | 583 | A-7<br>B-7 | Ⅱ | SH-12 | 埋土2 | | ヨコ調整，太目のタテハケ目 | 太目のヨコハケ目→ナデ | 暗黄褐色，茶褐色 | 茶褐色，暗黄褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 91ほか<br>4582ほか | |
| | 584 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | タテハケ目→タテヘラナデ，ヨコ調整 | タテヘラナデ→ヨコヘラナデ | 暗黄褐色，灰褐色 | 暗黄褐色，赤褐色 | 輝石，砂粒 | 3793ほか | |
| | 585 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | ヨコ調整，細目のタテハケ目→ヨコヘラナデ | ヨコ調整，ヨコヘラナデ | 暗黄褐色 | 暗黄褐色，暗赤褐色 | 輝石，細粒，赤粒 | 12751 | |
| | 586 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | ヨコ調整→タテヘラナデ | タテヘラナデ | 暗黄褐色，暗赤褐色 | 暗黄褐色，黒褐色 | 角閃石，砂粒，赤粒 | 4592 | |
| | 587 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | 指頭圧痕，ヨコ調整 | 指頭圧痕，ヨコ調整 | 暗燈褐色，暗黄褐色 | 暗黄褐色，暗燈褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 4599 | |
| | 588 | | | | | | ヨコヘラナデ，タテヘラナデ | ヨコ調整 | 黄褐色，暗黄褐色 | 暗赤褐色，暗黄褐色 | 角閃石，輝石 | 一括 | |
| | 589 | | | | | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ，ヨコハケ目→ヨコ調整 | ヨコ調整→タテヘラナデ | 茶褐色，暗茶褐色 | 茶褐色，暗茶褐色 | 輝石，細粒，赤粒 | 一括 | |
| | 590 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目，タテヘラナデ | 細目のヨコハケ目，ヨコヘラナデ | 暗黄褐色，灰褐色 | 黒褐色，灰褐色 | 雲母，細粒，赤粒 | 3914 | |
| | 591 | A-6<br>B-6<br>B-7 | Ⅱ | SH-12<br>SH-12 | 埋土1<br>埋土2 | | タテヘラナデ，ヨコヘラナデ | タテヘラナデ，ヨコヘラナデ | 燈褐色 | 黄白色，燈褐色 | 角閃石，輝石，細粒，赤粒 | 71<br>5413ほか<br>7348ほか | |
| | 592 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | タテヘラナデ，ヨコ調整 | タテ調整→ナデ | 燈褐色 | 燈褐色，黄褐色 | 輝石，細粒，赤粒 | 5291 | |
| | 593 | B-7<br>B-7 | Ⅱ | SH-12 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→丁寧なタテナデ | タテ調整→タテヘラナデ | 茶褐色，黒褐色 | 茶褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 436ほか<br>4833 | |
| | 594 | B-7<br>B-7 | Ⅱ | SH-12 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→丁寧なタテナデ | タテ調整→タテヘラナデ | 茶褐色，黒褐色 | 茶褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 472ほか<br>3283ほか | |
| | 595 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目 | ヨコ調整，指頭圧痕 | 暗黄褐色，灰褐色 | 暗黄褐色，燈褐色 | 獣毛，輝石，砂粒，赤粒 | 12256 | |
| | 596 | A-7<br>B-6<br>B-6 | Ⅱ | SH-12<br>SH-12 | 埋土1<br>埋土2 | | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ | タテ調整→タテヘラナデ | 茶褐色，暗赤褐色 | 黄白色，灰褐色 | 角閃石，輝石，砂粒，赤粒 | 105ほか<br>5413ほか<br>12770 | |
| | 597 | B-7<br>B-7 | Ⅱ | SH-12 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目，ヨコ調整 | タテヘラナデ，ヨコ調整 | 暗燈褐色，暗黄褐色 | 暗燈褐色，黄白色 | 輝石，雲母，細粒，赤粒 | 431<br>4586 | |
| 第91図 | 598 | | | | | | タテハケ目→タテヘラナデ | タテヘラナデ | 暗燈褐色，暗黄褐色 | 黒褐色，灰褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 一括 | |
| | 599 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | タテヘラナデ，細目のタテハケ目 | タテヘラナデ，細目のヨコハケ目 | 赤褐色，暗黄褐色 | 暗黄褐色，暗燈褐色 | 輝石，クロウンモ，砂粒，赤粒 | 3055ほか | |
| | 600 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | 指頭圧痕，タテヘラナデ | ヨコヘラナデ | 茶褐色，暗黄褐色 | 暗茶褐色，茶褐色 | 輝石，細粒，赤粒 | 12269 | |
| | 601 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | ヨコ調整 | 指頭圧痕，タテヘラナデ | 暗黄褐色 | 暗褐色，暗黄褐色 | 雲母，細粒 | 12742 | |
| | 602 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | タテナデ，タテヘラナデ | 太目のヨコハケ目，ヨコ調整 | 暗燈褐色，暗黄褐色 | 黄褐色，黄白色 | 輝石，雲母，角閃石，砂粒 | 3904ほか | |
| | 603 | B-7 | | SH-12 | 埋土1 | | タテ調整→ヨコナデ，タテナデ | タテヘラナデ，ヨコ調整 | 暗褐色，暗燈褐色 | 黄褐色，暗褐色 | 輝石，砂粒 | 7737 | |
| 第93図 | 605 | | | | | | 細目のタテハケ目，ヨコ調整 | ヨコ調整→ナデ | 暗赤褐色，黒褐色 | 暗黄褐色，黒褐色 | 輝石，微粒，赤粒 | 一括 | 外：スス付着 |
| | 606 | D-8<br>C-8 | | SH-13<br>SH-13 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目，ヨコ調整 | タテヘラナデ，ヨコ調整 | 暗黄褐色，黒褐色 | 暗茶褐色，暗燈褐色 | 輝石，雲母，砂粒，赤粒 | 17220<br>3885ほか | 外：スス付着 |
| | 607 | C-8<br>C-9<br>C-9 | | SH-13<br>溝4<br>溝4 | 埋土2<br>埋土<br>埋土1 | | 細目のタテハケ目，ヨコ調整 | 細目のタテハケ目，ヨコ調整 | 茶褐色，暗茶褐色 | 暗茶褐色，暗赤褐色 | 輝石，細粒，赤粒 | 4718<br>8678<br>11428 | 外：スス付着 |
| | 608 | C-8 | | SH-13 | 埋土2 | | 太目のタテハケ目，ヨコ調整 | タテヘラナデ，ヨコ調整 | 暗茶褐色，暗褐色 | 茶褐色，暗褐色 | 輝石，雲母，細粒，赤粒 | 3891 | 外：スス付着 |
| | 609 | C-8 | | SH-13 | 埋土1 | | 細目のヨコハケ目，細目のタテハケ目 | 細目のヨコハケ目，ヨコ調整 | 暗黄褐色，黒褐色 | 茶褐色 | 輝石，細粒，赤粒 | 17241 | 外：スス付着 |
| | 610 | C-8 | | SH-13 | 埋土1 | | | | | | | 17224ほか | |

# 第22表　土器観察表（11）

| 挿図No | 掲載No | 出土区 | 層 | 遺構L1 | 遺構L2 | 遺構L3 | 調整(外) | 調整(内) | 色調(外) | 色調(内) | 胎　土 | 取上No | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第93図 | 610 | C-8 | | SH-13 | 埋土2 | | ヨコ調整→ナデ | ヨコヘラナデ，タテヘラナデ | 暗黄褐色，暗赤褐色 | 暗茶褐色，暗黄褐色 | 輝石，角閃石，砂粒，赤粒 | 3880 | |
| | 611 | | | | | | ヨコ調整，タテヘラナデ | ヨコ調整→ナデ | 茶褐色 | 茶褐色 | 輝石，角閃石，砂粒，赤粒 | 一括 | |
| | 612 | C-8 | | SH-13 | 埋土2 | | タテケズリ→タテヘラナデ | タテケズリ→タテヘラナデ | 暗黄褐色 | 暗褐色，黒褐色 | 輝石，細粒，赤粒 | 17156 | |
| | 613 | C-8 | | SH-13 | 埋土2 | | 丁寧なタテナデ，丁寧なヨコナデ | 太目のタテハケ目，太目のヨコハケ目 | 暗黄褐色，暗茶褐色 | 灰褐色，黄白色 | 輝石，雲母，細粒，赤粒 | 17150 | |
| | 614 | | | | | | 細目のタテハケ目，ヨコヘラナデ | タテヘラナデ，ヨコ調整 | 暗燈褐色，暗赤褐色 | 暗黄褐色，暗褐色 | 角閃石，細粒，赤粒 | 一括 | |
| | 615 | C-8<br>C-9 | | SH-13<br>溝4 | 埋土1<br>埋土1 | | 太目のタテハケ目 | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ，ヨコヘラナデ | 暗茶褐色，黒褐色 | 暗燈褐色 | 角閃石，輝石，細粒，赤粒 | 17685<br>11431 | |
| | 616 | | | | | | タテヘラナデ | 太目のヨコハケ目→太目のタテハケ目 | 暗黄褐色，暗褐色 | 暗燈褐色，暗褐色 | 角閃石，輝石，砂粒，赤粒 | 一括 | |
| | 617 | C-8 | | SH-13 | 埋土1 | | ヨコ調整→タテヘラナデ | ヨコ調整→タテヘラナデ | 暗燈褐色，暗赤褐色 | 暗黄褐色，暗褐色 | 角閃石，輝石，砂粒，赤粒 | 17653 | |
| | 618 | | | | | | タテヘラナデ | タテヘラナデ | 暗茶褐色，黒褐色 | 茶褐色 | 輝石，細粒 | 一括 | |
| | 619 | C-8 | | SH-13 | 埋土2 | | ヨコ調整，タテヘラナデ | ヨコヘラナデ | 暗茶褐色，暗褐色 | 暗褐色，暗黄褐色 | 角閃石，砂粒，赤粒 | 3866 | |
| 第95図 | 621 | | | | | | ヨコヘラナデ | 細目のヨコハケ目 | 暗茶褐色 | 茶褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 一括 | |
| | 622 | B-9 | Ⅱ | | | | タテケズリ→タテヘラナデ | タテヘラナデ | 暗黄褐色，燈褐色 | 暗黄褐色，暗褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 13975ほか | |
| 第97図 | 623 | D-8 | | SH-15A | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→ナデ | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | 暗赤褐色，暗褐色 | 茶褐色，暗燈褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 11565 | |
| | 624 | D-8 | | SH-15A | 埋土2 | | ヨコ調整，タテヘラナデ | ヨコ調整→ナデ | 暗黄褐色，暗赤褐色 | 暗黄褐色，暗赤褐色，黒褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 11567 | 内:スス付着 |
| | 625 | D-8<br>D-8 | | SH-15<br>SH-15A | 埋土2<br>埋土2 | | ヨコ調整，タテヘラナデ | ヨコ調整→タテヘラナデ | 暗褐色，暗燈褐色 | 暗褐色，灰褐色 | 輝石，雲母，砂粒，赤粒 | 5022<br>11572 | |
| | 626 | D-9 | | SH-15 | 埋土2 | | ヨコ調整，細目のタテハケ目 | ヨコ調整，ナデ | 暗茶褐色，黒褐色 | 暗茶褐色，黒褐色 | クロウンモ，砂粒，赤粒 | 15969 | |
| | 627 | D-8<br>D-8 | | SH-15<br>SH-15B | 埋土2<br>埋土2 | | ヨコ調整→タテヘラナデ | 細目のヨコハケ目→丁寧なタテナデ | 茶褐色，暗茶褐色 | 黒褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 5960<br>11590 | |
| | 628 | D-8 | | SH-15 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目 | タテ調整 | 赤褐色，暗燈褐色 | 赤褐色，暗黄褐色 | 輝石，雲母，砂粒，赤粒 | 6766 | |
| | 629 | D-8 | | SH-15 | 埋土2 | | ヨコ調整，タテヘラナデ | ヨコ調整 | 暗赤褐色，暗茶褐色 | 暗赤褐色，黒褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 5971 | |
| | 630 | D-8<br>D-8<br>D-8 | | SH-15<br>SH-15<br>SH-15A | 埋土1<br>埋土2<br>埋土2 | | 太目のタテハケ目，ヨコ調整 | タテ調整→タテヘラナデ，ヨコ調整 | 暗赤褐色，茶褐色 | 燈褐色，暗茶褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 11517<br>5548ほか<br>11556 | |
| | 631 | D-8<br>D-8 | | SH-15<br>SH-15 | 埋土1<br>埋土2 | | タテ調整→ヨコヘラナデ | タテヘラナデ，ヨコヘラナデ，ヨコ調整 | 暗茶褐色，暗黄褐色 | 暗黄褐色，暗褐色 | クロウンモ，細粒，赤粒 | 11232<br>5361 | |
| | 632 | | | | | | タテケズリ→タテハケ目，ナデ | 細目のヨコハケ目 | 暗茶褐色，黒褐色 | 暗燈褐色 | 角閃石，輝石，細粒，赤粒 | 一括 | |
| | 633 | D-8 | | SH-15 | 埋土2 | | ヨコ調整→タテヘラナデ | タテ調整→タテヘラナデ | 暗赤褐色，黒褐色 | 茶褐色，燈褐色 | 輝石，雲母，砂粒，赤粒 | 5961ほか | |
| | 634 | D-8 | | SH-15 | 埋土2 | | タテハケ目→タテヘラナデ | ヨコ調整→タテヘラナデ | 暗赤褐色，燈褐色 | 茶褐色，燈褐色 | 輝石，雲母，砂粒，赤粒 | 17722 | |
| 第99図 | 636 | A-5<br>A-5 | | SH-16<br>SH-16 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目，細目のヨコハケ目 | ヨコヘラナデ，太目のヨコハケ目 | 黄褐色，黒褐色 | 茶褐色，暗黄褐色 | 角閃石，輝石，細粒，赤粒 | 20621<br>22480 | |
| | 637 | A-5 | | SH-16 | 埋土1 | | タテヘラナデ，ヨコ調整 | 細目のヨコハケ目，ヨコ調整 | 暗黄褐色，暗茶褐色 | 暗茶褐色，黒褐色 | 角閃石，細粒，赤粒 | 22025 | 外:スス付着 |
| | 638 | | | | | | 太目のタテハケ目→ヨコ調整 | タテ調整→ヨコ調整，ナデ | 暗茶褐色，黒褐色 | 暗燈褐色，暗黄褐色 | クロウンモ，角閃石，細粒，赤粒 | 28045 | 外:スス付着 |
| | 639 | A-5 | | SH-16 | 埋土1 | | タテケズリ→タテヘラナデ | タテ調整→タテヘラナデ | 暗茶褐色，黒褐色 | 暗燈褐色，暗茶褐色 | 輝石，細粒，赤粒 | 20638ほか | |
| | 640 | A-5 | | SH-16 | 埋土2 | | タテ調整→タテヘラナデ | ヨコ調整，ヨコヘラナデ | 暗燈褐色，暗黄褐色 | 茶褐色，暗褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 21486 | |
| | 641 | A-5 | | SH-16 | 埋土1 | | ヨコ調整→タテヘラナデ | ヨコヘラナデ，タテヘラナデ | 茶褐色，暗茶褐色 | 黒褐色 | 輝石，小礫，赤粒 | 20405 | |
| | 642 | A-5 | | SH-16 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目→ヨコ調整 | ヨコ調整→ヨコヘラナデ | 赤褐色，茶褐色 | 暗赤褐色，黒褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 20639 | |
| | 643 | A-5 | | SH-16 | 埋土2 | | ナデ，指頭圧痕 | ナデ，指頭圧痕 | 暗褐色，暗黄褐色 | 暗赤褐色，黒褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 22169 | 内:スス付着 |
| | 644 | A-5 | | SH-16 | 埋土1 | | ヨコ調整→タテヘラナデ | ヨコヘラナデ | 黄褐色，暗燈褐色 | 暗黄褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 20826 | |
| | 645 | A-5 | | SH-16 | 埋土1 | | タテヘラナデ，指頭圧痕 | タテヘラナデ | 暗褐色，暗黄褐色 | 暗燈褐色，暗赤褐色 | 角閃石，砂粒，赤粒 | 20640 | |
| | 646 | A-5 | | SH-16 | 埋土2 | | タテケズリ，タテヘラナデ | 細目のタテハケ目，ヨコヘラナデ | 茶褐色，黒褐色 | 暗茶褐色，黒褐色 | 角閃石，輝石，小礫，赤粒 | 22795 | |
| | 647 | A-5 | | SH-16 | 埋土1 | | タテヘラナデ，指頭圧痕 | 太目のタテハケ目，太目のヨコハケ目 | 暗燈褐色，暗茶褐色 | 暗燈褐色，暗黄褐色 | 輝石，角閃石，細粒 | 21164ほか | 外:スス付着 |
| | 648 | A-5<br>A-5 | | SH-16<br>SH-16 | 埋土1<br>埋土2 | | ヨコヘラナデ，タテヘラナデ | 太目のヨコヘラナデ，太目のタテハケ目 | 燈褐色，暗褐色 | 暗燈褐色，赤褐色 | 輝石，角閃石，細粒 | 22037ほか<br>22494ほか | 外:スス付着 |
| 第101図 | 650 | A-13 | | SH-17 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | ヨコ調整，タテヘラナデ | 暗茶褐色，暗黄褐色 | 暗赤褐色，暗黄褐色 | 輝石，角閃石，細粒，赤粒 | 11996 | 外:スス付着 |
| | 651 | A-12 | | SH-17 | 埋土1 | | ヨコ調整→タテヘラナデ | ヨコ調整，ヨコヘラナデ | 黄白色，暗褐色 | 暗褐色，暗黄褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 11279 | |
| | 652 | A-13 | | SH-17 | 埋土2 | | ヨコ調整，タテヘラナデ | ヨコ調整 | 茶褐色，暗黄褐色 | 茶褐色，暗黄褐色 | 輝石，雲母，砂粒，赤粒 | 11303 | |
| | 653 | A-13 | | SH-17 | 埋土3 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ，ヨコ調整 | 茶褐色，暗燈褐色 | 茶褐色，暗黄褐色 | 輝石，角閃石，砂粒，赤粒 | 12593 | |
| 第103図 | 654 | B-14 | | SH-18 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→ヨコヘラナデ，ヨコ調整 | 細目のタテハケ目，ヨコ調整→ナデ | 暗黄褐色，黒褐色 | 暗黄褐色，暗燈褐色 | 角閃石，輝石，砂粒，赤粒 | 7195 | 外:スス付着 |
| | 655 | B-14<br>B-14 | | SH-18<br>SH-18 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ，ヨコ調整 | タテケズリ→タテヘラナデ，ヨコ調整 | 暗燈褐色，茶褐色 | 茶褐色，暗赤褐色 | 輝石，角閃石，砂粒，赤粒 | 7213ほか<br>7153ほか | 外:スス付着 |
| | 656 | B-14 | | SH-18 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目，太目のヨコハケ目 | タテヘラナデ，細目のヨコハケ目 | 暗燈褐色，黒褐色 | 燈褐色，暗茶褐色 | 角閃石，砂粒，赤粒 | 7162 | 外:スス付着 |

# 第23表　土器観察表（12）

| 挿図No | 掲載No | 出土区 | 層 | 遺構L1 | 遺構L2 | 遺構L3 | 調整(外) | 調整(内) | 色調(外) | 色調(内) | 胎　土 | 取上No | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第103図 | 656 | B-14 | | SH-18 | 埋土2 | | | | | | | 7205 | |
| | 657 | B-14<br>B-14 | | SH-18<br>SH-18 | 埋土1<br>埋土2 | | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ, ヨコ調整 | タテケズリ→タテヘラナデ, ヨコ調整 | 黄褐色, 暗褐色 | 茶褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 6022ほか<br>7185ほか | 外:スス付着 |
| | 658 | B-14 | | SH-18 | 埋土2 | | タテ調整→タテヘラナデ | ヨコヘラナデ, タテヘラナデ | 暗黄褐色, 燈褐色 | 暗茶褐色, 黒褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 7195ほか | 内:スス付着 |
| | 659 | B-14 | | SH-18 | 埋土2 | | ヨコ調整, 細目のタテハケ目→ヨコナデ | ヨコ調整, タテヘラナデ | 茶褐色, 黒褐色 | 茶褐色, 暗茶褐色 | クロウンモ, 輝石, 細粒, 赤粒 | 7662 | |
| | 660 | B-14 | | SH-18 | 埋土2 | | ヨコ調整→ヨコヘラナデ | ヨコ調整→タテヘラナデ | 暗茶褐色, 暗燈褐色 | 暗黄褐色, 黒褐色 | 角閃石, 輝石, 小礫, 赤粒 | 10180ほか | 内:スス付着 |
| | 661 | B-14 | | SH-18 | 埋土1 | | ヨコ調整→ヨコヘラナデ | ヨコ調整→タテヘラナデ | 茶褐色, 暗赤褐色 | 暗黄褐色, 燈褐色 | 輝石, 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 7159 | |
| | 662 | | | | | | ヨコ調整→ナデ | ヨコ調整→ナデ | 暗褐色, 暗燈褐色 | 茶褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 一括 | |
| | 663 | B-14 | | SH-18 | 埋土1 | | ヨコ調整, タテヘラナデ | ヨコ調整 | 茶褐色, 暗黄褐色 | 茶褐色, 黒褐色 | 角閃石, 雲母, 砂粒, 赤粒 | 7225 | 内:スス付着 |
| 第104図 | 664 | B-14 | | SH-18 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ | ヨコヘラナデ, タテヘラナデ, ヨコ調整 | 黄白色, 暗褐色 | 黄褐色, 暗褐色 | 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 6013ほか | 外:スス付着 |
| | 665 | B-14<br>B-14<br>B-14 | | SH-18<br>SH-18<br>SH-18 | 埋土1<br>埋土2<br>埋土3 | | 太目のタテハケ目, ヨコ調整 | タテヘラナデ, 細目のタテハケ目→ナデ | 暗茶褐色, 黄白色 | 茶褐色, 暗燈褐色 | 角閃石, 輝石, 砂粒, 赤粒 | 7208ほか<br>7205<br>10586 | 外:スス付着 |
| | 666 | B-14 | | SH-18 | 埋土1 | | 太目のヨコハケ目→タテヘラナデ, ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコナデ, ヨコ調整 | 茶褐色, 暗燈褐色 | 燈褐色, 暗燈褐色 | 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 6017ほか | |
| | 667 | B-14 | | SH-18 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ, ヨコ調整 | 太目のタテハケ目→ヨコナデ, ヨコ調整 | 暗茶褐色, 黒褐色 | 茶褐色, 暗茶褐色 | 角閃石, 輝石, 砂粒, 赤粒 | 7167 | 外:スス付着 |
| | 668 | B-14 | | SH-18 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ, ヨコ調整 | ヨコケズリ, ヨコ調整 | 茶褐色, 暗茶褐色 | 暗黄褐色, 暗茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 7178 | 外:スス付着 |
| | 669 | B-14<br>B-14 | | SH-18<br>SH-18 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目→ヨコナデ, ヨコ調整 | 太目のタテハケ目→ヨコナデ, ヨコ調整 | 暗茶褐色, 黒褐色 | 茶褐色, 暗茶褐色 | 角閃石, 輝石, 砂粒, 赤粒 | 7164<br>7650ほか | 外:スス付着 |
| 第105図 | 670 | B-14 | | SH-18 | 埋土1 | | タテヘラナデ→丁寧なヨコナデ, ヨコ調整 | タテナデ | 茶褐色, 暗黄褐色 | 暗燈褐色, 茶褐色 | 輝石, 小礫, 赤粒 | 7208ほか | |
| | 671 | B-14 | | SH-18 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→ナデ | ナデ, 指頭圧痕 | 黄褐色, 暗燈褐色 | 黄白色, 暗燈褐色 | 輝石, 角閃石, 砂粒 | 10185ほか | |
| | 672 | | | | | | 太目のタテハケ目, ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ, | 燈褐色, 黄褐色 | 暗燈褐色 | 角閃石, 輝石, 細粒, 赤粒 | 一括 | |
| | 673 | B-14 | | SH-18 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→ナデ | タテケズリ→ヨコ調整 | 暗茶褐色, 暗赤褐色 | 茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 7216 | |
| | 674 | B-14 | | SH-18 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目, ヨコ調整 | タテケズリ→ヨコ調整 | 暗茶褐色, 暗褐色 | 茶褐色 | 輝石, 小礫, 赤粒 | 7220 | |
| | 675 | B-14 | | SH-18 | 埋土1 | | ヨコヘラナデ→丁寧なタテナデ, ヨコ調整 | ヨコヘラナデ, タテヘラナデ | 茶褐色, 黄褐色 | 暗黄褐色, 暗褐色 | 輝石, 雲母, 砂粒, 赤粒 | 7208 | 外:スス付着 |
| | 676 | B-14<br>B-14 | | SH-18<br>SH-18 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | タテナデ | 暗褐色, 暗黄褐色 | 暗燈褐色, 暗茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 7208ほか<br>7205 | |
| 第106図 | 677 | B-14<br>B-14 | | SH-18<br>SH-18 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目→丁寧なタテナデ | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | 茶褐色, 暗茶褐色 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 7176ほか<br>7653ほか | |
| | 678 | B-14 | | SH-18 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテナデ | 太目のヨコハケ目→タテナデ | 暗黄褐色, 暗燈褐色 | 黄白色, 暗黄褐色 | クロウンモ, 角閃石, 輝石, 微粒 | 10183ほか | |
| | 679 | D-8<br>B-14 | Ⅱ | SH-18 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | タテヘラナデ, ヨコ調整 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 暗燈褐色, 暗褐色 | 輝石, 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 3422<br>7185ほか | |
| | 680 | B-14<br>B-14 | | SH-18<br>SH-18 | 埋土2<br>埋土3 | | タテヘラナデ→ヨコナデ | タテケズリ, 指頭圧痕 | 暗燈褐色, 暗茶褐色 | 黒褐色 | 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 7207ほか<br>10179 | |
| | 681 | B-14<br>B-14 | | SH-18<br>SH-18 | 埋土1<br>埋土2 | | タテナデ, 丁寧なタテナデ, ヨコ調整 | タテナデ, 指頭圧痕 | 黄白色, 燈褐色 | 黒褐色, 灰褐色 | 輝石, 雲母, 微粒, 赤粒 | 6020ほか<br>7194ほか | |
| | 682 | B-14 | | SH-18 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目, ヨコ調整 | 太目のタテハケ目, ヨコヘラナデ | 茶褐色, 燈褐色 | 茶褐色, 燈褐色 | 輝石, 小礫, 赤粒 | 7165 | |
| | 683 | A-6<br>B-14<br>B-14 | Ⅱ | SH-18<br>SH-18 | 埋土2<br>埋土3 | | 細目のタテハケ目→ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | タテ調整→タテヘラナデ | 茶褐色, 黒褐色 | 暗褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 1190<br>7192<br>10177 | |
| | 684 | B-14 | | SH-18 | 埋土1 | | タテヘラナデ→丁寧なヨコナデ | タテナデ | 暗黄褐色, 暗褐色 | 茶褐色, 暗燈褐色 | 角閃石, 輝石, 砂粒, 赤粒 | 7211 | 線刻土器 |
| 第108図 | 685 | C-13<br>C-13<br>C-13 | Ⅱ | SH-19<br>SH-19 | 埋土1<br>埋土2 | | 太目のタテハケ目→ナデ, ヨコ調整 | 細目のヨコハケ目→ナデ, ヨコ調整 | 暗黄褐色, 黒褐色 | 暗黄褐色, 暗褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 2400ほか<br>8075<br>5815ほか | 外:スス付着 |
| | 686 | C-13 | | SH-19 | 埋土2 | | タテヘラナデ, ヨコ調整 | ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | 暗燈褐色, 暗茶褐色 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 5854 | 外:スス付着 |
| | 687 | C-13 | | SH-19 | 埋土2 | | タテヘラナデ, ヨコ調整 | ヨコ調整 | 暗茶褐色 | 暗燈褐色, 暗茶褐色 | 輝石, 砂粒 | 5831 | 外:スス付着 |
| | 688 | C-13 | | SH-19 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目, ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコ調整 | 暗赤褐色, 暗黄褐色 | 暗黄褐色, 暗赤褐色 | 角閃石, 輝石, 砂粒, 赤粒 | 8081ほか | 外:スス付着 |
| | 689 | C-13 | | SH-19 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目, タテ調整, ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコ調整 | 暗燈褐色, 黒褐色 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 角閃石, 細粒, 赤粒 | 10565 | 外:スス付着 |
| | 690 | C-13 | | SH-19 | 埋土2 | | タテヘラナデ→丁寧なタテナデ, ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | 暗燈褐色, 暗褐色 | 暗燈褐色, 黒褐色 | 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 5812 | 内:スス付着 |
| | 691 | | | | | | タテヘラナデ, ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコ調整 | 暗黄褐色, 暗褐色 | 茶褐色, 暗黄褐色 | 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 一括 | 外:スス付着 |
| | 692 | C-13<br>C-13 | | SH-19<br>SH-19 | 埋土1<br>埋土2 | | タテヘラナデ, ヨコ調整 | タテケズリ→タテヘラナデ, ヨコ調整 | 暗茶褐色, 黒褐色 | 茶褐色, 暗黄褐色 | 角閃石, 輝石, 小礫, 赤粒 | 10045<br>5832 | 外:スス付着 |
| | 693 | C-13<br>C-13 | | SH-19<br>SH-19 | 埋土1<br>埋土2 | | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | 暗褐色, 暗黄褐色 | 暗褐色, 茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 8079ほか<br>5778ほか | |
| | 694 | C-13 | | SH-19 | 埋土2 | | ヨコ調整→タテヘラナデ | ヨコ調整, ヨコヘラナデ | 茶褐色, 暗黄褐色 | 暗黄褐色, 黒褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 6082 | 内:スス付着 |
| | 695 | C-13 | | SH-19 | 埋土2 | | ヨコ調整→丁寧なタテナデ, 細目のタテハケ目 | 丁寧なタテナデ | 暗黄褐色 | 暗黄褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 5826 | |
| | 696 | C-13 | | SH-19 | 埋土3 | | ヨコ調整, 指頭圧痕 | タテナデ | 暗燈褐色, 暗赤褐色 | 暗黄褐色, 暗褐色 | 輝石, 小礫, 赤粒 | 10144 | 内:スス付着 |

# 第24表　土器観察表（13）

| 挿図No | 掲載No | 出土区 | 層 | 遺構L1 | 遺構L2 | 遺構L3 | 調整(外) | 調整(内) | 色調(外) | 色調(内) | 胎　土 | 取上No | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第108図 | 697 | C-13 | | SH-19 | 埋土2 | | ヨコ調整 | ヨコ調整 | 黄褐色, 暗黄褐色 | 暗黄褐色, 暗燈褐色 | 角閃石, 輝石, 砂粒 | 10205ほか | |
| | 698 | C-13 | | SH-19 | 埋土2 | | ヨコ調整 | ヨコ調整 | 黄褐色 | 暗黄褐色, 暗燈褐色 | 角閃石, 輝石, 砂粒 | 6084ほか | |
| | 699 | C-13 | | SH-19 | 埋土2 | | ヨコ調整, タテ調整 | ヨコ調整 | 暗黄褐色, 暗茶褐色 | 暗褐色, 暗茶褐色 | 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 5846 | |
| | 700 | C-13 | | SH-19 | 埋土2 | | 指頭圧痕, タテヘラナデ | タテヘラナデ | 黒褐色, 暗茶褐色 | 黒褐色, 暗茶褐色 | 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 7018 | |
| 第109図 | 701 | C-13 | | SH-19 | 埋土2 | | 丁寧なタテナデ, ヨコ調整 | 細目のタテハケ目, ヨコ調整 | 暗燈褐色 | 茶褐色, 暗赤褐色 | 獣毛, 輝石, 砂粒, 赤粒 | 7004ほか | |
| | 702 | C-13<br>C-13 | | SH-19<br>SH-19 | 埋土1<br>埋土2 | | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | タテケズリ→タテ調整, ヨコヘラナデ | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 暗黄褐色, 燈褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 10046<br>10076ほか | |
| | 703 | C-13<br>C-13 | | SH-19<br>SH-19 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目→丁寧なタテナデ | ヨコヘラナデ, 指頭圧痕 | 茶褐色, 暗黄褐色 | 暗黄褐色, 暗茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 8077ほか<br>5780ほか | |
| | 704 | C-13<br>C-13 | Ⅱ | <br>SH-19 | <br>埋土2 | | タテヘラナデ, ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコ調整 | 茶褐色, 暗茶褐色 | 茶褐色, 暗茶褐色, 黒褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 2388<br>5768ほか | |
| | 705 | C-13<br>C-13 | | SH-19<br>SH-19 | 埋土1<br>埋土2 | | タテヘラナデ, ヨコ調整 | 細目のヨコハケ目→タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 8072ほか<br>6083 | |
| | 706 | C-13<br>C-13 | | SH-19<br>SH-19 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ, ヨコ調整 | タテヘラナデ, 細目のヨコハケ目→ヨコヘラナデ | 黄褐色, 黒褐色 | 黒褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 8084<br>7006 | |
| 第112図 | 711 | A-12 | | SH-20 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | タテヘラナデ, ヨコハケ目 | 暗黄褐色, 黒褐色 | 燈褐色, 灰褐色 | クロウンモ, 輝石, 砂粒 | 11085 | 外:スス付着 |
| | 712 | A-11<br>A-11 | | SH-20<br>SH-20 | 埋土1<br>埋土2 | | 太目のタテハケ目→タテヘラナデ, ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコ調整 | 暗茶褐色, 暗黄褐色 | 暗黄褐色, 暗燈褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 8733<br>8770ほか | 外:スス付着 |
| | 713 | A-11 | | SH-20 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目, ナデ | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | 暗燈褐色, 暗茶褐色 | 暗茶褐色, 暗黄褐色 | クロウンモ, 輝石, 砂粒, 赤粒 | 7423 | |
| | 714 | A-12 | | SH-20 | 埋土2 | | タテヘラナデ | ヨコヘラナデ | 燈褐色, 暗黄褐色 | 灰褐色, 暗黄褐色 | 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 8753ほか | |
| | 715 | A-11 | | SH-20 | 埋土1 | | タテケズリ→ヨコ調整, ヨコヘラナデ | 太目のヨコハケ目, ヨコヘラナデ | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 暗燈褐色, 茶褐色 | 輝石, 砂粒 | 7428ほか | |
| | 716 | A-12 | | SH-20 | 埋土2 | | ヨコ調整→タテヘラナデ | ヨコ調整, ヨコヘラナデ | 暗赤褐色, 暗黄褐色 | 茶褐色, 暗赤褐色 | 輝石, 砂粒 | 8987ほか | |
| | 717 | A-12 | | SH-20 | 埋土2 | | ヨコ調整 | ヨコ調整 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 茶褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 11084 | |
| | 718 | A-12 | | SH-20 | 埋土2 | | タテヘラナデ | ヨコヘラナデ | 暗赤褐色, 黒褐色 | 茶褐色, 黒褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 8983 | |
| | 719 | A-11 | | SH-20 | 埋土2 | | ヨコ調整, タテヘラナデ | ヨコ調整 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 黒褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 8758ほか | |
| | 720 | A-12 | | SH-20 | 埋土2 | | ヨコ調整, 指頭圧痕 | ヨコ調整, ナデ | 暗黄褐色, 暗燈褐色 | 茶褐色, 黒褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 9003 | 外:スス付着 |
| | 721 | A-12 | | SH-20 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ, ヨコ調整 | ヨコ調整 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 暗赤褐色, 黒褐色 | クロウンモ, 輝石, 砂粒, 赤粒 | 8984 | |
| | 722 | A-11<br>A-11 | | SH-20<br>SH-21 | 埋土1<br>埋土2 | | 太目のタテハケ目 | ヨコ調整, 細目のタテハケ目 | 暗黄褐色, 暗褐色 | 暗赤褐色, 暗燈褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 7433<br>11013 | |
| | 723 | A-11 | | SH-20 | 埋土2 | | ヨコ調整, 太目のタテハケ目 | ヨコ調整 | 暗黄褐色, 暗褐色 | 暗燈褐色, 暗赤褐色 | 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 9009 | |
| | 724 | A-12 | | SH-20 | 埋土2 | | ヨコ調整, 指頭圧痕 | ヨコ調整 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 暗赤褐色, 暗燈褐色 | 角閃石, 細粒 | 8999ほか | 外:スス付着 |
| | 725 | A-11 | | SH-20 | 埋土2 | | ヨコ調整 | ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | 暗黄褐色, 暗褐色 | 暗燈褐色, 暗茶褐色 | クロウンモ, 細粒, 赤粒 | 12010 | |
| 第113図 | 726 | A-11 | | SH-20 | 埋土2 | | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | 黄白色, 暗黄褐色 | 黄白色, 黒褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 8763ほか | |
| | 727 | A-11<br>A-11 | | SH-20<br>SH-20 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のヨコハケ目→タテヘラナデ, ヨコ調整 | | 黄白色, 暗黄褐色 | 黄白色, 黒褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 8731<br>11057ほか | |
| | 728 | A-11<br>A-11 | | SH-20<br>SH-20 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のヨコハケ目→タテヘラナデ, ヨコ調整 | | 黄白色, 暗黄褐色 | 黄白色, 黒褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 8730ほか<br>9013ほか | |
| | 729 | A-11<br>A-12 | | SH-20<br>SH-20 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目→丁寧なタテナデ | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | 茶褐色, 暗黄褐色 | 茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 7446<br>8693ほか | |
| | 730 | A-11 | | SH-20 | 撹乱 | | タテハケ目→丁寧なタテナデ | ヨコヘラナデ, タテヘラナデ | 暗茶褐色, 暗褐色 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 7448 | |
| | 731 | A-11<br>A-12 | | SH-20<br>SH-20 | 埋土1<br>埋土2 | | ヨコ調整, 指頭圧痕 | 指頭圧痕, ヨコ調整 | 茶褐色, 黒褐色 | 茶褐色, 黒褐色 | 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 11372<br>8997ほか | |
| | 732 | A-12 | | SH-20 | 埋土2 | | 指頭圧痕, ナデ | 指頭圧痕, ナデ | 茶褐色, 燈褐色 | 茶褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 8697 | |
| | 733 | A-12 | | SH-20 | 埋土2 | | ヨコ調整, 指頭圧痕 | 指頭圧痕, ヨコ調整 | 茶褐色, 暗褐色 | 茶褐色, 黒褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 8694 | |
| | 734 | A-11 | | SH-20 | 埋土3 | | 指頭圧痕, タテヘラナデ | 指頭圧痕, ナデ | 茶褐色, 暗褐色 | 茶褐色, 暗褐色 | クロウンモ, 微粒 | 12789 | |
| 第115図 | 735 | A-11 | | SH-21 | 埋土2 | | タテヘラナデ, ヨコ調整 | ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | 燈褐色, 黒褐色 | 茶褐色, 暗茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 14308ほか | 外:スス付着 |
| | 736 | A-11 | | SH-21 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ, ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | 茶褐色, 黒褐色 | 暗燈褐色, 茶褐色 | 輝石, 角閃石, 砂粒 | 14067 | 外:スス付着 |
| | 737 | A-11 | | SH-21 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→ヨコナデ, ヨコ調整 | タテヘラナデ, 細目のヨコハケ目→ヨコナデ | 暗茶褐色, 黒褐色 | 茶褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 砂粒 | 5603ほか | 外:スス付着 |
| | 738 | A-11<br>A-11 | | SH-21<br>SH-21 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ, ヨコ調整 | ヨコヘラナデ | 茶褐色, 暗茶褐色 | 暗黄褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 9313<br>11008 | |
| | 739 | A-11 | | SH-21 | 埋土1 | | ヨコ調整 | ヨコナデ | 暗茶褐色, 黒褐色 | 暗赤褐色, 暗茶褐色 | 角閃石, 雲母, 砂粒, 赤粒 | 5702 | |
| | 740 | A-11 | | SH-21 | 埋土2 | | ヨコ調整, タテナデ | ヨコ調整→ヨコナデ | 茶褐色, 暗燈褐色 | 茶褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 10990 | |
| | 741 | A-11 | | SH-21 | 埋土2 | | ヨコ調整, 細目のタテハケ目 | ヨコ調整 | 暗黄褐色, 暗燈褐色 | 暗赤褐色, 暗燈褐色 | クロウンモ, 輝石, 細粒 | 7381 | |
| | 742 | A-11 | | SH-21 | 埋土2 | | ヨコ調整, タテナデ | ヨコ調整, タテ調整 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 赤褐色, 暗燈褐色 | クロウンモ, 輝石, 砂粒, 赤粒 | 11011 | |
| | 743 | A-11 | | SH-21 | 埋土1 | | 指頭圧痕, ヨコナデ | ヨコ調整 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 茶褐色, 暗赤褐色 | 雲母, 砂粒, 赤粒 | 9115 | |
| | 744 | A-11 | | SH-21 | 埋土1 | | ヨコ調整, 指頭圧痕 | ヨコ調整, 指頭圧痕 | 暗黄褐色, 暗燈褐色 | 暗燈褐色, 暗褐色 | 輝石, 微粒 | 5711 | |
| | 745 | A-11 | | SH-21 | 埋土1 | | タテヘラナデ, ヨコ調整 | ヨコ調整→タテナデ | 暗茶褐色, 黒褐色 | 暗褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 9267 | |
| | 746 | A-11 | | SH-21 | 埋土2 | | ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | ヨコナデ→タテナデ, ヨコ調整 | 暗燈褐色, 暗褐色 | 暗黄褐色, 暗茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 7402 | |
| | 747 | A-11<br>A-11 | | SH-21<br>SH-21 | 埋土1<br>埋土2 | | タテハケ目→ヨコナデ, ヨコ調整 | ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | 暗茶褐色, 暗黄褐色 | 暗黄褐色, 暗茶褐色 | クロウンモ, 角閃石, 微粒 | 9085ほか<br>10997ほか | |
| | 748 | A-11 | | SH-21 | 埋土2 | | ヨコ調整, 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | ヨコ調整→タテヘラナデ | 暗黄褐色, 暗茶褐色 | 暗褐色, 暗黄褐色 | クロウンモ, 角閃石, 微粒 | 10996ほか | |

# 第25表　土器観察表（14）

| 挿図No | 掲載No | 出土区 | 層 | 遺構L1 | 遺構L2 | 遺構L3 | 調整(外) | 調整(内) | 色調(外) | 色調(内) | 胎　土 | 取上No | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第115図 | 749 | A-11<br>A-11 | | SH-21<br>SH-21 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | タテヘラナデ，ヨコ調整 | 暗燈褐色，黄白色 | 暗赤褐色，黒褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 9306ほか<br>9721ほか | |
| 第116図 | 750 | A-11 | | SH-21 | 埋土2 | | ヨコ調整→タテヘラナデ | 細目のヨコハケ目→タテヘラナデ | 燈褐色，暗赤褐色 | 黄褐色，暗黄褐色 | 角閃石，細粒 | 10998 | |
| | 751 | A-11<br>A-11 | | SH-21<br>SH-21 | 埋土1<br>埋土2 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ，ヨコ調整 | ヨコヘラナデ，タテヘラナデ | 暗赤褐色，暗黄褐色 | 暗黄褐色，黒褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 14094ほか<br>9737ほか | |
| 第118図 | 752 | C-12 | | SH-22 | 埋土3 | | タテヘラナデ，ヨコ調整 | タテヘラナデ，ヨコ調整 | 黄白色 | 黄白色 | クロウンモ，輝石，微粒，赤粒 | 9527 | |
| | 753 | C-12 | | SH-22 | 埋土3 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | タテヘラナデ | 茶褐色，暗茶褐色 | 暗燈褐色，暗黄褐色 | 輝石，微粒，赤粒 | 9240 | |
| | 754 | C-12<br>C-12 | Ⅱ | SH-22 | 埋土3 | | 指頭圧痕 | 指頭圧痕 | 茶褐色 | 茶褐色 | 輝石，微粒，赤粒 | 6214<br>10159 | |
| 第120図 | 755 | C-12<br>A-10 | | SH-22<br>SH-23 | 埋土1<br>埋土1 | | ヨコ調整→タテヘラナデ | ヨコヘラナデ | 赤燈褐色 | 暗黄褐色 | 角閃石，砂粒，赤粒 | 10017<br>10616ほか | 外：スス付着 |
| | 756 | A-10 | | SH-23 | 埋土1 | | ヨコ調整→ヨコヘラナデ | ヨコ調整→タテヘラナデ | 暗黄褐色 | 暗黄褐色 | 輝石，微粒，赤粒 | 10643 | |
| | 757 | A-10 | | SH-23 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目 | ヨコヘラナデ | 暗黄褐色，黒褐色 | 暗茶褐色，暗赤褐色 | 角閃石，雲母，砂粒，赤粒 | 10649 | |
| | 758 | A-10 | | SH-23 | 埋土1 | | 太目のタテハケ目 | 細目のヨコハケ目→ヨコヘラナデ | 暗赤褐色，暗黒褐色 | 燈褐色，暗茶褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 10634 | |
| | 759 | A-10 | | SH-23 | 埋土1 | | 丁寧なタテナデ，ヨコ調整 | タテ調整→ナデ | 黒褐色，暗褐色 | ヨコ黄褐色 | 輝石，細粒，赤粒 | 10632 | |
| | 760 | A-10 | | SH-23 | 埋土1 | | タテ調整，ヨコ調整 | ヨコヘラナデ | 暗黄褐色，黄白色 | 燈褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 10622ほか | |
| | 761 | | | | | | 丁寧なヨコナデ，ヨコ調整 | 指頭圧痕，ヨコヘラナデ | 暗黄褐色 | 黄白色，灰褐色 | 角閃石，微粒 | 一括 | |
| 第122図 | 762 | A-10 | | SH-24 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→ヨコナデ | 細目のヨコハケ目→タテヘラナデ，ヨコヘラナデ | 茶褐色，暗茶褐色 | 茶褐色 | 輝石，砂粒 | 11394 | |
| | 763 | A-10 | | SH-24 | 埋土3 | | 太目のタテハケ目，ヨコ調整 | 太目のヨコハケ目 | 暗黄褐色，黄白色 | 灰褐色 | 角閃石，輝石，細粒，赤粒 | 14998 | |
| | 764 | A-10 | | SH-24 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目，丁寧なタテナデ | 細目のタテハケ目，タテ調整 | 黒褐色，暗黄褐色 | 茶褐色，暗茶褐色 | 輝石，雲母，砂粒，赤粒 | 9850 | |
| 第124図 | 765 | E-20 | | SH-25 | 埋土2 | | タテヘラナデ，ヨコ調整 | 丁寧なタテナデ，ヨコ調整 | 茶褐色，黒褐色 | 黒褐色 | 角閃石，輝石，砂粒，赤粒 | 15076 | |
| | 766 | E-20 | | SH-25 | 埋土2 | | 細目のタテハケ目→丁寧なタテナデ | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | 茶褐色，黒褐色 | 黒褐色，暗茶褐色 | 輝石，雲母，細粒，赤粒 | 12426 | 内：スス付着 |
| | 767 | E-20 | | SH-25 | 埋土1 | | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | タテ調整，タテヘラナデ | 暗茶褐色，黒褐色 | 茶褐色，暗茶褐色 | 角閃石，砂粒，赤粒 | 12982 | 外：スス付着 |
| 第128図 | 768 | A-9 | Ⅱ | | | | タテヘラナデ，ヨコ調整 | ヨコヘラナデ，指頭圧痕 | 黄褐色，暗赤褐色 | 暗黄褐色，茶褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 8549 | |
| | 769 | A-5 | | 埋納<br>ピット2 | 埋土 | | タテケズリ→タテヘラナデ，ヨコ調整 | タテヘラナデ，ヨコ調整 | 黄褐色，暗茶褐色 | 暗黄褐色，暗赤褐色 | 輝石，黒耀石，砂粒，赤粒 | 14696 | |
| | 770 | C-6 | | ピット3 | | 埋納土器 | 細目のタテハケ目，ヨコ調整 | タテヘラナデ，ヨコ調整 | 赤褐色，黄褐色 | 赤褐色，黄褐色 | 輝石，微粒，赤粒 | 11241 | |
| | 771 | B-12 | | 埋納<br>ピット4 | 埋土 | | ヨコヘラナデ，ヨコ調整 | タテヘラナデ，ヨコ調整 | 茶褐色，暗燈褐色 | 茶褐色 | 輝石，角閃石，微粒，赤粒 | 13815 | |
| | 772 | B-12 | | 埋納<br>ピット4 | 埋土 | | 細目のタテハケ目，ヨコヘラナデ | 細目のタテハケ目，ヨコ調整 | 茶褐色，暗燈褐色 | 暗黄褐色，茶褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 12325ほか | |
| 第129図 | 773 | C-17<br>B-13 | Ⅱ | 埋納<br>ピット5 | 埋土 | | 太目のタテハケ目→タテ，ヨコ調整 | 太目のヨコハケ目，タテヘラナデ→指頭圧痕 | 暗黄褐色，暗褐色 | 暗黄褐色，暗褐色 | 輝石，角閃石，砂粒，赤粒 | 13407<br>11820ほか | |
| | 774 | B-13 | | 埋納<br>ピット5 | 埋土 | | ヨコ調整，タテヘラナデ | ヨコヘラナデ，タテヘラナデ | 暗赤褐色，燈褐色 | 暗茶褐色，黒褐色 | 輝石，細粒，赤粒 | 11824ほか | 赤色顔料塗付 |
| | 775 | B-13 | | 埋納<br>ピット5 | 埋土 | | 太目のタテハケ目，ヨコ調整 | タテヘラナデ，ヨコヘラナデ | 赤褐色，暗黄褐色 | 暗褐色，黒褐色 | 輝石，角閃石，細粒，赤粒 | 13489ほか | 赤色顔料塗付 |
| 第130図 | 776 | C-14 | | 埋納<br>ピット6 | 埋土 | | タテヘラナデ，ヨコ調整 | タテヘラナデ，ヨコヘラナデ | 茶褐色，黒褐色 | 茶褐色，暗茶褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 13352ほか | |
| | 777 | C-14 | | 埋納<br>ピット6 | 埋土 | | ヨコ調整，細目のタテハケ目 | ヨコ調整，タテナデ | 暗茶褐色，暗黄褐色 | 茶褐色 | 輝石，小礫，赤粒 | 12341ほか | |
| | 778 | C-10<br>C-9 | | 溝4<br>埋納<br>ピット7 | 埋土1<br>埋土 | | ヨコ調整 | ヨコ調整 | 暗褐色，黄白色 | 黄白色 | 輝石，細粒，赤粒 | 11256<br>13476ほか | |
| | 779 | C-9<br>C-9 | | 溝4<br>埋納<br>ピット7 | 埋土1<br>埋土 | | ヨコ調整 | ヨコナデ，ヨコ調整 | 暗褐色，暗茶褐色 | 暗茶褐色，赤褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 11170ほか<br>13466ほか | |
| | 780 | C-9 | | 埋納<br>ピット7 | 埋土 | | 太目のタテハケ目，タテヘラナデ | ヨコ調整 | 黄褐色，暗燈褐色 | 黄褐色，暗黄褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 13760 | |
| | 781 | C-9 | | 埋納<br>ピット7 | 埋土 | | ヨコ調整 | ヨコ調整 | 暗黄褐色，暗燈褐色 | 暗褐色，暗黄褐色 | 輝石，雲母，砂粒，赤粒 | 13001 | 内：スス付着 |
| | 782 | B-5 | Ⅱ | | | | ヨコ調整，細目のタテハケ目 | | 暗黄褐色，暗茶褐色 | 暗褐色，暗黄褐色 | クロウンモ，輝石，砂粒 | 13453 | |
| | 783 | C-9 | | 埋納<br>ピット7 | 埋土 | | ヨコ調整 | | 暗黄褐色，暗茶褐色 | 暗褐色，暗黄褐色 | クロウンモ，輝石，砂粒 | 13480 | |
| | 784 | C-9<br>C-9 | | 溝4<br>埋納<br>ピット7 | 埋土1<br>埋土 | | 太目のタテハケ目，ヨコ調整 | ヨコ調整，タテ調整 | 茶褐色，暗赤褐色 | 暗赤褐色，暗茶褐色 | 輝石，角閃石，砂粒，赤粒 | 11121ほか<br>13002ほか | |
| | 785 | B-8<br>C-9<br>C-10<br>C-9 | Ⅱ | 溝4<br>溝4<br>埋納<br>ピット7 | 埋土<br>埋土1<br>埋土 | | タテヘラナデ，丁寧なタテナデ | タテヘラナデ，ヨコヘラナデ | 茶褐色，暗赤褐色 | 暗褐色，暗黄褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 14922<br>8669<br>11255<br>13469ほか | |
| | 786 | C-10<br>C-9 | | 溝4<br>埋納<br>ピット7 | 埋土1<br>埋土 | | タテケズリ→タテヘラナデ | タテヘラナデ，細目のタテハケ目 | 暗黄褐色，暗燈褐色 | 暗褐色，暗燈褐色 | 輝石，角閃石，細粒，赤粒 | 11254<br>13761ほか | |
| 第131図 | 787 | C-6 | | ピット3 | | 埋納土器 | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | ヨコヘラナデ，タテ調整 | 暗黄褐色，茶褐色 | 茶褐色，暗燈褐色 | 輝石，細粒，赤粒 | 11241 | |
| | 788 | C-15 | | 埋納<br>ピット8 | 埋土 | | ヨコ調整，タテヘラナデ | ヨコ調整，指頭圧痕 | 暗褐色，暗黄褐色 | 暗褐色，暗茶褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 14614 | |
| | 789 | C-11 | | 埋納<br>ピット9 | 埋土 | | ヨコ調整 | ヨコ調整 | 黄褐色，黒褐色 | 黄褐色，暗褐色 | 輝石，細粒，赤粒 | 14615 | 外：スス付着 |
| | 790 | C-11 | | 埋納<br>ピット9 | 埋土 | | タテヘラナデ | 細目のヨコハケ目 | 暗茶褐色，黒褐色 | 暗燈褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 14615 | 外：スス付着 |
| | 791 | B-5 | Ⅱ | 埋納<br>ピット10 | | | 細目のタテハケ目，タテヘラナデ，ヨコ調整 | ヨコ調整，ヨコヘラナデ | 茶褐色，暗赤褐色 | 暗黄褐色 | 輝石，砂粒，赤粒 | 20048 | |

# 第26表　土器観察表（15）

| 挿図No | 掲載No | 出土区 | 層 | 遺構L1 | 遺構L2 | 遺構L3 | 調整(外) | 調整(内) | 色調(外) | 色調(内) | 胎　土 | 取上No | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第131図 | 792 | C-8 | | 埋納ピット13 | 埋土 | | ヨコ調整 | ヨコ調整 | 茶褐色, 燈褐色 | 暗黄褐色, 黒褐色 | 輝石, 角閃石, 細粒, 赤粒 | 21167 | 内:スス付着 |
| 第132図 | 793 | A-6 | | 埋納ピット14 | 埋土 | | 太目のタテハケ目, ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコ調整 | 茶褐色, 黒褐色 | 茶褐色, 暗茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 21908ほか | 外:スス付着 |
| | 794 | A-6 | | 埋納ピット14 | 埋土 | | 細目のタテハケ目, ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | 暗黄褐色, 黒褐色 | 暗茶褐色, 暗燈褐色 | 輝石, 砂粒 | 22738ほか | 外:スス付着 |
| | 795 | A-6 | | 埋納ピット14 | 埋土 | | 細目のタテハケ目, ヨコヘラナデ | タテナデ, タテヘラナデ | 暗燈褐色, 黒褐色 | 暗茶褐色, 黒褐色 | 輝石, 角閃石, 細粒 | 21912ほか | 外:スス付着 |
| 第138図 | 796 | C-9 | | | 埋土1 | | ヨコヘラナデ, タテ調整 | ヨコヘラナデ, タテヘラナデ | 暗黄褐色 | 暗黄褐色, 暗茶褐色 | 輝石, 角閃石, 細粒, 赤粒 | 8254 | |
| | 797 | C-9 | | | 埋土1 | | ヨコ調整 | ヨコ調整, タテヘラナデ | 暗黄褐色, 暗茶褐色 | 暗黄褐色, 暗赤褐色 | 輝石, 角閃石, 砂粒 | 8269 | |
| | 798 | C-9 | | | 埋土1 | | 丁寧なタテナデ, ヨコ調整 | 丁寧なタテナデ, ヨコ調整 | 暗燈褐色 | 暗燈褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 8261ほか | |
| | 799 | C-9 | | 溝4 | 埋土1 | | タテヘラナデ, ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコ調整 | 暗燈褐色, 黒褐色 | 暗燈褐色 | 輝石, 雲母, 微粒, 赤粒 | 11150 | 外:スス付着 |
| | 800 | C-9 | | 溝4 | 埋土1 | | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | ヨコ調整 | 暗燈褐色, 黒褐色 | 暗黄褐色 | 輝石, クロウンモ, 細粒 | 11140 | 外:スス付着 |
| | 801 | C-10 | | 溝4 | 埋土1 | | ヨコ調整, タテヘラナデ | ヨコ調整 | 暗黄褐色, 茶褐色 | 暗褐色, 茶褐色 | 輝石, 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 11252 | |
| | 802 | C-9 | | 溝4 | 埋土1 | | ヨコ調整, 太目のタテハケ目 | ヨコ調整 | 暗茶褐色, 暗黄褐色 | 暗黄褐色, 茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 11180ほか | |
| | 803 | C-9 | | 溝4 | 埋土1 | | ヨコ調整, 指頭圧痕 | ヨコ調整, 指頭圧痕 | 暗赤褐色, 暗黄褐色 | 暗黄褐色, 茶褐色 | 輝石, 砂粒 | 11271 | |
| | 804 | C-10 | | 溝5 | 埋土 | | ヨコ調整, タテヘラナデ | ヨコ調整, 指頭圧痕 | 暗黄褐色, 黒褐色 | 暗褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 9188 | 外:スス付着 |
| | 805 | C-10 | | 溝5 | 埋土 | | 細目のタテハケ目, ヨコ調整 | ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | 黄褐色 | 暗黄褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 9202ほか | |
| | 806 | C-9 | | 溝4 | 埋土1 | | タテヘラナデ | 太目のヨコハケ目 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 暗茶褐色, 黒褐色 | 輝石, クロウンモ, 砂粒, 赤粒 | 11147 | 内:スス付着 |
| | 807 | C-9 | | 溝4 | 埋土1 | | タテハケ目 | タテヘラナデ, タテ調整 | 黄白色 | 黄白色, 暗茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 11119ほか | |
| | 808 | C-10<br>C-9 | | 溝4<br>溝4 | 埋土<br>埋土1 | | 細目のタテハケ目 | タテナデ, ヨコ調整 | 茶褐色, 暗黄褐色 | 黄褐色, 暗褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 8612ほか<br>11185ほか | |
| | 809 | C-10 | | 溝4 | 埋土1 | | タテヘラナデ | タテヘラナデ | 暗茶褐色, 暗黄褐色 | 暗褐色, 黒褐色 | 輝石, 角閃石, 細粒, 赤粒 | 11264 | 内:スス付着 |
| | 810 | A-9<br>C-10 | Ⅱ | <br>溝4 | <br>埋土 | | タテヘラナデ | 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | 茶褐色, 赤褐色 | 茶褐色, 暗茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 8530<br>8635ほか | |
| | 811 | C-9<br>C-9 | | 溝4<br>溝4 | 埋土<br>埋土1 | | タテヘラナデ | タテヘラナデ | 暗褐色, 暗茶褐色 | 暗燈褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 8692<br>11101 | |
| 第140図 | 812 | C-13 | Ⅱ | | | | タテナデ→ヨコ調整 | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | 茶褐色, 暗燈褐色 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 6092 | |
| | 813 | B-5 | Ⅱ | | | | タテ調整 | タテヘラナデ, ヨコヘラナデ | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 黄褐色, 暗褐色 | 輝石, 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 1463 | |
| | 814 | D-4 | Ⅱ | | | | ヨコ調整, 丁寧なヨコナデ | タテナデ, 指頭圧痕 | 暗赤褐色, 黒褐色 | 暗赤褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 1122 | |
| | 815 | A-3 | Ⅱ | | | | ヨコ調整, 丁寧なヨコナデ | タテナデ, ヨコナデ | 暗赤褐色, 黒褐色 | 暗茶褐色, 暗褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 20217 | |
| | 816 | A-10 | Ⅱ | | | | 細目のタテハケ目, 細目のヨコハケ目 | ヨコヘラナデ, ヨコ調整 | 暗燈褐色 | 暗燈褐色 | 輝石, 雲母, 細粒, 赤粒 | 6913 | |
| | 817 | C-6 | Ⅱ | | | | タテケズリ, 細目のタテハケ目→タテヘラナデ | ヨコヘラナデ, 細目のヨコハケ目 | 暗燈褐色, 暗黄褐色 | 黄白色, 黒褐色 | 輝石, 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 17034 | |
| | 818 | B-10 | Ⅱ | | | | 細目のタテハケ目, ヨコ調整 | ヨコ調整→ヨコヘラナデ | 暗赤褐色, 黒褐色 | 暗赤褐色 | 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 7803 | 外:スス付着 |
| 第141図 | 819 | B-4 | | SH-03 | 埋土2 | | 丁寧なタテナデ | タテヘラナデ | 暗赤褐色, 暗黄褐色 | 茶褐色 | 輝石, 細粒 | 3155 | 土製円盤 |
| | 820 | A-12 | Ⅱ | | | | タテヘラナデ | タテヘラナデ | 暗茶褐色 | 暗黄褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 12790 | 土製円盤 |
| | 821 | C-14 | Ⅱ | | | | 細目のタテハケ目 | ヨコヘラナデ | 暗茶褐色, 暗燈褐色 | 暗黄褐色 | 角閃石, 細粒, 赤粒 | 11722 | 土製円盤 |
| | 822 | B-5 | | SH-09 | 埋土2 | 埋納ピット1 | 細目のタテハケ目 | ヨコヘラナデ | 暗茶褐色 | 黒褐色, 暗褐色 | 輝石, 角閃石, 細粒 | 22816 | 土製円盤 |
| | 823 | C-14 | Ⅱ | | | | タテヘラナデ | 細目のタテハケ目 | 暗褐色, 暗黄褐色 | 暗褐色, 暗黄褐色 | 角閃石, 砂粒, 赤粒 | 14599 | 土製円盤 |
| | 824 | B-11 | | SH-21 | 埋土3 | | タテヘラナデ | タテヘラナデ | 茶褐色, 暗褐色 | 茶褐色, 暗茶褐色 | 輝石, 砂粒, 赤粒 | 14103 | 土製円盤 |
| | 825 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | タテヘラナデ | タテヘラナデ | 暗燈褐色 | 茶褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 9163 | 土製円盤 |
| | 826 | B-10 | Ⅱ | | | | ヨコナデ | ヨコヘラナデ | 茶褐色 | 暗黄褐色 | 輝石, 細粒, 赤粒 | 16629 | 土製円盤 |
| | 827 | B-4 | | SH-02 | 埋土1 | | タテケズリ→細目のタテハケ目 | ヨコヘラナデ | 黄褐色, 暗褐色 | 黄白色 | 輝石, 角閃石, 細粒, 赤粒 | 18273 | 土製円盤 |
| | 828 | C-14 | Ⅱ | | | | 細目のタテハケ目 | タテヘラナデ | 暗茶褐色, 暗黄褐色 | 暗茶褐色 | 輝石, 角閃石, 細粒 | 3300 | 土製円盤 |
| | 829 | B-11 | Ⅱ | | | | 細目のタテハケ目→丁寧なタテナデ | 細目のヨコハケ目 | 黒褐色 | 暗燈褐色, 暗褐色 | 輝石, 細粒 | 7896 | 土製円盤 |
| | 830 | B-7 | | SH-12 | 埋土2 | | タテヘラナデ | ヨコ調整 | 暗黄褐色, 暗赤褐色 | 暗赤褐色 | 輝石, 細粒 | 9154 | |
| | 831 | A-4 | | SH-09 | 埋土2 | | タテナデ | | 茶褐色, 暗赤褐色 | | 輝石, 細粒 | 2706 | |

第27表　土器観察表（16）

| 挿図 | No | 出土区 | 層 | 器種 | 部位 | 色調 | | 器面調整 | | 胎土 | 文様 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | |
| 165 | 947 | G13 | Ⅱ下 | | 口唇部 | 黒褐色 | 黒褐色 | ナデ | ナデ | | 刺突文 |
| | 948 | G11 | Ⅱ下 | | 口唇部 | 黒褐色 | 暗灰黄色 | ヘラミガキ | ミガキ | | 沈線文 |
| | 949 | G9 | Ⅱ下 | | 口唇部 | 褐色 | にぶい黄褐色 | ナデ | ナデ | | 沈線文 |
| | 950 | F9 | Ⅱ | | 口唇部 | 暗灰黄色 | にぶい黄色 | | 丁寧なヘラナデ | | |
| | 958 | F12 | Ⅱ | | 口唇部 | 暗灰黄色 | 黒色 | ナデ | ナデ | | |
| | 959 | F12 | Ⅱ | | 胴部 | 黒褐色 | 黒褐色 | ナデ | ナデ | | 胴部に凸帯 |
| 170 | 961 | G8 | Ⅱ | 甕 | 口縁部 | にぶい黄橙色 | にぶい橙色 | ナデ | ナデ | | |
| | 962 | G9 | Ⅱ | 甕 | 口縁部 | にぶい黄橙色 | 褐灰色 | 横方向ハケ目 | 横方向ハケ目 | | |
| | 963 | F9 | Ⅱ | 甕 | 口縁部 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | ススト付着 | 指頭圧痕 | | |
| | 964 | G13 | Ⅲ | 甕 | 口縁～胴部 | 暗赤褐色 | にぶい赤褐色 | ハケ目，指頭圧痕 | 指頭圧痕 | | 凸二条 |
| | 965 | F11 | Ⅱ | | 底部 | 橙色 | 黒褐色 | 丁寧なナデ | ナデ | | |
| | 966 | G8 | Ⅱ | | 脚部 | 赤 | 暗赤褐色 | 横ヘラミガキ | ナデ | | |
| | 967 | F9 | Ⅱ | 壷 | 口縁部 | にぶい褐色 | にぶい赤褐色 | ヘラミガキ | | | |
| | 968 | G13 | Ⅱ | 壷 | 口縁部 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | ヘラミガキ | ナデ，指頭圧痕 | | |
| | 969 | G8 | Ⅱ | | 胴部 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | ヘラミガキ | ナデ | | 凸三条 |
| | 970 | F11 | Ⅱ下 | | 胴部 | にぶい橙色 | にぶい黄色 | ナデ | ナデ | | 丹塗 |
| | 971 | F11 | Ⅱ下 | | 胴部 | にぶい黄橙色 | にぶい黄色 | ナデ | ナデ | | 丹塗 |
| | 972 | F11 | Ⅱ下 | | 底部 | にぶい黄橙色 | にぶい黄色 | ナデ | ナデ | | 丹塗 |
| 171 | 973 | F9 | Ⅱ | 甕 | 口縁～胴部 | 浅黄色 | にぶい黄橙色 | ナデ | ナデ | | |
| | 974 | G8 | Ⅱ | 甕 | 口縁～胴部 | にぶい黄橙色 | 浅黄色 | ハケ目，ナデ | ハケ目 | | |
| | 975 | F9 | Ⅱ | 壷 | 口縁部 | にぶい褐色 | にぶい橙色 | ハケ目 | ハケ目 | | |
| | 976 | F9 | Ⅱ | 壷 | 首～胴部 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | ハケ目 | ハケ目 | | |
| | 977 | G9 | Ⅱ | 壷 | 首～底部 | 橙色 | にぶい橙色 | ナデ | ナデ | | 刻み目凸帯 |
| | 978 | F10 | Ⅱ | | 底部 | 橙色 | にぶい橙色 | ハケ目 | ナデ | | |
| | 979 | G9 | Ⅱ | | 胴部～底部 | にぶい赤褐色 | にぶい橙色 | ヘラミガキ | ナデ | | |
| 176 | 980 | F9 | Ⅱ | 土師器 | 完形 | にぶい黄褐色 | 黒色 | ロクロ | | | |
| | 981 | F9 | Ⅱ | 土師器 | 完形 | 浅黄橙色 | 橙色 | ロクロ | | | |
| | 982 | | | 土師器 | 口唇～胴部 | にぶい橙色 | 橙色 | ロクロ | | | |
| | 983 | | | 土師器 | 底部 | 橙色 | 橙色 | ロクロ | | | |
| | 984 | F9 | Ⅱ | 土師器 | 完形 | にぶい黄橙色 | 浅黄橙色 | ロクロ | | | |
| | 985 | G10 | Ⅱ | 土師器 | 底部 | 浅黄橙色 | 浅黄色 | ロクロ | | | |
| | 986 | G9 | Ⅱ | 土師器 | 底部 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | ロクロ | | | |
| | 987 | G9 | Ⅱ | 土師器 | 底部 | 橙色 | 浅黄色 | ロクロ | | | |
| | 988 | | | 土師器 | 底部 | 浅黄橙色 | 浅黄色 | ロクロ | | | |
| | 989 | G8 | Ⅱ | 須恵器 | 完形 | 灰白色 | 灰白色 | ロクロ | | | |
| | 990 | F9 | Ⅱ | 須恵器 | 肩部 | 灰色 | 褐色 | 格子状叩き | 同心円叩き | | |

堂園遺跡Ａ地点　遺物番号・取り上げ番号対応表

| 挿図 | 遺物番号 | 取り上げ番号 |
|---|---|---|
| 165 | 947 | 232 |
| | 948 | 994 |
| | 949 | 618 |
| | 950 | 367 |
| 167 | 951 | 953 |
| | 952 | 946 |
| | 953 | 188 |
| | 954 | 356 |
| | 955 | 233 |
| | 956 | 195 |
| | 957 | 913 |
| 169 | 958 | 住土8 |
| | 959 | 住土4 |
| | 960 | 住石2 |
| 170 | 961 | 781 |
| | 962 | 599　611 |
| | 963 | 442 |
| | 964 | 92～94　123 |
| | 965 | 20 |
| | 966 | 134 |
| | 967 | 357　615　一括 |
| | 968 | 60 |
| | 969 | 844　845 |
| | 970 | 245 |
| | 971 | 246 |
| | 972 | 268 |

| 挿図 | 遺物番号 | 取り上げ番号 |
|---|---|---|
| 171 | 973 | 317　319　335　338　340 |
| | 974 | 141　228　696～698　701　703　777 |
| | 975 | 336　343　546　561 |
| | 976 | 345～348　352　354　355　550　555　558　563　568 |
| | 977 | 488　507　508　510　514　520　523　525　527　624　627　628 |
| | 978 | 448　896 |
| | 979 | 499　500　501　604　609　613　620　621　812　858 |
| 176 | 980 | 741 |
| | 981 | 383～385 |
| | 982 | 一括 |
| | 983 | 一括 |
| | 984 | 252　253　262　278　386～390　395　416　439　880～883　887 |
| | 985 | 183 |
| | 986 | 455 |
| | 987 | 496 |
| | 988 | 一括 |
| | 989 | 833 |
| | 990 | 328 |

第28表　石器観察表（1）

| 挿図No | 遺物No | 出土区 | 層位 | 器種 | 石材 | 最大長(mm) | 最大幅(mm) | 最大厚(mm) | 重量(g) | 取上番号 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第30図 | 183 | D-8 | Ⅱc | 石鏃 | 黒耀石 | 14 | 12 | 2.2 | 0.25 | 20689 | － |
| | 184 | B-9 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 17 | 13 | 4.1 | 0.51 | 22562 | － |
| | 185 | A-7 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 14 | 13 | 4.2 | 0.61 | 20719 | － |
| | 186 | C-16 | Ⅱd | 石鏃 | チャート | 15 | 12 | 3.3 | 0.41 | 4892 | － |
| | 187 | C-16 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 14 | 12 | 4.7 | 0.43 | 20698 | － |
| | 188 | B-4 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 16 | 12 | 3.3 | 0.43 | 5138 | － |
| | 189 | B-9 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 13 | 10 | 3.3 | 0.38 | 19627 | － |
| | 190 | B-5 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 15 | 8 | 3.1 | 0.25 | 2108 | － |
| | 191 | B-5 | 古道1 | 石鏃 | 黒耀石 | 14 | 8 | 3 | 0.27 | 2047 | － |
| | 192 | B-10 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 8 | 11 | 2.1 | 0.16 | 19250 | － |
| | 193 | B-4 | 3号住居 | 石鏃 | 安山岩 | 15 | 8 | 1.5 | 0.2 | 13303 | － |
| | 194 | C-16 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 14 | 12 | 3.3 | 0.36 | 4351 | － |
| | 195 | A-8 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 16 | 10 | 3.3 | 0.34 | 13327 | － |
| | 196 | A-13 | 17号住居 | 石鏃 | 黒耀石 | 15 | 13 | 2.9 | 0.39 | 6035 | － |
| | 197 | B-12 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 15 | 12 | 2.7 | 0.36 | 16383 | － |
| | 198 | B-10 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 15 | 14 | 2.1 | 0.27 | 16649 | － |
| | 199 | C-6 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 15 | 14 | 2.2 | 0.34 | 17872 | － |
| | 200 | A-14 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 13 | 12 | 3 | 0.29 | 15507 | － |
| | 201 | B-16 | Ⅱd | 石鏃 | 鉄石英 | 14 | 13 | 3.7 | 0.57 | 4259 | － |
| | 202 | A-6 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 11 | 15 | 2.7 | 0.32 | 18436 | － |
| 第31図 | 203 | C-21 | Ⅱb | 石鏃 | チャート | 17 | 13 | 3.3 | 0.59 | 12836 | － |
| | 204 | B-13 | Ⅱc | 石鏃 | 安山岩 | 20 | 14 | 3.3 | 0.96 | 12806 | － |
| | 205 | C-21 | ピット753 | 石鏃 | 黒耀石 | 18 | 13 | 2.7 | 0.52 | 12837 | － |
| | 206 | B-15 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 25 | 13 | 4.7 | 0.91 | 13889 | 集石 |
| | 207 | B-8 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 19 | 10 | 3.2 | 0.48 | 17004 | － |
| | 208 | C-13 | Ⅱa | 石鏃 | 頁岩 | 19 | 19.5 | 3.3 | 0.58 | 2369 | － |
| | 209 | B-3 | Ⅱa | 石鏃 | 黒耀石 | 17 | 15 | 3.6 | 0.52 | 1774 | － |
| | 210 | D-11 | 撹乱 | 石鏃 | 黒耀石 | 20 | 17 | 3.8 | 0.68 | 一括 | － |
| | 211 | C-12 | Ⅱa | 石鏃 | 安山岩 | 19 | 17 | 2.9 | 0.57 | 7035 | － |
| | 212 | B-5 | Ⅱd | 石鏃 | 安山岩 | 19 | 16 | 2.3 | 0.65 | 20028 | － |
| | 213 | C-10 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 21 | 18 | 3.2 | 0.96 | 16772 | － |
| | 214 | D-20 | 25号住居 | 石鏃 | 安山岩 | 21 | 20.5 | 3.1 | 0.97 | 12986 | － |
| | 215 | A-6 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 19 | 15 | 2.3 | 0.43 | 21602 | － |
| | 216 | C-9 | Ⅱa | 石鏃 | 黒耀石 | 18 | 13 | 2.9 | 0.54 | 8463 | － |
| | 217 | C-13 | Ⅱa | 石鏃 | 黒耀石 | 21 | 14 | 4 | 0.78 | 2429 | － |
| | 218 | C-7 | Ⅱa | 石鏃 | 黒耀石 | 21 | 15 | 1.8 | 0.48 | 604 | － |
| | 219 | A-7 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 19 | 16 | 2.4 | 0.44 | 18938 | － |
| | 220 | D-10 | Ⅱb | 石鏃 | チャート | 21 | 14 | 3.6 | 0.82 | 14930 | － |
| | 221 | A-6 | Ⅱb | 石鏃 | 黒耀石 | 18 | 14 | 2.7 | 0.44 | 10464 | － |
| | 222 | B-5 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 18 | 12 | 2.2 | 0.4 | 19057 | － |
| | 223 | A-7 | 撹乱 | 石鏃 | 黒耀石 | 18 | 13 | 3.1 | 0.65 | 一括 | － |
| | 224 | A-12 | Ⅱc | 石鏃 | 黒耀石 | 19 | 12 | 2.9 | 0.52 | 12807 | － |
| | 225 | A-6 | Ⅱb | 石鏃 | チャート | 22 | 16 | 3.5 | 0.83 | 1855 | － |
| | 226 | B-6 | Ⅱb | 石鏃 | 黒耀石 | 21 | 15 | 3.4 | 0.76 | 10512 | － |
| | 227 | C-10 | Ⅱc | 石鏃 | 安山岩 | 21 | 14 | 2.2 | 0.64 | 15205 | － |
| | 228 | D-19 | Ⅱd | 石鏃 | 鉄石英 | 21 | 16 | 3.6 | 0.74 | 12592 | － |
| | 229 | A-11 | 20号住居 | 石鏃 | 安山岩 | 22 | 14 | 4.1 | 0.86 | 9752 | － |
| | 230 | D-16 | Ⅱc | 石鏃 | 黒耀石 | 20 | 13 | 3 | 0.51 | 13724 | － |
| | 231 | C-8 | Ⅱd | 石鏃 | チャート | 22 | 14 | 5 | 0.81 | 17818 | － |
| | 232 | B-9 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 17 | 13 | 3.7 | 0.47 | 22571 | － |
| 第32図 | 233 | A-9 | Ⅱd | 石鏃 | 安山岩 | 19 | 14 | 2.1 | 0.65 | 16119 | － |
| | 234 | B-5 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 22 | 14 | 4.4 | 0.76 | 19986 | － |
| | 235 | B-16 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 19 | 14 | 3.5 | 0.53 | 13906 | － |
| | 236 | A-6 | Ⅱd | 石鏃 | 安山岩 | 23 | 20 | 2.4 | 1.12 | 22080 | － |
| | 237 | B-5 | 2号住居 | 石鏃 | 黒耀石 | 23 | 16 | 4.3 | 1.12 | 20697 | － |
| | 238 | C-15 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 23 | 15 | 4.6 | 1.15 | 13935 | － |
| | 239 | B-10 | 9号住居 | 石鏃 | 黒耀石 | 18 | 16 | 3.6 | 0.61 | 16467 | － |
| | 240 | A-3 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 20 | 12 | 4.2 | 0.67 | 22716 | － |
| | 241 | A-4 | 9号住居 | 石鏃 | 黒耀石 | 17 | 14 | 3.6 | 0.61 | 3257 | － |
| | 242 | C-12 | Ⅱc | 石鏃 | 黒耀石 | 17 | 9 | 3.5 | 0.42 | 14676 | － |
| | 243 | D-23 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 19 | 8 | 2.7 | 0.26 | 11886 | － |
| | 244 | B-8 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 20.5 | 10 | 2.6 | 0.29 | 17384 | － |
| | 245 | B-12 | Ⅱd | 石鏃 | 安山岩 | 17 | 13 | 2.8 | 0.36 | 16381 | － |
| | 246 | A-16 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 25 | 18 | 3.5 | 0.83 | 10353 | － |
| | 247 | C-17 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 23 | 13 | 3 | 0.56 | 12136 | － |
| | 248 | B-5 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 18 | 11 | 3.1 | 0.42 | 21394 | － |
| | 249 | 表採 | － | 石鏃 | チャート | 29 | 14 | 3 | 1.02 | 一括 | － |
| | 250 | B-13 | Ⅱb | 石鏃 | 安山岩 | 27 | 15 | 4.6 | 0.8 | 10364 | － |
| | 251 | A-4 | 9号住居 | 石鏃 | 安山岩 | 30 | 21 | 2.9 | 1.22 | 4466 | － |
| | 252 | C-13 | Ⅳ | 石鏃 | 黒耀石 | 25 | 13 | 2.9 | 0.66 | 2799 | － |
| | 253 | B-6 | 5号住居 | 石鏃 | 黒耀石 | 19 | 15.5 | 2.9 | 0.65 | 2314 | － |
| | 254 | C-12 | Ⅱb | 石鏃 | 安山岩 | 27 | 19.5 | 3.4 | 1.16 | 14732 | － |
| | 255 | C-16 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 15 | 14 | 5.9 | 1.07 | 4273 | － |
| | 256 | A-5 | 土坑9 | 石鏃 | 黒耀石 | 18.5 | 13 | 4.5 | 0.97 | 22862 | － |
| | 257 | D-9 | Ⅲb | 石鏃 | 頁岩 | 23.5 | 16 | 3.9 | 1.23 | 29 | － |
| | 258 | C-16 | Ⅱd | 石鏃 | 黒耀石 | 21 | 14 | 5.6 | 1.04 | 4268 | － |
| | 259 | B-9 | Ⅱd | 石鏃 | 安山岩 | 26 | 22 | 3.7 | 1.59 | 17986 | － |

第29表　石器観察表（2）

| 挿図No | 遺物No | 出土区 | 層位 | 器種 | 石材 | 最大長(mm) | 最大幅(mm) | 最大厚(mm) | 重量(g) | 取上番号 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第33図 | 260 | C-21 | Ⅱb | 石錐 | チャート | 17 | 13 | 3.5 | 0.59 | 12836 | － |
| | 261 | C-16 | Ⅱd | 石錐 | 黒耀石 | 21 | 15 | 6.6 | 1.98 | 4956 | － |
| | 262 | B-13 | Ⅱc | 石錐 | 水晶 | 27 | 12 | 6.6 | 2.07 | 14823 | － |
| | 263 | B-3 | Ⅱd | 石錐 | 安山岩 | 37 | 15 | 7 | 3.31 | 1759 | － |
| | 264 | B-12 | Ⅱc | 石匙 | 鉄石英 | 40 | 30.5 | 10.5 | 8.35 | 11767 | － |
| | 265 | A-5 | Ⅱd | 石匙 | 安山岩 | 42 | 23 | 6.1 | 4.95 | 20385 | － |
| | 266 | B-5 | Ⅱd | 石匙 | 黒耀石 | 38 | 26 | 8.3 | 4.37 | 20027 | － |
| | 267 | B-9 | Ⅱd | 石匙 | 黒耀石 | 32 | 20 | 7.2 | 2.89 | 16647 | － |
| | 268 | B-10 | Ⅱa | 石匙 | 黒耀石 | 34 | 22 | 5.3 | 2.81 | 16648 | － |
| | 269 | C-5 | Ⅱd | 石匙 | 黒耀石 | 35 | 20 | 6.6 | 3.07 | 17868 | － |
| | 270 | A-8 | Ⅰ | 石匙 | 黒耀石 | 37.5 | 23 | 4.6 | 3.33 | 一括 | － |
| 第34図 | 271 | B-8 | Ⅱd | 石匙 | 黒耀石 | 39 | 27 | 9.1 | 5.93 | 17369 | － |
| | 272 | A-13 | 17号住居 | 石匙 | 鉄石英 | 41 | 32 | 9.9 | 6.81 | 11321 | － |
| | 273 | D-3 | Ⅱa | 石匙 | 水晶 | 44 | 27 | 8.5 | 6.36 | 1741 | － |
| | 274 | C-6 | Ⅱa | 石匙 | 黒耀石 | 27.5 | 23 | 7.7 | 3.5 | 1801 | － |
| | 275 | A-6 | Ⅱd | 石匙 | 安山岩 | 56 | 28 | 7.4 | 9.02 | 22500 | － |
| | 276 | C-10 | Ⅱb | 石匙 | 黒耀石 | 44 | 24 | 8.5 | 4.45 | 8346 | － |
| | 277 | B-6 | Ⅱd | 石匙 | 黒耀石 | 51 | 24 | 9 | 5.71 | 18565 | － |
| 第35図 | 278 | B-3 | Ⅱa | スクレイパー | 安山岩 | 54.5 | 27 | 7.4 | 14 | 1775 | － |
| | 279 | C-6 | Ⅱa | スクレイパー | 黒耀石 | 28 | 22 | 10 | 5.21 | 1042 | － |
| | 280 | B-12 | Ⅱd | 石槍 | 鉄石英 | 34.5 | 21 | 8.9 | 6.24 | 16024 | － |
| | 281 | A-13 | Ⅱc | ピエスエスキーユ | 黒耀石 | 24 | 13 | 7.5 | 2.5 | 11623 | － |
| 第36図 | 282 | D-22 | Ⅱd | 磨製石斧 | 頁岩 | 136 | 56 | 31.0 | 390 | 11888 | － |
| | 283 | C-14 | Ⅱc | 磨製石斧 | 頁岩 | 126 | 53 | 21.4 | 220 | 12901 | － |
| | 284 | A-4 | Ⅱa | 磨製石斧 | 安山岩 | 102 | 53 | 32.7 | 260 | 1881 | － |
| | 285 | B-13 | Ⅱc | 磨製石斧 | 頁岩 | 153 | 56 | 36.6 | 455 | 14426 | － |
| 第37図 | 286 | D-18 | Ⅱc | 磨製石斧 | 安山岩 | 122 | 59 | 34 | 320 | 12363 | － |
| | 287 | D-17 | Ⅱd | 磨製石斧 | 安山岩 | 150 | 57 | 14.1 | 160 | 13623/13655 | － |
| | 288 | A-12 | Ⅱd | 磨製石斧 | 頁岩 | 191 | 67 | 38.3 | 705 | 15740 | － |
| | 289 | A-9 | Ⅱd | 磨製石斧 | 頁岩 | 40 | 54 | 7.4 | 21 | 16728 | － |
| 第38図 | 290 | B-9 | Ⅱd | 磨製石斧 | 安山岩 | 88 | 61 | 38.1 | 300 | 16641 | － |
| | 291 | D-13 | Ⅱc | 磨製石斧 | 頁岩 | 98 | 63 | 41.3 | 320 | 14683 | － |
| | 292 | A-10 | Ⅱc | 磨製石斧 | 頁岩 | 106 | 68 | 32.2 | 395 | 10670 | － |
| | 293 | C-17 | Ⅱb | 磨製石斧 | 頁岩 | 42 | 85 | 19.1 | 95 | 12404 | － |
| | 294 | B-15 | Ⅱd | 磨製石斧 | 頁岩 | 68 | 39 | 16.3 | 65 | 11692 | － |
| | 295 | C-12 | 13号住居 | 磨製石斧 | 片岩 | 56 | 10 | 8.2 | 10 | 3882 | － |
| 第39図 | 296 | C-12 | Ⅱb | 打製石斧 | 安山岩 | 81 | 70 | 25.3 | 140 | 9952 | － |
| | 297 | 表採 | Ⅰ | 打製石斧 | 安山岩 | 84 | 62 | 12.6 | 35 | 一括 | － |
| | 298 | B-7 | 12号住居 | 石核 | 安山岩 | 101 | 113 | 39.6 | 510 | 12265 | － |
| | 299 | C-15 | Ⅱb | 石核 | 輝石安山岩 | 62 | 71 | 30.8 | 165 | 10340 | － |
| 第40図 | 300 | A-5 | Ⅱb | 石核 | 黒耀石 | 27 | 22 | 11.6 | 10 | 13443 | － |
| | 301 | C-6 | Ⅱb | 石核 | 鉄石英 | 30 | 19 | 6.9 | 3 | 5412 | － |
| | 302 | B-12 | Ⅱd | 石核 | 黒耀石 | 27 | 24 | 18.5 | 8 | 15456 | － |
| | 303 | B-10 | Ⅱd | 石核 | 黒耀石 | 37 | 52 | 28.3 | 41.5 | 16917 | － |
| | 304 | A-8 | Ⅱa | 剥片 | チャート | 60 | 40 | 13.2 | 25 | 662 | － |
| | 305 | C-12 | Ⅱd | 剥片 | チャート | 37 | 21 | 18.9 | 8 | 15019 | － |
| | 306 | B-16 | Ⅱd | 剥片 | 黒耀石 | 16 | 24 | 7.3 | 3 | 4976 | － |
| | 307 | B-10 | Ⅱd | 剥片 | 黒耀石 | 50 | 37 | 12.7 | 22.96 | 17996 | － |
| 第41図 | 308 | C-13 | Ⅱc | 剥片 | 安山岩 | 47 | 66 | 9.9 | 40 | 14392 | － |
| | 309 | A-11 | Ⅱd | 剥片 | 水晶 | 29 | 17 | 8.3 | 4 | 15595 | － |
| | 310 | D-18 | Ⅱd | 剥片 | 安山岩 | 74 | 55 | 11.8 | 39 | 12531 | － |
| | 311 | C-3 | 1号住居 | 剥片 | チャート | 33 | 27 | 9 | 10 | 17251 | － |
| | 312 | C-10 | Ⅱ　b | 剥片 | チャート | 50 | 37 | 12.9 | 23 | 14934 | － |
| | 313 | D-17 | Ⅱd | 剥片 | 鉄石英 | 42 | 23 | 11 | 8.67 | 13412 | － |
| 42・43 | 314 | C-11 | Ⅱc | 接合資料 | 頁岩 | 167 | 116 | 70 | 610 | 13336 | ほか |
| 第44図 | 315 | B-3 | Ⅱb | 磨石 | 砂岩 | 57 | 65 | 27 | 140 | 1895 | － |
| | 316 | B-12 | Ⅱb | 磨石 | 砂岩 | 60 | 52 | 33 | 160 | 9378 | － |
| | 317 | A-6 | Ⅱd | 磨石 | 砂岩 | 116 | 100 | 65 | 1060 | 21621 | － |
| | 318 | A-13 | Ⅱd | 磨石 | 安山岩 | 108 | 96 | 49 | 480 | 10361 | － |
| | 319 | B-13 | Ⅱc | 磨石 | 安山岩 | 91 | 59 | 53 | 380 | 14793 | － |
| | 320 | C-16 | Ⅲ | 磨石 | 砂岩 | 97 | 51 | 71 | 470 | 9980 | － |
| | 321 | B-4 | Ⅱb | 磨石 | 砂岩 | 103 | 75 | 43 | 480 | 6698 | － |
| | 322 | C-20 | Ⅲb | 磨石 | 安山岩 | 99 | 107 | 51 | 810 | 33 | － |
| | 323 | D-19 | Ⅲa | 磨石 | 花崗岩 | 103 | 86 | 41 | 558 | － | － |
| | 324 | C-13 | Ⅱc | 敲石 | 安山岩 | 72 | 51 | 44 | 240 | 14235 | － |
| | 325 | D-18 | Ⅱd | 敲石 | 砂岩 | 134 | 127 | 92 | 2080 | 12534 | － |
| | 326 | D-9 | Ⅱa | 敲石 | 安山岩 | 98 | 82 | 40 | 350 | 9390 | － |
| | 327 | D-15 | Ⅱc | 敲石 | 砂岩 | 119 | 80 | 53 | 760 | 12963 | － |
| | 328 | A-13 | Ⅱd | 敲石 | 砂岩 | 96.5 | 37 | 31 | 150 | 15495 | － |
| 第45図 | 329 | B-4 | 3号住居 | くぼみ石 | 砂岩 | 124 | 89 | 52 | 800 | 7619 | － |
| | 330 | B-15 | Ⅱb | 石皿 | 砂岩 | 196 | 138 | 69 | 2680 | 3580 | － |
| | 331 | B-8 | Ⅱd | 石皿 | 砂岩 | 135 | 130 | 59 | 1510 | 17057 | － |
| | 332 | C-9 | Ⅱc | 石皿 | 砂岩 | 81 | 55 | 38 | 240 | 13363 | － |
| | 333 | B-8 | Ⅱc | 石皿 | 砂岩 | 93 | 93 | 82 | 800 | 15318 | － |
| | 334 | A-7 | Ⅱd | 石皿 | 砂岩 | 53 | 73.5 | 39.5 | 180 | 19268 | － |
| | 335 | C-10 | Ⅲb | 砥石 | 砂岩 | 163 | 77 | 38 | 720 | 32 | － |

第30表　石器観察表（3）

| 挿図No | 掲載No | グリッド | 層位 | 遺構L1 | 遺構L2 | 遺構L3 | 器種 | 石材 | 最大長(mm) | 最大幅(mm) | 最大厚(mm) | 重量(g) | 取上No | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第64図 | 490 | A-4 | Ⅱ | － | － | － | 砥石 | 頁岩 | 191 | 84 | 19 | 520 | 13307 | － |
| | 491 | B-4 | － | SH-03 | － | 埋土1 | 金床石 | 砂岩 | 284 | 148 | 38 | 3100 | 7623 | － |
| 第69図 | 516 | B-6 | － | SH-05 | － | 埋土2 | 槌石 | ホルンフェルス | 115 | 36 | 48 | 238 | 13313 | － |
| | 517 | B-5 | － | SH-05 | － | 埋土2 | 金床石 | 砂岩 | 180 | 251 | 55 | 3200 | 13316 | － |
| | 518 | B-6 | － | SH-05 | － | 埋土2 | 金床石 | 砂岩 | 180 | 251 | 101 | 7600 | 13315 | － |
| 第70図 | 519 | B-6 | － | SH-06 | － | 埋土1 | 槌石 | 砂岩 | 120 | 92 | 33 | 480 | 12668 | － |
| | 520 | B-6 | Ⅱ | SH-05 | － | － | 槌石 | 砂岩 | 102 | 96 | 47 | 600 | 13312 | － |
| | 521 | B-6 | － | SH-05 | － | 埋土3 | 槌石 | 砂岩 | 159 | 149 | 75 | 2600 | 12293 | － |
| 第76図 | 540 | A-8 | － | － | － | 埋土2 | 槌石 | ホルンフェルス | 132 | 47 | 25 | 220 | 13281 | － |
| 第81図 | 559 | A-4 | － | SH-09 | － | 埋土1 | 砥石 | ホルンフェルス | 143 | 45 | 22 | 250 | 16321 | － |
| | 560 | A-4 | － | SH-09 | － | 埋土2 | 砥石 | 石英粗面岩 | 107 | 24 | 21 | 80 | 16290 | － |
| 第85図 | 567 | C-7 | － | SH-11 | － | 床面2 | 金床石 | 砂岩 | 308 | 209 | 100 | 10000 | 5160 | － |
| | 568 | C-7 | － | SH-11 | － | 床面2 | 金床石 | 砂岩 | 374 | 192 | 84 | 10300 | 5156 | － |
| 第86図 | 569 | C-7 | － | SH-11 | － | 床面2 | 金床石 | 砂岩 | 391 | 225 | 108 | 17800 | 5151 | － |
| 第91図 | 604 | B-7 | － | SH-12 | － | 埋土2 | 金床石 | 砂岩 | 100 | 78 | 45 | 580 | 12264 | － |
| 第93図 | 620 | C-8 | － | SH-13 | － | 埋土2 | 凹石 | 砂岩 | 111 | 59 | 33 | 240 | 4410 | － |
| 第97図 | 635 | D-8 | － | SH-15 | － | 埋土2 | 砥石 | 石英粗面岩 | 64 | 61 | 7 | 25 | 5370 | － |
| 第99図 | 649 | A-5 | － | SH-16 | － | 埋土2 | 金床石 | 砂岩 | 170 | 73 | 40 | 800 | 22479 | － |
| 第110図 | 707 | C-13 | － | SH-19 | － | 埋土2 | 槌石 | 砂岩 | 116 | 54 | 27 | 240 | 5764 | － |
| | 708 | C-13 | － | SH-19 | － | 埋土3 | 槌石 | 砂岩 | 93 | 48 | 29 | 160 | 10583 | － |
| | 709 | C-13 | － | SH-19 | － | 埋土2 | 槌石 | 砂岩 | 99 | 76 | 52 | 680 | 5843 | － |
| | 710 | C-13 | － | SH-19 | － | 埋土2 | 槌石 | 砂岩 | 121 | 73 | 50 | 600 | 5851 | － |
| 第143図 | 832 | C-12 | Ⅱ | － | － | － | 磨製石鏃 | 頁岩 | 43 | 17 | 4 | － | 6086 | － |
| | 833 | A-6 | － | SH-04 | － | 埋土2 | 磨製石鏃 | ホルンフェルス | 46 | 24 | 3 | 4 | 15365 | － |
| | 834 | B-6 | － | SH-05 | － | 埋土2 | 磨製石鏃 | ホルンフェルス | 53 | 30 | 5 | 8 | 2337 | － |
| | 835 | A-6 | － | SH-04 | － | 床直 | 磨製石鏃 | ホルンフェルス | 56 | 31 | 4 | 8 | 15304 | － |
| | 836 | B-8 | － | SH-07 | － | 埋土2 | 磨製石鏃 | ホルンフェルス | 25 | 28 | 6 | 7 | 2918 | － |
| | 837 | C-13 | Ⅱ | － | － | － | 石包丁 | 頁岩 | 16 | 22 | 3 | 2 | 2430 | － |
| 第144図 | 838 | A-9 | Ⅱ | － | － | － | 打製石斧 | 頁岩 | 144 | 39 | 12 | 80 | 8118 | － |
| | 839 | B-15 | Ⅱ | － | － | － | 打製石斧 | ホルンフェルス | 60 | 39 | 8 | 20 | 14345 | － |
| | 840 | B-6 | － | SH-06 | － | 埋土3 | 打製石斧 | ホルンフェルス | 52 | 46 | 10 | 25 | 12673 | － |
| | 841 | B-4 | － | SH-03 | － | 埋土2 | 打製石斧 | ホルンフェルス | 98 | 43 | 10 | 46 | 10710 | － |
| | 842 | B-4 | Ⅱ | － | － | － | 打製石斧 | ホルンフェルス | 95 | 57 | 11 | 77 | 1786 | － |
| | 843 | B-4 | － | － | － | － | 打製石斧 | ホルンフェルス | 139 | 56 | 18 | 123 | 10710 | － |
| 第145図 | 844 | B-4 | － | SH-03 | － | 埋土2 | 打製石斧 | ホルンフェルス | 102 | 51 | 12 | 72 | 15337 | － |
| | 845 | C-8 | － | SH-13 | － | 埋土2 | 打製石斧 | 頁岩 | 115 | 79 | 12 | 87 | 17698 | － |
| | | C-8 | － | SH-13 | － | 埋土2 | 打製石斧 | 頁岩 | － | － | － | － | 17811 | － |
| 第146図 | 846 | B-10 | Ⅱ | － | － | － | 礫器 | ホルンフェルス | 140 | 33 | 16 | 89 | 17560 | － |
| | 847 | B-10 | Ⅱ | － | － | － | 礫器 | ホルンフェルス | 170 | 40 | 14 | 142 | 16491 | － |
| 第147図 | 848 | A-11 | － | SH-21 | － | 埋土1 | 石包丁 | ホルンフェルス | 51 | 98 | 8 | 38 | 9114 | － |
| | 849 | － | － | － | － | － | 石包丁 | ホルンフェルス | 52 | 66 | 8 | 40 | － | － |
| | 850 | C-10 | － | 溝4 | － | 埋土 | 石包丁 | ホルンフェルス | 58 | 85 | 16 | 78 | 8609 | － |
| | 851 | C-16 | Ⅲ | － | － | － | 石包丁 | ホルンフェルス | 45 | 70 | 12 | 28 | 9977 | － |
| 第148図 | 852 | C-13 | － | SH-19 | － | 埋土3 | 削器 | ホルンフェルス | 42 | 83 | 10 | 35 | 10574 | － |
| | 853 | － | － | 溝4 | － | 埋土 | 削器 | ホルンフェルス | 49 | 70 | 5 | 20 | 一括 | － |
| | 854 | A-4 | Ⅱ | － | － | － | 削器 | ホルンフェルス | 55 | 72 | 10 | 33 | 20430 | － |
| | 855 | － | － | － | － | － | 削器 | ホルンフェルス | 78 | 27 | 7 | 14 | － | － |
| | 856 | C-3 | Ⅱ | － | － | － | 削器 | ホルンフェルス | 52 | 46 | 6 | 17 | 4174 | － |
| | 857 | － | － | － | － | － | 削器 | ホルンフェルス | 28 | 51 | 6 | 9 | 一括 | － |
| 第149図 | 858 | C-17 | Ⅱ | － | － | － | 削器 | ホルンフェルス | 103 | 61 | 12 | 77 | 12418 | － |
| | 859 | B-4 | Ⅱ | － | － | － | 二次加工剥片 | ホルンフェルス | 84 | 112 | 22 | 282 | 1794 | － |
| 第150図 | 860 | B-8 | Ⅱ | － | － | － | 削器 | ホルンフェルス | 200 | 134 | 38 | 535 | 14914 | － |
| | 861 | B-8 | Ⅱ | － | － | － | 礫器 | ホルンフェルス | 200 | 107 | 38 | 350 | 14914 | － |
| | 862 | A-12 | Ⅱ | － | － | － | 削器 | ホルンフェルス | 65 | 89 | 17 | 95 | 9483 | － |
| 第151図 | 863 | C-23 | Ⅱ | － | － | － | 微細剥離痕剥片 | ホルンフェルス | 188 | 57 | 28 | 320 | 11863 | － |
| | 864 | A-8 | Ⅱ | － | － | － | 微細剥離痕剥片 | ホルンフェルス | 50 | 52 | 13 | 26 | 1329 | － |
| 第152図 | 865 | D-17 | Ⅱ | － | － | － | 微細剥離痕剥片 | ホルンフェルス | 100 | 30 | 11 | 29 | 13621 | － |
| | 866 | D-17 | Ⅱ | － | － | － | 微細剥離痕剥片 | ホルンフェルス | 85 | 45 | 16 | － | 12591 | － |
| | 867 | D-18 | Ⅱ | － | － | － | 微細剥離痕剥片 | ホルンフェルス | 72 | 73 | 18 | 84 | 12533 | － |
| | 868 | D-18 | Ⅱ | － | － | － | 微細剥離痕剥片 | ホルンフェルス | 55 | 67 | 12 | 41 | 12095 | － |
| 第153図 | 869 | C-23 | Ⅱ | － | － | － | 剥片 | ホルンフェルス | 60 | 61 | 15 | 68 | 11982 | － |
| | 870 | C-13 | － | SH-19 | － | 埋土2 | 剥片 | ホルンフェルス | 58 | 43 | 14 | 38 | 5762 | － |
| | 871 | A-6 | Ⅱ | － | － | － | 剥片 | ホルンフェルス | 47 | 58 | 12 | 36 | 22083 | － |
| | 872 | D-17 | Ⅱ | － | － | － | 剥片 | ホルンフェルス | 53 | 84 | 14 | 82 | 13392 | － |
| 第154図 | 873 | B-8 | Ⅱ | － | － | － | 剥片 | ホルンフェルス | 89 | 116 | 20 | 307 | 17393 | － |
| | 874 | C-11 | Ⅱ | － | － | － | 剥片 | ホルンフェルス | 123 | 79 | 24 | 255 | 6260 | － |
| 第155図 | 875 | B-12 | Ⅱ | － | － | － | 剥片 | 頁岩 | 79 | 110 | 14 | 124 | 12934 | － |
| | 876 | B-10 | Ⅱ | － | － | － | 剥片 | ホルンフェルス | 127 | 62 | 21 | 178 | 16503 | － |
| | 877 | B-9 | Ⅱ | － | － | － | 剥片 | ホルンフェルス | 160 | 67 | 11 | 98 | 8285 | － |
| 第156図 | 878 | B-6 | Ⅱ | － | － | － | 砥石 | 砂岩 | 89 | 74 | 25 | 140 | 18409 | － |
| | 879 | A-12 | Ⅱ | － | － | － | 砥石 | ホルンフェルス | 71 | 33 | 17 | 60 | 12804 | － |
| | 880 | B-11 | － | ピット683 | － | 埋土 | 砥石 | ホルンフェルス | 118 | 41 | 47 | 325 | 14292 | － |
| | 881 | B-15 | Ⅱ | － | － | － | 砥石 | 砂岩 | 112 | 74 | 58 | 480 | 10349 | － |
| | 882 | D-18 | Ⅱ | － | － | － | 砥石 | 砂岩 | 96 | 81 | 18 | 220 | 10429 | － |
| | 883 | D-18 | Ⅱ | － | － | － | 砥石 | ホルンフェルス | 133 | 46 | 53 | 420 | 12541 | － |
| | 884 | B-6 | Ⅱ | － | － | － | 砥石 | 砂岩 | 85 | 79 | 14 | 140 | 20198 | － |
| | 885 | B-7 | Ⅱ | － | － | － | 砥石 | 砂岩 | 223 | 174 | 90 | 4530 | 1973 | － |
| | 886 | C-13 | Ⅱ | － | － | － | 砥石 | 砂岩 | 113 | 74 | 25 | 340 | 14684 | － |
| | 887 | A-12 | － | SH-17 | － | 埋土1 | 軽石製品 | 軽石 | 53 | 58 | 26 | 12 | 12247 | － |

第31表　鉄製品・ガラス製品など観察表

| 挿図No | 掲載No | グリッド | 層位 | 遺構L1 | 遺構L2 | 遺構L3 | 器種 | 最大長(mm) | 最大幅(mm) | 最大厚(mm) | 重量(g) | 取上No |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第157図 | 888 | C-12 | - | SH-22 | - | 埋土2 | - | 44 | 24 | 2 | 3.80 | 10091 |
| | 889 | B-7 | - | SH-06 | - | 埋土2 | - | 16 | 57 | 3 | 3.06 | 2308 |
| | 890 | A-7 | Ⅱ | - | - | - | - | 28 | 18 | 2 | 1.85 | 125 |
| | 891 | C-13 | - | SH-19 | - | 埋土2 | - | 46 | 14 | 8 | 5.28 | 7013 |
| | 892 | A-11 | - | SH-02 | - | 埋土1 | - | 21 | 10 | 2 | 2.05 | 9134 |
| | 893 | A-6 | - | 埋納ピット14 | - | 埋土 | - | 36 | 13 | 4 | 1.86 | 22749 |
| | 894 | A-9 | Ⅱ | - | - | - | - | 18 | 12 | 3 | 0.70 | 10386 |
| | 895 | A-11 | - | SH-20 | - | 埋土1 | - | 21 | 19 | 2 | 1.21 | 7900 |
| | 896 | A-11 | - | SH-20 | - | 埋土2 | - | 11 | 4 | 3 | 0.16 | 12017 |
| | 897 | C-12 | - | SH-22 | - | 埋土4 | - | 6 | 4 | 2 | 0.02 | 10599 |
| | 898 | A-11 | - | SH-20 | - | 埋土2 | - | 7 | 4 | 2 | 0.05 | 12016 |
| 第158図 | 899 | A-6 | - | SH-04 | - | 埋土3 | - | 4 | 4 | 3 | 0.06 | 12049 |
| | 900 | A-8 | - | SH-08 | - | 埋土2 | - | 5 | 6 | 5 | 0.20 | 2908 |
| | 901 | A-6 | - | SH-10 | - | 埋土3 | - | 3 | 3 | 2 | 0.01 | 12050 |
| | 902 | C-8 | - | SH-13 | - | 埋土3 | - | 4 | 4 | 2 | 0.03 | 17817 |
| | 903 | D-8 | - | SH-15 | - | 埋土2 | - | 8 | 8 | 6 | 0.39 | 5991 |
| | 904 | A-5 | - | SH-16 | - | 埋土2 | - | 3 | 3 | 2 | 0.02 | 22778 |
| | 905 | A-5 | - | SH-16 | - | 埋土2 | - | 3 | 4 | 4 | 0.07 | 22171 |
| | 906 | A-11 | - | SH-20 | - | - | - | 4 | 4 | 2 | 0.03 | 10671 |
| | 907 | A-11 | - | SH-20 | - | 埋土2 | - | 3 | 3 | 3 | 0.04 | 12048 |
| | 908 | B-10 | Ⅱ | - | - | - | - | 4 | 4 | 2 | 0.03 | 7804 |
| | 909 | - | - | - | - | - | - | 6 | 6 | 6 | 0.25 | - |

第32表　石器観察表（4）

| 挿図No. | 掲載No. | グリッド | 層位 | 器種 | 最大長(mm) | 最大幅(mm) | 最大厚(mm) | 重量(g) | 石材 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第166図 | 951 | G-11 | Ⅱ | 打製石鏃 | 18 | 18 | 3.5 | 0.8 | 頁岩 |
| 〃 | 952 | G-11 | Ⅱ | 打製石鏃 | 26.5 | 19 | 4.5 | 1.4 | 頁岩 |
| 〃 | 953 | G-10 | Ⅱ下 | 打製石鏃 | 25 | 17 | 3 | 0.9 | 黒曜石 |
| 〃 | 954 | F-9 | Ⅱ | 打製石鏃 | 24 | 17 | 2.6 | 0.8 | チャート |
| 〃 | 955 | G-14 | Ⅱ下 | 打製石鏃 | 14 | 14 | 4 | 0.6 | 黒曜石 |
| 〃 | 956 | G-9 | Ⅱ下 | 用途不明 | 39 | 22.5 | 11 | 7.8 | 黒曜石 |
| 〃 | 957 | F-11 | Ⅱ | 打製石斧 | 126.5 | 80 | 16 | 166.2 | 頁岩 |
| 第169図 | 960 | 住居跡内 | | 用途不明 | 120 | 70 | 15 | 111.6 | 頁岩 |

# 第Ⅵ章　調査のまとめ

## 第１節　縄文時代の堂園遺跡

台地から細長く延びた舌状の場にあるＢ地点には早期から晩期まで５千年以上にわたる生活の痕跡がみられるが，竪穴住居跡は検出されておらず，具体的な生活痕跡は土坑が５基と集石が１ヶ所あるのみである。遺物も各時期に万遍なく出土するのではなく，中期と後期の２時期に集中している。以下，いくつかの項をもうけ，まとめとしたい。

### １　貝殻条痕尖底土器

外面を貝殻腹縁部で縦方向を主体に調整した尖底土器がまとまって出土している。内面も貝殻条痕で調整したものが多いが，こちらは横方向が多い。外面には刻目突帯の付くもの，三角突帯の付くもの，無文のものがある。このようにこの土器は器形・大きさ・文様など多様であり，こまかく分類すればいくつかに分けられる可能性もあるが，調整痕などがほぼ同じであることから，ここではこれらを同一時期の同一型式であるとみたい。

本遺跡のものを今一度整理すると次のようになる。①口縁部は直に立ち上がるものもあるが，内反するものが多く，キャリパー状となるものもある。波状口縁のものが多い。②口縁付近の外面は無文のものもあるが，突帯の付くものが多い。突帯には三角突帯のものと刻目突帯のもの，突帯の上下にヘラ押しのあるものなどがある。一条から四条のものまであり，横方向のもの，縦方向のもの，鋸歯状のもの，波状のものなどがある。③底部は丸底に近いものもあるが，ほとんど尖底である。④器面調整は内外とも貝殻条痕で，一部の内面に条痕のあとをヘラでナデたものがある。外面は主として縦方向，内面は横方向である。

このような土器については東和幸氏や相美伊久雄氏などによる分類案がある。従来，前期後半から中期前半の土器は曽畑式土器―深浦式土器―春日式土器の編年がされているが，本遺跡出土の土器は深浦式土器に含まれる。相美氏は深浦式土器を日木山式―深浦１式―深浦２式に細分し，これらを前期末から中期初葉に位置づけた。さらに最近このうち条痕文のものをa類～ｄ類に分類し，a類を上水流タイプ，ｂ類を野久尾式と呼んでいる。当遺跡の資料はこのうち「外面に縦位の貝殻条痕を施し，口縁部に横位の突帯を巡らせるもの」とした上水流タイプにもっとも近い。なお，東氏はこれらの土器を深浦式土器と分けて，条痕文尖底土器と呼んでいる。本遺跡のものは東氏が条痕文尖底土器と呼んだものと同じ類である。先の特徴からして尖底であることから深浦式土器の中に含まれるものの，相交弧文が見られないこと，口縁内面に文様をもたないことなどからして，相美氏は「上水流タイプは深浦式石峰・鞍谷段階や船元Ⅰ・Ⅱ式と併行関係にあり」としているが，鞍谷遺跡出土のものよりやや新しいものと思われる。これが地域性なのか，時期差なのかについては今後検討されるべき課題といえる。ただ，船元Ⅱ式土器も出土していることから中期初葉に位置づけられることは確かであろう。

### ２　有文土器と無文土器

南九州の縄文土器は後期末葉以降を除き，ほとんどが文様を有している。それは全体に貝殻条痕がみられたり，部分的にヘラ凹線文，貝殻押圧文，突帯文，あるいは縄文などが施されたりするが，この有文土器に無文土器がまざることはあまりない。河口貞徳氏は型式論が成り立たないということを記する際に多くの報告書が無文土器を無視していると批判したことがあるが，この批判は必ずしも当を得ていない。一概に無視しているのではなく，干迫遺跡や草野貝塚など後期の遺跡では無文土器もそれぞれ扱われている。

当遺跡でも指宿式土器や市来式土器に無文土器が共伴している。これらの無文土器は完形品もあっ

て，その全形がわかるが，器形が有文土器と全く同じというわけではない。例えば，163は底部こそ同じ形態をしているものの，器形はまっすぐ伸びる形をしており，くびれて外反する縁帯文とはなっていない。胎土・色調だけは同一である。指宿式土器は凹線文が特徴的な土器であるが，これにも無文土器がある。111～113がそうであるが，これは口縁部が内反し，四か所に突起があるなど有文土器と同様の器形をしているため無文であるが，指宿式土器とわかるのである。

無文土器の場合，完形品あるいは口縁部，特徴ある胴部などでなければ，型式名のはっきりしないことが多い。また，完形品であっても163などのように本来の形と異なっている場合は，色調・胎土・焼成具合などに特徴的なものがないと区分けしにくいことがある。無文のものこそ，土器片ひとつひとつの観察を十二分に行う必要があろう。

### 3　中期末～後期中葉の土器

ここでは阿高式土器から市来式土器まで連続して各種型式の土器が出土している。4類から16類までの土器がこれで，ピークとなるのは11類の指宿式土器と13類の市来式土器である。4類から10類までは中期末から後期初葉の土器と思われるが，これらは少量ずつの出土で，この地はこの時期，キャンプサイト的な場であった可能性が強い。ただ，この台地の他の場所にこの頃の本拠地がある可能性もある。

指宿式土器と松山式土器との違いは大きい。ここではその数量差が大きいだけにこれがどうつながっているのかは大きな問題である。指宿式土器にはいろいろな文様がある。指宿式土器と松山式土器との間にどの様な型式がはいってくるのか，指宿式土器の文様の違いは時期差なのか，個体差なのか，今後に残された課題である。海岸に近いか遠いかの位置的なものが指宿式土器と市来式土器の分布に大いに関係があるということは古くからいわれてきたが，山間部に位置するここで凝縄文土器が少ないのは大きな特徴であり，これは福田ＫⅡ式土器など他地域の土器が全く出ていないという事とも関連するのかもしれない。

市来式土器は縁帯部に文様が集中したものが主体であり，松山式土器に後続すると思われる139～145のような縁帯の短い土器もある。市来式土器の中では新しいとされる頸部にまで文様が施される土器は多くないが，丸尾式土器も存在していることから細々ではあるが，キャンプ的なムラは存在していたのかもしれない。市来式土器の流れ，居住地の場所など残された課題も多い。これは，谷向かいの鳴野原遺跡，あるいは背後の宮ノ上遺跡にある後期のムラと関連をもっているのであろう。今後の調査を待ちたい。

（参考文献）

東 和幸 1991「鹿児島県における縄文中期の様相」『南九州縄文通信』№5 南九州縄文研究会
相美 伊久雄 1998「まとめ－縄文時代・土器」『上水流遺跡』『金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書』9
相美 伊久雄 2000「深浦式系土器の再検討」『人類史研究』12　人類史研究会
相美 伊久雄 2006「条痕文土器と縄文施文土器
—南九州における縄文時代前期末～中期前葉土器群の再整理」『大河』第8号

（池畑耕一）

## 第2節　弥生時代終末～古墳時代初頭の堂園遺跡

弥生時代終末から古墳時代初頭の土坑墓が数多く発見された堂園遺跡Ａ地点から，南に約500m 離れた地点にある堂園遺跡Ｂ地点では，ほぼ同時期の竪穴住居跡や埋納土器ピットなど多数の遺構と，多くの土器・石器のほか，調査時では県内初となるガラス製や水晶製の小玉の出土や，竪穴住居跡内での鉄製品や鉄滓の出土がみられるなど，数多くの点で注目すべき遺跡であった。そのうち，特記する点を指摘し，まとめとする。

### 1　遺構

(1)　竪穴住居跡

堂園遺跡Ｂ地点では，平面プランが方形を呈する竪穴住居跡が25軒検出された。その住居構造は多種多様であった。住居構造のうち，柱穴配置，張り出し構造，出入口について考察する。

ア　柱穴配置

竪穴住居跡では，主柱が２本柱構造の竪穴住居跡と，４本柱構造の竪穴住居跡が検出された。主柱本数の違いに，張り出し構造の有無と，中央竪穴部の有無を加味して，タイプ別に分けると，２本柱構造のものには，（ア）張り出し構造も，中央竪穴部もないもの(SH-05,SH-11,SH-17,SH-22)，（イ）張り出し構造も，中央竪穴部もあるもの(SH-09)，（ウ）張り出し構造はあり，中央竪穴部のないもの(SH-06,SH-07,SH-20)があり，４本柱構造のものには，（エ）張り出し構造はなく，中央竪穴部はあるもの(SH-13,SH-14,SH-21)，（オ）張り出し構造も，中央竪穴部もないもの(SH-08)，（カ）張り出し構造も，中央竪穴部もあるもの(SH-12)，（キ）張り出し構造はあり，中央竪穴部のないもの(SH-03,SH-18)がある。また，（ク）２本柱構造のものとも，４本柱構造のものとも判断がつかず，張り出し構造のないもの(SH-01,SH-02,SH-19,SH-23)，（ケ）２本柱構造のものとも，４本柱構造のものとも判断がつかず，張り出し構造も，中央竪穴部もあるもの(SH-16)，（コ）全体形の不明なもの(SH-04,SH-10,SH-15,SH-24,SH-25)の，あわせて10分類できる。

さて，堂園遺跡Ｂ地点がある薩摩半島西部地域における弥生時代終末～古墳時代初頭の竪穴住居類型の変異については，中摩浩太郎氏の論考に詳しい(中摩1995)。中摩氏は，(1)集落の一般構成員の家屋に対応する，２主柱型のうち，平面プランが方形の竪穴住居跡(ＩＢα型)は，中津野期を画期とし，正方形平面形へと変化すること，(2)大型の竪穴住居に対応する，４主柱型のうち張り出しをもつ竪穴住居跡(ⅥＢβ型)や，２主柱で竪穴周壁にも柱が配され，間仕切り遺構のある竪穴住居跡(ⅡＡｋ型・ⅡＢｋ型)は，中津野期を最終段階として消滅したこと，(3)大型の竪穴住居に対応する，４主柱型で平面プランが方形の竪穴住居跡(ⅥＢα型)は，中津野期に薩摩半島西部に波及することの３点を指摘した。そこで，堂園遺跡Ｂ地点での分類と，中摩氏の分類を対応させると，ＩＢα型が（ア）に，ⅡＢｋ型が（ウ）に，ⅥＢα型が（オ）に，ⅥＢβ型が（キ）にあたる。

特に，堂園遺跡Ｂ地点では，中央竪穴部やベッド状遺構が全体の約1/4にあたる６軒の竪穴住居跡で検出され，主に４本柱構造のものであることは，竪穴住居の大型化を考える上で注目できる。

当該期のベッド状遺構や中央竪穴部のある竪穴住居跡は，熊本県球磨郡錦町夏女遺跡や，熊本県阿蘇市(旧阿蘇郡阿蘇町)下山西遺跡などで検出されている。出土土器の流通も含め，中九州との関係を考える上で重要である。

さらに，主柱の位置に注目すると，２本柱構造のものには，（ア）主柱が中央にあり，２方向の壁面近くに支柱があるもの(SH-06,SH-07,SH-08,SH-11,SH-22)，（イ）主柱が中央にあり，４方向の壁面近くに支柱があるもの(SH-20)，（ウ）主柱が中央にあり，壁面近くに壁帯溝のあるもの(SH-17)，（エ）主柱が壁面近くにあるもの(SH-05)，の４タイプがある。また，４本柱構造のものは，（カ）中央竪穴部の４隅にあるもの(SH-12,SH-13,SH-14)，（キ）主柱が中央にあり，４方向の壁面近くに支柱のあるもの(SH-18,SH-21)の２タイプがある。

このようにみると，堂園遺跡Ｂ地点での最大の特徴は，竪穴住居跡の平面構造が多種多様なことである。この様相は，階層差の想定よりも，上屋構造選択の自由度の高さの象徴と考えられる。

イ　張り出し構造

張り出し構造のある竪穴住居跡は，25軒のうち８軒（SH-02，SH-03，SH-07，SH-09，SH-12，SH-15，SH-16，SH-18）を数えた。そのうち，SH-15及びSH-16は全体形状が不明である。そこで，６軒について，主柱の配置と張り出し部を含めた住居構造との関係は，次の２タイプに分類できる。

（ア）張り出し部を含めると，主柱が中央に配置されず，張り出し部は建築当初には想定されない施設と判断できるもの(SH-02，SH-03，SH-12)である。長辺が100cm程度の小規模なものが多い。

（イ）張り出し部を含めると，主柱が中央に配置され，張り出し部は建築当初から想定された施設

と判断できるもの(SH-07，SH-09，SH-18)である。長辺が140cm以上の広いものが多く，複数の張り出し部のある場合には，「掘り残し部分がある」と認識できるものである。

上記の2タイプは，2本柱構造にも，4本柱構造にも当てはまり，その場に応じて増築する場合と，張り出し構造の外側に壁面の存在を想定できる場合や，張り出し構造の構築を前提に建築された場合が指摘できる。ただし，張り出し部の面積の不揃さは，張り出し部の構築は主にその場に応じて行われたことを想定させる。

さらに，SH-09でみられる張り出し構造は，弥生時代中期後半～中期末を中心に，主に宮崎県南部から大隅半島の竪穴住居跡で採用される構造に類似するものである。この時期に薩摩半島南部にも拡がることが，万之瀬川下流域の南さつま市金峰町(旧日置郡金峰町)下堀遺跡例で判明している。この住居構造が，薩摩半島南部で，弥生時代終末～古墳時代初頭にも採用されることが明らかになった点は重要である。今後の課題としては，(1)継続して採用された構造なのか，(2)この地域に一般的な構造なのか，(3)大隅半島などとの関係性が考えられるのかどうか，など重要である。

ウ　出入口

出入口と推定できる構造は，25軒のうち4軒（SH-09，SH-11，SH-12，SH-20）で検出された。9号竪穴住居跡では南西壁際に，11号竪穴住居跡では北東壁際に，12号竪穴住居跡では南西側のベッド状遺構上に2基のピットが想定できた。さらに，20号竪穴住居跡では，階段状張り出し1基が検出され，注目できる。

(2) 埋納土器ピット

弥生時代終末～古墳時代初頭の埋納土器ピットは，下堀遺跡や夏女遺跡で検出されている。復元するとほぼ完形になる土器が，折りたたまれた状態で発見されるなど，検出状況が酷似しており，同様の儀礼的行事によるものと考えられる。

(参考文献)

熊本県教育委員会 1987『下山西遺跡』『熊本県文化財調査報告』88

熊本県教育委員会 1993『夏女遺跡』『熊本県文化財調査報告』128

中摩浩太郎 1999「南部九州古墳時代の竪穴住居類型の変異に関する一考察」『人類史研究』11　人類史研究会

金峰町教育委員会 2005『下堀遺跡』『金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書』20

## 2　遺物

(1) 土器

ア　中津野式土器

堂園遺跡B地点出土の土器は，従来，中津野式土器に分類される土器が大半である。注目できるのは，住居埋土中に，中津野式土器から東原式土器への過渡期と考えられる土器群の出土も認められることと，器種のうち高坏が欠落していたことである。

過渡期の指標としては，本田道輝氏の考察(本田 2005)に詳しい。

まず，甕形土器の特徴について，(1)口縁部の立ち上がりが強くなり，(2)内側の稜線が鈍くなり，(3)頸部の厚みが先端部と変わらなくなり，(4)「カキアゲ口縁」が認めら，(5)胴下半部にケズリ痕がみられること，を指摘する。

次に，壺形土器の特徴について，(1)口縁部が頸部から直接外反し，(2)頸部の締まりが強く長胴化し，(3)胴部凸帯が低く刻みが雑になり，(4)胴部凸帯の始点と終点が一致せず上下にずれるものがみられ，(5)胴下半部にケズリ痕がみられ，(6)底部が丸底化していくこと，を指摘する。

堂園遺跡B地点出土の甕形土器では，主体となる土器は，口縁部が「く」の字状に長めに外反し，口縁部内外面と胴部の境界には明瞭な稜線が観察でき，口縁部内外面の調整がヨコ調整のみの土器で，

従来，中津野式土器に分類されるものである。対して，東原式土器の指標の一つである，いわゆるカキアゲ口縁がみられるのは，561・562など少量である。

特に，甕形土器には，口縁部内面と胴部とでハケメ調整やヘラナデ調整を方向を違えて強く行い，境界に明瞭な稜線を形成するという中津野式土器の一つの指標を持ちながら，口縁部の外反度合いが弱い土器が多いのが特徴的である。また，これらの土器の多くは，口縁部外面と胴部の境界に，ヘラナデ調整や指頭押圧調整，あるいは胴部上端から口縁下部まで掻き上げ調整などが施され，稜線は不明瞭な点も挙げられる。さらに，胴部下半ではヘラナデ調整が雑になり，ケズリ痕が残る。

また，3種類の形態が認められた底部には，傾向として，黒髪式土器などの古い時期から出現するといわれる脚台内が平坦な形態のものや，東原式土器などの新しい時期の要素とされている立ち上がりが強い形態や，底部内面に突起がつく形態のものもみられた。さらに，径の小さな平底の立ち上がり部分に中空の輪状の脚台を付ける成形技法が明瞭に観察できた。

一方，堂園遺跡B地点出土の壺形土器では，胴部は長胴化するものの，口縁部が頸部から直接外反するものや，胴部凸帯の始点と終点が上下にずれるものや，胴下半部にケズリ痕が残るものは少なかった。また，底部は非常に小さい平底を呈し，丸底形態の土器は少なかった。

以上の様相は，甕形土器では本田氏の指摘する過渡期の土器群の様相に合致するものの，個々の差の大きいことが指摘できる。また，壺形土器は中津野式土器の範疇であり，過渡期の様相にはあまり合致しない特徴がある。

この，堂園遺跡B地点での様相は，豊富な種類ととらえ「堂園タイプ」として過渡期の一時期を設定できるとも考えられるが，薩摩半島における当該期の資料は現在増加中であり，地域性を加味した上での，検討が必要である。

イ　免田式土器及び類似する土器

814・815(包含層出土)の重弧文を施す壺形土器は免田式土器の範疇に入る。

一方，類似する模倣土器の範疇に入るものには，436・437(SH-02)の多条突帯を施すものや，510・511(SH-05)の長頸の壺形土器が挙げられる。さらに，432(SH-02)や773(埋納ピット5号)などの胴部が球形に張る壺形土器は，胴下半部や，頸部から口縁部の形状が，免田式土器と酷似するものの，胴部の張る程度が緩やかな点で異なり，模倣土器の一種である。

九州中部に分布圏のある免田式土器の範疇に入る土器だけでなく，多種類の模倣土器が薩摩半島南部の万之瀬川上流域にある堂園遺跡B地点から出土したことは，免田式土器を担う人びととの強い関係を指摘でき，当時の社会状況を考える上で重要である。

(参考文献)

本田道輝 2005「第X章　考察　下堀遺跡の検討」『下堀遺跡』『金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書』20
中村直子 1987「成川式土器再考」『鹿大考古』6

(八木澤一郎)

(2)　石器

古墳時代の石器としては，磨製石鏃，打製石斧，石庖丁およびこれに類する削器等を抽出したが，ここでは特に，石庖丁およびこれに類する削器類について若干触れておきたい。

本遺跡の石庖丁は，研磨が部分的ないしほとんど施されないものが多い。また削器としたものの中には，石鎌的な機能が想定されるもの(855)や横刃形石器の範疇で捉えられるもの(853,854,856,857)がある。また剥片及び微細剥離痕剥片としたものの一部にも，剥片の頭部と端部を折断的に整形加工する一群が存在する。853等からこれらは石庖丁または横刃形石器の素材剥片とみられ，一部には縁辺に微細剥離痕が観察される。横刃形石器の範疇で捉えられるものを含め，これらの剥片にみられる微細剥離痕の位置などから，これらの一部には石庖丁を代替あるいは補完する使用法が想定され，注意が必要である。

石庖丁については，弥生時代後期に石庖丁が増加することが知られている(本田 1992)。また，石庖丁・磨製石鏃と石製土掘具については，古墳時代まで残ることが指摘されている(東 1998)。

本遺跡の石庖丁は，定型的・管理的な性格が強い加工は省略され，横刃形石器やその他の削器類についても同様の傾向がみられる。収穫具における石器から金属器への転換過程を検討することはできないが，石器から金属器への移行段階，あるいは金属器移行後の石器の利用相を示す可能性が高く，鉄器の普及と石器利用の終焉過程を考える上で，興味深い資料である。

(参考文献)

本田 道輝 1992「鹿児島県下の弥生時代の石器と金属器出土遺跡地名表」
『南九州における原始・古代文化の諸様相における総合的研究』
堂込　秀人 2006「鹿児島県の石器からみた弥生時代の様相」『考古論集』
東 和幸 1998「九州」『考古学ジャーナル』433

(馬籠亮道)

(3) 鍛冶関連遺物

堂園遺跡B地点では，竪穴住居跡内から，鉄製品や鉄製工具，及び鍛冶関連遺物と考えられる三角形状鉄片，棒状鉄片，微小鉄片や，また鉄床石や鎚石，砥石と考えられる石製加工具や，竪穴住居跡内の多量の炭化物や，固結した焼土の検出を確認した。これらの一連の遺構・遺物がセットで発見されたことは，鉄片を用いた最終加工を住居内で行っていたことを明瞭に示す，県内初の確認事例である。この事例は，当該期の鉄器(最終加工)の生産が，大隅半島基部地域だけでなく，薩摩半島南部でも日常的なことを明らかにしたことで重要である。

特に，鉄床石や鎚石は，当初，石器加工具としての台石及び敲石に分類していたもので，村上恭通氏の教示により，鍛冶関連遺物への分類が可能となったものである。今後，黄変化や赤変化のある台石や砥石，黒色化のある敲石などには，十分な注意が必要である。この分野においては，遺物の見直しにより，類例の急速な増加が見込まれる可能性がある。

(参考文献)

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 2004『西分増井遺跡Ⅱ』『高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』83
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2008『上水流遺跡』『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』121

(4) ガラス製・水晶製小玉

ガラス製・水晶製小玉は，県内初の事例である。13点中，12点は竪穴住居跡内での出土である。ガラス製小玉は4号竪穴住居跡，8号竪穴住居跡，10号竪穴住居跡，13号竪穴住居跡，15号竪穴住居跡，16号竪穴住居跡，20号竪穴住居跡から出土し，水晶製小玉は5号竪穴住居跡から出土した。16号竪穴住居跡と20号竪穴住居跡では2点出土し，他は1点ずつであり，総竪穴住居跡数25軒中8軒から出土した。小玉の出土竪穴住居跡と非出土竪穴住居跡の構造上の比較では，ガラス製・水晶製小玉は，ムラの中での階層性に基づく威信材とは言えない。しかし，1軒当たりの出土点数が1ないし2点である状況は，小玉が貴重品として扱われたと考えられる。

当該期の西日本では，現在，九州南部では知られず，北部九州，もしくは瀬戸内地方での鋳型やガラス滓の出土が知られている。その中で，時期が若干下る笹貫式土器の段階において，堂園遺跡B地点の所在する旧川辺町内にある答石遺跡では，玉砥石の出土があり，今後注意を要する。

(参考文献)

南九州市教育委員会 2008『答石遺跡』『南九州市埋蔵文化財発掘調査報告書』1

(八木澤一郎)

D−23・24区，東壁土層断面

A・B-8区,北壁土層断面

D-21区,東壁土層断面

A～D-22区,北壁土層断面

C・D-22区,北壁土層断面

図版2

C-16区,Ⅱd層,ブロックA検出状況

C-16区,Ⅱd層,ブロックB検出状況

B-16区,Ⅱd層,ブロックC検出状況

C-6区,Ⅱc層,ブロックD検出状況

A-16区,Ⅱd層,ブロックE検出状況

A・B-5区,Ⅱd層,ブロックF検出状況

B-9区,Ⅱd層,ブロックJ検出状況

B･C-7区,土坑2完掘状況

B-6区,落し穴断面状況

B-6区,落し穴完掘状況

C-19区,土坑5断面状況

A-13区,土坑4完掘状況

B･C-7区,土坑2検出状況

図版4

C-7区,Ⅱa層,中津野式土器出土状況

C-12区Ⅱa層,磨製石鏃(832)出土状況

A-11区,Ⅱb層,鉄製品出土状況

C-15区,Ⅱc層,土器出土状況

C-12区,Ⅱc層,深鉢形土器(162)出土状況(完掘)

A-10区,Ⅱc層,磨製石斧(292)出土状況

C-10区,Ⅱd層,石鏃(213)出土状況

B-12区,Ⅱc層,石匙(264)出土状況

D-22区,Ⅱd層,土器集中(40)出土状況

C-13区,Ⅱd層,土器集中出土状況

D-18区,Ⅱd層,土器集中(156)出土状況

D-19区,Ⅱd層,石鏃(228)出土状況

C-5区,Ⅱd層,石匙(269)出土状況

B-12区,Ⅱd層,石槍(280)出土状況

B-8区,Ⅱd層,スクレーパー出土状況

図版6

A-12区,Ⅱd層,磨製石斧(288)出土状況

D-22区,Ⅱd層,磨製石斧(282)出土状況

B-6区,Ⅱd層,敲石(328)出土状況

A-6区,Ⅱd層,大型剥片集積遺構検出状況

B・C-11区,Ⅱc層,石斧製作跡1検出状況

C-23区,Ⅱd層,石斧製作跡2検出状況

C-3・4区,SH01検出状況

C-3・4区,SH01埋土1土器出土状況

C-3・4区,SH01生活面完掘状況(北から)

B・C-4区,SH02検出状況

B-4区,SH03炭化物出土状況

図版8

A･B-4区,SH03住居構造検出状況(北から)

B-6区,SH05住居構造検出状況(北から)

A-4・5区,SH04埋土3石鏃検出状況

A-5・6区,SH04埋土3小玉出土状況

A-5・6区,SH04住居構造検出状況(東から)

A-6区,SH04北壁断面状況

B-5・6区,SH05北壁断面状況

B-6区,SH05完掘状況(西から)

B-7区,SH06検出状況

B-7区,SH06北壁断面状況

図版10

B-7区,SH06住居構造検出状況(西から)

B-8区,SH07住居構造検出状況(西から)

A-8区,SH08フレーク出土状況

A-8区,SH08小玉出土状況

A-8区,SH08住居構造検出状況(北から)

A-3・4区,SH09西壁南側断面状況

A-4区,SH09炉跡断面状況

図版12

A-3・4区,SH09甕出土状況

A-3・4区,SH09埋土2土製品出土状況

A-3・4区,SH09砥石出土状況

A-3・4区,SH09砥石出土状況

A・B-3・4区,SH09,SH03住居構造検出状況

A-6区,SH10西壁断面状況

A-6区,SH10鉄製品出土状況

A-6区,SH10住居構造検出状況(南から)

B-7区,SH11第2次生活面検出状況

C-7区,SH11住居構造検出状況(西から)

A･B-6･7区SH12埋土1土器出土状況

A･B-6･7区,SH12完掘状況(東から)

図版14

A･B-6･7区,SH12壁帯溝断面状況

B-6･7区,SH12脚台付鉢形土器出土状況

B-6区,SH12埋土2ミニチュア土器出土状況

C-5区,SH12最終住居構造検出状況(南から)

C・D-8区,SH13生活面完掘状況(西から)

C・D-8区,SH13ガラス小玉出土状況

C-6区,SH14断面(北,東壁)状況

C・D-6区,SH14完掘状況(南から)

D-8・9区,SH15西側南北ベルト西壁南側断面状況

D-8・9区,SH15小玉出土状況

D-8・9区,SH15住居構造検出状況(北から)

図版16

A-5区,SH16二次生活面検出状況(東から)

A-5区,SH16二次生活面検出状況(南から)

A-5区,SH16西壁北側断面状況

A-5区,SH16ミニチュア土器出土状況

A-5区,SH16小玉出土状況

A-12・13区,SH17北壁東側断面状況

A-12・13区,SH17床直有孔軽石製品出土状況

A-12・13区,SH17住居構造検出状況(北から)

B-14区,SH18住居構造検出状況(東から)

図版18

B-14区,SH18埋土1土器出土状況

B-14区,SH18西壁断面状況

C-13区,SH19東壁断面状況

C-13区,SH19住居跡完掘状況

C･D-13区,SH19住居構造検出状況(西から)

A-11・12区,SH20埋土3炭化物集中検出状況

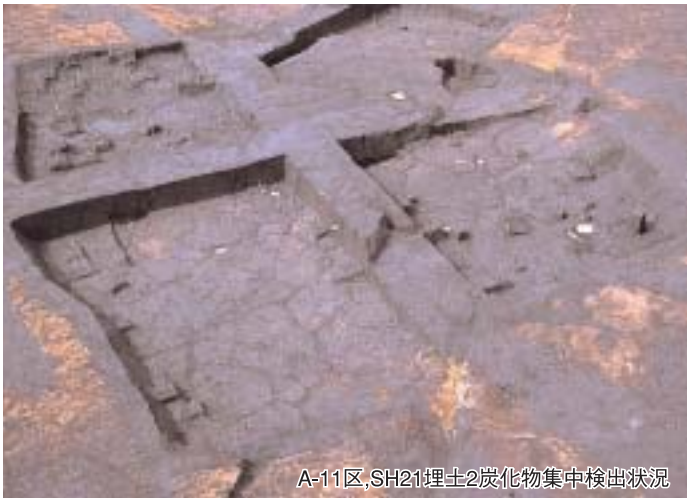
A-11・12区,SH20床直ミニチュア土器出土状況

A-11・12区,SH20埋土1鉄製品出土状況

A-11・12区,SH20住居構造検出状況(北から)

図版20

A-11区,SH21床上面土器集中出土状況



A-11区,SH21埋土2炭化物集中検出状況

A-11区,SH21住居構造検出状況(南から)

C-12区,SH22埋土3小玉出土状況

C-13区,SH22埋土2鉄鏃出土状況(888)

C-12区,SH22住居構造検出状況(北から)

A-10区,SH23焼土検出状況

A-10区,SH23床直炭化材検出状況

A-10区,SH23北壁西側断面状況

図版22

A-10区,SH23住居構造検出状況(東から)

A-10区,SH24住居構造検出状況(北から)

E-20区,SH25住居構造検出状況(南から)

C-4区,埋納土器ピット01完掘状況

C-4区,埋納土器ピット01検出状況

A-5区,埋納土器ピット02完掘状況

A-5区,埋納土器ピット02検出状況

B-12区,埋納土器ピット04検出状況

B-12区,埋納土器ピット04断面状況

B-12区,埋納土器ピット04完掘状況

図版24

B-13区,埋納土器ピット05断面状況

B-13区,埋納土器ピット05半截状況

C-14区,埋納土器ピット06下部半截状況

C-14区,埋納土器ピット06完掘状況

C-9区,埋納土器ピット07検出状況

B-13区,埋納土器ピット07完掘及び断面状況

C-11区,埋納土器ピット08検出状況

C-11区,埋納土器ピット08断面状況

C-15区,埋納土器ピット09検出状況

C-15区,埋納土器ピット09断面状況

B-5区,埋納土器ピット10検出状況

B-5区,埋納土器ピット10完掘状況

A-11区,埋納土器ピット12半截状況

A-11区,埋納土器ピット12完掘状況

C-8区,埋納土器ピット13検出状況

C-8区,埋納土器ピット13断面状況

図版26

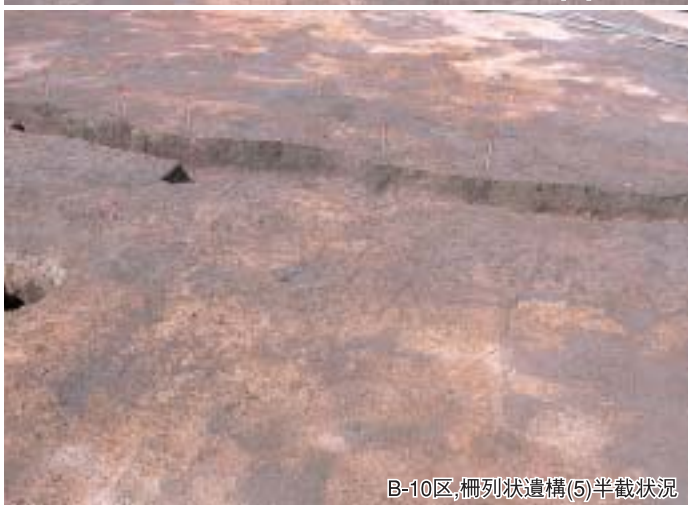
A～C-9～12区,柵列状遺構検出状況

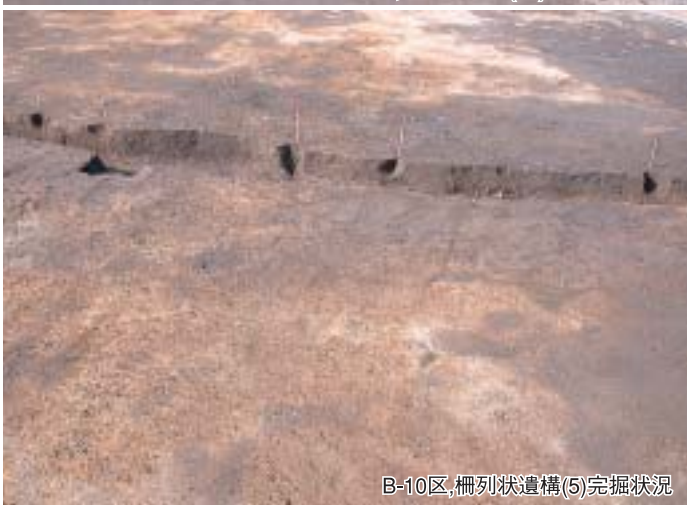
A～C-9～12区,柵列状遺構検出状況

B-9区,柵列状遺構(30)完掘状況

B-9区,柵列状遺構(30)検出状況

C-9区,柵列状遺構(27)北側半截状況

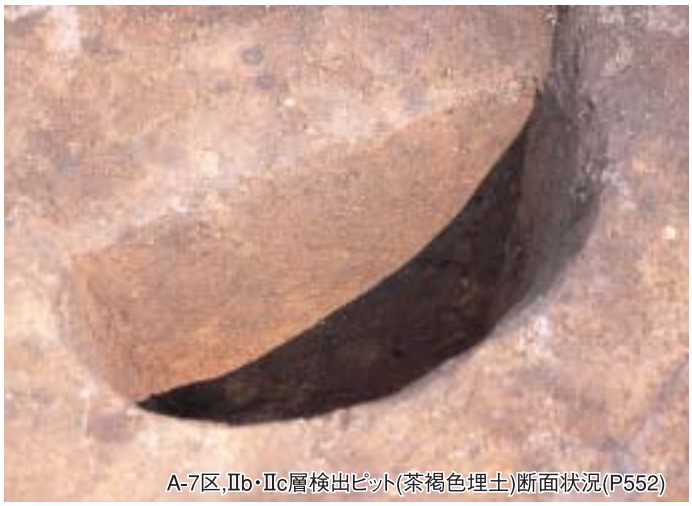

B-10区,柵列状遺構(5)半截状況


B-10区,柵列状遺構(5)完掘状況

B-10区,掘立柱建物跡検出状況(西から)

A-7区,Ⅱb・Ⅱc層検出ピット(茶褐色埋土)断面状況(P556)

A-7区,Ⅱb・Ⅱc層検出ピット(黄茶褐色埋土)断面状況(P317)



A-7区,Ⅱb・Ⅱc層検出ピット(茶褐色埋土)断面状況(P552)

A-7区,Ⅱb・Ⅱc層検出ピット(黄茶褐色埋土)断面状況(P308)

図版28

A-15区,溝状遺構3完掘状況

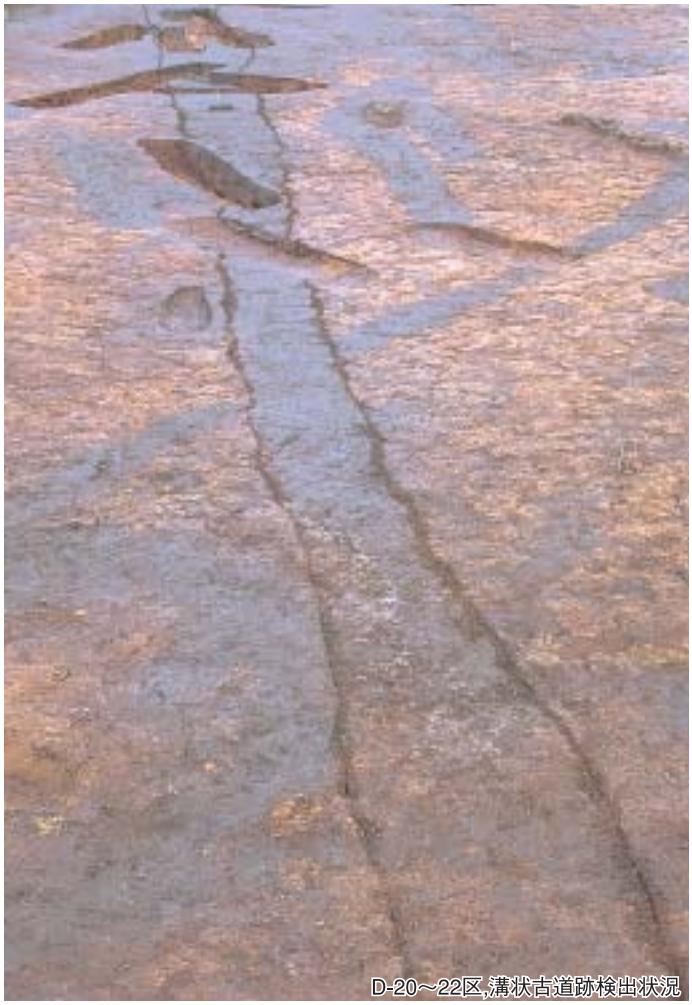
A-15区,溝状遺構3断面2状況

C-9・10区,溝状遺構4検出状況

C・D-9・10区,溝状遺構5断面3状況

D-9・10区,溝状遺構5完掘状況

D-15・16区,溝状遺構6検出状況


D-20～22区,溝状古道跡検出状況

D-20～22区,溝状古道跡二次硬化面検出状況

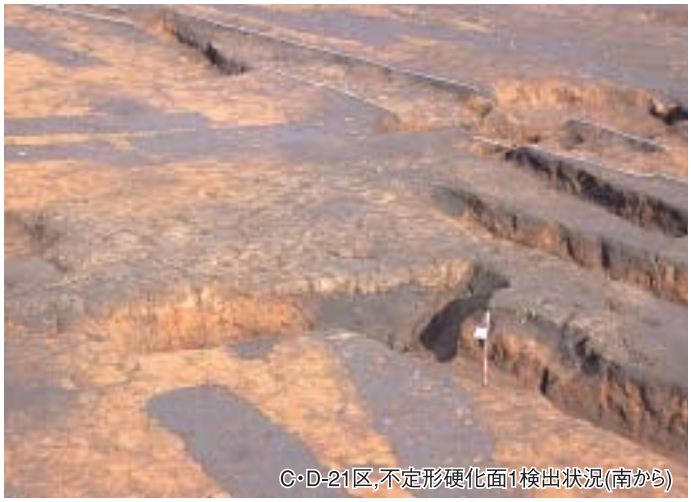
D-20区,溝状古道跡断面状況2

B-6区,古道跡検出状況

B-6区,古道跡断面状況3

B-5～7区,古道跡検出状況

図版30


C･D-21区,不定形硬化面1検出状況(南から)

C-21区,不定形硬化面断面状況

C･D-21区,不定形硬化面1完掘状況

C･D-21区,不定形硬化面1下部検出状況

D-22区,不定形硬化面2検出状況

C･D-21･22区,不定形硬化面2完掘状況

D-22区,不定形硬化面2下部検出状況

25

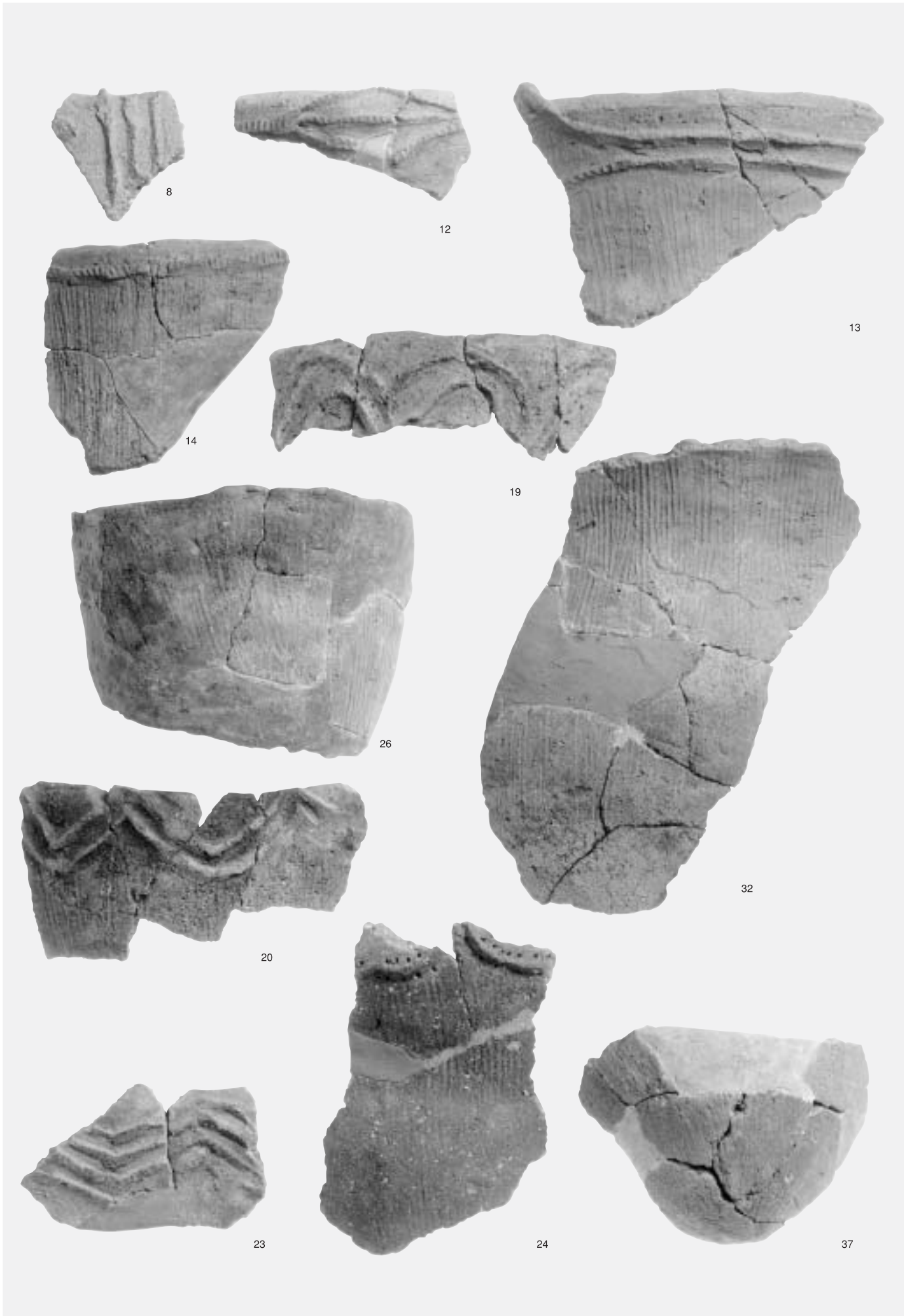
162

61

30

163

# 図版32



64

62

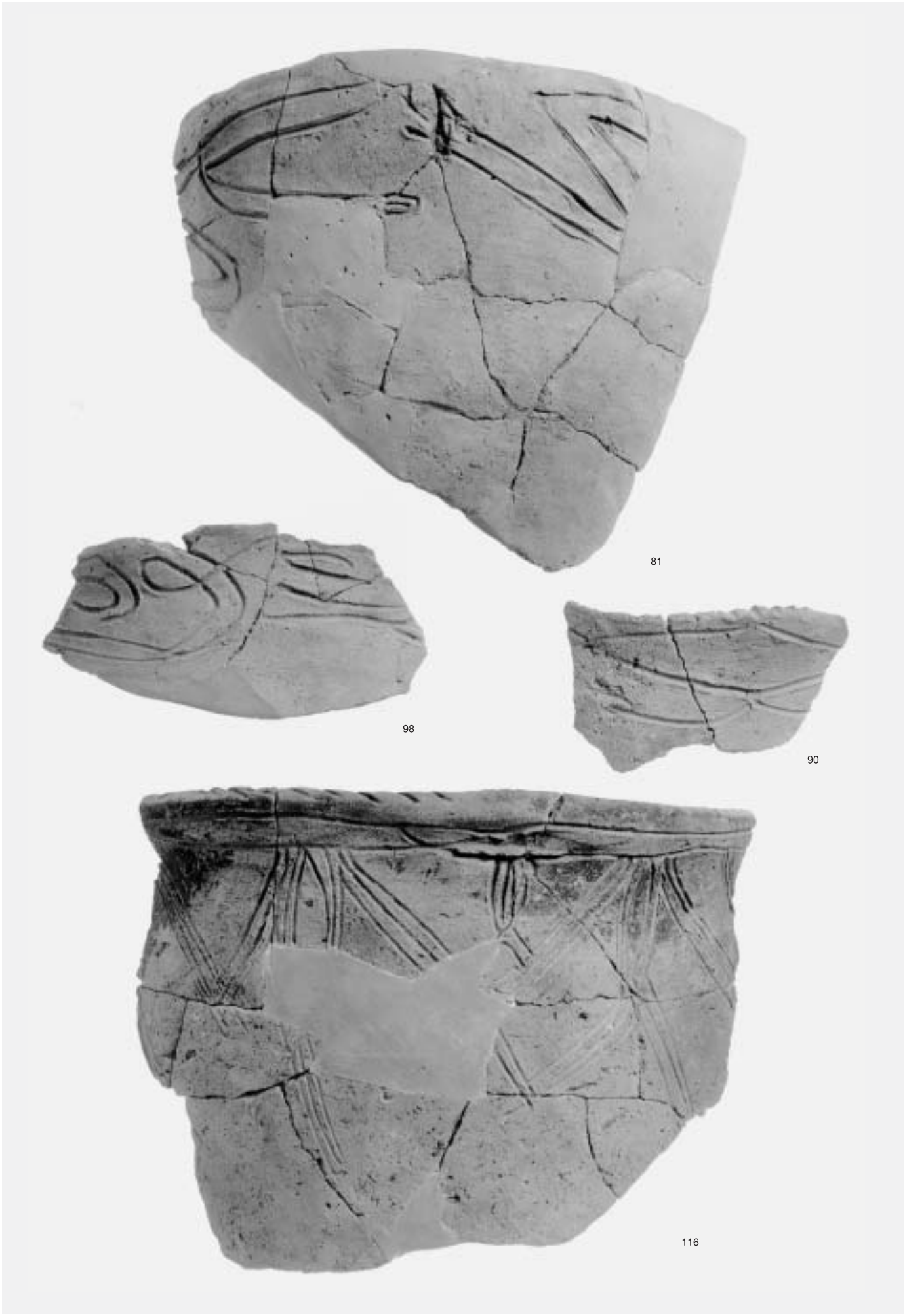
89

66

71

106

図版34

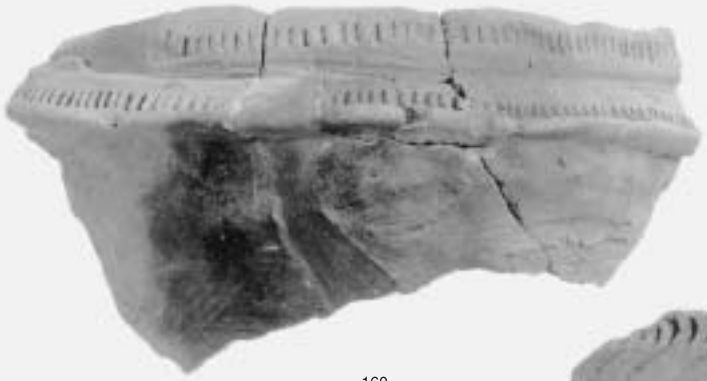


135

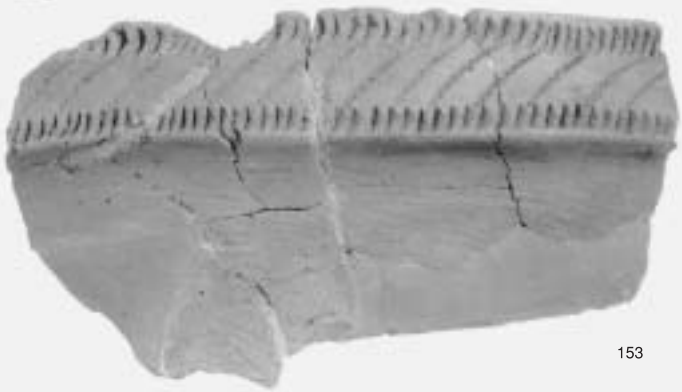
146

151

147

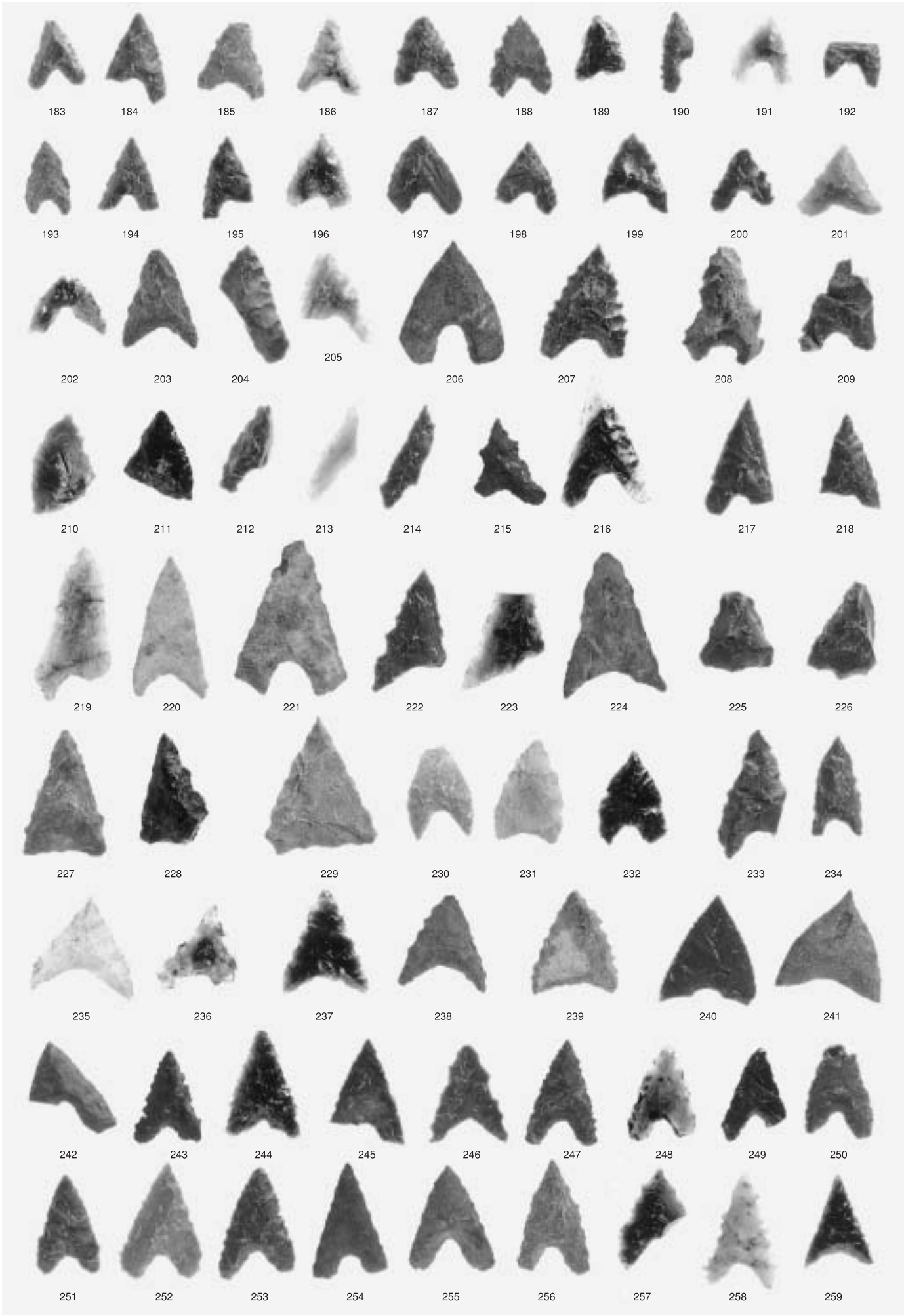


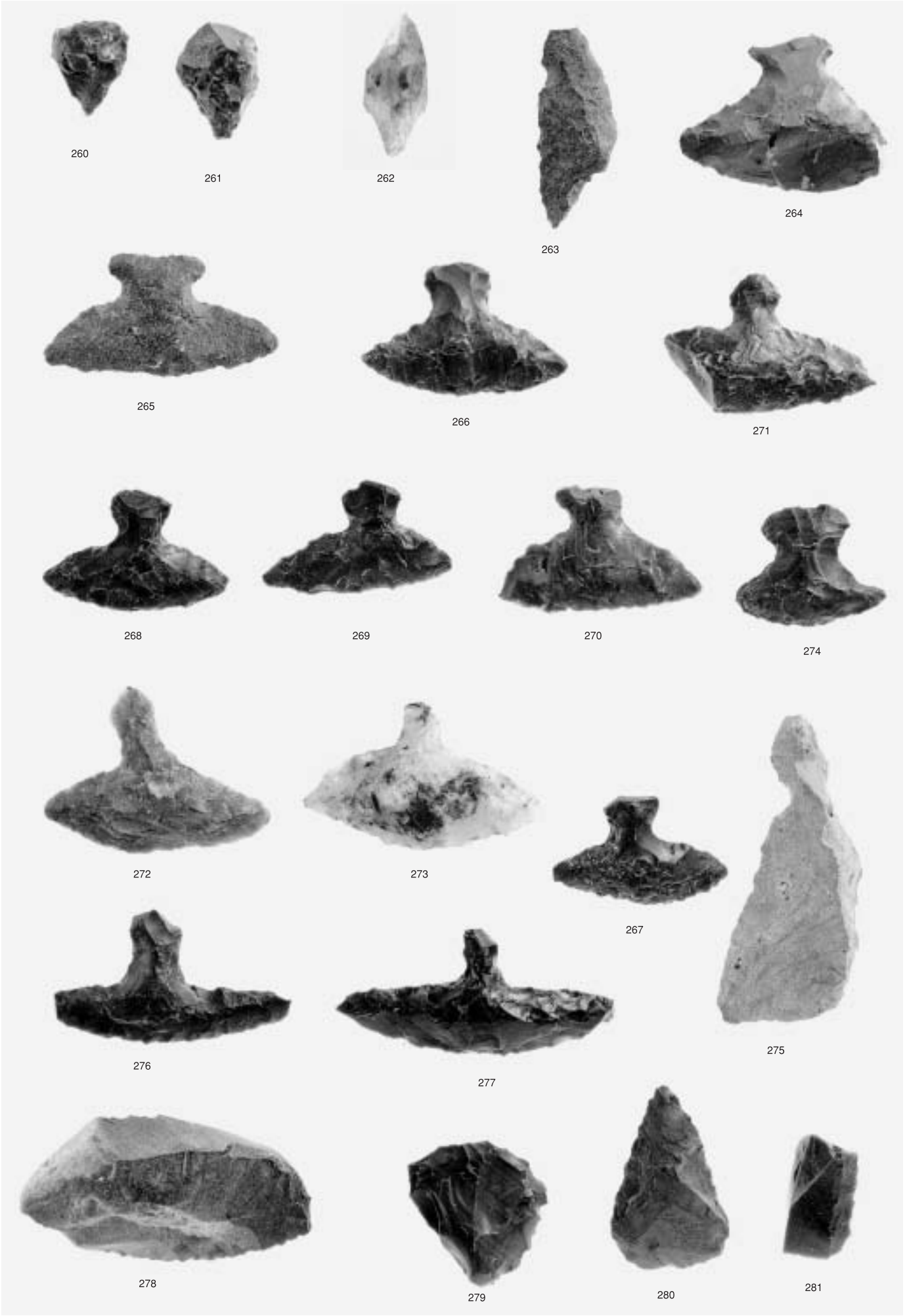
160



153

# 図版36


183 184 185 186 187 188 189 190 191 192
193 194 195 196 197 198 199 200 201
202 203 204 205 206 207 208 209
210 211 212 213 214 215 216 217 218
219 220 221 222 223 224 225 226
227 228 229 230 231 232 233 234
235 236 237 238 239 240 241
242 243 244 245 246 247 248 249 250
251 252 253 254 255 256 257 258 259


260
261
262
263
264
265
266
271
268
269
270
274
272
273
267
275
276
277
278
279
280
281

# 図版38

346
（SH01）

345
（SH01）

348
（SH01）

354
（SH01）

336
（SH01）

356
（SH01）

395
（SH02）

386
（SH02）

379
（SH02）

387
（SH02）

383
（SH02）

413
（SH02）

# 図版40

416
（SH02）

444
（SH02）

415
（SH02）

433
（SH02）

432
（SH02）

438
（SH02）

489
（SH03）

541
（SH09）

478
（SH03）

563
（SH10）

657
（SH18）

679
（SH18）

図版42

578
（SH12）

602
（SH21）

581
（SH12）

599
（SH12）

749
（SH21）

693
（SH19）

712
（SH20）

685
（SH19）

773
（埋納5）

703
（SH19）

817

# 図版44

603
（SH12）

787
（埋納8）

510
（SH05）

653
（SH17）

769
（埋納2）

454
（SH02）

643
（SH16）

597
（SH12）

768
（埋納1）

683
（SH18）

729
（SH20）

486
（SH03）

765
（SH23）

810
（溝4）

833

835

834

836

838

842

841

844

845

846

847

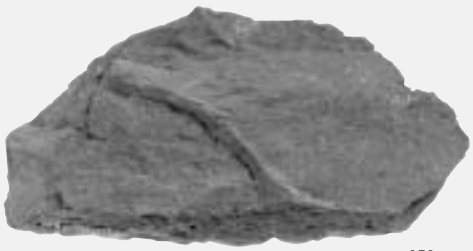
848

849

850

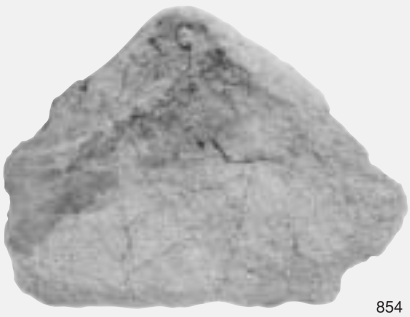
851

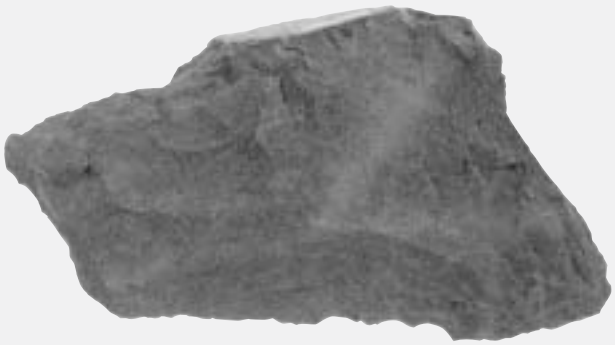
853


852

856

855

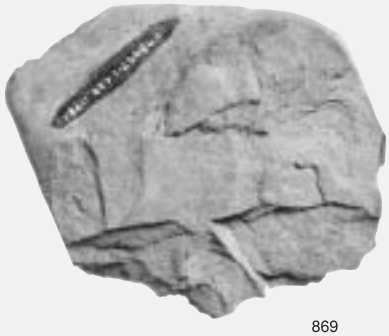

854


858

859

861

863



869

862

871

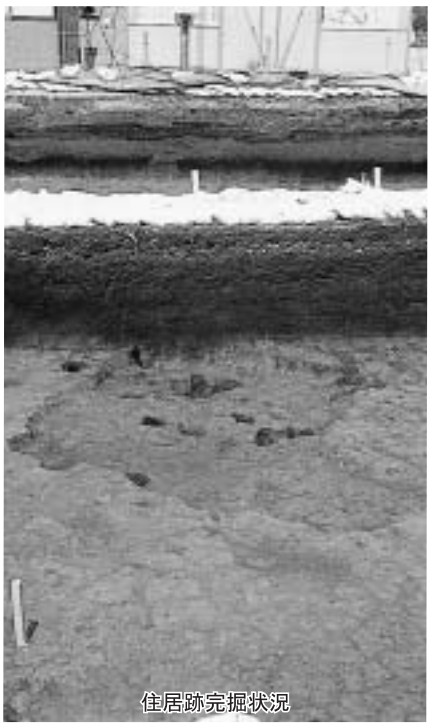
872

873

図版48

調　査　風　景

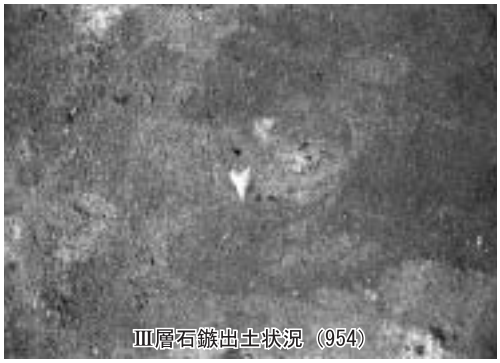
住居跡完掘状況

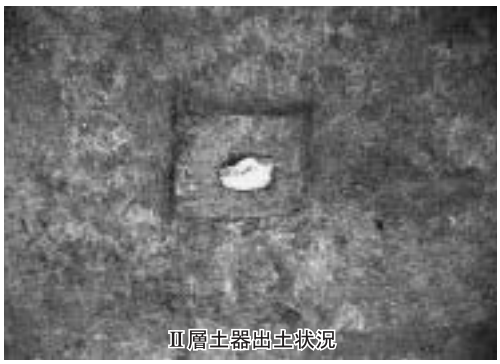


住居跡完掘状況

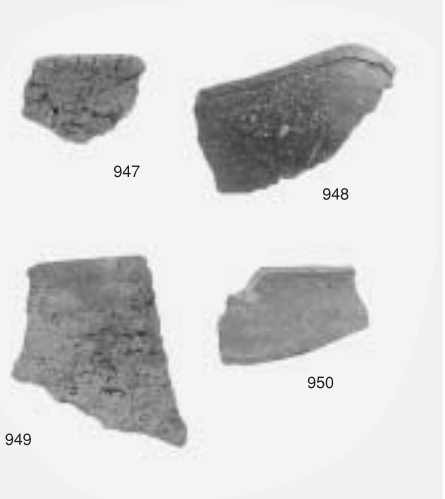
古道跡及びⅡ層遺物出土状況

古道断面

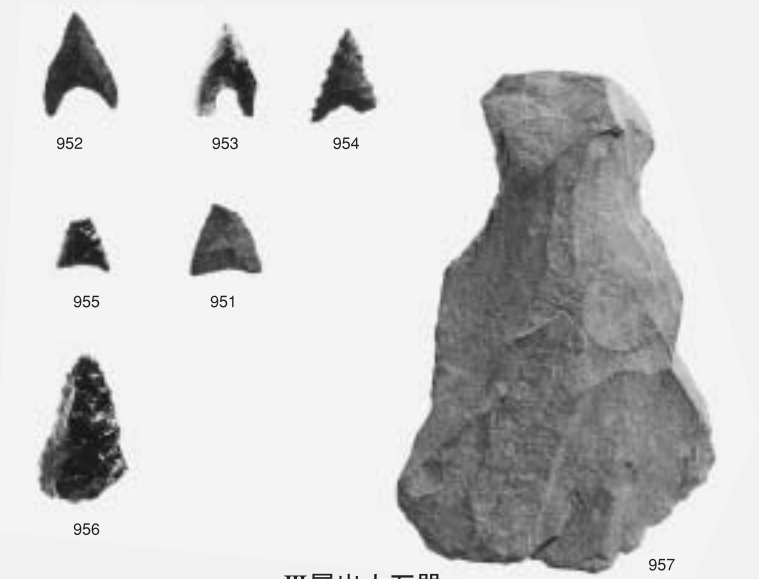

Ⅲ層石鏃出土状況（954）


Ⅱ層土器出土状況

Ⅱ層土器出土状況

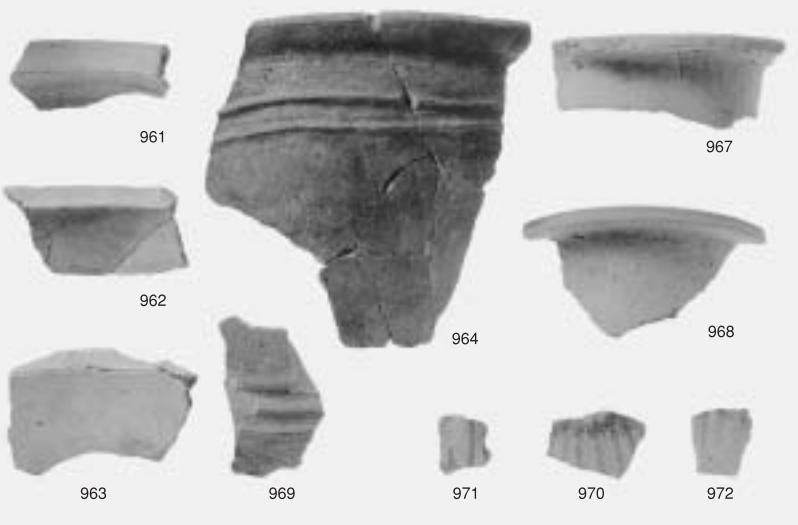


Ⅲ層出土土器



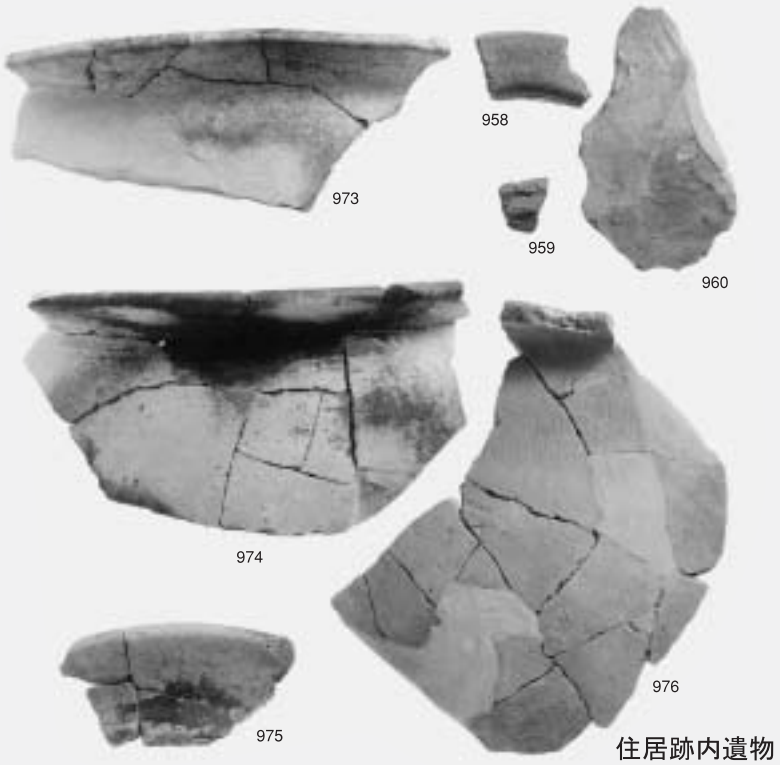
Ⅲ層出土石器

977
Ⅱ層出土土器（1）



Ⅱ層出土土器（2）

図版50




住居跡内遺物

Ⅱ層出土土器（3）

Ⅱ層出土土器（4）

Ⅱ層出土土器（5）

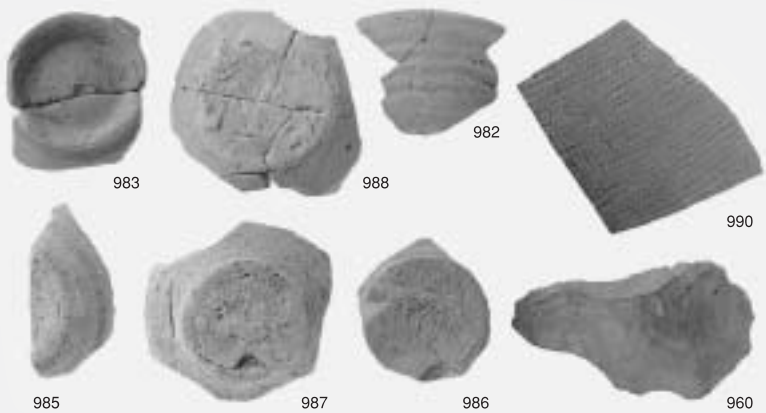
Ⅱ層出土土器（6）

墨書土器

土師器（1）

土師器（2）

須　恵　器




古代～中世以降の遺物

鹿児島県